

# Novell ZENworks® Desktop Management

7

[www.novell.com](http://www.novell.com)

12.05.06

インストールガイド



Novell®

## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、Novell 製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約下で提供される製品または技術情報はすべて米国輸出管理法および他国の商法の制限を受けます。ユーザは、成果物を輸出、再輸出、またはインポートする場合、すべての輸出管理規制に従うこと、および必要なライセンスまたは機密種別を取得することに同意するものとします。さらに、現在の米国輸出除外リストに掲載されている国家、あるいは米国輸出法で指定されている禁輸またはテロリスト国家に対し、輸出または再輸出を行わないことに同意するものとします。成果物を、禁止されている核兵器、ミサイル兵器、または生物化学兵器の目的に使用しないことに同意するものとします。弊社ソフトウェアの輸出の詳細については、[www.novell.com/info/exports/](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ユーザが必要な輸出許可を取得しなかったことに対して一切責任を負いません。

Copyright © 2006 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このガイドに記載されている製品で具体的に示されているテクノロジーに関する知的所有権を有しています。具体的には、これらの知的所有権には、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> の Novell Legal Web サイトに記載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国および他の国における 1 つまたは複数のその他の特許、または係属特許のアプリケーションが含まれます (ただし、これらに限定されません)。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアルこの製品およびその他の Novell 製品のオンラインドキュメントやアップデート版を入手するには、[www.novell.com/documentation](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell 社の商標**

Novell 社の商標のリストは、<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html> (<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html>) を参照してください。

## **サードパーティの所有物**

すべてのサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	13
ページのパート I 概要	15
<b>1 ZENworks Desktop Management について</b>	<b>17</b>
1.1 自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)	17
1.2 Workstation Management (ワークステーション管理)	17
1.3 Application Management (アプリケーション管理)	18
1.4 ワークステーションイメージング	19
1.5 リモート管理	20
1.6 Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	20
1.7 Sybase	22
<b>2 Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート</b>	<b>23</b>
2.1 テストされた Windows と NetWare サーバプラットフォームの組み合わせ	23
2.1.1 ZENworks 7 Desktop Management のテスト済みプラットフォーム	24
2.1.2 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対してテスト済みのプラットフォーム のその他の組み合わせ	28
2.2 ZENworks 7 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ	29
2.2.1 ネットワークファイアウォールなし	30
2.2.2 ネットワークファイアウォール設定済み	31
2.3 SP1 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ	31
2.4 サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス	33
2.4.1 SP1 で追加されたワークステーションプラットフォームとデバイスサポート	33
ページのパート II 準備	35
<b>3 インストールを実行するワークステーションの前提条件</b>	<b>37</b>
<b>4 ZENworks Desktop Management Server のインストール条件</b>	<b>39</b>
4.1 Desktop Management Server のハードウェア要件	39
4.1.1 統合コンポーネントインストールのハードウェア要件	39
4.1.2 起動前サービス分割インストールのハードウェア要件	40
4.1.3 ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件	41
4.1.4 データベース分割インストールのハードウェア要件	42
4.2 Desktop Management Server のソフトウェア要件	42
4.2.1 すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件	42
4.2.2 ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件	46
4.2.3 ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件	47
4.3 Desktop Management Server のインストール条件	48
<b>5 ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備</b>	<b>51</b>
5.1 ZENworks ファイルにアクセスするための Linux サーバの設定	51

5.1.1	Active Directory 環境での Linux サーバの設定	52
5.1.2	eDirectory 環境での Linux サーバの設定	55
5.2	Linux インベントリサーバの準備	61
<b>6</b>	<b>ZENworks Middle Tier Server のインストール条件</b>	<b>63</b>
6.1	ZENworks Middle Tier Server の制限	63
6.2	ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件	65
6.3	ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件	66
6.4	Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定	68
6.4.1	NetWare 6.x 上の Apache Web Server のポート設定	68
6.4.2	Linux 上の Apache Web Server のポート設定	69
6.4.3	Windows 上の IIS のポート設定	69
6.4.4	eDirectory 8.7.3 をインストールした Windows 2000 サーバ環境における DHost ポート割り当ての変更	69
6.4.5	デスクトップ管理エージェントのポート設定	70
6.5	Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化	70
<b>7</b>	<b>ユーザワークステーションの要件</b>	<b>71</b>
7.1	サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス	71
7.2	ユーザワークステーションのハードウェア要件	71
7.3	ユーザワークステーションのソフトウェア要件	72
<b>8</b>	<b>管理ワークステーションまたはサーバの準備</b>	<b>75</b>
8.1	Novell Client のインストール	75
8.2	ConsoleOne のインストール	76
8.2.1	NetWare サーバに ConsoleOne をインストールする際の注意事項	76
8.2.2	ローカルワークステーションのハードドライブに ConsoleOne をインストールする際の注意事項	77
8.3	ConsoleOne スナップインのインストール	77
8.3.1	スナップインのダウンロード	78
8.3.2	スナップインのコピー	78
8.3.3	スナップインのインストール	78
ページのパート III Windows ベースのインストール		<b>81</b>
<b>9</b>	<b>ZENworks Desktop Management Server のインストール</b>	<b>83</b>
9.1	Desktop Management Server のインストール手順	83
9.1.1	インストール前のスキーマの拡張	85
9.1.2	完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行	87
9.2	SP1 Desktop Management Server のインストール	97
9.2.1	インストール前のスキーマの拡張	100
9.2.2	完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行	102
9.3	インストールの確認	112
<b>10</b>	<b>ZENworks Middle Tier Server のインストール</b>	<b>113</b>
10.1	ZENworks Middle Tier Server のインストール手順	113
10.2	SP1 Middle Tier Server のインストール手順	123
10.3	Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利	133
10.4	NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集	134

10.5	インストールの確認	135
<b>11</b>	<b>Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール</b>	<b>137</b>
11.1	1 台の NetWare サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール	137
11.2	1 台の Windows 2000 Server へのコンポーネントのインストール	138
11.3	インストールの確認	141
<b>12</b>	<b>デスクトップ管理エージェントのインストールと設定</b>	<b>143</b>
12.1	インストールの前に	143
12.2	手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール	144
12.2.1	手動のインストール手順	144
12.2.2	手動のインストールにおける機能の追加	150
12.3	Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール	150
12.3.1	エージェント MSI パッケージの保存	151
12.3.2	MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定	151
12.3.3	MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更	152
12.3.4	MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加	153
12.4	Application Launcher プラグインによるエージェントの配布	155
12.5	デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開	156
12.5.1	エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件	156
12.5.2	デスクトップ管理エージェントの展開	157
12.6	デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開	162
12.6.1	エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件	162
12.6.2	Windows ワークグループメンバーへのデスクトップ管理エージェントの配布	163
12.7	インストールの確認	167
12.8	デスクトップ管理エージェントの設定の変更	167
12.8.1	Novell Application Launcher による機能の追加	168
<b>13</b>	<b>Novell Application Launcher プラグインのインストール</b>	<b>169</b>
13.1	Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース	169
13.2	Novell Application Launcher プラグインのインストール方法	170
13.3	Novell Application Launcher プラグインのインストール	171
13.4	Novell Application Launcher プラグインの再インストール	174
<b>14</b>	<b>ZENworks Launch ガジェット</b>	<b>177</b>
14.1	ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール	177
14.2	ポータルへの Citrix ファイルのコピー	178
14.3	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール	179
<b>15</b>	<b>ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定</b>	<b>181</b>
15.1	ターミナルサーバの要件	181
15.2	ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理	182
15.2.1	Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール	183
15.2.2	Workstation Manager のセットアップ	183

15.2.3	パススルー認証の設定	184
15.2.4	ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ	185
15.3	ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理	189
15.4	ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール	190
<b>16</b>	<b>認証のセットアップ</b>	<b>193</b>
16.1	Novell Client による認証	193
16.1.1	ユーザポリシーに必要なアカウント情報	193
16.1.2	ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報	194
16.2	デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証	194
16.2.1	デスクトップ管理ポリシーに必要なアカウント情報	195
16.2.2	エージェントのログインのカスタマイズ	196
16.2.3	同期パススルーログイン	198
16.2.4	Windows ネットワーク環境へのログイン	199
<b>17</b>	<b>Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定</b>	<b>201</b>
17.1	Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の設定	201
17.1.1	証明書の署名要求の生成	201
17.1.2	eDirectory ルート CA による証明書の発行	202
17.1.3	Middle Tier Server でのルート CA のインストール	203
17.1.4	IIS で保留中の証明書要求の処理	204
17.2	NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の設定	204
17.3	SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ	206
17.3.1	Windows ワークステーションへの証明書のインポート	206
17.3.2	証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定	209
17.4	NetIdentity 認証のセットアップ	209
17.4.1	有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の設定	209
17.4.2	厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの設定	210
<b>18</b>	<b>Windows ネットワーク環境でのインストール</b>	<b>211</b>
18.1	Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール	212
18.1.1	Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストールの準備	212
18.1.2	Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール	216
18.2	Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール	263
18.2.1	Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストールの準備	263
18.2.2	Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール	266



ページのパート IV Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール	317
<b>19 Linux サーバへのすべての ZENworks 機能のインストール</b>	<b>319</b>
<b>20 Linux サーバへの Desktop Management Server のみのインストール</b>	<b>327</b>
<b>21 Linux サーバへの ZENworks Middle Tier Server のみのインストール</b>	<b>333</b>
<b>22 Linux サーバでの ZENworks Desktop Management インストールのカスタマイズ</b>	<b>339</b>
<b>23 サイレントインストール</b>	<b>347</b>
23.1 サイレントインストールの準備	347
23.2 サイレントインストールの実行	349
23.3 より安全なサイレントインストールの実行	350
23.3.1 環境変数の設定	351
<b>24 RPM のインストールと設定値の変更</b>	<b>353</b>
24.1 RPM のインストールまたはアップグレードの実行	353
24.1.1 CPK での SP1 へのアップグレード	353
24.2 Linux 上で実行されている ZENworks プロセスの設定または再設定	354
24.2.1 再設定の例	356
<b>25 Linux Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定</b>	<b>357</b>
25.1 Linux Middle Tier Server の SSL および証明書の設定	357
25.1.1 OES Linux Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定	357
25.1.2 SLES 9 SP1 Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定	357
25.2 Linux Middle Tier Server での、信頼するルート証明書のエクスポートの準備	358
25.3 SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ	359
25.3.1 Windows ワークステーションへの証明書のインポート	359
25.3.2 証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定	359
25.4 NetIdentity 認証のセットアップ	360
25.4.1 有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の設定	360
25.4.2 厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの設定	361
<b>26 インストール後の処理</b>	<b>363</b>
ページのパート V インストール後	365
<b>27 インストール後の作業</b>	<b>367</b>
27.1 NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定	367
27.2 ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認	367
27.3 必要なデスクトップポリシーのセットアップ	368
27.3.1 ポリシーパッケージの作成	369
27.3.2 ワークステーションインポートポリシーのセットアップ	370
27.3.3 データベース場所ポリシーの設定	370
27.3.4 ワークステーションインベントリポリシーの設定	372
27.3.5 インベントリサービスの開始と停止	374

27.4	自動ワークステーションインポートのセットアップ	376
27.5	ODBC ドライバのインストール	378
27.6	トラブルシューティング情報の収集	379

## ページのパート VI アップグレード 381

### 28 ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能 383

28.1	一般的な変更点	383
28.1.1	Linux サーバのサポート	383
28.1.2	タブレット PC のサポート	383
28.1.3	Desktop Management とバンドル提供される新製品とアップデート製品	384
28.2	Application Management (アプリケーション管理)	384
28.2.1	OS バージョン番号の第 4 構成要素の認識機能を追加	385
28.2.2	Windows ワークグループ内のワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの配布機能を追加	385
28.3	ワークステーションイメージング	385
28.4	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	385
28.4.1	ZENworks Desktop Management の以前のバージョンから ZENworks 7 Desktop Management へのワークステーションインベントリのアップグレード	386
28.4.2	UNIX サーバでの Oracle9i インベントリデータベースのセットアップ	386
28.4.3	Windows サーバまたは UNIX サーバでの Oracle10g R1 インベントリデータベースのセットアップ	386
28.4.4	インベントリデータの迅速で簡単な表示	386
28.4.5	ZENworks 7 Inventory Storer のスループット向上	386
28.4.6	MS SQL 2000 インベントリデータベースへの Linux インベントリサーバと ConsoleOne の接続	387
28.5	ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の変更点と新機能	387
28.5.1	新しいネットワークオペレーティングシステムのサポート	387
28.5.2	新しい管理対象デバイスプラットフォームのサポート	388
28.5.3	Novel およびサードパーティ製品の更新	388
28.5.4	アプリケーション管理の機能拡張	388
28.5.5	ワークステーションインベントリの機能拡張	389
28.5.6	クラスタリングのサポート	389
28.5.7	アップグレードのための新しい代替手段	389

### 29 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード 391

29.1	ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認	391
29.2	eDirectory の確認	391
29.3	eDirectory スキーマの拡張	392
29.4	ConsoleOne のアップグレード	394
29.5	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード	395
29.5.1	アプリケーション管理のアップグレードの完了	399
29.5.2	ワークステーション管理のアップグレードの完了	403
29.5.3	ワークステーションイメージングのアップグレードの完了	406
29.5.4	リモート管理のアップグレードの完了	407
29.5.5	ワークステーションインベントリのアップグレードの完了	407
29.6	ZENworks 7 Middle Tier Server のインストール	418
29.7	管理対象ワークステーションのアップグレード	418
29.7.1	デスクトップ管理エージェントのインストール	419

### 30 ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード 429

30.1	ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互	
------	--	--

換性	429
30.2 ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認	430
30.3 eDirectory の確認	430
30.4 eDirectory スキーマの拡張	430
30.5 ConsoleOne のアップグレード	433
30.6 ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード	434
30.6.1 アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード	435
30.6.2 ワークステーションインベントリのアップグレード	445
30.7 Middle Tier Server のアップグレード	455
30.7.1 ソフトウェアのインストール	455
30.7.2 myapps.html ページの変更	457
30.8 ワークステーションのアップグレード	460
30.8.1 ZENworks for Desktops 4.x エージェントへのロールバック	461
<b>31 ZENworks 7 Launch ガジェットへのアップグレード</b>	<b>463</b>
31.1 ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール	463
31.2 ポータルへの Citrix ファイルのコピー	465
31.3 ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール	465
31.3.1 ICA クライアント	465
31.3.2 RDP クライアント	466
31.4 アプリケーションオブジェクトのアップグレード	466
31.5 ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除	466
<b>32 ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード</b>	<b>467</b>
32.1 ZENworks 6.5x Desktop Management と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性	468
32.2 イメージセーフデータの維持	468
32.2.1 アドオンイメージによる ziswin.exe のアップデート	468
32.2.2 Image Explorer による ziswin.exe のアップデート	469
32.3 アップグレードの際に起動前サービスの設定を維持する	470
32.4 Wake-on-LAN サービスのアップグレード	470
32.5 ワークステーションインベントリのアップグレード	470
32.5.1 アップグレードを実行する前に確認すべき事項	470
32.5.2 アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業	472
32.5.3 ZENworks 6.5x ワークステーションインベントリコンポーネントのアップグレード	474
32.5.4 データベース移行後の作業	475
<b>33 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項</b>	<b>477</b>
33.1 概要	477
33.1.1 SP1 のインストールで実行される処理	477
33.1.2 SP1 インストールプログラムが実行しない項目	478
33.1.3 ネットワークサーバの段階的アップグレード	478
<b>34 Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード</b>	<b>479</b>
34.1 アップグレードコンポーネントの理解	479
34.2 CPK のテスト	481
34.3 アップグレードの条件のチェックリスト	485

34.4	Server Software Package を使用したアップグレード	486
34.4.1	Distribution によるアップグレード	487
34.4.2	Standalone Package Processor によるアップグレード	499
34.5	アップグレードが成功したかどうかの確認	504
34.5.1	ソフトウェアパッケージが正常にインストールされたかどうかの確認	504
34.5.2	サーバがアップグレードされているかどうかの確認	505
<b>ページのパート VII 相互運用性</b>		<b>507</b>
<b>35 ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性</b>		<b>509</b>
35.1	4.x/7 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性	509
35.2	バージョン 4.x と 7 のコンポーネントの違い	510
35.2.1	ワークステーションインポート	510
35.2.2	ポリシー管理	510
35.2.3	Application Management (アプリケーション管理)	511
35.2.4	ワークステーションイメージング	511
35.2.5	リモート管理	511
35.2.6	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	511
35.3	Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性	511
35.3.1	Desktop Management Agent (デスクトップ管理エージェント)	512
35.3.2	ポリシーとポリシーパッケージ	512
35.3.3	自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)	513
35.3.4	Application Management (アプリケーション管理)	513
35.3.5	ワークステーションイメージング	514
35.3.6	リモート管理	514
35.3.7	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	515
<b>36 インベントリの相互運用性</b>		<b>517</b>
36.1	ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性	518
36.1.1	同一サーバにインストールされた ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性	518
36.1.2	複数のサーバにインストールされた ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性	518
36.2	複数のサーバにインストールされた ZENworks 7 Desktop Management と旧バージョンの ZENworks Desktop Management の相互運用性	524
36.3	ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性	525
36.3.1	ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性	525
36.3.2	ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性	526
<b>37 Remote Management の相互運用性</b>		<b>529</b>
<b>38 他の Novell 製品との相互運用性</b>		<b>531</b>
38.1	サードパーティのリモート管理製品との相互運用性	531
38.2	Novell iChain との相互運用性	531
38.3	Novell Cluster Services との相互運用性	531
38.4	Novell GroupWise クライアントとの相互運用性	532
38.5	Novell Nterprise Branch Office との相互運用性	532

ページのパート VIII アンインストール/再インストール	533
-------------------------------	-----

<b>39 Remote Management のアンインストール</b>	<b>535</b>
---------------------------------------	------------

39.1 リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール	535
39.2 リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール	535
39.2.1 ConsoleOne ファイルの削除	535
39.2.2 Wake-on-LAN ファイルの削除	537

<b>40 ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール</b>	<b>539</b>
--	------------

40.1 ワークステーションインベントリのアンインストール	539
40.1.1 ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール	540
40.1.2 データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール	541
40.1.3 Sybase インベントリデータベースのアンインストール	541
40.1.4 Sybase エンジンのアンインストール	543
40.1.5 インベントリサーバソフトウェアのアンインストール	544
40.1.6 XML プロキシサーバのアンインストール	547
40.1.7 ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール	548
40.1.8 デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール	550
40.2 ワークステーションインベントリの再インストール	550
40.2.1 NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール	550
40.2.2 Linux へのインベントリサーバまたはインベントリデータベースの再インストール	553
40.2.3 デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール	553

<b>41 Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール</b>	<b>555</b>
--	------------

ページのパート IX 付録	559
---------------	-----

<b>A ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い</b>	<b>561</b>
---	------------

A.1 コンテナポリシーパッケージの構成	561
A.2 サーバポリシーパッケージの構成	561
A.3 SLP ポリシーの構成	563
A.4 ユーザポリシーパッケージの構成	563
A.5 ワークステーションポリシーパッケージの構成	567

<b>B Novell Cluster Services 環境へのインストール</b>	<b>571</b>
---	------------

B.1 概要	571
B.2 インストールの前に	572
B.3 クラスタ環境の準備	572
B.4 Desktop Management コンポーネントのインストール	573
B.5 ワークステーションイメージングの設定	583
B.5.1 Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージングの設定	584
B.5.2 Novell Cluster Services 環境でのマルチキャストに関する問題	584
B.5.3 Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージング起動前サービスの設定	584
B.6 ワークステーションインベントリの設定	586
B.7 クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール	586

B.7.1	ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール	587
B.7.2	データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール	588
B.7.3	Sybase インベントリデータベースのアンインストール	588
B.7.4	Sybase エンジンのアンインストール	589
B.7.5	インベントリサーバソフトウェアのアンインストール	589
B.7.6	XML プロキシサーバのアンインストール	591
B.7.7	ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール	592
B.7.8	クラスタスクリプトへの変更の適用	593
B.8	クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール	593
B.8.1	ワークステーションインベントリの再インストールの準備	593
B.8.2	ワークステーションインベントリの再インストール	594
B.8.3	ワークステーションインベントリの再インストールの確認	594
B.9	Novell Cluster Services 環境で使用するための ZENworks 7 ワークステーションイメージングの設定	594
B.10	OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール	595
B.10.1	OES Linux クラスタ環境での ZENworks サービス	596
B.10.2	OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のクラスタリングの前提条件	597
B.10.3	OES Linux クラスタへのインストール	597
B.10.4	クラスタへのサイレントインストールの準備	605
B.10.5	OES Linux クラスタへのサイレントインストールの実行	607
B.10.6	OES Linux クラスタでのワークステーションインベントリの設定	608
<b>C ZENworks 7 Desktop Management 用の Identity Manager Bundle 2 Edition の使用方法</b>		<b>609</b>
C.1	使用できるモジュール	609
C.2	システム要件	610
C.3	インストールの考慮事項	610
C.4	はじめに	610
C.5	Bundle Edition のアクティベーション	611
C.5.1	アクティベーションに関する FAQ	611
C.6	既知の問題	612
<b>D ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法</b>		<b>613</b>
D.1	使用できるモジュール	613
D.2	システム要件	614
D.3	インストールの考慮事項	614
D.4	はじめに	614
D.5	Bundle Edition のアクティベーション	615
D.5.1	アクティベーションに関する FAQ	617
<b>E Novell BorderManager VPN クライアントとの相互運用</b>		<b>619</b>
E.1	シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする	619
E.2	シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする	620
<b>F インストールに関するエラーメッセージ</b>		<b>623</b>
F.1	Remote Management のインストールエラー	623
F.2	ワークステーションインベントリのインストールエラー	627

<b>G XMLRPC のライセンス契約</b>	<b>663</b>
G.1 HELMA のライセンス	663
G.2 John Wilson のライセンス	663
G.3 Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス	664
<b>H ドキュメントの更新</b>	<b>667</b>
H.1 30.06.06(Support Pack 1)	667
H.1.1 付録 A:ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い	668
H.1.2 付録 B:Novell Cluster Services 環境へのインストール	668
H.1.3 付録 D: ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法	669
H.1.4 デスクトップ管理エージェントのインストールと設定	669
H.1.5 Windows ネットワーク環境でのインストール	669
H.1.6 RPM のインストールと設定値の変更	669
H.1.7 ZENworks Desktop Management Server のインストール	670
H.1.8 Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール	670
H.1.9 ZENworks Middle Tier Server のインストール	671
H.1.10 Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート	671
H.1.11 管理ワークステーションまたはサーバの準備	671
H.1.12 ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備	672
H.1.13 ZENworks Desktop Management Server のインストール条件	672
H.1.14 ZENworks Middle Tier Server のインストール条件	673
H.1.15 インストールを実行するワークステーションの前提条件	673
H.1.16 Linux Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定	673
H.1.17 Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定	673
H.1.18 Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール	674
H.1.19 アップグレード	674
H.1.20 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項	674
H.1.21 ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード	674
H.1.22 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード	675
H.1.23 ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード	675
H.1.24 Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード	676
H.1.25 ユーザワークステーションの要件	676
H.1.26 ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能	676
H.1.27 Windows ベースのインストール	676





# このガイドについて

この『Novell ZENworks 7 Desktop Management インストールガイド』では、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management を実装するための、計画、インストール、セットアップ、およびテストなどの一般的な手順について説明します。

このガイドは次のパートで構成されます。

- ◆ 15 ページのパート I 「概要」
- ◆ 35 ページのパート II 「準備」
- ◆ 81 ページのパート III 「Windows ベースのインストール」
- ◆ 317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」
- ◆ 365 ページのパート V 「インストール後」
- ◆ 381 ページのパート VI 「アップグレード」
- ◆ 507 ページのパート VII 「相互運用性」
- ◆ 533 ページのパート VIII 「アンインストール / 再インストール」
- ◆ 559 ページのパート IX 「付録」

## 対象読者

このガイドは、NetWare®、Windows\*、または Linux\* サーバに ZENworks 7 Desktop Management ソフトウェア (または ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 ソフトウェア) をインストールするシステム管理者を対象としています。これらのユーザは、この製品をインストールするサーバハードウェアを含む自分自身のネットワーク、およびポリシーやアプリケーションの配布、ワークステーションのリモート管理、またはワークステーションからの資産情報の収集を行う Windows デスクトップについてよく知っている必要があります。Novell eDirectory® および Novell ConsoleOne® についての実用上の知識が必要です。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にある [ご意見の宛先] 機能を使用するか、[www.novell.com/documentation/feedback.html](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) を開き、コメントを入力してください。

## ドキュメントの更新

更新された最新バージョンの『ZENworks 7 Desktop Management インストールガイド』については、[ZENworks 7 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/zenworks7\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks7) を参照してください。

## 表記規則

このドキュメントでは、大なり記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標であることを示します。

プラットフォームによって、パス名はバックスラッシュで記述されたり、スラッシュで記述されたりしますが、このマニュアルではパス名をバックスラッシュで表します。Linux または UNIX\* など、スラッシュを使う必要があるプラットフォームを使用しているユーザは、必要に応じてスラッシュを使用してください。

## 関連ドキュメント

ZENworks 7 には、本マニュアルの他にも、ZENworks システムの管理に役立つ各種マニュアルが付属しています。

- ◆ *Novell ZENworks 7 Desktop Management* 管理ガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Server Management* インストールガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Server Management* 管理ガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Linux Management* インストールガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Linux Management* 管理ガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Handheld Management* インストールガイド
- ◆ *Novell ZENworks 7 Handheld Management* 管理ガイド

# 概要

この章には次の情報が記載されています。

- ◆ 17 ページの § 章 1 「ZENworks Desktop Management について」
- ◆ 23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」



# ZENworks Desktop Management について

# 1

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management は、ZENworks 7 スイートを構成するコアコンポーネントの 1 つです。ZENworks 7 Desktop Management は、デバイスのライフサイクルを通して、ポリシー駆動型の自動化を使用し、ソフトウェアの配布や修復、デスクトップの構成、ワークステーションイメージング、リモート管理、およびワークステーションインベントリなどのデスクトップ管理作業を削減し、場合によってはこのような作業を除外します。

- ◆ 17 ページのセクション 1.1 「自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)」
- ◆ 17 ページのセクション 1.2 「Workstation Management (ワークステーション管理)」
- ◆ 18 ページのセクション 1.3 「Application Management (アプリケーション管理)」
- ◆ 19 ページのセクション 1.4 「ワークステーションイメージング」
- ◆ 20 ページのセクション 1.5 「リモート管理」
- ◆ 20 ページのセクション 1.6 「Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)」
- ◆ 22 ページのセクション 1.7 「Sybase」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されます。

---

## 1.1 自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)

自動ワークステーションインポート / 削除サービスを使用すると、手作業を必要とせずに簡単にユーザワークステーションを管理できます。

自動ワークステーションインポートは、ワークステーションを eDirectory™ にインポートして自動的に統合します。自動ワークステーションインポートで作成されたワークステーションオブジェクトによって、ソフトウェアおよびコンピュータの設定を、Novell Application Launcher™ (NAL) と ZENworks Desktop Management ポリシーを使用してワークステーションまで配布できます。

自動ワークステーション削除は、ディレクトリおよびインベントリデータベースから古くなったワークステーションデータを削除します。

## 1.2 Workstation Management (ワークステーション管理)

ワークステーション管理は、ネットワーク内のワークステーションデスクトップの環境設定および維持に関わる全体的なコストおよび複雑さを削減するために役立ちます。ZENworks のポリシーを使用することにより、サーバ、ユーザ、およびワークステーションの設定、処理、動作を自動的に管理することが可能になります。つまり、ユーザの設定

やワークステーションを構成するのに、サイト内に存在する各ワークステーションにアクセスする必要がなくなりました。ワークステーション管理を使用することによって、次のことができます。

- ◆ ローミングプロファイルを有効にし、ユーザのデフォルトのデスクトップ初期設定を指定します。
- ◆ 拡張可能ポリシーを使用して、Windows レジストリ内で設定されるあらゆるアプリケーション機能を制御する。
- ◆ Windows 2000/XP ワークステーションとユーザ、および Windows 2000/2003 ターミナルサーバユーザにグループポリシーを設定します。
- ◆ リモートコントロール、リモートビュー、診断、ファイル転送、リモート実行、Wake-on-LAN など、ユーザのワークステーションのリモート管理に関するパラメータを設定します。
- ◆ ワークステーションのイメージングに関するパラメータを設定します。
- ◆ 収集するインベントリ情報を指定するパラメータを設定します。
- ◆ 新しいワークステーションを eDirectory ツリーに自動的にインポートするパラメータを設定します。
- ◆ Novell iPrint を使用するためのパラメータを設定し、iPrint クライアントおよびプリンタを配布しやすくします。さらに、ワークステーションにプリンタをインストールするための Web ブラウザインタフェースをユーザに提供します。

## 1.3 Application Management ( アプリケーション管理 )

アプリケーション管理は、Windows ワークステーション上のユーザへのアプリケーション配布を管理する場合に役立ちます。アプリケーション管理を使用することによって、次のことができます。

- ◆ 従来の Windows アプリケーションと Microsoft\* Windows Installer アプリケーションを配布します。従来の Windows アプリケーションには、そのアプリケーションのインストールプログラムも含まれています。Windows Installer アプリケーションは、Windows Installer と .msi ファイルをインストールのために使用します。
- ◆ Web アプリケーションを配布します。Web アプリケーションは Web サーバ上で動作するため、通常は配布する場合にユーザが URL を利用できるようにしなければなりません。
- ◆ eDirectory と接続している場合にはネットワークから、eDirectory との接続が切断されている場合でも CD、Jaz\* ドライブ、Zip\* ドライブなどのリムーバブルメディアからアプリケーションを配布します。
- ◆ アプリケーション配布先のユーザを決定します。eDirectory を使用してアプリケーションをユーザに関連付けてからユーザにアプリケーションを配布する必要があります。アプリケーションをワークステーションに関連付けて、ログインしたユーザに関係なくワークステーションでアプリケーションを利用することもできます。
- ◆ アプリケーションの依存関係を作成します。アプリケーションの依存関係により、アプリケーション A を起動する前に、アプリケーション B をインストールし、実行することを要求できます。
- ◆ 配布したアプリケーションをワークステーション上でユーザに表示する方法を決定します。

eDirectory で設定し、ユーザに関連付けたアプリケーションをユーザが受信するには、そのユーザのワークステーション上で Novell Application Launcher が稼動している必要があります。Application Launcher は eDirectory にアクセスして、ユーザに関連付けられたアプリケーションを確認し、アプリケーションに関するすべての配布処理 (インストールとアンインストールを含む) を実行します。

Application Launcher には、アプリケーションを表示する次の 3 つのビューが用意されています。1) Application Window。配布アプリケーションのアイコンを表示するスタンドアロンウィンドウ。2) Application Explorer。Application Window などのスタンドアロンウィンドウと Windows Explorer との統合を含むコンポーネント。配布アプリケーションのアイコンを Windows のデスクトップ、[スタート] メニュー、システムトレイ、およびクイック起動バーに表示できます。3) Application Browser。配布アプリケーションのアイコンを表示する Web ブラウザビュー。3 つのビューはすべて Application Launcher がインストールされると利用できるようになります。

- ◆ イメージング処理によって新しくイメージが作成されたワークステーションにアプリケーションを配布します。
- ◆ 配布されていないアプリケーションをワークステーションで起動するかどうか制御します。たとえば、配布した計算機プログラムを使用してほしいためユーザが Microsoft Calculator を起動できないようにするには、Application Launcher によって配布されていない場合でも Calculator の起動を無効にすることができます。
- ◆ 配布アプリケーションをアンインストールします。アンインストールには、アプリケーションの配布に関連する共有していないすべてのファイル、.ini エントリ、およびレジストリエントリの削除が含まれます。

## 1.4 ワークステーションイメージング

ワークステーションイメージングを使用することによって、次のイメージング操作ができます。

- ◆ ワークステーションのイメージを作成し、同じワークステーション (ローカル) またはイメージングサーバ (プロキシ) に格納します。
- ◆ 選択したファイルの “アドオン” イメージを作成します。
- ◆ イメージをカスタマイズします。
- ◆ イメージを圧縮して保存容量を最小限にします。
- ◆ ワークステーション (ローカル) またはイメージングサーバ (プロキシ) に保存されたイメージを取得し、ワークステーションに復元します。この操作は各ワークステーションで手動で実行したり、ConsoleOne® から自動的に実行したりできます。
- ◆ ワークステーションまたはサーバポリシーを使用してイメージング操作を定義します。
- ◆ イメージング操作をカスタマイズして自動化するスクリプトを記述します。
- ◆ マルチキャストセッションでイメージを多数のワークステーションに同時に復元します。
- ◆ パーティションとストレージデバイスの情報をワークステーションで表示します。
- ◆ パーティションを作成、削除、有効化します。

## 1.5 リモート管理

リモート管理は、リモート管理コンソールからワークステーション ( 管理対象ワークステーション ) をリモートで管理します。リモート管理では、次の操作を実行できます。

- ◆ 電源が切断されている管理対象ワークステーションをリモートから起動することができます。
- ◆ 管理対象ワークステーションをリモートから制御することができます。
- ◆ 管理対象ワークステーションをリモートから表示します。
- ◆ ログインしているユーザがローカルの Administrators グループのメンバーでなくても、システム権利を使って、管理対象ワークステーションで検出される実行可能ファイルをリモートで実行します。
- ◆ リモート管理コンソールと管理対象ワークステーションの間でファイルを転送できます。
- ◆ 情報を表示して、管理対象ワークステーションの問題を診断します。
- ◆ 管理対象ワークステーションで実行されるリモート管理セッションに関する監査記録情報を記録します。
- ◆ リモートコントロールセッション中に管理対象ワークステーションの画面を消去します。
- ◆ リモートコントロールセッション中に管理対象ワークステーションのキーボードとマウスの制御をロックすることができます。

---

**重要 :** サーバ上のリモート管理機能を取得するために、ZENworks 7 Desktop Management を使用することはできません。Windows 2000/2003 サーバをリモートで管理する場合、ZENworks Server Management のリモート管理機能を使用することができます。詳細については、ZENworks Server Management のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation>) を参照してください。

---

## 1.6 Workstation Inventory ( ワークステーションインベントリ )

ZENworks Desktop Management を使用すると、ネットワークに接続している全ワークステーションのハードウェアとソフトウェアの情報をすべて収集し、管理できます。Novell ConsoleOne® から、ワークステーションのハードウェアとソフトウェアに関するインベントリをすべて参照できます。一元管理されているワークステーションのデータベースに照会してレポートを生成することもできます。Desktop Management では、大型ネットワークのサーバ、ファイアウォール、および eDirectory ツリー間でインベントリ情報をロールアップすることもできます。

次の簡単な用語集では、ワークステーションインベントリで使用する用語の基本的な定義について説明します。

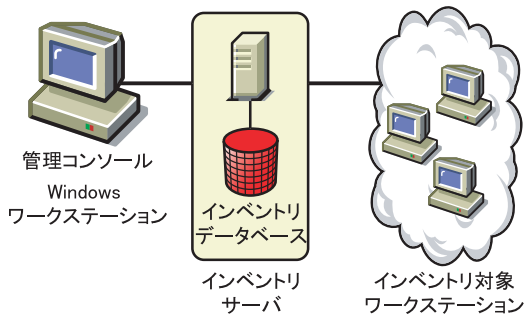
- ◆ **インベントリ対象ワークステーション :** Windows ワークステーションで、そのハードウェアおよびソフトウェアデータをスキャンし、中央リポジトリで管理します。ワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのすべてのインベントリ情報を収集するには、ワークステーションにインベントリエージェント (Inventory Agent、ZENworks デスクトップ管理エージェント (Desktop Management Agent) の一部 ) をインストールする必要があります。



- ◆ **インベントリサーバ** : NetWare®、Windows、または Linux サーバで、インベントリサービスが実行されます。インベントリサーバでは、他のデスクトップ管理サービスも実行できます。インベントリサーバは、関連付けられているインベントリ対象ワークステーションからインベントリデータを収集し、インベントリに保存します。
- ◆ **インベントリデータベース** : 全インベントリ対象ワークステーションのインベントリ情報のリポジトリ。インベントリデータベースには、Sybase\*、Oracle\*、または MS SQL があります。
- ◆ **データベースサーバ** : インベントリデータベースが実行されている NetWare、Windows、または Linux (Open Enterprise Server (OES) バージョンの Linux または SUSE\* Linux Enterprise Server (SLES) バージョンの Linux) サーバ。
- ◆ **管理コンソール** : Desktop Management ワークステーションインベントリの ConsoleOne スナップインがインストールされ、Novell ConsoleOne を実行する Windows ワークステーションまたはサーバ。管理コンソールは、インベントリシステムを管理するためのインタフェースを提供します。

この『インストールガイド』では、ワークステーションインベントリに関する理解を深めるため、パイロットシステムの設定に焦点を当てています。次の図で示すようにパイロットシステムは、管理コンソール、インベントリサーバ、Sybase を実行しているインベントリデータベース、および 1 台または複数のインベントリ対象のワークステーションで構成されます。

図 1-1 ワークステーションインベントリのパイロットシステム



このセットアップには次の特徴があります。

- ◆ インベントリサーバとインベントリ対象ワークステーションが同じ Novell eDirectory ツリーに配置されています。
- ◆ インベントリサーバにインベントリ対象ワークステーションが接続されています。
- ◆ インベントリサーバには、インベントリデータベースが接続されています。

インベントリスキャンサイクルは次のとおりです。

1. インベントリスキャナはハードウェアとソフトウェア情報をインベントリ対象のワークステーションからインベントリサーバへ、スキャンスケジュールに従って送信します。
2. インベントリサーバは、そのインベントリ情報をインベントリデータベースに保存します。
3. 管理コンソールで、[レポート中] や [概要] などのインベントリツールを使用してインベントリデータベースのインベントリ情報を参照および取得することができます。

運用環境にワークステーションインベントリをインストールするには、企業のインベントリサーバのツリー構造を計画して、決定する必要があります。ネットワークおよび情報の要件に基づいて、インベントリの配置を決定しておく必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」を参照してください。

## 1.7 Sybase

Sybase Adaptive Server\* Anywhere (ASA) は、ZENworks Desktop Management とバンドルされているネットワークデータベースサーバです。Desktop Management を使用して、NetWare、Windows、および Linux 上にワークステーションインベントリおよび Novell Application Launcher データベースをマウントするデータベースプラットフォームとして Sybase ASA をインストールできます。

# Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management のテストは、NetWare® 6、NetWare 6.5、Windows 2000 Advanced Server、Windows Server 2003、Novell Open Enterprise Server (OES) Linux 1.0、および SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 Support Pack 1 (SP1) 以降で実施されています。

この節では、テストが終了したサポートされる ZENworks 7 サーバ設定について詳しく説明します。

- ◆ 23 ページのセクション 2.1「テストされた Windows と NetWare サーバプラットフォームの組み合わせ」
- ◆ 29 ページのセクション 2.2「ZENworks 7 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ」
- ◆ 31 ページのセクション 2.3「SP1 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ」

この節では、ZENworks 7 Desktop Management および ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 でサポートされているワークステーションとデバイスについても説明します。

- ◆ 33 ページのセクション 2.4「サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス」

## 2.1 テストされた Windows と NetWare サーバプラットフォームの組み合わせ

次の表は、Novell ZENworks 7 Desktop Management および ZENworks 7 Desktop Management with SP1 によるテストがすべて終了したフルサポートされる Windows および NetWare サーバ用の ZENworks Desktop Management の組み合わせ (ZENworks Middle Tier Server プラットフォームが Desktop Management Server プラットフォームに接続している組み合わせ) を示しています。

- ◆ 24 ページのセクション 2.1.1 「ZENworks 7 Desktop Management のテスト済みプラットフォーム」
- ◆ 28 ページのセクション 2.1.2「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対してテスト済みのプラットフォームのその他の組み合わせ」

## 2.1.1 ZENworks 7 Desktop Management のテスト済みプラットフォーム

表 2-1 ZENworks 7 Desktop Management に対してテストされた Windows と NetWare サーバプラットフォームの組み合わせ

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
Windows 2000 Advanced Server SP4	Windows 2000 Advanced Server SP4	<p>両方のサーバが同じ Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client™ と同じマシンにインストールする場合は、クライアントを最初にインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft Internet Information Server (IIS) がインストールされている必要があります (Windows 2000 Advanced Server 付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2000 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ Novell ConsoleOne® 1.3.6 と Novell eDirectory® 8.7.1 (最低限) または 8.7.3 (推奨) がインストールされていること</li><li>◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX™ ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること</li><li>◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること</li></ul> <p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときのみサポートされます。</p>

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
Windows Server 2003 Standard Edition または Enterprise Edition	Windows 2000 Advanced Server SP4	<p>両方のサーバが同じ Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2000 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.1 (最低限)、8.7.3、または 8.8.x (現在ではサポート対象) がインストールされていること</li> <li>◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること</li> <li>◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること</li> </ul>
Windows Server 2003 Standard Edition	Windows Server 2003 Standard Edition	<p>両方のサーバが同じ Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2003 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 (最低限) または 8.8.x (同様にサポート対象) がインストールされていること</li> <li>◆ Novell Client 4.9 SP1a (またはそれ以降) がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること</li> <li>◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること</li> </ul>
<p>この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。</p>		

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
Windows Server 2003 Enterprise Edition	Windows Server 2003 Enterprise Edition	<p>両方のサーバが Microsoft ドメインのメンバーである必要があります。</p> <p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server を Windows 2003 上にインストールする場合は、次の条件に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 (最低限) または 8.8.x (同様にサポート対象) がインストールされていること</li> <li>◆ Novell Client 4.9 SP1a (またはそれ以降) がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること</li> <li>◆ SYS という名前を持つ eDirectory (通常は c:\novell) の現在の場所が共有されていること</li> </ul>
Windows Server 2003 Standard Edition または Enterprise Edition	NetWare 6 SP4	<p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server には、JVM*、ConsoleOne、および eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p>
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition	OES (NetWare) 1.0/ NetWare 6.5 Support Pack 3	<p>Middle Tier Server ソフトウェアを Novell Client と同じコンピュータにインストールする場合は、最初にクライアントにインストールする必要があります。</p> <p>ZENworks Middle Tier Server に、Microsoft IIS がインストールされている必要があります (Windows Server 2003 に付属のバージョン)。</p> <p>Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。</p>

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	説明
NetWare 6 SP4	NetWare 6 SP4	Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。  この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。
OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	NetWare 6 SP4	Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。
OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	Desktop Management Server には、JVM、ConsoleOne、eDirectory の最新バージョンをインストールする必要があります。  この構成は、Middle Tier Server と Desktop Management Server を同じコンピュータにインストールしたときもサポートされます。

Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 7 Companion 1* CD に含まれています。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスディスクの作成に必要なファイルは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval\\_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) Web サイトから入手できます。

Novell ConsoleOne 1.3.6e と Novell eDirectory 8.8.1 は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1* CD に含まれています。ZENworks 7 with Support Pack 1 を購入した場合、eDirectory 8.8.1 のライセンスは必要ありません。

最新の Novell Client (バージョン 4.9 SP2 以降) は、[Novell Product Downloads \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) Web サイトからダウンロードできます。

NetWare Support Pack ファイルは、Novell Support Connection Web サイトの「[Minimum Patch List \(http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html\)](http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html)」から入手できます。

ZENworks Middle Tier Server と ZENworks Desktop Management Server は、同じコンピュータにインストールできます。

**重要 :** 次の項目は、プラットフォームのサポートを考慮する場合に特に重要です。

- ◆ ZENworks の機能に関してワークステーションを認証するサーバに NetWare 6.5 SP2 以降をインストールする場合は、コンピュータにインストールされている Novell Client のバージョンを 4.9 SP2 にアップグレードしないと、ConsoleOne 1.3.6 を使用して eDirectory ツリーまたはサーバを管理できません。
- ◆ ZENworks Patch Management (PatchLink) をインストールする場合は、ネットワークリソースの使用方法を計画する必要があります。Patch Management では、インストールする Windows サーバに対して次のような環境設定が必要です。
  - ◆ 新規および未変更の Windows XP、2000、または Server 2003、および IIS と asp.net がインストールされていること
  - ◆ Windows 2000 Advanced Server が Service Pack 2 でアップデートされていること (PatchLink アプリケーション以降についてはその他のアップグレードを適用)

- ◆ その他のアプリケーションソフトウェアがシステムにインストールされていないこと
- ◆ ZENworks Patch Management は、専用のコンピュータにインストールする必要があります。

## 2.1.2 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対してテスト済みのプラットフォームのその他の組み合わせ

ZENworks 7 Desktop Management でテスト済みのプラットフォームの他に、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 は、次の表に示すプラットフォームの組み合わせでもテストされています。

表 2-2 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対してテストされた Windows と NetWare サーバプラットフォームの組み合わせ

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	注意
Windows 2000 Advanced Server SP4	OES (NetWare) 1.0 SP2	
Windows 2000 Advanced Server SP4	NetWare 6.5 SP4	
Windows 2000 Advanced Server SP4	Windows 2000 Advanced Server SP4	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、R2	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、R2	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていないこと
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、R2	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、R2	NetWare 6.5 SP5	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、R2	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	OES (NetWare) 1.0 SP2	
Windows Server 2003 Enterprise Edition、SP1	NetWare 6 SP5	
NetWare 6 SP5	OES (NetWare) 1.0 SP2	



Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	注意
NetWare 6 SP5	NetWare 6 SP5	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていないこと
NetWare 6.5 SP4	NetWare 6.5 SP4	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていないこと
NetWare 6.5 SP4	NetWare 6.5 SP4	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
NetWare 6.5 SP5	NetWare 6 SP5	
NetWare 6.5 SP5	NetWare 6.5 SP5	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていないこと
NetWare 6.5 SP5	NetWare 6.5 SP5	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
NetWare 6.5 SP5	Windows Server 2003 Enterprise Edition、SP1	

## 2.2 ZENworks 7 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ

次の表は、Novell ZENworks 7 Desktop Management によるテストがすべて終了したフルサポートされる Desktop Management の組み合わせ (ZENworks Middle Tier Server プラットフォームが Desktop Management Server プラットフォームに接続している組み合わせ) を示しています。

- ◆ 30 ページのセクション 2.2.1 「ネットワークファイアウォールなし」
- ◆ 31 ページのセクション 2.2.2 「ネットワークファイアウォール設定済み」

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対してテスト済みの Linux およびその他のプラットフォームの組み合わせについては、次を参照してください。

## 2.2.1 ネットワークファイアウォールなし

表 2-3 ZENworks 7: ネットワークファイアウォールがインストールされていない状態でテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	コメント
SLES 9 SP1	SLES 9 SP1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 同じ Linux コンピュータで動作する Middle Tier Server と Desktop Management Server</li> <li>◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 Desktop Management Agent は動作しません ( ファイルをコピーしません )。<sup>1</sup></li> </ul>
SLES 9 SP1	SLES 9 SP1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 異なる Linux マシンで動作する Middle Tier Server と Desktop Management Server</li> <li>◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 Desktop Management Agent は動作しません ( ファイルをコピーしません )。<sup>1</sup></li> </ul>
SLES 9 SP1	OES (Linux) 1.0	
OES (Linux) 1.0	SLES 9 SP1	ZENworks for Desktops 4.0.1 Desktop Management Agent は動作しません ( ファイルをコピーしません )。 <sup>1</sup>
OES (Linux) 1.0	Windows 2000 Advanced Server SP4	ZENworks for Desktops 4.0.1 Desktop Management Agent は動作しません ( ファイルをコピーしません )。 <sup>1</sup>
OES (Linux) 1.0	OES (Linux) 1.0	同じ Linux コンピュータで動作する Middle Tier Server と Desktop Management Server
OES (Linux) 1.0	OES (Linux) 1.0	異なる Linux コンピュータで動作する Middle Tier Server と Desktop Management Server
OES (Linux) 1.0	NetWare 6 Support Pack 5	
OES (Linux) 1.0	OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	Novell Cluster Services™ 環境で動作する Desktop Management Server
Windows Server 2003	SLES 9 SP1	
Windows Server 2003	OES (Linux) 1.0	
OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	OES (Linux) 1.0	

<sup>1</sup> この問題を回避するには、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10099065 に記載された手順を参照してください。

## 2.2.2 ネットワークファイアウォール設定済み

表 2-4 ZENworks 7: ネットワークファイアウォールがインストールされた状態でテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	コメント
Windows Server 2003	OES (Linux) 1.0	
Windows Server 2003	SLES 9 SP1	
OES (Linux) 1.0	OES (Linux) 1.0	同じ Linux コンピュータで動作する Middle Tier Server と Desktop Management Server
OES (NetWare) 1.0/ NetWare 6.5 Support Pack 3	OES (Linux) 1.0	
OES (Linux) 1.0	OES (NetWare) 1.0/NetWare 6.5 Support Pack 3	

## 2.3 SP1 に対してテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ

次の表は、Novell ZENworks 7 Desktop Management with SP1 によるテストがすべて終了したフルサポートされる Desktop Management の組み合わせ (ZENworks Middle Tier Server プラットフォームが Desktop Management Server プラットフォームに接続している組み合わせ) を示しています。

表 2-5 ZENworks 7 with SP1: ネットワークファイアウォールがインストールされていない状態でテストされた Linux とその他のサーバプラットフォームの組み合わせ

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	コメント
Windows 2000 Advanced Server SP4	SLES 9 SP3 x86	
Windows 2000 Advanced Server SP4	SLES 9 SP3 x64	
Windows 2000 Advanced Server SP4	OES (Linux) 1.0 SP2	
Windows 2000 Advanced Server SP4	SLES 10	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1/R2	SLES 9 SP3 x64	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1/R2	OES (Linux) 1.0 SP2	

Middle Tier Server プラットフォーム	Desktop Management Server プラットフォーム	コメント
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1/R2	SLES 10	
Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	SLES 9 SP2	
NetWare 6 SP5	OES (Linux) 1.0 SP2	
NetWare 6 SP5	SLES 9 SP3 x64	
NetWare 6.5 SP4	OES (Linux) 1.0 SP2	
OES (NetWare) 1.0 SP2/NetWare 6.5 SP5	OES (Linux) 1.0 SP2	
OES (NetWare) 1.0 SP2/NetWare 6.5 SP5	SLES 9 SP3 x64	
SLES 9 SP2	OES (Linux) 1.0 SP1	
SLES 9 SP2	Netware 6.5 SP4	
SLES 9 SP2	SLES 9 SP2	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
SLES 9 SP3 x86	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1	
SLES 9 SP3 x64	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1/R2	
SLES 9 SP3 x64	OES (NetWare) 1.0 SP2	
SLES 9 SP3 x64	SLES 9 SP3 x64	
OES (Linux) 1.0 SP2	OES (NetWare) 1.0 SP2	
OES (Linux) 1.0 SP2	NetWare 6.5 SP4	
OES (Linux) 1.0 SP2	OES (Linux) 1.0 SP2	Middle Tier Server と Desktop Management Server が同じマシンにインストールされていること
OES (Linux) 1.0 SP2	SLES 9 SP3 x64	
OES (Linux) 1.0 SP2	Windows 2000 Advanced Server SP4	
OES (Linux) 1.0 SP2	Windows Server 2003 Enterprise Edition または Standard Edition、SP1/R2	
OES (Linux) 1.0 SP2	OES (Linux) 1.0 SP2	

## 2.4 サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス

ZENworks 7 Desktop Management は、次のデスクトッププラットフォームを管理できるよう広範囲にわたってテストされています。

- ◆ Windows 2000 Professional、Service Pack 4 適用済み
- ◆ Windows NT 4 SP6a ( 詳細については、[511 ページのセクション 35.3 「Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性」](#)を参照してください)。
- ◆ Windows XP Professional、Service Pack 1 適用済み ( 最低要件 )
- ◆ Windows 98 SE

これらのプラットフォームの他に、ZENworks 7 Desktop Management は、Windows XP Tablet PC Edition を搭載したタブレット PC にポリシーやアプリケーションを配布できます。

また、次のターミナルサーバプラットフォームにポリシーやアプリケーションを配布することもできます。

- ◆ Citrix Presentation Server\* 3
- ◆ Windows 2000 ターミナルサーバ
- ◆ Windows 2003 ターミナルサーバ

### 2.4.1 SP1 で追加されたワークステーションプラットフォームとデバイスサポート

ZENworks 7 の元のバージョンでサポートされているプラットフォームの他に、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 は、次のデスクトッププラットフォームも管理できるようテストされています。

- ◆ Windows XP Professional with Service Pack 2

ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack は、Windows XP Tablet PC 2005 Edition を搭載したタブレット PC にポリシーやアプリケーションを配布することもできます。また、Citrix Presentation Server 4 を使用した配布もサポートしています。



# 準備



この節では、次に示す Novell® ZENworks® 7 Desktop Management の主要コンポーネントのインストール前およびインストールプログラムの実行中に必要とされる重要な情報を紹介します。

- ◆ 37 ページの § 章 3 「インストールを実行するワークステーションの前提条件」
- ◆ 39 ページの § 章 4 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」
- ◆ 51 ページの § 章 5 「ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備」
- ◆ 63 ページの § 章 6 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」
- ◆ 71 ページの § 章 7 「ユーザワークステーションの要件」
- ◆ 75 ページの § 章 8 「管理ワークステーションまたはサーバの準備」





# インストールを実行するワークステーションの前提条件

次の表は、Windows マシンを使用して Windows または NetWare® サーバに Desktop Management サービスと Middle Tier Server ソフトウェアをインストールする場合に使用するワークステーションのソフトウェア要件を示しています。Linux サーバにこれらのサービスをインストールする場合は、Linux サーバからのみ実行できます。

表 3-1 ワークステーションをインストールするためのソフトウェア要件

インストールする ZENworks コンポーネント	インストールに使用するワークステーションのソフトウェア要件
デスクトップ管理サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 Professional SP4 以降のワークステーション、Windows XP SP1 以降のワークステーション、Windows 2000 Server SP4 以降、Windows Server 2003 以降、Standard Edition または Enterprise Edition</li> <li>◆ Novell Client™ 4.9 SP1a 以降がインストールされていること</li> <li>◆ Internet Explorer 5.5 SP2 以降がインストールされていること</li> <li>◆ ZENworks スナップインをローカルワークステーションにインストールする場合は、そのワークステーションに ConsoleOne 1.3.6 がすでにインストールされている必要があります。詳細については、<a href="#">87 ページのセクション 9.1.2 「完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行」</a> のステップ 8 を参照してください。</li> </ul> <p><b>サポート対象外:</b> 次のソフトウェア構成の場合は、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 95/98/ME/NT 4 ワークステーションからインストールする場合</li> <li>◆ NAT(ネットワークアドレス変換)など、ファイアウォールの一方の側から別の側にインストールする場合</li> </ul>
Middle Tier Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 2000 以降のワークステーション、Windows XP SP1 以降のワークステーション、または Windows 2000/2003 以降のサーバ</li> <li>◆ Novell Client 4.9 SP1a 以降がインストールされていること</li> </ul> <p><b>サポート対象外:</b> 次のソフトウェア構成の場合は、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 95/98/ME/NT 4 ワークステーションからインストールする場合</li> <li>◆ NAT が設定されているネットワークからインストールする場合</li> </ul>

インストールするワークステーションでのログインセッションは、次のように実行する必要があります。

- ◆ NetWare® サーバにインストールする場合は、管理者または同等の権利でログインする必要があります。これにより、インストールプログラムによって eDirectory™ スキーマが拡張され、eDirectory ツリーと NetWare サーバを参照することができます。

---

注 : Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは 1 つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

---

- ◆ Windows 2000 サーバまたは Windows Server 2003 にインストールする場合は、インストール先のサーバを認証するために Administrator または同等の権利でログインする必要があります。

ZENworks 7 Desktop Management を管理するための ConsoleOne を実行するワークステーションまたはサーバに Novell Client をインストールする必要があります。これは、ConsoleOne がクライアントの NetWare ライブラリに依存するためです。

Desktop Management Server のインストールの詳細については、[83 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。

# ZENworks Desktop Management Server のインストール条件

# 4

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 39 ページのセクション 4.1 「Desktop Management Server のハードウェア要件」
- ◆ 42 ページのセクション 4.2 「Desktop Management Server のソフトウェア要件」
- ◆ 48 ページのセクション 4.3 「Desktop Management Server のインストール条件」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 (SP1) にも適用されます。SP1 でテスト済みのプラットフォームの詳細については、23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」を参照してください。

---

## 4.1 Desktop Management Server のハードウェア要件

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management サービスはすべて同じマシンにインストールできますが、ネットワークのリソースや設計によっては一部のコンポーネントを異なるサーバにインストールする必要があります。この節では、そのようなサーバのハードウェア要件を紹介します。

- ◆ 39 ページのセクション 4.1.1 「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」
- ◆ 40 ページのセクション 4.1.2 「起動前サービス分割インストールのハードウェア要件」
- ◆ 41 ページのセクション 4.1.3 「ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件」
- ◆ 42 ページのセクション 4.1.4 「データベース分割インストールのハードウェア要件」

### 4.1.1 統合コンポーネントインストールのハードウェア要件

デスクトップ管理サービスの機能や性能を最大限に活用するためには、デスクトップ管理サービスをインストールするサーバに、少なくとも次の処理速度、ディスク容量、および RAM が必要です。

表 4-1 ZENworks Desktop Management Server のハードウェア要件

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
NetWare® 6 SPx サーバ	290MB	Pentium® III プロセッサ (最低)、512MB RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6.5 SPx サーバ	290MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
Windows 2000x サーバ	290MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
Windows Server 2003x (32 ビットのみ)	290MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
SLES 9x 32 ビットまたは 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 100 ユーザ未満 = 190MB</li> <li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 290MB</li> </ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
SLES 10 32 ビットまたは 64 ビット	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 100 ユーザ未満 = 190MB</li> <li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 290MB</li> </ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、4GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
OES (Linux) 1.0 SPx	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 100 ユーザ未満 = 190MB</li> <li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 290MB</li> </ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。

**重要 :** Windows サーバではオペレーティングシステム用にディスク容量が確保されていません。ZENworks Desktop Management をインストールするには、サーバ用に確保されたディスク容量のほかに十分な空き容量があることを確認してください。

SLES 9x インストールで利用できる 4 つのビルド済みソフトウェア「セット」(*Minimum System*、*Minimum Graphical System*、*Full*、および *Default System* の各インストール)のうち、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしているのは、SLES 9x の *Default System* インストールモードのみです。これ以外のモードを SLES 9x のインストールで使用した場合、ZENworks 7 Desktop Management のインストールは失敗します。

#### 4.1.2 起動前サービス分割インストールのハードウェア要件

Desktop Management 起動前サービスが正しく機能するためには、IP 層をサポートする LAN (ローカルエリアネットワーク) が必要です。次の要件も満たす必要があります。

表 4-2 Desktop Management 起動前サービスサーバのハードウェア要件

仕様	最低要件
プロセッサ	Pentium II、350MHz 以上
使用可能な空き容量	10MB
RAM	128 MB
LAN 接続	Ethernet

ワークステーション用起動前サービスのハードウェア要件については、71 ページのセクション 7.2 「ユーザワークステーションのハードウェア要件」を参照してください。

### 4.1.3 ワークステーションインベントリ分割インストールのハードウェア要件

Desktop Management サービスのワークステーションインベントリコンポーネントをインストールすることを選択した場合、次のハードウェア環境設定のいずれかを満たす NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000、または Windows Server 2003 マシンに個別にインストールできます。

表 4-3 ワークステーションインベントリサーバのハードウェア要件

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6 SPx サーバ	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 35MB	Pentium II プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
NetWare 6.5x サーバ	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 35MB	Pentium II プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
Windows 2000 サーバ SPx	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 25MB	39 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」を参照してください。
Windows Server 2003x	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 25MB	39 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」を参照してください。
SLES 9x	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 25MB	39 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」を参照してください。
SLES 10	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 25MB	39 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」を参照してください。

リソース	最低ディスク容量	最低ハードウェア要件
OES (Linux) 1.0 SPx	インベントリとデータベースの併用は 100MB、インベントリ単独は 25MB	39 ページの「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」を参照してください。

#### 4.1.4 データベース分割インストールのハードウェア要件

デスクトップ管理サービスのインベントリデータベースコンポーネントをインストールする場合は、次のハードウェア環境設定に従って NetWare 6、NetWare 6.5、Windows 2000、または Windows Server 2003 のコンピュータに個別にインストールできます。

表 4-4 ワークステーションインベントリデータベースサーバのハードウェア要件

コンポーネント	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
RAM	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ データベースに推奨される最低メモリは 512MB。最低キャッシュは 128MB。ルートサーバレベルの最低メモリは 768MB、推奨メモリは 1GB 以上。キャッシュは 256MB。</li> </ul>
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 10,000 台のワークステーションが接続されている最下位レベルのサーバに推奨される最低ハードディスク容量は 5GB。</li> <li>◆ 最上位レベルのサーバ (ルートサーバ) に必要な最低ハードディスク容量は 20GB。</li> <li>◆ 接続されているワークステーションの数に応じて、ハードディスクのサイズは 1GB から 25GB までにおよびます。</li> </ul>

## 4.2 Desktop Management Server のソフトウェア要件

Desktop Management サービスをすべて同じマシンにインストールすることができますが、ネットワークのリソースや設計によっては一部のコンポーネントを異なるサーバにインストールする必要があります。この節では、そのようなサーバのソフトウェア要件を紹介します。

- ◆ 42 ページのセクション 4.2.1「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」
- ◆ 46 ページのセクション 4.2.2「ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件」
- ◆ 47 ページのセクション 4.2.3「ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件」

### 4.2.1 すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件

次の表は、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするコンピュータに必要なソフトウェア構成を示しています。

表 4-5 すべての ZENworks Desktop Management コンポーネントをインストールするためのサーバソフトウェア要件

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Support Pack 4( 最低 )</li> <li>◆ Novell eDirectory™ 8.6.2( 最低 )、8.7.1、8.7.3、または 8.8( 推奨 )</li> <li>◆ JVM 1.4.1 for NetWare( 最低 )</li> <li>◆ LDAP の設定および実行</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> </ul> <p><b>重要 :</b> 現在の Consolidated Support Pack に同梱されている JVM のバージョンおよび NetWare 6 Support Pack のバージョンをダウンロードしてインストールすることを強くお勧めします。この 2 つのソフトウェアは、連携して動作するよう設計されています。</p> <p>この NetWare 6 サーバが ZENworks 7 Middle Tier Server も実行する場合は、サーバの eDirectory をバージョン 8.7.3 (以降) にアップグレードする必要があります。</p>
NetWare 6.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Support Pack 1.1( 最低 )</li> <li>◆ eDirectory 8.7.3( 最低 )</li> <li>◆ LDAP の設定および実行</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> </ul> <p><b>重要 :</b> ZENworks の機能に関してワークステーションを認証するサーバに NetWare 6.5 SP2 をインストールする場合は、マシンにインストールされている Novell Client® のバージョンを 4.9 SP2 にアップグレードしない限り、ConsoleOne® 1.3.6 を使用して eDirectory ツリーまたはサーバを管理できません。</p>
Windows 2000	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows Service Pack 4( 最低 )</li> <li>◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、IPX™ ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること</li> <li>◆ eDirectory 8.6.2 ( 最低 )、8.7.1、8.7.3、または 8.8x ( 推奨 )</li> <li>◆ LDAP の設定および実行</li> <li>◆ eDirectory の現在の場所が SYS という名前で共有されていること c: 以外のドライブに eDirectory と ZENworks 7 イメージングコンポーネントを共存させることはできません。</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> <li>◆ Windows 2000 で ZENworks Middle Tier Server に接続する場合は、両方の Windows 2000 サーバが共に Active Directory<sup>†</sup> を実行している Microsoft ドメインのメンバーであることが必要です。</li> <li>◆ Windows 2000 サーバが Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。</li> </ul>

---

プラットフォーム 最低ソフトウェア要件

---

Windows Server 2003

- ◆ Novell Client 4.9 SP1a 以降がインストールされ、IPX ではなく IP プロトコルを使用するように設定されていること
- 自動ワークステーションインポート / 削除 (AWI) が正常に機能するためには、Novell Client が必要です。8.7.3 以降のバージョンの eDirectory では Novell Client がインストールされないため、AWI を使用する場合は Novell Client を別途インストールしてください。
- ◆ eDirectory 8.7.3(最低)
- ◆ LDAP の設定および実行
- ◆ eDirectory の現在の場所が SYS という名前で共有されていること
- C: 以外のドライブに eDirectory と ZENworks 7 イメージングコンポーネントを共存させることはできません。
- ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること
- ◆ Windows Server 2003 で ZENworks Middle Tier Server に接続する場合は、両方の Windows Server 2003 コンピュータが共に Active Directory を実行している Microsoft ドメインのメンバーであることが必要です。
- ◆ Windows Server 2003 が Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。

SLES 9

- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server 9 Support Pack 1 (最低)がインストールされていること
- ◆ Novell eDirectory 8.7.3(最低)が Desktop Management Server にインストールされていること
- ◆ eDirectory 用の LDAP を設定して実行していること
- ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること
- ◆ Samba 3.0.9 ~ 2.6 (Samba Client ではなく、Samba Server) がインストールされていること。インストールされていない場合は、インストールするか、YaST Online Update を使用して推奨バージョンにアップグレードします。

---

**重要 :** SLES 9 のインストールで利用できる 4 つのビルド済みソフトウェア「セット」(*Minimum System*、*Minimum Graphical System*、*Full*、および *Default System* の各インストール)のうち、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしているのは、SLES 9 の *Default System* インストールモードのみです。これ以外のモードを SLES 9 のインストールで使った場合、ZENworks 7 Desktop Management のインストールは失敗します。

---



---

プラットフォーム 最低ソフトウェア要件

---

- SLES 10
- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 10
  - ◆ Novell eDirectory 8.8x (最低) が Desktop Management Server にインストールされていること
  - ◆ eDirectory 用の LDAP を設定して実行していること
  - ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること
  - ◆ Samba 3.0.9 ~ 2.6 (Samba Client ではなく、Samba Server) がインストールされていること。インストールされていない場合は、インストールするか、YaST Online Update を使用して推奨バージョンにアップグレードします。

---

**重要 :** SLES 10 のインストールで利用できる 4 つのビルド済みソフトウェア「セット」( *Minimum System*、*Minimum Graphical System*、*Full*、および *Default System* の各インストール) のうち、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしているのは、SLES 10 の *Default System* インストールモードのみです。これ以外のモードを SLES 10 のインストールで使用した場合、ZENworks 7 Desktop Management のインストールは失敗します。

---

- OES (Linux)
- ◆ Novell Open Enterprise Server (Linux) 1.0 (最低) がインストールされていること
  - ◆ Novell eDirectory 8.7.3(最低) が Desktop Management Server にインストールされていること
  - ◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること
  - ◆ Samba 3.0.9 ~ 2.6 (Samba Client ではなく、Samba Server) がインストールされていること。インストールされていない場合は、インストールするか、Red Carpet を使用して推奨バージョンにアップグレードします。

Novell ConsoleOne 1.3.6 と Novell eDirectory 8.7.3 は、*Novell ZENworks 7 Companion 1* CD に含まれています。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスディスクの作成に必要なファイルは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval\\_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) Web サイトから入手できます。

Novell ConsoleOne 1.3.6e と Novell eDirectory 8.8.1 は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1* CD に含まれています。ZENworks 7 with Support Pack 1 を購入した場合、eDirectory 8.8.1 のライセンスは必要ありません。

最新の Novell Client (バージョン 4.91 SP2 以降) は、[Novell Product Downloads \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) Web サイトからダウンロードできます。

NetWare Support Pack ファイルは、Novell Support Connection Web サイトの「[Minimum Patch List \(http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html\)](http://support.novell.com/produpdate/patchlist.html)」から入手できます。

JVM version 1.4.1 for NetWare 6 は、Novell Support Connection Web サイトの最新の「[Consolidated Support Pack \(http://support.novell.com/tools/csp/csplist.html\)](http://support.novell.com/tools/csp/csplist.html)」からダウンロードできます。

ConsoleOne 1.3.6 (以降) は、NetWare Support Pack を適用してからインストールする必要があります。

---

**重要 :** Desktop Management Server は、IP-to-IP ゲートウェイまたは IPX-to-IP ゲートウェイ環境では動作しません。

---

## 4.2.2 ワークステーションインベントリのみをインストールする場合のソフトウェア要件

デスクトップ管理サービスのワークステーションインベントリコンポーネントをインストールする場合は、次の表に掲載されているプラットフォーム上にインストールできません。

表 4-6 ワークステーションインベントリをインストールする場合のサーバソフトウェア要件

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b> を参照</li><li>◆ ロングネームスペースがインストールされていること</li></ul>
<b>重要：</b> この NetWare 6 サーバが ZENworks 7 Middle Tier Server も実行する場合は、eDirectory をバージョン 8.7.3 (必要最低) にアップグレードする必要があります。	
NetWare 6.5 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b> を参照</li><li>◆ ロングネームスペースがインストールされていること</li></ul>
Windows 2000 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b> を参照</li><li>◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、TID 2967860 で入手できるパッチが適用されていること、また IPX ではなく IP のみを使用するように設定されていること。TID 2967860 の詳細については、<a href="http://support.novell.com/search/kb_index.jsp">Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)</a> を参照してください。</li><li>◆ Windows 2000 サーバが Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。</li></ul>
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b> を参照</li><li>◆ Novell Client 4.9 SP1a がインストールされ、TID 2967860 で入手できるパッチが適用されていること、また IPX ではなく IP のみを使用するように設定されていること。TID 2967860 の詳細については、<a href="http://support.novell.com/search/kb_index.jsp">Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp)</a> を参照してください。</li><li>◆ Windows Server 2003 が Windows ターミナルサーバとして機能している場合、このサーバはリモート管理モードで実行する必要があります。アプリケーションモードはサポートされていません。</li></ul>
SLES 9 SP1	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b> を参照</li><li>◆ Novell eDirectory 8.7.3 (以降) が Desktop Management Server にインストールされていること。</li><li>◆ ZENworks オブジェクトを含むすべてのパーティションのレプリカが最低 1 つ、eDirectory 8.5 以降を実行するサーバ上でホストされている必要があります。</li></ul>

---

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
----------	------------

---

- |                 |   |
|-----------------|---|
| OES (Linux) 1.0 | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」</b>を参照してください。</li><li>◆ Novell eDirectory 8.7.3 (以降)がDesktop Management Serverにインストールされていること。</li><li>◆ ZENworks オブジェクトを含むすべてのパーティションのレプリカが最低 1 つ、eDirectory 8.5 以降を実行するサーバ上でホストされている必要があります。</li></ul> |
|-----------------|---|
- 

**重要 :** Windows サーバの場合は、サーバの DNS ショートネームとサーバ名を同じにする必要があります。Windows サーバの名前が DNS ショートネームと一致しない場合は、インストールの実行前にサーバの名前を変更してください。または、ワークステーションインベントリのインストールにこのようなサーバを選択しないでください。

---

### 4.2.3 ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件

Desktop Management Server ソフトウェアのデータベースコンポーネントをインストールする場合は、NetWare、Windows、または Linux のコンピュータに個別にインストールできます。

表 4-7 ZENworks データベースをインストールする場合のサーバソフトウェア要件

---

コンポーネント	ハードウェアおよびソフトウェアの最低要件
---------	----------------------

---

- |        |   |
|--------|---|
| データベース | <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 以下で、インベントリデータベースをインストールすることを選択すると、Sybase ASA 8.0.2 が自動的にインストールされます。<ul style="list-style-type: none"><li>◆ NetWare 6 SP3</li><li>◆ NetWare 6.5</li><li>◆ Windows 2000 Server SP4</li><li>◆ Windows 2003 Standard Edition</li><li>◆ Windows 2003 Enterprise Edition</li><li>◆ SLES 9 SP1 または OES (Linux) 1.0</li></ul></li><li>◆ Oracle を Sybase の代わりに使用することもできます。次のプラットフォーム上の Oracle 9.2.0.6 または Oracle 10g R1<ul style="list-style-type: none"><li>◆ Windows 2000 Server SP4</li><li>◆ Windows 2003 Standard Edition</li><li>◆ Windows 2003 Enterprise Edition</li><li>◆ SLES 9 SP1 または Oracle でサポートされているバージョンの Solaris</li></ul></li><li>◆ MS SQL を Sybase の代わりに使用することもできます。<ul style="list-style-type: none"><li>◆ (推奨) MS SQL バージョン 2000 SP3a</li></ul></li></ul> |
|--------|---|

## 4.3 Desktop Management Server のインストール条件

Desktop Management サービスをインストールする前に満たす必要がある条件がいくつかあります。この節では、それらの条件に関する情報を紹介します。

- ❑ サーバのバックアップを作成し、保存したことを確認します。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバに、ConsoleOne の推奨バージョンがインストールされていることを確認します。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするすべてのサーバ上で eDirectory に対する管理者または同等の権利を持っていることを確認します。
- ❑ ディレクトリのスキーマを拡張するための管理者または同等の権利を持っていることを確認します。
- ❑ NetWare サーバにインストールする場合は、`java.nlm` をアンロードします (サーバコンソールで、「`java -killall`」と入力してから「`java -exit`」と入力します)。アンロードする場合は、別のプロセスによって Java\* が使用されていないこと、必要な Java コンポーネントがインストール済みであることを確認します。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバ上の `sys:public` ディレクトリのファイルを使用するプログラムをすべて終了します。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアをインストールまたは管理するワークステーションの画面は、解像度を 1024 x 768 に設定する必要があります。800 x 600 に設定してインストールすると、インストール画面および ConsoleOne 画面の解像度が大きすぎて重要な情報が表示されません。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアを Windows サーバにインストールする場合は、最初に [サービスコントロールマネージャ] ウィンドウを閉じてください。
- ❑ Desktop Management Server ソフトウェアを Windows 2000 ワークステーションまたは Windows 2000 XP SP1 ワークステーションから Windows 2000/2003 サーバにインストールする場合、ワークステーションが eDirectory から認証され、さらにインストール先の Windows サーバのローカル管理者またはドメイン管理者として認証されている必要があります。
- ❑ インベントリサーバコンポーネントをインストールする場合は、インベントリサーバをインストールするサーバの名前と、サーバが常駐するツリーに “#” が含まれていないことを確認します。

Desktop Management Server のインストールプログラムでは、Desktop Management コンポーネントを個別に (または選択したグループごとに) 選択したサーバにインストールできます。コンポーネントの詳細については、17 ページの § 章 1 「ZENworks Desktop Management について」を参照してください。

---

注 : Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは 1 つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

---

Desktop Management の特定のコンポーネントのみをインストールする場合は、インストール所要時間を短縮し、サーバのディスク容量を節約することができます。次のコンポーネントを個別に選択してインストールすることができます。

## デスクトップ管理サービス

- ◆ Application Management (アプリケーション管理)
- ◆ ワークステーション管理に共通するコンポーネント
- ◆ リモート管理

### [Additional Options]

- ◆ デスクトップ管理データベース
- ◆ Inventory Database
- ◆ Inventory Server
- ◆ Inventory Proxy Server
- ◆ イメージングサーバ
- ◆ PXE サーバ
- ◆ ワークステーションインポート/削除サーバ
- ◆ デスクトップ管理サービスのスナップイン

リモート管理をインストールする場合は、次の点に注意します。

- ❑ リモート管理エージェントをインストールする管理者の権利を持っていることを確認します。

ワークステーションインベントリをインストールする場合は、次の点に注意します。

- ❑ Sybase Adaptive Server Anywhere を停止します。

**NetWare** の場合 : Sybase コンソールのプロンプトで「Q」と入力します。

**Windows 2000** の場合 : コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して、[停止] をクリックします。

**Linux** の場合 : Sybase コンソールプロンプトで、「/etc/init.d/novell-zdm-sybase stop」と入力します。

- ❑ インベントリをインストールする際には、上位から下位へと展開します。常に最上位レベルのサーバからインストールを開始し、以降 1 レベルずつ下位のサーバのインストールを続けます。たとえば、ルートサーバとリーフサーバを含むインベントリセットアップの場合、ルートサーバに対するインベントリのインストールを完了してから、リーフサーバのインストールを実行します。
- ❑ Desktop Management インベントリサーバとデータベースのコンポーネントをインストールするサーバに有効な DNS 名が設定されていることを確認します。Desktop Management Server ソフトウェアのインストールに使用するワークステーションが DNS ルックアップを実行するように適切に設定されていることも確認します。  
サーバに DNS 名が設定されていない場合は、Desktop Management インベントリポリシー設定時にサーバの IP アドレスを選択する必要があります。サーバの IP アドレスまたは DNS 名の設定の詳細については、[367 ページのセクション 27.1 「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」](#) を参照してください。
- ❑ 選択したサーバに ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、ZENworks 7 Desktop Management をインストールする前に、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードす

る必要があります。ZENworks 7 Server Management へのアップグレード方法については、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「アップグレード」にある「ZENworks for Servers 3.x からのアップグレード」を参照してください。

# ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備

Linux サーバに Novell® ZENworks® 7 Desktop Management をインストールするときには、ZENworks の機能に対応するように Linux サーバを設定する必要がある場合があります。この節では、その設定を行ううえで役立つ情報を紹介します。次の内容について説明します。

- ◆ 51 ページのセクション 5.1 「ZENworks ファイルにアクセスするための Linux サーバの設定」
- ◆ 61 ページのセクション 5.2 「Linux インベントリサーバの準備」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されません。

---

## 5.1 ZENworks ファイルにアクセスするための Linux サーバの設定

ZENworks ファイルを保存し、ファイルにアクセスするための「バックエンド」として Linux サーバを使用する場合は、後で ZENworks が Linux サーバに保存されているファイルにアクセスできるように、(ZENworks Desktop Management Server をインストールする前に、またはインストールした後に) Linux サーバを設定する必要があります。

---

注：ファイルにアクセスするための Linux サーバの設定はオプションです。Linux バックエンドサーバを使用したまま、NetWare® サーバまたは Windows サーバを設定してファイルにアクセスできます。

---

この節では、ZENworks ファイルにアクセスするための、Novell Open Enterprise Server (OES) サーバの設定ではなく、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) サーバの設定について説明します。OES Linux には Novell eDirectory™ がすでに存在し、Novell Storage Services (NSS) はそのファイルシステムにアクセスできます。したがって、OES Linux サーバに格納されているポリシーまたはアプリケーションファイルは、UNC 形式のパス (`\\OES_server_name/sys/public/...`) を使用できるため、ZENworks ファイルにアクセスするための設定は不要です。

ファイルにアクセスできるように SLES サーバを設定するには、Active Directory\* ドメインまたは eDirectory ツリーから認証情報を取得するように Samba サーバソフトウェアを設定し、サーバ上に Samba 共有を 1 つまたは複数作成する必要があります。これにより、Samba 共有をこのディレクトリで管理できます。

この節では、必要な認証を実行する基本的な方法について説明します。Samba の設定方法は多数あります。詳細については、[Samba Documentation Collection \(http://samba.org/samba/docs/man/\)](http://samba.org/samba/docs/man/) を参照してください。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ 52 ページのセクション 5.1.1 「Active Directory 環境での Linux サーバの設定」
- ◆ 55 ページのセクション 5.1.2 「eDirectory 環境での Linux サーバの設定」

## 5.1.1 Active Directory 環境での Linux サーバの設定

ZENworks Management Server をインストールする SLES 9 または SLES 10 サーバで Active Directory を使用する場合は、ZENworks で使用するために SLES 9 または SLES 10 サーバ上に格納するアプリケーションおよびその他のファイルにディレクトリベースの CIFS でアクセスする必要があります。

---

**重要:** この方法は推奨されませんが、Novell Client™ がインストールされている Windows ワークステーションから、ユーザが OES サーバ/Samba 共有にアクセスできるようになります。ただし、OES サーバ名とは異なる netBIOS 名を提供するように Samba を設定する必要があります。

---

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 52 ページの 「Kerberos を使用するための Samba 設定」
- ◆ 54 ページの 「Samba 共有のセットアップ」

### Kerberos を使用するための Samba 設定

認証に Kerberos\* を使用するように SLES 9 サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 Kerberos (heimdal-lib バージョン 0.6 以降) の設定ファイルを編集して、追加する Active Directory ドメインの名前を指定します。
  - 1a テキストエディタを使用して、Linux サーバ上にある /etc/krb5.conf を開きます。
  - 1b このファイルで次の行を検索します。

```
[libdefaults]
default_realm = YOUR.KERBEROS.REALM
```

```
[realms]
YOUR.KERBEROS.REALMS = {
kdc = your.kerberos.server
}
```

- 1c この行を次のように変更します。

```
[libdefaults]
default_realm = DOMAIN_NAME
```

```
[realms]
DOMAIN_NAME = {
```



```
kdc = wins_name
admin_server = wins_name
kpasswd_server = wins_name
}
```

この例の *DOMAIN\_NAME* 値には、追加する Active Directory ドメインの完全修飾名を指定します (例: RESEARCH.MYLOCATION.DIGITALAIRLINES.COM)。名前を入力するときは、大文字を使用します。

変更後の *kdc* 行および新しく追加した *admin\_server* 行と *kpasswd\_server* 行の *wins\_name* 値には、ドメイン内のプライマリドメインコントローラまたは任意のドメインコントローラを指定します (例: DC1)。

- 2 Samba サーバの設定ファイルを編集して、Active Directory ドメインでのユーザ認証に Kerberos を使用するように指定します。

- 2a テキストエディタを使用して、Linux サーバ上にある `/etc/samba/smb.conf` を開きます。

- 2b ファイルの Global セクションにある次の行を検索します。

```
security = user
```

- 2c 次のようにこの行を変更し、行を追加します。

```
security = ADS
realm = YOUR.KERBEROS.REALM
encrypt passwords = yes
netbios name = advertised_name
```

この例の *YOUR.KERBEROS.REALM* 値には、`krb5.conf` ファイルで指定されているドメイン名を指定します (52 ページのステップ 1c を参照)。

*netbios name* 行の *advertised\_name* 値には、Samba サーバのアドバタイズされたネットワーク名および Active Directory 内でのアドバタイズされたネットワーク名を指定します (例: `myserver_smb`)。

- 3 Active Directory コンテナにサーバの名前を挿入します。

- 3a Linux サーバのコマンドラインに、次のコマンドを入力します。

```
kinit administrator@YOUR.KERBEROS.REALM
```

この例の *YOUR.KERBEROS.REALM* 値には、`krb5.conf` ファイルで指定されているドメイン名を指定します。

- 3b Linux サーバのコマンドラインに、次のコマンドを入力します。

```
net ads join
```

## Samba 共有のセットアップ

Windows ワークステーションが SLES 9 または SLES 10 サーバ上のファイルにアクセスするために、Samba 共有を作成する必要があります。

- 1 テキストエディタを使用して、Linux サーバ上にある `/etc/samba/smb.conf` を開き、ファイルに次の行を追加します。

```
[sharename]
path = local_directory
guest ok = no
read only = no
```

最初の行の `sharename` 値には、Samba 共有のアドバタイズされたネットワーク名を指定します (例: `zenfiles`)。

2 行目の `local_directory` 値には、共有が存在するサーバ上のローカルディレクトリを指定します。

- 2 共有にアクセスするすべてのユーザを 1 つの Linux アカウントにマップします。

**2a** Linux サーバのコマンドラインに、次のコマンドを入力します。

```
/usr/sbin/useradd new_account_name
```

`new_account_name` パラメータには、作成する Linux アカウントの名前を指定します (例: `smbuser`)。

**2b** Linux サーバ上にある `/etc/samba/smbusers` ファイルを検索します。

**2c** ファイルに次の行を追加します。

```
new_account_name = *
```

この行の `new_account_name` 値には、54 ページのステップ 2a で作成したアカウント名を指定します。

- 3 Linux サーバのコマンドラインに次のコマンドを入力して、共有へのパスの所有権を変更します。

```
mkdir -p directory_name
```

```
chown -R Linux_account_name directory_name
```

```
chmod 755 directory_name
```

`directory_name` 値は、54 ページのステップ 1 で指定したローカルディレクトリへのパスを表します。

`Linux_account_name` 値には、54 ページのステップ 2a で割り当てた「新しいアカウント名」を指定します。

- 4 Linux サーバのコマンドラインに次のコマンドを入力して、設定ファイルが新しいパラメータで実行されるように Samba サーバを再起動します。

```
/etc/init.d/smb restart
```

## 5.1.2 eDirectory 環境での Linux サーバの設定

ZENworks Management Server をインストールする SLES 9 または SLES 10 サーバで eDirectory を使用する場合は、ZENworks で使用するために SLES 9 または SLES 10 サーバ上に格納するアプリケーションおよびその他のファイルにディレクトリベースの CIFS でアクセスする必要があります。

この節では、eDirectory 環境内で ZENworks Desktop Management で使用できるように SLES 9 または SLES 10 サーバを設定するために必要な情報について説明します。

- ◆ 55 ページの「LDAP を使用して eDirectory に対する認証を実行するための Linux の設定」
- ◆ 59 ページの「ユーザ用の Samba アカウント情報の作成」
- ◆ 59 ページの「Samba 共有のセットアップ」
- ◆ 60 ページの「SLES 9 サーバ上のワークステーション関連 ZENworks ファイルへのアクセス (オプション A)」
- ◆ 60 ページの「SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ上のワークステーション関連 ZENworks ファイルへのアクセス (オプション B)」
- ◆ 61 ページの「制限付きユーザの定義」

### LDAP を使用して eDirectory に対する認証を実行するための Linux の設定

この節では、LDAP を介して Novell eDirectory への認証リダイレクトを提供するために、SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ (LDAP クライアントとして機能) および Novell eDirectory (LDAP サーバとして機能) を設定するために必要な手順について説明します。ここでは、Novell eDirectory 8.7.3 (以降) が SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバにインストールされていることを前提とします。

サーバの設定が終了すると、どのユーザでも eDirectory アカウント情報を使用して SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバにログインできるようになります。

次の手順を順に実行してください。

1. 55 ページの「Linux アカウント認証のための eDirectory スキーマの拡張」
2. 56 ページの「Samba のための eDirectory スキーマの拡張」
3. 57 ページの「匿名バインドのためのプロキシユーザの作成」
4. 58 ページの「SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ (LDAP クライアント) の設定」
5. 58 ページの「Linux 認証のための eDirectory アカウントの設定」

### Linux アカウント認証のための eDirectory スキーマの拡張

eDirectory 認証のために SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバを設定するには、既存の eDirectory スキーマを拡張する必要があります (OES サーバ上のスキーマは ZENworks のインストールにより拡張されています)。

スキーマの拡張は、`ndsschema` ユーティリティまたは `ICE` ユーティリティを使用して実行できます。この2つのユーティリティは `SLES 9` サーバまたは `SLES 10` サーバ上にあります。これらのユーティリティのコマンドライン構文については、この節で後述します。

---

**重要 :** `ICE` ユーティリティを使用する前に、これから使用する `eDirectory` ツリー内の `LDAP Group` オブジェクトのプロパティを `ConsoleOne` を使用して確認しておく必要があります。

`LDAP Group` オブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[一般] の順にクリックし、[`TLS` にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択を解除します。

---

Linux アカウント認証のために定義されたスキーマは、[RFC 2307 \(http://www.faqs.org/rfcs/rfc2307.html\)](http://www.faqs.org/rfcs/rfc2307.html) で定義されています。Novell では、Novell `eDirectory` スキーマを拡張するために使用する、従来の `eDirectory` スキーマ形式および `Lightweight Data Interchange Format (LDIF)` のスキーマインポートファイルを用意しています。

使用している環境で `eDirectory` スキーマを拡張するには、次の手順に従います。

- 1 `Novell eDirectory` を実行している Linux サーバにルートユーザとしてログインします。
- 2 `bash` プロンプトが表示されたら、「`cd /usr/lib/nds-schema`」と入力します。
- 3 ユーティリティを実行して、スキーマを拡張します。
  - ◆ **`ndsschema` を使用する方法 :** `bash` プロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力してスキーマを拡張します。

```
ndssch cn=admin_name.o=admin_container_name rfc2307-  
usergroup.sch
```

- ◆ **`ICE` を使用する方法 :** `bash` プロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力してスキーマを拡張します。

```
ice -S LDIF -f rfc2307-usergroup.ldif -D LDAP -s localhost -d  
cn=admin_name,o=admin_container_name -W
```

## Samba のための `eDirectory` スキーマの拡張

- 1 `bash` プロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力します。

```
cd /usr/share/doc/packages/samba/examples/LDAP
```

この場所は、`samba-doc` RPM パッケージによって用意されます。代わりに、次のコマンドを使用して、`samba-client` RPM パッケージのスキーマファイルを使用することもできます。

```
cd /usr/share/samba/LDAP
```

- 2 次のコマンドを入力し、`ICE` ユーティリティを使用して `Samba` の `eDirectory` スキーマを拡張します。

```
ice -S LDIF -f samba-nds.schema -D LDAP -s localhost -d
```

```
cn=admin_name,o=admin_container_name -W
```

## 匿名バインドのためのプロキシユーザの作成

匿名バインドのために eDirectory でプロキシユーザをセットアップするには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne で、新しいユーザアカウントを作成して、パスワードを null に設定します。プロンプトが表示されたら、[キャンセル] ではなく [OK] をクリックして、パスワード/プライベートキーを生成します。
- 2 新しいユーザオブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[パスワード制限] の順にクリックして、[パスワード変更許可] の選択を解除します。
- 3 ツリーのルートオブジェクトで、オブジェクトを右クリックして [このオブジェクトのトラスティ割り当て] を選択し、新しいユーザにエントリ参照の権利を付与してから、新しいユーザに次の属性に対するプロパティの読み込みと比較の権利を付与します。

CN

Description

O

OU

Object Class

dc

gecos

gidNumber

homeDirectory

[loginShell]

memberUid

uidNumber

uniqueID

これらの属性を設定する場合に、各属性に対して *Inheritable* が選択されていることを確認します。

- 4 このユーザオブジェクトの属性リストから [すべての属性権] を削除します。
- 5 LDAP Group オブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[一般] の順にクリックして、この新しいユーザをプロキシユーザとして選択します。

---

ヒント : ZENworks 7 Companion 1 CD に収録されているバージョンの ConsoleOne から [一般] タブにアクセスすることはできません。ZENworks Desktop Management を適切に使用するには、Novell ダウンロード Web サイトから [ZENworks 7 Desktop Management snap-ins for ConsoleOne 1.3.6 \(http://download.novell.com/Download?buildid=6kuY0YcDGdc~\)](http://download.novell.com/Download?buildid=6kuY0YcDGdc~) をダウンロードする必要があります。

ダウンロードサイトの指示に従って、スナップインをインストールします。

---

- 6 LDAP サーバオブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[一般] の順にクリックして、[NLDP サーバを即時リフレッシュ] を選択します。

## SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ (LDAP クライアント) の設定

- 1 YaST2 コントロールセンターを起動します。
  - 1a `/sbin/yast2` を実行します。
  - 1b 「menu」と入力します。
- 2 メニューから、`[Network Services (ネットワークサービス)]`、`[LDAP Client (LDAP クライアント)]`、`[Use LDAP (LDAP を使用)]` の順に選択します。

手順 1 と 2 を実行する代わりに、コマンドラインから `/sbin/yast2 ldap` を簡単に実行して、LDAP クライアントの設定ウィンドウを開くこともできます。
- 3 [サーバ] フィールドおよびユーザが配置されている場所の検索ベースに LDAP サーバを追加します。例：  
**Base DN:** `ou=users, ou=novell`  
**Addresses of LDAP Servers:** `127.0.0.1`
- 4 `[LDAP TLS/SSL]` を選択し、`[終了]` をクリックして変更内容を保存します。

## Linux 認証のための eDirectory アカウントの設定

ユーザアカウントに `posixAccount` 補助クラスを追加して必須フィールドを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne で、ユーザアカウントを選択して右クリックします。
- 2 `[このオブジェクトの拡張]` を選択します。
- 3 `[拡張の追加]` をクリックします。
- 4 リストで `[posixAccount]` を選択し、`[OK]` をクリックします。
- 5 `[一般的な編集]` ダイアログボックスで `[OK]` をクリックします。
- 6 新しい `posixAccount` のダイアログボックスで、フィールドに入力します。次の表は、フィールド名、目的、および入力するデータ例を示しています。

フィールド名	目的	例
<code>Name</code>	この拡張の名前	<code>posixAccount</code>
<code>homeDirectory</code>	ユーザのホームディレクトリ	<code>/home/tjones</code>
<code>uniqueID</code>	ユーザの固有 ID	<code>tjones</code>
<code>Common Name</code>	Linux の <code>gecos</code> フィールド	<code>Trevor Jones</code>
<code>gidNumber</code>	Linux の GID	<code>515</code>
<code>uidNumber</code>	Linux の GID	<code>515</code>

ユーザオブジェクトの `[その他]` ページで追加できるその他の必須属性は次のとおりです。

フィールド名	目的	例
<code>[loginShell]</code>	ユーザのシェルを設定します。 <code>loginShell</code> 属性は、適切な X ログインのために SUSE Linux で必須です。	<code>/bin/bash</code>

- 7 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

## ユーザ用の Samba アカウント情報の作成

管理対象ユーザ用の Samba アカウント情報は、標準の Linux アカウント情報とは別に保持されます。ユーザアカウント用の Samba アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。

- 1 SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバで Root としてログインし、bash プロンプトが表示されたら次のコマンドを入力します。

```
smbpasswd -a username
```

この設定では、サーバにログインするユーザはサーバの Samba パスワードを入力するように要求されます。この構文では、*username* は、ユーザの eDirectory ユーザ名です。ユーザは、LDAP クライアントを設定するときに、コンテキスト内でベース DN として指定される必要があります。詳細については、58 ページの「SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ (LDAP クライアント) の設定」を参照してください。

---

注：これは Samba アカウントを作成する基本的な方法です。Linux と Samba の両方のパスワードを 1 つのコマンドで管理するために使用できるユーティリティおよび方法は多数あります。詳細については、[Samba Documentation Collection \(http://samba.org/samba/docs/man/\)](http://samba.org/samba/docs/man/) を参照してください。

---

## Samba 共有のセットアップ

Windows ワークステーションが SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ上のファイルにアクセスするために、Samba 共有を作成する必要があります。

- 1 テキストエディタを使用して、Linux サーバ上にある /etc/samba/smb.conf を開き、ファイルに次の行を追加します。

```
[sharename]
path = local_directory
guest ok = no
read only = no
```

最初の行の *sharename* 値には、Samba 共有のアドバタイズされたネットワーク名を指定します (例: zenfiles)。

2 行目の *local\_directory* 値には、共有が存在するサーバ上のローカルディレクトリを指定します。

- 2 Linux サーバのコマンドラインに次のコマンドを入力して、共有へのパスの所有権を変更します。

```
mkdir -p directory_name

chown -R admin_user_name
```

```
chmod 755 directory_name
```

*admin\_user\_name* 値には、ZENworks でポリシーとアプリケーションを作成するときに使用するユーザ名を指定します。このユーザ名は、Samba 共有へのアクセスに使用されます。

*directory\_name* 値は、**59 ページのステップ 1** で指定したローカルディレクトリへのパスを表します。

- Linux サーバのコマンドラインに次のコマンドを入力して、設定ファイルが新しいパラメータで実行されるように Samba サーバを再起動します。

```
/etc/init.d/smb restart
```

### SLES 9 サーバ上のワークステーション関連 ZENworks ファイルへのアクセス (オプション A)

eDirectory による方法を使用して、SLES 9 サーバ上にあるワークステーション関連のポリシーファイルおよびアプリケーションファイルにアクセスする必要がある場合、Samba 共有は Guest アクセスを許可するように設定されている必要があります。Samba 共有を設定するには、次の手順に従います。

- テキストエディタを使用して、サーバ上にある `/etc/samba/smb.conf` を開きます。
- ファイルの `[sharename]` セクションにある次の行を検索します。

```
guest ok = no
```

*sharename* 値には、Samba 共有のアドバタイズされたネットワーク名を指定します (例: zenfiles)。

- この行を次のように変更します。

```
guest ok = yes
```

### SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ上のワークステーション関連 ZENworks ファイルへのアクセス (オプション B)

Windows Middle Tier Server を使用して、eDirectory による方法で SLES 9 サーバまたは SLES 10 サーバ上のワークステーション関連のポリシーファイルやアプリケーションファイルにアクセスする場合、Samba 共有を Guest アクセスを許可するように設定 (前述の **ステップ 3** を参照) する必要はありません。これらのファイルへのアクセスを許可するには、次の手順に従います。

- インストール中に Middle Tier を作成する際に、Windows Middle Tier Server の共有アカウント情報を入力しておきます。これらの情報は、NSAdmin ユーティリティを使用して Middle Tier 上で設定することもできます (LMAUTH アクセス情報)。
- 同じアクセス情報が Middle Tier Server のローカルに保存されていることを確認します。

ファイアウォールが使用されている場合でも、Middle Tier がワークステーションの代わりに ZENworks ファイルにアクセスできるようになります。



## 制限付きユーザの定義

smb.conf ファイルを変更して、ファイルを変更する権限を制限するユーザを定義できます。制限付きユーザを定義するには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタを使用して、サーバ上にある `/etc/samba/smb.conf` を開きます。
- 2 ファイルの `[sharename]` セクションにある次の行を検索します。  
`read only = no`  
`sharename` 値には、Samba 共有のアドバタイズされたネットワーク名を指定します (例: zenfiles)。
- 3 この行を次のように変更します。  
`read only = yes`
- 4 `bash` プロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力します。  
`write list = admin_user_name`

---

注: `admin_user_name` 値には、Samba 共有でファイルに対する読み込み権のみを持つユーザ名 (またはユーザ名をカンマで区切った一覧) を指定します。

---

## 5.2 Linux インベントリサーバの準備

Linux サーバに ZENworks 7 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントをインストールする場合は、インストールの前に次の作業を実行してください。

- ❑ Samba サーバが稼動していることを確認します。
- ❑ Novell Clientがインストールされていないワークステーションから OES Linux インベントリサーバにスキャンが送信される場合は、OES サーバの名前が DNS 名と同一であることを確認してください。
- ❑ ZENworks 7 インベントリサーバと Novell eDirectory 間の安全な接続を使用する LDAP アクセスが必要な場合は、ZENworks 7 Desktop Management のインストール中に SSL (Secure Socket Layer) を有効にする必要があります。

インストール中に SSL を有効にする前に、ルート認証局証明書をエクスポートする必要があります。証明書をエクスポートするには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne で、eDirectory ツリーを参照して ZENworks インベントリサーバをインストールする Linux サーバの NCP™ サーバオブジェクトのコンテナを検索し、SSL 証明書オブジェクト (SSLCertificateDNS-server\_name) を右クリックして [プロパティ] をクリックします。
- 2 [証明書] タブをクリックして、[ルート認証局証明書] サブオプション、[エクスポート] の順にクリックします。  
[証明書のエクスポート] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [エクスポート] をクリックして、デフォルト設定を選択します。  
証明書のデフォルトのパスとファイル名は `c:\rootcert.der` です。証明書のパスとファイル名は変更できます。
- 4 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

- 5 ZENworks 7 インベントリサーバをインストールする Linux サーバ ( 任意の場所 ) に証明書をコピーします。
- 6 ZENworks 7 Desktop Management Server のインストール中に Linux サーバ上の証明書の場所を指定する必要があるため、その場所をメモします。

インストール中に SSL を有効化する方法の詳細については、317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」の Linux サーバへのすべての ZENworks 機能のインストール、Linux サーバへの Desktop Management Server のみのインストール、または Linux サーバでの ZENworks Desktop Management インストールのカスタマイズを参照してください。

# ZENworks Middle Tier Server のインストール条件

# 6

NetWare® サーバにインストールする場合は、管理者または同等の権利でログインする必要があります。これにより、インストールプログラムが eDirectory™ ツリーと NetWare サーバを参照できるようになります。

Windows 2000 サーバにインストールする場合は、Administrator または同等の権利でログインする必要があります。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ [63 ページのセクション 6.1 「ZENworks Middle Tier Server の制限」](#)
- ◆ [65 ページのセクション 6.2 「ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件」](#)
- ◆ [66 ページのセクション 6.3 「ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件」](#)
- ◆ [68 ページのセクション 6.4 「Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定」](#)
- ◆ [70 ページのセクション 6.5 「Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化」](#)

## 6.1 ZENworks Middle Tier Server の制限

ZENworks Middle Tier Server® をインストールする前に、次の制限に注意する必要があります。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management は、Windows NT\* 4 サーバへの ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management は、アプリケーションモードで実行している Windows ターミナルサーバへの ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。ZENworks Middle Tier Server として機能する Windows ターミナルサーバは、リモート管理モードで実行する必要があります。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management は、Novell Clustering Services™ 環境への ZENworks Middle Tier Server のインストールをサポートしていません。詳細については、[571 ページの付録 B 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」](#) を参照してください。
- ◆ デフォルトでは、Apache Web Server はポート 80 (HTTP) とポート 443 (HTTPS) 上で通信するように設定されています。ただし、Novell iFolder® や iPrint など、他の NetWare 6 コンポーネントが NetWare 6 にすでにインストールされていると、NetWare Port Resolver が Apache 以外の HTTP スタックにポート 80 とポート 443 を割り当てる可能性があります。

Novell iFolder も Apache を使用して稼働します。iFolder 1.3 の Apache サーバがカーネルメモリではなく保護されたメモリスペースにロードされた場合、HTTP スタックの別のインスタンスが作成されます。デスクトップ管理エージェントは、Apache とデスクトップ管理エージェントの両方に対して設定されたポートを使用して ZENworks Middle Tier Server と通信します。ポート設定の詳細については、[68 ページのセク](#)

シヨン 6.4 「Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定」を参照してください。

- ◆ ZENworks 7 Middle Tier Server は、NetWare 6 上でのマルチプロセッサ対応バージョンの Apache Web Server をサポートしません。マルチプロセッサ対応バージョンの Apache を搭載する NetWare 6 に ZENworks Middle Tier Server をインストールすると、サーバは異常終了します。

Middle Tier を NetWare 6.5 以降にインストールする場合は、このような制約はありません。

- ◆ Novell NetStorage は、NetWare 6 上にインストールされた ZENworks 7 Middle Tier Server をサポートしません。NetStorage を Desktop Management 機能として以外にも使用する場合は、NetStorage を別のサーバにインストールすることをお勧めします。
- ◆ Novell NetStorage は、ZENworks 7 Middle Tier Server と共にインストールされます。ZENworks Middle Tier の使用頻度が高く、NetStorage を Desktop Management 機能として以外にも使用する場合は、Middle Tier のパフォーマンス低下を避けるために NetStorage も別のサーバにインストールすることをお勧めします。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバに Novell Client™ をインストールして、同じマシンに Middle Tier Server をインストールした場合、このサーバから Novell Client をアンインストールすると、Middle Tier Server で障害が発生します。Novell Client のアンインストールプログラムを実行すると、ZENworks Middle Tier Server で必要とされる重要なファイルが削除されます。

この同じシナリオで、Novell Client を 4.9 SP2 にアップグレードすると、異なるバージョンの nicm.sys がインストールされます。ZENworks 7 Middle Tier Server に含まれる nicm.sys を使用しないと、Middle Tier Server で障害が発生します。

この問題を回避するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 1) クライアントをアップグレードする前に ZENworks 7 Middle Tier Server に含まれる nicm.sys ファイルを保存し、アップグレード後に再びコピーします (クライアントのアップグレード後に Middle Tier Server を再インストールすることによっても実行できます)。
  - 2) クライアントのアップグレード後に、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10093371 から nicm.sys をダウンロードし、コピーすることにより、更新されたクライアントバージョンの nicm.sys を上書きします。
- ◆ Active Directory (Desktop Management Server がプライマリドメインコントローラとして機能するためにインストール) と eDirectory (ZENworks Desktop Management に対応するためにインストール) の両方がすでにインストールされている Windows 2000/2003 マシンにインストールした Desktop Management Server に対して、ZENworks Middle Tier Server を通して認証を行おうとすると、フルコンテキストでログインしている場合でも、認証に失敗します。

これは、Active Directory と eDirectory の LDAP リスナ間でデフォルトの LDAP ポートが競合することが原因です。このようなポートの競合を回避するには、eDirectory のインストール時にデフォルト以外の LDAP ポートを選択した後、ZENworks Middle Tier Server の NSAdmin ユーティリティを使用して、ZENworks Middle Tier Server がそのポート上で通信するように設定します。

NSAdmin を使用して LDAP ポートを設定するには

- 1 Internet Explorer の [アドレス] ボックスに、NSADMIN ユーティリティの URL を入力します。例：

[http://Middle\\_Tier\\_IP\\_address/oneNet/nsadmin](http://Middle_Tier_IP_address/oneNet/nsadmin)

- LDAP ポート設定パラメータの [値] フィールドに、eDirectory ですすでに設定した LDAP ポートの番号を入力します。このポートは、ZENworks Middle Tier Server が Desktop Management Server との通信に使用するポートです。次に、[Submit (送信)] をクリックします。

## 6.2 ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件

ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールするネットワークサーバに対しては、次のようなハードウェア構成が必要です。

表 6-1 ZENworks Middle Tier Server のハードウェア要件

リソース	ディスクの最低空き容量	最低ハードウェア要件
NetWare 6 サーバ	160MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
NetWare 6.5 サーバ	160MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
Windows 2000 サーバ	160MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
Windows Server 2003	160MB	Pentium III プロセッサ (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
SLES 9 SP1	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 100 ユーザ未満 = 10GB</li><li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 25GB</li></ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
SLES 10	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 100 ユーザ未満 = 10GB</li><li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 25GB</li></ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。
OES (Linux) 1.0	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 100 ユーザ未満 = 10GB</li><li>◆ 100 ~ 500 ユーザ = 25GB</li></ul>	Pentium III プロセッサ 1GHz (最低)、512MB の RAM。同時に実行するユーザ数が 200 人に及ぶ場合は、Pentium III、1GB の RAM を使用します。ユーザ数に応じて RAM を増やしてください。

注：ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアは Windows NT 4 サーバ上ではサポートされません。IIS がインストールされている Windows 2000 Professional ワークステーションでもサポートされません。

SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 のインストールで利用できる 4 つのビルド済みソフトウェア「セット」(*Minimum System*、*Minimum Graphical System*、*Full*、および *Default System* の各インストール)のうち、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしているのは、SLES 9 の *Default System* インストールモードのみです。SLES 9 のインストールに使用する他のすべてのモードでは、ZENworks 7 Desktop Management のインストール後に障害が発生します。

## 6.3 ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件

ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールするネットワークサーバに対しては、次のようなソフトウェア構成が必要です。

表 6-2 ZENworks Middle Tier Server のソフトウェア要件

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
NetWare 6 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ Support Pack 4(最低)</li><li>◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI (Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、<a href="http://download.novell.com">Novell Product Downloads (http://download.novell.com)</a> Web サイトから入手できます。</li><li>◆ eDirectory 8.7.3(必要最低)</li></ul>
NetWare 6.5 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ Support Pack 1(最低)</li><li>◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI (Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、<a href="http://download.novell.com">Novell Product Downloads (http://download.novell.com)</a> Web サイトから入手できます。</li></ul>
Windows 2000 サーバ	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ IIS がインストールされていること (Windows 2000 サーバに付属のバージョン)</li><li>◆ Windows 2000 Server Service Pack 4(最低)</li><li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li><li>◆ Windows 2000 Desktop Management Server に接続する場合は、両方の Windows 2000 サーバが同じ Active Directory ドメインのメンバーであるか、属しているドメイン間に信頼関係が存在する必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布中でなければ、ログインしているワークステーションがドメインのメンバーである必要はありません。ドメイン内にはドメインコントローラとして指定されたサーバが必要です。ドメインコントローラには、ZENworks Middle Tier Server または Desktop Management Server を指定できます。</li><li>◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI (Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、<a href="http://download.novell.com">Novell Product Downloads (http://download.novell.com)</a> Web サイトから入手できます。</li></ul>

プラットフォーム	最低ソフトウェア要件
Windows Server 2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ IIS がインストールされていること (Windows Server 2003 に付属のバージョン)</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> <li>◆ Windows 2003 Desktop Management Server に接続する場合は、両方の Windows Server 2003 のマシンが同じ Active Directory ドメインのメンバーであるか、属しているドメイン間に信頼関係が存在する必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布中でなければ、ログインしているワークステーションがドメインのメンバーである必要はありません。ドメイン内にはドメインコントローラとして指定されたサーバが必要です。ドメインコントローラには、ZENworks Middle Tier Server または Desktop Management Server を指定できます。</li> <li>◆ SSL 接続を使用する場合は、NICI (Novell International Cryptographic Infrastructure) クライアント 2.4.0 がインストールされていること。NICI は、<a href="http://download.novell.com">Novell Product Downloads (http://download.novell.com)</a> Web サイトから入手できます。</li> </ul>
SLES 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 9 Support Pack 1 (最低)</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> </ul>
<p><b>重要 :</b> SLES 9 のインストールで利用できる 4 つのビルド済みソフトウェア「セット」(<i>Minimum System</i>、<i>Minimum Graphical System</i>、<i>Full</i>、および <i>Default System</i> の各インストール)のうち、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしているのは、SLES 9 の <i>Default System</i> インストールモードのみです。SLES 9 のインストールに使用する他のすべてのモードでは、ZENworks 7 Desktop Management のインストール後に障害が発生します。</p>	
SLES 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> </ul>
OES 1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Novell Open Enterprise Server (Linux) 1.0</li> <li>◆ サーバ上に IP プロトコルスタックがバインドされ、使用できる状態であること</li> </ul>

**重要 :** IIS Web サーバのログが正しく設定されていない場合、Middle Tier Server と共に IIS によって使用される Web サイトのログファイル (C:\windows\system32\logfiles\w3svc1\yymmdd.log.log) のサイズが巨大化し、Windows サーバで使用されるディスク容量が許容できないレベルに達する場合があります。

Windows Server 2003 用に Web サイトのログを設定する方法については、Microsoft Knowledgebase Web サイトの [Microsoft Knowledgebase Article 324279 \(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;324279\)](http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;324279) を参照してください。

Middle Tier Server は、myapps.html と呼ばれる Novell Application Explorer の Web ブラウザビューを介して利用できるアプリケーションをホストする場合にも使用されます。myapps.html のインストールの詳細については、169 ページの § 章 13 「Novell Application Launcher プラグインのインストール」を参照してください。myapps.html の構成と使用については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「Novell Application Launcher:

ビューのカスタマイズ」にある「[Application Browser ビューのカスタマイズ](#)」を参照してください。

## 6.4 Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントのポート設定

デスクトップ管理エージェントと Web サーバソフトウェアが ZENworks Middle Tier Server のコンピュータ (NetWare 上の Apache HTTP Server および Windows 上の IIS) にインストールされて同じポート上で通信するようにセットアップされている場合、デスクトップ管理エージェントはワークステーションが企業ファイアウォールの中にあっても外にあっても ZENworks Middle Tier Server と通信できます。

80 番と 443 番のデフォルトポート指定を変更する場合、デフォルト以外の追加ポートを変更するか割り当てる場合、Web サーバのポートに合わせてデスクトップ管理エージェントのポートを変更する場合は、通信ポートの設定方法を知る必要があります。

---

注：設定可能なポートの一覧については、[NetWare 6 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nw6p/index.html) の「*Managing Web Servers and Other Web Tools*」にある「*Getting Results with Novell Web Servers and Tools*」の「*Port Number Assignments*」の付録を参照してください。

---

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ [68 ページのセクション 6.4.1 「NetWare 6.x 上の Apache Web Server のポート設定」](#)
- ◆ [69 ページのセクション 6.4.2 「Linux 上の Apache Web Server のポート設定」](#)
- ◆ [69 ページのセクション 6.4.3 「Windows 上の IIS のポート設定」](#)
- ◆ [69 ページのセクション 6.4.4 「eDirectory 8.7.3 をインストールした Windows 2000 サーバ環境における DHost ポート割り当ての変更」](#)
- ◆ [70 ページのセクション 6.4.5 「デスクトップ管理エージェントのポート設定」](#)

### 6.4.1 NetWare 6.x 上の Apache Web Server のポート設定

NetWare 6.x 上で Apache Web Server のポートを設定するには、`sys:\apache\conf` ディレクトリの `adminsrv.conf` を開いて編集します。現在のポートが割り当てられている行を探します。ポート番号は、変更することも追加することもできます。リッスンに使用される安全なポートにするかどうかも指定できます。安全ではないポートで新しいポートの割り当てを作成する場合は、既存のポートの環境設定行をテンプレートとして使用します。安全なポート (HTTPS) を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。NetWare 6.5 上での Apache 2 のポート設定の詳細については、『*Apache Web Server Administration Guide for NetWare 6.5*』の「[Managing Listening Ports \(http://www.novell.com/documentation/nw65/web\\_apache/data/aichue2.html#aichue2\)](http://www.novell.com/documentation/nw65/web_apache/data/aichue2.html#aichue2)」を参照してください。

Novell Application Launcher® の Web ブラウザビュー (`myapps.html`) を使用する場合は、ポート番号を編集して Apache Web サーバのポートに合わせる必要があります。NetWare 6.x サーバでは、`myapps.html` は `sys:\apache\nwdocs` ディレクトリにあります。



## 6.4.2 Linux 上の Apache Web Server のポート設定

OES Linux サーバ上で Apache Web Server のポートを設定するには、`/etc/init.d/apache2` ディレクトリにある `httpd.conf` を開いて編集します。現在のポートが割り当てられている行を探します。ポート番号は、変更することも追加することもできます。リッスンに使用される安全なポートにするかどうか指定できます。安全ではないポートで新しいポートの割り当てを作成する場合は、既存のポートの環境設定行をテンプレートとして使用します。安全なポート (HTTPS) を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。

SLES 9 SP1 サーバ上で Apache Web Server のポートを設定するには、`/etc/init.d/apache2` ディレクトリにある `listen.conf` を開いて編集します。現在のポートが割り当てられている行を探します。ポート番号は、変更することも追加することもできます。リッスンに使用される安全なポートにするかどうか指定できます。安全ではないポートで新しいポートの割り当てを作成する場合は、既存のポートの環境設定行をテンプレートとして使用します。安全なポート (HTTPS) を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。

Novell Application Launcher の Web ブラウザビュー (`myapps.html`) を使用する場合は、ポート番号を編集して Linux 上の Apache2 Web サーバのポートに合わせる必要があります。`myapps.html` は、`DocumentRoot` (例: `/srv/www/htdocs` ディレクトリ) にあります。Middle Tier Server に Apache2 がインストールされていない場合、`myapps.html` ファイルはインストールされていません。

## 6.4.3 Windows 上の IIS のポート設定

- 1 サーバのデスクトップで [プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックし、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 ZENworks Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties (既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。
- 4 ダイアログボックスの Web サイトページ (デフォルトで開かれるページ) の [TCP ポート] フィールドでポート番号を変更します。安全なポート (HTTPS) を指定するには、ポート 443 を使用する必要があります。

または

Web サイトページで [詳細] をクリックし、画面上の指示に従って複数のポート番号を追加します。

Novell Application Launcher の Web ブラウザビュー (`myapps.html`) を使用する場合は、ポート番号を編集して IIS サーバのポートに合わせる必要があります。Windows サーバでは、`myapps.html` は `c:\inetpub\wwwroot` ディレクトリにあります。

## 6.4.4 eDirectory 8.7.3 をインストールした Windows 2000 サーバ環境における DHost ポート割り当ての変更

Windows 2000 サーバ上で eDirectory 8.7.3 をインストールすると、DHost サービスがポート 80 に設定され、そのポートで起動します。同じ Windows 2000 サーバに ZENworks Middle Tier Server を引き続きインストールすると、IIS Web サーバもポート 80 を使用しようとして、したがって、ポートの競合が発生して次のメッセージが表示されます。

Address already in use.

ZENworks Middle Tier Server は、DHost ポート割り当てがポート 80 以外に変更されない限り起動できません。DHost ポートの割り当てを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ConsoleOne® を開き、eDirectory をインストールしたルートコンテナをダブルクリックします。
- 2 Http Server-*server\_name* のプロパティを開き、[その他] タブをクリックします。
- 3 [その他] ページで *httpDefaultClearPort* をダブルクリックし、80 をダブルクリックしてポート番号を 80 以外のポートに変更します。
- 4 [OK] をクリックして ConsoleOne を閉じ、Windows サーバを再起動します。

### 6.4.5 デスクトップ管理エージェントのポート設定

デフォルトではポート 80 がインストール時に Desktop Management エージェントに割り当てられます。Web サーバのポート (Apache または IIS 上) が変更されている場合や、Web サーバに対してすでに設定されている代替ポートをデスクトップ管理エージェント用に選択する場合は、Web サーバのポート割当を変更します。Desktop Management エージェントのポート番号の割り当て方法については、[147 ページのステップ 8](#) を参照してください。

インストール後にポートが Desktop Management エージェントに割り当てられていても、異なるポートへの接続を指定することができます。詳細については、[196 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」](#) を参照してください。

## 6.5 Middle Tier Server のための Apache Web Server の最適化

NetWare 上の ZENworks Middle Tier Server のパフォーマンスを最適化するには、Apache Web Server の `ThreadsPerChild` 設定パラメータをデフォルトの 50 から 512 に変更する必要があります。

NetWare 6.x 上の Apache Web Server を最適化するには、`adminserv.conf` の `ThreadsPerChild` パラメータを編集する必要があります。このファイルは、`sys:\apache\conf` フォルダにあります。ファイル内の設定パラメータの最初のいくつかは次のようになっています。

```
ServerType standalone
ServerRoot "sys:/apache"
PidFile logs/httpd.pid
ScoreBoardFile logs/apache_status
Timeout 300
KeepAlive On
MaxKeepAliveRequests 100
KeepAliveTimeout 15
ThreadsPerChild 50
```

`ThreadsPerChild` パラメータの値を 50 から 512 に変更します。

# ユーザワークステーションの要件

Novell® ZENworks® Desktop Management は「クライアントを使用しない」環境で動作するように設計されています。つまり、エンドユーザのワークステーションは、Desktop Management Server ソフトウェアと通信するために Novell Client™ に依存する必要はありません。

これは、Novell Client があってはならないということではありません。実際、ZENworks Desktop Management の新しいワークステーション機能が Desktop Management エージェントと一緒にインストールされている場合でも、ユーザは Novell Client (バージョン 3.34/4.9 以降) を使用することができます。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 71 ページのセクション 7.1 「サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス」
- ◆ 71 ページのセクション 7.2 「ユーザワークステーションのハードウェア要件」
- ◆ 72 ページのセクション 7.3 「ユーザワークステーションのソフトウェア要件」

Desktop Management エージェントソフトウェアをデスクトップマシンにインストールする詳細については、143 ページの「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」を参照してください。

## 7.1 サポートされるワークステーションプラットフォームとデバイス

ZENworks Desktop Management は、次のデスクトッププラットフォームを管理できるよう広範囲にわたってテストされています。

- ◆ Windows 2000 Professional、Service Pack 4 適用済み
- ◆ Windows XP Professional、Service Pack 1 適用済み (最低要件)
- ◆ Windows 98 SE

これらのプラットフォームの他に、ZENworks 7 Desktop Management は、Windows XP Tablet PC Edition を搭載したタブレット PC にポリシーやアプリケーションを配布できます。

## 7.2 ユーザワークステーションのハードウェア要件

ZENworks Desktop Management の機能や性能を最大限に活用するためには、デスクトップ管理エージェントをインストールする ZENworks Desktop Management 管理対象ワークステーションのデスクトップコンピュータに、少なくとも次の処理速度、ディスク容量、および RAM が必要です。

表 7-1 ユーザワークステーションのハードウェア要件

リソース	ディスクの最低空き容量	最低ハードウェア要件
ユーザワークステーション (デスクトップ管理エージェントの完全インストール)	20MB	Pentium 互換プロセッサ (32 ビットのみ)、200MHz、128MB の RAM

**重要 :** ZENworks Desktop Management は、NEC\* 9800 シリーズのパーソナルコンピュータ (PC98) ではサポートされていません。

起動前サービスをインストールするワークステーションには、次のハードウェアが必要です。

表 7-2 ZENworks 起動前サービスをインストールするユーザワークステーションのハードウェア要件

仕様	最低要件
プロセッサ	Pentium、75MHz 以上。
ネットワークカード	PXE 対応 (ネットワークカードを PXE 対応にできない場合は、PXE-on-Disk ブートディスクを使用すればワークステーションを起動できます)。
使用可能な空き容量	必要なし。
RAM	16MB。ワークステーションでワークステーションイメージングを使用する場合は 128MB を推奨。
グラフィックディスプレイ	VGA (16 ビットカラー)。

起動前サービスをインストールする前に、起動前サービスをインストールするサーバか、同じネットワーク内の別のサーバに標準の DHCP サーバをインストールする必要があります。

標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上に起動前サービス (特にプロキシ DHCP コンポーネント) をインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“NetWare 6.x DHCP Server”および“Windows 2000 Advanced Server”を参照してください。

## 7.3 ユーザワークステーションのソフトウェア要件

Desktop Management エージェントを適切に動作させるには、ユーザワークステーションにいくつかのソフトウェアをインストールしておく必要があります。次の表は、それらのソフトウェアの一覧を示しています。

表 7-3 ユーザワークステーションのソフトウェア要件

必要なソフトウェア	構成の詳細
Internet Explorer	バージョン 5.5 SP2 以降、高度なセキュリティ (128 ビット以上) 暗号化が必要です。Desktop Management エージェントは、Internet Explorer に組み込まれているセキュリティとインターネットアクセス制御を使用します。
MSI (Microsoft Windows Installer)	Windows 2000 に付属のバージョン 1.11 以降が必要です。 Desktop Management エージェントのインストールプログラムによって、自動的に MSI 1.2 がインストールされます。MSI 2.0 は、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD の \microsoft windows installer フォルダから入手できます。

注 : ZENworks デスクトップ管理エージェントがインストールされているマシンで Novell Client を使用する場合は、バージョン 4.9 SP1a (以降) のクライアントが ZENworks 7 Desktop Management でテストされていることを確認しておく必要があります。



# 管理ワークステーションまたはサーバの準備

# 8

Novell eDirectory™ で Novell® ZENworks® Desktop Management オブジェクトを表示、管理、または作成するには、ConsoleOne® を使用する必要があります。ConsoleOne は、認証先の Windows または NetWare® サーバ、または eDirectory が実行されているサーバにマップできるローカル Windows ワークステーションでインストールおよび実行できる Java ベースのグラフィカルインタフェース管理ツールです。ConsoleOne では、認証先ツリー内の ZENworks の eDirectory オブジェクト (ワークステーションオブジェクト、アプリケーションオブジェクト、ポリシー、データベースオブジェクト) およびネットワークリソース (スキーマ、パーティション、レプリカ) を表示できます。

Desktop Management Server をインストールすると、ワークステーション、アプリケーション、データベース、ポリシーパッケージなどの Desktop Management 固有のディレクトリオブジェクトを含むように、eDirectory スキーマを拡張できます。これらのオブジェクトは、選択した 1 つまたは複数のサーバの \consoleone ディレクトリに .jar ファイルとしてインストールされます。

ZENworks 7 Desktop Management のいずれかのコンポーネントを設定する場合は、ConsoleOne を使用してそのコンポーネントが関連付けられたオブジェクトを確認し、ConsoleOne 「スナップイン」 (オブジェクトプロパティのタブまたは設定ページとして表示されます) を使用して必要な調整を行う必要があります。

この節では、ZENworks 7 Desktop Management を管理するコンピュータ (Windows サーバまたはワークステーション) にインストールする必要があるプログラムについて説明します。

- ◆ 75 ページのセクション 8.1 「Novell Client のインストール」
- ◆ 76 ページのセクション 8.2 「ConsoleOne のインストール」
- ◆ 77 ページのセクション 8.3 「ConsoleOne スナップインのインストール」

---

注 : Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは 1 つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

---

## 8.1 Novell Client のインストール

Novell Client™ は、ConsoleOne を実行して ZENworks を管理する Windows ワークステーションまたはサーバにインストールする必要があります。これは、ConsoleOne がクライアントの NetWare ライブラリに依存するためです。詳細については、Novell Product Documentation Web サイトで、『ConsoleOne 1.3x User Guide ([http://www.novell.com/documentation/lg/consol13/index.html?page=/documentation/lg/consol13/c1\\_enu/data/hk42s9ot.html](http://www.novell.com/documentation/lg/consol13/index.html?page=/documentation/lg/consol13/c1_enu/data/hk42s9ot.html))』を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management を使用している場合、Novell Client のインストールプログラムは *ZENworks 7 Companion 1* CD に収録されています。Novell Client のインストール手順と機能の詳細については、[Novell Product Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/a-z.html\)](http://www.novell.com/documentation/a-z.html) を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 を使用している場合は、Novell ダウンロード Web サイトから Novell Client をダウンロードする必要があります。

## 8.2 ConsoleOne のインストール

ZENworks 7 コンポーネントの管理には ConsoleOne 1.3.6 が必要です。*ZENworks 7 Companion 1* CD に収録されている ConsoleOne インストールプログラムを使用して、選択した Windows ワークステーションのローカルハードドライブまたは Windows/NetWare サーバに ConsoleOne ファイルをインストールできます (これらのサーバが最低要件を満たしている場合)。

---

注 : ZENworks 7 Desktop Management は、Linux サーバまたはデスクトップにインストールされている ConsoleOne 1.3.6d ではテストされていません。ZENworks スナップインは、Windows で使用する目的で設計されています。

ZENworks 7 Desktop Management を Windows サーバにインストールして同じサーバから管理する場合の問題は確認されていません。

---

ZENworks 7 with Support Pack 1 コンポーネントの管理には、ConsoleOne 1.3.6e をお勧めします。*ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1* CD に収録されている ConsoleOne インストールプログラムを使用して、選択した Windows ワークステーションのローカルハードドライブまたは Windows/NetWare サーバに ConsoleOne ファイルをインストールできます (これらのサーバが最低要件を満たしている場合)。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 76 ページのセクション 8.2.1「NetWare サーバに ConsoleOne をインストールする際の注意事項」
- ◆ 77 ページのセクション 8.2.2「ローカルワークステーションのハードドライブに ConsoleOne をインストールする際の注意事項」

### 8.2.1 NetWare サーバに ConsoleOne をインストールする際の注意事項

NetWare サーバに ConsoleOne 1.3.6 (または 1.3.6e) をインストールする場合、次の事項に注意する必要があります。

- ◆ インストールパスは、UNC パスではなく、マップされたドライブ文字で指定します。
- ◆ NetWare サーバボリュームで ConsoleOne をインストールまたは更新する場合、インストールプログラムにより、ConsoleOne ファイルは自動的にそのボリュームの `public\mgmt\consoleone\1.2` ディレクトリにインストールされます。これは、ドライブがそのボリュームのルートにマップされていることが前提とされるためです。
- ◆ ConsoleOne のインストールディレクトリは 1.2 という名前ですが、これは誤解を招きやすいかもしれません。インストールディレクトリ名と ConsoleOne のバージョンに



は関係はありません。ZENworks 7 Desktop Management の ConsoleOne のバージョンは 1.3.6 です。

- ◆ ボリュームのサブフォルダのルートにドライブをマップする場合、インストールプログラムにより、デフォルトのパスが作成され、ルートにマップされたパスに追加されます。これによって、インストールされているスナップイン (Desktop Management のスナップインなど) は ConsoleOne に無視されます。これは、スナップインは ConsoleOne が実行されているパスにインストールされないためです。
- ◆ ZENworks スナップインは、NetWare サーバコンソールに適切にロードしません。Desktop Management スナップインを管理するための ConsoleOne の実行にサーバコンソールを使用しないことをお勧めします。その代わりに、ConsoleOne をローカル Windows ワークステーションにインストールして実行するか、管理ワークステーション (Windows ワークステーション) のショートカットを使用して ConsoleOne をインストールしたネットワークサーバから起動します。

## 8.2.2 ローカルワークステーションのハードドライブに ConsoleOne をインストールする際の注意事項

ConsoleOne のインストールプログラムにより、ローカル Windows ワークステーションのハードドライブに ConsoleOne ファイルをインストールできますが、このインストールでは ZENworks 7 Desktop Management (または SP1) のスナップインはインストールされません。ローカル管理ワークステーションで ZENworks を管理するには、ConsoleOne をインストールした後でスナップインをインストールする必要があります。詳細については、77 ページのセクション 8.3 「ConsoleOne スナップインのインストール」を参照してください。

## 8.3 ConsoleOne スナップインのインストール

NetWare または Windows サーバに ZENworks Desktop Management Server をインストールすると、デフォルトで ZENworks Desktop Management スナップインは適切な場所にインストールされます。Linux サーバ (OES または SLES 9 サーバ) に Desktop Management Server をインストールすると、ConsoleOne も ZENworks スナップインもサーバにインストールされません。ZENworks Desktop Management を管理するローカル Windows ワークステーションのハードドライブに ConsoleOne をインストールする必要があります。

ConsoleOne のインストール後、スナップインは ZENworks 7 Companion 2 CD または [Novell Download Web ページ \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) から入手できます。この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 78 ページのセクション 8.3.1 「スナップインのダウンロード」
- ◆ 78 ページのセクション 8.3.2 「スナップインのコピー」
- ◆ 78 ページのセクション 8.3.3 「スナップインのインストール」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されません。

---

### 8.3.1 スナップインのダウンロード

ローカル Windows ワークステーション上の ConsoleOne に ZENworks 7 Desktop Management スナップインをインストールする場合、[Novell Download Web ページ \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からスナップインをダウンロードするには、次の手順に従います。

- 1 78 ページのセクション 8.3.3 「スナップインのインストール」を読んでから、ZENworks 7 Desktop Management スナップイン .zip ファイルをダウンロードします。
- 2 .zip ファイルをダウンロードするために、ローカルワークステーションに一時ディレクトリを作成します。
- 3 Novell ZENworks 7 Desktop Management スナップインのダウンロードページで、*[Proceed to Download (ダウンロードする)]* をクリックします。
- 4 画面の指示に従って、目的の .zip ファイルをダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。

これで、ZENworks 7 Desktop Management スナップインを ConsoleOne にインストールする準備ができました。78 ページのセクション 8.3.3 「スナップインのインストール」に進みます。

### 8.3.2 スナップインのコピー

ConsoleOne に ZENworks 7 Desktop Management スナップインをインストールする場合、ZENworks 7 Companion 2 CD からスナップインをコピーするには、次の手順に従います。

- 1 78 ページのセクション 8.3.3 「スナップインのインストール」を読んでから、ZENworks 7 Desktop Management スナップイン .zip ファイルをコピーします。
- 2 .zip ファイルをダウンロードするために、ローカルワークステーションに一時ディレクトリを作成します。
- 3 一時ディレクトリにスナップイン .zip ファイルをコピーします。

これで、ZENworks 7 Desktop Management スナップインを ConsoleOne にインストールする準備ができました。78 ページのセクション 8.3.3 「スナップインのインストール」に進みます。

### 8.3.3 スナップインのインストール

スナップイン .zip ファイルをダウンロードまたはコピーした一時ディレクトリから ZENworks 7 Desktop Management スナップインをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 78 ページのセクション 8.3.1 「スナップインのダウンロード」または 78 ページのセクション 8.3.2 「スナップインのコピー」を実行します。
- 2 更新する ConsoleOne のインスタンスが実行されていないことを確認します。
- 3 WinZip でスナップイン .zip ファイルを開き、ワークステーション上の ConsoleOne がインストールされているディレクトリを参照し、そのディレクトリにファイルを解凍します。

デフォルトでは、ConsoleOne は ...\\consoleone\1.2 ディレクトリにインストールされます。.zip ファイルの解凍場所を指定するときに、パスの \1.2 の部分を省略しないようにしてください。

---

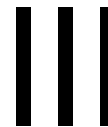
**重要：**スナップイン .zip ファイルは *ConsoleOne\_installation* ディレクトリに解凍する必要があります。このディレクトリに解凍しないと、スナップインは誤ったディレクトリ構造にコピーされ、機能しません。たとえば、...\consoleone\1.2 以外の別のディレクトリに **ConsoleOne** をインストールしてしまう場合があります。

---

- 4 インストール先のディレクトリにある同じ名前の既存ファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されたら、ファイルの日付に関係なく、[すべてはい]を選択します。
- 5 更新する **ConsoleOne** のすべてのインスタンスに対して手順 2 から 4 を繰り返します。



# Windows ベースのインストール



Novell® ZENworks® 7 Desktop Management は、Windows サーバ、Novell NetWare® サーバ、および Novell Open Enterprise Server (OES) または SUSE® Open Enterprise Server (SLES) 9 (Linux) サーバにインストールできます。Windows または NetWare サーバにインストールする場合には、Windows ベースのインストールプログラムを使用します。この節には、次の Windows ベースのインストールプログラムについての情報が含まれています。

- ◆ **Desktop Management Server:** このソフトウェアにより、Windows ネットワーク、NetWare ネットワーク、または混在ネットワーク上のユーザとワークステーションのポリシーおよびプロファイルを一元的に作成し管理できます。このポリシーおよびプロファイルにより、ネットワーク内の Windows ワークステーションへのアプリケーションの配布、管理、更新のほか、高度なインベントリ管理機能とリモート管理機能の実行、およびオペレーティングシステムの自動インストールが可能になります。
- ◆ **ZENworks Middle Tier Server:** NetWare または Windows サーバ上にインストールされた Web Server ソフトウェアを使用して企業ファイアウォール内の Desktop Management Server と企業ファイアウォール外のワークステーション間の認証と通信をセットアップします。このような通信によりモバイルユーザが旅行中にデスクトップ管理サービスにアクセスできるようになります。Novell Client™ がいないワークステーションの通信も可能です。
- ◆ **デスクトップ管理エージェント:** このソフトウェアには、ワークステーションのリモート制御、アプリケーションの受信、またはワークステーションへのポリシー送信に必要な機能が含まれています。このソフトウェアにより、ワークステーションが従来の Novell Client を使用せずに、ZENworks Middle Tier Server を通して Desktop Management Server への認証を実行することも可能になります。

ZENworks Desktop Management コンポーネントが提供するワークステーションの機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールした場合のみ利用できます。このことは、現在ワークステーションに Novell Client をインストールしている場合にも当てはまります。デスクトップ管理エージェントをインストールすると、Novell Client がインストールした Desktop Management の機能が削除され、選択した ZENworks ワークステーションの機能に置き換えられます。

---

注：ZENworks 7 Desktop Management ソフトウェアは、Windows ワークステーションだけを管理します。Linux ワークステーションの管理の詳細については、『[Novell ZENworks 7 Linux Management インストールガイド](#)』または『[Novell ZENworks 7 Linux Management 管理ガイド](#)』を参照してください。

---

- ◆ **Novell Application Launcher プラグイン:** (オプション) Novell Application Launcher™ の単純化バージョン (デスクトップ管理エージェントといっしょにインストール) できます。Middle Tier Server からインストールでき、ユーザにアプリケーションを配布できるようにします。
- ◆ **ZENworks Launch ガジェット:** (オプション) このソフトウェアにより、ユーザは Novell exteNd Director™ 4.1 SE ポータルからアプリケーションを起動できます。

コンポーネントを Windows または NetWare または Windows/NetWare 混在ネットワーク環境にインストールする場合、次の節に記載された情報が参考になります。

- ◆ [83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)

- ◆ 113 ページの § 章 10 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」
- ◆ 137 ページの § 章 11 「Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール」
- ◆ 143 ページの § 章 12 「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」
- ◆ 169 ページの § 章 13 「Novell Application Launcher プラグインのインストール」
- ◆ 177 ページの § 章 14 「ZENworks Launch ガジェットインストール」
- ◆ 181 ページの § 章 15 「ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定」
- ◆ 193 ページの § 章 16 「認証のセットアップ」
- ◆ 201 ページの § 章 17 「Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定」
- ◆ 211 ページの § 章 18 「Windows ネットワーク環境でのインストール」

この節には、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 (SP1) についての情報も含まれています。SP1 の準備の詳細については、477 ページの § 章 33 「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項」または 479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」を参照してください。

ZENworks Desktop Management の他のバージョンから ZENworks 7 Desktop Management with SP1 にアップグレードする場合の考慮点についての詳細は、381 ページのパート VI 「アップグレード」を参照してください。

ZENworks 7 デスクトップ管理サービスの Linux サーバへのインストールの詳細については、317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の OES Linux クラスタへのインストールの詳細については、595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」を参照してください。

# ZENworks Desktop Management Server のインストール

# 9

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 83 ページのセクション 9.1 「Desktop Management Server のインストール手順」
- ◆ 97 ページのセクション 9.2 「SP1 Desktop Management Server のインストール」
- ◆ 112 ページのセクション 9.3 「インストールの確認」

## 9.1 Desktop Management Server のインストール 手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (35 ページの **パート II 「準備」** を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、Novell® ZENworks® Desktop Management Server をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

---

**重要 :** Desktop Management Server のインストールが完了したら、Windows、NetWare、および Linux サーバに必要なインストール後の作業を完了していることを確認します。詳細については、**365 ページのパート V 「インストール後」** を参照してください。

---

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Desktop Management Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、**37 ページの 「インストールを実行するワークステーションの前提条件」** を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

---

**重要 :** インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

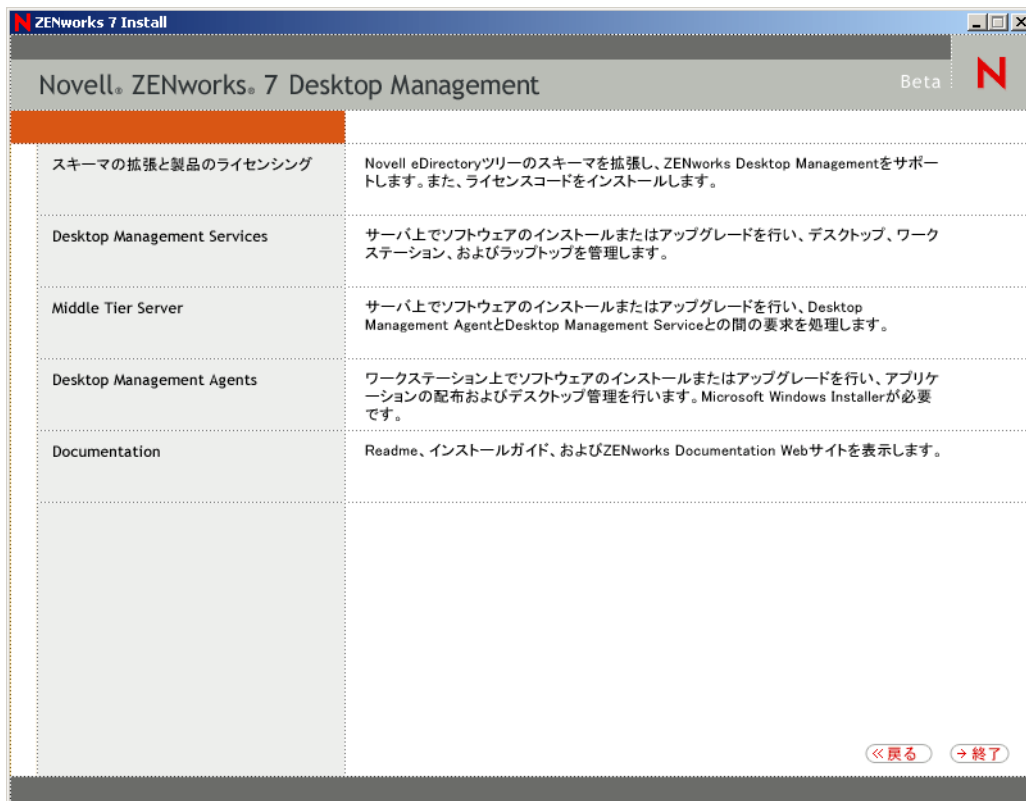
---

Novell® ZENworks® 7		Beta	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。



- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



このページから、実際に新しいデスクトップ管理製品をインストールする前にスキーマを拡張したり、インストール手順の一部としてスキーマを拡張することができます。

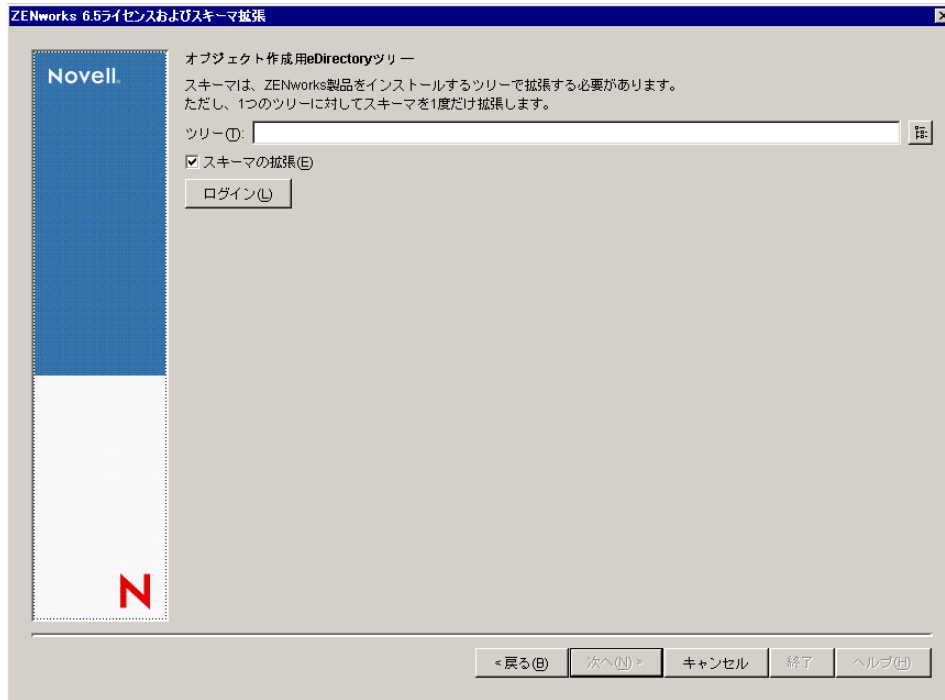
- 85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」
- 87 ページのセクション 9.1.2 「完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行」

### 9.1.1 インストール前のスキーマの拡張

Desktop Management Server をインストールするネットワーク環境が大規模なツリーの場合、新しい Desktop Management 製品を実際にインストールする前に、スキーマを拡張して、Novell eDirectory™ ツリーを安定させることができます。最初にスキーマを拡張するには、次の手順に従います。

- 1 [Schema Extension and Product Licensing (スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択し、ZENworks Desktop Management スキーマの拡張と製品のライセンス契約ウィザードを起動します。
- 2 ライセンス契約の条項に同意して [次へ] をクリックしたら、ウィザードの [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ページで、ZENworks Desktop Management スキーマ

マの拡張を追加する eDirectory ツリーの名前を参照または入力します。[スキーマの拡張] を選択し、[次へ] をクリックします。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

スキーマの拡張操作に要する時間は、ツリーのサイズと複雑さによって異なります。

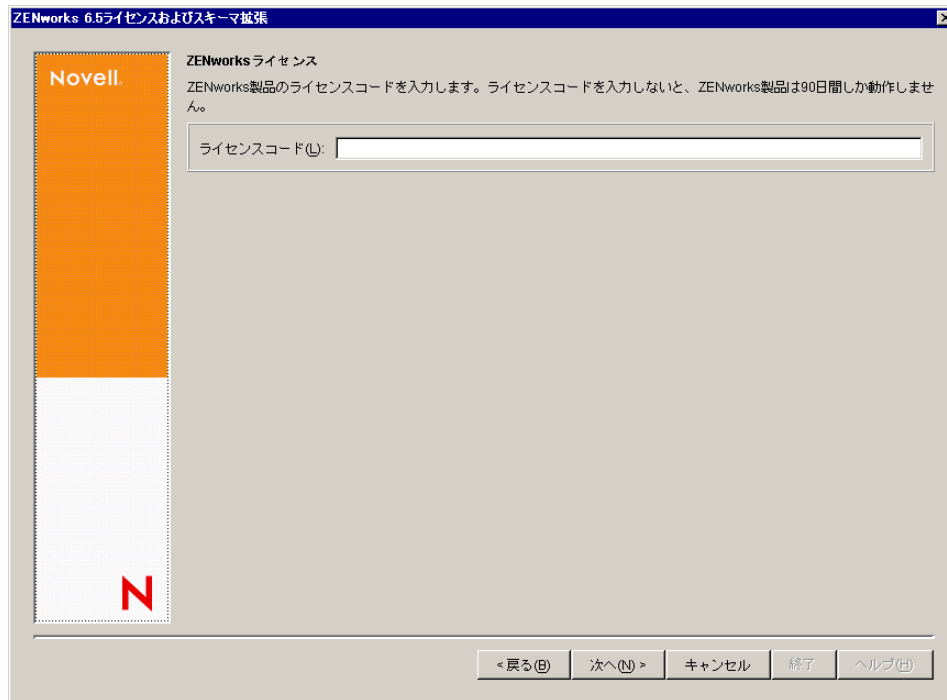
Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは1つだけです。

Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 3 [ZENworks ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。

このページでライセンスコードを入力しなければ、この ZENworks Desktop Management のインストールは評価版と見なされます。評価用にインストールした場

合は、製品のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。



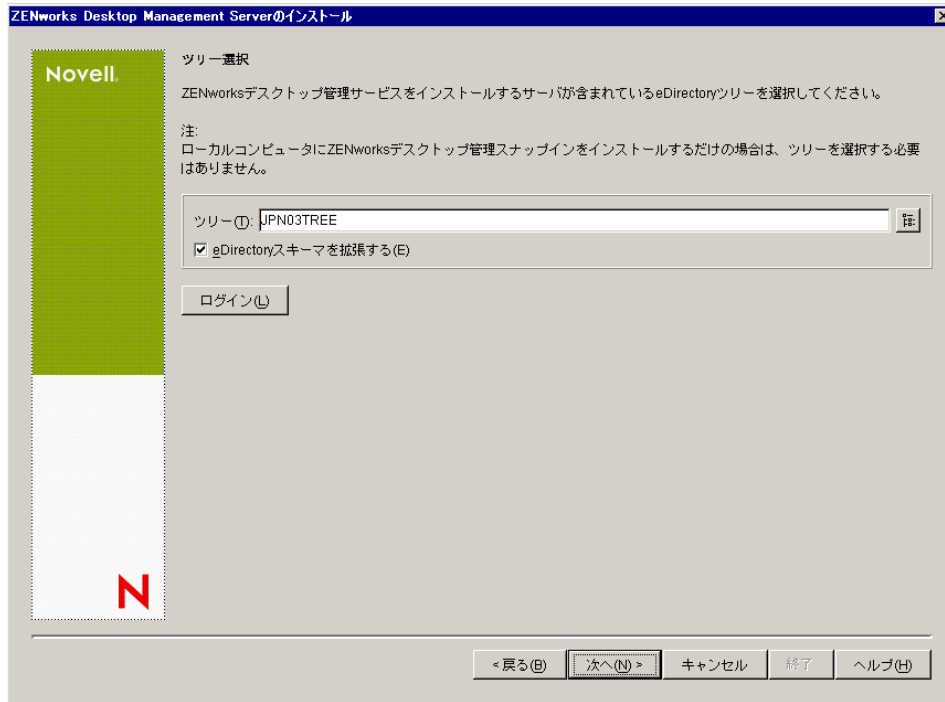
スキーマの拡張操作が完了すると、c:\novell\zfdtemp\zwextsch.log に保存されるログファイルを確認できます。

## 9.1.2 完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行

スキーマの拡張後に Desktop Management Server ソフトウェアをインストールする場合、またはインストールの一部としてツリーのスキーマを拡張する場合は、次の手順に従います。

- 1 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 2 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 3 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 4 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 5 [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server をインストールする Novell eDirectory ツリーの名前を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張します。[次へ] をクリックします。

Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。

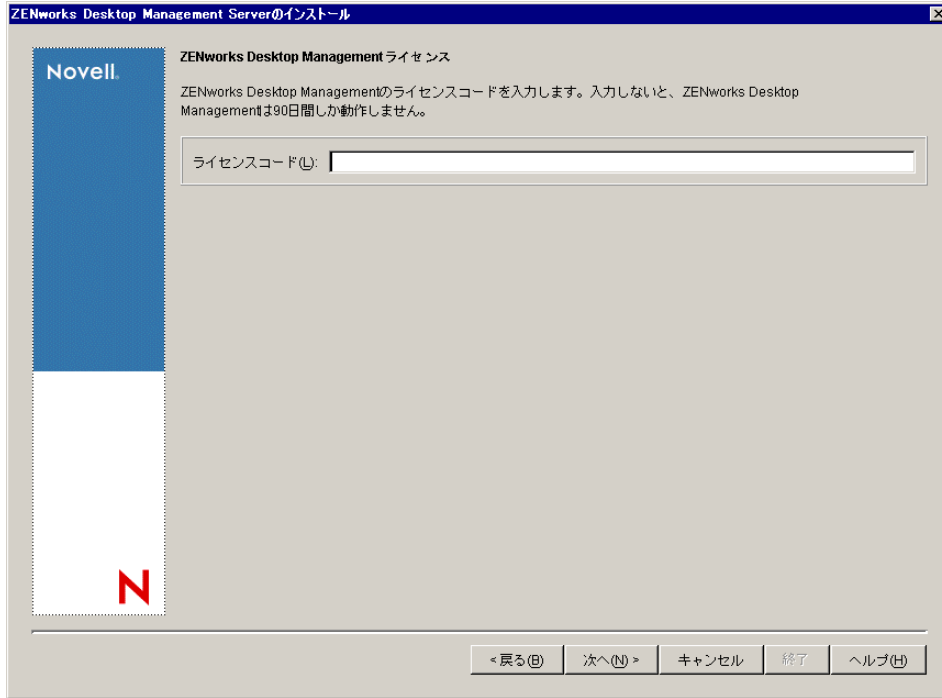


ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは1つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

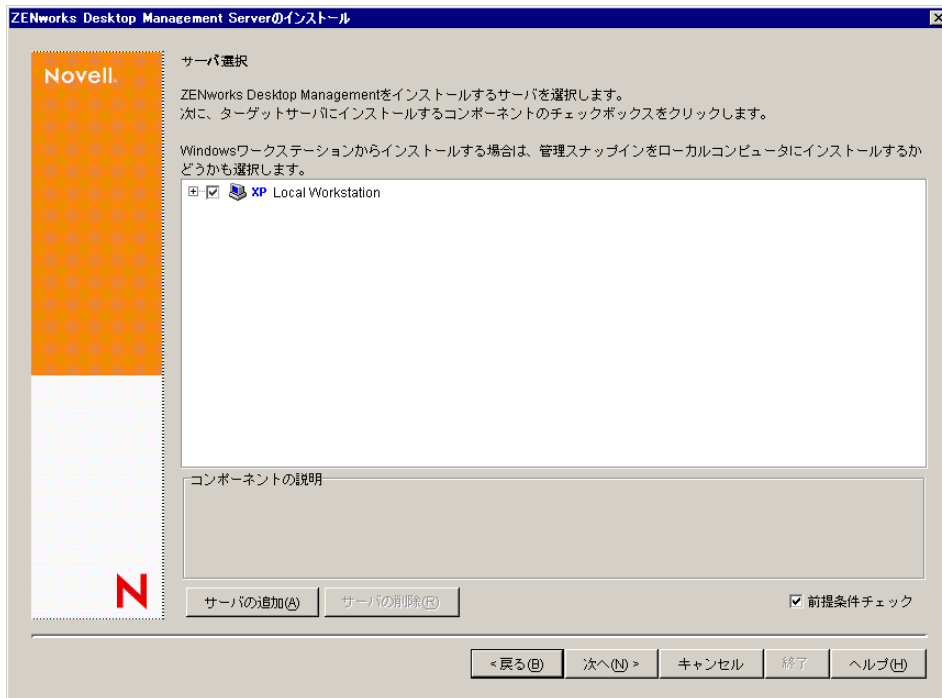
- 6 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。  
このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価用にインストールした場合は、製品

のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。



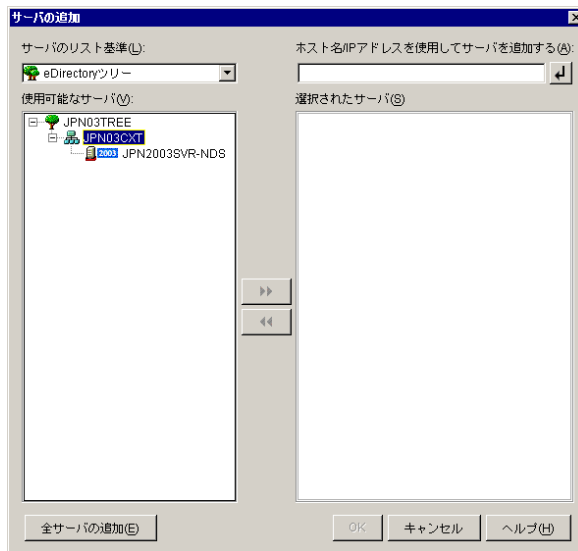
7 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバの名前を参照します。

ステップ 5 で選択したツリーからのみサーバを選択できます。1 度に最大 7 つのサーバにインストールできます。



- 7a** (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先のサーバの名前を参照してクリックするか、[全サーバの追加] をクリックしてコンテナ内のすべてのサーバを選択します。右方向矢印ボタンをクリックして、選択したサーバを [選択されたサーバ] ページに移動し、[OK] をクリックします。

認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。



- 7b** (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決する必要があります。
- サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる [↓] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- 8** この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション] : ConsoleOne® 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法では Desktop Management サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (Desktop Management サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションに Desktop Management サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス] : Desktop Management サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。デスクトップ

ブ管理サービスを使用すると、Windows のアプリケーション、ユーザとワークステーションの設定、プロセス、および動作を自動的に管理できます。

- ◆ [アプリケーション管理] : アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [ワークステーション管理共通コンポーネント] : ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [リモート管理] : 中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前の Remote Management コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション] : デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ [デスクトップ管理データベース] : 発生したアプリケーションのイベント (インストール、起動、キャッシュなど) に関するデータのレポジトリとして、Novell Application Launcher™ で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [インベントリデータベース] : インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のレポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要:** インベントリデータベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「インベントリデータベースのセットアップ」の手順に従ってください。

---

- ◆ [インベントリサーバ] : 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードする必要があります。

- ◆ [インベントリプロキシサーバ] : このオプションを選択すると、ネットワークファイアウォールを経由してインベントリスキャンデータをインベントリサーバにロールアップするためのプロキシサーバがインストールされます。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ [イメージングサーバ] : ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。  
イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。
- ◆ [PXE サーバ] : Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにす

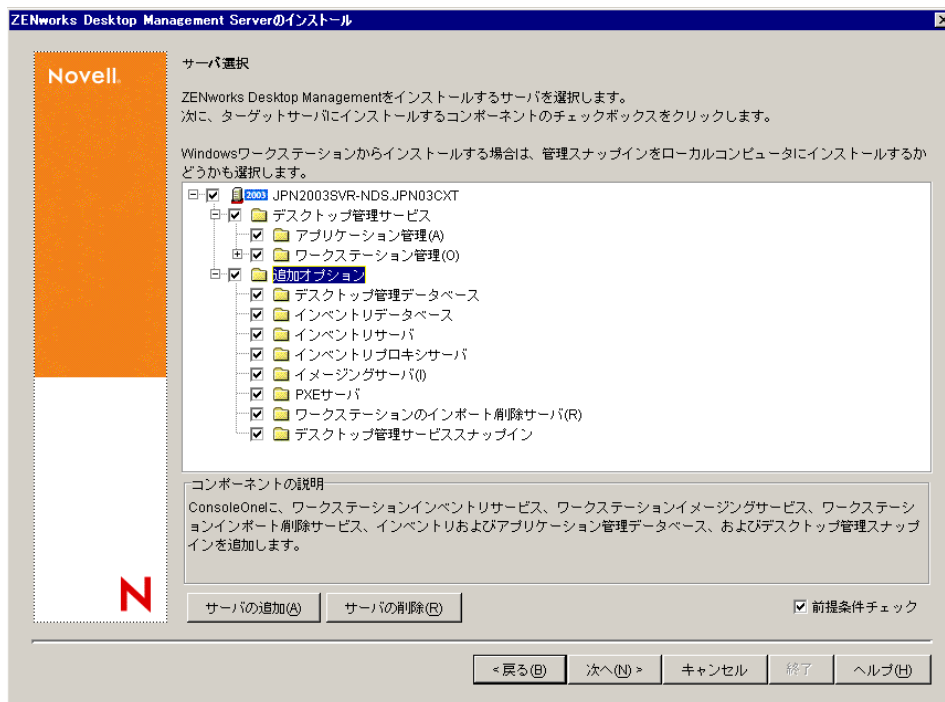
るために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービス (Preboot Services) をインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

- ◆ [ワークステーションインポート / 削除サーバ] : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ [デスクトップ管理サービススナップイン] : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

「カスタム選択」を実行するには、1つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容を最初の状態に戻すことができます。[カスタム選択] を選択すると、別のダイアログボックスが表示され、選択したすべてのサーバに追加するコンポーネントを指定できます。カスタム選択の内容は、前回までに選択したいずれの内容よりも優先されます。



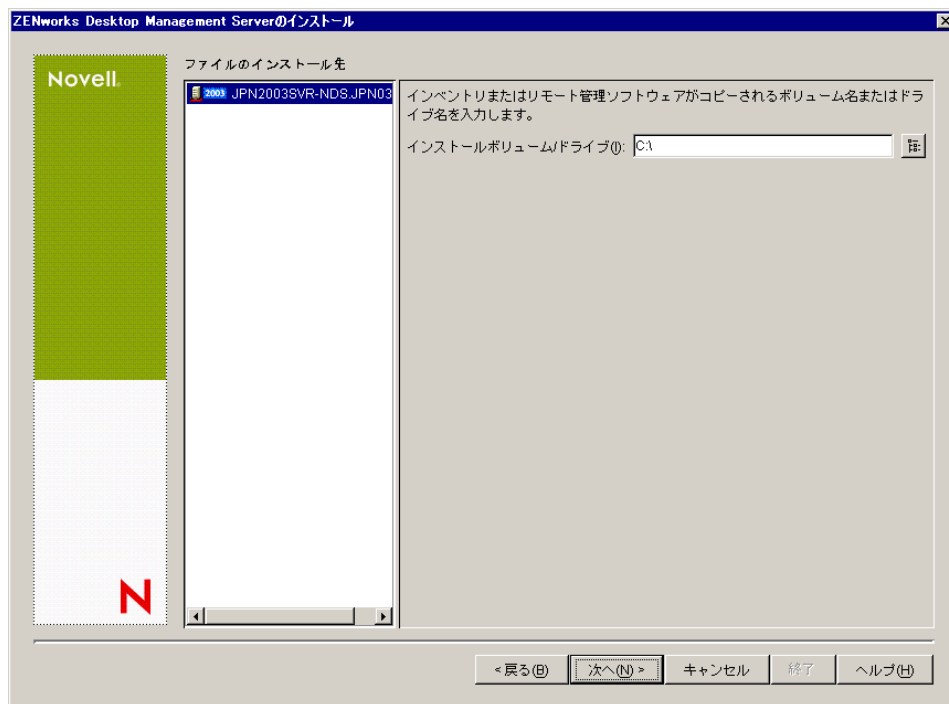


- 9 (オプション) デフォルトでは、[前提条件チェック] チェックボックスが選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存します。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 10 (Workstation Inventory または Remote Management が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1つまたは複数のターゲットサーバを選択し、Workstation Inventory、または Remote Management の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。デフォルトのインストール先は、Novell NetWare の場合は SYS:、Windows サーバの場合は C: を指定します。

ZENworks 7 のワークステーションインベントリまたは Remote Management コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。

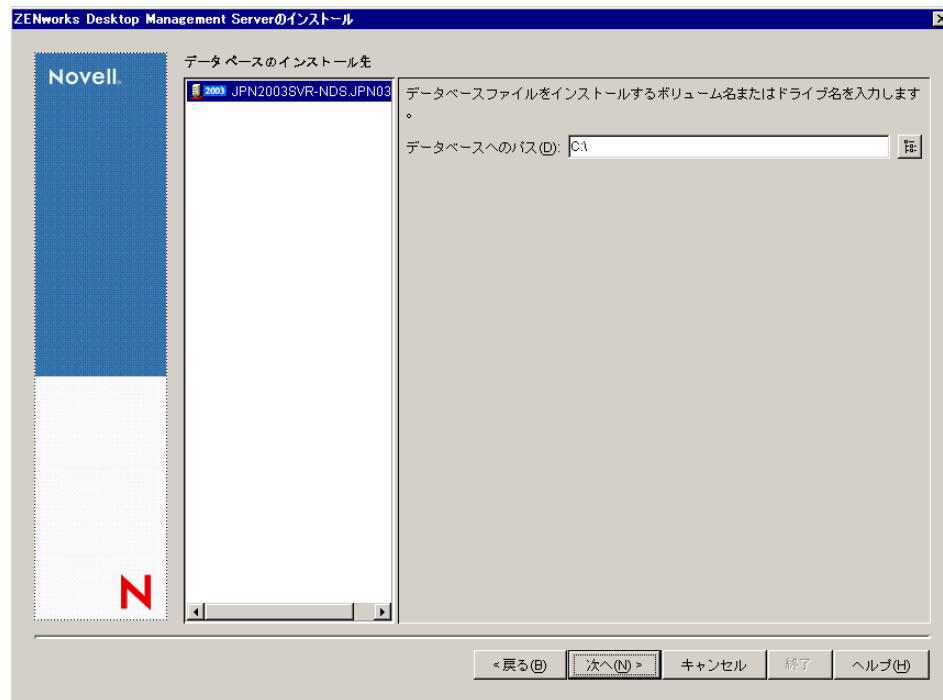


- 11 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation( データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストー

ルするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

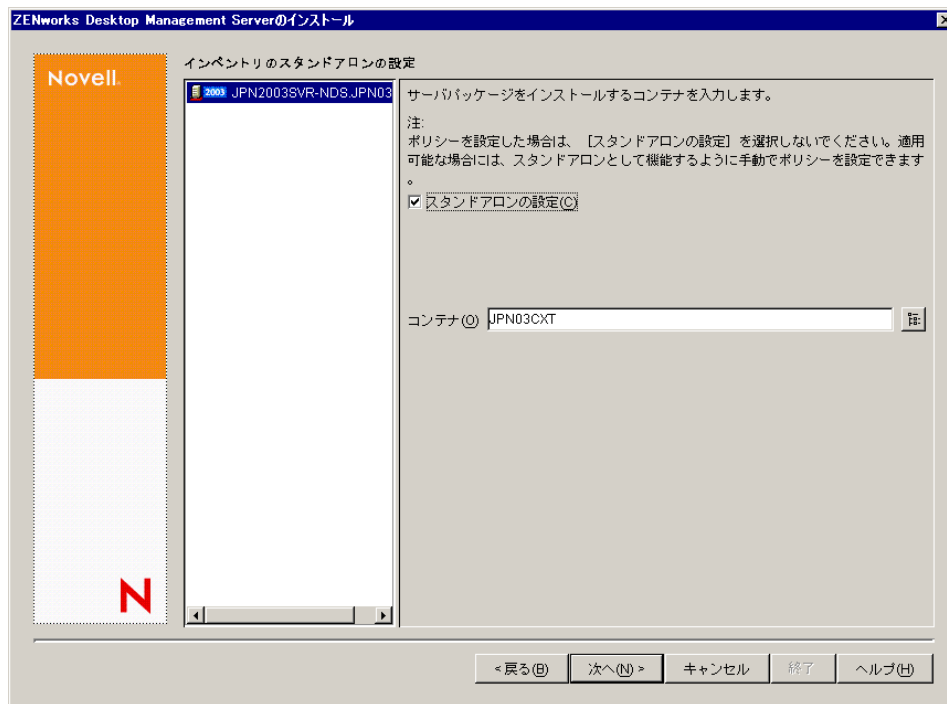
データベースサーバごとに異なるボリュームまたはドライブを指定できます。たとえば、NetWare サーバごとにボリューム名が異なっていても構いません。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは1つだけです。NetWare サーバの場合、このパスに拡張文字またはダブルバイト文字を含めることはできません。

SYS: が、NetWare サーバの場合のデフォルトです。NetWare サーバでは SYS: を選択しないことをお勧めします。データベースファイルが大きくなる場合があります。



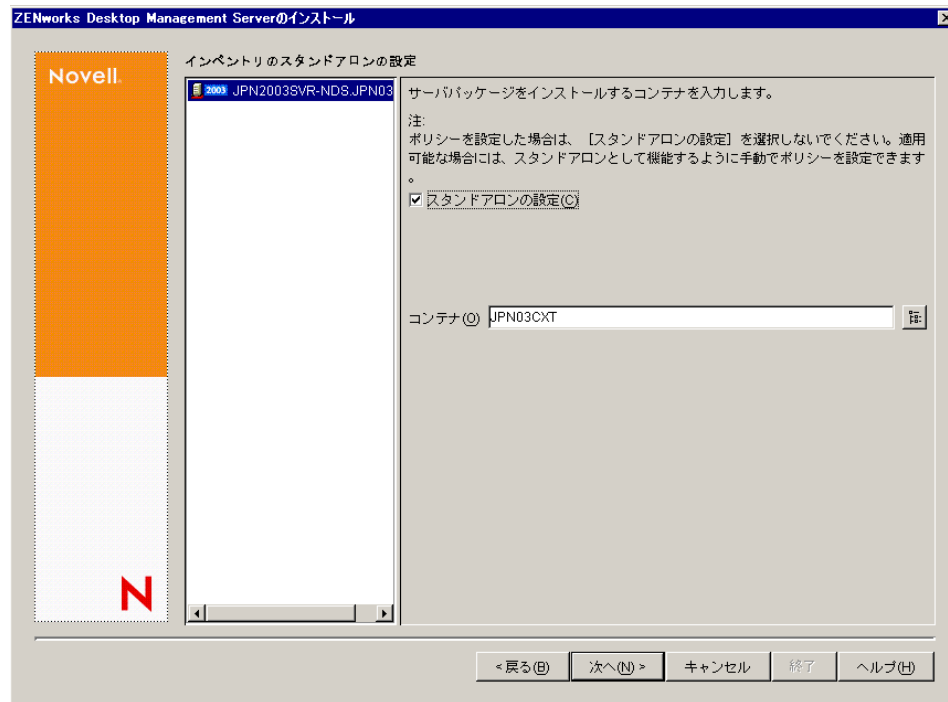
- 12 (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。



- 13 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ1つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。すべてのサーバを選択して共通のポート番号を設定するか、サーバを個別に選択してサーバごとに異なるポート番号を定義することができます。デフォルトのポート

65000 を変更する場合は、0 ～ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。



- 14** [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmserver_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

- 15** ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーとコンテナを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ] > [一般] の順にクリックし、[LDAP Group General (LDAP Group 全般)] を選択します。

ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバについて、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server のインストール後にこのパラメータを設定する場合は、設定の変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ずリブートしてください。

Active Directory ドメインの Windows サーバにインストールする場合、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトで使用するポートには、Active Directory で使用するポート (389 と 636) 以外の番号を設定します。

## 9.2 SP1 Desktop Management Server のインストール

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (35 ページの **パート II 「準備」** を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、ZENworks 7 Desktop Management Server with Support Pack 1 (SP1) をインストールし、NetWare または Windows サーバで実行します。

---

**重要 :** Desktop Management Server のインストールが完了したら、Windows、NetWare、および Linux サーバに必要なインストール後の作業を完了していることを確認します。詳細については、365 ページの **パート V 「インストール後」** を参照してください。

---

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Desktop Management Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、37 ページの **「インストールを実行するワークステーションの前提条件」** を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 Program CD* を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

---

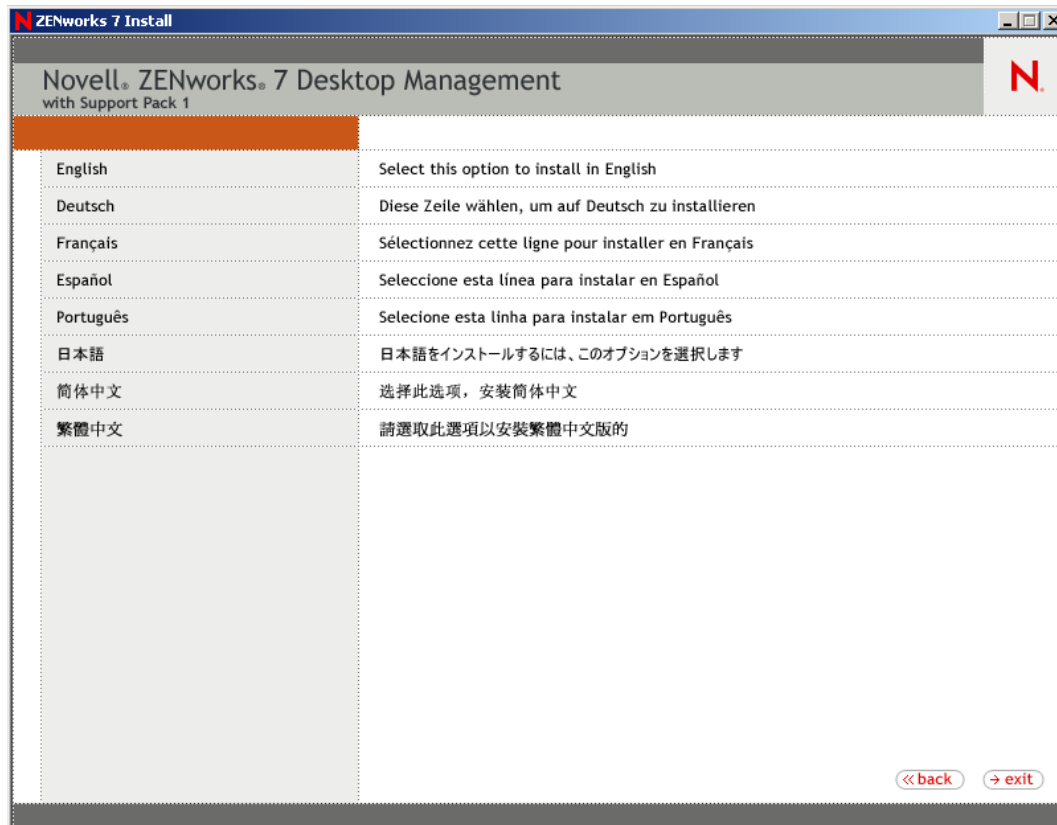
**重要 :** インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 Program CD* を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

---

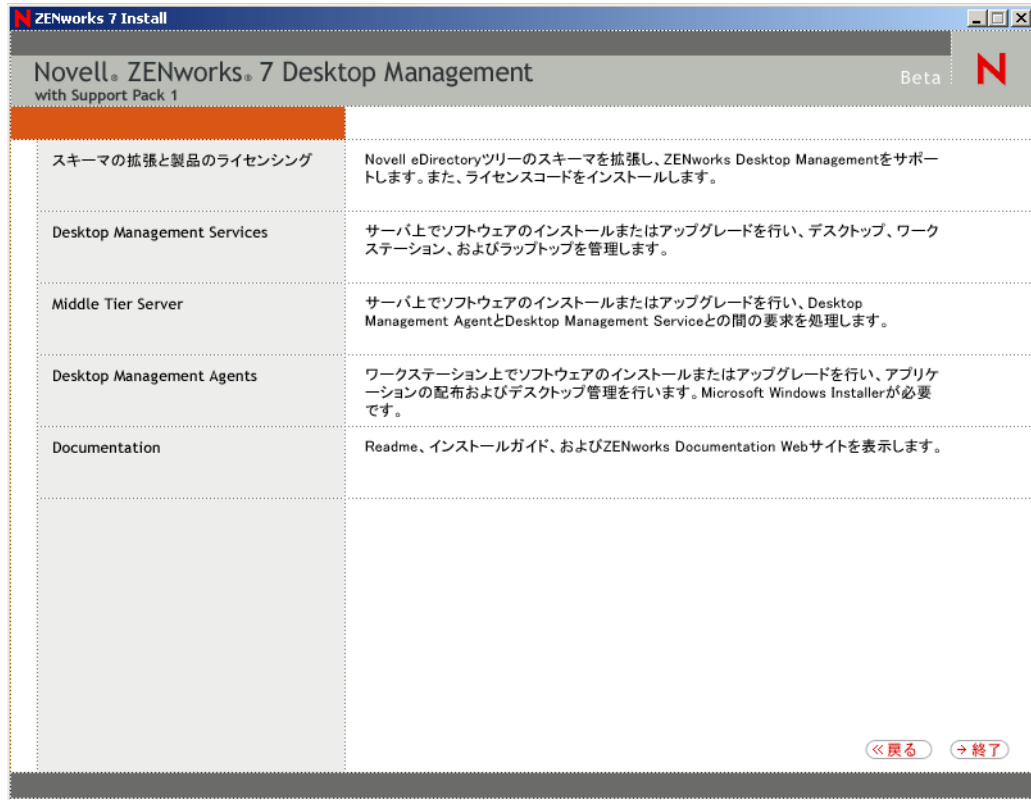


Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。
	→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。



- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



このページから、実際に新しいデスクトップ管理製品をインストールする前にスキーマを拡張したり、インストール手順の一部としてスキーマを拡張することができます。

- ◆ 100 ページのセクション 9.2.1 「インストール前のスキーマの拡張」
- ◆ 102 ページのセクション 9.2.2 「完全インストール(スキーマの拡張を含む)の実行」

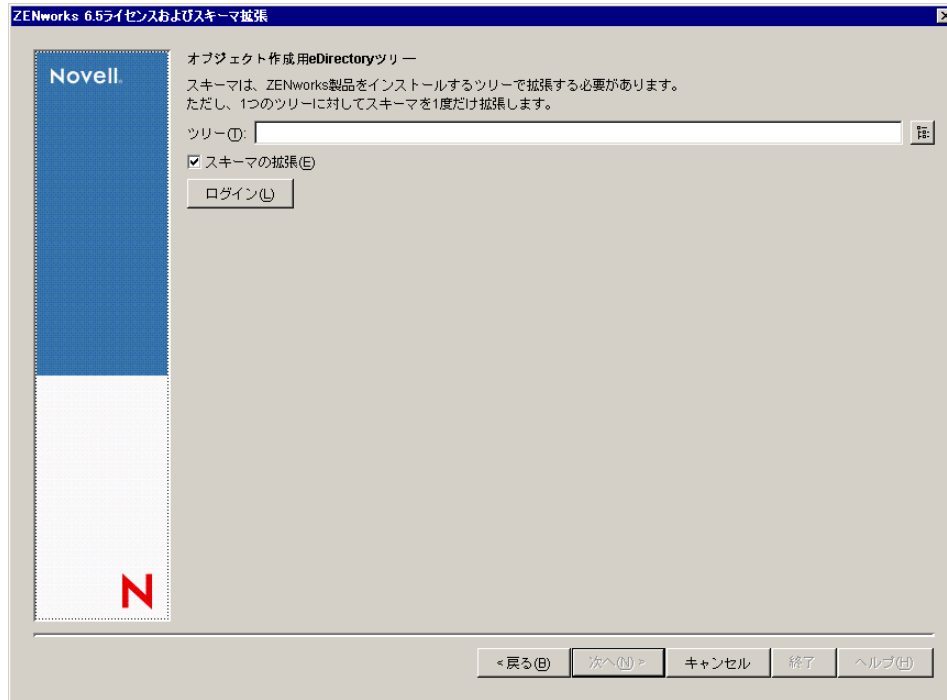
## 9.2.1 インストール前のスキーマの拡張

Desktop Management Server をインストールするネットワーク環境が大規模なツリーの場合、新しい SP1 製品を実際にインストールする前に、スキーマを拡張して、Novell eDirectory™ ツリーを安定させることができます。最初にスキーマを拡張するには、次の手順に従います。

- 1 [Schema Extension and Product Licensing (スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択し、ZENworks Desktop Management スキーマの拡張と製品のライセンス契約ウィザードを起動します。
- 2 ライセンス契約の条項に同意して [次へ] をクリックしたら、ウィザードの [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ページで、ZENworks Desktop Management スキーマ



マの拡張を追加する eDirectory ツリーの名前を参照または入力します。[スキーマの拡張] を選択し、[次へ] をクリックします。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

スキーマの拡張操作に要する時間は、ツリーのサイズと複雑さによって異なります。

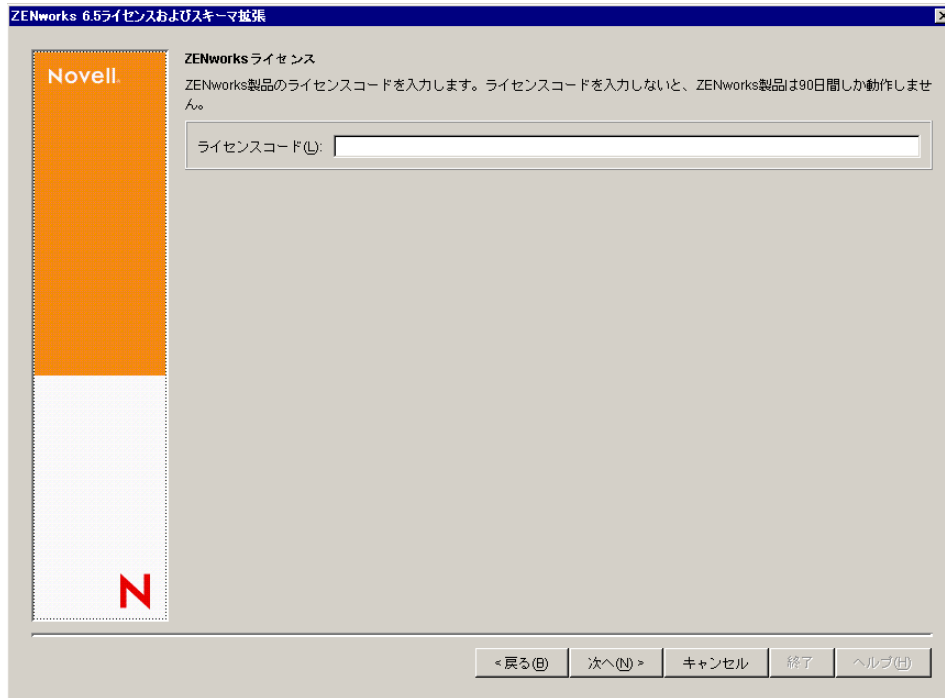
Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは1つだけです。

Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 3 [ZENworks ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。

このページでライセンスコードを入力しなければ、この ZENworks Desktop Management のインストールは評価版と見なされます。評価用にインストールした場

合は、製品のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。



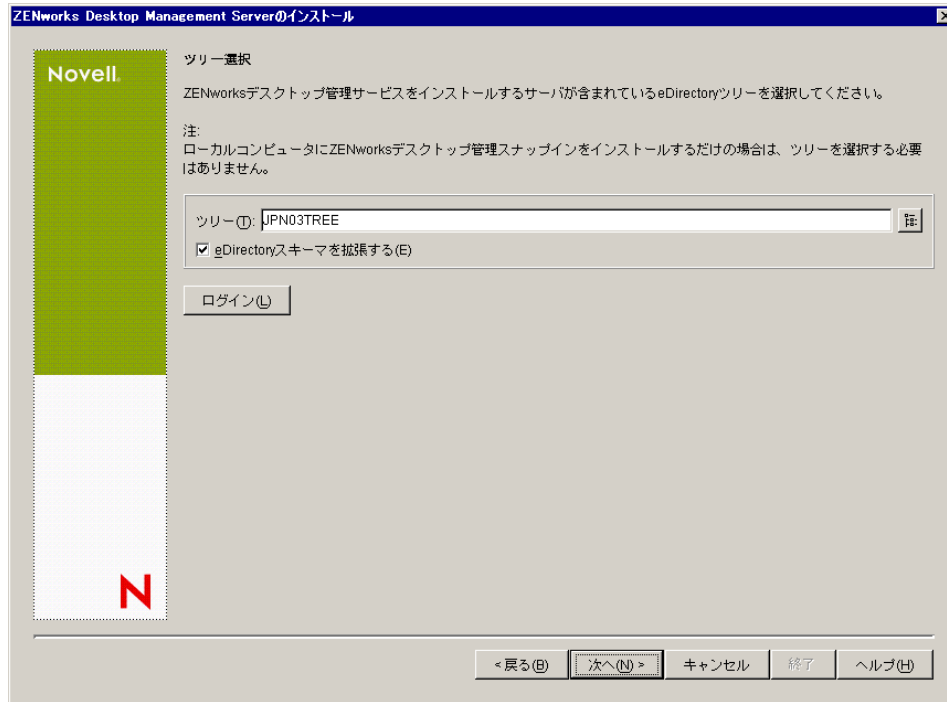
スキーマの拡張操作が完了すると、c:\novell\zfdtemp\zwextsch.log に保存されるログファイルを確認できます。

## 9.2.2 完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行

スキーマの拡張後に Desktop Management Server ソフトウェアをインストールする場合、またはインストールの一部としてツリーのスキーマを拡張する場合は、次の手順に従います。

- 1 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 2 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 3 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 4 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 5 [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server をインストールする Novell eDirectory ツリーの名前を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (100 ページのセクション 9.2.1 「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張します。[次へ] をクリックします。

Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



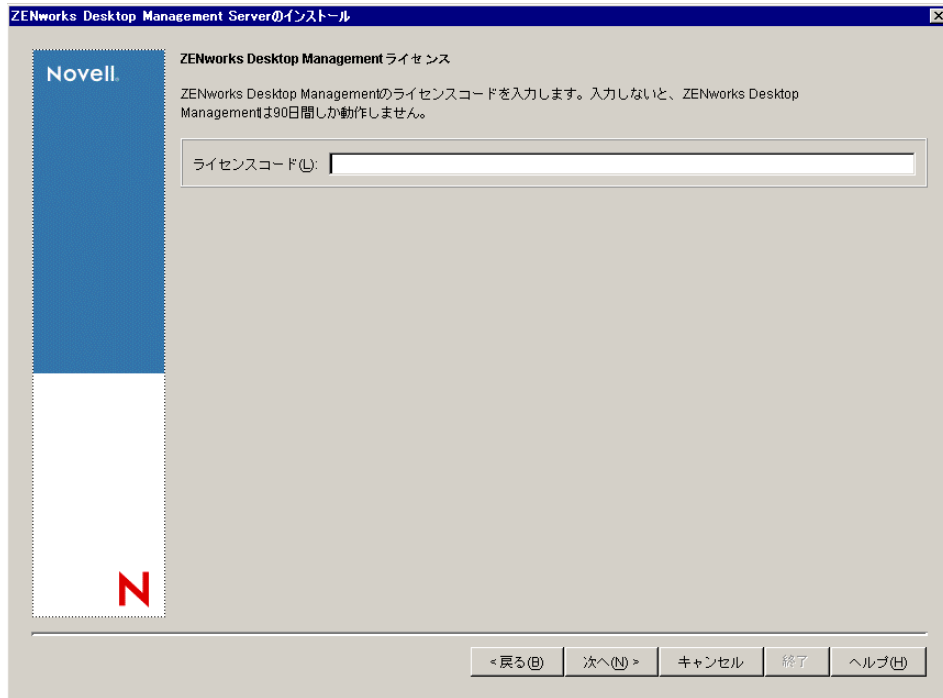
ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは1つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 6 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。

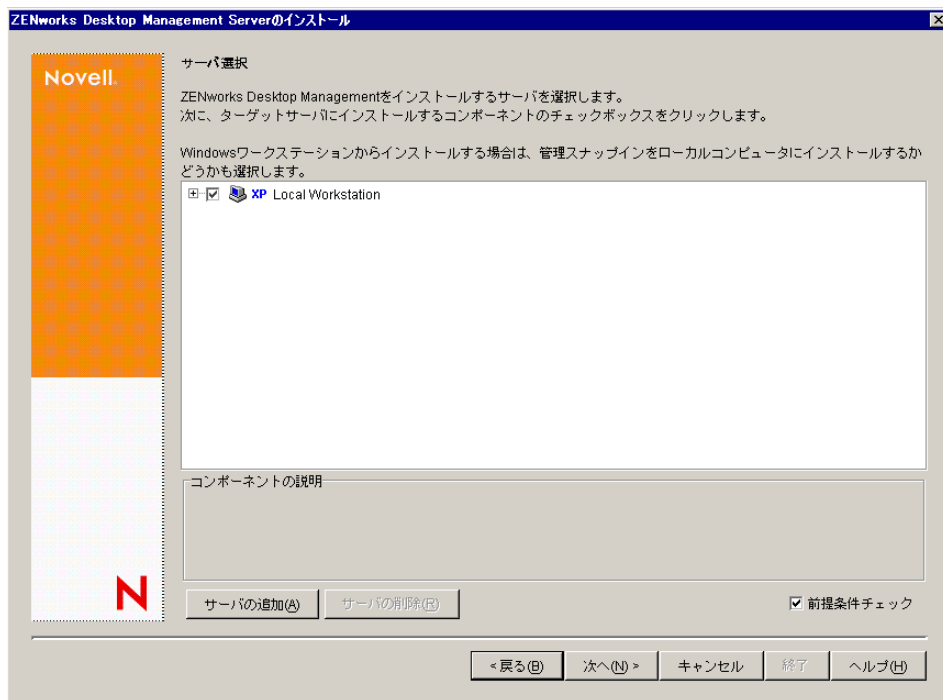
このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価用にインストールした場合は、製品

のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。



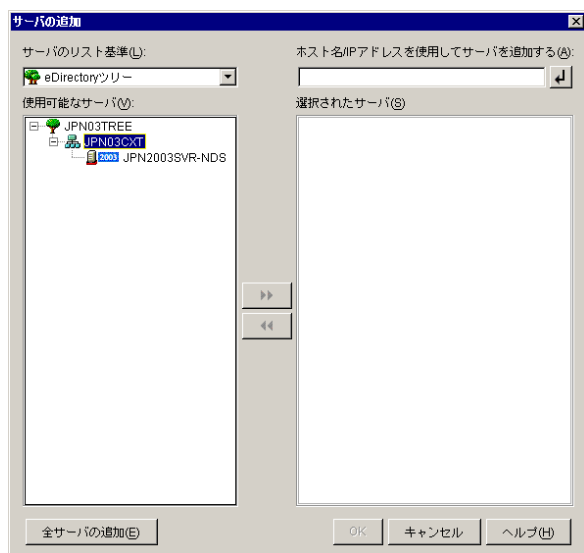
7 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするサーバの名前を参照します。

ステップ 5 で選択したツリーからのみサーバを選択できます。1度に最大7つのサーバにインストールできます。



**7a** (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先のサーバの名前を参照してクリックするか、[全サーバの追加] をクリックしてコンテナ内のすべてのサーバを選択します。右方向矢印ボタンをクリックして、選択したサーバを [選択されたサーバ] ページに移動し、[OK] をクリックします。

認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。



**7b** (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決する必要があります。

サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる [↓] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

**8** この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション] : ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法では Desktop Management サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (Desktop Management サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションに Desktop Management サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス] : Desktop Management サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。デスクトップ

管理サービスを使用すると、Windows のアプリケーション、ユーザとワークステーションの設定、プロセス、および動作を自動的に管理できます。

- ◆ [アプリケーション管理] : アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [ワークステーション管理共通コンポーネント] : ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [リモート管理] : 中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前の Remote Management コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション] : デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ [デスクトップ管理データベース] : 発生したアプリケーションのイベント (インストール、起動、キャッシュなど) に関するデータのレポジトリとして、Novell Application Launcher で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [インベントリデータベース] : インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のレポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要:** インベントリデータベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「インベントリデータベースのセットアップ」の手順に従ってください。

---

- ◆ [インベントリサーバ] : 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。  
選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードする必要があります。
- ◆ [インベントリプロキシサーバ] : このオプションを選択すると、ネットワークファイアウォールを経由してインベントリスキャンデータをインベントリサーバにロールアップするためのプロキシサーバがインストールされます。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ [イメージングサーバ] : ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。  
イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。
- ◆ [PXE サーバ] : Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにす

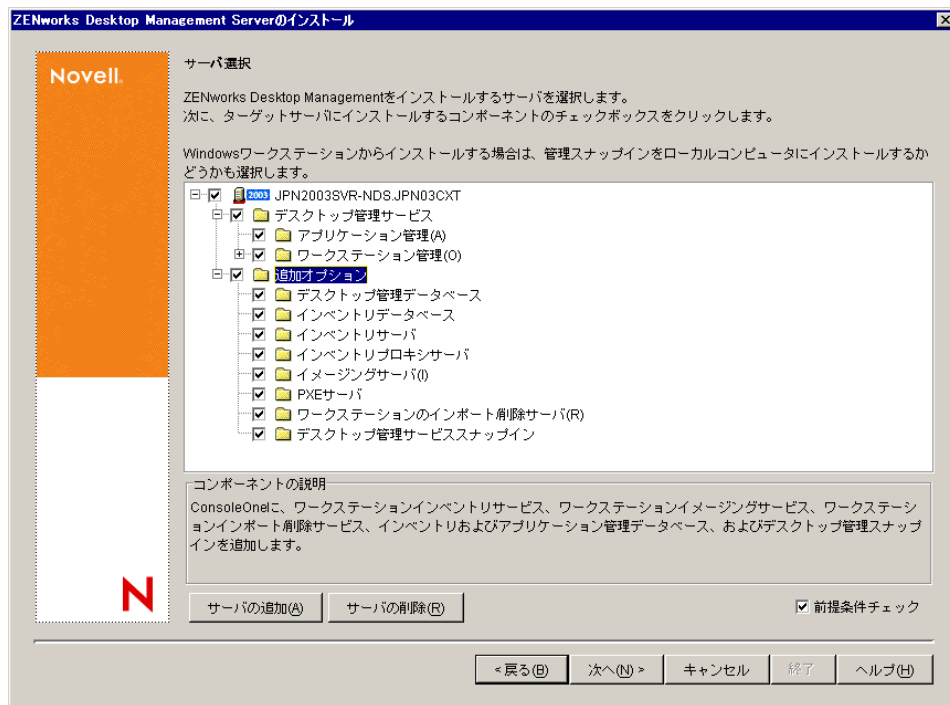
るために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービス (Preboot Services) をインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

- [ワークステーションインポート / 削除サーバ] : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- [デスクトップ管理サービススナップイン] : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

「カスタム選択」を実行するには、1 つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容を最初の状態に戻すことができます。[カスタム選択] を選択すると、別のダイアログボックスが表示され、選択したすべてのサーバに追加するコンポーネントを指定できます。カスタム選択の内容は、前回までに選択したいずれの内容よりも優先されます。

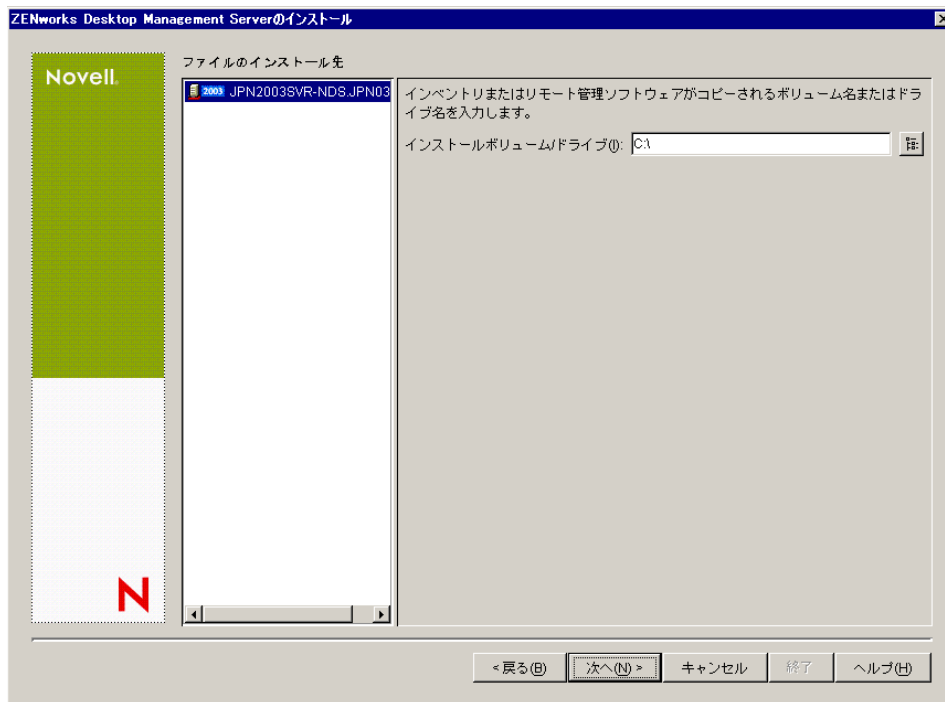


- 9 (オプション) デフォルトでは、[前提条件チェック] チェックボックスが選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存します。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、インストールは続行されません。警告メッセージが表示されると、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 10 (ワークステーションインベントリまたは Remote Management が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1つまたは複数のターゲットサーバを選択し、Workstation Inventory、または Remote Management の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。デフォルトのインストール先は、Novell NetWare の場合は SYS:、Windows サーバの場合は C: を指定します。

ZENworks 7 Workstation Inventory または Remote Management コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。



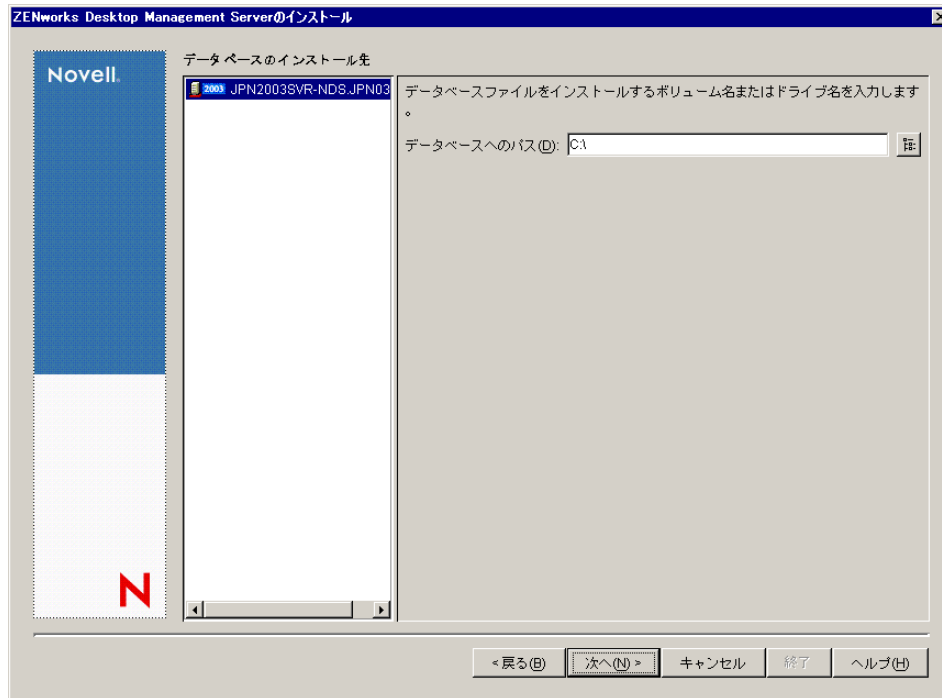
- 11 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation(データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストー



ルするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

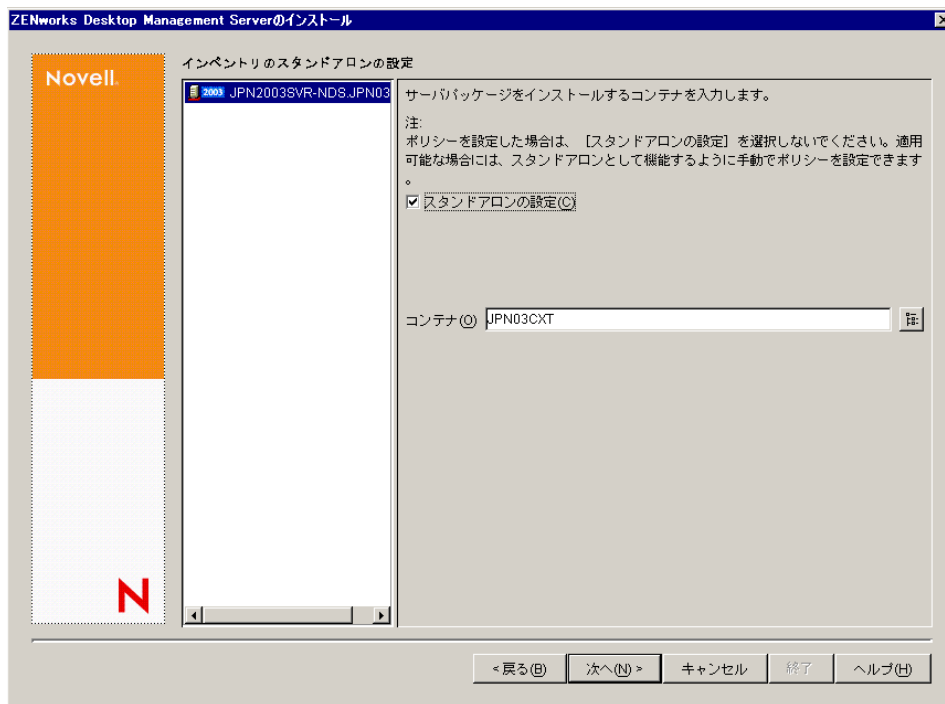
データベースサーバごとに異なるボリュームまたはドライブを指定できます。たとえば、NetWare サーバごとにボリューム名が異なっても構いません。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは1つだけです。NetWare サーバの場合、このパスに拡張文字またはダブルバイト文字を含めることはできません。

SYS: が、NetWare サーバの場合のデフォルトです。NetWare サーバでは SYS: を選択しないことをお勧めします。データベースファイルが大きくなる場合があります。



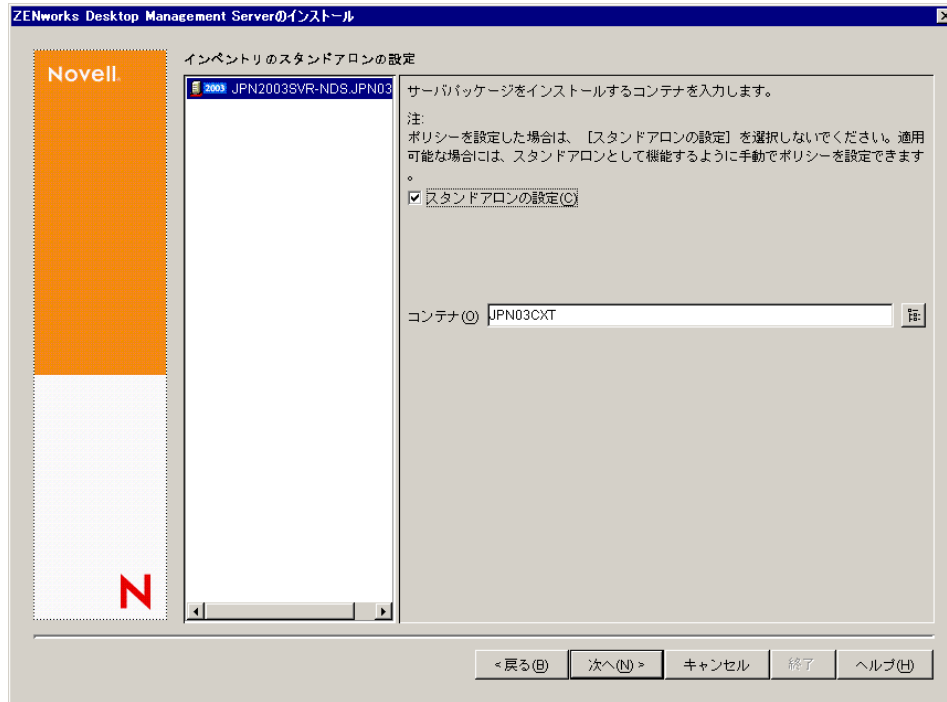
- 12 (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。



- 13 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ1つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。すべてのサーバを選択して共通のポート番号を設定するか、サーバを個別に選択してサーバごとに異なるポート番号を定義することができます。デフォルトのポート

65000 を変更する場合は、0 ～ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。



- 14 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmserver_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

- 15 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーとコンテナを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ] > [一般] の順にクリックし、[LDAP Group General (LDAP Group 全般)] を選択します。

ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバについて、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server のインストール後にこのパラメータを設定する場合は、設定の変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ずリブートしてください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

## 9.3 インストールの確認

Desktop Management Server のインストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ZENworks Desktop Management のインストールの確認」の「サーバへの Desktop Management コンポーネントのインストールの確認」で詳細手順を確認してください。

# ZENworks Middle Tier Server のインストール

# 10

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 113 ページのセクション 10.1 「ZENworks Middle Tier Server のインストール手順」
- ◆ 123 ページのセクション 10.2 「SP1 Middle Tier Server のインストール手順」
- ◆ 133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」
- ◆ 134 ページのセクション 10.4 「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」
- ◆ 135 ページのセクション 10.5 「インストールの確認」

## 10.1 ZENworks Middle Tier Server のインストール手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (63 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、ZENworks® Middle Tier Server をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Middle Tier Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、37 ページの「インストールを実行するワークステーションの前提条件」を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、Novell ZENworks 7 Desktop Management CD を挿入します。

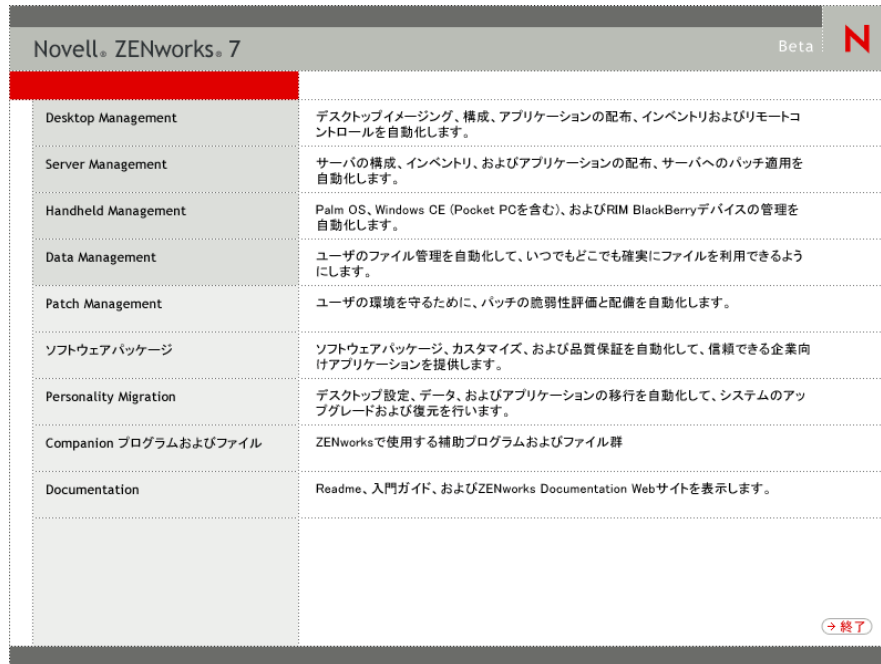
ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

---

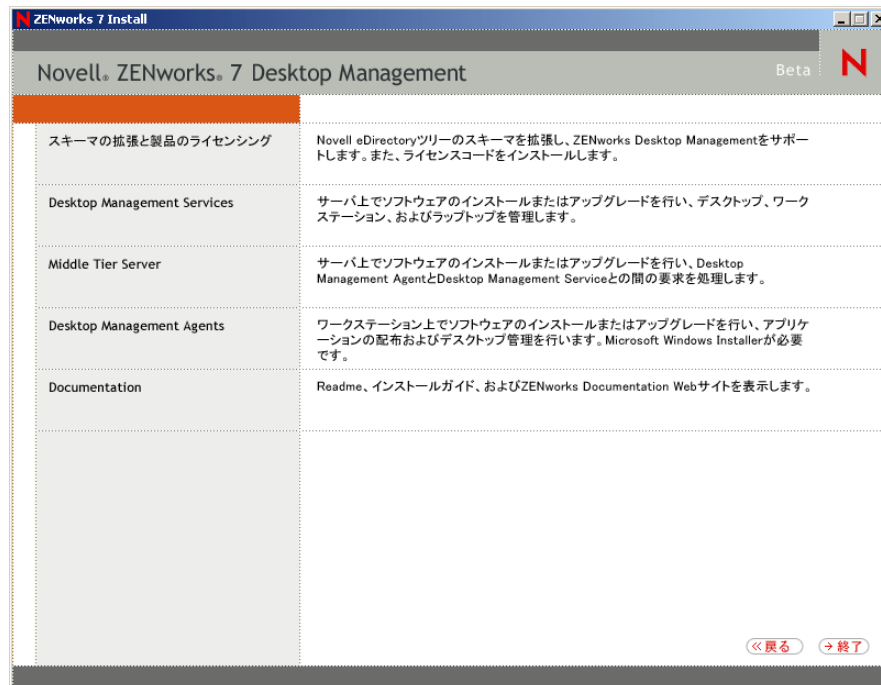
**重要:** インストール中に、CD ドライブから Novell ZENworks 7 Desktop Management CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

---

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。



- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、Middle Tier Server が以前に設定されていたかを選択して、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

[パスワード] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory™ パスワードを指定します。

- 10 (Middle Tier が設定されていない場合) [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Desktop Management によって使用されるユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを指定します。

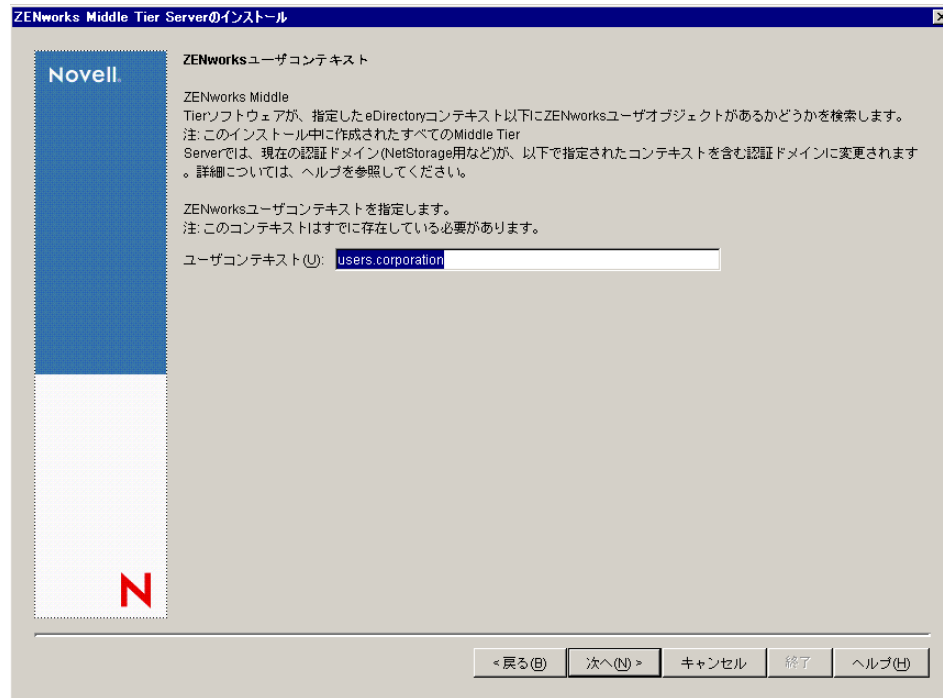
ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

たとえば、ユーザが多くのサブコンテナに存在している場合は、これらのサブコンテナすべてを保持するコンテナのコンテキストを指定します。ユーザが ZENworks Middle Tier Server を通じてログインすると、サーバは指定された eDirectory コンテナでユーザの検索を開始し、適切なユーザが見つかるまで指定したコンテナのサブコンテナを検索します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインコンテキストを再設定できます。このユーティリティは Web ブラウザで開くことができます ([http://middle\\_tier\\_server\\_name/oneNet/nsadmin](http://middle_tier_server_name/oneNet/nsadmin))。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。



- 11 (Middle Tier が設定されていない場合) [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していな



い場合でも、インストール時にファイルシステムへのアクセス方法が確定している必要があります。

- ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルをNetWareサーバにだけ配置する場合は、1番目のオプションボタンを選択します。
- ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

[ドメインユーザ名] : ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

[パスワード] : ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

[パスワードの確認] : 正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。

ZENworks Middle Tier Serverのインストール

Novell.

ZENworks ファイルの場所

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。

ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。

注:  
このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。

ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

ドメインユーザ名(U):

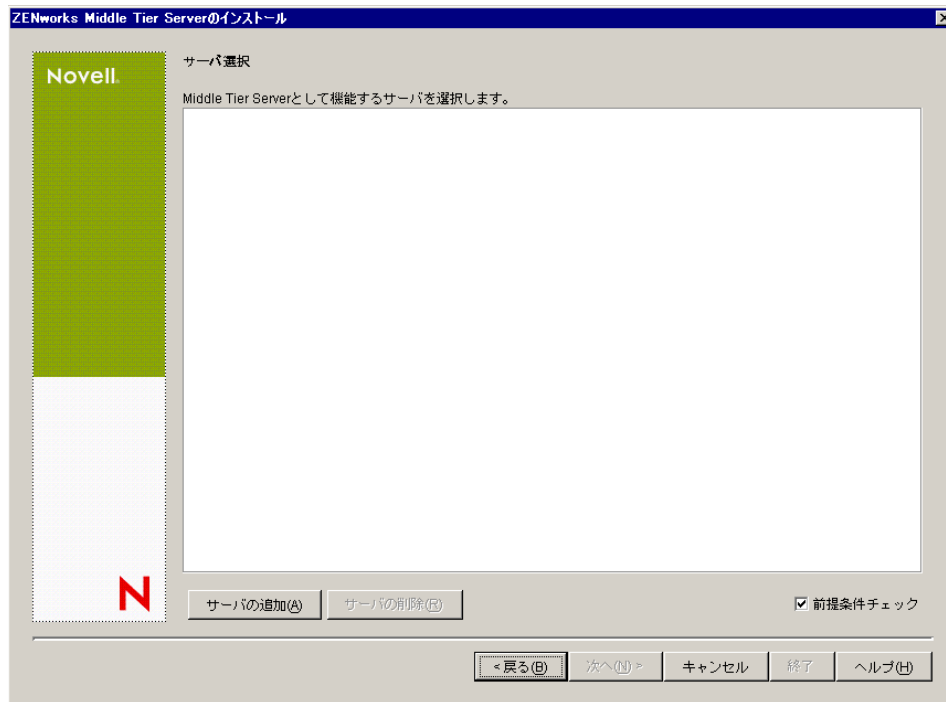
パスワード(P):

パスワードの確認(C):

<戻る(B) 次へ(N)> キャンセル 終了 ヘルプ(H)

- 12 [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタン

を使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。  
[サーバの追加] をクリックします。




- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。
- サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。
- 14** [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。
- インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。リストにサーバを追加した後で [OK] をクリックします。
- Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは 1 つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 14a** (eDirectory ツリーのサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンボックスで [eDirectory ツリー] を選択し、現在認証されているすべての eDirectory ツリーを表示します。次に、ツリーを参照して目的のサーバまで移動し、右方向矢印ボタンをクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストボックスに移動します。

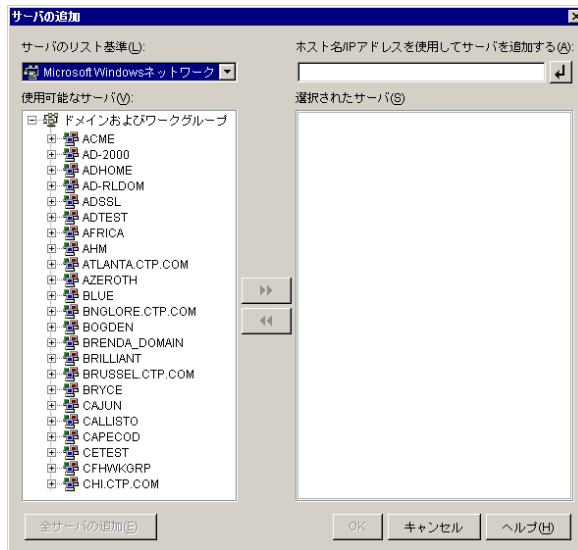


このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。


- [リストされていないツリーの参照] をクリックすると、ダイアログボックスにネットワーク上のすべてのツリーを表示できます。これらのツリーのいずれかをダブルクリックすると、認証されていないツリーでも、[使用可能なサーバ] リストに追加されます。
- [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、サーバの名前に解決可能である必要があります。  
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる  をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- 認証されていないサーバを選択した場合は、ツリーの eDirectory アカウント情報を入力するように要求されます。
- [全サーバの追加] をクリックして、選択したコンテナまたはツリーにあるすべてのサーバを、認証が完了次第追加します。上位のコンテナを選択すると、そのコンテナとその下位にあるすべてのコンテナに含まれているすべてのサーバが選択されます。
- サーバを [選択されたサーバ] リストから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

- 14b** (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメ

インを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストに移動します。

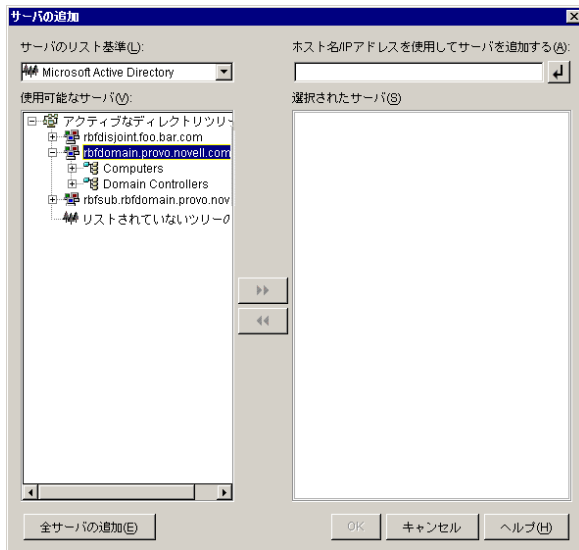


このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 7 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決できる必要があります。  
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる  をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。  
Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名である必要があります。
- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできませんが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

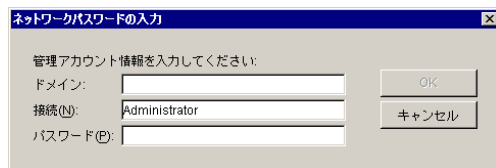
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] リストから削除して [使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

**14c** (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory で (ドメインごとに) リスト表示されるすべてのサーバを参照し、目的のサーバへの構造を参照します。次に、二重の右向き矢印をクリックして、サーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウント情報を使用してサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決できる必要があります。  
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる [ ] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[検索基準の場所] : ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索] : コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照] : ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを1つずつ展開して、目的のコンピュータを探すことができます。この検索方法は、コンピュータが標準以外の大きなディレクトリにある場合に役立ちます。

- 選択したドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] ボックスの複数のサーバを選択して削除できます。

- 15** [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

---

**重要** : インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

---

- 16** Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。詳細については、[96 ページのステップ 15](#) を参照してください。
- 17** (NetWare 6 をインストールする場合のみ) NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server 上の `autoexec.ncf` ファイルを編集して、Apache Web Server のロードとバインドが正常に行われるようにします。詳細については、[134 ページのセクション 10.4 「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」](#) を参照してください。
- 18** ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 19** ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://Middle_Tier_Server_DNS_or_IP/oneNet/xtier-stats`

`http://Middle_Tier_Server_IP_address/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

認証されていない場合、2つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。認証された場合、3つ目の URL では、XZEN (Middle Tier Server の Xtier モジュール) が実行中であることを示すメッセージを含んだ Web ページが表示されます。

---

**重要 :** 既に ZENworks 7 Middle Tier Server を OES NetWare サーバにインストールしてあり、NetWare サーバを OES Support Pack 1 にアップグレードする場合、サポートパックのインストールプログラムにより、ZENworks 7 Middle Tier Server (バージョン 2.0x) は新しいバージョンの XTier (バージョン 3.01) に上書きされます。このバージョンの XTier は、他の ZENworks 7 Middle Tier コンポーネントとは互換性がなく、実質的に Middle Tier が無効になります。

OES サーバを OES Support Pack 1 でアップグレードする必要がある場合に、この問題を避けるには、OES のアップグレード後に ZENworks 7 Middle Tier Server を再インストールします。

---

## 10.2 SP1 Middle Tier Server のインストール手順

インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件および前提条件 (63 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照) を満たしている場合は、次の手順を実行して、ZENworks® 7 Middle Tier Server with Support Pack 1 をインストールし、NetWare® または Windows サーバで実行します。

- 1 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Middle Tier Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、37 ページの「インストールを実行するワークステーションの前提条件」を参照してください。
- 2 Windows ワークステーションに、Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD を挿入します。

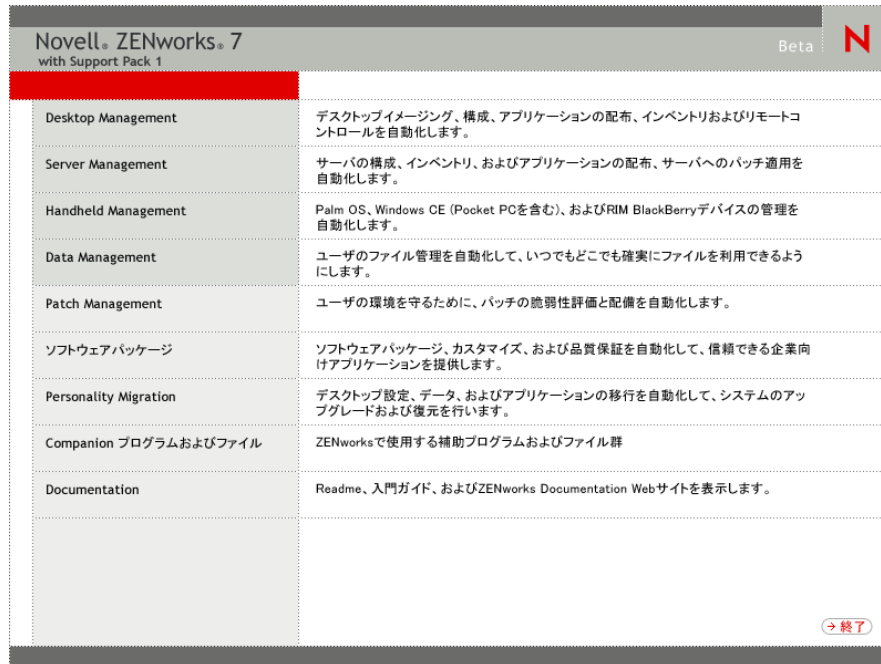
ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

---

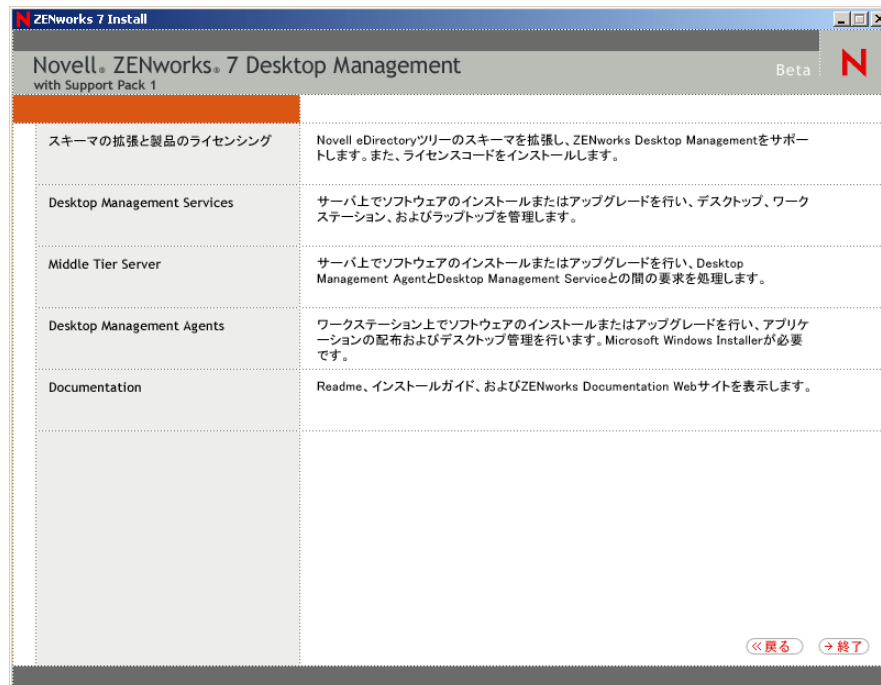
**重要 :** インストール中に、CD ドライブから Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

---

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。



- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。





- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、Middle Tier Server が以前に設定されていたかを選択して、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

[パスワード] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory™ パスワードを指定します。

**ZENworks Middle Tier Serverのインストール**

**Novell**

**eDirectoryの場所およびアカウント情報**

このインストールプログラムで作成する Middle Tier Serverは、ユーザおよびワークステーションを認証し、ZENworksの設定およびポリシー情報を取得するために、eDirectoryサーバにアクセスします。詳細については、ヘルプを参照してください。

eDirectoryサーバの名前、またはIPアドレスおよび管理アカウント情報を指定します。  
注: このサーバにはeDirectoryがインストールされている必要があります。

DNS/IPアドレス(&D):

**管理アカウント情報**

ユーザ名(完全DN)(U):

パスワード(P):

<戻る(B)   次へ(N) >   キャンセル   終了   ヘルプ(H)

- 10 (Middle Tier が設定されていない場合) [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Desktop Management によって使用されるユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを指定します。

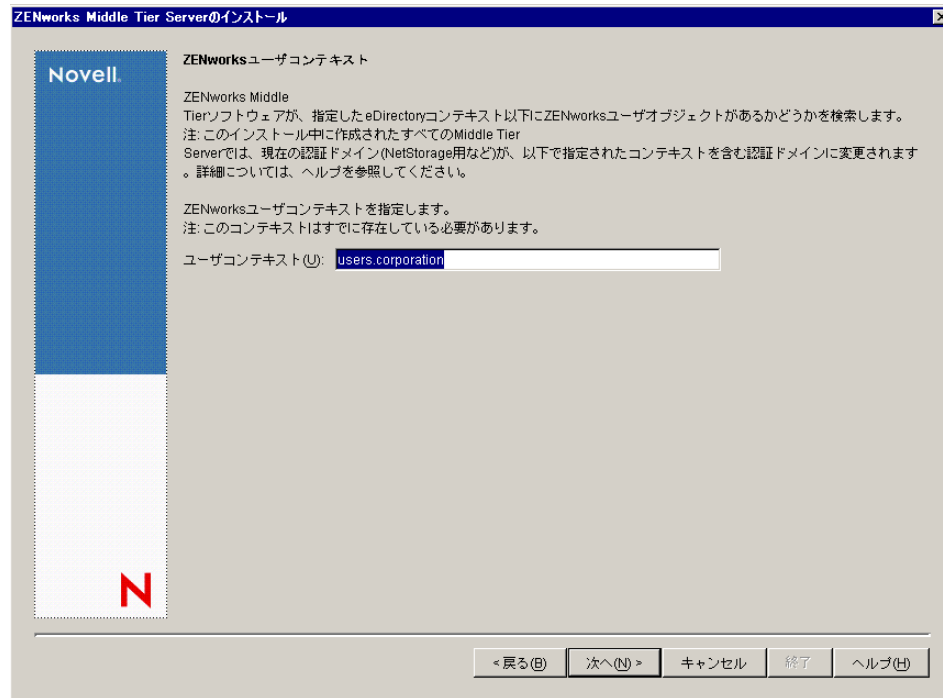
ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

たとえば、ユーザが多くのサブコンテナに存在している場合は、これらのサブコンテナすべてを保持するコンテナのコンテキストを指定します。ユーザが ZENworks Middle Tier Server を通じてログインすると、サーバは指定された eDirectory コンテナでユーザの検索を開始し、適切なユーザが見つかるまで指定したコンテナのサブコンテナを検索します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインコンテキストを再設定できます。このユーティリティは Web ブラウザで開くことができます ([http://middle\\_tier\\_server\\_name/oneNet/nsadmin](http://middle_tier_server_name/oneNet/nsadmin))。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。



- 11 (Middle Tier が設定されていない場合) [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していな

い場合でも、インストール時にファイルシステムへのアクセス方法が確定している必要があります。

- ◆ ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルをNetWareサーバにだけ配置する場合は、1番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

[ドメインユーザ名] : ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

[パスワード] : ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

[パスワードの確認] : 正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。

ZENworks Middle Tier Serverのインストール

Novell.

ZENworks ファイルの場所

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。

ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。

注:  
このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。

ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

ドメインユーザ名(U):

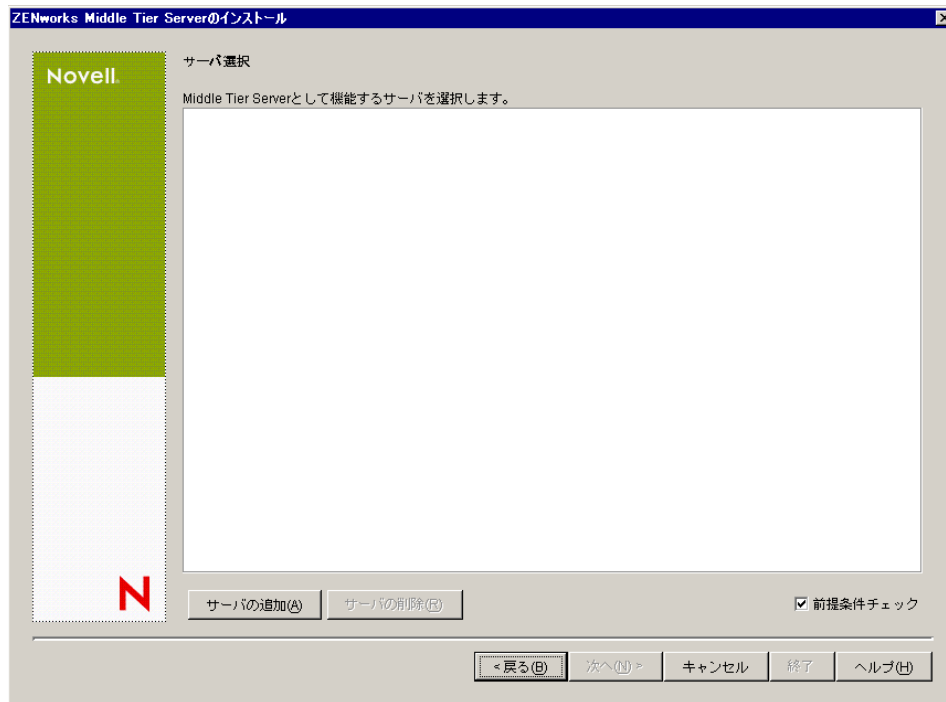
パスワード(P):

パスワードの確認(C):

<戻る(B) 次へ(N)> キャンセル 終了 ヘルプ(H)

- 12 [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタン

を使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。  
[サーバの追加] をクリックします。




- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。
- サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。
- 14** [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。
- インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。リストにサーバを追加した後で [OK] をクリックします。
- Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムのどちらでも、選択できる eDirectory ツリーは 1 つだけです。Windows サーバからこれらのいずれかのインストールプログラムを実行し、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 14a** (eDirectory ツリーのサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンボックスで [eDirectory ツリー] を選択し、現在認証されているすべての eDirectory ツリーを表示します。次に、ツリーを参照して目的のサーバまで移動し、右方向矢印ボタンをクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストボックスに移動します。

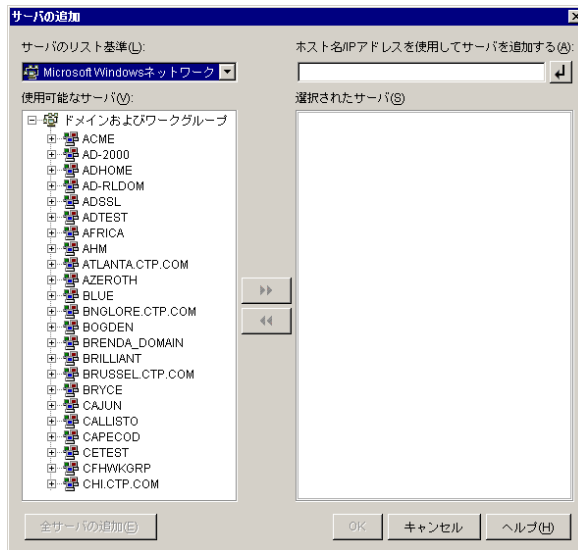


このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- [リストされていないツリーの参照] をクリックすると、ダイアログボックスにネットワーク上のすべてのツリーを表示できます。これらのツリーのいずれかをダブルクリックすると、認証されていないツリーでも、[使用可能なサーバ] リストに追加されます。
- [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、サーバの名前に解決可能である必要があります。  
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる  をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- 認証されていないサーバを選択した場合は、ツリーの eDirectory アカウント情報を入力するように要求されます。
- [全サーバの追加] をクリックして、選択したコンテナまたはツリーにあるすべてのサーバを、認証が完了次第追加します。上位のコンテナを選択すると、そのコンテナとその下位にあるすべてのコンテナに含まれているすべてのサーバが選択されます。
- サーバを [選択されたサーバ] リストから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

- 14b** (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメイン

を一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストに移動します。




このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 7 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。

- ◆ Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。

- ◆ [ホスト名/IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。

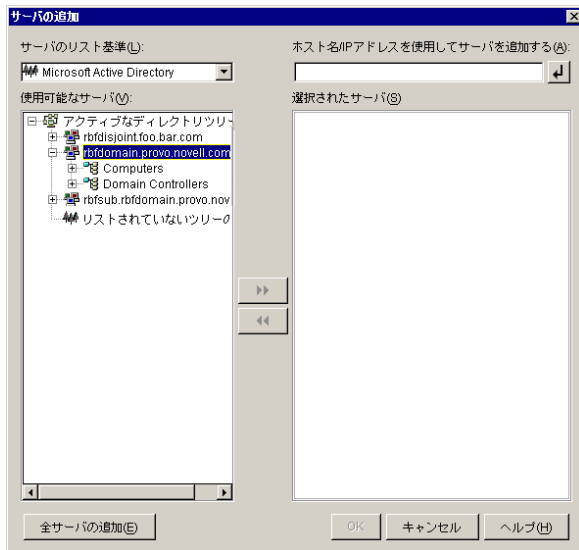
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる  をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名である必要があります。

- ◆ サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできませんが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- ◆ 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

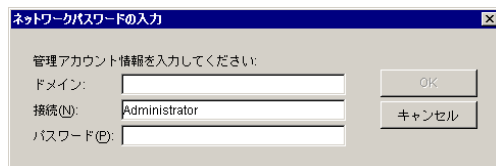
- ◆ サーバを [選択されたサーバ] リストから削除して [使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

**14c** (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory で (ドメインごとに) リスト表示されるすべてのサーバを参照し、目的のサーバへの構造を参照します。次に、二重の右向き矢印をクリックして、サーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウント情報を使用してサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。  
サーバの解決可能な IP またはホスト名の入力を受け入れる [ ] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。

[検索基準の場所] : ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索] : コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照] : ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを1つずつ展開して、目的のコンピュータを探すことができます。この検索方法は、コンピュータが標準以外の大きなディレクトリにある場合に役立ちます。

- 選択したドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- サーバを [選択されたサーバ] ボックスから削除して [使用可能なサーバ] リストボックスに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、左方向矢印ボタンをクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] ボックスの複数のサーバを選択して削除できます。

- 15** [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

---

**重要** : インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

---

- 16** Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。詳細については、[96 ページのステップ 15](#) を参照してください。
- 17** (NetWare 6 をインストールする場合のみ) NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server 上の `autoexec.ncf` ファイルを編集して、Apache Web Server のロードとバインドが正常に行われるようにします。詳細については、[134 ページのセクション 10.4 「NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集」](#) を参照してください。
- 18** ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 19** ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://Middle_Tier_Server_DNS_or_IP/oneNet/xtier-stats`

`http://Middle_Tier_Server_IP_address/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。



認証されていない場合、2つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。認証された場合、3つ目の URL では、XZEN (Middle Tier Server の Xtier モジュール) が実行中であることを示すメッセージを含んだ Web ページが表示されます。

---

**重要 :** 既に ZENworks 7 Middle Tier Server を OES NetWare サーバにインストールしてあり、NetWare サーバを OES Support Pack 1 にアップグレードする場合、サポートパックのインストールプログラムにより、ZENworks 7 Middle Tier Server (バージョン 2.0x) は新しいバージョンの XTier (バージョン 3.01) に上書きされます。このバージョンの XTier は、他の ZENworks 7 Middle Tier コンポーネントとは互換性がなく、実質的に Middle Tier が無効になります。

OES サーバを OES Support Pack 1 でアップグレードする必要がある場合に、この問題を避けるには、OES のアップグレード後に ZENworks 7 Middle Tier Server を再インストールします。

---

## 10.3 Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利

管理者アカウントは必要なアクセス権をすべて有しているため、任意の管理者アカウントを Middle Tier プロキシのユーザアカウントとして使用できますが、この方法は多大なセキュリティリスクをもたらすことになります。その代わりに、ConsoleOne でユーザアカウントを作成し、ZENworks Middle Tier プロキシユーザに必要なアクセス権のみをこのアカウントに割り当てることができます。

プロキシユーザに権利を割り当てるには、次の手順に従います。この例では、プロキシユーザ *zenpxyuser* が CN=*zenpxyuser*.OU=*zen*.OU=*Users*.O=*Company* のコンテキスト、パスワード *test* ですでに作成されているものとします。

**1** *zenpxyuser* を OU=*Users*.O=*Company* のトラスティに設定します。

**1a** OU を選択し、[プロパティ] をクリックします。

**1b** [NDS 権利] タブを選択します。

**1c** [トラスティの追加] をクリックし、プロキシユーザを OU のトラスティとして追加します。

**1d** [割り当てられた権利]、[プロパティの追加]、[プロパティをすべて表示] の順に選択し、134 ページの表 10-1 に示されているプロパティのいずれか 1 つを選択して、(同様に次の表に示されている)適切な権利を割り当てます。

**2** *zenpxyuser* を CN=*zenpxyuser*.OU=*zen*.OU=*Users*.O=*Company* のトラスティに設定し、適切なプロパティと権利を割り当てます。

**2a** *zenpxyuser* ユーザオブジェクトを選択して、[プロパティ] をクリックします。

**2b** [NDS 権利] タブを選択します。

**2c** [トラスティの追加] をクリックし、プロキシユーザを *zenpxyuser* オブジェクトのトラスティとして追加します。

**2d** [割り当てられた権利]、[プロパティの追加]、[プロパティをすべて表示] の順に選択し、[同等権利保有者] プロパティを選択します。

**2e** このプロパティに C (比較)、R (読み取り)、W (書き込み) の各権利を割り当てます。

これらの権利を割り当てた後で、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に、このプロキシユーザのコンテキストとパスワードを入力できます。前例に倣って、プロキシユーザとして `zenpxyuser.zen.users.company` を、プロキシユーザパスワードとして `test` を入力します。

表 10-1 プロキシユーザの権利の概要

トラスティの追加先オブジェクト	トラスティの追加	プロパティの追加	権利	敬承可能か
ユーザまたはユーザコンテナ	zenpxyuser	エントリ権	B (参照) C (作成)	Yes
ユーザまたはユーザコンテナ	zenpxyuser	すべての属性	C (比較) R (読み取り)	Yes
ユーザまたはユーザコンテナ	zenpxyuser	CN	C (比較) R (読み取り)	Yes
ユーザまたはユーザコンテナ	zenpxyuser	zendmWSNetworkAddress	C (比較) R (読み取り) W (書き込み)	Yes
ユーザまたはユーザコンテナ	zenpxyuser	同等権利保有者	C (比較) R (読み取り) W (書き込み)	No

## 10.4 NetWare 6 ZENworks Middle Tier Server における Autoexec.ncf の編集

NetWare 6 をインストールした場合は、NetWare サーバのプライマリ IP アドレスとは異なる IP アドレスで Apache (および他の NetWare サービス) を実行するオプションがありました。詳細については、『[NetWare 6 概要とインストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/nw6p/setupenu/data/hz8pck9v.html\)](http://www.novell.com/documentation/nw6p/setupenu/data/hz8pck9v.html)』の「IP ベースサービスを設定する (状況によって実行)」を参照してください。

このオプションを使用して、Apache Web Server をインストールすることを選択した場合、サーバの `autoexec.ncf` ファイルに 1 行以上が追加されて、Apache IP アドレスがセカンダリアドレスとして識別されました。これらの IP アドレス行は、Apache を含むさまざまな NetWare コンポーネントのロード行より上に配置されました。この構成は、ロードする Apache サーバが正しくセカンダリアドレスにバインドされるので機能します。

ただし、続けて ZENworks Middle Tier Server コンポーネント (すなわち、`istorage.zip` および `storage.zip`) をインストールする場合、Apache ロードコマンドは、`autoexec.ncf` ファイルの下部に移されます。この手順では、Apache はロードしますが、セカンダリアドレス行がまだ実行されていないので正しくバインドしません。

ZENworks Middle Tier Server をインストールした後、`autoexec.ncf` を編集して `add secondary IP address` コマンドをファイルの最上部近くに配置し、サーバを再起動することをお勧めします。

## 10.5 インストールの確認

ZENworks Middle Tier Server のインストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ZENworks Desktop Management のインストールの確認」の「サーバへの Desktop Management コンポーネントのインストールの確認」で詳細手順を確認してください。



# Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール

中小企業の場合、同じネットワークサーバ上に Novell® ZENworks® Middle Tier Server と Desktop Management Server をインストールできると便利でしょう。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 137 ページのセクション 11.1「1 台の NetWare サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール」
- ◆ 138 ページのセクション 11.2「1 台の Windows 2000 Server へのコンポーネントのインストール」
- ◆ 141 ページのセクション 11.3「インストールの確認」

この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 コンポーネントのインストールにも適用されます。

Desktop Management Server および Middle Tier Server を 1 つの Linux サーバにインストールする場合の詳細については、319 ページの § 章 19「Linux サーバへのすべての ZENworks 機能のインストール」を参照してください。

## 11.1 1 台の NetWare サーバへのデスクトップ管理サービスのインストール

必要なコンポーネントのインストールに関する以下の高度な手順を使用して、1 台の NetWare® 6 または NetWare 6.5 サーバで、ZENworks Desktop Management を実行します。

- 1 ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、113 ページのセクション 10.1「ZENworks Middle Tier Server のインストール手順」または 123 ページのセクション 10.2「SP1 Middle Tier Server のインストール手順」を参照してください。
- 2 Desktop Management Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、83 ページのセクション 9.1「Desktop Management Server のインストール手順」または 97 ページのセクション 9.2「SP1 Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
- 3 サーバを再起動します。

---

**重要 :** ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアのインストール後に NetWare 6 SP4 をインストールする場合、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを再度インストールする必要があります。一部の NetWare 6 SP1 および SP2 ファイルは、ZENworks Middle Tier Server の同じ名前の新しいファイルを不正確に上書きします。

---

## 11.2 1 台の Windows 2000 Server へのコンポーネントのインストール

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されません。

必要なコンポーネントのインストールに関する以下の高度な手順を使用して、1 台の Windows 2000/2003 サーバで、ZENworks Desktop Management を実行します。

- 1 Novell eDirectory™ をインストールします。これには次の補完ソフトウェアが必要です。

- ◆ 元のバージョンの ZENworks 7 Desktop Management を使用している場合、eDirectory 8.7 のライセンス登録が必要です。eDirectory 8.7.x 評価ライセンスに必要なファイルは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval\\_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) からダウンロードできます。Novell ZENworks 7 Companion 1 CD にある Novell eDirectory 8.7.3 には、eDirectory インストール中にこれらのファイルを要求するライセンスウィザードが含まれています。

ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 を使用する場合は、ZENworks のライセンスを購入することにより、eDirectory 8.8.1 を使用できます。Novell eDirectory 8.8.1 は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* に収録されています。

- ◆ Novell Client™ 4.9 Support Pack 1a 以降がインストールされている必要があります。最新の Novell Client (バージョン 4.91 SP2 以降) は、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) からダウンロードできます。

**重要：**Windows 2000/2003 サーバに Novell Client をインストールして、同じマシンに Middle Tier Server をインストールした場合、このサーバから Novell Client をアンインストールすると、Middle Tier Server で障害が発生します。Novell Client のアンインストールプログラムを実行すると、ZENworks Middle Tier Server で必要とされる重要なファイルが削除されます。

この同じソフトウェアの組み合わせのシナリオで、Novell Client を 4.9 SP2 にアップグレードすると、異なるバージョンの `nicm.sys` がインストールされます。ZENworks 7 Middle Tier Server に含まれる `nicm.sys` を使用しないと、Middle Tier Server で障害が発生します。

この問題を回避するには、次の 2 つのオプションがあります。

- 1) クライアントをアップグレードする前に ZENworks 7 Middle Tier Server に含まれる `nicm.sys` ファイルを保存し、アップグレード後に再びコピーします (この場合、クライアントのアップグレード後に Middle Tier を再インストールすることによっても実行できます)。
- 2) クライアントのアップグレード後に、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10093371 から `nicm.sys` をダウンロードし、コピーすることにより、更新されたクライアントバージョンの `nicm.sys` を上書きします。

- ◆ 元のバージョンの ZENworks 7 Desktop Management を使用している場合、ConsoleOne® 1.3.6 をインストールします。

ZENworks 7 Desktop Management with SPI を使用している場合は、ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD に収録されている ConsoleOne 1.3.6e をインストールします。

**2** Active Directory も、このサーバにインストールされている (すなわち、サーバがプライマリドメインコントローラである) 場合、eDirectory LDAP がデフォルト以外のポートでリッスンするように設定されていることを確認します (389: 非保護、636: 保護)。

**2a** LDAP サーバオブジェクトを変更できる権利を持つように、Novell Client からは、Admin(またはそれと同等)として eDirectory にログインします。

**2b** ConsoleOne で、[LDAP サーバ] オブジェクトを右クリックし、[プロパティ] > [一般] の順に選択します。

**2c** [TCP Port (TCP ポート)] フィールドで、TCP ポートをデフォルト以外のポートに変更します (ポート 388 などが適しています)。

この操作は旧バージョンの eDirectory では若干異なります。場合によっては、LDAP サーバの [その他] のページを開き、[TCP Port (TCP ポート)] プロパティを探して、値の変更が必要です。

**2d** [SSL Configuration (SSL 設定)] タブをクリックして、[SSL Configuration (SSL 設定)] ページを開きます。

**2e** [SSL Port (SSL ポート)] フィールドで、ポート番号を 636 以外の数字に変更し、[適用] をクリックします。

ポート変更の適用後、エラーが表示される場合、それを無視してエラーダイアログボックスを閉じることができます。

**2f** [NLDAP サーバを即時リフレッシュ] ボタンをクリックします。

NLDAP サーバのリフレッシュ後、エラーが表示される場合は、それを無視してエラーダイアログを閉じることができます。

**2g** Windows のデスクトップで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックして、[NDS Services] をダブルクリックします。

**2h** [NDS Services] ウィンドウで、*nldap.dlm* を選択して、[開始] をクリックして TCP ポートへの変更に同意します。

コマンドプロンプトで次のコマンドを入力することにより、LDAP サーバがリッスンしているポートを確認できます。

```
netstat -a -n
```

**3** iMonitor もこのサーバにインストールされている場合、80 以外のポートで実行するように設定します。

**3a** Windows のデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] の順にクリックします。

**3b** [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウでプラス記号 (+) をクリックし、コンソールツリーのサーバノードを展開します。

**3c** [既定の Web サイト] アイコンで、( 停止中の ) 説明について確認します。

Web サイトが実行中の場合、**ステップ 3d** に進みます。

Web サイトが停止している場合、**ステップ 3e** に進みます。

- 3d** (条件付き) コマンドプロンプトに次のコマンドを入力することにより、IIS Web サーバを停止します。

```
iisreset /stop
```

- 3e** デスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [NDS Services] を順にクリックして、[NDS iMonitor] を選択し、[停止] をクリックして、iMonitor サービスを停止します。

画面はリフレッシュされず、サービスが停止されていることを示さない場合があります。場合によっては、NDS® サービスを閉じて、もう一度それらを開き、サービスが停止していることを確認する必要があります。

コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、ポート 80 でリッスンしているサービスがないことを確認できます。

```
netstat -a -n
```

- 3f** 競合するポートの設定を変更します。ConsoleOne から、eDirectory サーバと同じコンテナで、[HTTP サーバ-<サーバ名>] オブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

- 3g** *httpDefaultClearPort* および *httpDefaultTLSPort attributes* 属性を展開します。

- 3h** 各属性の値を選択して [変更] をクリックし、DHost コンソールと *ndsimon* 用として、他のアプリケーションに割り当てられていないポート番号を入力します。

たとえば、そのポート 9000 および 443 が他のアプリケーションによって使用されていないと仮定すると、*httpDefaultClearPort* のデフォルト値が 80 に設定されている場合、それを 9000 に変更することができ、*httpDefaultTLSPort* が 43 に設定されている場合、それを 443 に変更する必要があります。

- 3i** 新しいポート番号が有効になるように、eDirectory をシャットダウンして再起動します。

- 3j** iMonitor を起動します。デスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [NDS Services] の順にクリックして、[NDS iMonitor] を選択し、[開始] をクリックします。

コマンドプロンプトで次のコマンドを入力することにより、iMonitor が、設定されたポートでリッスンしていることを確認します。

```
netstat -a -n
```

- 3k** コマンドプロンプトから、次のコマンドを入力して、IIS を起動します。

```
iisreset /start
```

- 4** Desktop Management Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) または [97 ページのセクション 9.2 「SPI Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

- 5** サーバに ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールします。詳細については、[113 ページの § 章 10 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」](#) または



123 ページのセクション 10.2 「SP1 Middle Tier Server のインストール手順」を参照してください。

- 6 サーバにアクティブディレクトリがあり、サーバがプライマリドメインコントローラである場合、IIS 権利を認めて Middle Tier レジストリエントリを変更します。
  - 6a Windows デスクトップで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックし、「regedt32」と入力します。
  - 6b Windows レジストリエディタで、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Novell\Xtier を開き、*Security>Permissions* の順にクリックします。
  - 6c [Xtier のアクセス許可] ダイアログボックスで、[詳細] をクリックします。
  - 6d [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。
  - 6e [ユーザーまたはグループの選択] ダイアログボックスの [名前] フィールドで、ドメインが、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたところに選択されていることを確認し、リストから [IUSR\_server\_name] ユーザオブジェクトを選択し、[OK] をクリックします。
  - 6f [Xtier のアクセス許可のエントリ] ダイアログボックスで、次の許可のそれぞれに対して [許可] を選択します。
    - ◆ 値の照会
    - ◆ 値の設定
    - ◆ サブキーの作成
    - ◆ サブキーの列挙
    - ◆ 通知
    - ◆ 削除
    - ◆ 読み取り制御
  - 6g [OK] をクリックします。
  - 6h [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[すべての子オブジェクトのアクセス許可を元に戻し、継承可能なアクセス許可を継承できるようにする] を選択して [適用] をクリックします。
  - 6i [セキュリティ] 警告ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
  - 6j [Xtier のアクセス制御の設定] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
  - 6k [Xtier のアクセス許可] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
  - 6l Windows レジストリエディタを閉じます。
- 7 ブラウザを開き、NSAdmin ユーティリティのアドレス ([http://server\\_IP\\_address/oneNet/nsadmin](http://server_IP_address/oneNet/nsadmin)) を入力し、ZENworks Middle Tier Server 用の LDAP ポート設定を変更します。

## 11.3 インストールの確認

インストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の

「ZENworks Desktop Management のインストールの確認」の「サーバへの Desktop Management コンポーネントのインストールの確認」で詳細手順を確認してください。

# デスクトップ管理エージェントのインストールと設定

# 12

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management コンポーネントにより提供されるワークステーション機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合のみ利用できません。そのワークステーションに Novell Client™ を現在インストールしている場合でも、これは当てはまります。デスクトップ管理エージェントのインストールは、Novell Client により以前インストールされた ZENworks 機能を削除し、選択した ZENworks ワークステーション機能で置き換えます。

デスクトップ管理エージェントのインストールでは、さまざまな ZENworks 機能を以前の状態を基にインストールできます。つまり、以前のインストールでデスクトップ管理エージェントによってインストールされた任意のコンポーネントを、デスクトップ管理エージェントセットアップのメンテナンスダイアログボックスの [変更] オプションを使用して追加または削除できます。詳細については、[167 ページのセクション 12.8 「デスクトップ管理エージェントの設定の変更」](#) を参照してください。

インストールプログラムは、Microsoft Windows インストーラ機能を使用します。Microsoft Windows インストーラに関する詳しい説明は、[MSI Web サイト \(http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp\)](http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp) を参照してください。

この節では、次の内容について説明します。

- ◆ [143 ページのセクション 12.1 「インストールの前に」](#)
- ◆ [144 ページのセクション 12.2 「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)
- ◆ [150 ページのセクション 12.3 「Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール」](#)
- ◆ [155 ページのセクション 12.4 「Application Launcher プラグインによるエージェントの配布」](#)
- ◆ [156 ページのセクション 12.5 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」](#)
- ◆ [162 ページのセクション 12.6 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」](#)
- ◆ [167 ページのセクション 12.7 「インストールの確認」](#)
- ◆ [167 ページのセクション 12.8 「デスクトップ管理エージェントの設定の変更」](#)

この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 のデスクトップ管理エージェントにも適用されます。

## 12.1 インストールの前に

デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの `zfdagent.msi` は、インストール処理中に各ワークステーションで、Microsoft Windows インストーラ (MSI) のバージョン 1.11 以上が必要です。

デスクトップ管理エージェントを、MSI 1.11(またはそれ以降)がすでにインストールされているワークステーション (Windows 2000 または Windows XP システム) にインストールしている場合、エージェント MSI インストールプログラムは正常に動きます。

## 12.2 手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール

ここでは、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* または *zfdagent.msi* のダウンロードコピーから作成するイメージを使用してデスクトップ管理エージェントをインストールすることについて説明します。次の各節で構成されています。

- ◆ 144 ページのセクション 12.2.1 「手動のインストール手順」
- ◆ 150 ページのセクション 12.2.2 「手動のインストールにおける機能の追加」

### 12.2.1 手動のインストール手順

デスクトップ管理エージェントを、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* から個々のワークステーションに手動でインストールする場合は次の手順を使用します。

- 1 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD*) を挿入します。


ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの位置からインストールを実行する場合、ISO ファイルのすべてが、*winsetup.exe* を実行している位置にコピーされていることを確認します。

---


**重要：**インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD*) を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[*javaw.exe*] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

---

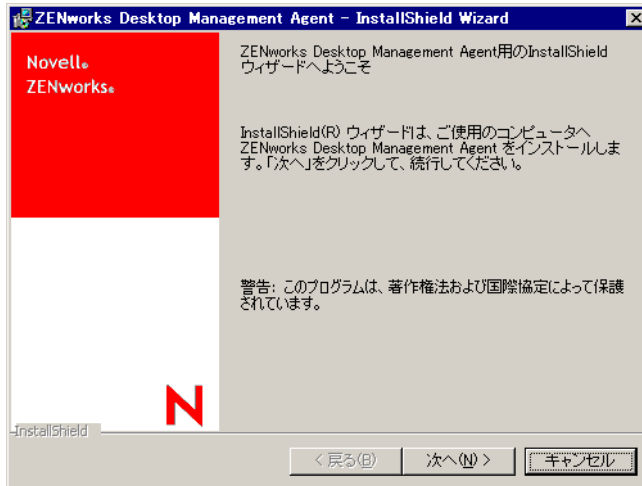
winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

Novell. ZENworks. 7 <span style="float: right;">Beta </span>	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PC を含む)、および RIM BlackBerry デバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworks で使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、および ZENworks Documentation Web サイトを表示します。
<a href="#">→ 終了</a>	

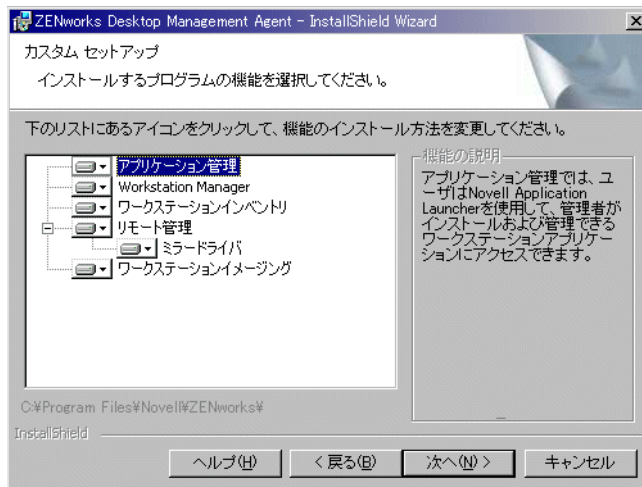
- 2 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 3 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell. ZENworks. 7 Desktop Management <span style="float: right;">Beta </span>	
スキーマの拡張と製品のライセンスリング	Novell eDirectory ツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Management をサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management Agent と Desktop Management Service との間の要求を処理します。
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installer が必要です。
Documentation	Readme、インストールガイド、および ZENworks Documentation Web サイトを表示します。
<a href="#">← 戻る</a> <a href="#">→ 終了</a>	

- 4 [デスクトップ管理エージェント] をクリックして、ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールウィザードを起動します。
- 5 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。



- 6 ライセンス契約書を読みます。ライセンスの各条項に同意する場合は [ライセンス契約書の条件に同意します] をクリックします。  
または  
ライセンスの各条項に同意しない場合は [ライセンス契約書の条件に同意しません] をクリックします。これによりインストールプログラムは終了します。
- 7 [カスタムセットアップ] ページで、ワークステーションにインストールする機能を選択し、[次へ] をクリックします。



インストール可能な機能は次の通りです。

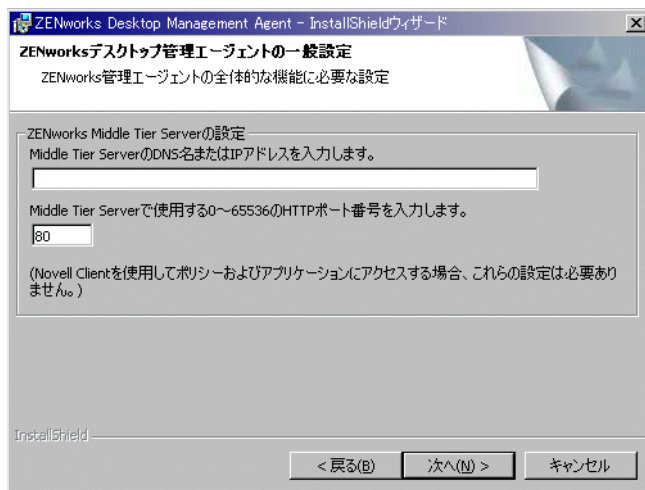
- ◆ [アプリケーション管理] : Novell Application Launcher™ を使用して、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。アプリケーション管理は、デスクトップ管理エージェントの将来の更新を容易にするため、選択されていなくてもデフォルトでインストールされます。

- ◆ **Workstation Manager:** 管理者が、Novell eDirectory™ を使用して、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
- ◆ **ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory):** 管理者が、スキャンの対象になるワークステーションからハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。
- ◆ [リモート管理] : 管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
- ◆ **ミラードライバ:** この機能は、ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。ミラードライバを必要としない場合は、選択を解除できます (最適化が無効になります)。

Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。

- ◆ **ワークステーションイメージング (Workstation Imaging):** 管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

8 [一般設定] ページで、フィールドに入力し、[次へ] をクリックします。



**Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを入力します :** エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定します。

---

**重要 :** プロトコル (http: や https: など) を IP アドレスと共に入力すると、デスクトップ管理エージェントが ZENworks Middle Tier Server に接続できません。

---

**Middle Tier Server** により使用されるポート番号を入力します : Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または HTTPS ポート番号を指定します。

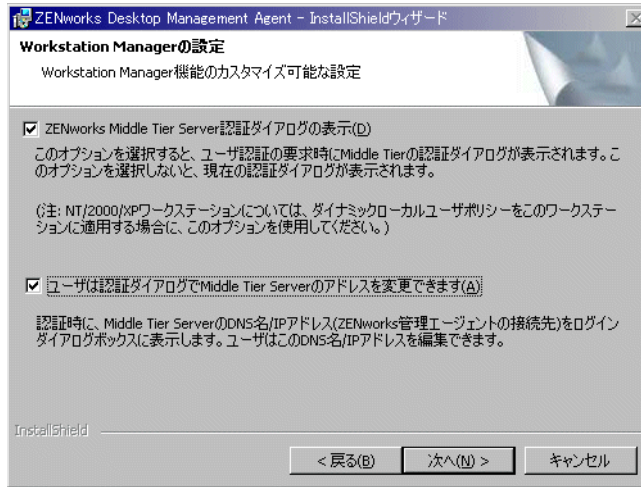
---

**重要 :** 安全な (HTTPS) ポートを指定する場合、ポート 443 を使用する必要があります。

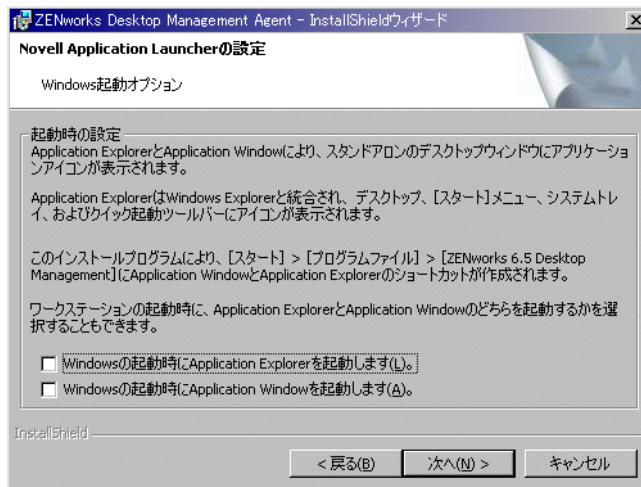
---

IP アドレスまたは DNS 名およびポート番号により、ワークステーションは Middle Tier と一緒に起動する Apache Web サーバにアクセスし、Desktop Management Server へ認証アカウント情報を渡します。Novell Client がインストールされている場合、IP アドレスまたは DNS 名はオプションです。

- 9 (条件付き。Novell Client がインストールされていないワークステーションにインストールしている場合は、[Workstation Manager 設定ページ] が表示されます)



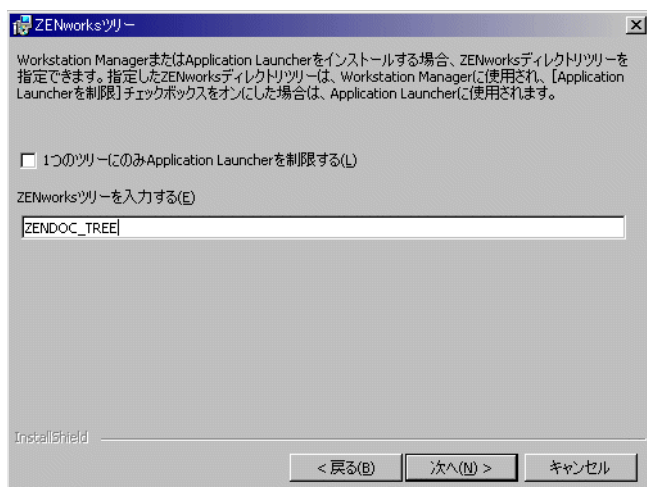
[ZENworks Middle Tier Server 認証ダイアログの表示] または [ユーザは認証ダイアログで Middle Tier Server のアドレスを変更できます] いずれか、または両方を選択して、Workstation Manager 機能に対する設定をカスタマイズし、[次へ] をクリックし、もう一度 [次へ] をクリックして、[Novell Application Launcher/Windows 起動オプション] ページを表示します。



- 10 起動時に Application Explorer または Application Window いずれかを起動する (またはどちらも起動しない) ことを選択して、[次へ] をクリックします。



- 11 (条件付き。Workstation Manager または Application Launcher をインストールする場合、[ZENworks ツリー] ページが表示されます。)

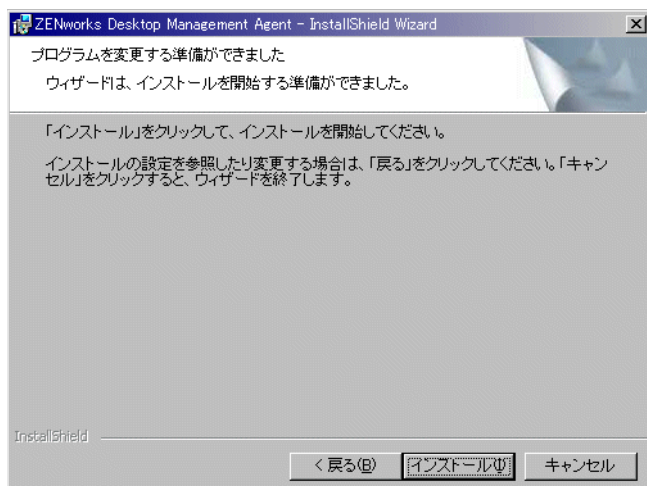


フィールドで指定する eDirectory ツリーで利用可能なアプリケーションに、ワークステーションのユーザがアクセスするのを制限したい場合は、[1つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] を選択します。

ユーザが1つのツリーでアプリケーションを受信するのを制限したい場合は、[ZENworks ディレクトリツリー] フィールドでその eDirectory ツリー名を指定し、[次へ] をクリックして、[プログラムのインストールが可能] ページを表示します。

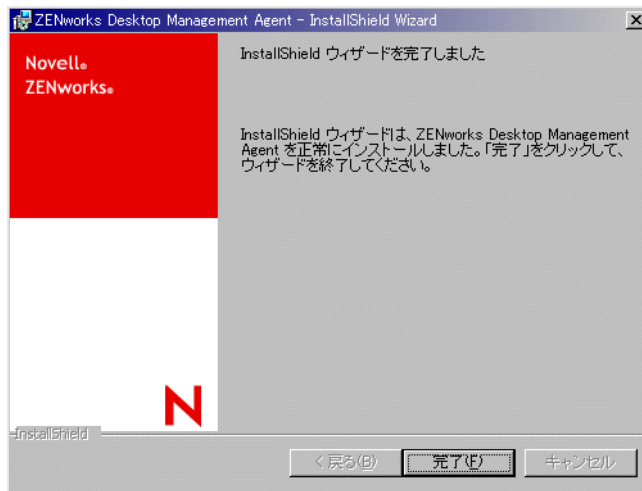
または

[1つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] を選択しなかった場合でも、[ZENworks ツリー] フィールドでツリーの名前を指定できます。このツリーは、ポリシーがアクセスされ、ワークステーションに適用されているツリーとして、Workstation Manager に認識されます。[次へ] をクリックして、[プログラムのインストールが可能] ページを表示します。



- 12 デスクトップ管理エージェントインストール用に選択した設定を確認する場合は、[戻る] をクリックします。設定が正しい場合、[インストール] をクリックして、インストールプログラムを起動します。

13 [InstallShield ウィザードが完了しました] のページで、[終了] をクリックします。



## 12.2.2 手動のインストールにおける機能の追加

初回インストール後にインストールプログラムを実行する場合、[変更] オプションを選択して、個々のワークステーションに機能を追加できます。この手順には、インストールプログラムが `zfdagent.msi` 全体にアクセスできる (すなわち、ネットワークドライブ、ローカルワークステーション、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD*、または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD* からアクセスできる) ことが必要です。

## 12.3 Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール

`zfdagent.msi` パッケージは、多数のファイルをインストールし、ワークステーションに対してさまざまな環境設定の変更を実行する複雑なアプリケーションです。デスクトップ管理エージェントをインストールする最も効率的な方法は、Novell Application Launcher を使ってエージェントを MSI アプリケーションとしてワークステーションに配布する方法です。Novell Application Launcher は、エージェント MSI パッケージを配布するだけでなく、Windows Installer を呼び出してワークステーションへのインストールを実行します。

ここでは、Application Launcher を使って配布するよう MSI パッケージを設定する手順について説明します。

- ◆ 151 ページのセクション 12.3.1 「エージェント MSI パッケージの保存」
- ◆ 151 ページのセクション 12.3.2 「MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定」
- ◆ 152 ページのセクション 12.3.3 「MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更」
- ◆ 153 ページのセクション 12.3.4 「MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加」

## 12.3.1 エージェント MSI パッケージの保存

Novell ZENworks 7 Desktop Management CD の \agentinstall ディレクトリを参照する場合、次の言語フォルダとファイルが表示されます。

english\zfdagent.msi ( 英語版のインストールファイル )  
portugue\zfdagent.msi ( ポルトガル語版のインストール )  
francais\zfdagent.msi ( フランス語版のインストール )  
deutsch\zfdagent.msi ( ドイツ語版のインストール )  
espanol\zfdagent.msi ( スペイン語版のインストール )  
nihongo\zfdagent.msi ( 日本語版のインストール )

Novell Application Launcher に後でアクセスできるように、ネットワークサーバの位置に、選択した zfdagent.msi ファイルをコピーする必要があります。

## 12.3.2 MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定

- 1 ConsoleOne® で、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 [新規オブジェクト] ダイアログボックスで、[アプリケーション] をクリックし、[OK] をクリックして [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスで、[MSI ファイルが含まれるアプリケーション] オプションをクリックし、[次へ] をクリックします。
- 4 .msi ファイルをコピーしたネットワークの位置のパスを指定します。
- 5 [次へ] をクリックし、必要に応じてフィールドを変更して、アプリケーションオブジェクトをカスタマイズします。
- 6 [次へ] をクリックし、エージェント MSI の配布に先立って、ワークステーションが満たす必要のあるシステム要件を定義します。
- 7 [次へ] をクリックして、エージェント MSI アプリケーションオブジェクトを、配布するユーザと関連付けます。
- 8 [次へ] をクリックし、アプリケーションオブジェクトの設定を確認したら、[終了] をクリックしてアプリケーションオブジェクトを作成します。

---

**重要 :** エージェント MSI ( または何らかの MSI パッケージ ) を Novell Application Launcher を使って配布する前に、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトが [強制キャッシュ] に設定されており、eDirectory と Active Directory ( 使用されている場合 ) で、ローカルワークステーション上のユーザのアカウント情報が同期されていることを確認してください。

---

### 12.3.3 MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更

デフォルトで、次の機能のすべてがデスクトップ管理エージェントによりインストールされます。

- ◆ [アプリケーション管理] : Novell Application Launcher を使用することにより、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。
- ◆ **Workstation Manager:** 管理者が eDirectory を使って、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
- ◆ ワークステーションインベントリ (**Workstation Inventory**): 管理者が、スキャンの対象になるワークステーションからハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。
- ◆ [リモート管理] : 管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
- ◆ ミラードライバ: ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションを共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。ミラードライバを必要としない場合は、選択を解除できます (最適化が無効になります)。

Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。

- ◆ ワークステーションイメージング (**Workstation Imaging**): 管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

このデフォルトのインストールを変更する場合、MSI 機能を、zfdagent.msi アプリケーションオブジェクトのパブリックプロパティとして追加できます。次の手順を使用して、インストール対象機能のリストを変更します。

- 1 アプリケーションオブジェクトの [MSI] タブをダブルクリックし、[プロパティ]、[追加] を順にクリックして、[追加するプロパティを選択してください] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [値の名前] フィールドで、ADDLOCAL をプロパティ名として入力し、[値のデータ] フィールドにプロパティの値を指定します。プロパティ値として次の機能名を1つ以上使用します。
  - ◆ ApplicationLauncher
  - ◆ WorkstationManager
  - ◆ RemoteManagement
  - ◆ MirrorDriver (このプロパティは、RemoteManagement プロパティも追加しなければ機能しません)
  - ◆ Imaging
  - ◆ インベントリ (Inventory)

コンマ (スペースなし) で区切ることで、これらの値を2つ以上リストに追加できます。たとえば、Application Launcher と Workstation Manager を機能として追加する場合、プロパティとして「ADDLOCAL」と入力し、そのプロパティの値として「ApplicationLauncher,WorkstationManager」と入力します。

3 [OK] をクリックして、プロパティを [プロパティ] リストに追加します。

## 12.3.4 MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加

次の表は、MSI アプリケーションオブジェクトに追加できるプロパティと、その値 (値に対する定義を含む) の一覧を示しています。これらのプロパティの1つが値なしでリストされている場合、デフォルト値が使用されます。

表 12-1 MSI アプリケーションオブジェクトに追加できるプロパティ

プロパティ	値	意味
ADDLOCAL	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ WorkstationManager</li> <li>◆ ApplicationLauncher</li> <li>◆ RemoteManagement</li> <li>◆ MirrorDriver</li> <li>◆ インベントリ (Inventory)</li> <li>◆ Imaging</li> </ul>	インストールする機能をカンマで区切った一覧。
LOGIN_PASSIVE_MODE	0	ユーザログイン時に Novell ログインを表示します。
	1	デフォルトです。ユーザログイン時に標準の Microsoft ログインを表示します。
<p>注: ダイナミックローカルユーザを使用する場合、このプロパティに、値ゼロ (0) を割り当てる必要があります。</p>		
EDITABLE_MT_ADDRESS	1	認証が行われる ZENworks Middle Tier の IP アドレスをユーザが変更できるようにします。Novell Client がインストールされていない場合のみ利用できます。
	0	デフォルトです。ユーザは Middle Tier のアドレスを指定することができません。
<p>このプロパティ用の値は、Novell Client がワークステーションにインストールされていない場合のみ有効です。Novell Client がすでにインストールされている場合、zfdagent.msi をインストールしてもその設定は有効になりません。</p> <p>zfdagent.msi のインストール後に Novell Client が削除されると、これらの設定は有効になります。</p>		
STARTUP_APEXPLORER	1	Windows 起動時に Application Explorer を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Explorer を起動しません。

プロパティ	値	意味
STARTUP_APPWINDOW	1	Windows 起動時に Application Window を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に Application Window を起動しません。
MT_SERVER_ADDRESS	このプロパティは、ZENworks Middle Tier Server の IP アドレスまたは DNS 名を指定します。Middle Tier Server を使用していない場合、このプロパティを指定する必要はありません。	
HTTP_PORT	0-65536	このプロパティは、Middle Tier Server と通信する場合にデスクトップ管理エージェントによって使用される HTTP ポートを指定します。Middle Tier Server を使用している場合、このプロパティを追加して、その値を定義する必要があります。
	80	デフォルトの HTTP ポートです。
NAL_SINGLE_TREE	1	Novell Application Launcher が、1 つのツリー内のアプリケーションにしかアクセスできないよう制限します。
	0	デフォルトです。Application Launcher がアプリケーションにアクセスするのに複数のツリーにアクセスできるようにします。
ZENWORKS_TREE	任意のツリー名	<p>eDirectory ツリーを ZENworks ツリーとして使用するよう指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Workstation Manager がインストールされている場合、このプロパティで指定されたツリーが、Workstation Manager によるポリシーの検索対象ツリーになります。</li> <li>◆ NAL_SINGLE_TREE プロパティが設定され、Novell Application Launcher がインストールされている場合、このツリーは、Application Launcher がアプリケーションを検索する唯一のツリーになります。</li> </ul> <p>詳細については、『<a href="#">Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド</a>』の“ZENworks ツリーの使用”を参照してください。</p>

プロパティ	値	意味
IGNORE_3RDPARTY_GINA	1	サイレントモードのインストールで、サードパーティの GINA が検出された場合に、それを無視してデスクトップ管理エージェントのインストールを続行します。
	0	デフォルトです。サイレントモードのインストールで、サードパーティの GINA は検出されたとしてもインストールしません。
		<p>インストールプログラムをサイレントモードで実行し、サードパーティの GINA が検出された場合、インストールを続行すると、その GINA が置き換えられることを示す警告がインストールダイアログボックスに表示されます。ユーザはインストールをキャンセルするか、続行するかを選択できます。</p> <p>インストールを続行すると (つまり、サイレントモードでこのプロパティ値を 1 に設定するか、非サイレントモードでユーザが [続行] をクリックした場合)、サードパーティの GINA に依存するアプリケーションが動作しなくなる可能性があります。</p>
WM_LOGIN_EVENTS	1	Workstation Manager への Novell Client ログインイベント通知の送信を有効にします。
	0	デフォルトです。Workstation Manager への Novell Client ログインイベント通知の送信を無効にします。
		<p>イベント通知を使用すると、ZENworks Policy Scheduler は、該当するイベントタイプに対してスケジュールされているポリシーを起動できません。初期 Novell ログインを無効にしている場合、またはユーザが赤い [N] メニューから eDirectory にログインする場合は、この設定を有効にして、ログインイベントが Workstation Manager に転送されるようにしてください。</p> <p>このプロパティは、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 のインストール用に追加されました。</p>

## 12.4 Application Launcher プラグインによるエージェントの配布

Novell Application Launcher プラグインは、Web 経由でインストールされる単純化されたバージョンの Novell Application Launcher で、ユーザ関連アプリケーションの起動を可能にします。Application Launcher プラグインのインストールは、デスクトップ管理エージェント (または旧バージョンのエージェントまたは Novell Client) がインストールされていないワークステーションから Web ページ (myapps.html) にユーザがアクセスする場合に発生します。Application Launcher プラグインをワークステーションでインストールしたら、それを使用して、デスクトップ管理エージェントをワークステーションに配布できます。

Application Launcher プラグインのインストールの詳細については、[169 ページの § 章 13 「Novell Application Launcher プラグインのインストール」](#) を参照してください。

Application Launcher プラグインをユーザのワークステーションにインストールすると、ユーザはユーザ関連アプリケーションへアクセスできます。MSI アプリケーションオブジェクトを設定して、デスクトップ管理エージェント (zfdagent.msi) を配布できます。MSI アプリケーションオブジェクト用のセキュリティレベルが、[通常の実行] に設定さ

れていることを確認します。zfdagent.msi を実行するユーザは、管理者権限も持っている必要があります。MSI アプリケーションオブジェクトの作成に関する詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「アプリケーション管理」の「配布：単純なアプリケーション」を参照してください。

## 12.5 デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開

デスクトップ管理エージェントディストリビュータは、Microsoft ドメインおよび Microsoft Active Directory を使用することによって、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開と今後のアップグレードを容易にします。エージェントディストリビュータでは、デフォルトで、ターゲットワークステーションを選択してデスクトップ管理エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Active Directory を使用します。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 156 ページのセクション 12.5.1「エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件」
- ◆ 157 ページのセクション 12.5.2「デスクトップ管理エージェントの展開」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されます。

---

### 12.5.1 エージェントディストリビュータの使用に対する前提条件

エージェントディストリビュータを使用して Microsoft ドメイン環境内にデスクトップ管理エージェントを展開する前に、次の前提条件が満たされていることを確認します。

- ◆ エージェントディストリビュータは、ConsoleOne と一緒にインストールされ、ConsoleOne にアクセス可能で Microsoft ドメインおよび Active Directory の一部であるワークステーションから実行できます。agentdistributor.exe はスタンドアロンユーティリティで、\sys\public\mgmt\consoleone\1.2\bin ディレクトリからローカルの配布ワークステーションへコピーできます。エージェントディストリビュータは、ローカルに実行されます。
- ◆ Windows ワークステーションでログインしているユーザは、ドメイン管理者グループのメンバーである必要があります。
- ◆ ZENworks デスクトップ管理エージェントの MSI インストールファイル (zfdagent.msi) は、ワークステーションで利用可能な Windows ワークステーションまたはネットワーク上の場所に配置されています。zfdagent.msi ファイルは、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *ZENworks 7 Desktop Management with SP1 CD*) の \agentinstall\english ディレクトリにあります。
- ◆ デスクトップ管理エージェントが展開される各ワークステーションには、Microsoft Windows インストーラがインストールされている必要があります。インストーラは Windows 2000 および Windows XP ワークステーションでは前もって設定されています。

Windows Installer がインストールされている必要がある Windows 98 ワークステーションでは、*Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* (または *ZENworks 7 with Support Pack*



1 Companion 2 CD) を挿入し、[Companion Programs and Files (Companion プログラム およびファイル)]、[More ( 続き )]、[Microsoft Windows Installer (Microsoft Windows インストーラ)] の順にクリックします。

- ◆ ネットワークワークステーションは、通常、ログイン時にネットワークサーバから時計の時刻を受信します。ネットワーク環境では、すべてのサーバの時計の時刻が同期されている必要があります。エージェントの配布ユーティリティを使用してエージェントを配布するために、サーバの時計の時刻が 10 分以内の範囲内に収まっていることを確認する必要があります。時計時刻がこの範囲内に収まらない場合、zfdagent.msi は配布されず、次のエラーが表示されます。

Failed - Unable to map Admin\$ share drive.

## 12.5.2 デスクトップ管理エージェントの展開

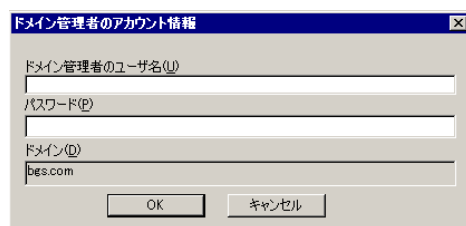
Microsoft ドメインまたは Active Directory のメンバーであるワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開するには、次のようにします。

- 1 Windows ワークステーションで、ドメイン管理者グループのメンバーであるユーザとしてドメインにログインします。
- 2 Windows ワークステーションで ConsoleOne を起動し、[ツール] > [ZENworks ユーティリティ] > [エージェントのインストール] の順にクリックします。

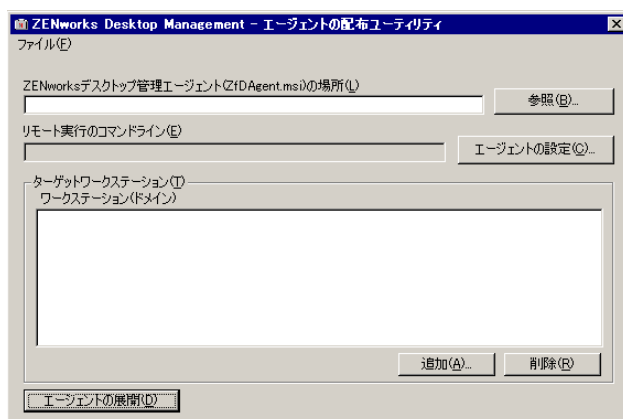
または

sys\public\mgmt\ConsoleOne\1.2\bin ディレクトリから配布ワークステーションに agentdistributor.exe ファイルをコピーして、ローカルワークステーションでそれを実行します。

ドメイン管理者グループのメンバーでない場合、またはワークステーションがドメインのメンバーでない場合、エージェントディストリビュータのメインダイアログボックスは、入力を待ちます (これにより、エージェントを Windows ワークグループに配布することが可能になります。162 ページのセクション 12.6 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」を参照)。そうでなければ、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 ドメイン管理者ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックして次のダイアログボックスを表示します。

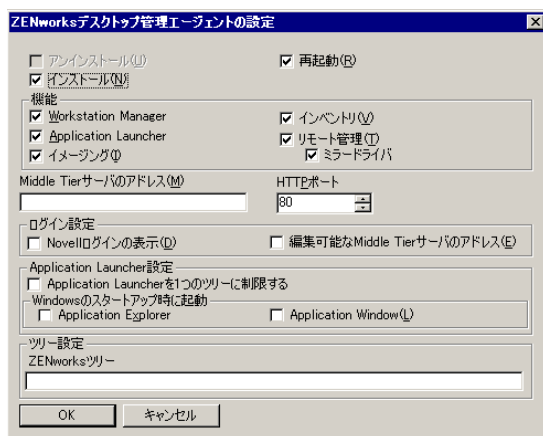


- 4 [ZENworks デスクトップ管理エージェントの場所] (zfdagent.msi) フィールドで、zfdagent.msi ファイルを参照して選択します。

zfdagent.msi ファイルがワークステーションのローカルドライブまたは利用可能なネットワークドライブに配置されていない場合、Novell ZENworks 7 Desktop Management CD に配置されている \agentinstall\english ディレクトリからコピーします。

- 5 管理エージェントオプションを設定します。手順は次のとおりです。

- 5a [エージェントの設定] をクリックして [ZENworks デスクトップ管理エージェントの設定] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスを使用して、デスクトップ管理エージェントオプションを設定します。選択するオプション( [インストール] または [アンインストール] )によって、他のオプションが利用できるかどうかが決まります。各オプションの説明が次にリストされています。

アンインストール/インストール/再起動 : デスクトップ管理エージェントをインストールまたはアンインストールする場合に選択します。選択が完了した後、ワークステーションを再起動する場合には、[再起動] を選択します。

機能 : インストールまたはアンインストールする機能を選択します。[アンインストール] および全機能を選択すると、ZENworks デスクトップ管理エージェントはアンインストールされます。

**Middle Tier アドレスと HTTP ポート :** ZENworks Middle Tier Server を使用している場合、デスクトップ管理エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定し、Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または NTTPS ポート番号を指定します。

Novell Client を使用している場合は、Middle Tier アドレスは必要ありません。

Middle Tier アドレスを指定しないと、エージェントディストリビュータが、Novell Client がインストールされるインストール時間を確認します。Middle Tier が指定されていない場合、エージェントディストリビュータはエージェントをインストールしません。

**ログイン設定 :** この設定は、Workstation Manager で利用できる ZENworks Middle Tier Server ログインオプションを決定します。

- ◆ **Novell ログインの表示 :** このオプションを選択して、Workstation Manager により表示される Middle Tier Server ログインを有効にします。
- ◆ **編集可能な Middle Tier アドレス :** このオプションを選択して、ログイン中の Middle Tier Server アドレスをユーザが編集できるようにします。

**Application Launcher 設定 :** この設定は Novell Application Launcher に適用します。

- ◆ **Application Launcher を 1 つのツリーに制限する :** このオプションを選択して、Novell Application Launcher が 1 つのツリーのアプリケーションにのみアクセスするように制限します。[ZENworks for Desktops ツリー] フィールドでツリーを指定します。
- ◆ **Windows のスタートアップ時に起動 :** Windows のスタートアップフォルダに追加され、Windows 起動時に起動される Novell Application Launcher ビュー (*Application Explorer* または *Application Window*) を選択します。Novell Application Launcher の起動に Windows のスタートアップフォルダを使用しない場合は、どちらのビューも選択しません。

**ツリー設定 :** このフィールドを使用して、ZENworks ツリーとして使用される eDirectory ツリーを指定します。Workstation Manager がインストールされている場合、このツリーはポリシーを探すツリーになります。[1 つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] が選択されており、Application Launcher がインストールされている場合、このツリーはアプリケーションを探すツリーになります。

**5b** デスクトップ管理エージェントオプションの設定が終了したら、[OK] をクリックして設定を保存し、[ZENworks Desktop Management - エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスに戻ります。

**6** デスクトップ管理エージェントを展開するワークステーションを追加します。手順は次のとおりです。

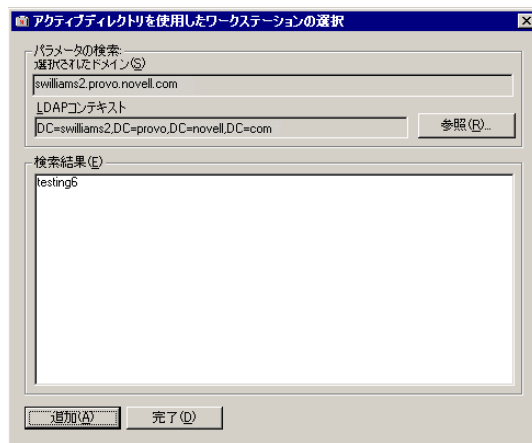
- 6a [ターゲットワークステーション] ボックスで、[追加] をクリックして、[ドメインの参照] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスは、管理者として認証されるドメインをリストします。ワークステーションが他のドメインに信頼をおくドメインに接続されている場合、その該当するドメインがリストされます。

- 6b 追加するワークステーションを含むドメインを選択し、[OK] をクリックして、[アクティブディレクトリを使用したワークステーションの選択] ダイアログボックスを表示します。

信頼されているドメインを選択すると、ドメイン管理者アカウント情報の入力が必要になります。

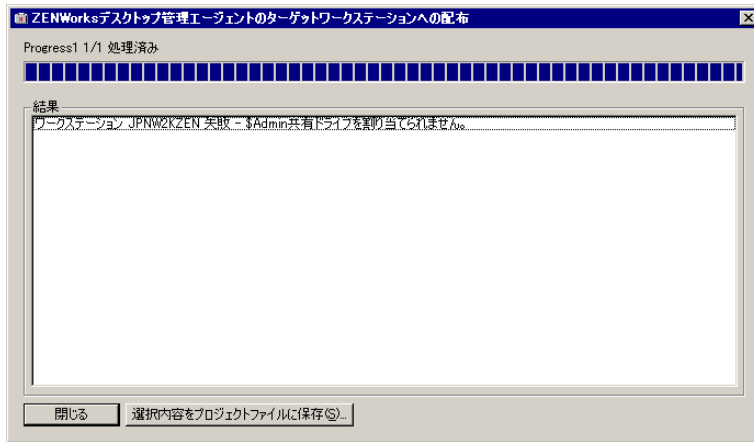


[検索結果] リストに、[LDAP コンテキスト] フィールドに表示されるコンテキストに配置されている全ワークステーションが表示されます。[参照] ボタンを使用して、コンテキストを変更できます。コンテキストの変更により、選択されたコンテキストに含まれるワークステーションが表示されます。

**重要:** エージェントディストリビュータの [検索結果] リストのデータは、Active Directory から入手されます。ワークステーションをドメインまたはディレクトリから削除するものの、Active Directory 管理ツールを使ってワークステーションを Active Directory から削除しない場合、[検索結果] リストは不正確になります。

- 6c [検索結果] リストでは、追加するワークステーションを選択し、[追加] をクリックします。

- 6d** ステップ 6a ～ステップ 6c を繰り返して、デスクトップ管理エージェントを展開するすべてのワークステーションを追加します。
- 7** 別の機会に再利用するために設定をプロジェクト (.pad) ファイルに保存する場合は、[ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックして、ファイル名を指定し、[OK] をクリックします。  
プロジェクトファイルは、読み込み可能な .ini フォーマットで保存されます。
- 8** [エージェントの展開] をクリックして、選択したワークステーションに対して管理エージェントを表示し、[ZENWorks デスクトップ管理エージェントのターゲットワークステーションへの配布] ダイアログボックスを表示します。



ダイアログボックスは展開の成功と失敗を表示します。失敗イベントをプロジェクトファイル (.pad) に保存して、失敗したワークステーションの問題を修正後、[ファイル] メニューから開くことができます。

エージェントディストリビュータは、各配布の試みの成功と失敗のリストを含むログファイル (lastrun.log) も保管します。ログファイルは展開ウィンドウが表示するのと同じ出力ですが、開始と終了時間も含まれます。ファイルは、agentdistributor.exe と同じディレクトリに保存されます。次に lastrun.log のサンプルファイルを示します。

```

===== Start time Thursday, April 01, 2004 11:32 AM =====

Workstation SWILLIAMSDELL Successful

Workstation SWDESKPRO-W98 Successful

===== End time Tuesday, April 06, 2004 11:34 PM =====

===== Start time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====

Workstation testing6 Failed - Unable to contact workstation.

```



- ◆ デスクトップ管理エージェントが展開される各ワークステーションには、Microsoft Windows インストーラがインストールされている必要があります。インストーラは Windows 2000 および Windows XP ワークステーションでは前もって設定されています。

Windows Installer がインストールされている必要がある Windows 98 ワークステーションでは、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) を挿入し、[Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)]、[More (続き)]、[Microsoft Windows Installer (Microsoft Windows インストーラ)] の順にクリックします。

- ◆ ネットワークワークステーションは、通常、ログイン時にネットワークサーバから時計の時刻を受信します。ネットワーク環境では、すべてのサーバの時刻の時刻が同期されている必要があります。エージェントの配布ユーティリティを使用してエージェントを配布するために、サーバの時刻の時刻が 10 分以内の範囲内に収まっていることを確認する必要があります。時計時刻がこの範囲内に収まらない場合、zfdagent.msi は配布されず、次のエラーが表示されます。

```
Failed - Unable to map Admin$ share drive.
```

## 12.6.2 Windows ワークグループメンバーへのデスクトップ管理エージェントの配布

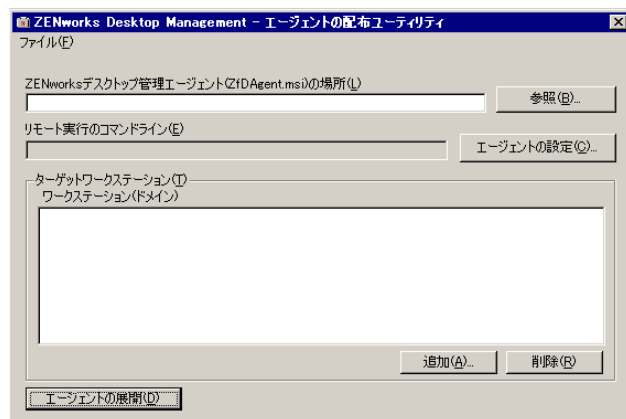
ZENworks 7 Desktop Management の一部として、同じ Windows ワークグループのメンバーであるワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開できます。

- 1 Windows ワークステーションで、Windows ワークグループの管理者としてローカルにログインします。
- 2 Windows ワークステーションで ConsoleOne を起動し、[ツール] > [ZENworks ユーティリティ] > [エージェントのインストール] の順にクリックします。

または

sys\public\mgmt\ConsoleOne\1.2\bin ディレクトリから配布ワークステーションに agentdistributor.exe ファイルをコピーして、ローカルワークステーションでそれを実行します。

[エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスが表示されます。

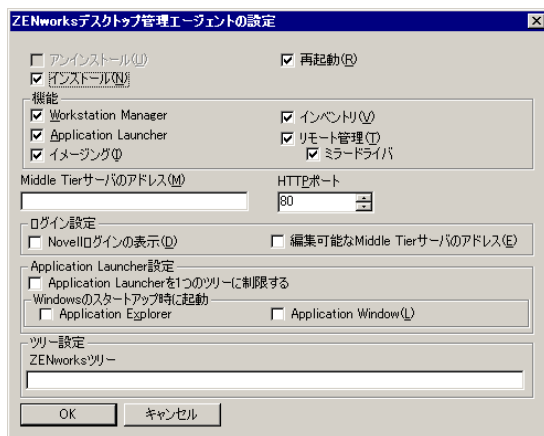


- 3 [ZENworks デスクトップ管理エージェント (*zfdagent.msi*) の場所] フィールドで、*zfdagent.msi* ファイルを参照して選択します。

*zfdagent.msi* ファイルがワークステーションのローカルドライブまたは利用可能なネットワークドライブに配置されていない場合、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* に配置されている `\agentinstall\english` ディレクトリからコピーします。

- 4 管理エージェントオプションを設定します。手順は次のとおりです。

- 4a [エージェントの設定] をクリックして [ZENworks デスクトップ管理エージェントの設定] ダイアログボックスを表示します。



このダイアログボックスを使用して、デスクトップ管理エージェントオプションを設定します。選択するオプション（[インストール] または [アンインストール]）によって、他のオプションが利用できるかどうかが決まります。各オプションの説明が次にリストされています。

**アンインストール/インストール/再起動**：デスクトップ管理エージェントをインストールまたはアンインストールする場合に選択します。選択が完了した後、ワークステーションを再起動する場合には、[再起動] を選択します。

**機能**：インストールまたはアンインストールする機能を選択します。[アンインストール] および全機能を選択すると、ZENworks デスクトップ管理エージェントはアンインストールされます。

**Middle Tier アドレスと HTTP ポート**：ZENworks Middle Tier Server を使用している場合、デスクトップ管理エージェントが接続する ZENworks Middle Tier Server の DNS 名または IP アドレスを指定し、Apache Web サーバ (NetWare) または IIS Web サーバ (Windows) がエージェントのログインをリッスンするのに使用する HTTP または NTTPS ポート番号を指定します。

Novell Client を使用している場合は、Middle Tier アドレスは必要ありません。

Middle Tier アドレスを指定しないと、エージェントディストリビュータが、Novell Client がインストールされるインストール時間を確認します。Middle Tier が指定されていない場合、エージェントディストリビュータはエージェントをインストールしません。

**ログイン設定**：この設定は、Workstation Manager で利用できる ZENworks Middle Tier Server ログインオプションを決定します。

- ◆ **Novell ログインの表示**：このオプションを選択して、Workstation Manager により表示される Middle Tier Server ログインを有効にします。



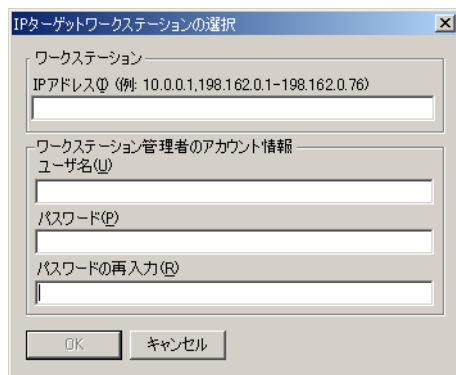
- ◆ 編集可能な **Middle Tier** アドレス : このオプションを選択して、ログイン中の Middle Tier Server アドレスをユーザが編集できるようにします。

**Application Launcher** 設定 : この設定は Novell Application Launcher に適用しません。

- ◆ **Application Launcher** を 1 つのツリーに制限する : このオプションを選択して、Novell Application Launcher が 1 つのツリーのアプリケーションにのみアクセスするように制限します。[ZENworks for Desktops ツリー] フィールドでツリーを指定します。
- ◆ **Windows** のスタートアップ時に起動 : Windows のスタートアップフォルダに追加され、Windows 起動時に起動される Novell Application Launcher ビュー (*Application Explorer* または *Application Window*) を選択します。Novell Application Launcher の起動に Windows のスタートアップフォルダを使用しない場合は、どちらのビューも選択しません。

ツリー設定 : このフィールドを使用して、ZENworks ツリーとして使用される eDirectory ツリーを指定します。Workstation Manager がインストールされている場合、このツリーはポリシーを探すツリーになります。[1 つのツリーにのみ Application Launcher を制限する] が選択されており、Application Launcher がインストールされている場合、このツリーはアプリケーションを探すツリーになります。

- 4b デスクトップ管理エージェントオプションの設定が終了したら、[OK] をクリックして設定を保存し、[ZENworks Desktop Management - エージェントの配布ユーティリティ] ダイアログボックスに戻ります。
- 5 デスクトップ管理エージェントを展開するワークステーションを追加します。手順は次のとおりです。
  - 5a [追加] をクリックして [IP ターゲットワークステーションの選択] ダイアログボックスを表示します。



- 5b 次のフィールドに情報を入力します。

#### ワークステーション

[IP アドレス] : デスクトップ管理エージェントを展開する各ターゲットワークステーションの IP アドレスを指定します。複数指定する場合はカンマで区切ります。IP アドレス範囲をリスト内の単一項目として指定することもできます。

#### ワークステーション管理者のアカウント情報

[Username] : ワークグループ管理者のユーザ名を入力します。

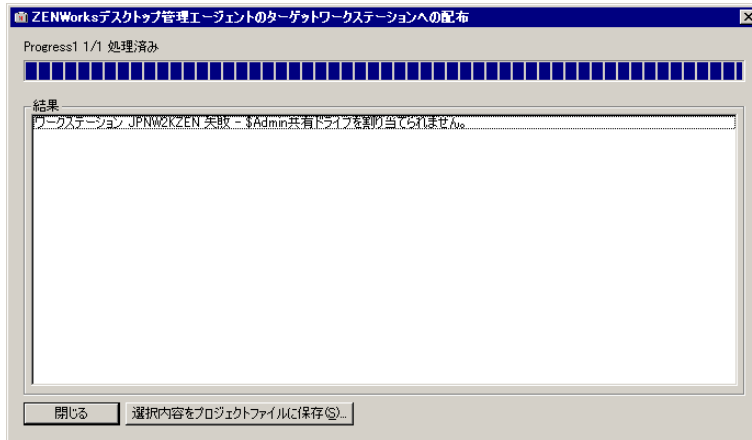
[パスワード] : ワークグループ管理者のパスワードを入力します。

[パスワードの再入力] : ワークグループ管理者のパスワードであることを確認するために、パスワードを再入力します。

[IP アドレス] フィールドで指定したすべてのターゲットワークステーションで同じアカウント情報 (ユーザ名とパスワード) を使用する必要があります。

5c [OK] をクリックして、ターゲットワークステーションのリストを保存します。

- 6 [エージェントの展開] をクリックして、選択したワークステーションに対して管理エージェントを表示し、[ZENWorks デスクトップ管理エージェントのターゲットワークステーションへの配布] ダイアログボックスを表示します。



ダイアログボックスは展開の成功と失敗を表示します。失敗イベントをプロジェクトファイル (.pad) に保存して、失敗したワークステーションの問題を修正後、[ファイル] メニューから開くことができます。

エージェントディストリビュータは、各配布の試みの成功と失敗のリストを含むログファイル (lastrun.log) も保管します。ログファイルは展開ウィンドウが表示するのと同じ出力ですが、開始と終了時間も含まれます。ファイルは、agentdistributor.exe と同じディレクトリに保存されます。次に lastrun.log のサンプルファイルを示します。

```
===== Start time Thursday, April 01, 2004 11:32 AM =====
```

```
Workstation USER2DELL Successful
```

```
Workstation USER3DESKPRO-W98 Successful
```

```
===== End time Tuesday, April 06, 2004 11:34 PM =====
```

```
===== Start time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====
```

```
Workstation testing6 Failed - Unable to contact workstation.
```

Workstation TESTING8 Failed - Unable to map \$Admin share drive.

=====  
===== End time Friday, April 09, 2004 12:49 PM =====

エージェントディストリビュータも MSI デバッグファイルを各ワークステーションからコピーして、それを \workstationlogs ディレクトリの下にある Windows ドライブのルートに保管します。このディレクトリには最新のログファイルのみが含まれます。すべてのファイルが次の試行で削除され、ZENworks デスクトップ管理エージェントを配布します。このデバッグファイルにより、特定のワークステーションにおける展開の失敗をトラブルシューティングできます。ファイルの名前は .log 拡張子がついたワークステーション名です (c:\workstationlogs\testing8.log など)。

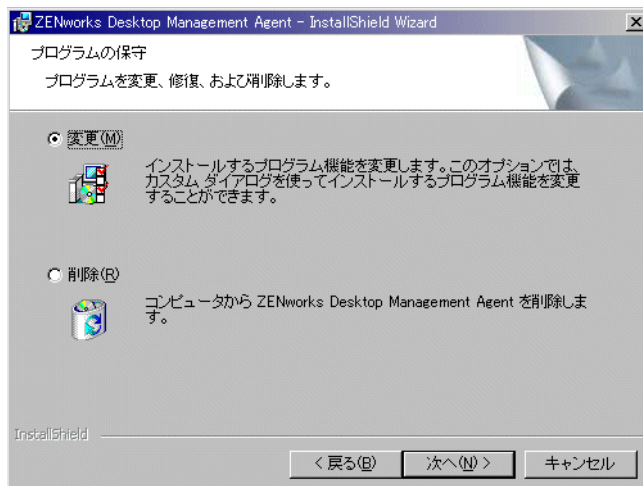
## 12.7 インストールの確認

デスクトップ管理エージェントのインストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks Desktop Management のインストールの確認」の「サーバへの Desktop Management コンポーネントのインストールの確認」で詳細手順を確認してください。

## 12.8 デスクトップ管理エージェントの設定の変更

ユーザワークステーションでデスクトップ管理エージェントを変更する必要がある場合、デスクトップ管理エージェントインストールプログラムを再度実行することにより、ローカルに実施できます。もう一度インストールを開始すると、デスクトップ管理エージェントのメンテナンスダイアログボックスが表示されます。

図 12-1 [デスクトップ管理エージェントのメンテナンス] ダイアログボックス



[変更] : このオプションを選択して、[Select Features (機能を選択)] ページを開きます。このページで、デスクトップ管理エージェントインストールに含める機能の追加または削除ができます。

削除：このオプションを選択して、ワークステーションからデスクトップ管理エージェントファイルを削除（アンインストール）します。

## 12.8.1 Novell Application Launcher による機能の追加

最初の配布を実行した後、デスクトップ管理エージェントに機能を追加する場合、MSI アプリケーションオブジェクトを増分して、Novell Application Launcher が新しいアプリケーションとして認識できるようにする必要があります。次に、MSI アプリケーションオブジェクトの ADDLOCAL プロパティを変更して、オブジェクトの再配布を実行することができます。利用可能な ADDLOCAL プロパティの詳細については、[152 ページのステップ 2](#)を参照してください。

# Novell Application Launcher プラグインのインストール

# 13

Novell® Application Launcher™ プラグインは、簡素化されたバージョンの Novell Application Launcher であり、ユーザに関連付けられたアプリケーションの配布のみを必要とするワークステーション上で、ZENworks® デスクトップ管理エージェントの代わりに使用できます。管理エージェントをワークステーションに Web ベースで配布するときにも使用できます。

Novell Application Launcher プラグインには、Application Explorer ビューと Application Browser ビューのみが含まれています。Application Window ビュー、Novell Application Launcher Service for Windows (nalntsrv.exe)、Application Launcher Workstation Helper (zenappws.dll) は含まれていません。

Workstation Manager、ワークステーションインベントリ、リモート管理、ワークステーションイメージングなどの他の ZENworks デスクトップ管理エージェントコンポーネントも含まれていません。

次の節では、Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケースと、Novell Application Launcher プラグインのインストール方法について説明します。

- ◆ 169 ページのセクション 13.1 「Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース」
- ◆ 170 ページのセクション 13.2 「Novell Application Launcher プラグインのインストール方法」
- ◆ 171 ページのセクション 13.3 「Novell Application Launcher プラグインのインストール」
- ◆ 174 ページのセクション 13.4 「Novell Application Launcher プラグインの再インストール」

この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも適用されます。

## 13.1 Novell Application Launcher プラグインの使用に適したケース

Novell Application Launcher プラグインの主な目的は、ユーザに関連付けられたアプリケーションの起動に必要な基本的 Application Launcher ファイルを提供して、Web ベースのインストールプログラムを介してアプリケーションを起動することです。Novell Application Launcher プラグインに関する、次の制限事項に注意する必要があります。

- ◆ Windows 2000/XP ユーザは、アプリケーションをインストールして起動するための十分なファイルアクセス権限を持っている必要があります。権限がない場合、プラグインのインストールマネージャはプラグインファイルをインストールできません。プラグインがインストールされていても、アプリケーションを起動できません。Novell Application Launcher プラグインは、機能が制限されたワークステーションでは使用できません。
- ◆ Novell Application Launcher プラグインは、ユーザに関連付けられたアプリケーションのみを表示します。Workstation Manager と Application Launcher Workstation Helper が

インストールされていないので、ワークステーションに関連付けられたアプリケーションは表示されません。

- ◆ **Workstation Manager** がインストールされていないので、ポリシーは適用されません。
- ◆ データベースレポート機能はサポートされていません。Novell Application Launcher プラグインには、必要な ODBC ドライバが含まれていないため、データベースにイベントを書き込めません。
- ◆ Novell Application Launcher プラグインは、ターミナルサーバアプリケーションの起動をサポートしていません。サポートするには、ZENworks デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

ユーザに関連付けられたアプリケーションの起動以外に、デスクトップ管理エージェント機能を必要としない場合は、アプリケーションを使用して Novell Application Launcher プラグインをワークステーションにインストールすることで、引き続きデスクトップ管理エージェント機能を使用できます。ユーザがデスクトップ管理エージェントの最大限の機能性を必要とする場合は、Novell Application Launcher プラグインをインストールした後に、アプリケーションオブジェクトを介してデスクトップ管理エージェントをワークステーションに配布できます。

## 13.2 Novell Application Launcher プラグインのインストール方法

Novell Application Launcher プラグインは、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャによりインストールされます。Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ、Novell Application Launcher プラグイン、および Novell Application Launcher プラグインサポートファイルは、ZENworks Middle Tier Server のインストール中に Web サーバにコピーされます。NetWare® Middle Tier Server では、`web_server_root\nwdocs` ディレクトリが対象になるインストールディレクトリです。Windows Middle Tier Server サーバでは、`inetpub/wwwroot` ディレクトリです。ファイルは次の `.cab` ファイルにパッケージ化されています。

- ◆ **zfdinstallmgr.cab**: Novell Application Launcher プラグインファイルのインストールおよび更新の管理に使用する Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ DLL が含まれています。
- ◆ **zfdplugin.cab**: Novell Application Launcher プラグインファイルが含まれています。
- ◆ **netidentity.cab**: ID を管理し、Novell Application Launcher プラグインユーザを ZENworks Middle Tier Server に対して安全に認証するために必要なファイルが含まれています。
- ◆ **instmsi.cab**、**instmsi9x.cab**、**instmsint.cab**: NetIdentity ファイルのインストールに必要な Microsoft Windows Installer (バージョン 2) が含まれています。これらの `.cab` ファイルは、バージョン 2 以降の Windows Installer がない場合のみインストールされます。

同じディレクトリにインストールされる `myapps.html` ページは、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ `.cab` ファイル (`zfdinstallmgr.cab`) を参照します。`myapps.html` ページにアクセスしたときに Application Launcher または Novell Application Launcher プラグインがワークステーションにまだインストールされていない場合、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ `.dll` ファイル (`zfdwebinstallmgr.dll`) はインストールマネージャ `.cab` ファイルから Windows の `\system` ディレクトリに解凍され、登録されます。`myapps.html` ファイルがロードされた後、インストールマネージャは Novell Application Launcher プラグインとそのサポートファイルのインストールを開始します。

## 13.3 Novell Application Launcher プラグインのインストール

ワークステーションに Novell Application Launcher プラグインをインストールするには

- 1 ZENworks Middle Tier Server インストールプログラムを実行したことを確認し、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャ、Novell Application Launcher プラグインファイル、および myapps.html ファイルを Web サーバにコピーします。必要に応じて、[113 ページの § 章 10 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」](#)を参照してください。
- 2 (オプション) myapps.html ページを変更します。

Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャを起動するほか、myapps.html ページには、Novell Application Launcher プラグインおよび Application Launcher と一緒に使用する Application Browser ビューの機能と外観を決定するパラメータが含まれています。ユーザに配布する前に、これらのパラメータを使用して Application Browser ビューをカスタマイズすることができます。

---

**重要 :** Middle Tier Server をインストールすると、Middle Tier Server のプライベート (内部) アドレスは myapps.html ファイルに追加されます。ユーザがファイアウォールの外で Application Browser を実行する場合、この 2 つのアドレスが異なる場合は、Middle Tier Server のパブリック (外部) IP アドレスを myapps.html ファイルに入力する必要があります。myapps.html ファイルの MiddleTierAddress パラメータを使用して、IP アドレスを指定します。

---

myapps.html ファイルは、Application Browser ビューの生成に使用される ActiveX\* コントロール (axnalsrver.dll) をロードします。ActiveX コントロールに渡されるパラメータを変更して Application Browser ビューをカスタマイズすることができます。次の 9 つのパラメータがあります。

```
<!--param name="SingleTree\" value="ZENWORKS_TREE"-->
<!--param name="PortalView\" value="false"-->
<!--param name="BannerURL\" value="http://www.company.com/
banner.html"-->
<!--param name="BannerHeight\" value="80"-->
<!--param name="ShowTree\" value="true"-->
<!--param name="ShowTasks\" value="false"-->
<!--param name="AppDisplayType\" value="0"-->
<!--param name="ShowAppFrameNavigation\" value="true"-->
<!--param name="ShowIEToolbarButton\" value="true"-->
```

さらに、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャを使用して Middle Tier Server から myapps.html ファイルをダウンロードする場合は、インストールマネージャで使用される 2 つの追加パラメータをカスタマイズできます。

```
<!--param name="MiddleTierAddress\" value="$$IPADDR$$"-->
<!--param name="Nt4PluginVersion\" value="4,0,1,0"-->
```

デフォルトではパラメータはコメントアウトされているので、ActiveX コントロールは事前に設定された内部値を使用します。パラメータを変更するには

- 2a** !-- (コメントの先頭) と -- (コメントの最後) を削除して、パラメータを有効にします。例:

```
<param name=\"SingleTree\" value=\"novell_tree\"
```

- 2b** パラメータの値を変更します。次に各パラメータについて説明します。

**SingleTree:** このパラメータを使用すると、アプリケーション情報を読み込む対象となる単一の Novell eDirectory™ ツリーを指定できます。このパラメータを使用する場合、Application Launcher ではユーザが認証する他のツリーが無視されます。

このパラメータは、インストール時のみ適用されます。インストール後にこのパラメータを変更しても、影響はありません。

**PortalView:** このパラメータを使用して、Application Browser ビューのバナー部分を削除することによってポータルをサポートを改善できます。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、バナー部分は削除されます。

**BannerURL:** このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定されている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用して別のバナーを指定することができます。たとえば、Novell ロゴの代わりに自分の会社のロゴを含むバナーを使用できます。この値は、HTML ページまたはグラフィックファイル (.gifm.jpg など) の URL に設定する必要があります。HTML ページを指定した場合、ページは BannerHeight パラメータで指定された高さに切り取られます。グラフィックファイルを指定した場合、バナー部分はグラフィックファイル全体が収まるようにスクロールします。バナー部分をスクロール可能にたくない場合は、グラフィックの高さが BannerHeight パラメータで指定された高さを超えないようにする必要があります。

**BannerHeight:** このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定され、デフォルトの Novell バナーが BannerView パラメータによって無効になっている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用してバナー部分の高さを決定します。value の設定値は 5 から 200 にする必要があります。5 未満の値は 5 に切り上げられます。200 を超える値は 200 に切り下げられます。

**ShowTree:** このパラメータは、Application Browser ビューが左のペイン (フォルダビューとも呼ばれます) を含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はフォルダビューが表示され、[false] の場合は削除されます。

**ShowTasks:** このパラメータは、フォルダビュー (左のペイン) が、[オンライン作業]、[オフライン作業]、[Middle Tier ログイン]、[Middle Tier ログアウト]、[アプリケーションを更新する]、および [ヘルプ] オプションを含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はオプションが表示され、[false] の場合は削除されます。

**AppDisplayType:** このパラメータは、アプリケーションが Application Browser ビューの右のペインにどのように表示されるかを決定します。value の設定値は [0] または [1] です。デフォルト値の [0] では、アプリケーションアイコンは、Windows エクスプローラの [大きいアイコン] の表示と同じように、大きなアイコンとして表示されます。設定値 [1] では、アプリケーションは、Windows エクスプローラの [一覧] の表示と同じように、表形式で一覧表示されます。



**ShowAppFrameNavigation:** このパラメータは、Application Browser ビューの右のペインにナビゲーションが含まれるかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、右のペインにナビゲーションが含まれます。ナビゲーションのタイプは、AppDisplayType パラメータの設定によって異なります。

- ◆ AppDisplayType パラメータが [0] ( [大きいアイコン] ) に設定されている場合、ナビゲーションはブレッドクラムとして表示されます (ZENworks Tree > Application Folder > Application A など)。
- ◆ AppDisplayType パラメータが [1] ( [小さいアイコン] ) に設定されている場合、ナビゲーションは、アプリケーションリストの一番上に上向き矢印として表示されます。

このパラメータの値を [false] に設定すると、Application Browser ビューで [All] フォルダが開きます。つまり、すべてのアプリケーションアイコンが右のペインに表示されます。ConsoleOne のユーザの [Application Launcher の環境設定] で [All] フォルダが無効になっている場合、このパラメータは無視されます (つまり、デフォルト値の [true] が使用されます)。

**ShowIEToolbarButton:** このパラメータは、Internet Explorer のツールバーに [Application Browser] ボタンを追加するかどうかを決定します。[Application Browser] ボタンは、ローカルバージョンの myapps.html ファイルを起動します。value の設定値は [true] または [false] です。デフォルトの設定は [true] で、ツールバーに [Application Browser] ボタンが追加されます。[false] に設定すると、ツールバーから [Application Browser] ボタンが削除されます。この設定を変更する場合、ユーザは必ず Internet Explorer を終了して、変更を有効にするために再度開く必要があります。

**MiddleTierAddress:** このパラメータは、eDirectory へのアクセスとして ZENworks Middle Tier Server を設定した場合にのみ適用されます。

MiddleTierAddress パラメータを使用して、ユーザが認証を受ける Middle Tier Server の IP アドレスを指定することができます。Middle Tier Server アドレスが Windows レジストリに含まれていない場合にのみ使用されます。ユーザが ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの実行時にアドレスを入力した場合、レジストリにはこのアドレスが含まれています。

**Nt4PluginVersion:** このパラメータは、ZENworks for Desktops 4.0.1 からアップグレードする場合にのみ適用されます。このパラメータは、Windows NT 4 ワークステーションにのみ適用され、ワークステーションで実行する必要がある最低限のバージョンの ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを指定します。たとえば、ワークステーションのバージョンが 4,0,1,0 で、このパラメータに 4,0,1,3 が指定されている場合は、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャが ZENworks Middle Tier Server からバージョン 4,0,1,3 以降の Novell Application Launcher プラグイン .cab ファイル (zfd40.cab) をダウンロードできる場合にのみ、Application Browser ビューが実行されます。一方、ワークステーションのバージョンが 4,0,1,3 で、このパラメータが 4,0,1,0 に指定されている場合は、Novell Application Launcher プラグインが新しいバージョン (4,0,1,4 など) でも、インストールマネージャは Middle Tier Server から Novell Application Launcher プラグインをダウンロードします。

**2c** ファイルを保存します。

**3** myapps.html ページにアクセスしてセットアップをテストします。

- ◆ Novell Application Launcher または Novell Application Launcher プラグインがすでにインストールされているワークステーションから myapps.html ページにアクセス

した場合、Application Browser ビューが Web ブラウザに表示されます。ファイルはダウンロードされません。

- ◆ Novell Application Launcher および Novell Application Launcher プラグインがインストールされていないワークステーションから `myapps.html` ページにアクセスした場合、Novell Application Launcher プラグインインストールマネージャがインストールされて登録されます。次に、Novell Application Launcher プラグインファイルのインストールが開始されます。

インストール処理中に使用される各 `.cab` ファイルには、Novell が署名した証明書が含まれています。インストールを続行する前に証明書を受け入れるように求めるメッセージが表示されます。それぞれの証明書を受け入れるか、最初の証明書で表示された [*Always Trust Content From Novell (Novell のコンテンツを常に信頼する)*] をオンにして、それ以降の Novell が署名した証明書をすべて受け入れることができます。

インストールが完了したら、( 再び `myapps.html` ページにアクセスして ) Application Browser ビューおよび ( [スタート] メニューから起動して ) Application Explorer ビューの両方から、ユーザに関連付けられたアプリケーションにアクセスできます。

- ◆ 以前のバージョンの Application Launcher がすでにインストールされている ( または以前にインストールされた ) ワークステーションから `myapps.html` ページにアクセスすると、インストールプログラムで次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Error:Install Error
An installation error has prevented you from obtaining the
ZENworks
for Desktops plugin.Please contact your system administrator
for
help.You must first uninstall any previous versions of ZENworks
for
Desktops.
```

この問題を解決するには、ワークステーションの `Windows\system32` ディレクトリ ( 通常は `c:\winnt\system32` または `c:\windows\system32` ) から `naldesk.exe` ファイルを削除して、サーバにマップされた検索ドライブまたは `naldesk.exe` が存在するディレクトリがワークステーションにないことを確認してから、`myapps.html` ページに再度アクセスします。

- 4 ユーザが `myapps.html` ページにアクセスするための URL が表示されます。

## 13.4 Novell Application Launcher プラグインの再インストール

ワークステーションに Novell Application Launcher プラグインを再インストールするには

- 1 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して、`zfdwebinstallmgr.dll` と `axnalsrver.dll` の登録を取り消します。

```
regsvr32 -u zfdwebinstallmgr.dll
regsvr32 -u axnalsrver.dll
```

- 2 Windows システムディレクトリ (たとえば c:\winnt\system32) 内にある zfdwebinstallmgr.dll を削除します。
- 3 (条件付き) Windows NT ワークステーションにプラグインを再インストールする場合、ワークステーションのレジストリから次の値を削除してください。

```
HKey_Local_Machine\software\novell\zenworks\installpath
```

- 4 Web ブラウザで myapps.html ページにアクセスします。



# ZENworks Launch ガジェット のインストール

# 14

Novell® ZENworks® Desktop Management には、ZENworks Launch ガジェットが含まれています。これは、Novell exteNd Director™ 4.1 SE ポータル内からユーザに関連付けられたアプリケーションを起動するために使用されます。ユーザのワークステーションにデスクトップ管理エージェントは必要ありません。次の節ではそれらの手順について説明します。

- 177 ページのセクション 14.1「ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール」
- 178 ページのセクション 14.2「ポータルへの Citrix ファイルのコピー」
- 179 ページのセクション 14.3「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## 14.1 ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール

- 1 Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition がインストールされ NetWare® 6.x または Windows 2000/2003 Server で稼動していることを確認します。

インストールの詳細については、『Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition *Installation Guide* (<http://www.novell.com/documentation/lg/nedse41>)』を参照してください。

- 2 exteNd Director 4.1 ポータルを管理できる Windows ワークステーションで、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) を CD ドライブに挿入します。

Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) には、ポータルモジュールファイル zenworks.npm が含まれています。このファイルには、ポータルにインストールする ZENworks Launch ガジェットが含まれています。ファイルは、\zenworks launch gadget ディレクトリにあります。

- 3 ポータルに管理者としてログインします。
- 4 [Portal Administration (ポータルの管理)] > [Administer the Portal (ポータルを管理)] を順にクリックして、[Portal Administration (ポータルの管理)] ページを表示します。
- 5 [Modules (モジュール)] をクリックして [Modules (モジュール)] ページを表示します。
- 6 [インストール] をクリックして、[Install a New Module (新規モジュールのインストール)] ページを表示します。

- 7 [Path to Module File Package (モジュールファイルパッケージへのパス)] フィールドで [参照] をクリックし、zenworks.npm ファイルを参照して選択します。

.npm ファイルは、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) の \zenworks launch gadget ディレクトリにあります。

- 8 [インストール] をクリックして、[Thin Client Support (シンクライアントサポート)] オプションを表示し、ICA および RDP クライアントのサポートを必要とする場合は [ICA & RDP]、RDP クライアントのサポートのみを必要とする場合には [RDP] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 9 (条件付き) シンクライアントのサポートについて [ICA & RDP] を選択した場合は、次のフィールドに入力して、[次へ] をクリックします。

**Citrix XML Service Address:** Citrix\* IMA データベースが存在するサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。複数の Citrix ファームを使用している場合は、IMA データベースが存在する各サーバのアドレスをカンマで区切って入力します。

**Citrix XML Service Port:** Citrix XML Service で使用されているポート番号を指定します。これは通常、ポート 80 になります。MMC でポート番号を確認するには、[サーバ] > [Server Properties (サーバのプロパティ)] > [MetaFrame XP Settings (メタフレーム XP の設定)] の順をクリックして、[TCP/IP Port (TCP/IP ポート)] フィールドにチェックを付けます。

- 10 インストールが完了したら、ポータルを終了します。
- 11 ポータルが NetWare 6.x サーバ上にある場合は、サーバを再起動します。  
または  
ポータルが Windows 2000 サーバ上にある場合は、サーバを再起動するか、または Tomcat を再起動します。

ガジェットがアクセスするターミナルサーバなど、ZENworks Launch ガジェットの設定変更については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「アプリケーション管理」にある「ZENworks Launch ガジェット: 設定」を参照してください。

## 14.2 ポータルへの Citrix ファイルのコピー

ターミナルサーバ環境に Citrix サーバを使用している場合は、exteNd Director ポータルに複数の Citrix ファイルをコピーする必要があります。この Citrix ファイルは、ICA クライアントセッションを起動するときに Launch ガジェットで使用されます。

- 1 Citrix MetaFrame XP Presentation Server CD を使用して、\metaframe\w2k\program files\citrix\application\nfuse ディレクトリ全体を次のポータルディレクトリにコピーします。

```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget
```

この結果、ディレクトリは次のようになります。

```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse
```

- 2 \*.properties ファイルを、com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat\webapps\nps\portal\web-inf\classes
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

- 3 \*.jar ファイルを、com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

tomcat\webapps\nps\portal\web-inf\lib

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

## 14.3 ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

ZENworks Launch ガジェットでターミナルサーバアプリケーションを起動するには、ワークステーションに Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントがインストールされている必要があります。

### ICA クライアント

ZENworks Launch ガジェットでは、ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントがインストールされている必要があります。ユーザのワークステーションに PN クライアントまたは Web クライアントがまだインストールされていない場合は、次の手順に従います。

- 1 Citrix Download Clients サイト (<http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755>) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。手順は次のとおりです。
  - 2a Web クライアントの場合は、wfcacab ファイルをポータルサーバの次の場所にコピーします。  
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\bin  
ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは .cab ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。
  - 2b PN クライアントの場合は、『Citrix 管理者ガイド』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。  
または  
PN クライアントファイルの名前を wfcacab に変更し、ポータルサーバの次の場所にコピーします。  
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.ZENLaunchGadget\bin

### RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks Launch ガジェットに含まれています。RDP クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットはユーザのワークステーションの

c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールして、  
.ocx ファイルを登録します。



# ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定

Novell® ZENworks® Desktop Management のアプリケーション管理機能を使用すると、ICA または RDP クライアントセッションを介して、Citrix MetaFrame\* Server または Microsoft Windows ターミナルサーバからアプリケーションを起動できます。ターミナルサーバアプリケーションをサポートするには、要件を確認して、次のセクションのタスクを実行する必要があります。

- ◆ 181 ページのセクション 15.1 「ターミナルサーバの要件」
- ◆ 182 ページのセクション 15.2 「ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 189 ページのセクション 15.3 「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」
- ◆ 190 ページのセクション 15.4 「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」

この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

上記のタスクを完了すると、Novell Application Launcher™ を使用してユーザに配布できるように、ターミナルサーバアプリケーションを設定できます。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「アプリケーション管理」にある「配布：単純なアプリケーション」を参照してください。

## 15.1 ターミナルサーバの要件

次の表に、Windows ターミナルサーバおよび Citrix MetaFrame Server の最低要件を示します。

表 15-1 Windows ターミナルサーバおよび Citrix MetaFrame Server の最低要件

アイテム	最低要件
オペレーティングシステム	Service Pack 4 (最新のサービスパックを推奨) を適用した Windows 2000 Server Windows Server 2003 (最新のサービスパックを推奨)
Windows ターミナルサービス	Windows 2000/2003 Server オペレーティングシステムでサポートされているバージョン
Citrix Presentation Server( オブション)	Citrix Presentation Server 3.0 (旧 MetaFrame XP Feature Release 3) Citrix Presentation Server 4 for Windows. Citrix Presentation Server 4 for Windows 2003 x64. 最新のサービスパックおよびホットフィックスをお勧めします。Citrix Web サイト ( <a href="http://www.citrix.com">http://www.citrix.com</a> ) からダウンロードできます。

アイテム	最低要件
Citrix Secure Access Manager( オプション)	Citrix Secure Access Manager 2.2
Desktop Management Agent ( デスクトップ管理エージェント)	ZENworks 7 バージョン <p>デスクトップ管理エージェントは、ターミナルサーバでローカルユーザアカウントを動的に作成する場合にのみ必要です。</p> <p>デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントをインストールできますが、ターミナルサーバのサポートに必要なのは、アプリケーション管理コンポーネントとワークステーション管理コンポーネントのみです。</p>
Novell Client	Novell Client™ 4.91 SP1 for Windows 2000/XP. <p>Novell Client は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合にのみ必要です。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。</p>
Internet Explorer	高度なセキュリティ (128 ビット以上) 暗号化を使用し、サービスパック 2 を適用した Internet Explorer 5.5 <p>Internet Explorer は、デスクトップ管理エージェントをインストールする場合のみ必要です。</p> <p>Internet Explorer 6.0 をインストールする場合は、クッキーを受け入れるようにプライバシーが設定されていることを確認してください。デフォルトでは、Internet Explorer 6.0 はクッキーを受け入れません。</p>

## 15.2 ZENworks Workstation Manager によるローカルユーザアカウントの管理

ターミナルサーバでアプリケーションを実行するには、ターミナルサーバにローカルユーザアカウントが必要です。Workstation Manager( デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます) およびユーザポリシーを使用して、ターミナルサーバのユーザアカウントを動的に管理できます。Workstation Manager を使用する場合は、次の節で説明するタスクを実行します。Workstation Manager を使用しない場合は、他のユーザ管理方法について [189 ページのセクション 15.3 「ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理」](#) を参照してください。

- ◆ [183 ページのセクション 15.2.1 「Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)
- ◆ [183 ページのセクション 15.2.2 「Workstation Manager のセットアップ」](#)
- ◆ [184 ページのセクション 15.2.3 「パススルー認証の設定」](#)
- ◆ [185 ページのセクション 15.2.4 「ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ」](#)

## 15.2.1 Novell Client およびデスクトップ管理エージェントのインストール

ターミナルサーバアカウントを動的に管理するには、ZENworks を使用する各ターミナルサーバに Novell Client およびデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

デスクトップ管理エージェントには、ターミナルサーバ上にローカルユーザアカウントを動的に作成する Workstation Manager コンポーネントが含まれています。管理エージェントは、Novell Client を使用して Novell eDirectory™ から認証を受け、ダイナミックローカルユーザポリシーにアクセスします。

- 1 **Novell Product Downloads** (<http://download.novell.com>) から Novell Client 4.91 SP1(以降) をダウンロードして、ターミナルサーバにクライアントをインストールします。
- 2 デスクトップ管理エージェントをインストールして、Workstation Manager およびアプリケーション管理コンポーネントがインストールされていることを確認します。他のコンポーネントはオプションです。

デスクトップ管理エージェントのインストールの詳細については、[143 ページの § 章 12 「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#) を参照してください。

## 15.2.2 Workstation Manager のセットアップ

ZENworks Desktop Management には、eDirectory ユーザポリシーが含まれており、ターミナルサーバ上のローカルユーザアカウントおよびプロファイルを簡単に管理できます。ターミナルサーバで稼動している Workstation Manager は、ユーザがターミナルサーバにログインしたときにポリシーを適用します。ここでは、Workstation Manager が正しくインストールおよび設定されているかを確認する方法について説明します。ユーザポリシーの作成および使用については、[185 ページのセクション 15.2.4 「ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ」](#) を参照してください。

Workstation Manager は、デスクトップ管理エージェントと共にインストールされます。[サービス] ウィンドウで Workstation Manager サービスを確認することにより、ターミナルサーバに Workstation Manager がインストールされ稼動していることが確認できます。

複数の eDirectory ツリーがある場合は、ユーザオブジェクトが属している eDirectory ツリーを読み取るように Workstation Manager が設定されていることも確認する必要があります。手順は次のとおりです。

- 1 [スタート] メニュー > [設定] > [コントロール パネル] > [*Network Identity* (ネットワーク ID)] の順にクリックします。
- 2 [Novell Network Identity (Novell ネットワーク ID)] ダイアログボックスで、[設定] をクリックします。
- 3 [Workstation Manager を有効にする] がオンになっていて、ツリーが正しく設定されていることを確認します。
- 4 (オプション) HKEY\_LOCAL\_MACHINE/SOFTWARE/NOVELL/Workstation Manager/Identification キーの下にある Windows レジストリで、Tree 値を確認します。

## 15.2.3 パススルー認証の設定

ターミナルサーバアプリケーションを起動するプロセスを簡素化するために、ZENworks Desktop Management は、パススルー認証を提供しています。パススルー認証を使用すると、ユーザの eDirectory アカウントと Windows のユーザアカウントに同じユーザ名とパスワードを使用している限り、ターミナルサーバアプリケーションを起動するときに、ユーザ名およびパスワードの入力を要求するメッセージは表示されません。

デフォルトでは、パススルー認証は、ターミナルサーバにデスクトップ管理エージェントをインストールするときに自動的に設定されます。ただし、正しく設定されていることを確認するために、次の作業を実行することをお勧めします。

- 1 ターミナルサーバの [Use Client Provided Logon Information (クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
  - 1a ターミナルサーバで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ターミナルサービス構成] の順にクリックします。
  - 1b 接続タイプ (デフォルトは *RDP-Tcp*) をダブルクリックして、プロパティを入力します。
  - 1c [ログオン設定] タブで、[Use Client Provided Logon Information (クライアントからのログオン情報を使用する)] 設定をオンにして、[常にパスワードの入力を求める] 設定をオフにします。
  - 1d 接続タイプごとに **ステップ 1b** と **ステップ 1c** を繰り返します。
- 2 ターミナルサーバの Novell Client のデフォルトプロファイル設定を確認します。
  - 2a ターミナルサーバで、タスクバーのステータス領域にある [Novell] アイコン (N アイコン) を右クリックし、[Novell クライアントプロパティ] をクリックします。
  - 2b [ロケーションプロファイル] タブをクリックします。
  - 2c [ロケーションプロファイル] リストで [デフォルト] を選択し、[プロパティ] をクリックして、[Location Profiles Properties (ロケーションプロファイルのプロパティ)] ダイアログボックスを表示します。
  - 2d [サービス] リストの [ログインサービス] を選択し、[Service Instance (サービスインスタンス)] リストの [デフォルト] を選択して、[プロパティ] をクリックし、[Novell ログイン] ダイアログボックスを表示します。
  - 2e [ログイン成功後にプロファイルを保存] オプションを選択解除 (オフに) します。
  - 2f [NDS] タブをクリックします。
  - 2g [ツリー] フィールドで、ターミナルサーバアプリケーションがアプリケーションオブジェクトとして設定されている eDirectory ツリーを選択します。
  - 2h [コンテキスト] および [サーバ] フィールドから情報を削除します。
  - 2i 環境設定を保存するには、すべてのダイアログボックスで [OK] をクリックして閉じます。

## 15.2.4 ダイナミックローカルユーザアカウントのセットアップ

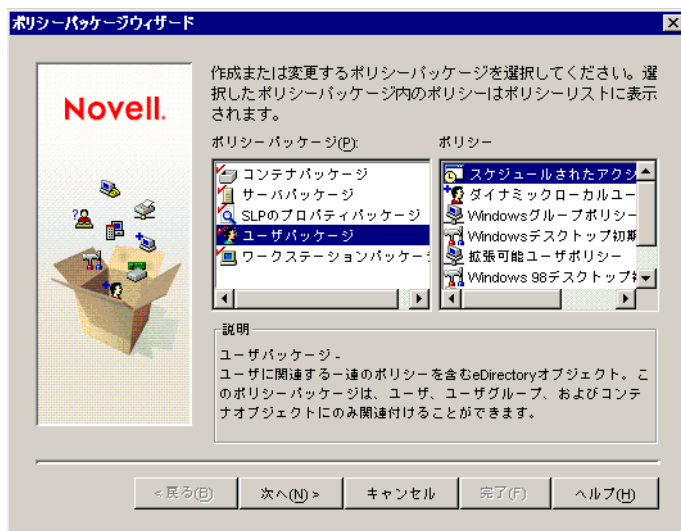
ターミナルサーバで Workstation Manager のインストールおよび設定が完了したら、ローカルユーザアカウントを制御するポリシーを有効にして設定する必要があります。次の節ではそれらの手順について説明します。

- ◆ 185 ページの「ユーザポリシーパッケージの作成」
- ◆ 188 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」
- ◆ 189 ページの「ユーザパッケージとユーザの関連付け」

### ユーザポリシーパッケージの作成

You use the Windows 2000-2003 Terminal Server policies, available in a User Policy package, to manage dynamic local user accounts. 既存のユーザポリシーパッケージを使用するか、または Windows 2000-2003 ターミナルサーバポリシー専用の新しいユーザポリシーパッケージを作成できます。使用するユーザポリシーパッケージがすでにある場合は、188 ページの「ダイナミックローカルユーザアカウントの設定」に進んでください。ユーザポリシーパッケージがない場合は、次の手順を実行して、ユーザポリシーパッケージを作成します。

- 1 ConsoleOne で、ユーザポリシーパッケージオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] をクリックします。次に、[ポリシーパッケージ] をクリックし、ポリシーパッケージウィザードを表示します。

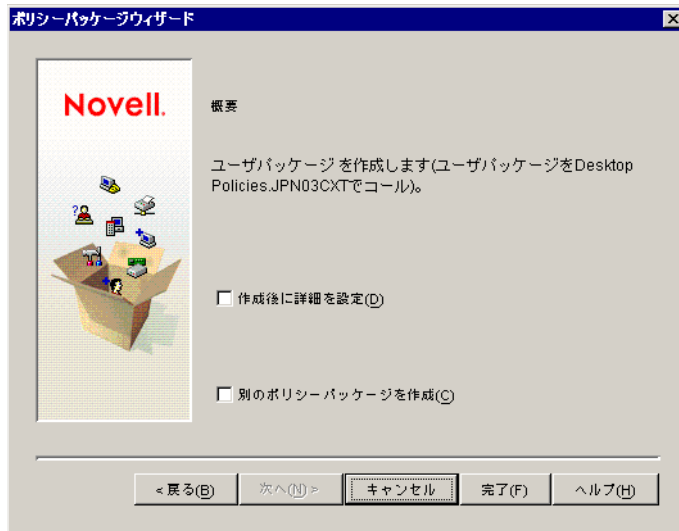


- 2 [ポリシーパッケージ] リストで、[ユーザパッケージ] を選択して、[次へ] をクリックします。

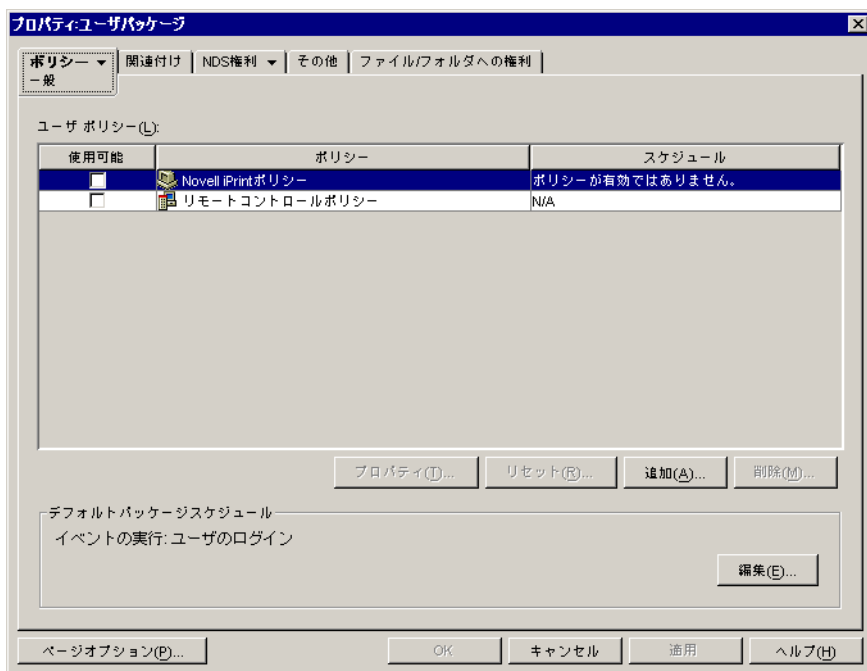


パッケージオブジェクトの名前は、パッケージオブジェクトが作成されるコンテナ内で一意でなければなりません。複数のユーザポリシーパッケージを作成する場合は、[Win2000-2003 TS ユーザパッケージ] など、わかりやすい名前を使用することもできます。ポリシーのユーザが存在する同じコンテナにポリシーを作成することもできます。

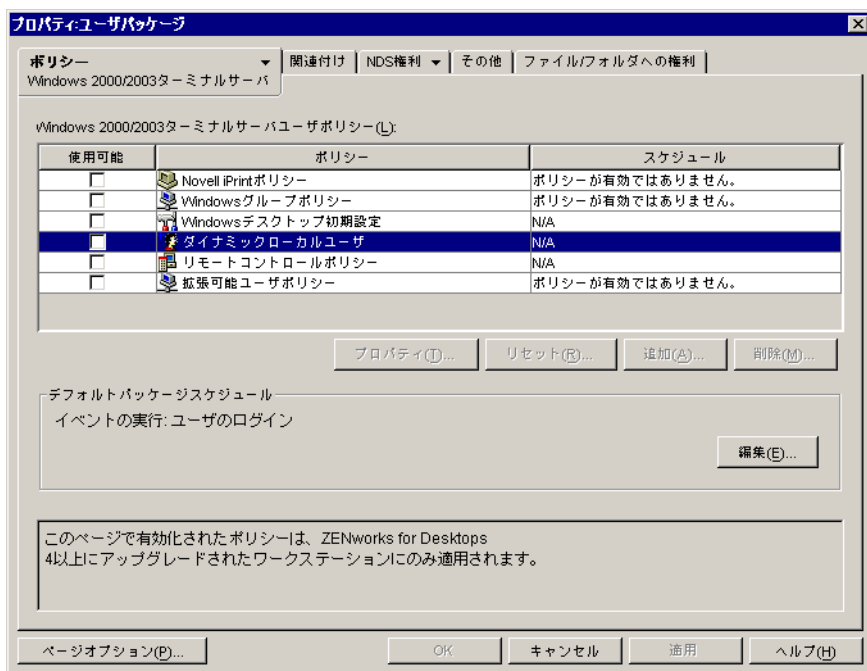
- 3 必要に応じて、パッケージのオブジェクト名と、パッケージが作成されるコンテナを変更して、[次へ] をクリックします。



- 4 [概要] ページで、[作成後に詳細を設定] を選択し、[完了] をクリックして、ユーザパッケージオブジェクトを作成し、オブジェクトのプロパティページを表示します。



- 5 [ポリシー] タブをクリックし、[Windows 2000-2003 ターミナルサーバ] をクリックして、[ポリシー: Windows 2000-2003 ターミナルサーバ] ページを表示します。

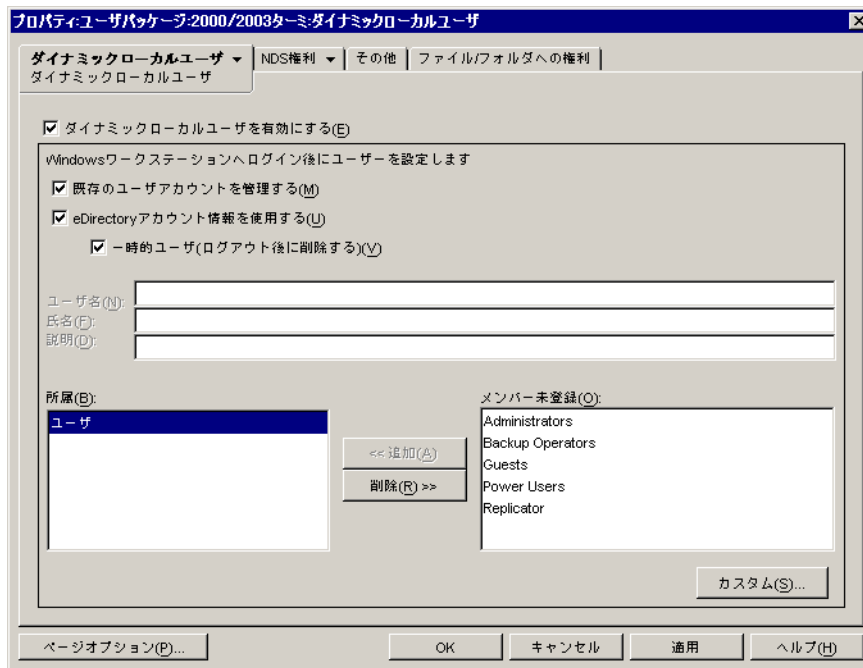


- 6 次の節「**ダイナミックローカルユーザアカウントの設定**」に進みます。

## ダイナミックローカルユーザアカウントの設定

ダイナミックローカルユーザ (DLU) ポリシーを使用して、Workstation Manager がターミナルサーバ上にユーザアカウントを作成する方法を設定します。

- 1 [Windows 2000/2003 ターミナルサーバ] プラットフォームページで、[ダイナミックローカルユーザポリシー] の左にあるチェックボックスを選択して、ポリシーを有効にしてから、[プロパティ] をクリックして、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを表示します。



- 2 次のフィールドを設定します。

[ダイナミックローカルユーザを有効にする] : Workstation Manager を有効にして、ユーザアカウントを動的に作成する場合は、このオプションを選択します。

[既存のユーザアカウントを管理する] : Workstation Manager で既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用する場合は、このオプションを選択します。既存のユーザアカウントに DLU ポリシーを適用しない場合、DLU ポリシーは新しいユーザアカウントにのみ適用されます。

[eDirectory アカウント情報を使用する] : ローカルユーザアカウントに eDirectory ユーザ名とパスワードを使用する場合は、このオプションを選択します。ユーザの eDirectory と Windows アカウント情報を同期させて、パススルー認証を設定すると (184 ページのセクション 15.2.3 「パススルー認証の設定」を参照)、ターミナルサーバからアプリケーションを起動する際にアカウント情報を要求するプロンプトが表示されません。

[一時的ユーザ (ログアウト後に削除する)] : ユーザがアプリケーションを終了して、セッションを終了した後に、ユーザのアカウントを削除する場合は、このオプションを選択します。すべてのユーザアカウント情報が削除されます。Roaming プロファイルを保持する場合は、ターミナルサーバの Roaming プロファイルを設定できます。手順については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「ワークステーション管理」にある「Windows デスクトップ初期設定ポリシー (ユーザパッケージ)」を参照してください。



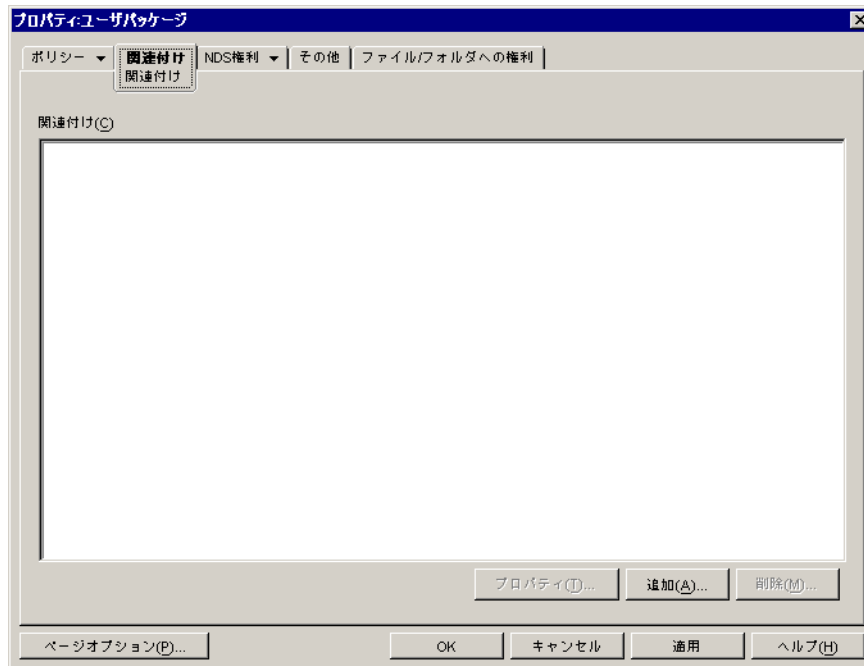
[選択されているグループ] / [選択されていないグループ] : [選択されていないグループ] リストで、ユーザをメンバーにするグループを選択して、[追加] をクリックします。グループメンバーシップにより、ターミナルサーバでのユーザのアクセス権が決定されます。リストに表示されたグループに、ユーザに割り当てる正確なファイルシステム権利がない場合は、[ファイル権利] ページを使用します ([ダイナミックローカルユーザ] タブ > [ファイル権利] ページ)。

- 3 [OK] をクリックして変更内容を保存し、[ダイナミックローカルユーザ] プロパティページを閉じます。
- 4 次の節「**ユーザパッケージとユーザの関連付け**」に進みます。

### ユーザパッケージとユーザの関連付け

ユーザポリシーパッケージを有効にするには、まずパッケージをユーザに関連付ける必要があります。

- 1 ユーザパッケージオブジェクトのプロパティページが表示されていない場合は、[ユーザパッケージ] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [関連付け] タブをクリックして [関連付け] ページを表示します。



- 3 [追加] をクリックし、ポリシーパッケージを適用するユーザを参照して選択します。ユーザ、グループ、またはコンテナを追加します。
- 4 ユーザを追加し終わったら、[OK] をクリックして保存します。

## 15.3 ZENworks 以外の方法によるローカルユーザアカウントの管理

ターミナルサーバでユーザアカウントを動的に作成するときに、Workstation Manager とユーザポリシーを使用しない場合は、アカウントを他の方法で作成する必要があります (たとえば、各ターミナルサーバで静的アカウントを手動で作成するか、または Microsoft

Active Directory を使用して作成します)。ユーザアカウントの作成方法については、Windows のマニュアルを参照してください。ユーザアカウントを作成するときは、次の点に注意してください。

- ◆ RDP アプリケーションに対してパススルー認証を有効にする場合、ユーザの Windows アカウントには、eDirectory アカウントと同じユーザ名とパスワードが必要です。
- ◆ パススルー認証は、ICA アプリケーションには使用できません。ユーザは、ICA アプリケーションを起動したときに、常にログインアカウント情報を要求されます。ICA アプリケーションに対してパススルー認証を有効にするには、Workstation Manager とユーザポリシーを使用する必要があります。
- ◆ グループメンバーシップまたは個別のユーザ許可によって、ターミナルサーバからアプリケーションを実行するには、ユーザアカウントに適切なファイルシステム権利を付与する必要があります。

## 15.4 ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

Novell Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、または ZENworks Launch ガジェットでターミナルサーバアプリケーションを起動する場合、常に Citrix ICA クライアントまたは Microsoft RDP クライアントを使用して、ターミナルサーバとのクライアントセッションが作成されます。このため、各ユーザのワークステーションに ICA および RDP クライアントをインストールする必要があります。

### ICA クライアント

ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントをインストールする必要があります。ユーザのワークステーションに PN クライアントまたは Web クライアントがまだインストールされていない場合は、次の手順に従います。

- 1 [Citrix Download Clients サイト \(http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755\)](http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。
- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。手順は次のとおりです。
  - 2a 『Citrix 管理者ガイド』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。
  - 2b (条件付き) ZENworks Launch ガジェットを使用している場合は、Web クライアント (wfcab.cab) ファイルをポータルサーバ上の次の場所にコピーします。

```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\bin
```

または  
PN クライアントの場合は、ファイル名を wfcab.cab に変更して上記の場所にコピーします。  
ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは .cab ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。その後、ユーザは Novell

Application Launcher、Novell Application Launcher プラグイン、および ZENworks Launch ガジェットから ICA アプリケーションを起動できます。

ZENworks Launch ガジェットの使用方法については、[177 ページの § 章 14 「ZENworks Launch ガジェットのインストール」](#)を参照してください。

## RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Launch ガジェットに含まれています。デスクトップ管理エージェントのインストール時に、c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx がインストールされます。ZENworks Launch ガジェットを使用する場合、ユーザが RDP クライアントセッションで実行するように設定されたターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは、c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールします。



# 認証のセットアップ

ワークステーションのログインダイアログボックスで、ユーザが認証されたユーザ ID とパスワード(「アカウント情報」とも呼ばれます)を入力すると、そのワークステーションと Novell® ZENworks® デスクトップ管理コンポーネントの間に安全なネットワーク接続が確立されます。これらのコンポーネントはネットワーク上にあり、Novell eDirectory™ によって管理されます。この接続(「認証」とも呼ばれます)は、さまざまな設定状況で発生します。

この節では、次のような状況でどのように認証が行われるかについて説明します。

- ◆ 193 ページのセクション 16.1 「Novell Client による認証」
- ◆ 194 ページのセクション 16.2 「デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証」

この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

## 16.1 Novell Client による認証

デスクトップ管理エージェントがインストールされているワークステーションに、Novell Client™ が以前にインストールされている場合、Novell Client は引き続きログイン時に起動します。Client をそのままにしておくことで、ワークステーションがファイアウォール内にあり、ZENworks Middle Tier Server による認証の必要がないことが前提となります。ただし、デスクトップ管理エージェントをインストールすると、ワークステーションが新しい ZENworks 7 デスクトップ管理機能にアップグレードされます。これには、更新された機能が含まれています。

ZENworks Desktop Management による Novell Client の使用方法については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』を参照してください。

この節では、デスクトップ管理エージェントがインストールされているかどうかに関係なく、ユーザのワークステーションに従来の Novell Client がインストールされている場合に、ZENworks ユーザおよびワークステーションポリシーが eDirectory の認証を受けるために必要なアカウント情報(つまりユーザ ID とパスワード)について説明します。

この情報は、インストール時にこれらのアカウント情報を指定する理由を理解するのに役立ちます。このガイドは、次の章で構成されます。

- ◆ 193 ページのセクション 16.1.1 「ユーザポリシーに必要なアカウント情報」
- ◆ 194 ページのセクション 16.1.2 「ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報」

### 16.1.1 ユーザポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、ZENworks デスクトップ管理ユーザポリシーで必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、Novell Client を使用して eDirectory から認証を受けます。

表 16-1 Novell Client を使用して認証を受けるデスクトップ管理ユーザポリシーに必要なアカウント情報

ワークステーションプラットフォーム	アクセスするサーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare®	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ユーザ ID とパスワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	ドメインユーザ ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。

### 16.1.2 ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、ZENworks デスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、Novell Client を使用して eDirectory から認証を受けます。

表 16-2 Novell Client を使用して認証を受けるデスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

ワークステーションプラットフォーム	アクセスするサーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	ドメインワークステーション ID とパスワード	Microsoft SMB クライアントは、Windows ファイルシステムへのアクセスに使用されます。

## 16.2 デスクトップ管理エージェントと ZENworks Middle Tier Server による認証

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを使用してネットワークにログインする場合は、デスクトップ管理エージェントのカスタマイズ方法、およびユーザ

に必要なログイン経験をカスタマイズするためのその他の準備について理解する必要があります。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 195 ページのセクション 16.2.1 「デスクトップ管理ポリシーで必要なアカウント情報」
- ◆ 196 ページのセクション 16.2.2 「エージェントのログインのカスタマイズ」
- ◆ 198 ページのセクション 16.2.3 「同期パススルーログイン」
- ◆ 199 ページのセクション 16.2.4 「Windows ネットワーク環境へのログイン」

## 16.2.1 デスクトップ管理ポリシーで必要なアカウント情報

この節では、ユーザのワークステーションにデスクトップ管理エージェントがインストールされており、ZENworks Middle Tier Server を使用して通信している場合に、デスクトップ管理ユーザとワークステーションポリシーが eDirectory から認証を受けるために必要なアカウント情報について説明します。

この情報は、インストール時にこれらのアカウント情報を指定する理由を理解するのに役立ちます。このガイドは、次の章で構成されます。

- ◆ 195 ページの 「ユーザポリシーに必要なアカウント情報」
- ◆ 196 ページの 「ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報」

### ユーザポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、デスクトップ管理ユーザポリシーで必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して、eDirectory から認証を受けます。ユーザのワークステーションに、デスクトップ管理エージェントがインストールされていることが前提となります。

表 16-3 デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して認証を受けるデスクトップ管理ユーザポリシーで必要なアカウント情報

ワークステーションプラットフォーム	eDirectory サーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	eDirectory ユーザおよびドメインユーザの ID とパスワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、ZENworks Middle Tier Server のレジストリに格納されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ユーザ ID とパスワード	

ワークステーションプラットフォーム	eDirectory サーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	eDirectory ユーザおよびドメインユーザの ID とパスワード	<p>ユーザがドメインにログインしていない (ただし、ローカルワークステーションおよび eDirectory にはログインしている) 場合、Middle Tier Server は eDirectory アカウント情報を使用して、ドメインから認証を受けます。つまり、eDirectory アカウント情報は、ドメインアカウント情報と一致する必要があります。</p> <p>ユーザがドメインにログインしている場合は、そのドメインアカウント情報が使用されます。</p>

### ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

次の表は、デスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報を示します。このポリシーは、デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して、eDirectory から認証を受けます。ユーザのワークステーションに、デスクトップ管理エージェントがインストールされていることが前提となります。

表 16-4 デスクトップ管理エージェントおよび ZENworks Middle Tier Server を使用して認証を受けるデスクトップ管理ワークステーションポリシーに必要なアカウント情報

ワークステーションプラットフォーム	eDirectory サーバのファイルシステム	必要なアカウント情報	コメント
Windows 98 SE	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 98 SE	Windows 2000/2003	eDirectory ユーザおよびドメインユーザの ID とパスワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、ZENworks Middle Tier Server のレジストリに格納されます。
Windows 2000/XP	NetWare	eDirectory ワークステーション ID とパスワード	
Windows 2000/XP	Windows 2000/2003	プロキシ ID とパスワード	プロキシアカウント情報は、ZENworks Middle Tier Server のインストール時に登録され、ZENworks Middle Tier Server のレジストリに格納されます。

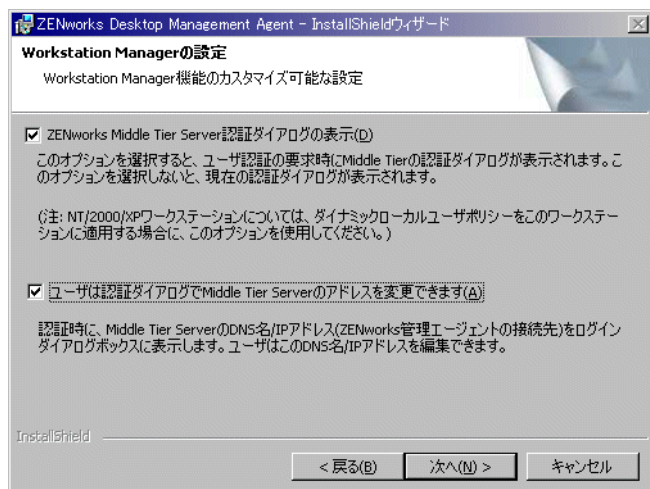
### 16.2.2 エージェントのログインのカスタマイズ

デスクトップ管理エージェントがインストールされていて、ワークステーションに Novell Client が存在しない場合、インストールプログラムは [Workstation Manager の設定] ペー



ジを表示します。このページを使用すると、ログイン時にユーザに表示される内容をカスタマイズできます。

図 16-1 エージェントインストールウィザードの [Workstation Manager の設定] ページ

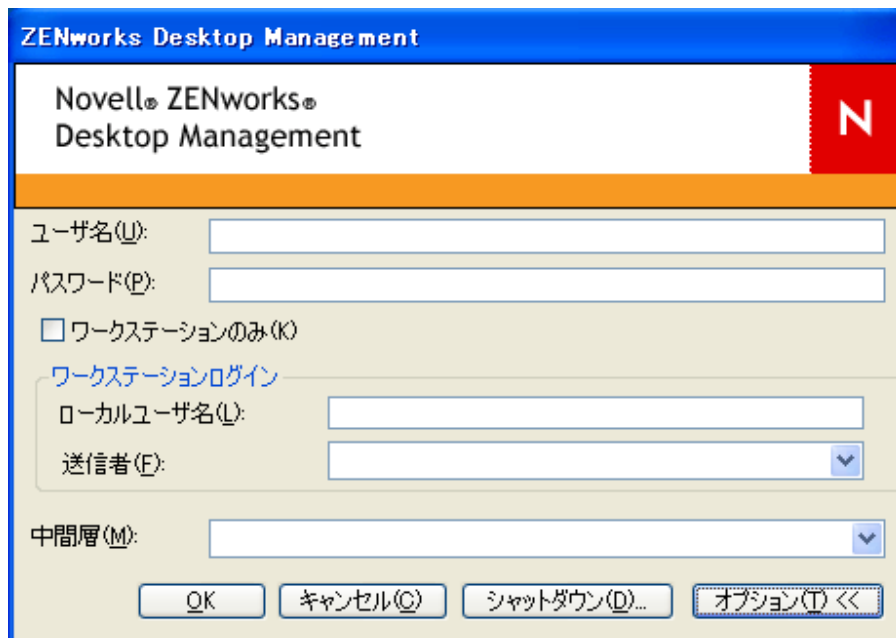


[ZENworks Middle Tier Server 認証ダイアログの表示] ダイアログを選択すると、カスタマイズされた [Novell ログイン] ダイアログボックスが常にユーザに表示されます。

ユーザがデスクトップ管理サーバから認証を受けるのに使用できるネットワーク内に、複数の Middle Tier Server を設置する場合、このオプションを選択することもできます。

注：ユーザのワークステーションが Windows 2000/XP プラットフォームで、ワークステーションにダイナミックローカルユーザポリシーを適用する場合は、このオプションを使用する必要があります。

図 16-2 ZENworks Middle Tier Server の認証ダイアログボックス



このログインダイアログボックスに、デスクトップ管理サーバのユーザ ID およびパスワード (「認証アカウント情報」) を入力する必要があります。これらのアカウント情報は、ネットワークに接続 (つまり eDirectory に接続) するときにユーザが使い慣れているアカウント情報と同じです。

インストールプログラムの実行中、[認証ダイアログでの ZENworks Middle Tier Server アドレスの変更を許可する] ダイアログを選択した場合、このワークステーション上のユーザは、eDirectory から認証を受けるのに使用される ZENworks Middle Tier Server の DNS 名 / IP アドレスを編集できます。Apache Web サーバ (NetWare®) または IIS Web サーバ (Windows) から認証を受けるために、代替ポートを指定することもできます。代替ポートを指定するには、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスで、[オプション] ボタンをクリックします。

IP アドレスまたは DNS 名の最後にコロンとポート番号を入力して、代替ポートを指定します。例：

151.155.155.000:5080

---

**重要：** プロトコル (http: や https: など) を IP アドレスと共に入力すると、デスクトップ管理エージェントが ZENworks Middle Tier Server に接続できません。

---

### 16.2.3 同期パススルーログイン

ユーザに [Novell ログイン] ダイアログボックスを表示しないようにする、つまりデスクトップ管理エージェントを“パススルー”して、ZENworks ファイルの場所に対する認証を実行するには、ユーザのローカルワークステーションのアカウント情報が、eDirectory のアカウント情報と同じであることをまず確認する必要があります。このログインを、“パッシブモード”ログインとも呼びます。

この同期の準備が完了すると、次のように認証が行われます。

1. ユーザは、Windows のログインダイアログで、ローカルの Windows ログインアカウント情報を入力します。
2. デスクトップ管理エージェントは、表示されていない場合でも、Windows ワークステーションのアカウント情報を Middle Tier Server に渡します。
3. Middle Tier Server は eDirectory ユーザに対してアカウント情報を確認し、一致した場合は eDirectory から認証を受けます。
4. ユーザは eDirectory から認証を受けます。eDirectory は、ユーザがログインするワークステーションに渡されるポリシーファイルを指定します。

パススルー認証を行うようにデスクトップ管理エージェントを設定するには、単に [Workstation Manager の設定] ダイアログボックスでデフォルトの設定を受け入れます。詳細については、196 ページの「エージェントのログインのカスタマイズ」を参照してください。

ユーザが eDirectory では無効なアカウント情報を使用して Windows にログインした場合は、Novell デスクトップ管理エージェントのログインダイアログが表示されます。

## 16.2.4 Windows ネットワーク環境へのログイン

ZENworks デスクトップ管理をインストールするサーバが、Windows ネットワーク環境の一部になっている場合 (つまり、Novell NetWare が存在しないネットワーク)、そのネットワークには Microsoft Active Directory がインストールされている可能性があり、ユーザは Microsoft ドメインのメンバーです。42 ページのセクション 4.2 「Desktop Management Server のソフトウェア要件」で述べたように、Novell eDirectory 8.7.3 (推奨) のインストールは、ZENworks Desktop Management をインストールするネットワーク (この場合は Microsoft ドメイン) の前提条件でもあります。

次の例は、Windows ネットワーク環境にログインした後に、ZENworks デスクトップ管理が認証を行う方法を示しています。

- ◆ 199 ページの 「eDirectory への同期ログイン」
- ◆ 199 ページの 「Microsoft ドメインへのログイン」
- ◆ 200 ページの 「自動ワークステーション認証」

### eDirectory への同期ログイン

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスとローカルコンピュータのアカウント情報を使用してログインする場合、ローカルワークステーションのアカウント情報を eDirectory のアカウント情報と同期させる必要があります。この同期の準備が完了すると、次のように認証が行われます。

1. ワークステーションの起動時に、Windows 2000/XP オペレーティングシステムは、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスで [オプション] ボタンをクリックして、オプションのログインフィールドを表示します。
3. ユーザは、[ユーザ名] および [パスワード] フィールドに eDirectory ユーザ名とパスワードを入力します。
4. [送信者] ドロップダウンリストで Windows ワークステーションの名前を選択して、Windows ネットワークにログインします。
5. デスクトップ管理エージェントは、eDirectory アカウント情報を ZENworks Middle Tier Server に渡します。
6. ZENworks Middle Tier Server は eDirectory ユーザに対してアカウント情報を確認し、一致した場合は eDirectory から認証を受けます。
7. ユーザは eDirectory から認証を受けます。eDirectory は、ユーザがログインするワークステーションに渡されるポリシーファイルを指定します。

### Microsoft ドメインへのログイン

デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスと、Microsoft ドメインのアカウント情報を使用してログインする場合、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアがインストールされている Windows 2000/2003 サーバと、デスクトップ管理サーバソフトウェアがインストールされている Windows 2000/2003 サーバは、同じ Microsoft ドメインまたは信頼関係に属している必要があります。Desktop Management Server が MSI アプリケーションを配布しないかぎり、ユーザのワークステーションはドメインにログインしません。

認証は、次のように行われます。

1. ワークステーションの起動時に、Windows 2000 オペレーティングシステムは、デスクトップ管理エージェントのログインダイアログボックスを開きます。
2. ダイアログボックスで [オプション] ボタンをクリックして、オプションのログインフィールドを表示します。
3. [送信者] ドロップダウンリストで、Microsoft ドメインからログインするオプションを選択します。
4. ユーザは、[ユーザ名] および [パスワード] フィールドにドメインのアカウント情報を入力します。このアカウント情報は、eDirectory のアカウント情報と同期させる必要はありません。
5. デスクトップ管理エージェントは、アカウント情報を ZENworks Middle Tier Server に渡します。
6. ZENworks Middle Tier Server はドメインユーザに対してアカウント情報を確認して、ドメインから認証を受けます。
7. ユーザはドメインから認証を受け、ポリシーファイルへのアクセス権を付与されます。ポリシーファイルは保存され、ドメインからアクセス可能で、ユーザがログインするワークステーションに渡されます。

#### 自動ワークステーション認証

ワークステーションにデスクトップ管理エージェントがすでにインストールされており、そのワークステーションの Workstation Manager がワークステーショングループポリシーを受け取るようにスケジュールが設定されている場合、ユーザがログインしていなくても、ワークステーションは Windows ネットワークから認証を受け、グループポリシーの実行時間になったときにポリシーファイルを受け取ります。これは、「自動」認証と呼ばれることもあります。認証は、次のように行われます。

1. ポリシー実行時間になると、デスクトップ管理エージェントは、インストール時に指定された DNS 名または IP アドレスを使用して、ZENworks Middle Tier Server に接続します。この情報は、ワークステーションの Windows レジストリに格納されます。
2. ZENworks Middle Tier Server は、(ZENworks Middle Tier インストールプログラムが提供する) レジストリプログラムに格納されたドメインユーザのアカウント情報を使用して、該当するファイルへのファイル権利を持つドメインユーザとして認証します。
3. ポリシーファイルは、ZENworks Middle Tier Server によってユーザのワークステーションにコピーされます。

# Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定

# 17

この節では、Novell ZENworks® Middle Tier Server がインストールされている Microsoft Windows または Novell® NetWare® サーバで、証明書を取得して Web サーバ用の SSL を設定する手順について説明します。

次の各節で構成されています。

- ◆ 201 ページのセクション 17.1 「Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の設定」
- ◆ 204 ページのセクション 17.2 「NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の設定」
- ◆ 206 ページのセクション 17.3 「SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ」
- ◆ 209 ページのセクション 17.4 「NetIdentity 認証のセットアップ」

## 17.1 Windows Middle Tier Server の SSL および証明書の設定

Windows 2000 コンピュータで Middle Tier Server の SSL をセットアップすると、すべての管理がインターネットサービスマネージャおよび ConsoleOne® によって行われます。セットアップの主な手順は、次のとおりです。

- ◆ 201 ページのセクション 17.1.1 「証明書の署名要求の生成」
- ◆ 202 ページのセクション 17.1.2 「eDirectory ルート CA による証明書の発行」
- ◆ 203 ページのセクション 17.1.3 「Middle Tier Server でのルート CA のインストール」
- ◆ 204 ページのセクション 17.1.4 「IIS で保留中の証明書要求の処理」

### 17.1.1 証明書の署名要求の生成

Windows 2000 にインストールされている Middle Tier Server で証明書要求を生成するには

- 1 サーバのデスクトップで、[プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックして、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties (既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。  
SSL 証明書がまだ設定されていない場合、[SSL Port(SSL ポート)] フィールドが淡色表示されます。
- 4 [Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] をクリックして、[Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] ページを開きます。

- 5 [Server Certificate (サーバの証明書)] をクリックして、Web サービス証明書ウィザードを開始します。
  - 5a ウィザードの初期ページで [次へ] をクリックして、[Server Certificate (サーバの証明書)] ページを開きます。
  - 5b [Server Certificate (サーバの証明書)] ページで、[Create a New Certificate (新規証明書の作成)] をクリックして、[次へ] をクリックします。
  - 5c ウィザードの [Delayed or Immediate (後で、または今すぐ実行)] ページで、[Prepare the Request Now, But Send it Later (今すぐ要求を準備するが、後で送信する)] を選択して、[次へ] をクリックします。
  - 5d [Name and Security Setting (名前とセキュリティの設定)] ページで、証明書の名前(「DaveMiddleTier Web Site」など)を指定し、ビット長を 1024 に変更して、[次へ] をクリックします。
  - 5e ウィザードの [Organization Information (組織情報)] ページで組織の名前を指定し、[組織] および [部門] フィールドで部門を指定して、[次へ] をクリックします。
  - 5f ウィザードの [Your Site's Common Name (ユーザサイトの共通名)] ページで、DNS 表を使用している場合は完全な DNS 名 (zztop1.zenworks.provo.novell.com など) を指定して、[次へ] をクリックします。

IP アドレスが静的で、すべてのアクセスが IP アドレスを使用して行われる場合は、IP アドレスを指定することもできます。

サーバがファイアウォールの背後にある場合は、サーバを外部に認識させる DNS 名を指定します。
  - 5g ウィザードの [Geographical Information (地域情報)] ページで、[国]、[都道府県]、[市町村] の各フィールドに正しい情報を入力して、[次へ] をクリックします。
  - 5h ウィザードの [Certificate Request File Name (証明書要求ファイル名)] ページで、アクセス可能な場所にある証明書要求を保存して、[次へ] をクリックします。

この要求は、信頼される認証局 (CA) に署名のために送信されるファイルです。
  - 5i ウィザードの [Request File Summary (要求ファイル概要)] ページで、すべての情報を確認します。必要に応じて、[戻る] ボタンを使用して、該当するページを変更することもできます。[次へ] をクリックします。
  - 5j ウィザードの [Completing the Web Services Certificate Wizard (Web サービス証明書ウィザードの完了)] ページで、[完了] をクリックします。
- 6 信頼される適切な認証局に証明書要求を送信します。信頼される CA が証明書を発行したら、[204 ページの「IIS で保留中の証明書要求の処理」](#) で説明する手順に進みます。

### 17.1.2 eDirectory ルート CA による証明書の発行

eDirectory ルート CA を使用して、有効な CSR (Certificate Signing Request) の証明書を発行します。この方法を使用する場合、ルートは信頼されるルートではありません。詳細については、[203 ページのステップ 4](#) を参照してください。

このコンピュータには、Novell Client™ 4.83 以降、ConsoleOne 1.3.3 以降、および Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) クライアント 2.4.0 以降がインストールされている必要があります。

- 1 サーバのデスクトップで、**ConsoleOne** を起動します。
- 2 サーバオブジェクトが存在するツリーで、コンテナを選択します。
- 3 [ツール] > [証明書の発行] の順に選択して、証明書の発行ウィザードを開始します。
  - 3a [ファイル名] フィールドで、証明書要求を含むファイルの名前を指定して、[次へ] をクリックします。
  - 3b [Organizational Certificate Authority ( 組織の証明書認証 )] ページで、[次へ] をクリックします。
  - 3c [SSL or TLS (SSL または TLS)] ページで、[次へ] をクリックします。
  - 3d ウィザードの次のページで [次へ] をクリックして、デフォルトをそのまま使用します。
  - 3e [Save Certificate ( 証明書の保存 )] ページで、ファイルをデフォルト (.der 形式) で保存します。
- 4 認証局から自己署名付きの証明書をエクスポートします。  
 ルートは信頼されるルートではないため、**Middle Tier Server** に接続されるすべてのワークステーションに、ルート CA から自己署名付き証明書をインポートする必要があります。この自己署名付き証明書がインポートされなかった場合、この CA によって発行されたすべての証明書の検証が失敗します。
  - 4a **ConsoleOne** で、ツリーのセキュリティコンテナを参照します。セキュリティコンテナは、鍵アイコンで識別されます。
  - 4b [*Server Name Organizational CA* ( サーバ名の組織 CA)] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
  - 4c [*Certificates* ( 証明書 )] をクリックして、[*Self Signed Certificate* ( 自己署名証明書 )] を選択します。
  - 4d [エクスポート] をクリックします。
  - 4e 特定の場所への保存が必要になるまで、後続のページでデフォルトをそのまま使用します。

### 17.1.3 Middle Tier Server でのルート CA のインストール

信頼されない CA(eDirectory ルート CA など) が証明書要求に署名した場合は、**Middle Tier Server** 上の CA から自己署名付き証明書をインストールする必要があります。

- 1 CA から自己署名付き証明書を含むファイルを検索して、ダブルクリックします。
- 2 [Certificate ( 証明書 )] ページで [*Install Certificate* ( 証明書のインストール )] をクリックして、ウィザードを開始します。
  - 2a ウィザードの最初のページで、[次へ] をクリックします。
  - 2b ウィザードの 2 番目のページで、「Automatically select the certificate store ( 証明書の保管場所を自動的に選択 )」というメッセージが表示されたら、[次へ] をクリックします。
  - 2c ウィザードの 3 番目のページで、[完了] をクリックします。
  - 2d [Root Certificate Store ( ルート証明書を保管 )] メッセージボックスで、[はい] を選択します。

**2e** [Successful Import (インポートの完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

「The import was successful (インポートに成功しました)」というメッセージが表示されます。

#### 17.1.4 IIS で保留中の証明書要求の処理

信頼される CA が証明書を発行した場合、インターネットサービスマネージャを使用して、その要求を処理できます。

- 1 サーバのデスクトップで、[プログラム] > [管理ツール] > [インターネット サービス マネージャ] > [インターネット インフォメーション サービス] の順にクリックして、[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウを開きます。
- 2 Middle Tier Server アイコンの「+」記号をクリックして階層を展開します。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして、[Default Web Site Properties (既定の Web サイトのプロパティ)] ダイアログボックスを開きます。
- 4 [Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] をクリックして、[Directory Security (ディレクトリのセキュリティ)] ページを開きます。
- 5 [Server Certificate (サーバの証明書)] をクリックして、Web サービス証明書ウィザードを開始します。
- 6 Web サービス証明書ウィザードを使用して、証明書要求を処理します。
  - 6a 初期ページで、[次へ] をクリックします。
  - 6b [Server Certificate (サーバの証明書)] ページで、[Process the Pending Request and Install the Certificate (保留中の要求を処理して証明書をインストール)] を選択して、[次へ] をクリックします。
  - 6c 次のページで、認証局から受け取った署名付き証明書のフルパスを入力します。

これは、認証局で使用される命名規則によって、.der または .cer ファイル、あるいは他の拡張子が付いたファイルになります。
  - 6d 次のウィザードページで、[次へ] をクリックします。
  - 6e 最後のウィザードページで、[完了] をクリックします。
- 7 [プロパティ] ページを閉じます。
- 8 ツリー内のサーバアイコンを右クリックして、[Restart IIS (IIS の再起動)] を選択します。
- 9 IIS が再起動したら、[既定の Web サイト] のプロパティを開いて、SSL ポートが使用可能になっていることを確認します。

## 17.2 NetWare Middle Tier Server の SSL および証明書の設定

NetWare コンピュータで Middle Tier Server の SSL をセットアップすると、すべての管理が ConsoleOne によって行われます。NetWare サーバには、NICI クライアント 2.4.0 以降がインストールされている必要があります。



次の手順に従って、NetWare サーバの SSL を設定します。

- 1 ConsoleOne で、Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたツリーを参照して、最上位のコンテナ (通常は組織) を右クリックし、[新規]、[オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 *NDSPKI:Key Material* オブジェクトをクリックして、作成ウィザードを開始します。
  - 2a 証明書の名前 (証明書と、関連するパブリックキーとプライベートキーのキーペア名) を指定して、[カスタム] のインストールを選択し、[次へ] をクリックします。
  - 2b [External Certificate Authority (外部の証明書認証)] を選択して、[次へ] をクリックします。
  - 2c [Key Size (キーサイズ)] を 1024 に変更し、他のフィールドはすべてデフォルトをそのまま使用して、[次へ] をクリックします。

デフォルトの [Key Size (キーサイズ)] は 2048 ですが、1024 で十分です。
  - 2d [サブジェクト名] フィールドで、[CN=] を完全識別名に変更し、他のフィールドはすべてデフォルトをそのまま使用して、[次へ] をクリックします。
  - 2e [完了] をクリックして、CSR を作成します。
  - 2f Base64 として保存してから、後でアクセスできるようにパスとファイル名を指定します。
- 3 **ステップ 2** で生成した CSR を使用して、信頼する CA でサーバ証明書を作成します。

必要に応じて、eDirectory ルート CA を使用して証明書を発行することができます。詳細については、[202 ページの「eDirectory ルート CA による証明書の発行」](#) を参照してください。
- 4 証明書が発行されたら、ConsoleOne を開いて、Middle Tier Server ソフトウェアがインストールされているツリーを開きます。
- 5 作成した *NDSPKI*: キーマテリアルオブジェクト (KMO) を開いて、[Certificates (証明書)] をクリックし、[Trusted Root Cert (信頼するルート証明書)] をクリックします。次に [インポート] をクリックして、インポートウィザードを開始し、証明書をインポートします。
  - 5a [Trusted Root Certificate (信頼するルート証明書)] ページで、[Read from File (ファイルから読み込み)] をクリックし、[Trusted Root Cert (信頼するルート証明書)] を選択して、[次へ] をクリックします。
  - 5b [Server Certificate (サーバの証明書)] ページで、[Read from File (ファイルから読み込み)] をクリックし、**ステップ 3** で作成した証明書を選択して、[次へ]、[完了] の順にクリックします。
- 6 (条件付き) NetWare 6 の Apache 設定ファイルを変更して、ConsoleOne で作成した証明書の名前を反映します。
  - 6a sys:\apache\conf ディレクトリにある adminserv.conf を開いて編集します。
  - 6b 現在のポートが割り当てられている行を探します。行は、次のようになります。

```
SecureListen 10.0.1.1:443 "SSL CertificateDNS"
```
  - 6c 「SSL CertificateDNS」を ConsoleOne で作成した証明書の名前に置き換えます。

例:

```
SecureListen 10.0.1.1:443 "Dave Cert"
```

ウィザードでサーバ証明書を作成する際、名前の最後に `-server_name` が追加されます (Dave Cert - DaveServer など)。このセクションを `.conf` ファイルに追加しないでください。

新しい証明書の名前を使用して、`.conf` ファイルの Web Manager セクションを編集することもできます。

7 NetWare サーバを再起動します。

## 17.3 SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ

この節では、SSL およびセキュリティ証明書を使用するための Windows 98/NT/2000/XP ワークステーションのセットアップについて説明します。次の各節で構成されています。

- [206 ページのセクション 17.3.1 「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」](#)
- [209 ページのセクション 17.3.2 「証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定」](#)

### 17.3.1 Windows ワークステーションへの証明書のインポート

使用する SSL 証明書が信頼されるルートリストに記載されていない CA によって発行されたものである場合、ワークステーションの CA から自己署名証明書をインストールする必要があります。これにより、ワークステーションはその CA によって発行された証明書を信頼できるようになります。証明書のインストールは、デスクトップ管理エージェントのインストールの前でも後でも実行できます。

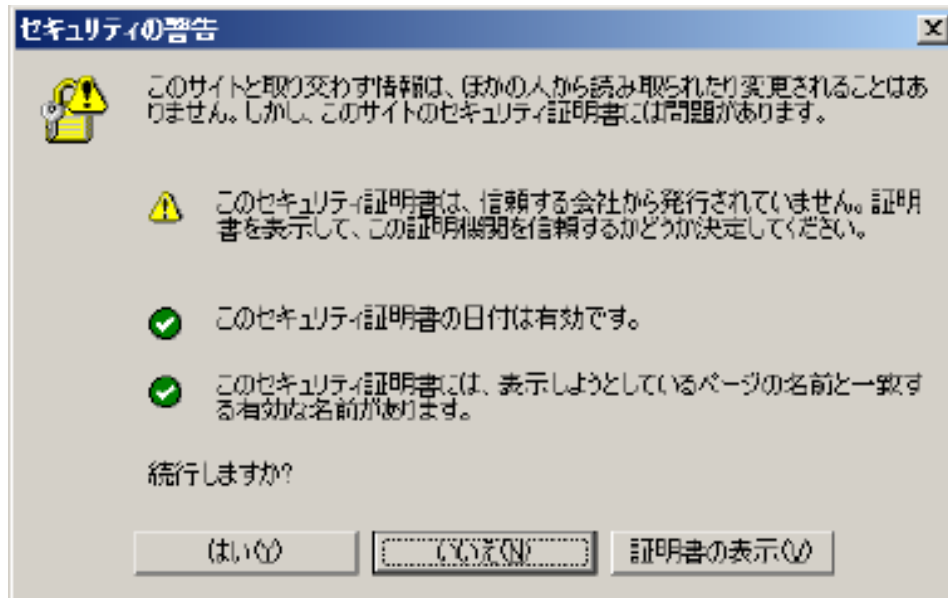
Windows ワークステーションの証明書は、「User Account (ユーザアカウント)」、  
「Computer Account (コンピュータアカウント)」、および「Service Account (サービスアカウント)」内にインポートできます。証明書のインポートの詳細については、[Windows XP Professional Product Documentation Web サイト \(http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag\\_cmprocsimport.msp\)](http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag_cmprocsimport.msp) の「To Import a Certificate」を参照してください。

#### サンプル SSL のセットアップ

以下のステップを、証明書をワークステーションにインポートするための例として使用してください。

- 1 ZENworks Middle Tier Server がインストールされている Web サーバで、SSL が動作していることを確認します。
  - 1a ZENworks デスクトップ管理エージェントがインストールされているワークステーションで、HTML ブラウザを開きます。
  - 1b ブラウザで、https プロトコルを使用して安全な Web サイト (`https://Middle_Tier_Server_DNS_Name`) にアクセスします。

以前のワークステーション設定とこのサイトへのアクセスによっては、セキュリティアラートダイアログボックスが表示される場合があります。



**1c** 以前にこのサイトにアクセスしたかどうかに応じて、以下のいずれかを行います。

- 以前にサイトにアクセスしていなかった場合、セキュリティアラートには、安全なサイトへのアクセスを許可する前にブラウザが行う3つのセキュリティチェックが示されます。最初の項目のステータスは警告を示し、他の2つの項目のステータスは緑のチェックマークを示すはずですが、アラートがこのステータスと一致しない場合には、**ステップ 2**に進む前に、証明書の問題を解決してください。
- 以前にサーバのセキュリティ証明書を受け入れていた場合（つまり、証明書の日付と名前を確認して、認証機関を信頼することを表明した場合）には、このセキュリティのアラートは表示されません。これは、ワークステーションがデスクトップ管理エージェント用に正しく設定されていることを意味するものではありません。エージェントが Middle Tier Server から認証を受けていない場合には（**ステップ 5**を参照してください）、ワークステーションにすでに存在するルート証明書を削除して、**ステップ 2**に進む必要があります。

**2** デスクトップ管理エージェントが認証を受けて、ポート 80 に正しく接続されていることを確認します（エージェントログインのデフォルトはポート 80 です。それで、Middle Tier アドレス用 DNS 名だけが必要です）。

**3** サードパーティのルート証明書をコンピュータアカウントとしてワークステーションにインポートします。

ブラウザにより、ルート証明書をデフォルトの場所にインポートしただけでは、デスクトップ管理エージェントが証明書を見つけられるようにするには不十分です。続くステップでは、NetWare 6.5 Middle Tier Server から、サードパーティのルート証明書を、エージェントがアクセスできる場所にインポートするための方法の例を示します。

- 3a** **ステップ 1** のように、ブラウザで、https プロトコルを使用して安全な Web サイト (`https://Middle_Tier_Server_DNS_Name`) にアクセスして、セキュリティアラートダイアログボックスを表示します。
- 3b** ダイアログボックスで、[View Certificate (証明書を表示)]、[Certification Path (証明書のパス)] の順にクリックし、[Organization CA (組織 CA)] を選択して、[View Certificate (証明書を表示)] をクリックします。
- 3c** [Install Certificate (証明書のインストール)] を選択して、証明書インポートウィザードを起動します。
- 3d** 証明書インポートウィザードで、[次へ]、[Place all certificates into the following store (次の保管場所にすべての証明書を保管)]、[参照] の順にクリックし、[Show Physical Stores (物理的な保管場所を表示)] チェックボックスを選択します。
- 3e** ウィンドウの最上部にスクロールして、[Trusted Root Certification Authorities (信頼されるルート認証局)] リスト項目を展開します。
- 3f** [Local Computer (ローカルコンピュータ)] を選択して [OK]、[次へ]、[完了] の順にクリックします。
- 4** ブラウザを閉じてからもう一度開き、`https://Middle_Tier_Server_DNS_Name` Web サイトに移動して、インポートの結果をテストします。
- セキュリティアラートダイアログボックスは表示されないはずですが、セキュリティアラートダイアログボックスが表示された場合には、Web サーバおよび SSL に問題がある可能性があります。
- 5** SSL 用のデスクトップ管理を設定し、エージェントがユーザを認証できることを確認してください。
- 5a** Middle Tier Server の DNS 名に :443 を追加してください。例：
- デスクトップ管理エージェントが Middle Tier アドレスの変更を許可しないように設定されている場合には、regedit.exe を使用して Middle Tier Server の設定を変更することが必要なことがあります。

The screenshot shows the 'Novell ZENworks Desktop Management' dialog box. It features a blue title bar with the text 'ZENworks Desktop Management' and a red square containing a white 'N'. The main content area is white with a blue border. It includes the following elements:

- A text box for 'ユーザ名(U):' (Username).
- A text box for 'パスワード(P):' (Password).
- A checkbox labeled 'ワークステーションのみ(K)' (Workstation only).
- A section titled 'ワークステーションログイン' (Workstation login) containing:
  - A text box for 'ローカルユーザ名(L):' (Local username).
  - A dropdown menu for '送信者(F):' (Sender).
- A dropdown menu for '中間層(M):' (Intermediate layer) with the selected value 'Middle\_Tier\_Server\_DNS\_Name:443'.
- Four buttons at the bottom: 'OK', 'キャンセル(C)' (Cancel), 'シャットダウン(D)...' (Shutdown), and 'オプション(O) <<' (Options).

5b 必要に応じ、ワークステーションを再起動します。

## 17.3.2 証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定

デスクトップ管理エージェントのインストールプログラムで、IP アドレスまたは Middle Tier Server の DNS 名の入力が必要な場合、証明書要求の作成時に使用した共通名を入力する必要があります。詳細については、[202 ページのステップ 5f](#) を参照してください。

## 17.4 NetIdentity 認証のセットアップ

デスクトップ管理エージェントから行う Middle Tier Server に対する認証は、チャレンジ/レスポンス方式に基づいています。Middle Tier Server が認証のためにエージェントにチャレンジするとき、Middle Tier Server は X.509 証明書を送信します。エージェントは証明書の完全性と信用性を検証し、パブリックキーとプライベートキー、およびセッションキー暗号化技術を使用して秘密が交換されます。

インストール時に、NetIdentity 証明書が Middle Tier Server にインストールされます。NetWare では、この証明書はサーバが属するツリーの認証局 (CA) によって署名されます。Windows 2000 では、この証明書は自己署名された擬似証明書です。これらの証明書は暗号化の面では有効ですが、信頼されるルート認証局によって署名されたものではないため、制御された環境以外では信頼すべきではありません。デフォルトでは、デスクトップ管理エージェントのインストールはこうした自己署名証明書を受け入れますが、これは設定可能なインストールパラメータです。制御されたネットワーク外部で展開するときには、信頼されるルート認証局によって署名された証明書を使用して Middle Tier Servers を設定する必要があります。厳密な信用性チェックを実行するように設定することも必要です。

### 17.4.1 有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の設定

有効な SSL 証明書 (信頼されるルート認証局によって署名された証明書) がサーバ用にすでにある場合、NetIdentity 認証処理でその証明書を使用できます。

- 1 サーバが NetWare サーバの場合は、SSL 証明書のキーペア名を書き留めておきます (この名前は、ConsoleOne に表示される証明書オブジェクトの名前です)。Windows 2000 サーバの場合は、証明書のフレンドリ名を書き留めておきます。
- 2 ブラウザで Middle Tier Server の NSAdmin ページ (<http://ip-address/oneNet/nsadmin>) を表示します。
- 3 [一般] 設定ページで、[Certificate Name (証明書の名前)] の値を [ステップ 1](#) の名前に設定します。
- 4 変更内容を送信します。
- 5 Middle Tier Server を再起動します。

有効な SSL 証明書がサーバ用でない場合、有効な X.509 証明書 (信頼されるルート CA によって署名された証明書) をサーバ用に設定する必要があります。

- 1 信頼されるルート CA によって署名された証明書を取得します。プラットフォームに合わせて、[201 ページの「証明書の署名要求の生成」](#)および [203 ページの「Middle Tier Server でのルート CA のインストール」](#)で説明した手順に従います。
- 2 キーペア名またはフレンドリ名 (プラットフォームによって異なります) が「NetIdentity」と異なる場合は、適切な名前を使用して Middle Tier Server を設定します。この手順の [ステップ 1](#) から [ステップ 4](#) を参照してください。
- 3 Middle Tier Server を再起動します。

---

注: どちらの場合でも、証明書が信頼されるルート CA のリストに記載されていない CA によって署名されたものであるときには、CA の自己署名証明書を各ワークステーションにインポートする必要があります。詳細については、[206 ページの「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」](#)を参照してください。

---

## 17.4.2 厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの設定

信頼されるルート CA によって署名された証明書を使用して Middle Tier Server を設定したら、NetIdentity 証明書の厳密な信用性検証を実行するようにデスクトップ管理エージェントを設定します。次のレジストリキーの設定を変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\Client\Policies\NetIdentity  
"Strict Trust"= dword:0x00000001
```

デフォルトでは、Strict Trust の値は 0 (ゼロ) です。値がない場合、または 0x0 (ゼロ) に設定した場合は、すべての証明書を受け入れることができます。値を 0x1 に設定すると、信用性を完全に検証することができない証明書は拒否するようにデスクトップ管理エージェントが設定されます。

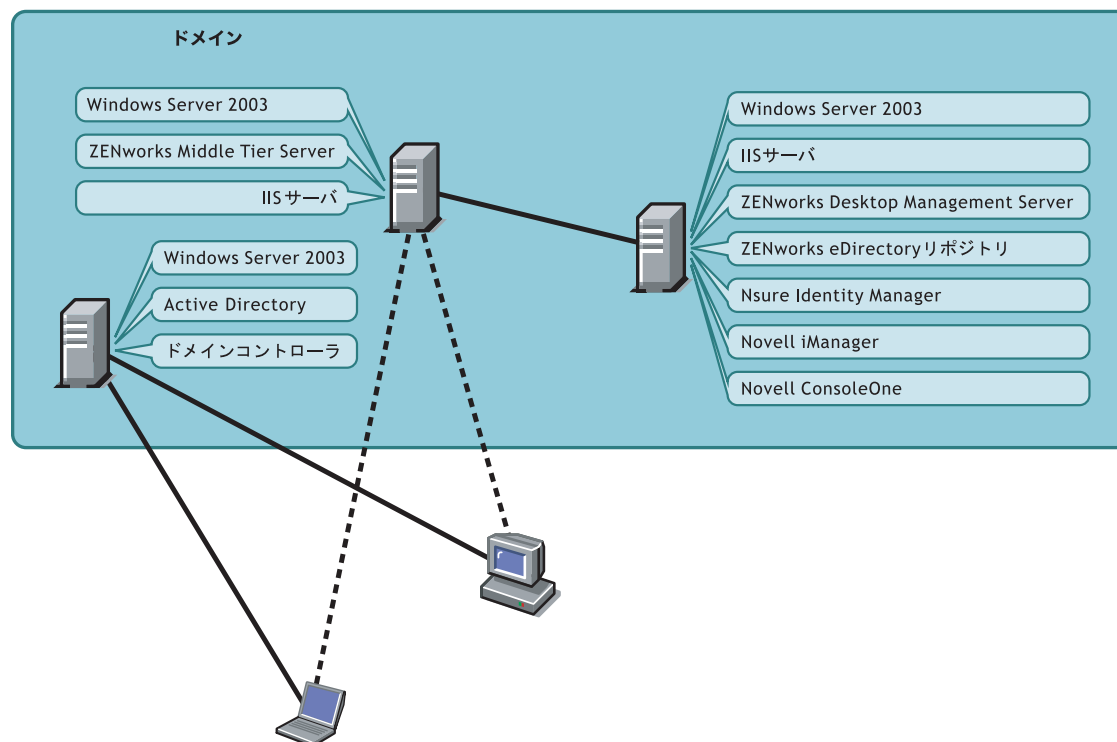
# Windows ネットワーク環境でのインストール

# 18

Novell® ZENworks® は、ネットワークのサーバ環境には関係なく Windows ワークステーションで動作します。Desktop Management は、Windows 2000/2003 サーバまたは NetWare® 6.x サーバを使用しているネットワークや、これらのサーバを組み合わせて使用しているネットワークも含め、Novell eDirectory™ を実行しているあらゆる IP ネットワークで機能します。

これまで、ZENworks は、NetWare または NetWare と Windows の混在環境に配備されてきました。以前のバージョンの ZENworks は、NetWare の LAN 特有の多数の機能に依存していました。しかし、製品の進歩に伴ってその機能も進化し、ZENworks 7 では、混在環境ではない Windows ネットワーク環境で重要な機能を使用できるようになりました。

図 18-1 Active Directory ドメインに配備された ZENworks Desktop Management のコンポーネント



図に示すように、Active Directory ドメインに ZENworks を配備し、Windows 2003 サーバと IIS Web サーバを通じて ZENworks サービスを提供することができます。eDirectory を Active Directory から独立したリポジトリとして使用し、アプリケーション、デスクトップ、およびポリシーを管理しながら、ドメインによってユーザアカウントを引き続き管理できます。

ZENworks 7 には、Active Directory (または NT ドメイン) と eDirectory ZENworks リポジトリ間でユーザとパスワードを同期させることができる他の Novell 製品が同梱されています。ZENworks はエージェントベースであるため、ユーザワークステーションやラップ

トップに Novell Client™ をインストールする必要はありません。ZENworks は、eDirectory の認証を得てアプリケーションとポリシーを取得し、ブラウザ、Windows のスタートメニュー、アプリケーションウィンドウ、またはデスクトップのアイコンを使用して、ユーザのデスクトップに配布します。

ZENworks 7 Desktop Management for a Windows environment のインストールと、ZENworks 7 Desktop Management with SP1 for a Windows environment のインストールの間には、顕著な相違点が存在します。以下の節は、これらどちらのバージョンをインストールする場合でも使用できます。:

- ◆ [212 ページのセクション 18.1「Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール」](#)
- ◆ [263 ページのセクション 18.2「Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」](#)

## 18.1 Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール

ここでは、サンプルの Windows ネットワーク環境に ZENworks 7 Desktop Management を配備する方法の一例を紹介します。インストールに関する情報および Windows ネットワークユーザにとって役立つ ZENworks の重要な機能についても説明します。次の情報が含まれています。

- ◆ [212 ページのセクション 18.1.1 「Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストールの準備」](#)
- ◆ [216 ページのセクション 18.1.2 「Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール」](#)

---

注: Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストールの詳細については、[263 ページのセクション 18.2 「Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」](#)を参照してください。

---

### 18.1.1 Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストールの準備

- ◆ [212 ページの 「最低ネットワーク要件」](#)
- ◆ [213 ページの 「必要とされるネットワーク設定」](#)
- ◆ [215 ページの 「eDirectory 評価版ライセンスフロッピーディスクの作成」](#)
- ◆ [215 ページの 「Nsure Identity Manager DirXML エンジンとドライバ」](#)

#### 最低ネットワーク要件

このサンプル Windows ネットワークでは、ZENworks は次に示す追加のソフトウェアを必要とします。

- ◆ ドメイン内の 1 台の Windows Server 2003 にインストールされた Microsoft IIS Web サーバ。



- ◆ 2台目のWindows Server 2003で使用するeDirectory 8.7.3以降(ZENworksをWindows 2003サーバにインストールする際に必要となる Novell Client が同じサーバにインストールされます)。

*Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* には、eDirectory 8.7.3 が収録されています。

---

警告 : eDirectory 8.7.3 に付属しているバージョンの Novell Client (4.90.0 SP1a) はインストールしないでください。このバージョンを Windows Server 2003 で使用するには、追加のパッチをインストールする必要があります。代わりに、*Novell Client for Windows 4.91* をインストールすることをお勧めします。このバージョンは、[Novell 製品のダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/Download?buildid=2ss2JIYshRc~\)](http://download.novell.com/Download?buildid=2ss2JIYshRc~) から入手いただけます。このクライアントのインストール方法については、[217 ページの「Novell Client のインストール」](#) を参照してください。

---

- ◆ eDirectory リソースと Active Directory を同期するための Novell Nsure™ Identity Manager 2.0.1 Bundle Edition。

*Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* には、Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition が収録されています。このバンドルの詳細については、Novell Open Enterprise Server のマニュアルで「[Identity Management Services \(ID 管理サービス \) \(http://www.novell.com/documentation/oes/implgde/data/idm2.html\)](http://www.novell.com/documentation/oes/implgde/data/idm2.html)」を参照してください。

- ◆ Nsure Identity Manager DirXML® ドライバを設定および管理するための Novell iManager 2.5。

*Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* には、Novell iManager 2.5 が収録されています。

- ◆ eDirectory の ZENworks リソースを管理するための Novell ConsoleOne® 1.3.6。

*Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* には、Novell ConsoleOne 1.3.6 が収録されています。

## 必要とされるネットワーク設定

このサンプル Windows 環境で、次の Windows ネットワーク設定を満たすことを前提としています。

- ◆ Active Directory ドメイン。
- ◆ Windows Server 2003 上に、ZENworks 7 Desktop Management Server、Novell eDirectory、Nsure Identity Manager 2 Bundle Edition、および Novell iManager 2.5 がインストールされていること。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要がありますが、ドメインコントローラではありません。
- ◆ Microsoft IIS がインストールされている Windows Server 2003 サーバにインストールされた ZENworks 7 Middle Tier Server。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要があります。ZENworks ソフトウェアがインストールされているサーバと同じサーバでも構いませんが、パフォーマンス上の問題を最少限に抑えるために、IIS サーバの独立性を保つことを考慮する必要があります。また、Nsure Identity Manager の Password Synchronization モジュールとは別のサーバで運用することが必要です。

ZENworks を使用して Windows ネットワーク内でワークステーションをセットアップする方法の詳細については、[214 ページの「ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境設定オプション」](#) を参照してください。

## ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境設定オプション

ZENworks Desktop Management は、Novell Client または次の 2 つの非クライアントモードを使用して、ユーザワークステーションで実行できます。

- ◆ **Application Browser ビューモード**
- ◆ **デスクトップ管理エージェントフルモード**

これは、Windows ネットワーク環境で Novell Client を使用しないことを前提としています。したがって、ネットワークで必要な機能を決定し、非クライアントモードのいずれかでユーザ用の ZENworks Desktop Management を設定する必要があります。

### Application Browser ビューモード

このモードでは、ユーザが IIS に接続し、ZENworks Desktop Management で提供されるアプリケーションページ (myapps.html) を開いたときに、単一の Application Browser ビューが配布されます。ユーザがアプリケーションをローカルでインストールする権利を持っている場合は、Web ビューがワークステーションに自動的にインストールされます。

Application Browser モードでアプリケーションをワークステーションに配布できるのは、ユーザが個別に設定されたアプリケーション Web ページに接続した場合だけです。ダイナミックローカルユーザアカウントの作成、ハードウェアおよびソフトウェアインベントリ、自動イメージングサービス、およびリモート管理機能は、このモードには含まれていません。

### デスクトップ管理エージェントフルモード

デスクトップ管理エージェントフルモードでは、管理者によって、イメージの一部として、またはユーザによって Desktop Management のすべてのコンポーネントがワークステーションにインストールされます。デスクトップ管理エージェントのインストールに Desktop Management のすべてのコンポーネントを含めることによって、ZENworks Desktop Management が提供するすべての機能をユーザに提供できます。

ワークステーションでダイナミックローカルユーザアカウントを作成する場合、Windows へのローカルログインの前に、eDirectory にログインすることをユーザに求めるようにデスクトップ管理エージェントを設定します。エージェントをこのように設定すると、ユーザは eDirectory のユーザ名とパスワード (2 つのアカウントは DirXML によって同期されるため、Active Directory アカウントと同じものにする必要があります) の入力を求められます。ローカルアカウントが存在しない場合、ZENworks Desktop Management はワークステーションにローカルアカウントを作成し、提供されたユーザ名とパスワードを使用してユーザを Windows にログインさせます。

ダイナミックローカルユーザアカウントを作成する必要がない場合、ユーザがワークステーション上にすでにアカウントを持っている場合、ユーザがワークステーションにログインするとき、ZENworks は Novell ユーザのアカウント情報をサイレントで Windows に渡します (ユーザが Active Directory にログインしていて、ワークステーションが Active Directory ドメインの一部である場合には、ユーザはワークステーション上にアカウントを持っている必要はありません)。デスクトップ管理エージェントは、アプリケーションをユーザに配布するために、提供されたユーザ名とパスワードを使用して eDirectory に接続します。

---

注: デスクトップ管理エージェントがワークステーションにインストールされていても、アプリケーションの配布を選択できるのはやはりブラウザビューからだけです。

---

## eDirectory 評価版ライセンスフロッピーディスクの作成

ZENworks では、Windows 用の eDirectory の 1 対 1 ライセンスを提供しています。eDirectory 8.7.x 評価版ライセンスは、[Novell eDirectory 8.7.x 評価ライセンスダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval\\_87.html\)](http://www.novell.com/products/edirectory/licenses/eval_87.html) から入手できます。Novell が 2 つのファイル (.nfk ファイルおよび .nlf ファイル) を電子メールに添付して送信できるよう、いくつかの連絡先情報を入力する必要があります。

必須ではありませんが、フロッピーディスクをフォーマットし、このフロッピーディスクのルートに \license ディレクトリを作成して、ここに 2 つのファイルを保存しておくことをお勧めします。製品のインストール時に、このフロッピーディスク / ファイルを求めるメッセージが表示されます。

## Nsure Identity Manager DirXML エンジンとドライバ

Nsure Identity Manager (IDM) エンジンを使用すると、eDirectory のデータを外部のデータサービスと同期させることができます。IDM エンジンには、データソース間の入出力をどのように送信するかを記述した複数の DirXML ドライバがあります。

Active Directory 用の DirXML ドライバは、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory 間のデータを同期する目的で設計された専用ドライバです。同期は双方向です。2 つのディレクトリ間で双方向に情報を流すか、一方だけに情報を流すかを指定できます。

Windows 2003 Server 用に数多くの Nsure Identity Manager DirXML ドライバが存在し、PeopleSoft\*、JDBC\*、LDAP ディレクトリ、Lotus Notes\*、SAP\* HR、および WebSphere\* MQ などの他のデータソースと同期させることができます。その他のドライバの詳細については、[Novell Nsure Identity Manager の Web サイト \(http://www.novell.com/products/nsureidentitymanager/\)](http://www.novell.com/products/nsureidentitymanager/) を参照してください。

IDM アーキテクチャでは、パブリッシャ / サブスクライバモデルを使用しています。このモデルでは、パブリッシャは eDirectory に情報を配置する役割を果たし、サブスクライバは eDirectory の変更内容を同期された外部のデータソースに適用します。パブリッシャとサブスクライバの動作および属性のマッピングは、DirXML ドライバに含まれる一連の規則によって決まります。DirXML ドライバを XML 規則によってカスタマイズすると、必要なほとんどのデータ設定を配布できます。

IDM の設定方法の詳細については、『[Novell Nsure Identity Manager 2.0.1 Powered by DirXML \(DirXML を使用した Novell Nsure Identity Manager 2.0.1\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/index.html)』マニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/index.html>) を参照してください。

IDM のライセンスを設定する方法の詳細については、[215 ページの「Nsure Identity Manager 2 Bundle Edition のライセンス」](#)を参照してください。

## Nsure Identity Manager 2 Bundle Edition のライセンス

Novell ZENworks 7 Companion 2 CD には、Nsure Identity Manager (IDM) 2.02 Bundle Edition が収録されています。このバンドルの詳細については、Novell Open Enterprise Server のマニュアルで「[Identity Management Services \(ID 管理サービス\) \(http://www.novell.com/documentation/oes/implgde/data/idm2.html\)](http://www.novell.com/documentation/oes/implgde/data/idm2.html)」を参照してください。

IDM 2 のライセンスを設定するには

- 1 インターネットブラウザから、Novell の、ZENworks 上の IDM 2 の登録ページ (<http://www.novell.com/reg/zenworks7.jsp>) に移動します。

- 2 ZENworks 7 Desktop Management のライセンスコードを入力し、[Submit (送信)] をクリックして、IDM 2.02 の製品登録とアクセスを開きます。
- 3 [Download Associated Files (関連ファイルのダウンロード)] をクリックして、IDM 2.02 のライセンスを受けます。

## 18.1.2 Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management のインストール

Windows ネットワーク環境および Active Directory テスト環境に ZENworks をインストールするときには、次の作業を順番に行う必要があります。

1. [216 ページの「テストラボの環境設定」](#)
2. [217 ページの「ZENworks 7 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」](#)
3. [217 ページの「Novell Client のインストール」](#)
4. [218 ページの「eDirectory のインストール」](#)
5. [222 ページの「iManager 2.5 のインストールとセットアップ」](#)
6. [224 ページの「ディレクトリツリーの実用性の検証」](#)
7. [225 ページの「Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition のインストール」](#)
8. [227 ページの「DirXML ドライバの設定」](#)
9. [236 ページの「Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化」](#)
10. [241 ページの「DirXML ドライバの最終設定」](#)
11. [244 ページの「eDirectory、DirXML、およびユニバーサルパスワードの動作確認」](#)
12. [245 ページの「Desktop Management Server のインストール」](#)
13. [252 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」](#)
14. [262 ページの「Sybase の ODBC ドライバのインストール」](#)
15. [262 ページの「ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開」](#)

### テストラボの環境設定

実際のエンタープライズ環境には、アプリケーションの実行やターミナルサービスなどのさまざまな用途に使用する多数のサーバが含まれています。この節では、次のような小規模の Windows ネットワーク構成をテストラボ環境のサンプルとして使用します。

- ◆ ZENDEMO ドメインの Active Directory ドメインコントローラとして機能する Windows Server 2003。このサーバは SRV-01 と示しています。
- ◆ IIS Web サーバがインストールされた Windows Server 2003。このサーバには、Novell eDirectory、ZENworks Desktop Management Server、Novell iManager、および Nsure Identity Manager 2 Bundle Edition (Password Synchronization を含む) もインストールする必要があります。このサーバは ZENDEMO ドメインのメンバーです。このサーバは SRV-02 と示しています。
- ◆ ZENworks Middle Tier Server がインストールされた Windows Server 2003。このサーバは SRV-03 と示しています。

- ◆ デスクトップ管理エージェントモード (デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントがインストールされているモード) で稼動する Windows XP Professional SP1a 以降のワークステーション。このワークステーションは WKS-01 と示しています。
- ◆ Novell Application Launcher™ の Application Browser ビューがインストールされている Windows XP Professional SP1a 以降のワークステーション。このワークステーションは WKS-02 と示しています。

---

注: これは、テスト環境としてのみ使用する、サンプル構成です。サポートされているサーバプラットフォームおよびワークステーションの詳細については、**23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」** および **71 ページの § 章 7 「ユーザワークステーションの要件」** を参照してください。

---

## ZENworks 7 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス

Windows ネットワーク環境で ZENworks 7 をセットアップするときには、*Novell ZENworks 7 Companion CD* が 2 枚とも必要になります。

*Companion CD* の内容には、インストールプログラムからアクセスできます。アクセスするには、*Novell ZENworks 7 CD* を Windows ワークステーションの CD ドライブに挿入します。インストールプログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートの `winsetup.exe` を手動で実行します。[*Companion* プログラムおよびファイル] をクリックし、(必要に応じて) 画面で挿入を求められた CD を挿入して、2 つのメニューページの 1 つで必要になるコンポーネントを参照します。

*Companion CD* の次のコンポーネントが必要です。

- ◆ Novell Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition。 *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* に収録されています。
- ◆ Novell eDirectory 8.7.3 SP6 for Windows Server 2003。 eDirectory 8.7.3 SP6 (`edir8736.exe`) は、 *Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* の `\novell edirectory for windows 2k` ディレクトリに収録されています。
- ◆ *Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* の Novell iManager 2.5。 `\novell imanager\program files\installs\win` ディレクトリに収録されています。

## Novell Client のインストール

---

警告: eDirectory 8.7.3 に付属しているバージョンの Novell Client (4.90.0 SP1a) はインストールしないことをお勧めします。このバージョンを Windows Server 2003 で使用するには、追加のパッチをインストールする必要があります。代わりに、*Novell Client for Windows 4.91* をインストールすることをお勧めします。このバージョンは、**Novell 製品のダウンロード Web サイト (<http://download.novell.com/Download?buildid=2ss2JIYshRc~>)** から入手いただけます。

---

クライアントをダウンロードするには

- 1 該当するクライアントの自己解凍ファイルを一時フォルダにダウンロードします。
- 2 一時フォルダ内にダウンロードされたファイルをダブルクリックし、ファイルの解凍先のパスを指定します。  
指定したパスに、所定のディレクトリ構造が作成されます。

3 [Unzip (解凍)] をクリックし、画面上の指示に従います。

クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

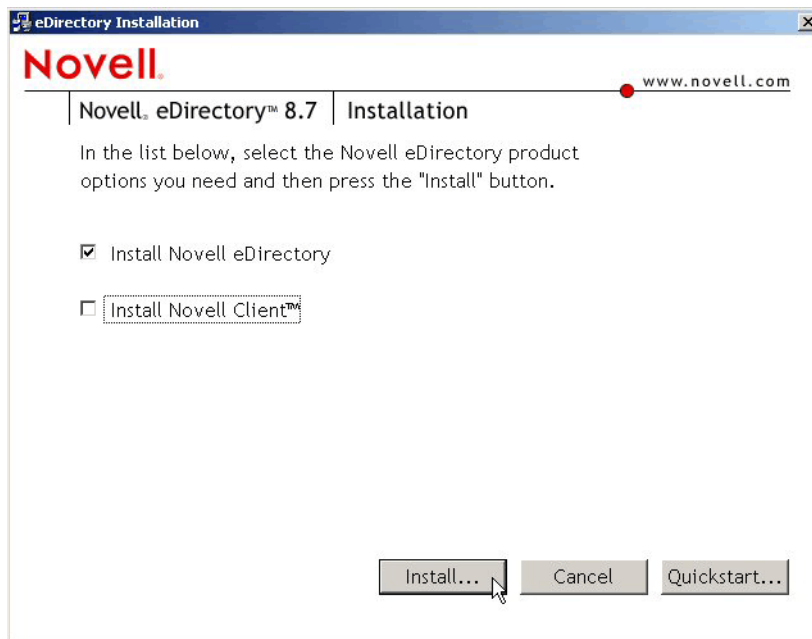
- 1 `download_location\winnt\I386` ディレクトリにある `setupnw.exe` をダブルクリックします。
- 2 [Novell Client license agreement (Novell Client のライセンス契約)] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 3 [Custom Installation (カスタムインストール)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 モジュールリストでクライアントだけが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5 [NMA] および [NICI] が選択され、[NetIdentity] の選択が解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 6 [IP Only (IP のみ)] および [Remove IPX (IPX の削除)] (表示されている場合) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [NDS] を選択してデフォルトで NDS® 接続を使用するようにクライアントを設定し、[次へ] をクリックし、次に [完了] をクリックします。
- 8 インストールが完了したら、[再起動] を選択します。

### eDirectory のインストール

Windows ネットワーク環境のテストシステムで、SVR-02 サーバの eDirectory インストールプログラムを起動するには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SVR-02 Windows Server 2003 にログインし、*Novell ZENworks 7 Companion 1* CD から eDirectory のインストールプログラムを起動します (217 ページの「ZENworks 7 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」を参照)。CD は自動的に起動します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートにある `winsetup.exe` を手動で実行します。
- 2 [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell eDirectory] を選択して指定したディレクトリに eDirectory のインストールファイルを解凍するプログラムを起動します。次に、ファイルの解凍先として `c:\edir873` ディレクトリを指定し、ファイルが解凍されたら [閉じる] をクリックします。

- 3 c:\edir873\nt ディレクトリに移動し、setup.exe を起動します。[Install Novell eDirectory (Novell eDirectory のインストール)] を選択し、[Install (インストール)] をクリックします。



メインのインストールプログラムが起動すると、次の分割インストールが実行されます。

- ◆ 219 ページの「eDirectory ライセンスの分割インストール」
- ◆ 220 ページの「eDirectory の分割インストール」
- ◆ 221 ページの「ConsoleOne の分割インストール」

### eDirectory ライセンスの分割インストール

Novell Client をインストールしたら、Novell eDirectory ライセンスのインストールウィザードを使用して、eDirectory のサーバライセンスをインストールします。

- 1 ライセンスのインストールウィザードの初期ページで、[次へ] をクリックしてライセンス契約書を表示します。
- 2 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 3 ドライブ A: に 215 ページの「eDirectory 評価版ライセンスフロッピーディスクの作成」で作成したライセンスフロッピーディスクを挿入します。
- 4 [Specify path to License File (ライセンスファイルへのパスを指定)] を選択して、フロッピーディスクに作成したディレクトリ内の .nfk ライセンスファイルを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 [Licensing Success (ライセンス認証の成功)] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。

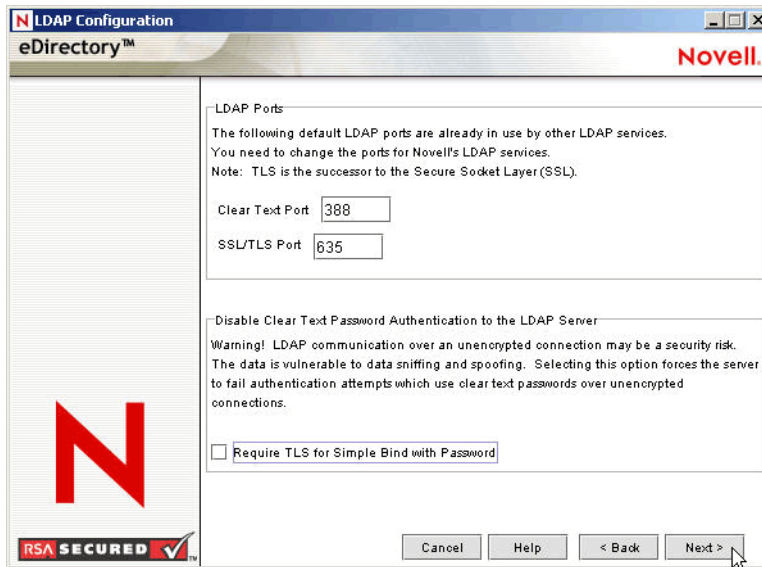
## eDirectory の分割インストール

Novell Client、eDirectory ライセンス、および NICI をインストールすると、eDirectory インストールが続行されます。

- 1** [eDirectory Installation Welcome (eDirectory インストール初期)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックします。
- 2** ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 3** インストールする言語を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4** [次へ] をクリックすると、デフォルトのインストールパスにインストールされます。
- 5** [はい] をクリックすると、新規ディレクトリを作成します。
- 6** [Create a New eDirectory Tree (新規 eDirectory ツリーを作成)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7** 新規ツリーおよびサーバへのアクセスをセットアップします。
  - 7a** 新規ツリーの名前を指定します (例: ZENTREE)。
  - 7b** サーバオブジェクトのコンテキストを指定します (例: SVR-02.SERVICES.ZEN)。  
このガイドでは、eDirectory 内の ZEN という名前の組織コンテナ、SVR-02 が常駐する SERVICES という名前の部門コンテナ、および Admin ユーザオブジェクトが常駐する USERS という名前の部門コンテナを作成することを前提としています。
  - 7c** Admin ユーザオブジェクトの名前を指定します (例: Admin)。
  - 7d** Admin ユーザオブジェクトのパスワードを指定し (例: Novell)、[次へ] をクリックします。
- 8** [HTTP Server Port Configuration (HTTP サーバポートの設定)] ページでは、このサーバで競合しているポートはないため、[HTTP Stack Ports (HTTP スタックポート)] をデフォルトとして受け入れます。[次へ] をクリックします。



9 [LDAP Configuration(LDAP 構成)] ページで、使用する LDAP ポートを指定します。



Active Directory と eDirectory が同じ Windows サーバ上にインストールされている場合は、eDirectory が Active Directory のデフォルトポート 389 と 636 と競合しないよう、他の LDAP ポートを選択する必要があります。

- 9a [Clear Text Port (クリアテキストポート)] の番号を 388 に変更し、[SSL Port (SSL ポート)] を 635 に変更します。
  - 9b [Require TLS for Simple Bind with Password (パスワードへのシンプルバインドに TLS が必要)] の選択を解除してパスワード同期が機能するようにし、[次へ] をクリックします。
- 10 [次へ] をクリックし、NMAST<sup>TM</sup> のデフォルトのログイン手段を受け入れます。
  - 11 [完了] をクリックし、eDirectory のインストールを完了します。

eDirectory のインストールプログラムは、SRV-02 サーバ上でインストールを実行します。このソフトウェアに Companion 1 からアクセスする方法については、217 ページの「ZENworks 7 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」を参照してください。プログラムが正常に完了したら、[成功] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。

### ConsoleOne の分割インストール

eDirectory のインストールが完了したら、SRV-02 上に ConsoleOne を手動でインストールする必要があります。

- 1 Novell ZENworks 7 Companion 1 CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートから winsetup.exe を手動で実行します。
- 2 [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell ConsoleOne] を選択します。
- 3 Winzip の自己抽出ダイアログボックスで、[Setup (セットアップ)] をクリックして抽出を実行し、ConsoleOne のインストールプログラムを起動します。
- 4 ConsoleOne インストールウィザードの開始ページで、[次へ] をクリックします。

- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [ *I Accept* ( 同意します ) ] をクリックします。  
( 条件付き ) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。 [ キャンセル ] をクリックします。
- 6 デフォルトのインストールパスを受け入れ、 [ 次へ ] をクリックします。
- 7 インストールするデフォルトのコンポーネントを受け入れ、 [ 次へ ] をクリックします。
- 8 [ *Additional Languages* ( その他の言語 ) ] ページで、インストールする他の言語を選択し、 [ 次へ ] をクリックします。
- 9 [ *JInfoNet Licensing Agreement* ( JInfoNet のライセンス契約 ) ] ページを読み、条項に同意する場合は [ *I Accept* ( 同意します ) ] をクリックします。  
( 条件付き ) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。 [ キャンセル ] をクリックします。
- 10 [ *ConsoleOne Installation Summary* ( ConsoleOne インストールのサマリ ) ] ページで [ 完了 ] をクリックし、SRV-02 サーバに ConsoleOne をインストールします。
- 11 [ *ConsoleOne Installation Success* ( ConsoleOne インストールの成功 ) ] ページで、 [ 閉じる ] をクリックします。

## iManager 2.5 のインストールとセットアップ

iManager ツールは、NSure Identity Manager DirXML のドライバを設定するために必要です。これらのドライバは、Active Directory と eDirectory を同期するために使用されます。

---

注 : Novell iManager は、Microsoft IIS Web サーバがすでにインストールされているサーバコンピュータにインストールすることをお勧めします。IIS がインストールされていない Windows 2003 サーバ上でも iManager は動作しますが、IIS が不在の場合は、Apache Web サーバと Tomcat サブレットをインストールする必要があります。

---

eDirectory のインストールが完了したら、SRV-02 上に Novell iManager 2.5 を手動でインストールし、セットアップする必要があります。

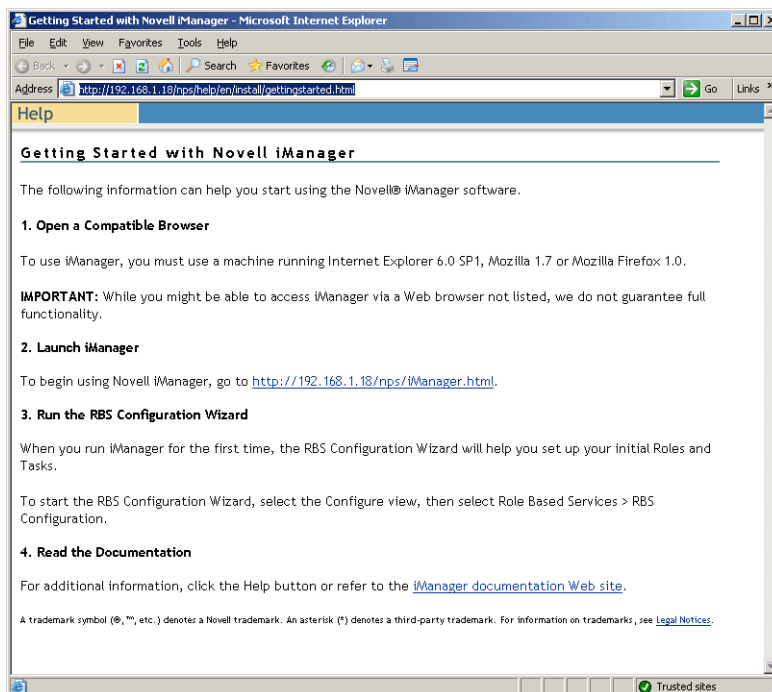
- 1 *Novell ZENworks 7 Companion 1* CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートから *winsetup.exe* を手動で実行します。
- 2 [ *Companion Programs and Files* ( *Companion* プログラムおよびファイル ) ] を選択し、 [ *Novell iManager* ] を選択します。
- 3 Novell iManager インストールウィザードの開始ページで、 [ *OK* ] をクリックします。
- 4 [ *iManager Introduction* ( iManager 概要 ) ] ページで、 [ 次へ ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [ *I Accept* ( 同意します ) ] をクリックし、 [ 次へ ] をクリックします。  
( 条件付き ) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。 [ キャンセル ] をクリックします。
- 6 [ 検出の概要 ] ページで、IIS Web サーバ ( バージョン 6 ) が Windows Server 2003 上にインストールされていることを確認し、その他のデフォルト値を確認して、 [ 次へ ] をクリックします。  
IIS Web サーバがインストールされていない場合は、Apache Web サーバと Tomcat サブレットがインストールされます。

- 7 [インストールフォルダの選択] ページで、デフォルトのインストール先を変更せずに [次へ] をクリックします。
- 8 [ユーザ名とツリー名の取得] ページで、次のフィールドに入力します。  
[Username] : iManager とそのモジュールの設定に使用する管理アカウントのユーザ名とコンテキスト (例 : admin.users.novell) を指定します。  
ツリー名 : iManager が主に管理する eDirectory ツリーの名前 (例 : ZENTREE.) を指定します。
- 9 [インストール前の概要] ページで、[インストール] をクリックします。
- 10 [インストールが終了しました] ページで [完了] をクリックし、SRV-02 サーバへの iManager のインストールを完了します。

## iManager を起動するための設定

iManager を起動できるように設定するには、次の手順に従います。

- 1 Windows のデスクトップで Novell iManager のショートカットアイコンをダブルクリックします。Internet Explorer が起動し、「Getting Started with Novell iManager(Novell iManager の基本事項)」ヘルプ ページが表示されます。



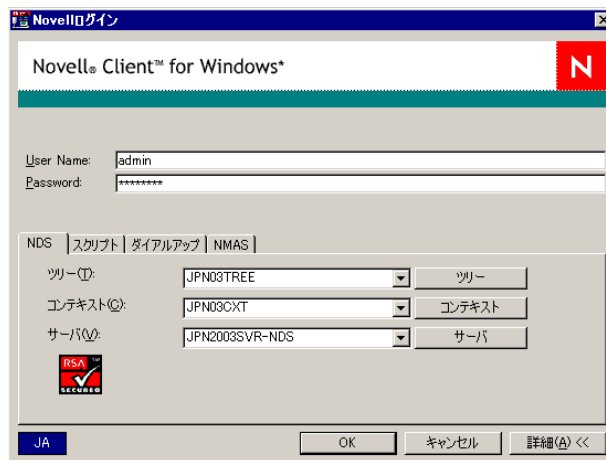
- 2 Internet Explorer の [ツール] メニューから [インターネットオプション] を選択し、[インターネットオプション] ダイアログボックスを開きます。
- 3 [インターネットオプション] ダイアログボックスの [セキュリティ] タブをクリックし、[信頼済みサイト]、[サイト] ボタンの順にクリックし、[信頼済みサイト] ダイアログボックスを開きます。
- 4 [信頼済みサイト] ダイアログボックスの [次の Web サイトをゾーンに追加する] フィールドで、SRV-02 の URL (例 : [http://server\\_IP\\_address](http://server_IP_address)) を指定して [追加] ボタンをクリックし、[閉じる] をクリックしてから [OK] をクリックします。[Novell iManager のログイン] ページが開きます。

- 5 [Novell iManager のログイン] ページで [ユーザ名]、[ツリー名] または [IP] を指定し、該当ユーザのパスワードを入力して iManager を起動します。
- 6 iManager の [ホーム] ページで [オブジェクトの表示] アイコンをクリックし、左側のペインで [参照] タブをクリックしてツリー (ZENTREE) を探し、目的の Admin オブジェクトとサーバーが存在することを確認します。

## ディレクトリツリーの実用性の検証

eDirectory および iManager のインストールが完了したら、ツリーの実用性を検証します。

- 1 eDirectory にログインします。
  - 1a Windows サーバのデスクトップで、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックし、[NetWare ログイン] を選択します。
  - 1b [ユーザ名] フィールドに、「Admin」と入力します。
  - 1c [パスワード] フィールドに、「novell」と入力します。
  - 1d [詳細] をクリックし、ログインダイアログボックスの [NDS] ページを開きます。
  - 1e [ツリー] フィールドに、「ZENTREE」と入力します。
  - 1f [コンテキスト] フィールドに、「USERS.ZEN」と入力します。
  - 1g [サーバ] フィールドに「SRV-02」と入力し、[OK] をクリックして eDirectory にログインします。



- 2 Admin としてツリーにログインしていることを確認するには、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックして [NetWare 接続] を選択し、ZENTREE とユーザ名 (CN=Admin) に対してリソースが一覧表示されていることを確認します。  
この接続の認証状態は、[ディレクトリサービス] として表示されます。
- 3 [閉じる] をクリックし、[NetWare 接続] ダイアログボックスを閉じます。
- 4 サーバに c:\novell\nds\ndicons.exe のショートカットを作成します。  
NDSConsole は、eDirectory ツリーと実行しているサービスの状態を表示できるユーティリティです。
- 5 [NDSConsole] ショートカットをクリックし、少なくとも ds.dlm と nldap.dlm が実行されていることを確認します。

現在、Windows Server 2003 で eDirectory ツリーが実行されています。

## Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition のインストール

eDirectory が安定稼動を始めたら、Active Directory ドメインと eDirectory 間でユーザを同期できるように、Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition (IDM 2) と適切なドライバをインストールする必要があります。

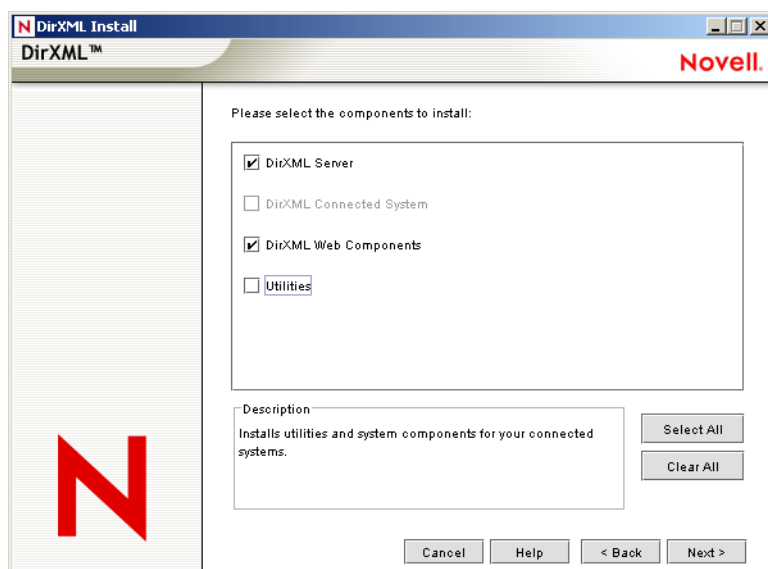
IDM 2 をインストールする前に、609 ページの付録 C 「ZENworks 7 Desktop Management 用の Identity Manager Bundle 2 Edition の使用方法」に記載されている内容を読み、理解してください。

---

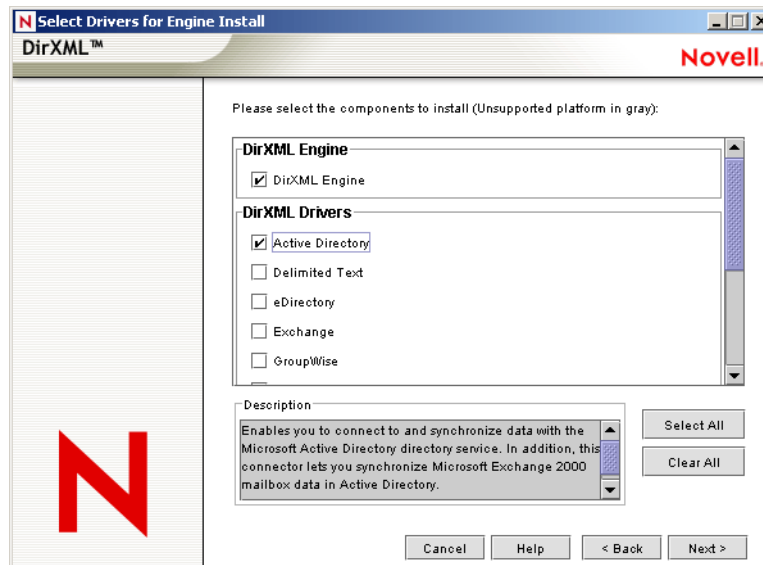
**重要 :** IDM 2 をインストールするときは、Windows サーバ上で ZENworks のサービスが実行されていないことを確認してください。

---

- 1 管理者として SRV-02 Windows Server 2003 にログインし、admin として eDirectory にログインします。
- 2 Novell ZENworks 7 Companion 2 CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入し、Windows のエクスプローラを使用して Nsure Identity Manager 2 Bundle Edition フォルダに移動します。
- 3 setup.bat をダブルクリックし、IDM2 のインストールプログラムを起動します。
- 4 DirXML の初期ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 [DirXML Overview (DirXML の概要)] ページで、[次へ] を 2 回クリックします。
- 7 コンポーネントの選択ページで、[DirXML Server (DirXML サーバ)] と [DirXML Web Components (DirXML Web コンポーネント)] を選択し、[Utilities (ユーティリティ)] の選択を解除して、[次へ] をクリックします。

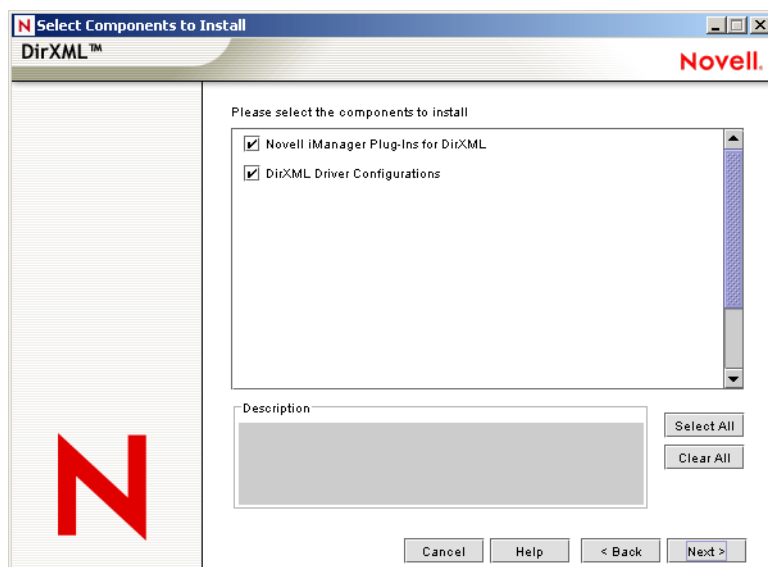


- 8 [Select Drivers for Engine Install ( エンジンのインストール用ドライバの選択 )] ページで、[Clear All (すべてクリア)] を選択し、[DirXML Engine (DirXML エンジン)] と [Active Directory] ( [DirXML Drivers (DirXML ドライバ)] リスト内) を選択して、[次へ] をクリックします。



- 9 (条件付き) [DirXML Warning: Activation Notice (DirXML 警告 : アクティベーション通知)] ダイアログボックスに、DirXML のライセンスを取得するように通知するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックします。
- ライセンスを登録しない場合、インストールしたコンポーネントは 90 日間の評価期間が過ぎると機能しくなくなります。DirXML エンジンと Active Directory ドライバのライセンスは、ZENworks 7 の製品ライセンスの一部として付属しています。これをスキップした場合でも、後ほど戻って、ライセンスを登録することができます。
- 10 (条件付き) [Password Synchronization Upgrade Warning (Password Synchronization アップグレード警告)] ダイアログボックスに、古いバージョンの Password Synchronization のアップグレードが必要であることを通知するメッセージが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合は、その内容を読んでから [OK] をクリックします。
- 11 [Schema Extension (スキーマの拡張)] ページで、ツリーが適切であること (ZENTREE) を確認し、admin ユーザの完全識別名 (DN)、およびユーザのパスワード (admin ユーザ名は、CN=admin,OU=Users,O=ZEN) を入力するか、参照して選択します。[次へ] をクリックします。

- 12 [Select Components to Install (インストールするコンポーネントの選択)] ページで、デフォルトの選択を変更せずに [次へ] をクリックします。



- 13 [Summary (概要)] ページの内容を確認し、[Finish (完了)] をクリックします。
- 14 [Installation Complete (インストールの完了)] ダイアログボックスで、[Close for DirXML (DirXML のために終了)] をクリックし、インストールを完了します。
- 15 ドライバが正常に登録されるように、サーバを再起動します。

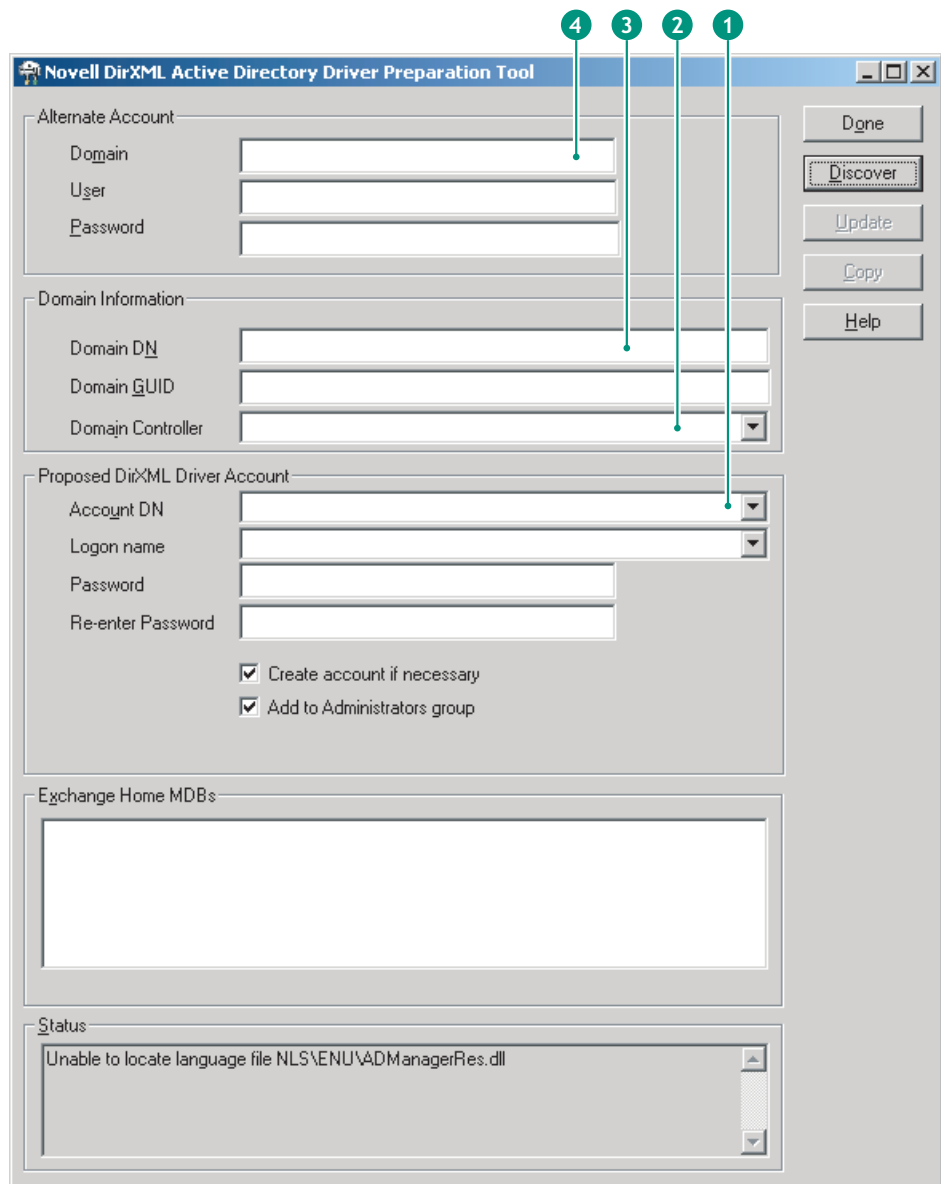
Nsure Identity Manager 2.02 Bundle Edition のインストールが完了したら、同期を実行できるように事前に DirXML ドライバを設定しておく必要があります。詳細については、[227 ページの「DirXML ドライバの設定」](#)を参照してください。

## DirXML ドライバの設定

SRV-02 サーバへの eDirectory および DirXML のインストールが終了したら、Active Directory ドメインと eDirectory 間での同期を開始するように DirXML ドライバを設定する必要があります。

- 1 Active Directory の管理者として、SRV-01 サーバにログインします。

- 2 ZENworks 7 Companion 2 CD をサーバの CD ドライブに挿入し、nsure identity manager 2 bundle edition\nt\dirxml\utilities\ad\_disc フォルダに移動し、admanager.exe をダブルクリックして Active Directory Driver Preparation Tool を実行します。



- 2a [Discover (検出)] をクリックします。  
ツールが実行され、ツールウィンドウの各フィールドに該当するデータが検出されます。
- 2b ツールウィンドウの [Proposed DirXML Driver Account (提案される DirXML ドライバアカウント)] セクションの [パスワード] フィールドにパスワードを入力し、[Re-enter Password (パスワードの再入力)] フィールドにもう一度同じパスワードを入力して、[更新] をクリックします。
- 2c [Create Account Notification (アカウント通知の作成)] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。




- 2d** [Domain (ドメイン)], [Domain DN (ドメイン DN)], [Domain Controller (ドメインコントローラ)], [Account DN (アカウント DN)] の各フィールドのデータを後から使用できるように、これらの情報をコピーしてテキストファイルに貼り付け、このファイルをデスクトップに保存します。

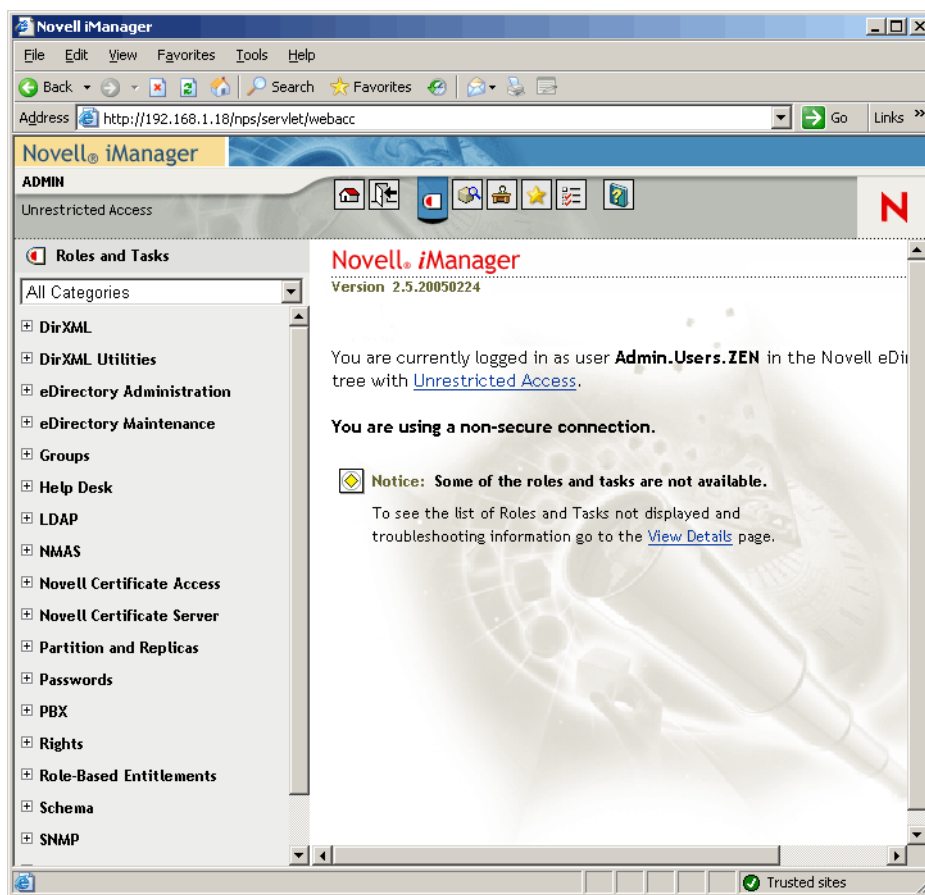
---

ヒント: 代わりに、ツールを実行したままにしておくこともできます。その場合、これらのデータをツールの各フィールドから直接コピーし、別の設定ツールの対応するフィールドに貼り付けることができます。詳細については、[233 ページのステップ 12](#) を参照してください。

---

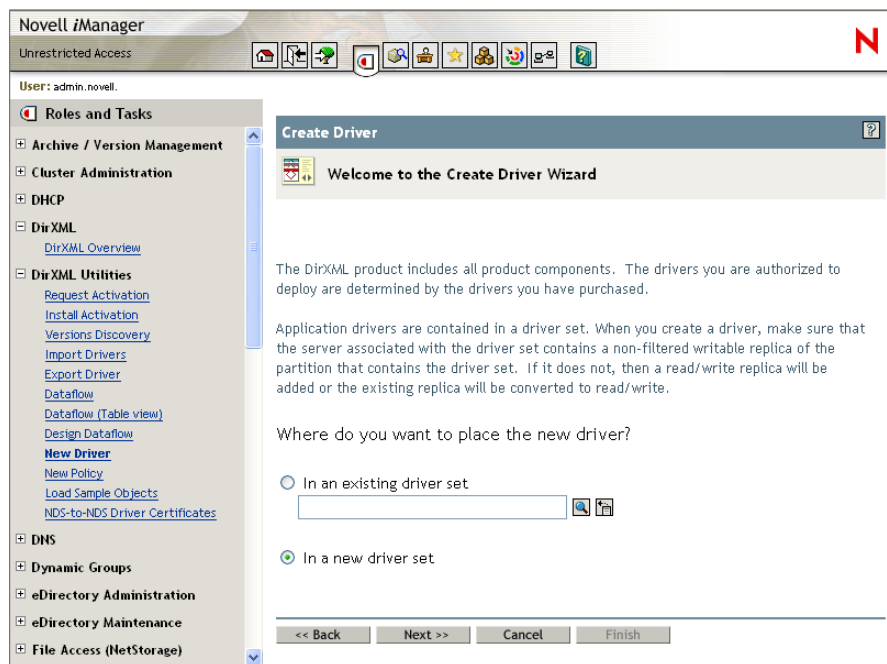
- 2e** [完了] をクリックし、Active Directory Driver Preparation Tool を終了します。
- 3** DirXML アカウントユーザのセキュリティ設定を行います。
- 3a** Windows のデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ドメインコントローラ セキュリティ ポリシー] の順にクリックします。
- 3b** ツリービューで [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] の順にクリックします。
- 3c** [サービスとしてログオン] をダブルクリックし、[セキュリティ] > [ユーザーまたはグループの追加] > [参照] > [Advance (詳細)] > [Find Now (今すぐ検索)] の順にクリックします。
- 3d** 作成したユーザ (ADDriver\_zendemo) を選択し、[OK] をクリックします。以降の 3 つのダイアログボックスでは、[OK] をクリックします。
- 3e** [ドメインコントローラセキュリティポリシー] を閉じます。
- 4** SRV-02 で、新規 Active Directory ドライバに対応するように、eDirectory スキーマを拡張します。
- 4a** Windows コントロールパネルで、[Novell eDirectory Services] をダブルクリックします。
- 4b** [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスで、install.dlm を選択して [開始] をクリックします。
- 4c** [Install Additional Schema Files (追加のスキーマファイルのインストール)] をクリックし、[次へ] をクリックします。
- 4d** eDirectory の admin ログイン名 (admin)、コンテキスト (ZEN\Users)、およびパスワード (novell) を入力し、[OK] をクリックします。
- 4e** c:\novell\nds\dvr\_ext.sch を参照して選択し、[開く] をクリックします。
- 4f** [完了] をクリックし、スキーマを適用します。
- 4g** [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスの閉じる (X) ボタンをクリックします。

- 5 SRV-02 で iManager を起動し、[役割およびタスク] アイコンをクリックします。iManager のメインページに iManager の [役割およびタスク] ペインが表示されます。

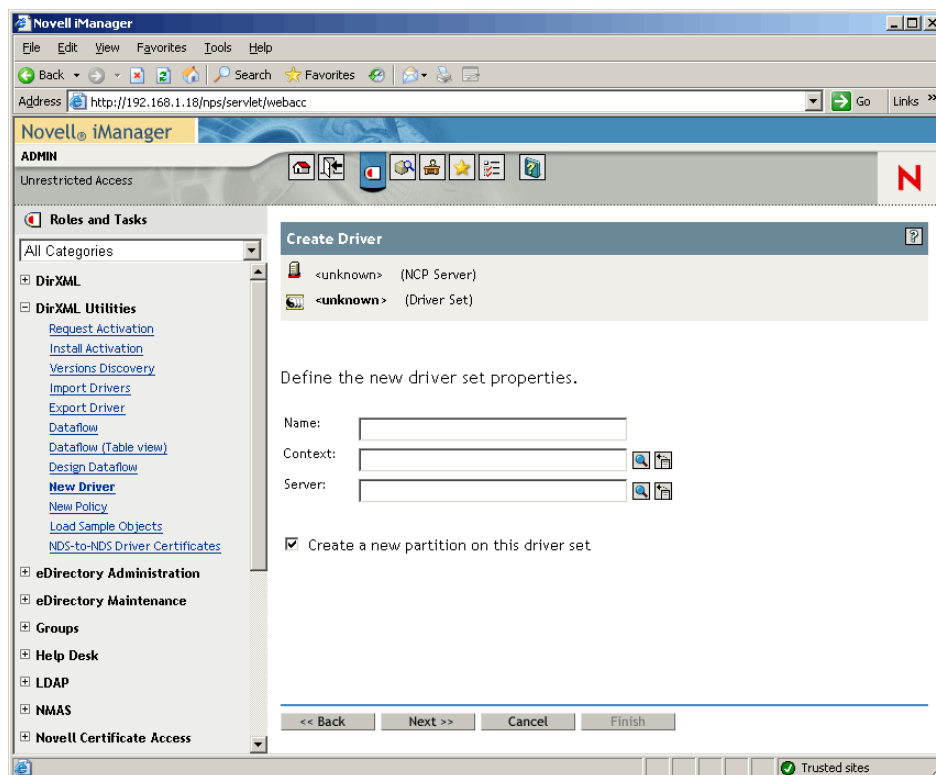


- 6 iManager で、ZEN 組織コンテナの下位に新規部門 (OU) コンテナを作成し、この OU コンテナの名前を DIRXML にします。

- 7 [役割およびタスク] ペインで [DirXML Utilities (DirXML ユーティリティ)] をクリックし、[New Driver (新規ドライバ)] をクリックして Create Driver Wizard を開きます。



- 8 Create Driver Wizard の初期ページで、[新しいドライバセットの中] をクリックして [次へ] をクリックし、[ドライバの作成] ページを開きます。



9 [ドライバの作成] ページで、次のフィールドに情報を入力します。

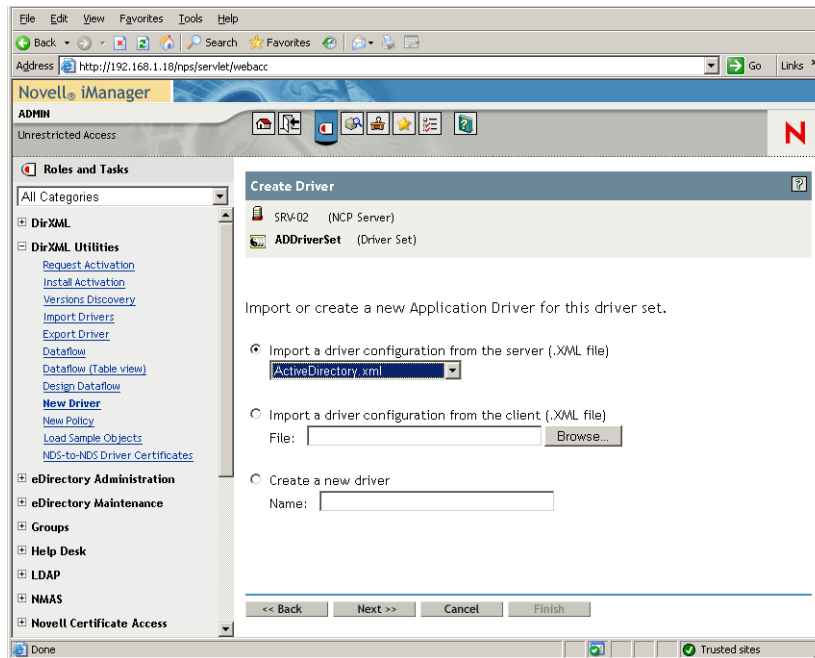
[Name] : ドライバセット名を入力します (例 : ADDriverSet)。

[コンテキスト] : DirXML コンテナを参照して選択します。

[サーバ] : SRV-02 サーバを参照して選択します。

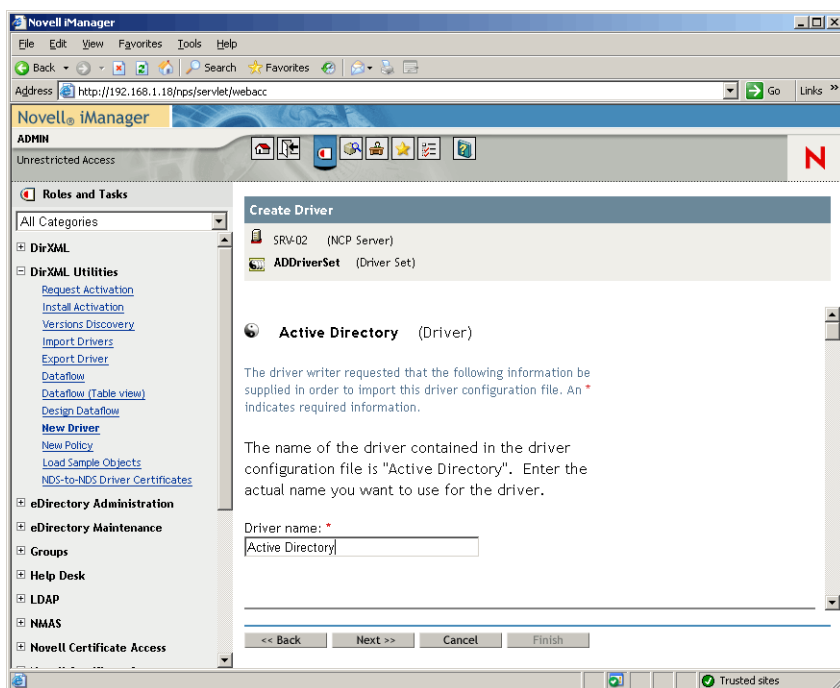
10 [次へ] をクリックします。

ドライバセットのオブジェクトが作成され、[ADDriverSet] ページが表示されます。



11 [Import a Driver Configuration From the Server (.XML file) (サーバからドライバ環境設定をインポートする (XML ファイル))] を選択し、ドロップダウンメニューから

[Active Directory] を選択して [次へ] をクリックします。Create Driver Wizard の [Active Directory Driver Set (Active Director ドライバセット)] ページが表示されます。



- 12 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard に一覧表示されているドライバのパラメータ (スクロールして表示) を設定します。

**[Driver Name(ドライバ名)]** : ドライバの名前をデフォルトとしてそのまま使用します。

**[Authentication Method]** : デフォルト値 ([Negotiate]) を使用します。

**[認証 ID]** : AD ドメイン名 (NetBios) の後にスラッシュを入力し、作成されたドライバアカウントユーザ名を入力します (228 ページのステップ 2b を参照)。ドライバアカウントユーザ名には、229 ページのステップ 2d で [Account DN] フィールドからコピーしておいた名前を使用できます (229 ページのステップ 2d に掲載されている図の番号 1 も参照)。

たとえば、このフィールドには「ZENDEMO/ADDriver\_zendemo」のように入力します。

**[Authentication Password]** : admanager.exe ツールの [Proposed DirXML Driver Account (提案される DirXML ドライバアカウント)] に指定したものと同一パスワードを使用します (228 ページのステップ 2b を参照)。

**[パスワードを再入力します]** : 1 つ前のフィールドに入力したパスワードを再入力します。

**[Authentication Server(認証サーバ)]** : admanager.exe の使用時に [Domain Controller] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (229 ページのステップ 2d および同手順で参照している図の番号 2 を参照)。

**[Domain Name]** : admanager.exe の使用時に [Domain DN] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (229 ページのステップ 2d および同手順で参照している図の番号 3 を参照)。

[**Domain DNS Name**] : admanager.exe の使用時に [ドメイン] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (229 ページのステップ 2d および手順順で参照している図の番号 4 を参照)。

[**Driver Polling Interval**( ドライバのポーリング間隔 )] : 希望のポーリング間隔を指定します。ラボ環境では、間隔を約 1 分に設定します。運用環境では、約 15 分に設定します。

[**Password Sync Timeout (minutes)**] : デフォルト値 (5 分間) をそのまま使用します。

[**Base Container in eDirectory**(eDirectory 内のベースコンテナ)] : ユーザを作成して Active Directory と同期させるコンテナを指定します (例: users.zen)。[参照] をクリックすると、このコンテナを参照できます。Active Directory コンテナをミラーリングする場合、このコンテナが eDirectory で最上位のコンテナになります。

[**Base Container in Active Directory**(Active Directory 内のベースコンテナ)] : Active Directory のベースコンテナの名前を入力します。これはユーザを eDirectory と同期させるコンテナです (例: CN=Users、DC=zendemo、DC=com)。

[**Configure Data Flow**( データフローの構成 )] : デフォルト値 ( [Bi-directional] ) をそのまま使用します。

[**Publisher Placement**( パブリッシャの配置 )] : [Flat (フラット)] または [Mirror (ミラー)] を選択します。[Flat (フラット)] を選択すると、Active Directory のユーザオブジェクトはすべて同じコンテナ内に配置されます。[Mirror (ミラー)] を選択すると、すべてのユーザオブジェクトとコンテナが eDirectory に再作成されます。

[**Subscriber Placement**( サブスクライバの配置 )] : [Publisher Placement( パブリッシャの配置 )] フィールドを確認して配置を選択します。

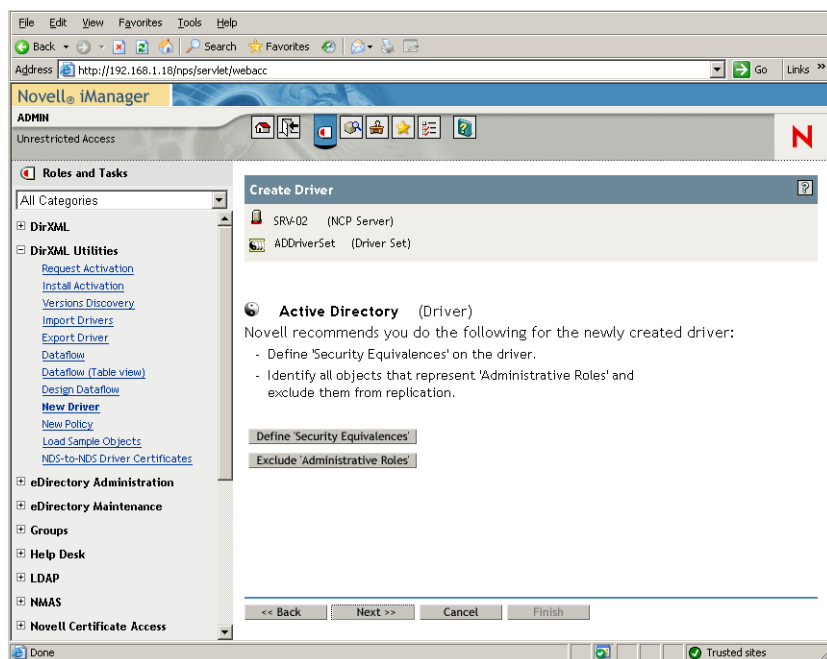
[**Password Failure Notification User**] : 空白のままにします。

[**Support Exchange 2000/2003 ( Exchange 2000/2003 のサポート )**] : デフォルト値 ( [No] ) をそのまま使用します。

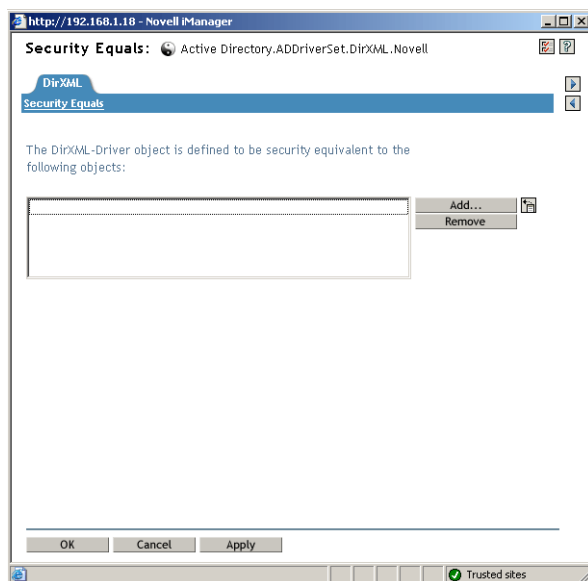
[**Enable Entitlements**] : デフォルト値 ( [No] ) をそのまま使用します。

[**Driver is Local/Remote** ( ドライバはローカル/リモート )] : デフォルト値 ( [Local] ) をそのまま使用します。

- 13 [次へ] をクリックして、Create Driver Wizard の [Security Equivalences (同等セキュリティ)] ページを開きます。

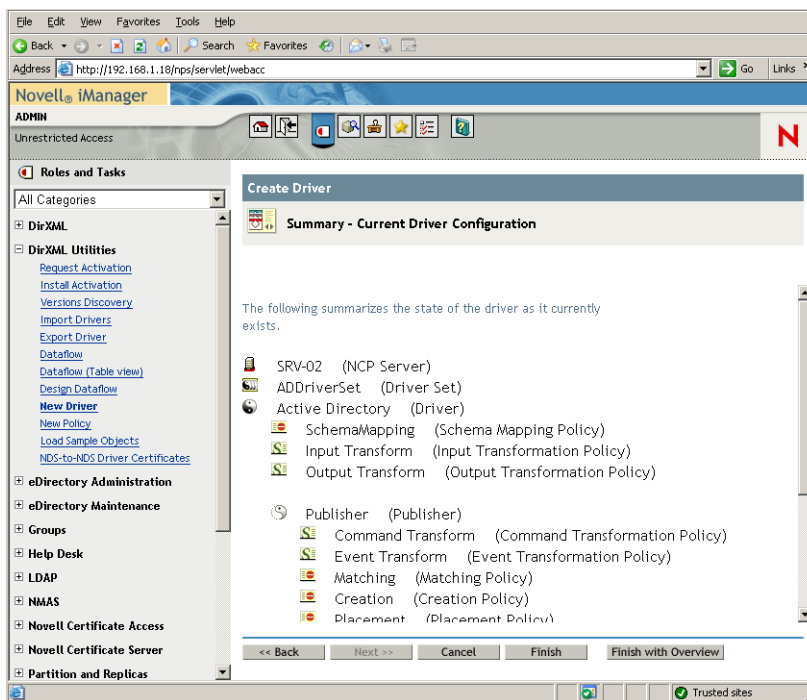


- 14 [Define Security Equivalences (同等セキュリティの定義)] をクリックし、[Security Equals (同等セキュリティ)] ウィンドウを開きます。



- 15 [追加] をクリックして参照ウィンドウを開き、Admin.Users.ZEN ユーザを選択します。このユーザを [選択したオブジェクト] リストに追加して [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。
- 16 Create Driver Wizard の [Security Equivalences (同等セキュリティ)] ページで、[Exclude Administrative Roles (管理役割の除外)] をクリックします。

- 17 [Security Equals ( 同等セキュリティ )] ウィンドウで [追加] をクリックし、eDirectory の管理者であるユーザを全員選択して [OK] をクリックします。
- これにより、今後 Active Directory ドメインにユーザを作成し、同期することはできなくなります。
- ウィザードの [Summary - Current Driver Configuration] ページが表示されます。



- 18 [終了] をクリックします。

DirXML ドライバを実行するには、**Password Synchronization** ソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については、[236 ページの「Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化」](#)を参照してください。

### **Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化**

Password Synchronization を使用すると、DirXML に自動的に作成された各ユーザオブジェクトは、Active Directory に作成した対応するユーザと同じパスワードを持つことができます。これは、ユーザがワークステーションにログインするときに、1 回のログインで Active Directory と eDirectory の両方にログインできるようにするために必要となります。

Password Synchronization では、プラットフォーム固有のパスワードポリシーが相互に矛盾していないことが必要となります。パスワードポリシーに矛盾があると、正常なパスワード同期の妨げとなります。たとえば、eDirectory のパスワードは 8 文字以上の長さが必要とし、Windows のパスワードには長さの要件がない場合、ユーザは eDirectory では受け入れられない Windows の短いパスワードを作成する可能性があります。Password Synchronization は、プラットフォームのポリシーよりも優先されることはありません。

DirXML を使用すると、アカウントの属性または Java サービスを通じて使用できる他の情報に基づいて、アカウントの初期パスワードを生成することができます。たとえば、ユーザの姓と 4 桁の数字を基にパスワードを生成できます。初期パスワードを生成するに




はドライバをカスタマイズする必要がありますが、既存の人事管理ツールセットを使用してアカウントを提供するときに、パスワードの管理に適した方法です。

iManager では、[NDS パスワードの割り当て] を選択した後に、[作成中にプロンプト表示] を選択すると、ユーザアカウントの作成時に初期パスワードを設定できます。この場合、iManager によってパスワードが設定されてから、アカウントが NT または Active Directory のアカウントに関連付けられます。これにより、初期パスワードは同期されなくなります。最初のパスワードが変更されない限り、パスワードは同期されません。この遅延を防ぐには、次のいずれかを実行します。

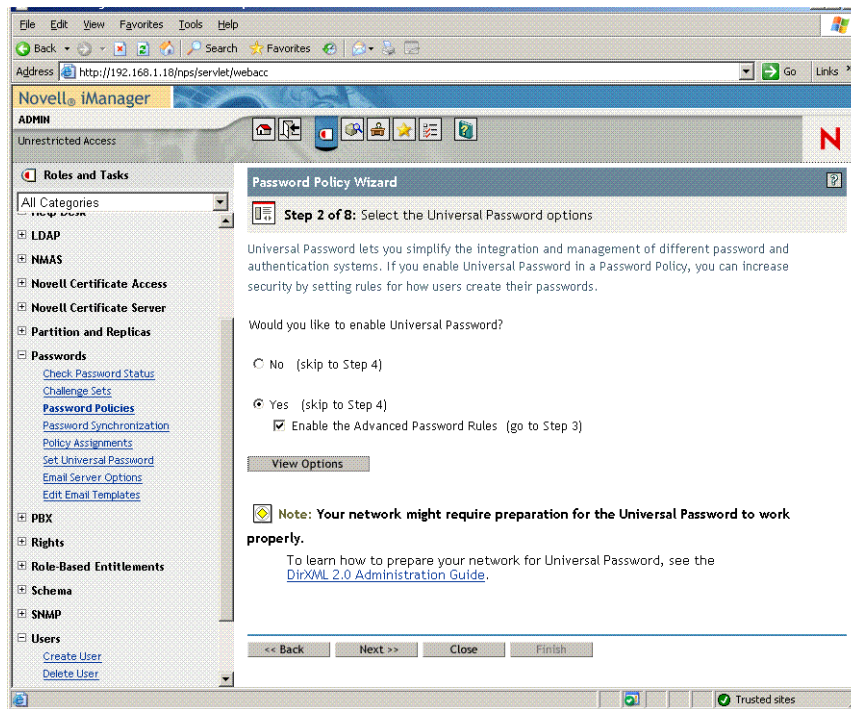
- [Assign NDS Password During User Creation (ユーザ作成中にNDSパスワードを割り当て)] の選択を解除し、パスワードを後で割り当てます。わずかな遅延でアカウントの関連付けを完了できます。
- [最初のログイン時にプロンプト表示] を選択し、アカウントが実際に使用されるまでパスワードの設定を延期します。

Microsoft 管理コンソール (MMC) では、アカウントの作成時にパスワードを入力することによって、ユーザアカウントの初期パスワードを設定できます。パスワードが設定されるまでは、Password Synchronization は eDirectory アカウントを Active Directory アカウントに関連付けることができないため、Password Synchronization サービスでは eDirectory アカウントをすぐに更新することはできません。ただし、サービスはパスワードの更新を再試行するため、アカウントは数分以内に適切に更新されます。

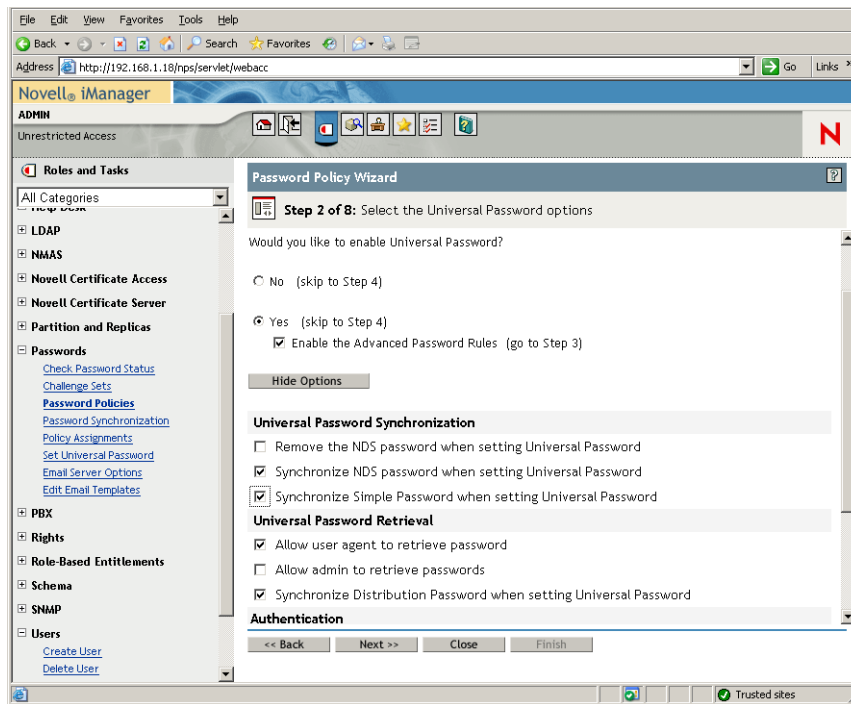
サーバに Password Synchronization をインストールするには

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 iManager で [役割およびタスク] アイコン  をクリックし、左側のペインで [パスワード]、[パスワードポリシー]、[新規] の順にクリックしてパスワードポリシーウィザードを起動します。
- 3 パスワードポリシーを設定します。

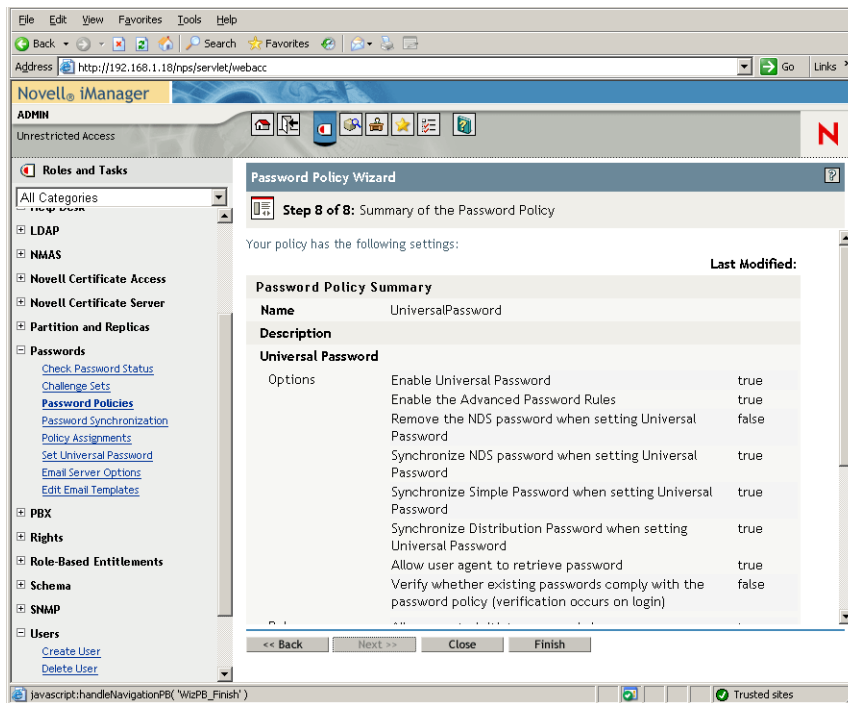
- 3a [ポリシー名] フィールドにポリシーの名前を入力し (例: DirXML UnivPassword)、[次へ] をクリックしてウィザードの手順 2 のページを表示します。



- 3b ウィザードの手順 2 のページで、[View Options (オプションの表示)] をクリックし、パスワード同期のオプションを表示します。

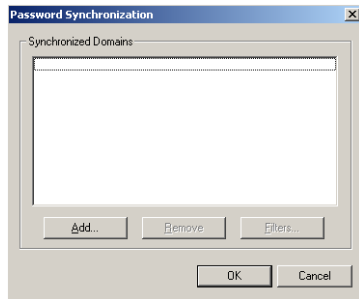


- 3c [ユニバーサルパスワードの設定時に単純パスワードを同期する] を選択して [次へ] をクリックします。
- 3d [高度なパスワードルール] ページで [次へ] をクリックします。
- 3e ウィザードの手順 4 のページ ( [パスワードを忘れた場合の処理を有効にする] 機能 ) で、デフォルト値 ( [No] ) を変更せずに [次へ] をクリックします。
- 3f [次へ] をクリックして、ウィザードの手順 5 と 6 のページをスキップします。
- 3g ウィザードの手順 7 のページ ( [パスワードポリシーの割り当て] ) で、[参照] を選択して参照ウィンドウを開き、Users.ZEN コンテナを選択して [OK] をクリックします。[次へ] をクリックして、ウィザードの手順 8 のページ ( [パスワードポリシーの概要] ) を表示します。

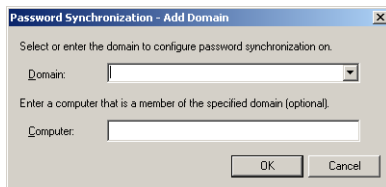


- 3h [完了] をクリックし、[閉じる] をクリックします。
- 4 Windows のデスクトップで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックして、[DirXML PassSync] をダブルクリックします。
- 5 [PassSynchConfig] ダイアログボックスで、[Is this machine where the DirXML Driver is configured to run? (このマシンは、DirXML ドライバが実行するように設定されているマシンですか?)] というメッセージに対して [はい] をクリックします。

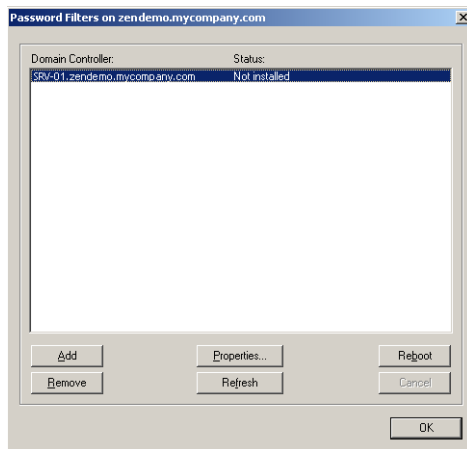
[Password Synchronization] ダイアログボックスが表示されます。



- 6 [Password Synchronization] ダイアログボックスで [追加] をクリックします。  
[Password Synchronization - Add Domain] ダイアログボックスが表示されます。



- 7 [Password Synchronization - Add Domain (Password Synchronization - ドメインの追加)]  
ダイアログボックスで、[ドメイン] ドロップダウンリストから [ZENDEMO] を選  
択して [OK] をクリックします。  
[Computer] フィールドには情報を追加しないでください。  
8 [PassSyncConfig] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。  
9 目的のドメイン DNS 名を選択して [フィルタ] をクリックし、[Password Filters (パ  
スワードフィルタ)] ダイアログボックスを表示します。



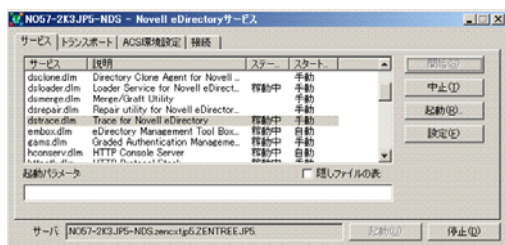
- 10 [Password Filters (パスワードフィルタ)] ダイアログボックスで、目的のドメインコ  
ントローラ名を選択して [追加] をクリックします。  
これにより、指定したドメインコントローラにファイルがコピーされます。コピーが  
完了すると、ステータスが “Installed - Needs Reboot” に変化します。

- 11 [再起動] をクリックし、サーバが再起動してダイアログボックスにサーバが稼動中と表示されるまで待ってください。その後、SRV-01 が再起動した後に [リフレッシュ] をクリックします (ステータスが変わらない場合)。
- 12 [OK] を 2 回クリックします。
- 13 SRV-02 サーバを再起動し、インストールを完了します。

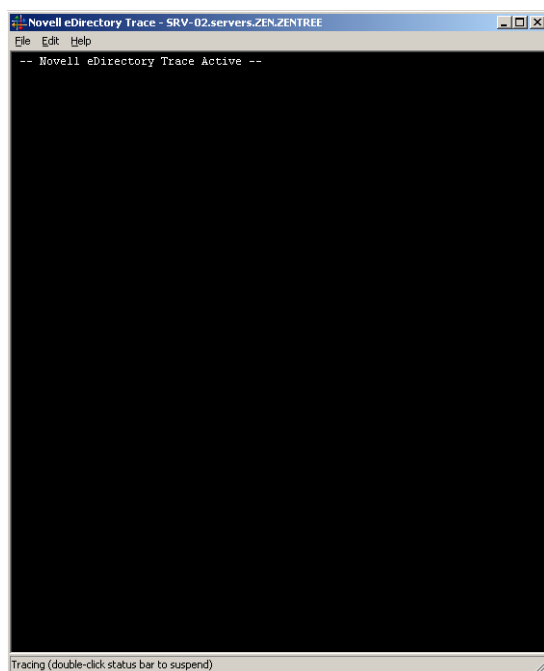
## DirXML ドライバの最終設定

DirXML ドライバと PasswordSync ドライバの両方をインストールし設定したら、ドライバが自動的に起動して正しく機能するように、最終的な設定を行う必要があります。最終設定を行うには、次の手順に従います。

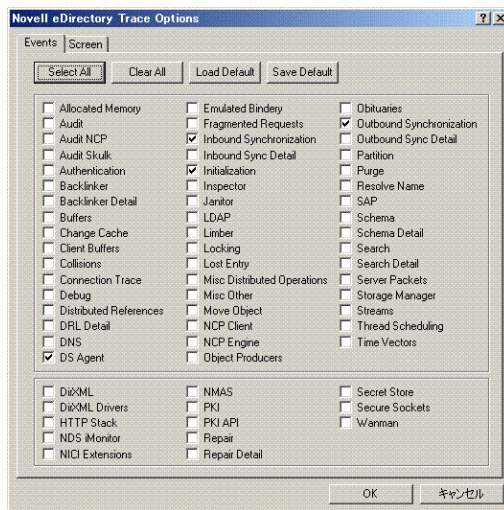
- 1 管理者として、SRV-02 サーバにログインします。
- 2 Windows Server 2003 のデスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [Novell eDirectory Services] の順にクリックして、[Novell eDirectory Services] ダイアログボックスを開きます。




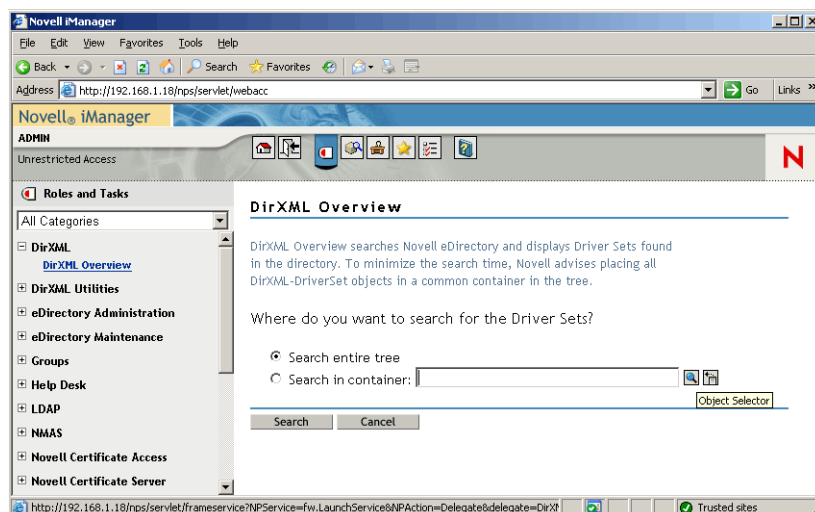
- 3 [サービス] をクリックし、dstrace.dlm サービスを選択して [開始] をクリックし、[Novell eDirectory Trace] ウィンドウを表示します。



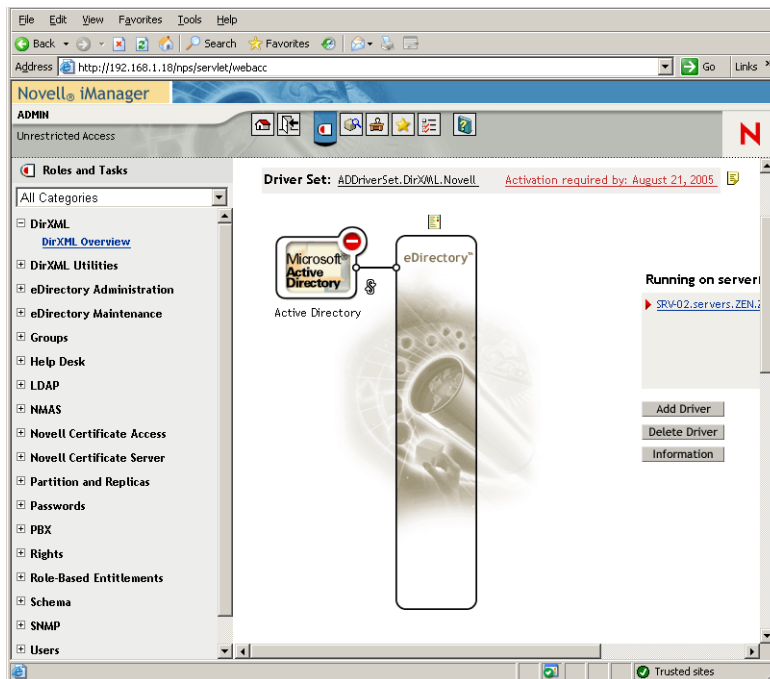
- 4 [Novell eDirectory Trace] ウィンドウで、[編集] > [オプション] の順にクリックし、[Novell eDirectory Trace Options (Novell eDirectory Trace オプション)] ダイアログボックスを表示します。



- 5 ダイアログボックスの [動作] ページで [すべてクリア] をクリックし、[DirXML] と [DirXML ドライバ] を選択して [OK] をクリックします。  
[Novell eDirectory Trace] ウィンドウは開いたままにしておいてください。
- 6 iManager を起動し、目的のサーバのリンクをクリックして Admin としてログインします。
- 7 iManager で [役割およびタスク] アイコン  をクリックして左側のペインに [役割およびタスク] を開き、[DirXML]、[DirXML Overview (DirXML 概要)] の順にクリックして右側のペインに [DirXML Overview (DirXML 概要)] ユーティリティを表示します。




- 8 [DirXML Overview (DirXM 概要)] ユーティリティで [ツリー全体を検索する] を選択し、[検索] をクリックして [Active Directory- eDirectory configuration (Active Directory- eDirectory 環境設定)] ページを開きます。

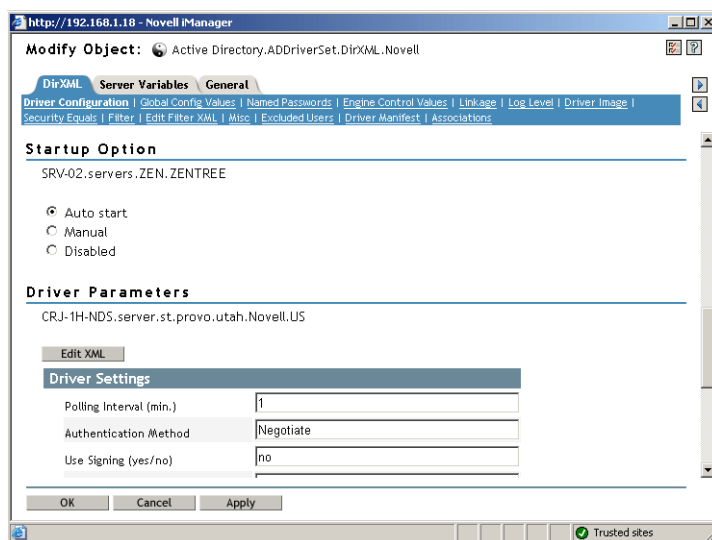


- 9  アイコンをクリックしてメニューオプションのリストを開き、[Start Driver (ドライバの起動)] を選択します。

ドライバの起動時には、[Novell eDirectory Trace] ウィンドウに各種メッセージが表示されます。エラーは赤、警告は黄色、正常な処理は緑で示されます。最初にエラーや警告が表示される場合もありますが、最後のメッセージは緑色でなければなりません。また、Active Directory DirXML ログイベントのステータスが最終的に [成功] になることも必要です。


ドライバが正常に機能し始めると、 アイコンが  アイコンに変化します。

- 10  アイコンをクリックし、[プロパティの編集] をクリックして [オブジェクトの変更] ウィンドウを開きます。



- 11 [オブジェクトの変更] ウィンドウで [DirXML] タブを選択し、[ドライバ環境設定] をクリックします。ウィンドウの [起動オプション] セクションをスクロールし、[自動スタート] を選択して [OK] をクリックします。

“Do you want to restart the driver to put your changes into effect?” というメッセージを表示するダイアログボックスが開きます。

- 12 このメッセージダイアログボックスで [OK] をクリックし、ドライバを再起動します。
- 13 マウスポインタを  アイコンの上に移動して、“Driver is Running” というステータスメッセージが表示されることを確認します。“ドライバは動作しています。”
- 14 (条件付き) [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスが開いていない場合は (241 ページのステップ 2 を参照)、このダイアログボックスを開いて dirxml.dlm が動作していることを確認します。

### eDirectory、DirXML、およびユニバーサルパスワードの動作確認

使用している環境で eDirectory、DirXML、および Password Synchronization が正しく動作していることを確認するには、Active Directory にユーザを作成し、適切なパスワードを使用して eDirectory にユーザが自動的に作成されるかどうかを確認する必要があります。

- 1 Active Directory ドメインの管理者としてサーバ SRV-01 にログインします。
- 2 Active Directory 管理ツールを起動し、Active Directory にテストユーザを作成します。  
例 : TestUser1@zendemo.com
- 3 ドメインの管理者および eDirectory の admin として SRV-02 にログインします。
- 4 iManager を開き、管理されたコンテナに TestUser1 が作成されていることを確認します。

ユーザが eDirectory に表示されるまで、同期サイクルが完了するのを待つことが必要な場合もあります。



- 5 eDirectory に TestUser1 としてログインし、パスワードが Active Directory で指定したパスワードと同じものであることを確認してから、eDirectory に正常に認証されていることを確認します。

パスワードが更新されるまでに、別の同期サイクルが必要となります。

- 6 作業を完了するために、eDirectory にユーザを作成し (Admin としてログインしている間に iManager を使用します)、そのユーザが現在ドメイン内に存在していることを確認し、eDirectory で指定したパスワードを使用して、そのユーザとしてドメインにログインできることを確認します。

デフォルトの同期規則では、フルネーム属性フィールドが eDirectory に読み込まれるまで、Active Directory ユーザは作成されません。フルネーム属性を確認するには、iManager で [役割およびタスク] > [ユーザ] > [変更] > [User\_object] > [一般] > [識別] > [フルネーム] の順に選択します。

---

**重要：**パスワードが適切に動作せず eDirectory ユーザが Active Directory と同期されない場合は、[Novell Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10092646 および TID 10092822 を参照して、この問題の解決方法について確認してください。

---

## Desktop Management Server のインストール

すべてのコンポーネントのインストールを選択しない場合もありますが、ここでは各コンポーネントのインストール手順について説明します。

以前に eDirectory をインストールした SRV-02 サーバに Desktop Management Server をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 7 Desktop Management* CD を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD スワップが必要となるためです。

---

**重要：**インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

---

Novell. ZENworks. 7		Beta	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

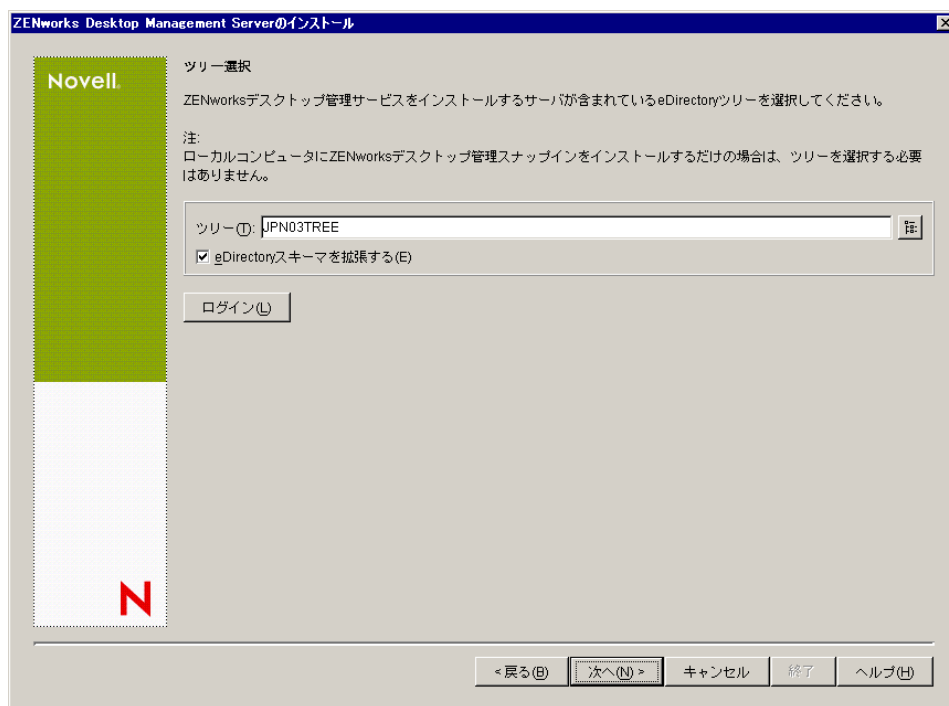
- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。

Novell. ZENworks. 7 Desktop Management		Beta	N
スキーマの拡張と製品のライセンス	Novell eDirectoryツリーのスキーマを拡張し、ZENworks Desktop Managementをサポートします。また、ライセンスコードをインストールします。		
Desktop Management Services	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、デスクトップ、ワークステーション、およびラップトップを管理します。		
Middle Tier Server	サーバ上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、Desktop Management AgentとDesktop Management Serviceとの間の要求を処理します。		
Desktop Management Agents	ワークステーション上でソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行い、アプリケーションの配布およびデスクトップ管理を行います。Microsoft Windows Installerが必要です。		
Documentation	Readme、インストールガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			<a href="#">← 戻る</a> <a href="#">→ 終了</a>

- 5 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。

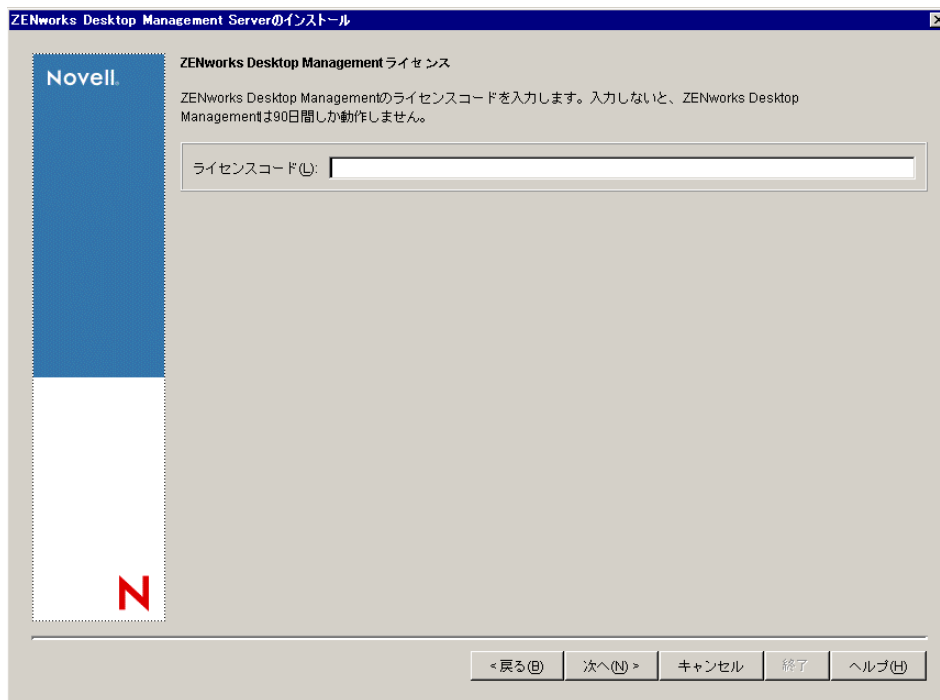
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [ツリー選択] ページで、SRV-02 サーバの Novell eDirectory ツリーの名前 (ZENTREE) を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張して、[次へ] をクリックします。

Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。



このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価用にインストールした場合は、製品のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。

- 11 [サーバ選択] ページで [サーバの追加] をクリックし、SRV-02 サーバを参照します。

サーバは ZENTREE ツリーからのみ選択できます。1度に最大7つのサーバにインストールできます。

- 11a (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、eDirectory のツリーを選択し、SRV-02 サーバの名前を参照してクリックします。次に、右向き矢印ボタンをクリックして選択したサーバを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。

認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。

- 11b (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名/IPアドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決できる必要があります。

[↓] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- 12 この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション] : ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法ではデスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (デスクトップ管理サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス] : デスクトップ管理サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。デスクトップ管理サービスを使用すると、Windows のアプリケーション、ユーザとワークステーションの設定、プロセス、および動作を自動的に管理できます。

- [アプリケーション管理] : アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [ワークステーション管理共通コンポーネント] : ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [リモート管理] : 中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のリモート管理コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション] : デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- [デスクトップ管理データベース] : 発生したアプリケーションのイベント (インストール、起動、キャッシュなど) に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [インベントリデータベース] : インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要** : Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「インベントリデータベースのセットアップ」の手順に従ってください。

---

- ◆ [インベントリサーバ] : 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードする必要があります。

- ◆ [インベントリプロキシサーバ] : このオプションを選択すると、ネットワークファイアウォールを経由してインベントリスキャンデータをインベントリサーバにロールアップするためのプロキシサーバがインストールされます。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ [イメージングサーバ] : ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要:** イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

---

- ◆ [PXE サーバ] : Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービス (Preboot Services) をインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

---

**重要:** イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

---

- ◆ [ワークステーションのインポート / 削除サーバ] : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ [デスクトップ管理サービススナップイン] : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

カスタム選択を実行するには、1 つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容が最初の設定に戻ります。[カスタム選択] では、選択したすべてのサーバの特定のコンポーネントを選択できる別のダイアログボックスが表示されます。ここでの選択は、すでに選択している内容よりも優先されます。

- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存しま

す。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、インストールは続行されません。警告メッセージが表示されると、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 14** (ワークステーションインベントリまたはリモート管理が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1 つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。デフォルトは C: です。Windows サーバでは D: を指定します。

ZENworks 7 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されません。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。

- 15** (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation(データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

データベースサーバごとに別のドライブを指定できます。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは 1 つだけです。

- 16** (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムを使って、自動的にサーバパッケージを作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。

- 17** (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ 1 つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。

すべてのサーバを選択して共通のポート番号を設定するか、サーバを個別に選択してサーバごとに異なるポート番号を定義することができます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

- 18** [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。

[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmserver_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

- 19 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ]、[一般] の順にクリックし、[クリアテキストパスワードを許可] を選択します。

ConsoleOne 1.3.6 を使用している場合、ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバの [LDAP Group Object (LDAP グループオブジェクト)] で、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server のインストール後にこのパラメータを設定する場合は、設定の変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ずリブートしてください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

ZENworks Middle Tier Server をすでにインストールしている場合は、Desktop Management Server で行われた LDAP のクリアテキストパスワードへの変更を認識させるために、ZENworks Middle Tier Server を再起動する必要があります。

## ZENworks Middle Tier Server のインストール

インターネットブラウザを通じて Desktop Management の機能を配布するには、ZENworks Middle Tier Server をインストールする必要があります。この展開シナリオでは、Microsoft IIS Web サーバがすでにインストールされている SRV-02 にソフトウェアをインストールします。Middle Tier Server のインストールプログラムでは、インストールしているワークステーションまたはサーバに Novell Client が必要となります。まず、Novell Client を SRV-03 サーバにインストールしてから、同じサーバに ZENworks 7 Middle Tier Server をインストールする必要があります。Novell Client (バージョン 4.90 SP1a 以降) は、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からダウンロードできます。

Novell Client のインストール後、次の手順に従って Middle Tier Server をインストールします。

- 1 サーバのローカルワークステーション管理者として SRV-03 にログインします。
- 2 *Novell ZENworks 7 Desktop Management* CD を挿入します。

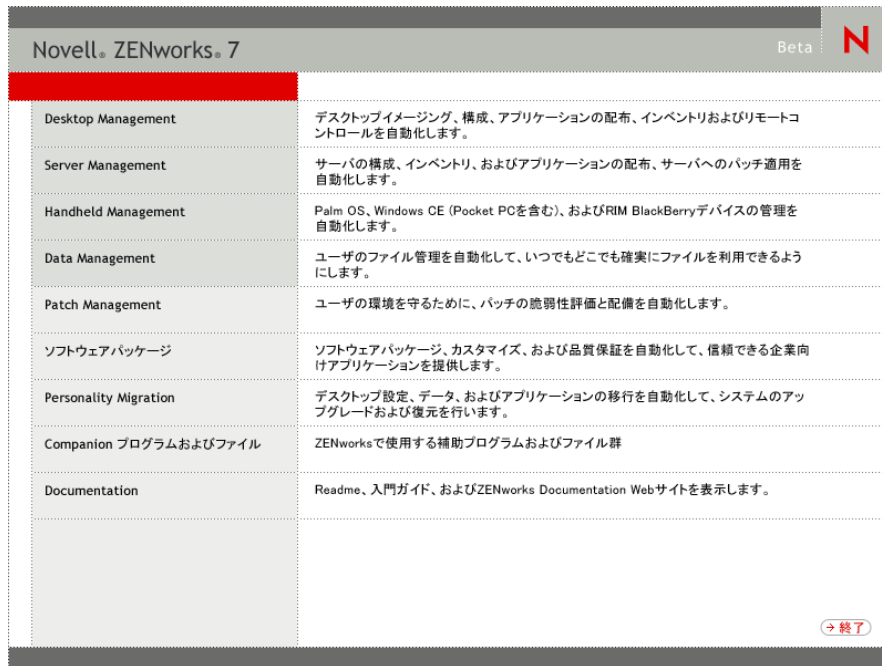
`winsetup.exe` プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、`winsetup.exe` を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD の交換が必要となるためです。



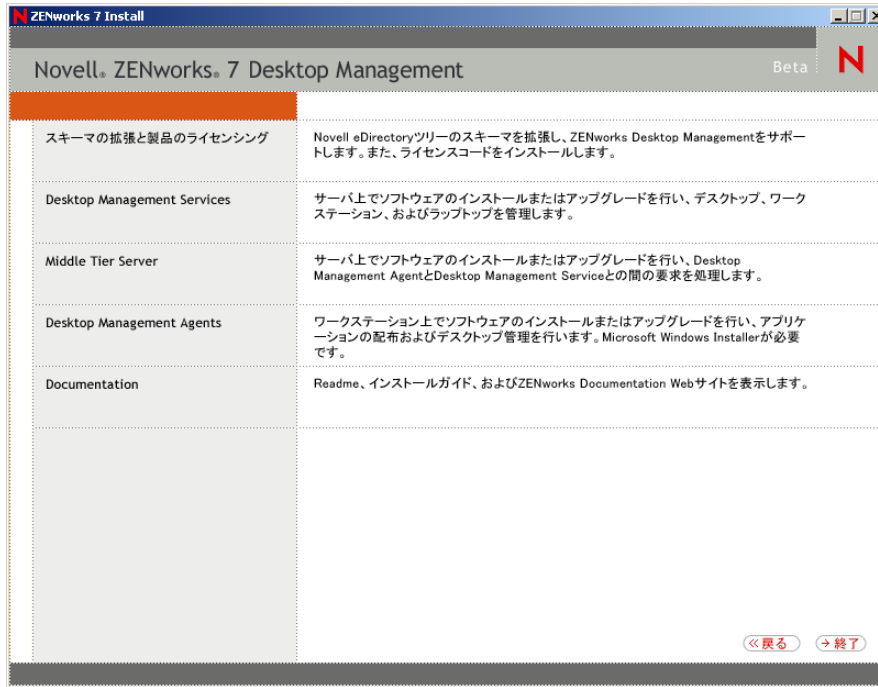
**重要:** インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。



Novell. ZENworks. 7	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。

- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。

- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールする SRV-02 サーバの DNS 名、または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例: admin.users.zen)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

[パスワード] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。

- 10 [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Middle Tier Server が Desktop Management で使用するユーザオブジェクトを検索できる eDirectory コンテキストを指定します。この例では、コンテキストは Users です。ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインコンテキストを再設定できます。このユーティリティは、Web ブラウザで開くことができます (<http://srv-02/oneNet/nsadmin>)。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。

- 11 [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。

ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していない場合でも、インストール時にファイルシステムへのアクセス方法が確定している必要があります。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

#### [ドメインユーザ名]

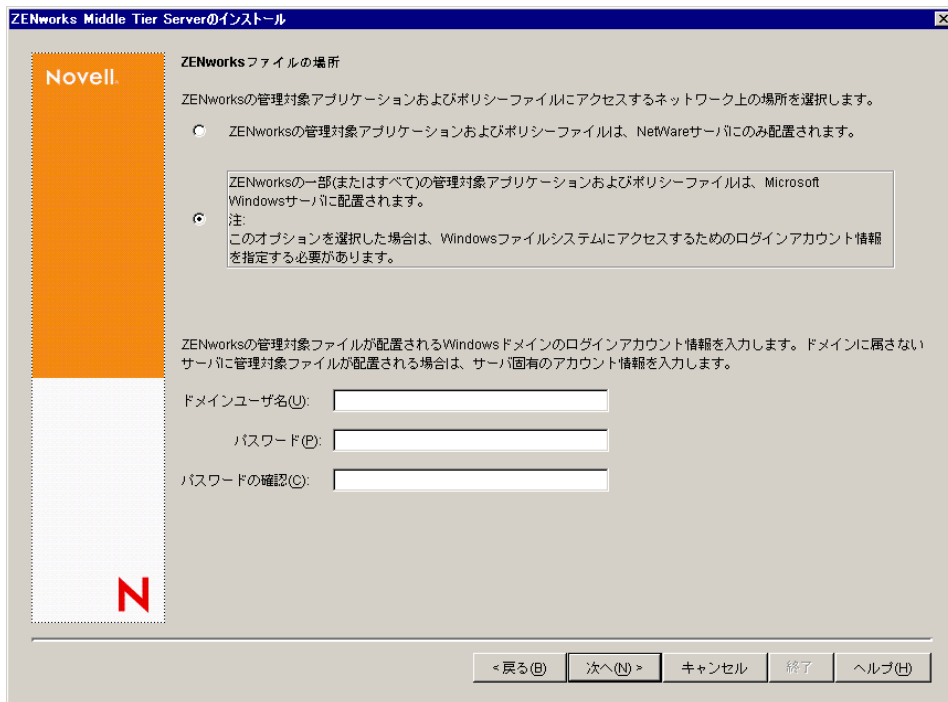
ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

#### [パスワード]

ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

## [パスワードの確認]

正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。



The screenshot shows the 'ZENworks Middle Tier Serverのインストール' (ZENworks Middle Tier Server Installation) dialog box. On the left is a vertical Novell logo bar with an orange top section and a white bottom section containing a red 'N'. The main area is titled 'ZENworksファイルの場所' (ZENworks File Location) and contains the following text:

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。

ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。

ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。

注:  
このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。

ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

ドメインユーザ名(U):

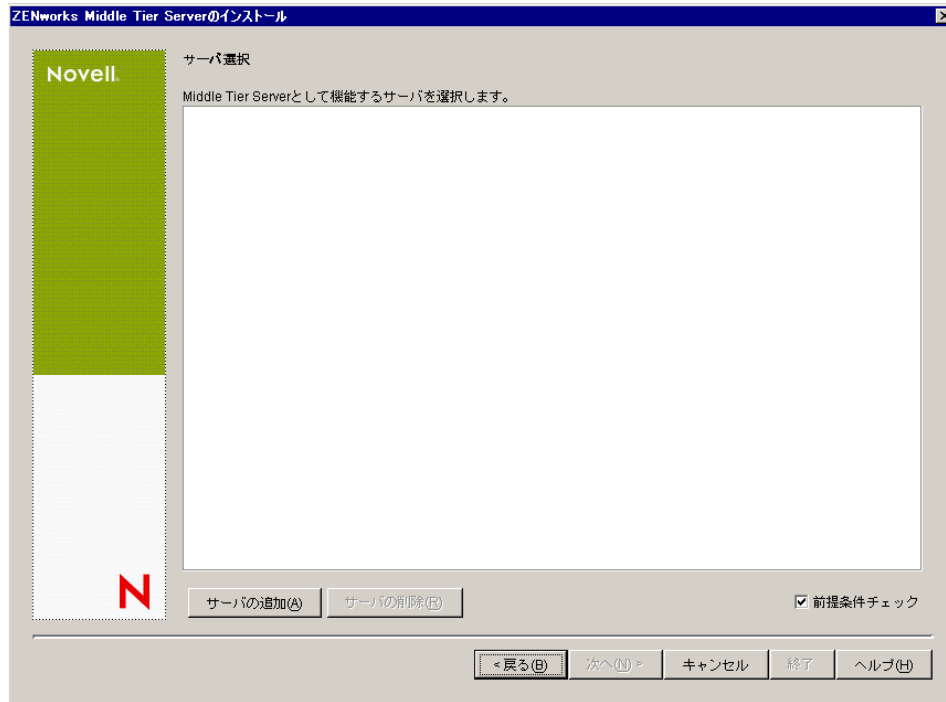
パスワード(P):

パスワードの確認(C):

At the bottom, there are five buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), 'キャンセル' (Cancel), '終了' (Finish), and 'ヘルプ(H)' (Help).

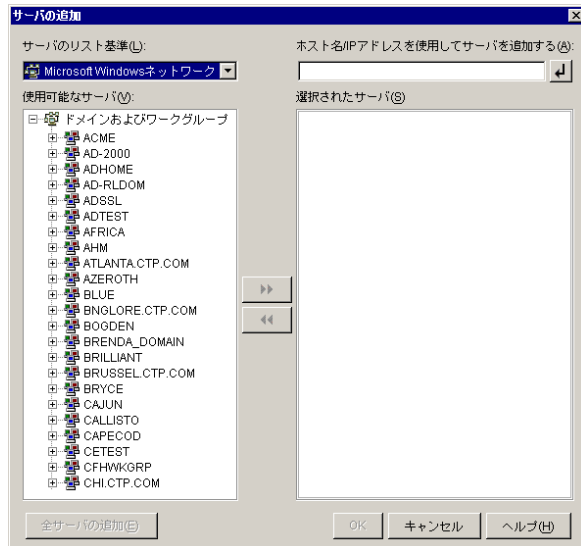
- 12** [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタン

を使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。  
[サーバの追加] をクリックします。



- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。
- インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。
- サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。
- 14** [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。
- インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。リストにサーバを追加した後で [OK] をクリックします。
- Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムは、両方とも、サーバをただ1つの eDirectory ツリーから選択するようになっています。これらのインストールプログラムのいずれかを Windows サーバから実行していて、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 14a** (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスに移動します。

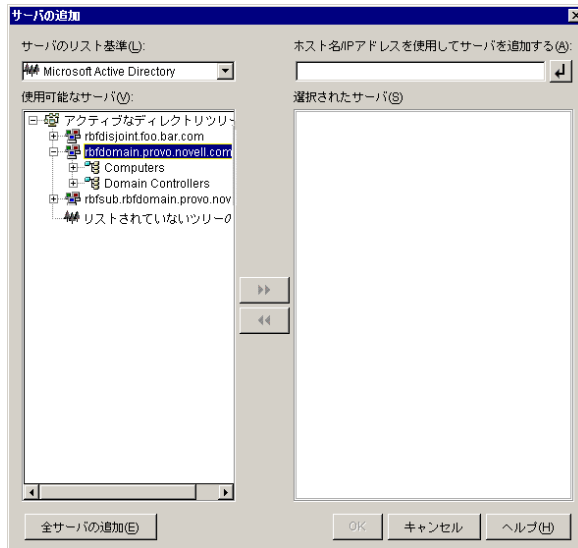


このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 7 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。  
 をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。  
Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。
- サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできませんが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

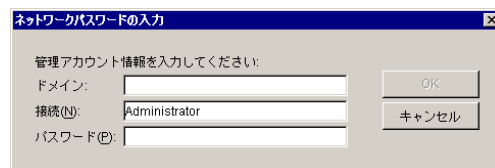
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

**14b** (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory に表示されるすべてのサーバを参照できます (ドメイン単位)。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスにサーバを移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。  
 をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。  
 [検索基準の場所] : ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。



[ディレクトリ全体の検索] : コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照] : ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを1つずつ展開して、目的のコンピュータを探すことができます。この検索方法は、コンピュータが標準以外の大きなディレクトリにある場合に役立ちます。

- 選択したドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

- 15** [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

---

**重要 :** インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

---

- 16** Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。
- 17** ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 18** ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://srv-02/oneNet/xtier-stats`

`http://srv-02/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

- 19** ネットワークブラウザで、「`http://srv-02/oneNet/nsadmin`」と入力して、Admin ユーザとして eDirectory にログインし、**220 ページの「eDirectory の分割インストール」のステップ 9a** で実行した変更内容に合致するよう、LDAP ポートを変更します。

eDirectory と Active Directory が同じネットワークサーバにインストールされた場合、eDirectory にログインできない場合があります。このケースに該当する場合、

ZENworks Middle Tier がインストールされているサーバのレジストリにアクセスして、HKLM\Software\Novell\Xtier\Configuration\Xsrv レジストリキーの LDAP Port DWord の値を、220 ページの「eDirectory の分割インストール」のステップ 9a で指定したポートに変更します。

## Sybase の ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ❑ ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。インベントリレポートの起動時に、コンピュータ上で ODBC ドライバが自動的に設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

1. Novell ZENworks 7 Companion 2 CD の \database drivers ディレクトリを開きます。
2. \database drivers ディレクトリに収録されている odbcreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle9i インベントリデータベースの場合、Oracle9i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- ❑ Crystal Reports<sup>\*</sup> を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロールパネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを MSDN Web サイトの「Data Access and Storage Downloads (データアクセスとストレージに関するダウンロード)」ページ (<http://microsoft.com/data/download.htm>) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

## ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開

Windows サーバ環境で ZENworks Desktop Management を実行している場合、デスクトップ管理エージェントをユーザワークステーションにインストールし、Desktop Management の機能を使用してワークステーションを管理する必要があります。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータは、Microsoft ドメインおよび Microsoft Active Directory を使用することによって、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開と今後のアップグレードを容易にします。エージェントディストリビュータでは、ターゲットワークステーションを選択してデスクトップ管理エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Active Directory を使用します。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータを使用して、Windows ネットワーク内のワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開する方法の詳細については、156 ページのセクション 12.5 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータに

よる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」を参照してください。

## 18.2 Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール

Windows 環境に ZENworks 7 Desktop Management with SP1 を新規インストールする場合には、以下の情報を利用してください。

- ◆ 263 ページのセクション 18.2.1 「Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストールの準備」
- ◆ 266 ページのセクション 18.2.2 「Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」

### 18.2.1 Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストールの準備

- ◆ 263 ページの「必要とされるネットワーク設定」
- ◆ 265 ページの「最低ソフトウェア要件」
- ◆ 265 ページの「Identity Manager エンジンとドライバ」

#### 必要とされるネットワーク設定

このサンプル Windows 環境のバックエンドで、次の Windows ネットワーク設定を満たすことを前提としています。

- ◆ Active Directory ドメインの Active Directory ドメインコントローラとして機能する Windows Server 2003 (SRV-01)。
- ◆ Microsoft IIS がインストールされている Windows Server 2003 サーバ (SRV-02) にインストールされた ZENworks 7 Middle Tier Server with SP1。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要があります。ZENworks ソフトウェアがインストールされているサーバと同じサーバでも構いませんが、パフォーマンス上の問題を最少限に抑えるために、IIS サーバの独立性を保つことを考慮する必要があります。また、Identity Manager の Password Synchronization モジュールとは別のサーバで運用することが必要です。
- ◆ Windows Server 2003 (SRV-03) 上に、ZENworks 7 Desktop Management Server with SP1、Novell eDirectory、Novell Client、Novell ConsoleOne、Identity Manager 3 Bundle Edition、および Novell iManager 2.6 がインストールされていること。このサーバは、Active Directory ドメインコントローラと同じドメインに存在する必要がありますが、ドメインコントローラではありません。

Windows 環境での ZENworks 用のユーザワークステーション設定オプションの詳細については、264 ページの「ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境設定オプション」を参照してください。

## ZENworks Desktop Management ユーザワークステーションの環境設定オプション

ZENworks Desktop Management は、Novell Client または次の 2 つの非クライアントモードを使用して、ユーザワークステーションで実行できます。

- ◆ **Application Browser ビューモード**
- ◆ **デスクトップ管理エージェントフルモード**

これは、Windows ネットワーク環境で、ユーザワークステーション上で Novell Client を使用しないことを前提としています。したがって、ネットワークで必要な機能を決定し、非クライアントモードのいずれかでユーザ用の ZENworks Desktop Management を設定する必要があります。

### Application Browser ビューモード

このモードでは、ユーザが IIS に接続し、ZENworks Desktop Management で提供されるアプリケーションページ (myapps.html) を開いたときに、単一の Application Browser ビューが配布されます。ユーザがアプリケーションをローカルでインストールする権利を持っている場合は、Web ビューがワークステーションに自動的にインストールされます。

Application Browser モードでアプリケーションをワークステーションに配布できるのは、ユーザが個別に設定されたアプリケーション Web ページに接続した場合だけです。ダイナミックローカルユーザアカウントの作成、ハードウェアおよびソフトウェアインベントリ、自動イメージングサービス、およびリモート管理機能は、このモードには含まれていません。

### デスクトップ管理エージェントフルモード

デスクトップ管理エージェントフルモードでは、管理者によって、イメージの一部として、またはユーザによって Desktop Management のすべてのコンポーネントがワークステーションにインストールされます。デスクトップ管理エージェントのインストールに Desktop Management のすべてのコンポーネントを含めることによって、ZENworks Desktop Management で提供する必要があるすべての機能をユーザに提供できます。

ワークステーションでダイナミックローカルユーザアカウントを作成する場合、Windows へのローカルログインの前に、eDirectory にログインすることをユーザに求めるようにデスクトップ管理エージェントを設定します。エージェントをこのように設定すると、ユーザは eDirectory のユーザ名とパスワード (2 つのアカウントは Identity Manager 3 によって同期されるため、Active Directory アカウントと同じものにする必要があります) の入力を求められます。ローカルアカウントが存在しない場合、ZENworks Desktop Management はワークステーションにローカルアカウントを作成し、提供されたユーザ名とパスワードを使用してユーザを Windows にログインさせます。

ダイナミックローカルユーザアカウントを作成する必要がない場合、ユーザがワークステーション上にすでにアカウントを持っている場合、ユーザがワークステーションにログインするとき、ZENworks は Novell ユーザのアカウント情報をサイレントで Windows に渡します (ユーザが Active Directory にログインしていて、ワークステーションが Active Directory ドメインの一部である場合には、ユーザはワークステーション上にアカウントを持っている必要はありません)。デスクトップ管理エージェントは、アプリケーションをユーザに配布するために、提供されたユーザ名とパスワードを使用して eDirectory に接続します。

---

注: デスクトップ管理エージェントがワークステーションにインストールされていても、アプリケーションの配布を選択できるのはやはりブラウザビューからだけです。

---

## 最低ソフトウェア要件

このサンプル Windows ネットワークでは、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 は次に示す追加のソフトウェアを必要とします。

- ◆ Windows ドメイン内の 1 台の Windows Server 2003 (SRV-02) にインストールするもの。
  - ◆ Microsoft IIS Web サーバ。
- ◆ 2 番目の Windows Server 2003 (SRV-03) にインストールするもの。
  - ◆ Windows 2000/XP/2003 用の Novell Client 4.91 SP2 以降。ZENworks のインストールに必要 (そうでなければ Windows ネットワークにはインストールしない)  
クライアントは **Novell ダウンロード Web サイト** (<http://download.novell.com/index.jsp>) からダウンロードできます。
  - ◆ 以下のソフトウェアは *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* から利用できます。
    - ◆ eDirectory 8.8 以降
    - ◆ eDirectory の ZENworks リソースを管理するための Novell ConsoleOne 1.3.6e 以降
    - ◆ Nsure Identity Manager ドライバを設定および管理するための Novell iManager 2.6。
  - ◆ 以下のソフトウェアは *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* から利用できます。
    - ◆ eDirectory リソースと Active Directory を同期するための Novell Identity Manager 3 Bundle Edition

## Identity Manager エンジンとドライバ

Identity Manager (IDM) エンジンを使用すると、eDirectory のデータを外部のデータサービスと同期させることができます。IDM エンジンには、データソース間の入出力をどのように送信するかを記述した複数のドライバがあります。

Active Directory 用のドライバは、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory 間のデータを同期する目的で設計された専用ドライバです。同期は双方向です。2つのディレクトリ間で双方向に情報を流すか、一方向だけに情報を流すかを指定できます。

Windows Server 2003 用に数多くの Identity Manager ドライバが存在し、PeopleSoft、JDBC、LDAP ディレクトリ、Lotus Notes、SAP HR、および WebSphere MQ などの他のデータソースと同期させることができます。その他のドライバの詳細については、**Novell Nsure Identity Manager の Web サイト** (<http://www.novell.com/products/identitymanager/drivers/>) または **Identity Manager ドライバのガイド** (<http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/index.html>) を参照してください。

IDM アーキテクチャでは、パブリッシャ/サブスクリバモデルを使用しています。このモデルでは、パブリッシャは eDirectory に情報を配置する役割を果たし、サブスクリバは eDirectory の変更内容を同期された外部のデータソースに適用します。パブリッシャとサブスクリバの動作および属性のマッピングは、ドライバに含まれる一連の規則によっ

て決まります。ドライバを XML 規則によってカスタマイズすると、必要なほとんどのデータ設定を配布できます。

IDM の設定方法の詳細については、『Novell Identity Manager 3』マニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/idm/>) を参照してください。

IDM 3 のライセンスの詳細については、266 ページの「Identity Manager 3 Bundle Edition のアクティベーション」を参照してください。

### Identity Manager 3 Bundle Edition のアクティベーション

Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD には、Identity Manager 3 Bundle Edition が収録されています。アクティベーション方法の詳細については、613 ページの付録 D「ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法」を参照してください。

## 18.2.2 Windows ネットワーク環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール

Windows ネットワーク環境および Active Directory テスト環境に ZENworks をインストールするときには、次の作業を順番に行う必要があります。

1. 267 ページの「テストラボの環境設定」
2. 267 ページの「ZENworks 7 with SP1 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」
3. 268 ページの「Novell Client のインストール」
4. 268 ページの「eDirectory のインストール」
5. 271 ページの「ConsoleOne のインストール」
6. 271 ページの「iManager 2.6 のインストールとセットアップ」
7. 273 ページの「ディレクトリツリーの実用性の検証」
8. 274 ページの「Identity Manager 3 Bundle Edition のインストール」
9. 227 ページの「DirXML ドライバの設定」
10. 236 ページの「Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化」
11. 241 ページの「DirXML ドライバの最終設定」
12. 244 ページの「eDirectory、DirXML、およびユニバーサルパスワードの動作確認」
13. 245 ページの「Desktop Management Server のインストール」
14. 252 ページの「ZENworks Middle Tier Server のインストール」
15. 262 ページの「Sybase の ODBC ドライバのインストール」
16. 262 ページの「ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開」

## テストラボの環境設定

実際のエンタープライズ環境には、アプリケーションの実行やターミナルサービスなどのさまざまな用途に使用する多数のサーバが含まれています。この節では、次のような小規模の Windows ネットワーク構成をテストラボ環境のサンプルとして使用します。

- ◆ ZENDEMO ドメインの Active Directory ドメインコントローラとして機能する Windows Server 2003。このサーバは SRV-01 と示しています。
- ◆ IIS Web サーバがインストールされた Windows Server 2003。このサーバには、Novell eDirectory、ZENworks Desktop Management Server、Novell iManager、および Identity Manager 3 Bundle Edition (Password Synchronization を含む) もインストールする必要があります。このサーバは ZENDEMO ドメインのメンバーです。このサーバは SRV-02 と示しています。
- ◆ ZENworks Middle Tier Server がインストールされた Windows Server 2003。このサーバは SRV-03 と示しています。
- ◆ デスクトップ管理エージェントモード (デスクトップ管理エージェントのすべてのコンポーネントがインストールされているモード) で稼動する Windows XP Professional SP1a 以降のワークステーション。このワークステーションは WKS-01 と示しています。
- ◆ Novell Application Launcher の Application Browser ビューがインストールされている Windows XP Professional SP1a 以降のワークステーション。このワークステーションは WKS-02 と示しています。

---

注: これは、テスト環境としてのみ使用する、サンプル構成です。サポートされているサーバプラットフォームおよびワークステーションの詳細については、[23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」](#) および [71 ページの § 章 7 「ユーザーワークステーションの要件」](#) を参照してください。

---

## ZENworks 7 with SP1 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス

Windows ネットワーク環境で ZENworks 7 with SP1 をセットアップするときには、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion CD* の最初の 2 枚が必要になります。

*Companion CD* の内容には、インストールプログラムからアクセスできます。アクセスするには、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 CD* を Windows ワークステーションの CD ドライブに挿入します。インストールプログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートの `winsetup.exe` を手動で実行します。[*Companion* プログラムおよびファイル] をクリックし、(必要に応じて) 画面で挿入を求められた CD を挿入して、2 つのメニューページの 1 つで必要になるコンポーネントを参照します。

*Companion CD* の次のコンポーネントが必要です。

- ◆ Novell Identity Manager 3 Bundle Edition。 *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* に収録されています。IDM 3 のインストールプログラム (`install.exe`) は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* の、`\nsure identity manager 3 bundle edition\nt` ディレクトリから利用可能です。
- ◆ Novell eDirectory 8.8.1 for Windows Server 2003。 eDirectory 8.8.1 のインストールプログラムを含む、自己解凍式 .zip ファイル (`edir_88_win.exe`) は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* の、`\novell edirectory for windows 2k` ディレクトリから利用可能です。

- ◆ Novell ConsoleOne 1.3.6e。ConsoleOne のインストールプログラム (c1.exe) は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* の \novell consoleone ディレクトリから利用できます。
- ◆ Novell iManager 2.6。iManager 2.6 のインストールプログラムを含む、自己解凍式 .zip ファイル (iman\_26\_nw65\_standalone.zip) は、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* の \novell imanager\program files\installs\win ディレクトリから利用可能です。

## Novell Client のインストール

最新の *Novell Client for Windows* をインストールすることをお勧めします。このバージョンは、[Novell 製品のダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) から入手いただけます。

クライアントをダウンロードするには

- 1 該当するクライアントの自己解凍ファイルを一時フォルダにダウンロードします。
- 2 一時フォルダ内にダウンロードされたファイルをダブルクリックし、ファイルの解凍先のパスを指定します。  
指定したパスに、所定のディレクトリ構造が作成されます。
- 3 [Unzip (解凍)] をクリックし、画面上の指示に従います。

クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 `download_location\winnt\I386` ディレクトリにある `setupnw.exe` をダブルクリックします。
- 2 [Novell Client license agreement (Novell Client のライセンス契約)] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[Cancel (キャンセル)] をクリックします。
- 3 [Custom Installation (カスタムインストール)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 モジュールリストでクライアントだけが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5 [NMA] および [NIC] が選択され、[NetIdentity] の選択が解除されていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 6 [IP Only (IP のみ)] および [Remove IPX (IPX の削除)] (表示されている場合) を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [NDS] を選択してデフォルトで NDS 接続を使用するようにクライアントを設定し、[次へ] をクリックし、次に [完了] をクリックします。
- 8 インストールが完了したら、[再起動] を選択します。

## eDirectory のインストール

---

注 : ZENworks Suite 7 with Support Pack 1 への eDirectory 8.8.1 のバンドルには、有効なライセンスが含まれています。つまり、ZENworks のライセンスを受けると、eDirectory のライセンスも埋めます。

---



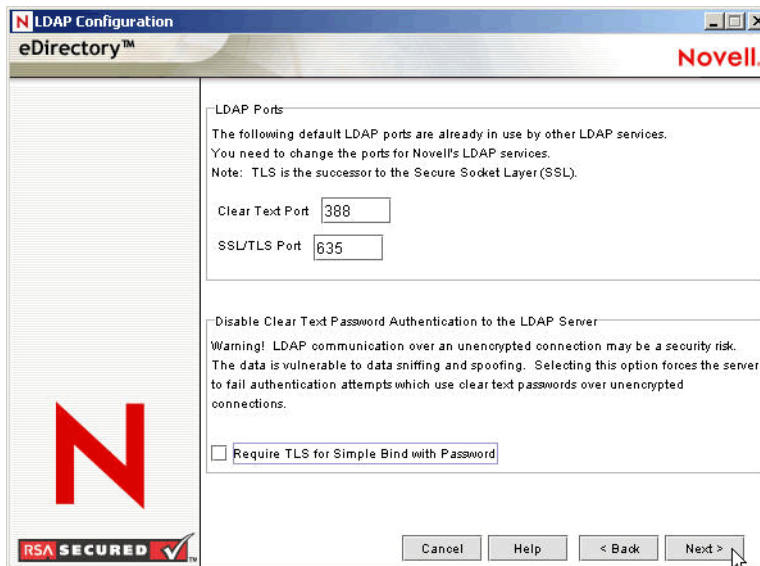
Windows ネットワーク環境のテストシステムで、SVR-02 サーバの eDirectory インストールプログラムを起動するには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SVR-02 Windows Server 2003 にログインし、*Novell ZENworks 7 with SP1 Companion 1* CD から eDirectory のインストールプログラムを起動します (267 ページの「ZENworks 7 with SP1 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」を参照)。CD は自動的に起動します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートにある `winsetup.exe` を手動で実行します。
- 2 [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell eDirectory] を選択して指定したディレクトリに eDirectory のインストールファイルを解凍するプログラムを起動します。次に、ファイルの解凍先として `c:\edir88` ディレクトリを指定し、ファイルが解凍されたら [閉じる] をクリックします。
- 3 `c:\edir88\nt` ディレクトリに移動し、`setup.exe` を起動し、[インストール] をクリックします。



- 4 [eDirectory Installation Welcome (eDirectory インストール初期)] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 インストールする言語を選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [次へ] をクリックすると、デフォルトのインストールパスにインストールされます。パスを作成していなかった場合には、インストールプログラムはパスを作成してよいかどうか尋ねてきます。
- 8 [はい] をクリックすると、新規ディレクトリを作成します。

- 9 [次へ] をクリックし、新しい Directory Information Base (DIB) の場所として、デフォルトのインストールパスを受け入れます。パスを作成していなかった場合には、インストールプログラムはパスを作成してよいかどうか尋ねてきます。
- 10 [はい] をクリックすると、新規ディレクトリを作成します。
- 11 [Create a New eDirectory Tree (新規 eDirectory ツリーを作成)] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 12 新規ツリーおよびサーバへのアクセスをセットアップします。
  - 12a 新規ツリーの名前を指定します (例: ZENTREE)。
  - 12b サーバオブジェクトのコンテキストを指定します (例: SVR-02.SERVICES.ZEN)。  
このガイドでは、eDirectory 内の ZEN という名前の組織コンテナ、SVR-02 が常駐する SERVICES という名前の部門コンテナ、および Admin ユーザオブジェクトが常駐する USERS という名前の部門コンテナを作成することを前提としています。
  - 12c Admin ユーザオブジェクトの名前を指定します (例: Admin)。
  - 12d Admin ユーザオブジェクトのパスワードを指定し (例: Novell)、[次へ] をクリックします。
- 13 [HTTP Server Port Configuration (HTTP サーバポートの設定)] ページでは、このサーバで競合しているポートはないため、[HTTP Stack Ports (HTTP スタックポート)] をデフォルトとして受け入れます。[次へ] をクリックします。
- 14 [LDAP Configuration(LDAP 構成)] ページで、使用する LDAP ポートを指定します。



Active Directory と eDirectory が同じ Windows サーバ上にインストールされている場合は、eDirectory が Active Directory のデフォルトポート 389 と 636 と競合しないよう、他の LDAP ポートを選択する必要があります。

- 14a [Clear Text Port (クリアテキストポート)] の番号を 388 に変更し、[SSL Port (SSL ポート)] を 635 に変更します。
- 14b [Require TLS for Simple Bind with Password (パスワードへのシンプルバインドに TLS が必要)] の選択を解除してパスワード同期が機能するようにし、[次へ] をクリックします。

15 [次へ] をクリックし、NMA5 のデフォルトのログイン手段を受け入れます。

16 [完了] をクリックし、eDirectory のインストールを完了します。

eDirectory のインストールプログラムは、SRV-02 サーバ上でインストールを実行します。プログラムが正常に完了したら、[成功] ダイアログボックスで [閉じる] をクリックします。

## ConsoleOne のインストール

eDirectory のインストールが完了したら、SRV-02 上に ConsoleOne を手動でインストールする必要があります。

- 1 *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1* CD を SRV-02 の CD ドライブに挿入します (267 ページの「ZENworks 7 with SP1 Companion CD に収録されたソフトウェアへのアクセス」を参照してください)。CD が自動的に実行されない場合は、CD のルートの winsetup.exe を手動で実行します。
- 2 [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell ConsoleOne] を選択します。
- 3 Winzip の自己抽出ダイアログボックスで、[Setup (セットアップ)] をクリックして抽出を実行し、ConsoleOne のインストールプログラムを起動します。
- 4 ConsoleOne インストールウィザードの開始ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 デフォルトのインストールパスを受け入れ、[次へ] をクリックします。
- 7 インストールするデフォルトのコンポーネントを受け入れ、[次へ] をクリックします。
- 8 [Additional Languages (その他の言語)] ページで、インストールする他の言語を選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 [JInfoNet Licensing Agreement (JInfoNet のライセンス契約)] ページを読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 10 [ConsoleOne Installation Summary (ConsoleOne インストールのサマリ)] ページで [完了] をクリックし、SRV-02 サーバに ConsoleOne 1.3.6e をインストールします。
- 11 [ConsoleOne Installation Success (ConsoleOne インストールの成功)] ページで、[閉じる] をクリックします。

## iManager 2.6 のインストールとセットアップ

iManager ツールは、Identity Manager 3 のドライブを設定するために必要です。これらのドライブは、Active Directory と eDirectory を同期するために使用されます。

---

注 : Novell iManager は、Microsoft IIS Web サーバがすでにインストールされているサーバコンピュータにインストールすることをお勧めします。IIS がインストールされていない

Windows 2003 サーバ上でも iManager は動作しますが、IIS が不在の場合は、Apache Web サーバと Tomcat サブレットをインストールする必要があります。

---

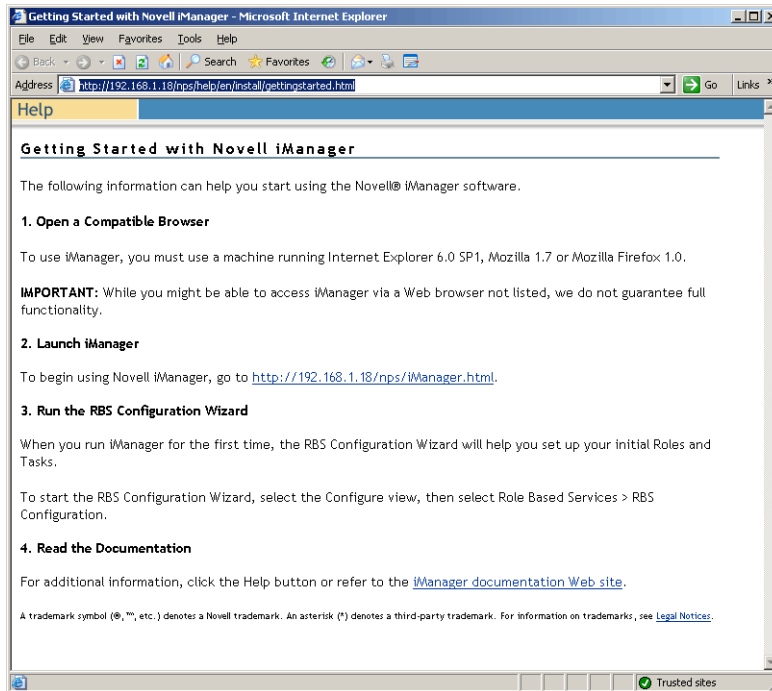
eDirectory のインストールが完了したら、SRV-02 上に Novell iManager 2.6 を手動でインストールし、セットアップすることができます。

- 1 *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD* を SRV-02 の CD ドライブに挿入します。CD が自動的に起動しない場合は、CD のルートから `winsetup.exe` を手動で実行します。
- 2 [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択し、[Novell iManager] を選択します。
- 3 Novell iManager インストールウィザードの開始ページで、[OK] をクリックします。
- 4 [iManager Introduction (iManager 概要)] ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [I Accept (同意します)] をクリックし、[次へ] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 [検出の概要] ページで、IIS Web サーバ (バージョン 6) が Windows Server 2003 上にインストールされていることを確認し、その他のデフォルト値を確認して、[次へ] をクリックします。  
IIS Web サーバがインストールされていない場合は、Apache Web サーバと Tomcat サブレットがインストールされます。
- 7 [インストールフォルダの選択] ページで、デフォルトのインストール先を変更せずに [次へ] をクリックします。
- 8 [ユーザ名とツリー名の取得] ページで、次のフィールドに入力します。  
[Username] : iManager とそのモジュールの設定に使用する管理アカウントのユーザ名とコンテキスト (例: `admin.users.novell`) を指定します。  
ツリー名 : iManager が主に管理する eDirectory ツリーの名前 (例: `ZENTREE.`) を指定します。
- 9 [インストール前の概要] ページで、[インストール] をクリックします。
- 10 [インストールが終了しました] ページで [完了] をクリックし、SRV-02 サーバへの iManager のインストールを完了します。

## iManager を起動するための設定

iManager を起動できるように設定するには、次の手順に従います。

- 1 Windows のデスクトップで Novell iManager のショートカットアイコンをダブルクリックします。Internet Explorer が起動し、「Getting Started with Novell iManager(Novell iManager の基本事項)」ヘルプ ページが表示されます。



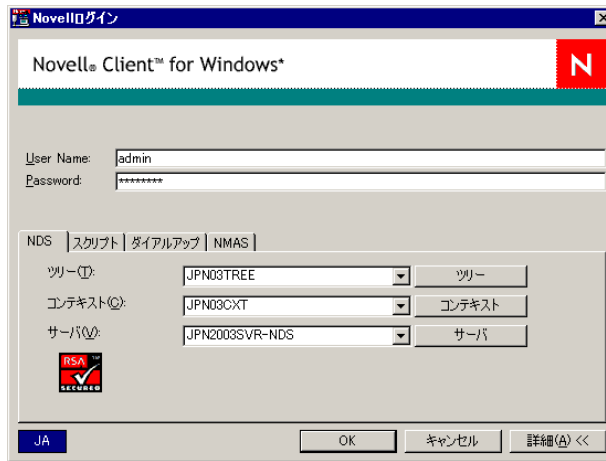
- 2 Internet Explorer の [ツール] メニューから [インターネットオプション] を選択し、[インターネットオプション] ダイアログボックスを開きます。
- 3 [インターネットオプション] ダイアログボックスの [セキュリティ] タブをクリックし、[信頼済みサイト]、[サイト] ボタンの順にクリックし、[信頼済みサイト] ダイアログボックスを開きます。
- 4 [信頼済みサイト] ダイアログボックスの [次の Web サイトをゾーンに追加する] フィールドで、SRV-02 の URL (例: `http://server_IP_address`) を指定して [追加] ボタンをクリックし、[閉じる] をクリックしてから [OK] をクリックします。[Novell iManager のログイン] ページが開きます。
- 5 [Novell iManager のログイン] ページで [ユーザ名]、[ツリー名] または [IP] を指定し、該当ユーザのパスワードを入力して iManager を起動します。
- 6 iManager の [ホーム] ページで [オブジェクトの表示] アイコンをクリックし、左側のペインで [参照] タブをクリックしてツリー (ZENTREE) を探し、目的の Admin オブジェクトとサーバーが存在することを確認します。

## ディレクトリツリーの実用性の検証

eDirectory および iManager のインストールが完了したら、ツリーの実用性を検証します。

- 1 eDirectory にログインします。

- 1a Windows サーバのデスクトップで、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックし、[NetWare ログイン] を選択します。
- 1b [ユーザ名] フィールドに、「Admin」と入力します。
- 1c [パスワード] フィールドに、「novell」と入力します。
- 1d [詳細] をクリックし、ログインダイアログボックスの [NDS] ページを開きます。
- 1e [ツリー] フィールドに、「ZENTREE」と入力します。
- 1f [コンテキスト] フィールドに、「USERS.ZEN」と入力します。
- 1g [サーバ] フィールドに「SRV-02」と入力し、[OK] をクリックして eDirectory にログインします。



- 2 Admin としてツリーにログインしていることを確認するには、タスクバーの赤い N アイコンを右クリックして [NetWare 接続] を選択し、ZENTREE とユーザ名 (CN=Admin) に対してリソースが一覧表示されていることを確認します。  
この接続の認証状態は、[ディレクトリサービス] として表示されます。
- 3 [閉じる] をクリックし、[NetWare 接続] ダイアログボックスを閉じます。
- 4 サーバに c:\novell\nds\ndscons.exe のショートカットを作成します。  
NDSConsole は、eDirectory ツリーと実行しているサービスの状態を表示できるユーティリティです。
- 5 [NDSConsole] ショートカットをクリックし、少なくとも ds.dlm と nldap.dlm が実行されていることを確認します。

現在、Windows Server 2003 で eDirectory ツリーが実行されています。

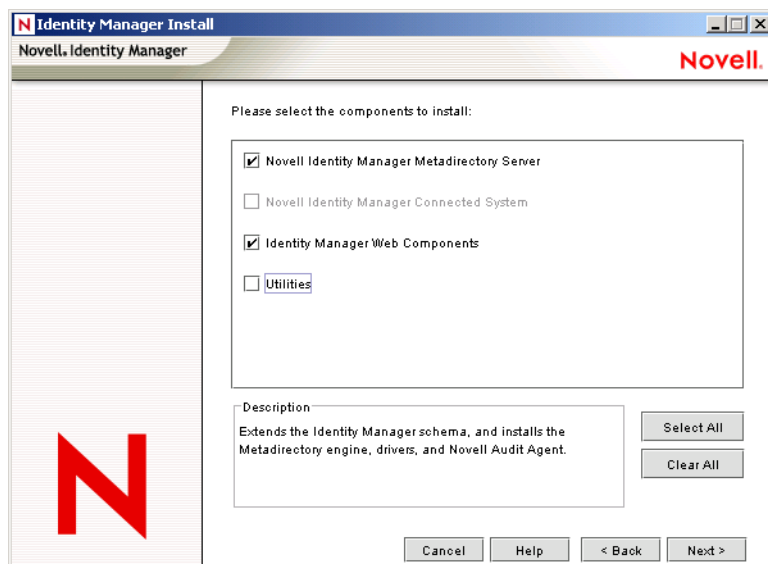
### Identity Manager 3 Bundle Edition のインストール

eDirectory が安定稼動を始めたら、Active Directory ドメインと eDirectory 間でユーザを同期できるように、Novell Identity Manager 3 Bundle Edition (IDM 3) と適切なドライバをインストールする必要があります。

IDM 3 をインストールする前に、609 ページの付録 C 「ZENworks 7 Desktop Management 用の Identity Manager Bundle 2 Edition の使用方法」に記載されている内容を読み、理解してください。

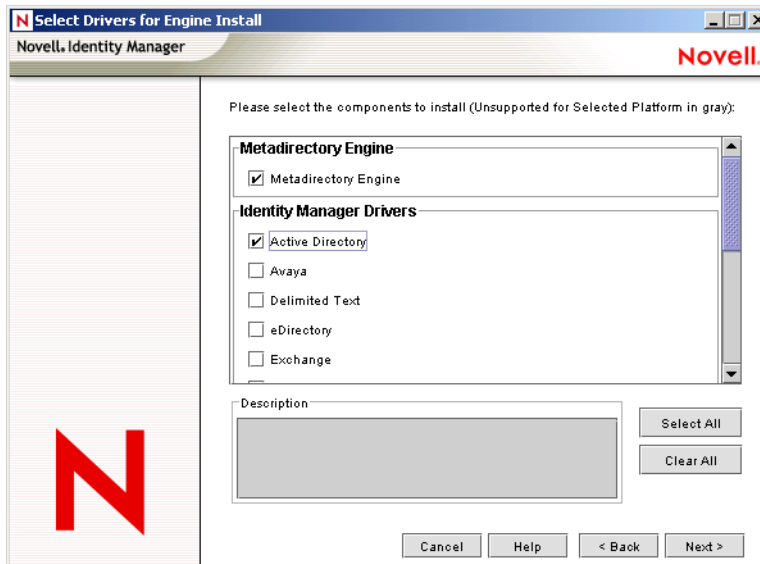
重要 : IDM 3 をインストールするときは、Windows サーバ上で ZENworks のサービスが実行されていないことを確認してください。

- 1 管理者として SRV-02 Windows Server 2003 にログインし、admin として eDirectory にログインします。
- 2 *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* を SRV-02 の CD ドライブに挿入し、Windows のエクスプローラを使用して `\nsure identity manager 3 bundle edition` フォルダに移動します。
- 3 `setup.bat` をダブルクリックし、IDM 3 のインストールプログラムを起動します。
- 4 Identity Manager の初期ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [*I Accept* (同意します)] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。[キャンセル] をクリックします。
- 6 [Identity Manager Overview (Identity Manager の概要)] ページで、[次へ] を 2 回クリックします。
- 7 コンポーネントの選択ページで、[*Novell Identity Manager Metadirectory Server (Novell Identity Manager Metadirectory サーバ)*] と [*Identity Manager Web Components (Identity Manager Web コンポーネント)*] を選択し、[*Utilities (ユーティリティ)*] の選択を解除して、[次へ] をクリックします。



- 8 [Select Drivers for Engine Install (エンジンのインストール用ドライバの選択)] ページで、[Clear All (すべてクリア)] を選択し、[Metadirectory Engine (Metadirectory エン

ジン) ] と [Active Directory] ( [Identity Manager Drivers (Identity Manager ドライバ)] リスト内) を選択して、[次へ] をクリックします。



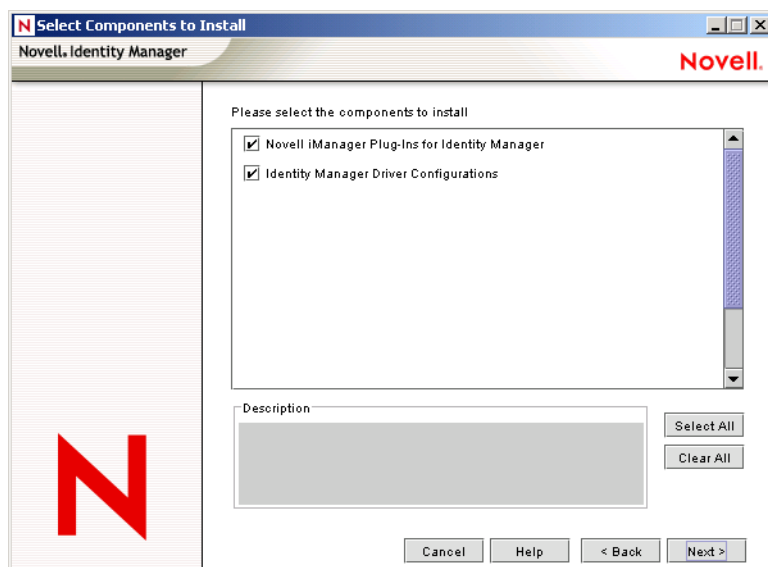
- 9 (条件付き) Identity Manager の警告に対して [Activation Notice (アクティベーション通知)] ダイアログボックスに、Novell Identity Manager のライセンスを取得するように通知するメッセージが表示されます。[次へ] をクリックします。

ライセンスを登録しない場合、インストールしたコンポーネントは 90 日間の評価期間が過ぎると機能しなくなります。Metadirectory エンジンと Active Directory ドライバのライセンスは、ZENworks 7 の製品ライセンスの一部として付属しています。ライセンスを登録しないことにした場合には、後ほど戻って登録することができます。

- 10 (条件付き) [Password Synchronization Upgrade Warning (Password Synchronization アップグレード警告)] ダイアログボックスに、古いバージョンの Password Synchronization のアップグレードが必要であることを通知するメッセージが表示されます。このダイアログボックスが表示された場合は、その内容を読んでから [OK] をクリックします。
- 11 [Schema Extension (スキーマの拡張)] ページで、ツリーが適切であること (ZENTREE) を確認し、admin ユーザの完全識別名 (DN)、およびユーザのパスワード (admin ユーザ名は、CN=admin,OU=Users,O=ZEN) を入力するか、参照して選択します。[次へ] をクリックします。



- 12 [Select Components to Install (インストールするコンポーネントの選択)] ページで、デフォルトの選択を変更せずに [次へ] をクリックします。



- 13 [概要] ページの内容を確認し、[終了] をクリックします。
- 14 [インストールが完了しました] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックし、DirXML でインストールを完了します。
- 15 ドライバが正常に登録されるように、サーバを再起動します。

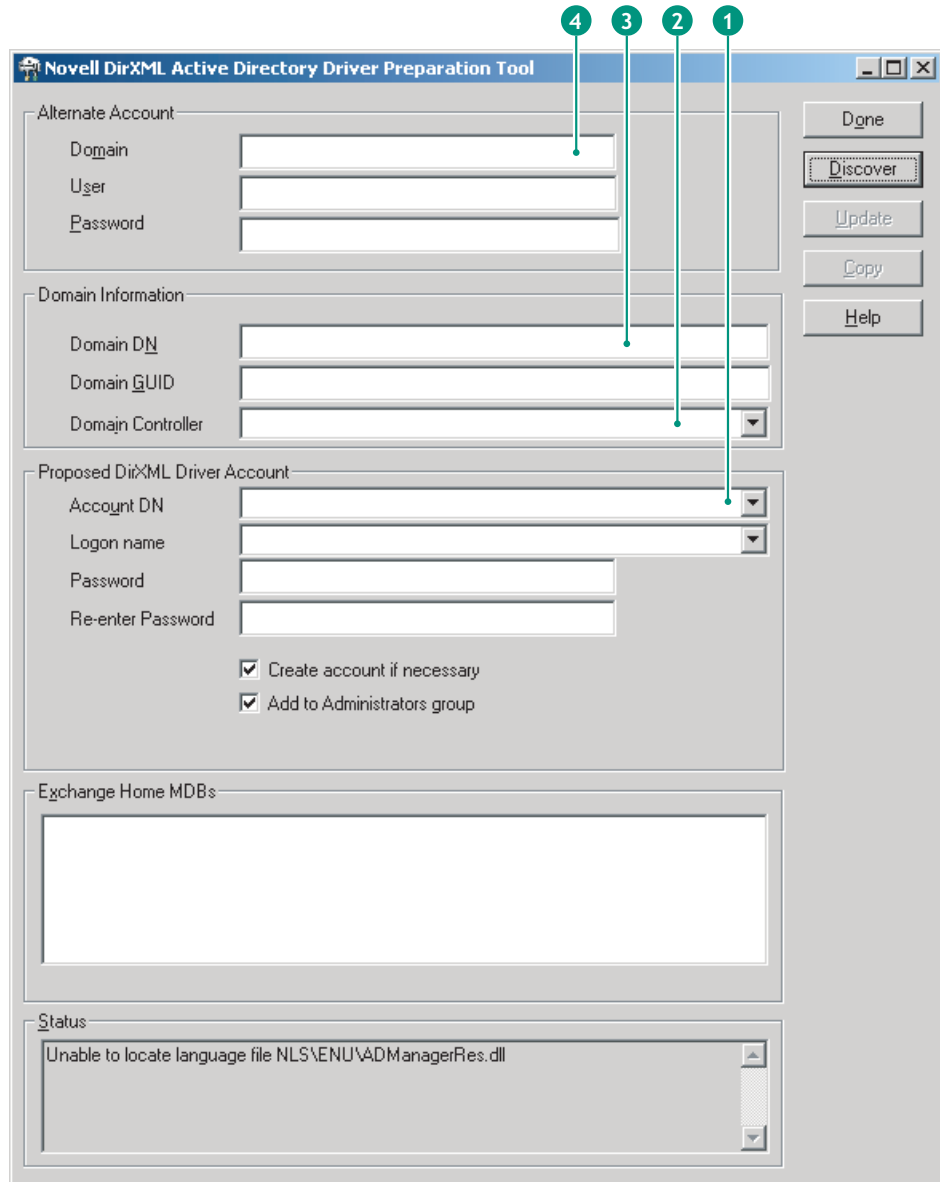
Novell Identity Manager 3 Bundle Edition のインストールが完了したら、同期を実行できるように事前に Identity Manager ドライバを設定しておく必要があります。詳細については、[277 ページの「Identity Manager ドライバの設定」](#)を参照してください。

## Identity Manager ドライバの設定

SRV-02 サーバへの eDirectory および Identity Manager のインストールが終了したら、Active Directory ドメインと eDirectory 間での同期を開始するように Identity Manager ドライバを設定する必要があります。

- 1 Active Directory の管理者として、SRV-01 サーバにログインします。
- 2 ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD をサーバの CD ドライブに挿入し、`nsure identity manager 3 bundle edition\nt\dirxml\utilities\ad_disc` フォルダに移動し、

admanager.exe をダブルクリックして Active Directory Driver Preparation Tool を実行します。



**2a** [Discover (検出)] をクリックします。

ツールが実行され、ツールウィンドウの各フィールドに該当するデータが検出されます。

**2b** ツールウィンドウの [Proposed DirXML Driver Account (提案される DirXML ドライバアカウント)] セクションの [パスワード] フィールドにパスワードを入力し、[もう一度パスワードを入力してください] フィールドにもう一度同じパスワードを入力して、[更新] をクリックします。

**2c** [Create Account Notification (アカウント通知の作成)] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

**2d** [ドメイン]、[Domain DN (ドメイン DN)]、[Domain Controller (ドメインコントローラ)]、[Account DN (アカウント DN)] の各フィールドのデータを後から使


用できるように、これらの情報をコピーしてテキストファイルに貼り付け、このファイルをデスクトップに保存します。

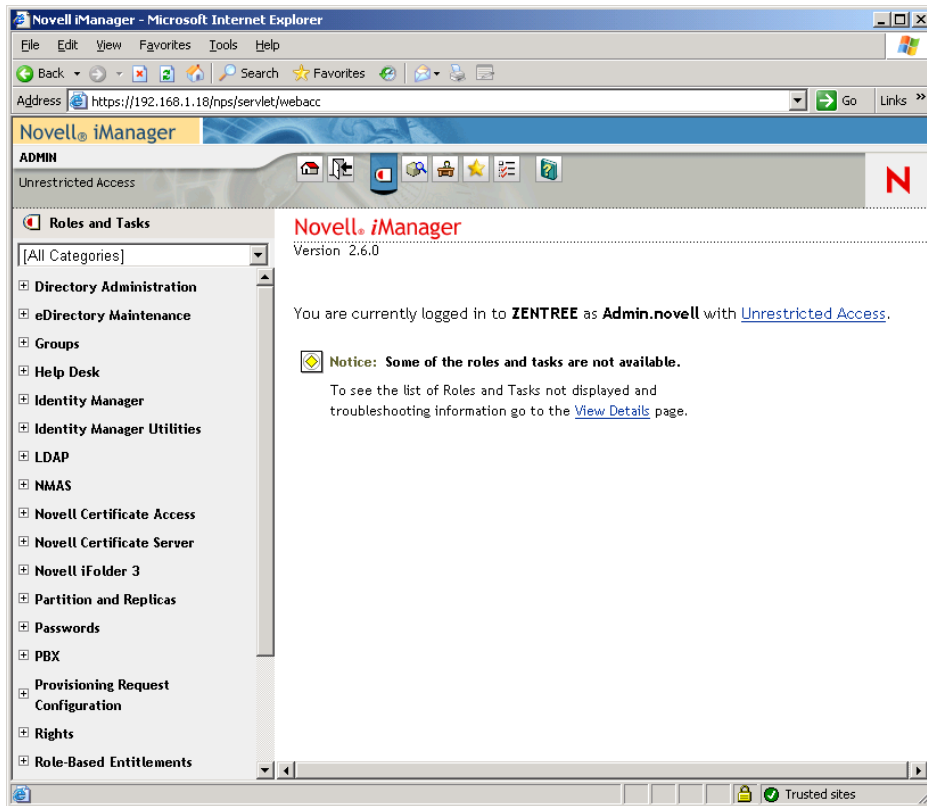
---

ヒント：代わりに、ツールを実行したままにしておくこともできます。その場合、これらのデータをつールの各フィールドから直接コピーし、別の設定ツールの対応するフィールドに貼り付けることができます。詳細については、[233 ページのステップ 12](#) を参照してください。

---

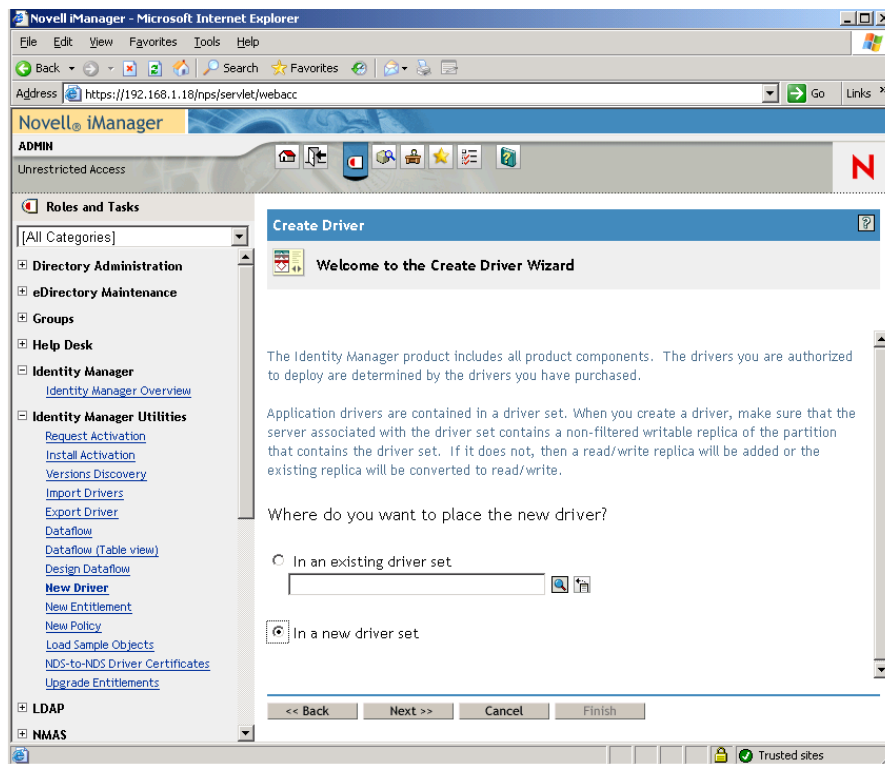
- 2e** [完了] をクリックし、Active Directory Driver Preparation Tool を終了します。
- 3** DirXML アカウントユーザのセキュリティ設定を行います。
  - 3a** Windows のデスクトップで、[スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [ドメイン コントローラ セキュリティ ポリシー] の順にクリックします。
  - 3b** ツリービューで [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] の順にクリックします。
  - 3c** [サービスとしてログオン] をダブルクリックし、[セキュリティ] > [ユーザーまたはグループの追加] > [参照] > [Advance (詳細)] > [Find Now (今すぐ検索)] の順にクリックします。
  - 3d** 作成したユーザ (ADDriver\_zendemo) を選択し、[OK] をクリックします。以降の 3 つのダイアログボックスでは、[OK] をクリックします。
  - 3e** [ドメインコントローラセキュリティポリシー] を閉じます。
- 4** SRV-02 で、新規 Active Directory ドライバに対応するように、eDirectory スキーマを拡張します。
  - 4a** Windows コントロールパネルで、[Novell eDirectory Services] をダブルクリックします。
  - 4b** [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスで、install.dlm を選択して [開始] をクリックします。
  - 4c** [Install Additional Schema Files (追加のスキーマファイルのインストール)] をクリックし、[次へ] をクリックします。
  - 4d** eDirectory の admin ログイン名 (admin)、コンテキスト (ZEN\Users)、およびパスワード (novell) を入力し、[OK] をクリックします。
  - 4e** c:\novell\nds\dvr\_ext.sch を参照して選択し、[開く] をクリックします。
  - 4f** [終了] をクリックし、スキーマを適用します。
  - 4g** [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスの閉じる (X) ボタンをクリックします。

- 5 SRV-02 で iManager を起動し、[役割およびタスク] アイコンをクリックします。iManager のメインページに iManager の [役割およびタスク] ペインが表示されます。

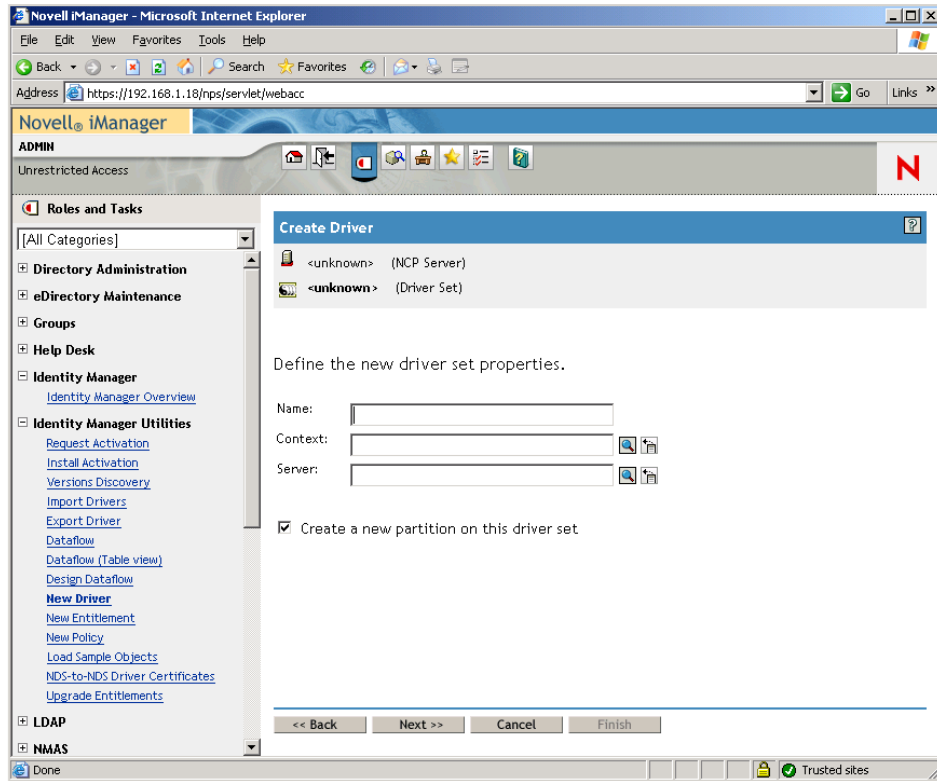


- 6 iManager で、ZEN 組織コンテナの下位に新規部門 (OU) コンテナを作成し、この OU コンテナの名前を IDM3 にします。

- 7 [役割およびタスク] ペインで [Identity Manager Utilities (Identity Manager ユーティリティ)] をクリックし、[New Driver (新規ドライバ)] をクリックして Create Driver Wizard を開きます。

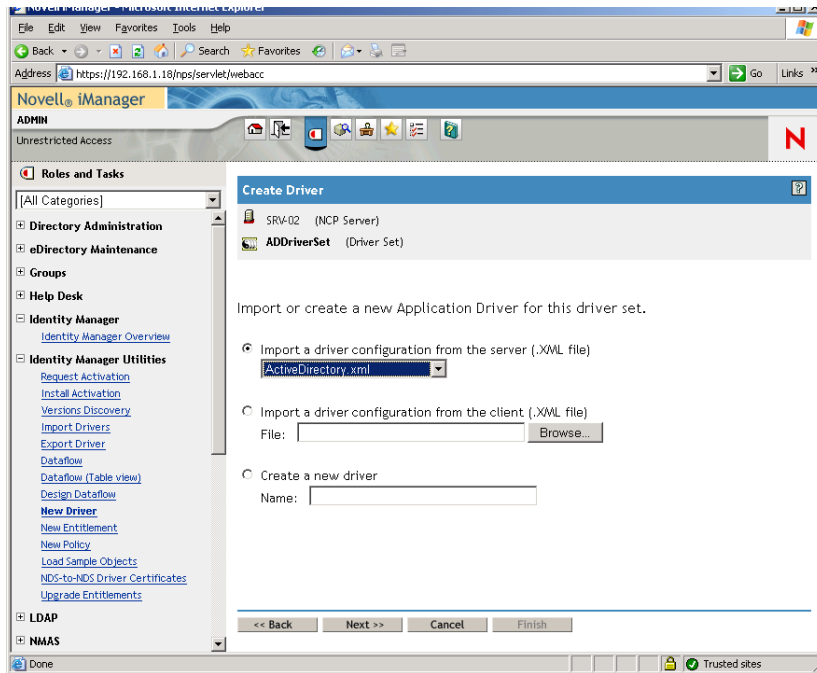


- 8 Create Driver Wizard の初期ページで、[新しいドライバセットの中] をクリックして [次へ] をクリックし、[ドライバの作成] ページを開きます。

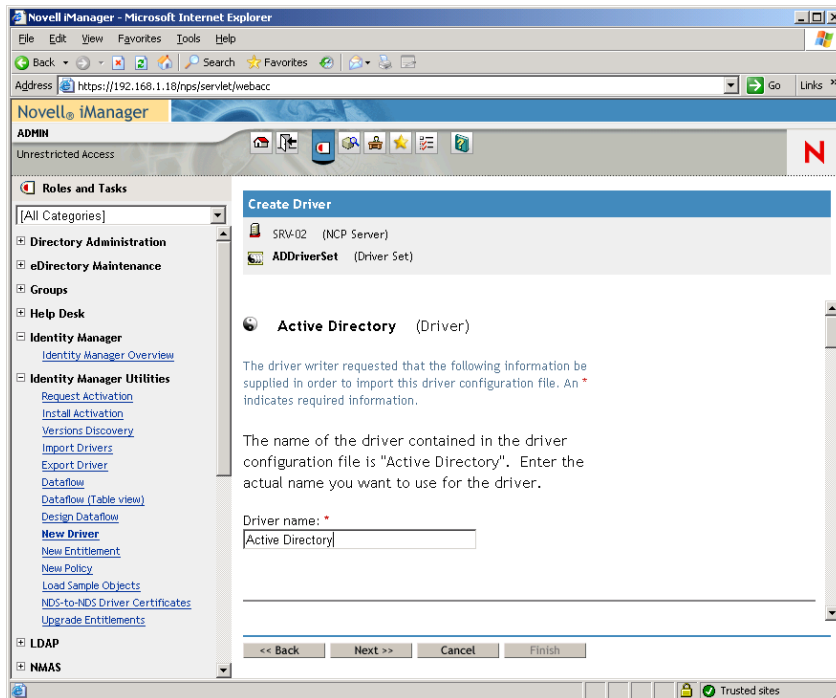


- 9 [ドライバの作成] ページで、次のフィールドに情報を入力します。  
[Name] : ドライバセット名を入力します (例 : ADDDriverSet)。  
[コンテキスト] : IDM3 コンテナを参照して選択します。  
[サーバ] : SRV-02 サーバを参照して選択します。
- 10 [次へ] をクリックします。

ドライバセットのオブジェクトが作成され、[ADDriverSet] ページが表示されます。



- 11 [Import a Driver Configuration From the Server (.XML file) (サーバからドライバ環境設定をインポートする (XML ファイル))] を選択し、ドロップダウンメニューから [Active Directory] を選択して [次へ] をクリックします。Create Driver Wizard の [Active Directory Driver Set (Active Directory ドライバセット)] のページ1が表示されます。



- 12 Create Driver Wizard のドライバパラメータを設定します。

**12a** 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard のページ 1 に一覧表示されているドライバのパラメータ ( スクロールして表示 ) を設定します。

**[Driver Name( ドライバ名 )]** : ドライバの名前をデフォルトとしてそのまま使用します。

**[Authentication Method]** : デフォルト値 ( [Negotiate] ) を使用します。

**[認証 ID]** : AD ドメイン名 (NetBios) の後にスラッシュを入力し、作成されたドライバアカウントユーザ名を入力します (278 ページのステップ 2b を参照)。ドライバアカウントユーザ名には、278 ページのステップ 2d で [Account DN] フィールドからコピーしておいた名前を使用できます (278 ページのステップ 2d に掲載されている図の番号 1 も参照)。

たとえば、このフィールドには「ZENDEMO/ADDriver\_zendemo」のように入力します。

**[Authentication Password]** : admanager.exe ツールの [Proposed DirXML Driver Account ( 提案される DirXML ドライバアカウント )] に指定したものと同一パスワードを使用します (278 ページのステップ 2b を参照)。

**[パスワードを再入力します]** : 1 つ前のフィールドに入力したパスワードを再入力します。

**[Authentication Context ( 認証コンテキスト )]** : admanager.exe の使用時に [Domain Controller ( ドメインコントローラ )] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (278 ページのステップ 2d および同手順で参照している図の番号 2 を参照)。

**[Domain Name]** : admanager.exe の使用時に [Domain DN ( ドメイン DN )] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (278 ページのステップ 2d および同手順で参照している図の番号 3 を参照)。

**[Domain DNS Name]** : admanager.exe の使用時に [ドメイン] フィールドからテキストファイルにコピーした名前を貼り付けます (278 ページのステップ 2d および同手順で参照している図の番号 4 を参照)。

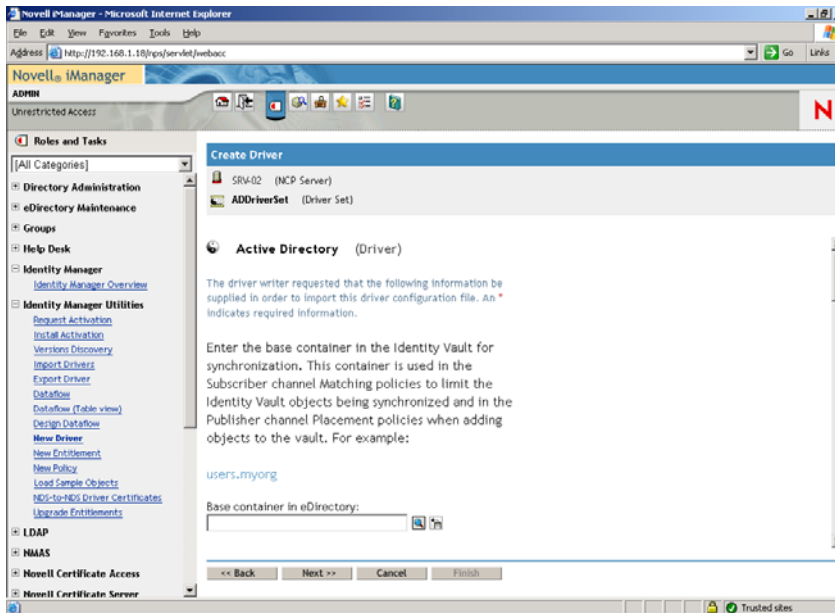
**[Driver Polling Interval( ドライバのポーリング間隔 )]** : 希望のポーリング間隔を指定します。ラボ環境では、間隔を約 1 分に設定します。運用環境では、約 15 分に設定します。

**[Password Sync Timeout (minutes)]** : デフォルト値 (5 分間) をそのまま使用します。

**[Driver is Local/Remote ( ドライバはローカル/リモート )]** : デフォルト値 ( [Local] ) をそのまま使用します。



[次へ] をクリックして、Create Driver Wizard のページ 2 を開きます。



**12b** 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard のページ 2 に一覧表示されているドライバのパラメータ (スクロールして表示) を設定します。

**[Base Container in eDirectory(eDirectory 内のベースコンテナ)]** : ユーザを作成して Active Directory と同期させるコンテナを指定します (例 : users.zen)。[参照] をクリックすると、このコンテナを参照できます。Active Directory コンテナをミラーリングする場合、このコンテナが eDirectory で最上位のコンテナになります。

**[Publisher Placement(パブリッシャの配置)]** : [Flat (フラット)] または [Mirror (ミラー)] を選択します。[Flat (フラット)] を選択すると、Active Directory のユーザオブジェクトはすべて同じコンテナ内に配置されます。[Mirror (ミラー)] を選択すると、すべてのユーザオブジェクトとコンテナが eDirectory に再作成されます。

**[Base Container in Active Directory(Active Directory 内のベースコンテナ)]** :

Active Directory のベースコンテナの名前を入力します。これはユーザを eDirectory と同期させるコンテナです (例 : CN=Users、DC=zendemo、DC=com)。

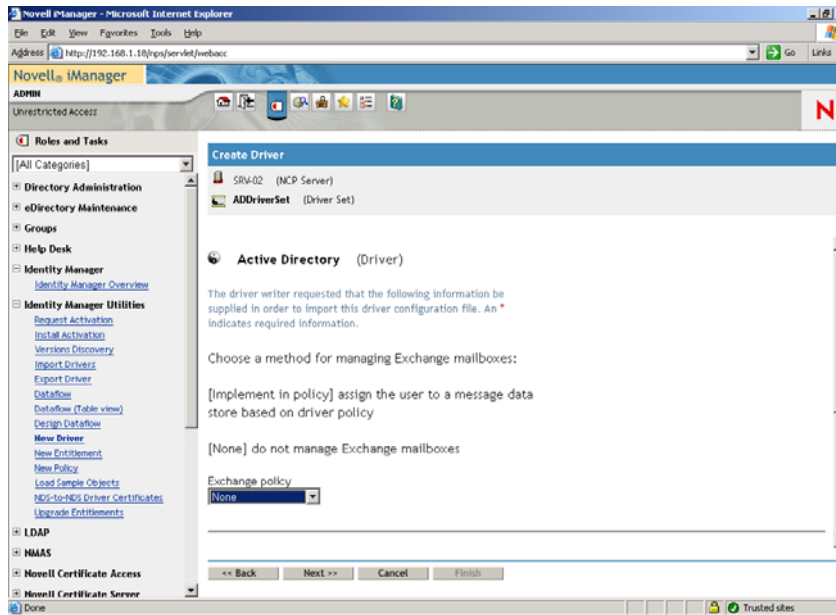
**[Active Directory Placement (Active Directory の配置)]** : [Publisher Placement(パブリッシャの配置)] フィールドを確認して配置を選択します。

**[Configure Data Flow(データフローの構成)]** : デフォルト値 ([Bi-directional]) をそのまま使用します。

**[Password Failure Notification User]** : 空白のままにします。

**[Configure Entitlements (Entitlements の設定)]** : ドロップダウンリストから [いい] を選択します。

[次へ] をクリックして、Create Driver Wizard のページ 3 を開きます。



**12c** 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard のページ 3 に一覧表示されているドライバのパラメータ (スクロールして表示) を設定します。

**[Exchange Policy ( 交換ポリシー )]** : デフォルト値 ( [No] ) をそのまま使用します。

**[Group Membership Policy ( グループメンバシップポリシー )]** : Active Directory でグループメンバシップを割り当てる方法を選択します。このラボ環境では [なし] に設定します。

詳細については、『*Novell Identity Manager Driver for Active Directory Implementation Guide*』の「[Configuring the Active Directory Driver \(http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/ad/data/bv0tbi5.html\)](http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/ad/data/bv0tbi5.html)」の「[Configuration Parameters \(http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/ad/data/bv0tdqp.html\)](http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/ad/data/bv0tdqp.html)」の [Group Membership Policy ( グループメンバシップポリシー )] フィールドを参照してください。

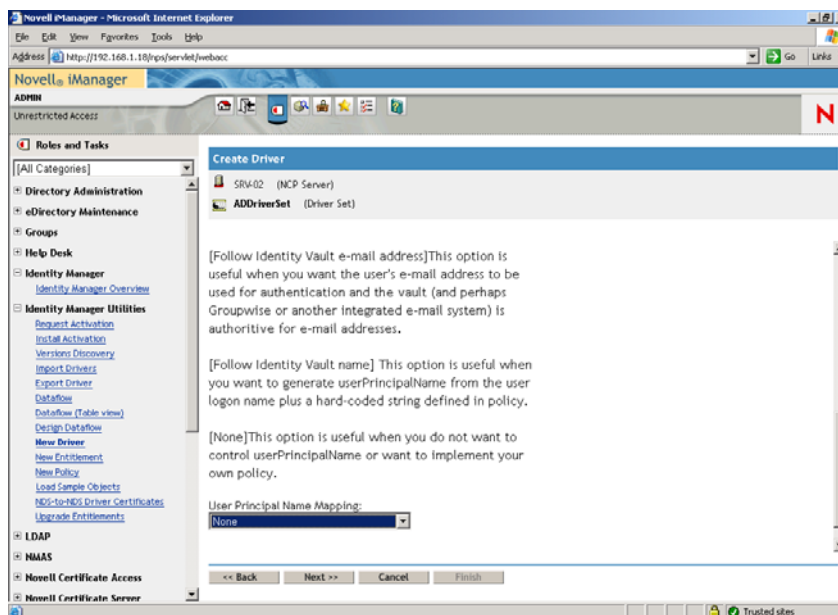
[次へ] をクリックして、Create Driver Wizard のページ 4 を開きます。



12d 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard のページ 4 に一覧表示されているドライバのパラメータを設定します。

[Name Mapping Policy (名前マッピングポリシー)] セクション: ドロップダウンリストに表示されているデフォルト ( [受諾] ) のままにします。

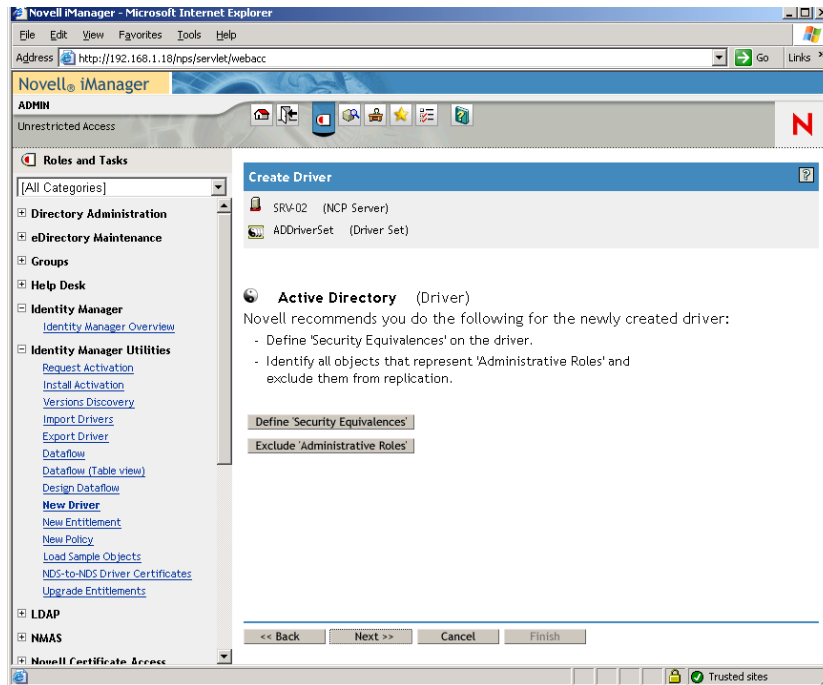
[次へ] をクリックして、Create Driver Wizard のページ 5 を開きます。



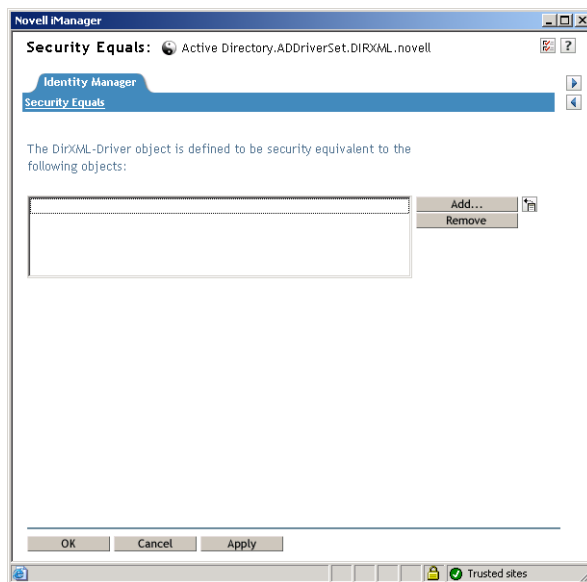
12e 次のフィールドに情報を入力し、Create Driver Wizard のページ 5 に一覧表示されているドライバのパラメータを設定します。

[User Principal Name Mapping (ユーザプリンシパル名マッピング)] : ドロップダウンリストに表示されているデフォルト ( [なし] ) のままにします。

- 13 [次へ] をクリックして、Create Driver Wizard の [Security Equivalences (同等セキュリティ)] ページを開きます。



- 14 [Define Security Equivalences (同等セキュリティの定義)] をクリックし、[Security Equals (同等セキュリティ)] ウィンドウを開きます。

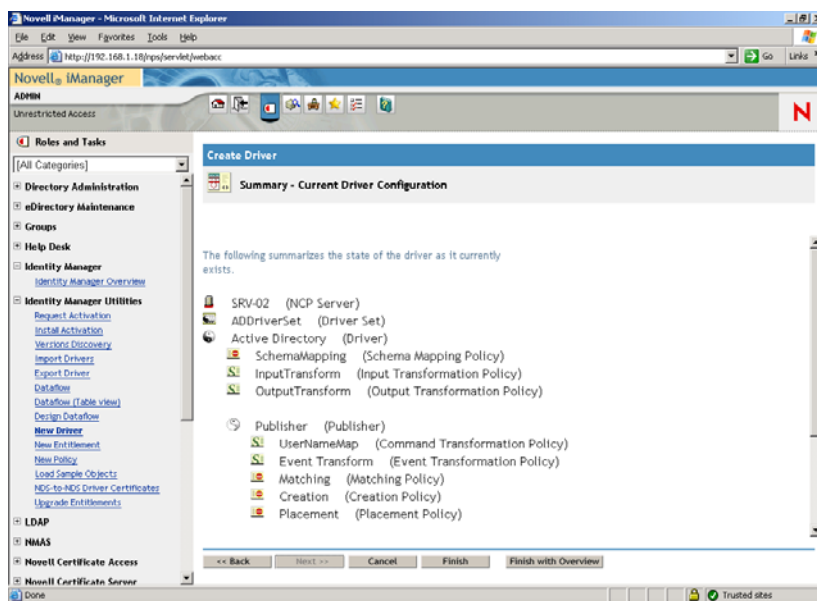


- 15 [追加] をクリックして参照ウィンドウを開き、Admin.Users.ZEN ユーザを選択します。このユーザを [選択したオブジェクト] リストに追加して [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックします。
- 16 Create Driver Wizard の [Security Equivalences (同等セキュリティ)] ページで、[Exclude Administrative Roles (管理役割の除外)] をクリックします。

- 17 [Synchronization Exclusion (同期除外)] ウィンドウで [追加] をクリックし、eDirectory の管理者であるユーザを全員選択して [OK] をクリックします。

これにより、今後 Active Directory ドメインにユーザを作成し、同期することはできなくなります。

ウィザードの [Summary - Current Driver Configuration] ページが表示されます。



- 18 [終了] をクリックします。

Identity Manager ドライバを実行するには、Password Synchronization ソフトウェアをインストールする必要があります。詳細については、289 ページの「[Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化](#)」を参照してください。

## Password Synchronization のインストールとユニバーサルパスワードの有効化

Password Synchronization を使用すると、Identity Manager に自動的に作成された各ユーザオブジェクトは、Active Directory に作成した対応するユーザと同じパスワードを持つことができます。これは、ユーザがワークステーションにログインするときに、1 回のログインで Active Directory と eDirectory の両方にログインできるようにするために必要となります。

Password Synchronization では、プラットフォーム固有のパスワードポリシーが相互に矛盾していないことが必要となります。パスワードポリシーに矛盾があると、正常なパスワード同期の妨げとなります。たとえば、eDirectory のパスワードは 8 文字以上の長さを必要とし、Windows のパスワードには長さの要件がない場合、ユーザは eDirectory では受け入れられない Windows の短いパスワードを作成する可能性があります。Password Synchronization は、プラットフォームのポリシーよりも優先されることはありません。


Identity Manager を使用すると、アカウントの属性または Java サービスを通じて使用できる他の情報に基づいて、アカウントの初期パスワードを生成することができます。たとえば、ユーザの姓と 4 桁の数字を基にパスワードを生成できます。初期パスワードを生成するにはドライバをカスタマイズする必要がありますが、既存の人事管理ツールセットを使用してアカウントを提供するときに、パスワードの管理に適した方法です。

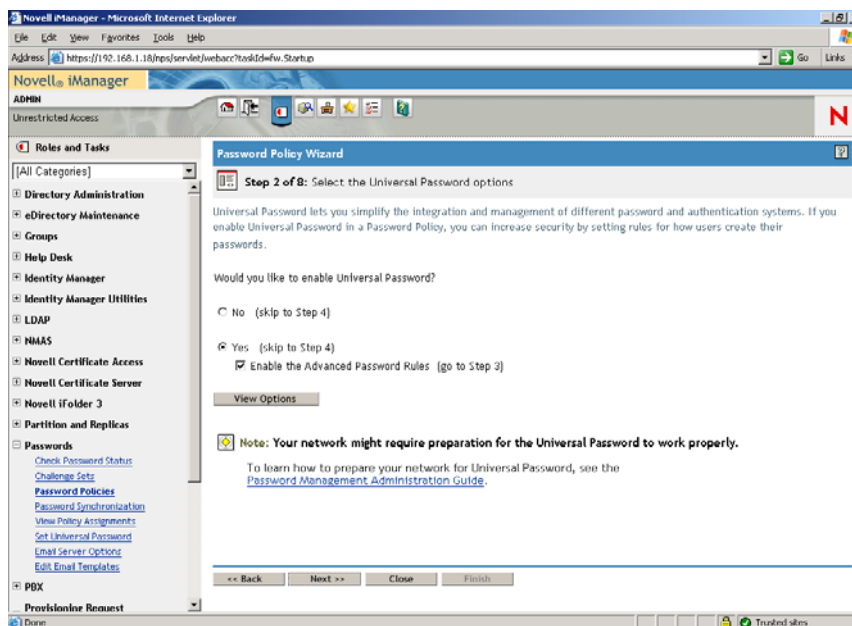
iManager では、[NDS パスワードの割り当て] を選択した後に、[作成中にプロンプト表示] を選択すると、ユーザアカウントの作成時に初期パスワードを設定できます。この場合、iManager によってパスワードが設定されてから、アカウントが NT または Active Directory のアカウントに関連付けられます。これにより、初期パスワードは同期されなくなります。最初のパスワードが変更されない限り、パスワードは同期されません。この遅延を防ぐには、次のいずれかを実行します。

- ◆ [Assign NDS Password During User Creation (ユーザ作成中にNDSパスワードを割り当て)] の選択を解除し、パスワードを後で割り当てます。わずかな遅延でアカウントの関連付けを完了できます。
- ◆ [最初のログイン時にプロンプト表示] を選択し、アカウントが実際に使用されるまでパスワードの設定を延期します。

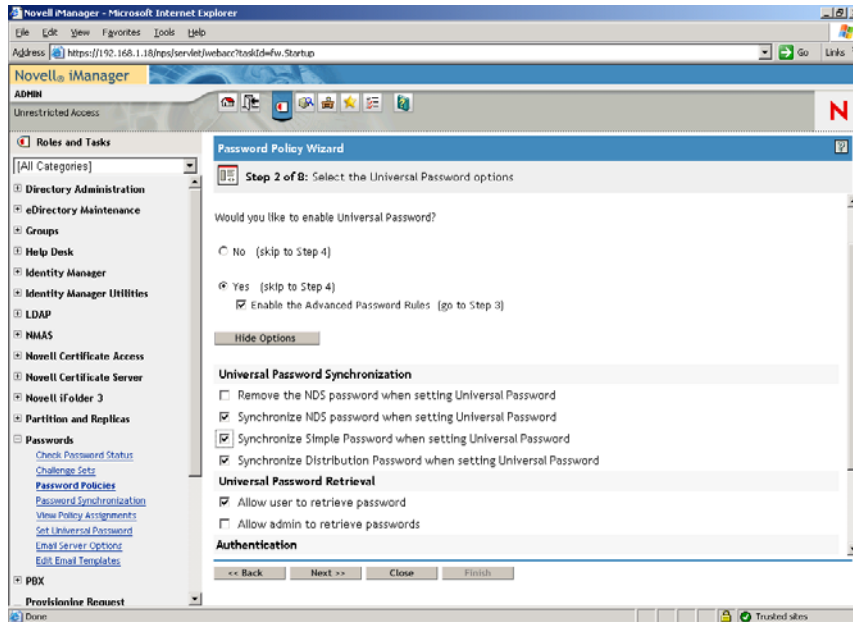
Microsoft 管理コンソール (MMC) では、アカウントの作成時にパスワードを入力することによって、ユーザアカウントの初期パスワードを設定できます。パスワードが設定されるまでは、Password Synchronization は eDirectory アカウントを Active Directory アカウントに関連付けることができないため、Password Synchronization サービスでは eDirectory アカウントをすぐに更新することはできません。ただし、サービスはパスワードの更新を再試行するため、アカウントは数分以内に適切に更新されます。

サーバに Password Synchronization をインストールするには

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 iManager で [役割およびタスク] アイコン  をクリックし、左側のペインで [パスワード]、[パスワードポリシー]、[新規] の順にクリックしてパスワードポリシーウィザードを起動します。
- 3 パスワードポリシーを設定します。
  - 3a [ポリシー名] フィールドにポリシーの名前を入力し (例: IDM UnivPassword)、[次へ] をクリックしてウィザードの手順 2 のページを表示します。

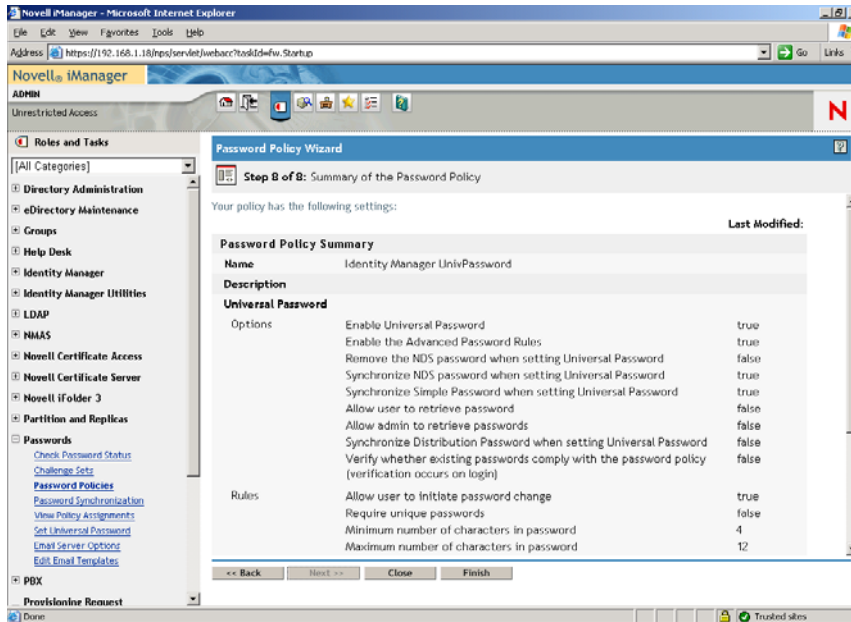


- 3b** ウィザードの手順 2 のページで、[*View Options* (オプションの表示)] をクリックし、パスワード同期のオプションを表示します。



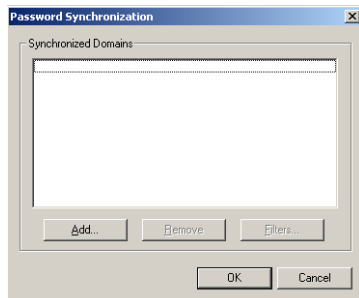
- 3c** [ユニバーサルパスワードの設定時に単純パスワードを同期する] を選択して [次へ] をクリックします。
- 3d** [高度なパスワードルール] ページで [次へ] をクリックします。
- 3e** ウィザードの手順 4 のページ ( [パスワードを忘れた場合の処理を有効にする] 機能 ) で、デフォルト値 ( [No] ) を変更せずに [次へ] をクリックします。
- 3f** [次へ] をクリックして、ウィザードの手順 5 と 6 のページをスキップします。
- 3g** ウィザードの手順 7 のページ ( [パスワードポリシーの割り当て] ) で、[参照] を選択して参照ウィンドウを開き、Users.ZEN コンテナを選択して [OK] をク

リックします。[次へ] をクリックして、ウィザードの手順 8 のページ ( [パスワードポリシーの概要] ) を表示します。

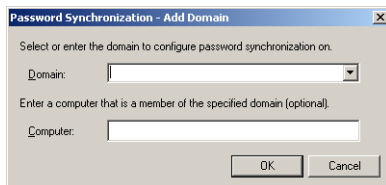


3h [終了] をクリックし、[閉じる] をクリックします。

- 4 Windows のデスクトップで、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックして、[DirXML PassSync] をダブルクリックします。
- 5 [PassSynchConfig] ダイアログボックスで、[Is this machine where the DirXML Driver is configured to run? (このマシンは、DirXML ドライバが実行するように設定されているマシンですか?)] というメッセージに対して [はい] をクリックします。  
[Password Synchronization] ダイアログボックスが表示されます。

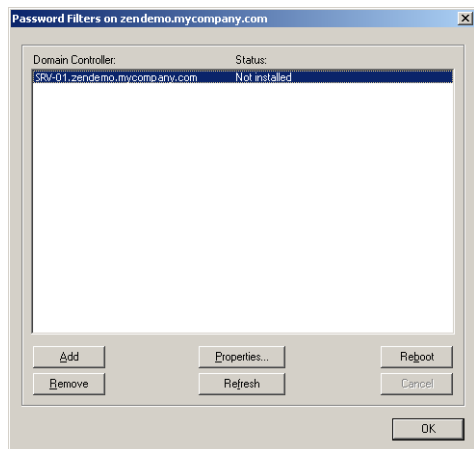


- 6 [Password Synchronization] ダイアログボックスで [追加] をクリックします。  
[Password Synchronization - Add Domain] ダイアログボックスが表示されます。





- 7 [Password Synchronization - Add Domain (Password Synchronization - ドメインの追加)] ダイアログボックスで、[ドメイン] ドロップダウンリストから [ZENDEMO] を選択して [OK] をクリックします。  
[コンピュータ] フィールドには情報を追加しないでください。
- 8 [PassSyncConfig] ダイアログボックスで [はい] をクリックします。
- 9 目的のドメイン DNS 名を選択して [フィルタ] をクリックし、[Password Filters (パスワードフィルタ)] ダイアログボックスを表示します。



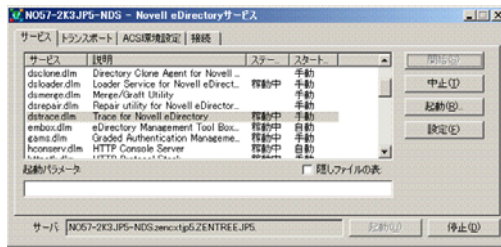
- 10 [Password Filters (パスワードフィルタ)] ダイアログボックスで、目的のドメインコントローラ名を選択して [追加] をクリックします。  
これにより、指定したドメインコントローラにファイルがコピーされます。コピーが完了すると、ステータスが “Installed - Needs Reboot” に変化します。
- 11 [再起動] をクリックし、サーバが再起動してダイアログボックスにサーバが稼働中と表示されるまで待ってください。その後、SRV-01 が再起動した後に [リフレッシュ] をクリックします (ステータスに変化しない場合)。
- 12 [OK] を 2 回クリックします。
- 13 SRV-02 サーバを再起動し、インストールを完了します。

## DirXML ドライバの最終設定

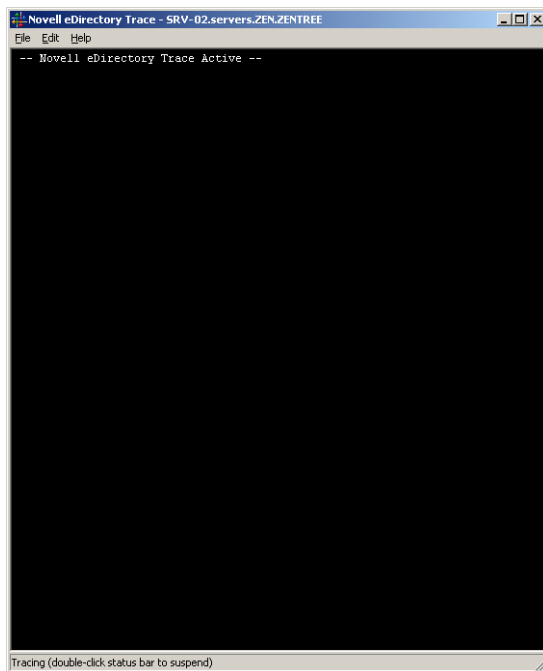
DirXML ドライバと PasswordSync ドライバの両方をインストールし設定したら、ドライバが自動的に起動して正しく機能するように、最終的な設定を行う必要があります。最終設定を行うには、次の手順に従います。

- 1 管理者として、SRV-02 サーバにログインします。

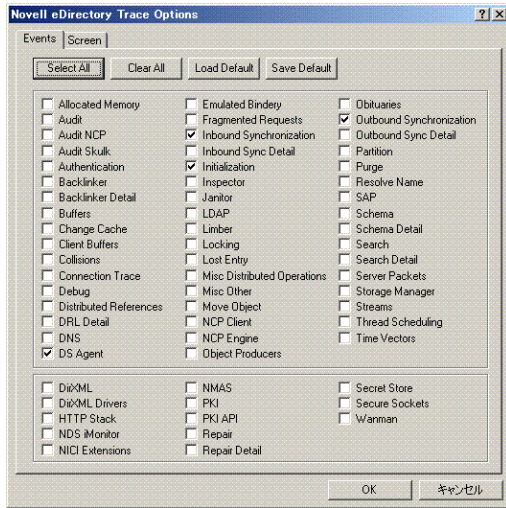
- 2 Windows Server 2003 のデスクトップから、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [Novell eDirectory Services] の順にクリックして、[Novell eDirectory Services] ダイアログボックスを開きます。




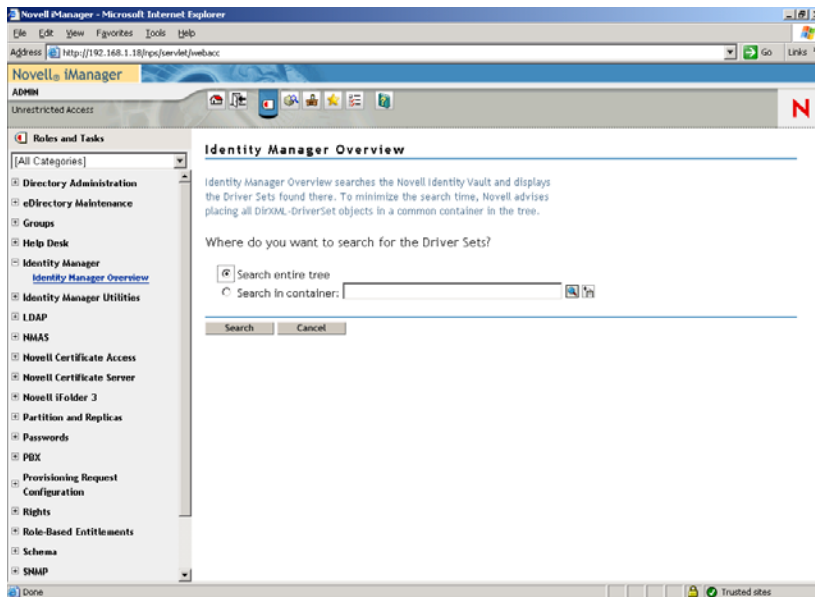
- 3 [サービス] をクリックし、dstrace.dlm サービスを選択して [開始] をクリックし、[Novell eDirectory Trace] ウィンドウを表示します。



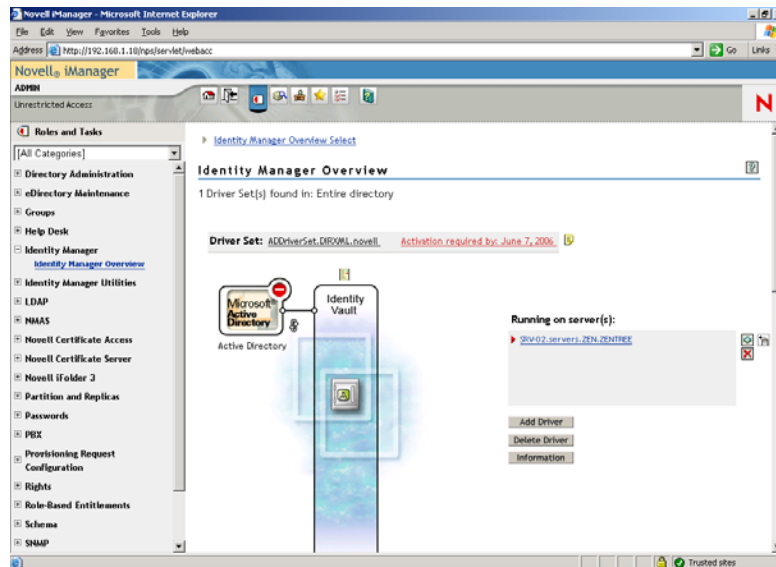
- 4 [Novell eDirectory Trace] ウィンドウで、[編集] > [オプション] の順にクリックし、[Novell eDirectory Trace Options] ダイアログボックスを表示します。



- 5 ダイアログボックスの [動作] ページで [すべてクリア] をクリックし、[DirXML] と [DirXML Drivers (DirXML ドライバ)] を選択して [OK] をクリックします。  
[Novell eDirectory Trace] ウィンドウは開いたままにしておいてください。
- 6 iManager を起動し、目的のサーバのリンクをクリックして Admin としてログインします。
- 7 iManager で [役割およびタスク] アイコン  をクリックして左側のペインに [役割およびタスク] を開き、[Identity Manager]、[Identity Manager Overview (Identity Manager の概要)] の順にクリックして右側のペインに [Identity Manager Overview (Identity Manager の概要)] ユーティリティを表示します。




- 8 [Identity Manager Overview (Identity Manager の概要)] ユーティリティで [ツリー全体を検索する] を選択し、[検索] をクリックして [Active Directory- eDirectory configuration (Active Directory- eDirectory 環境設定)] ページを開きます。

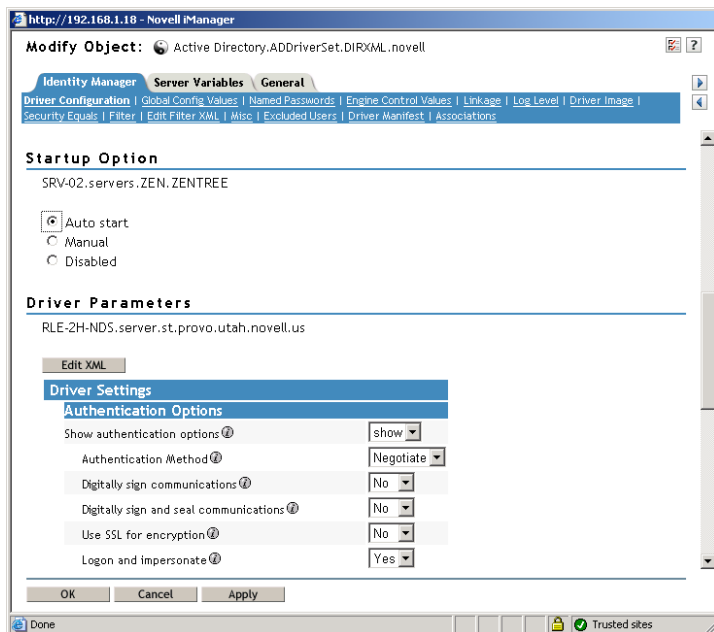



- 9  アイコンをクリックしてメニューオプションのリストを開き、[Start Driver (ドライバの起動)] を選択します。

ドライバの起動時には、[Novell eDirectory Trace] ウィンドウに各種メッセージが表示されます。エラーは赤、警告は黄色、正常な処理は緑で示されます。最初にエラーや警告が表示される場合もありますが、最後のメッセージは緑色でなければなりません。また、Active Directory DirXML ログイベントのステータスが最終的に [成功] になることも必要です。

ドライバが正常に機能し始めると、 アイコンが  アイコンに変化します。

- 10  アイコンをクリックし、[プロパティの編集] をクリックして [オブジェクトの変更] ウィンドウを開きます。



- 11 (条件付き、ネットワークに認証機関がまだインストールされていない場合)。[オブジェクトの変更] ウィンドウで [Identity Manager] タブを選択し、[ドライバ環境設定] をクリックします。ウィンドウの [認証オプション] セクションをスクロールし、[暗号化に SSL を使用] フィールドで、ドロップダウンメニューから [はい] をクリックします。
- ドライバを動作させるためには、SSL に設定した Active Directory で証明書を有効にする必要があります。
- 12 [オブジェクトの変更] ウィンドウで [Identity Manager] タブを選択し、[ドライバ環境設定] をクリックします。ウィンドウの [起動オプション] セクションをスクロールし、[自動スタート] を選択して [OK] をクリックします。
- “Do you want to restart the driver to put your changes into effect?” というメッセージを表示するダイアログボックスが開きます。
- 13 このメッセージダイアログボックスで [OK] をクリックし、ドライバを再起動します。
- 14 マウスポインタを  アイコンの上に移動して、“Driver is Running” というステータスメッセージが表示されることを確認します。“ドライバは動作しています。”
- 15 (条件付き) [Novell eDirectory Services] ダイアログボックスが開いていない場合は (241 ページのステップ 2 を参照)、このダイアログボックスを開いて dirxml.dlm が動作していることを確認します。

## eDirectory、DirXML、およびユニバーサルパスワードの動作確認

使用している環境で eDirectory、DirXML、および Password Synchronization が正しく動作していることを確認するには、Active Directory にユーザを作成し、適切なパスワードを使用して eDirectory にユーザが自動的に作成されるかどうかを確認する必要があります。

- 1 Active Directory ドメインの管理者としてサーバ SRV-01 にログインします。

- 2 Active Directory 管理ツールを起動し、Active Directory にテストユーザを作成します。  
例 : TestUser1@zendemo.com
- 3 ドメインの管理者および eDirectory の admin として SRV-02 にログインします。
- 4 iManager を開き、管理されたコンテナに TestUser1 が作成されていることを確認します。  
ユーザが eDirectory に表示されるまで、同期サイクルが完了するのを待つことが必要な場合もあります。
- 5 eDirectory に TestUser1 としてログインし、パスワードが Active Directory で指定したパスワードと同じものであることを確認してから、eDirectory に正常に認証されていることを確認します。  
パスワードが更新されるまでに、別の同期サイクルが必要となります。
- 6 作業を完了するために、eDirectory にユーザを作成し (Admin としてログインしている間に iManager を使用します)、そのユーザが現在ドメイン内に存在していることを確認し、eDirectory で指定したパスワードを使用して、そのユーザとしてドメインにログインできることを確認します。  
デフォルトの同期規則では、フルネーム属性フィールドが eDirectory に読み込まれるまで、Active Directory ユーザは作成されません。フルネーム属性を確認するには、iManager で [役割およびタスク] > [ユーザ] > [変更] > [User\_object] > [一般] > [識別] > [フルネーム] の順に選択します。

---

**重要 :** パスワードが適切に動作せず eDirectory ユーザが Active Directory と同期されない場合は、[Novell Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10092646 および TID 10092822 を参照して、この問題の解決方法について確認してください。

---

## Desktop Management Server のインストール

すべてのコンポーネントのインストールを選択しない場合もありますが、ここでは各コンポーネントのインストール手順について説明します。

以前に eDirectory をインストールした SRV-02 サーバに Desktop Management Server をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 管理者として SRV-02 サーバにログインしてから、Admin として eDirectory にログインします。
- 2 Windows ワークステーションに、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

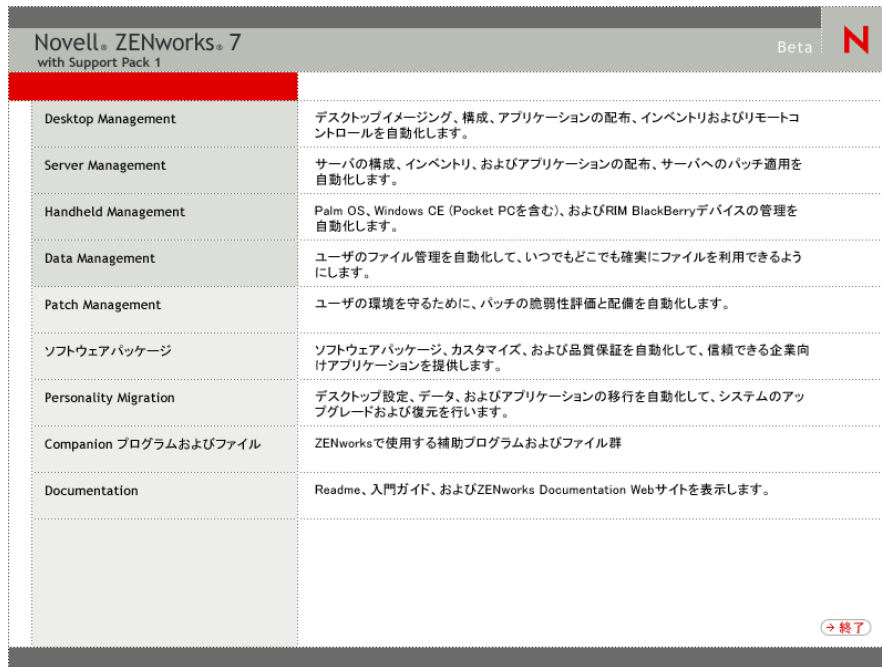
ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、winsetup.exe を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD の交換が必要となるためです。

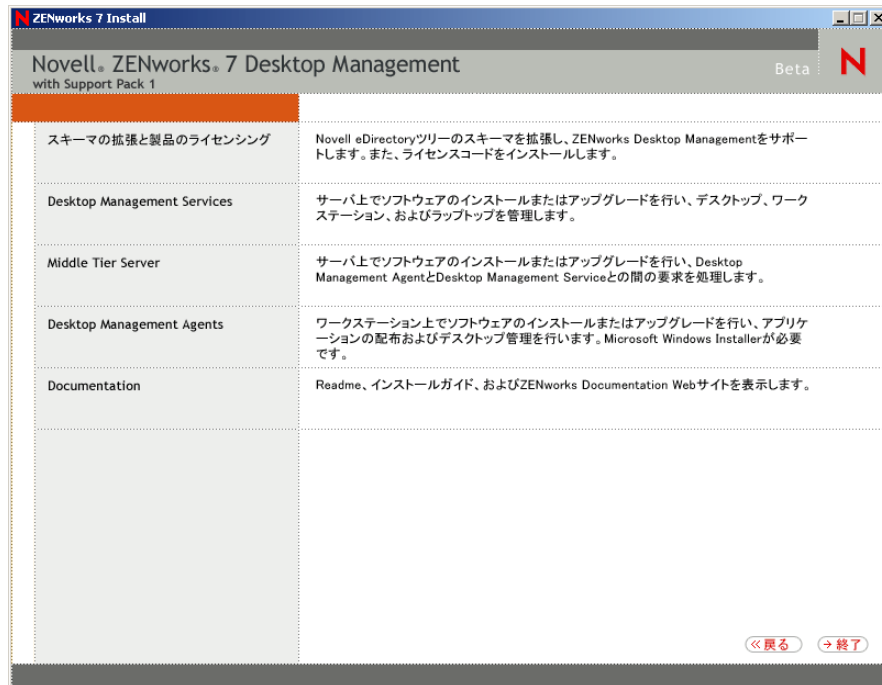
---

**重要 :** インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、

Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

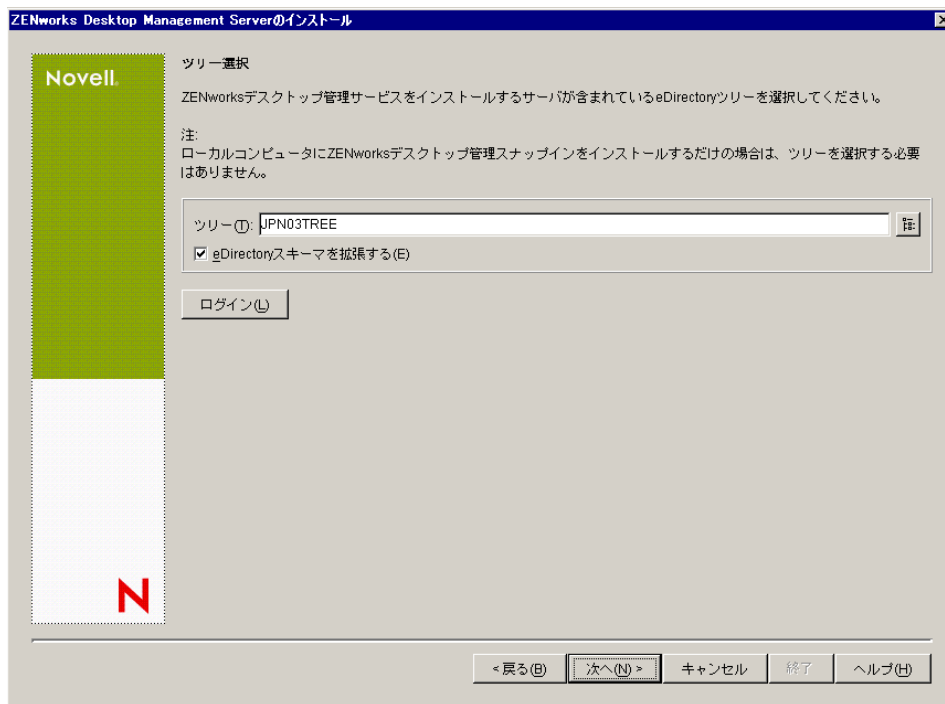


- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



- 5 [デスクトップ管理サービス] をクリックし、Desktop Management Server インストールウィザードを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Desktop Management Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [ツリー選択] ページで、SRV-02 サーバの Novell eDirectory ツリーの名前 (ZENTREE) を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」を参照)、[スキーマの拡張] を選択し、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールするツリーのスキーマを拡張して、[次へ] をクリックします。

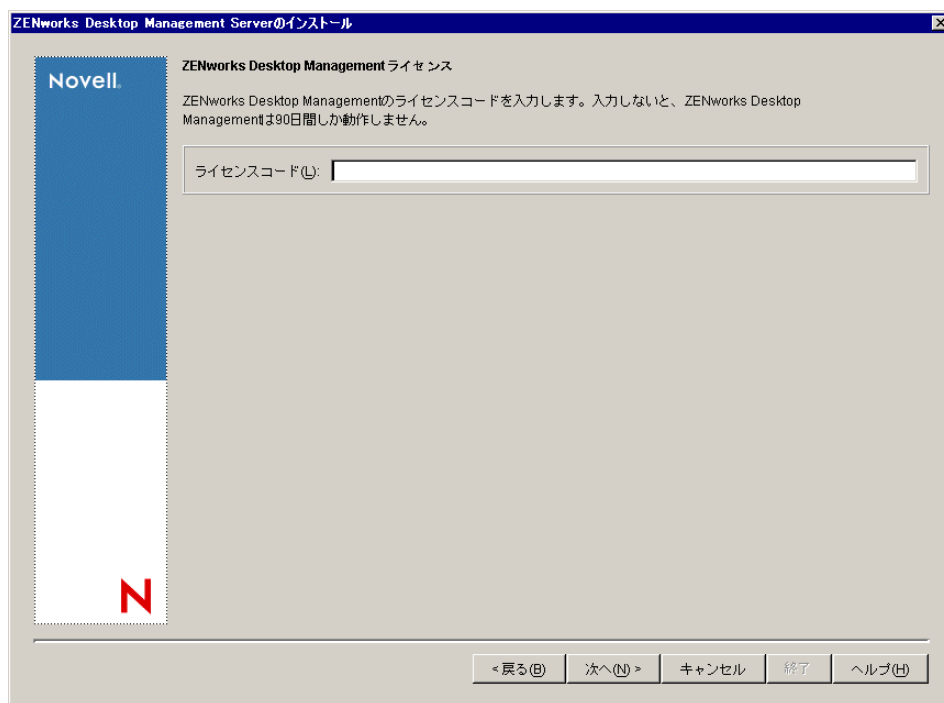
Desktop Management Server ソフトウェアを複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。



- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。



このページでライセンスコードを指定しない場合、ZENworks Desktop Management のこのインストールは評価版とみなされます。評価用にインストールした場合は、製品のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されます。90日経つと、評価版は機能しなくなります。

- 11 [サーバ選択] ページで [サーバの追加] をクリックし、SRV-02 サーバを参照します。

サーバは ZENTREE ツリーからのみ選択できます。1度に最大7つのサーバにインストールできます。

- 11a (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとにサーバを一覧表示できます。サーバにインストールするには、eDirectory のツリーを選択し、SRV-02 サーバの名前を参照してクリックします。次に、右向き矢印ボタンをクリックして選択したサーバを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。

認証されていない Windows サーバを追加する場合は、サーバのアイコンをダブルクリックしてダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Windows 認証に必要なアカウント情報を入力します。

- 11b (オプション) [サーバの追加] ダイアログボックスでは、[ホスト名/IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドにサーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。指定した値は、サーバの名前に解決できる必要があります。

[ ] をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。

- 12 この [サーバ選択] ページで、事前に選択した Desktop Management コンポーネント用にインストールするサービスを指定します。[次へ] をクリックし、設定を保存します。

リストに含まれている設定は、次のとおりです。

[ローカルワークステーション] : ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルをローカルハードドライブにインストールすることができますが (パフォーマンスが若干向上します)、この方法ではデスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

[ローカルワークステーション] オプションの [Desktop Management Service Snap-ins (デスクトップ管理サービススナップイン)] を選択することで、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールするオプションを利用できます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス] : デスクトップ管理サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。デスクトップ管理サービスを使用すると、Windows のアプリケーション、ユーザとワークステーションの設定、プロセス、および動作を自動的に管理できます。

- [アプリケーション管理] : アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [ワークステーション管理共通コンポーネント] : ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [リモート管理] : 中央コンソールからのワークステーションのリモート管理を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このコンポーネントを選択します。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のリモート管理コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

[追加オプション] : デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- [デスクトップ管理データベース] : 発生したアプリケーションのイベント (インストール、起動、キャッシュなど) に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [インベントリデータベース] : インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要** : Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の“インベントリデータベースのセットアップ”の手順に従ってください。

---

- ◆ [インベントリサーバ] : 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードする必要があります。

- ◆ [インベントリプロキシサーバ] : このオプションを選択すると、ネットワークファイアウォールを経由してインベントリスキャンデータをインベントリサーバにロールアップするためのプロキシサーバがインストールされます。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ [イメージングサーバ] : ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要:** イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

---

- ◆ [PXE サーバ] : Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

起動前サービス (Preboot Services) をインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

---

**重要:** イメージングサーバと PXE サーバサービスは同じサーバにインストールして、PXE サーバサービスを個別にインストールすることは避けてください。

---

- ◆ [ワークステーションのインポート / 削除サーバ] : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ [デスクトップ管理サービススナップイン] : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、ConsoleOne に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

カスタム選択を実行するには、1 つまたは複数のサーバを選択して右クリックし、ポップアップメニューを表示します。このポップアップメニューに表示されるオプションを使用して、選択したすべてのサーバにデータベースサービス、インベントリサービス、またはイメージングサービスを追加することができます。[デフォルト] オプションを使用すると、選択内容が最初の設定に戻ります。[カスタム選択] では、選択したすべてのサーバの特定のコンポーネントを選択できる別のダイアログボックスが表示されます。ここでの選択は、すでに選択している内容よりも優先されます。

- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1 つまたは複数のサーバが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択内容を保存しま

す。インストールプログラムでは、サーバのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバおよびインストールするワークステーション上の Novell Client (4.9 SP1a) の有無とバージョン、および ConsoleOne (1.3.6) の有無とバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合は、警告メッセージが表示され、インストールは続行されません。警告メッセージが表示されると、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるか、チェックボックスの選択を解除するまでインストールを続行することはできません。

- 14** (ワークステーションインベントリまたはリモート管理が選択されている場合はオプション) [ファイルのインストール先] ページで、[選択されたサーバ] リストから 1 つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするボリュームまたはドライブを参照するか入力します。デフォルトは C: です。Windows サーバでは D: を指定します。

ZENworks 7 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されません。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。

- 15** (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation(データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。左のペインで以前に指定したサーバを選択し、[データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするボリュームまたはドライブの名前を参照するか入力します。[次へ] をクリックします。

データベースサーバごとに別のドライブを指定できます。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは 1 つだけです。

- 16** (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。インストールプログラムを使って、自動的にサーバパッケージを作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで設定を行います。

[スタンドアロンの設定] を選択し、共通のデータベースの場所の検索ポリシーを選択します。このポリシーを含むサーバパッケージを作成および設定するツリーコンテナの名前を入力するか参照し、[次へ] をクリックします。

- 17** (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ 1 つまたは複数のサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。

すべてのサーバを選択して共通のポート番号を設定するか、サーバを個別に選択してサーバごとに異なるポート番号を定義することができます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

- 18** [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

[戻る] をクリックすると、必要に応じて何度でも変更を加えることができます。

[キャンセル] をクリックすると、インストール情報は保存されません。

インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmserver_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmserver_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmserver_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

- 19 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ]、[一般] の順にクリックし、[クリアテキストパスワードを許可] を選択します。

ConsoleOne 1.3.6e を使用している場合、ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバの [LDAP Group Object (LDAP グループオブジェクト)] で、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server のインストール後にこのパラメータを設定する場合は、設定の変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ずリブートしてください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

ZENworks Middle Tier Server をすでにインストールしている場合は、Desktop Management Server で行われた LDAP のクリアテキストパスワードへの変更を認識させるために、ZENworks Middle Tier Server を再起動する必要があります。

## ZENworks Middle Tier Server のインストール

インターネットブラウザを通じて Desktop Management の機能を配布するには、ZENworks Middle Tier Server をインストールする必要があります。この展開シナリオでは、Microsoft IIS Web サーバがすでにインストールされている SRV-02 にソフトウェアをインストールします。Middle Tier Server のインストールプログラムでは、インストールしているワークステーションまたはサーバに Novell Client が必要となります。まず、Novell Client を SRV-03 サーバにインストールしてから、同じサーバに ZENworks 7 Middle Tier Server をインストールする必要があります。Novell Client (バージョン 4.90 SP1a 以降) は、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com\)](http://download.novell.com) からダウンロードできます。

Novell Client のインストール後、次の手順に従って Middle Tier Server をインストールします。


- 1 サーバのローカルワークステーション管理者として SRV-03 にログインします。
- 2 Novell ZENworks 7 Desktop Management CD を挿入します。

`winsetup.exe` プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で起動します。

ZENworks Desktop Management ISO ファイルをコピーしたディレクトリの場所からインストールを実行する場合は、`winsetup.exe` を実行する場所と同じ場所にすべてのファイルがコピーされていることを確認してください。

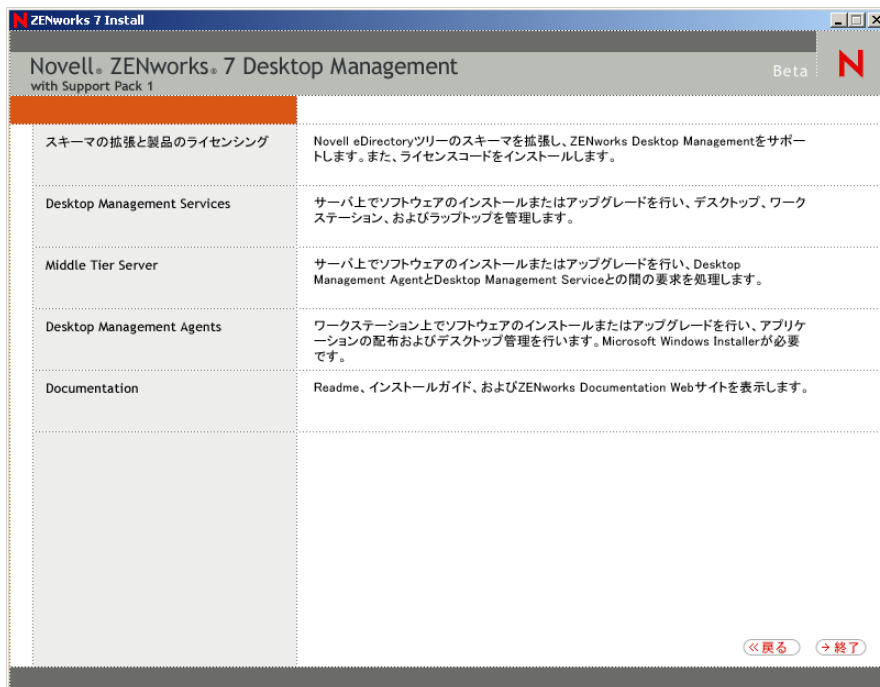
この場合、インストールが正常に実行できない可能性があることが通知されます。これは、インストール時に選択するオプションで CD の交換が必要となるためです。

**重要:** インストール中に、CD ドライブから *Novell ZENworks 7 Desktop Management* CD を取り出したり、インストール先のサーバとの接続が切れたりすると、インストールプログラムは停止して先に進みません。インストール処理を終了するには、Windows のタスクマネージャを開いて [プロセス] をクリックし、[javaw.exe] を選択して [プロセスの終了] をクリックします。

Novell® ZENworks® 7 with Support Pack 1		Beta 
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。	
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。	
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。	
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。	
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。	
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。	
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。	
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群	
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。	
		<a href="#">→ 終了</a>

- 3 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。

- 4 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



- 5 [Middle Tier Server] をクリックし、Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
(条件付き) 使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [Installation Requirements (インストール要件)] ページで、Middle Tier Server ソフトウェアのインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。

- 9 [eDirectory の場所およびアカウント情報] ページで、次のフィールドに入力します。

[DNS/IP アドレス] : eDirectory をインストールする SRV-02 サーバの DNS 名、または IP アドレスを指定します。

[ユーザ名 (完全 DN)] : Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を指定します (例 : admin.users.zen)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。

必要な権限については、[133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」](#)を参照してください。

[パスワード] : Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを指定します。

- 10 [ZENworks ユーザコンテキスト] ページ ([ユーザコンテキスト] フィールド) で、Middle Tier Server が Desktop Management で使用するユーザオブジェクトを検索できる eDirectory コンテキストを指定します。この例では、コンテキストは Users です。ユーザオブジェクトが常駐する最上位のコンテナのコンテキストを使用する必要があります。この値は ZENworks Middle Tier Server に渡されます。ZENworks Middle Tier Server では、ユーザ検索時の開始ポイントとしてこの値を使用します。

このインストールで指定する Middle Tier Server の場合、現在設定済みの認証ドメイン (NetStorage 用に設定された認証ドメインなど) は、ここで指定したコンテキストを持つ 1 つの認証ドメインに置き換えられます。

インストール後に、NSAdmin ユーティリティを使用して、この認証ドメインコンテキストを再設定できます。このユーティリティは、Web ブラウザで開くことができます (<http://srv-02/oneNet/nsadmin>)。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。

- 11 [ZENworks ファイルの場所] ページで、ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするためのネットワークの場所を選択します。



ZENworks Middle Tier Server では、ネットワーク上の他の場所にインストールされた ZENworks ファイルにアクセスする必要があります。ZENworks 管理者として、配布用のポリシーまたはアプリケーションの作成時に、これらのファイルの場所を定義します。このページで提供する情報は、Middle Tier Server が別のファイルシステムへのアクセス方法を決定する際に使用されます。ZENworks ファイルをまだ作成していない場合でも、インストール時にファイルシステムへのアクセス方法が確定している必要があります。

- ◆ ZENworks の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルを NetWare サーバにだけ配置する場合は、1 番目のオプションボタンを選択します。
- ◆ ZENworks で管理するアプリケーションおよびポリシーファイルの一部、またはすべてを Microsoft Windows サーバ上に配置する場合は、2 つ目のオプションボタンを選択します。

ZENworks ファイルを Windows ファイルシステムに配置する場合、Middle Tier Server は Novell eDirectory のユーザ名とパスワードを使用してこれらのファイルにアクセスすることができません。これらのファイルにアクセスするには、Windows ドメインのアカウント情報が必要です。

ドメインに属していないサーバ上にファイルを配置する場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。

#### [ドメインユーザ名]

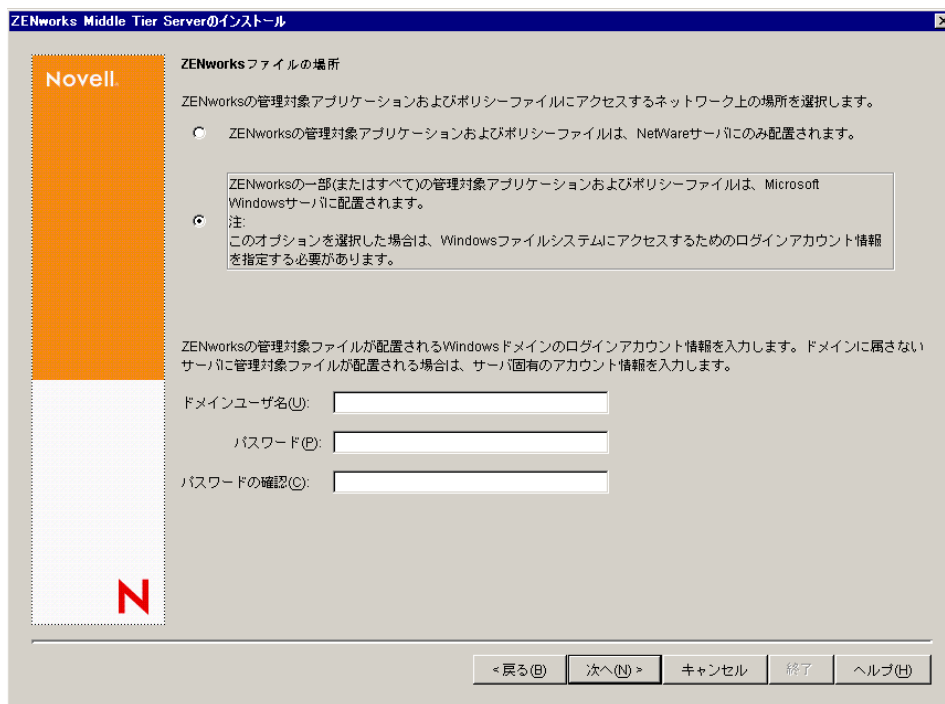
ZENworks ファイルの場所に対する Windows ファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内の任意のユーザのユーザ名を指定します。

#### [パスワード]

ZENworks ファイルに対するファイルシステム権限を持つ、Microsoft ドメイン内のユーザのパスワードを指定します。

## [パスワードの確認]

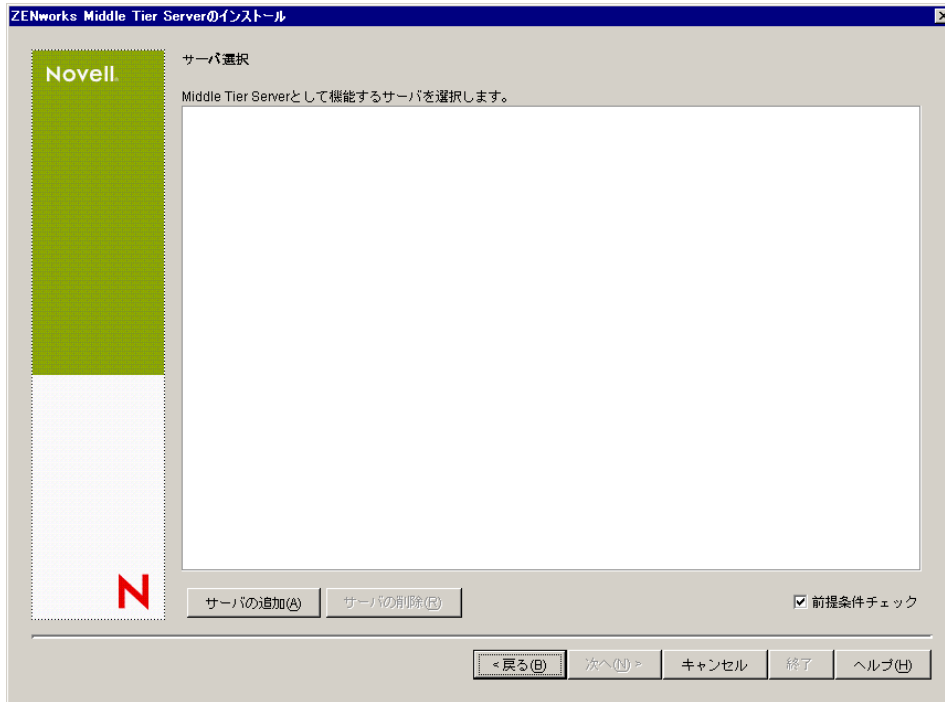
正しいパスワードが入力されたことを確認するために同じパスワードを指定します。



The screenshot shows the 'ZENworks Middle Tier Serverのインストール' (ZENworks Middle Tier Server Installation) wizard. The window title is 'ZENworks Middle Tier Serverのインストール'. On the left, there is a vertical bar with the Novell logo (orange) and a red 'N' logo (white). The main content area is titled 'ZENworks ファイルの場所' (ZENworks File Location). It contains the following text: 'ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルにアクセスするネットワーク上の場所を選択します。' (Select the network location to access ZENworks management application and policy files). There are two radio buttons: the first is 'ZENworksの管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、NetWareサーバにのみ配置されます。' (ZENworks management application and policy files are only installed on NetWare servers), and the second is 'ZENworksの一部(またはすべて)の管理対象アプリケーションおよびポリシーファイルは、Microsoft Windowsサーバに配置されます。' (Some or all ZENworks management application and policy files are installed on Microsoft Windows servers). A note below the second option states: '注: このオプションを選択した場合は、Windowsファイルシステムにアクセスするためのログインアカウント情報を指定する必要があります。' (Note: If you select this option, you must specify login account information for access to the Windows file system). Below this, there is a text box for 'ZENworksの管理対象ファイルが配置されるWindowsドメインのログインアカウント情報を入力します。ドメインに属さないサーバに管理対象ファイルが配置される場合は、サーバ固有のアカウント情報を入力します。' (Enter login account information for the Windows domain where ZENworks management files are installed. If management files are installed on a server not in the domain, enter server-specific account information). There are three input fields: 'ドメインユーザ名(U):' (Domain user name), 'パスワード(P):' (Password), and 'パスワードの確認(C):' (Confirm password). At the bottom, there are five buttons: '<戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), 'キャンセル' (Cancel), '終了' (Finish), and 'ヘルプ(H)' (Help).

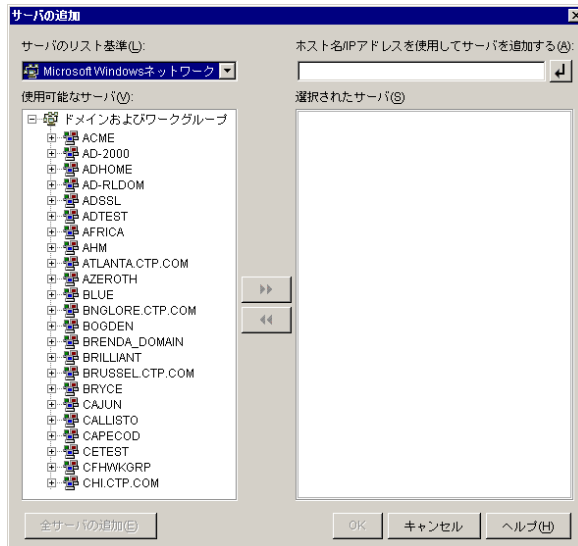
- 12** [サーバ選択] ページで、Middle Tier Server として機能するターゲットサーバのリストを作成する必要があります。[サーバの追加] ボタンを使用すると、サーバを検索してリストに追加するダイアログボックスが表示されます。[サーバの削除] ボタン

を使用すると、追加したサーバをターゲットリストから削除することができます。  
[サーバの追加] をクリックします。



- 13** (オプション) [前提条件チェック] はデフォルトで選択されています。インストールプログラムで、1つまたは複数のサーバが ZENworks Middle Tier Servers のインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。
- インストールプログラムは、以前にインストールされた Middle Tier Server ソフトウェアのバージョン、サーバのネットワークオペレーティングシステム (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、Windows サーバ上の IIS Web サーバの有無とバージョン、NetWare サーバ上の適切な Web サーバの有無とバージョン、およびターゲットサーバ上の NetStorage (2.6.0) の有無とバージョンをチェックします。
- サーバのオペレーティングシステムとサポート/サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件が満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。
- 14** [サーバの追加] ダイアログボックスで、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストを開き、Novell eDirectory のツリー、Microsoft Windows Network の構造、または Microsoft Active Directory のツリー内の場所に基づいてサーバを一覧表示するオプションを表示します。
- インストール中に、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアを複数のサーバにインストールできます。リストにサーバを追加した後で [OK] をクリックします。
- Desktop Management Server のインストールプログラムと Middle Tier Server のインストールプログラムは、両方とも、サーバをただ1つの eDirectory ツリーから選択するようになっています。これらのインストールプログラムのいずれかを Windows サーバから実行していて、そのサーバが選択したツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server をローカルにインストールすることはできません。

- 14a** (Microsoft Windows ネットワーク構造のサーバをリストに表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで [Microsoft Windows ネットワーク] を選択し、現在認証されているすべての Windows ワークグループと Microsoft ドメインを一覧表示します。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスに移動します。

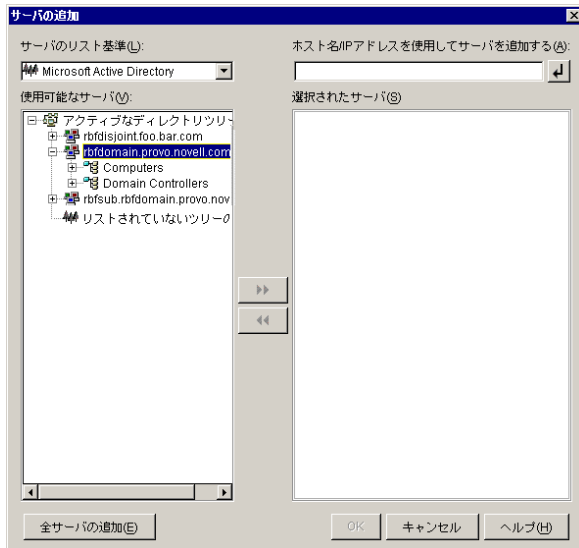


このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- [選択されたサーバ] リストにサーバを追加するには、サーバの管理ユーザである必要があります。サーバで認証されていない場合は、オブジェクトに疑問符のマークが表示されます。サーバが ZENworks 7 Desktop Management でサポートされているサーバプラットフォームの場合、疑問符のマークをダブルクリックしてサーバに対する認証を実行し、二重の右向き矢印をクリックしてサーバを [選択されたサーバ] リストに移動することができます。
- Windows サーバ上にある ZENworks ファイルは、NetWare にインストールされた Middle Tier Server から取得することができないため、Microsoft ドメイン内のサーバの一覧を表示するときに、NetWare サーバは一覧に表示されません。
- [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。  
 をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。  
Windows サーバの複数のサーバ名のエイリアスを使用する場合、最初のエイリアスは Windows サーバの物理名であることが必要です。
- サーバの認証用に指定したアカウント情報(ステップ 11 を参照)が管理アカウントではない場合、サーバをターゲットサーバとして追加することはできませんが、[サーバの追加] ダイアログボックスを閉じるときに管理アカウントの再入力を求められます。
- 選択したドメインまたはワークグループ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはワークグループを選択すると、そのドメインまたはワークグループ内の認証済みサーバのすべてが選択されます。

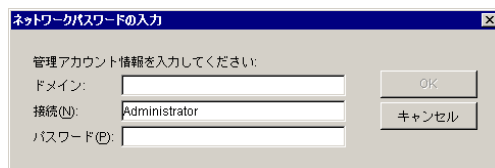
- ◆ [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] リストでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

**14b** (Microsoft Active Directory でサーバを一覧表示する場合) [サーバのリスト基準] ドロップダウンリストで、[Microsoft Active Directory] を選択します。ワークステーションが Active Directory のメンバーの場合、Active Directory のツリー内のドメインが表示されます。Active Directory に表示されるすべてのサーバを参照できます (ドメイン単位)。構造を参照してサーバを選択し、二重の右向き矢印をクリックして、[選択されたサーバ] リストボックスにサーバを移動します。



このダイアログボックスには、次のオプションも含まれています。

- ◆ [リストされていないツリーの参照] をクリックして、追加するドメイン名の指定が可能なダイアログボックスを開きます。そして、[サーバのリスト基準] ドロップダウンリストにサーバを表示する前に、適切なアカウントを使ってサーバへの認証を実行することができます。



- ◆ [ホスト名 /IP アドレスを使用してサーバを追加する] フィールドに、サーバのホスト名または IP アドレスを指定できます。入力する値は、指定した動作環境にあるサーバの名前に解決する必要があります。  
 をクリックして名前解決プロセスを開始し、サーバを [選択されたサーバ] リストに追加します。
- ◆ ドメインオブジェクトを右クリックし、次の 3 種類の検索方法のいずれかを選択します。  
 [検索基準の場所] : ドメインのルートにあるコンピュータとドメインコントローラを一覧表示します。これはデフォルトの検索方法です。

[ディレクトリ全体の検索] : コンピュータが配置されているすべてのディレクトリコンテナを一覧表示します。

[ディレクトリ階層の参照] : ディレクトリ内のすべてのコンテナを一覧表示します。コンテナを1つずつ展開して、目的のコンピュータを探すことができます。この検索方法は、コンピュータが標準以外の大きなディレクトリにある場合に役立ちます。

- 選択したドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバを追加するには、[全サーバの追加] をクリックします。ドメインまたはコンテナを選択すると、そのドメインまたはコンテナ内のすべてのサーバが選択されます。
- [選択されたサーバ] リストからサーバを削除し、[使用可能なサーバ] リストに戻すには、[選択されたサーバ] ボックスでサーバ名をクリックし、二重の左向き矢印をクリックします。<Shift> キーと <Ctrl> キーを使用すると、[選択されたサーバ] リストの複数のサーバを選択して削除できます。

- 15** [概要] ページで、ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアおよび関連付ける Desktop Management Server のインストール先として選択した場所を確認します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストール処理を開始します。

Middle Tier Server インストールウィザードは、別のインストールプログラムを起動します。このプログラムが完了するのを待ちます。

---

**重要 :** インストールの完了後にインストールログファイルを確認できます。ログファイルの名前は `datestamp_timestamp_zdmmidtier_install.log` になります (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_install.log`)。このファイルは、インストール元のコンピュータの `\novell\zfdtemp` ディレクトリに保存されます。各コンポーネントのインストールの成否を、このログファイルで確認できます。

選択した内容をインストール概要で確認することもできます。概要は、`datestamp_timestamp_zdmmidtier_installsummary.log` という名前のログファイルに保存されます (たとえば、`20040304_024034_zdmmidtier_installsummary.log`)。このファイルも `c:\novell\zfdtemp` にあります。

---

- 16** Desktop Management Server の eDirectory を対象とする ConsoleOne で、クリアテキストパスワードを許可するように Desktop Management Server を設定していることを確認します。
- 17** ZENworks Middle Tier Server ソフトウェアをインストールしたサーバを再起動します。
- 18** ワークステーションのブラウザで次の URL のいずれかを入力し、ZENworks Middle Tier Server がインストールされて、稼動していることを確認します。

`http://srv-02/oneNet/xtier-stats`

`http://srv-02/oneNet/zen`

ZENworks Middle Tier Server が稼動していれば、1 つ目の URL でサーバの統計値が表示された Web ページが開きます。ブラウザの [更新] ボタンをクリックすることにより、要求数が増加している場所が表示できます。

2 つ目の URL では、ユーザアカウント情報の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。

- 19** ネットワークブラウザで、「`http://srv-02/oneNet/nsadmin`」と入力して、Admin ユーザとして eDirectory にログインし、268 ページの「eDirectory のインストール」のステップ 14a で実行した変更内容に合致するよう、LDAP ポートを変更します。

eDirectory と Active Directory が同じネットワークサーバにインストールされた場合、eDirectory にログインできない場合があります。このケースに該当する場合、

ZENworks Middle Tier がインストールされているサーバのレジストリにアクセスして、HKLM\Software\Novell\Xtier\Configuration\Xsrv レジストリキーの LDAP Port DWord の値を、268 ページの「eDirectory のインストール」のステップ 14a で指定したポートに変更します。

## Sybase の ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ❑ ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。インベントリレポートの起動時に、コンピュータ上で ODBC ドライバが自動的に設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

1. Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD の \database drivers ディレクトリを開きます。
2. \database drivers ディレクトリに収録されている odbcreadme.txt ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle9i インベントリデータベースの場合、Oracle9i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- ❑ Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。[コントロールパネル] > [ODBC データソース] > [バージョン情報] タブペインの順にクリックして表示されるボックスで、MDAC のバージョンを確認します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを [Microsoft サイト \(http://microsoft.com/data/download.htm\)](http://microsoft.com/data/download.htm) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

## ユーザワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの展開

Windows サーバ環境で ZENworks Desktop Management with SP1 を実行している場合、デスクトップ管理エージェントをユーザワークステーションにインストールし、Desktop Management の機能を使用してワークステーションを管理する必要があります。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータは、Microsoft ドメインおよび Microsoft Active Directory を使用することによって、ZENworks デスクトップ管理エージェントの初期展開と今後のアップグレードを容易にします。エージェントディストリビュータでは、ターゲットワークステーションを選択してデスクトップ管理エージェントを展開するときに、Microsoft ドメインと Active Directory を使用します。

デスクトップ管理エージェントディストリビュータを使用して、Windows ネットワーク内のワークステーションにデスクトップ管理エージェントを展開する方法の詳細については、156 ページのセクション 12.5 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Microsoft ドメイン内でのワークステーションへのエージェントの展開」を参照してください。





# Linux への ZENworks デスクトップ 管理サービスのインストール

# IV

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management には、次の重要な要素を SUSE Linux Enterprise Server 9 Support Pack 1 または Novell Open Enterprise Server (OES Linux) 1.0 にインストールする機能があります。

- ◆ **Desktop Management Server:** Linux サーバが含まれるネットワーク上のユーザおよびワークステーションのポリシーとプロファイルを一元的に作成および管理できます。このポリシーおよびプロファイルにより、ネットワーク内の Windows ワークステーションへのアプリケーションの配布、管理、更新のほか、高度なインベントリ管理機能とリモート管理機能の実行、およびオペレーティングシステムの自動インストールが可能になります。
- ◆ **ZENworks Middle Tier Server:** Linux サーバ上にインストールされた Web Server ソフトウェアを使用して企業ファイアウォール内の Desktop Management Server と企業ファイアウォール外のワークステーション間の認証と通信をセットアップします。このような通信によりモバイルユーザが旅行中にデスクトップ管理サービスにアクセスできるようになります。Novell Client™ がないワークステーションの通信も可能です。

---

注：SLES 9 インストールで利用可能な 4 つの設定済みソフトウェア「セット」（つまり、最小システム、最小グラフィカルシステム、フル、デフォルトシステムインストール）のうち、SLES 9 のデフォルトシステムインストールだけが、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしています。SLES 9 インストールの他のモードでは、その後の ZENworks 7 Desktop Management インストールでエラーが生じます。

---

ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux のインストールプログラムでは、「インストールセット」と呼ばれるさまざまな組み合わせで構成されているこれらの 2 つの要素のいずれかを選択できます。次の節では、これらのインストールセットの構成が考慮されています。

- ◆ 319 ページの § 章 19 「Linux サーバへのすべての ZENworks 機能のインストール」
- ◆ 327 ページの § 章 20 「Linux サーバへの Desktop Management Server のみのインストール」
- ◆ 333 ページの § 章 21 「Linux サーバへの ZENworks Middle Tier Server のみのインストール」
- ◆ 339 ページの § 章 22 「Linux サーバでの ZENworks Desktop Management インストールのカスタマイズ」
- ◆ 347 ページの § 章 23 「サイレントインストール」
- ◆ 353 ページの § 章 24 「RPM のインストールと設定値の変更」
- ◆ 357 ページの § 章 25 「Linux Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定」
- ◆ 363 ページの § 章 26 「インストール後の処理」

ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 Services on Linux のインストールの詳細については、Novell Cluster Services 環境へのインストールに進み、595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」を参照してください。



# Linux サーバへのすべての ZENworks 機能のインストール

# 19

この節では、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 または Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバに Novell® ZENworks® Desktop Management のすべての機能をインストールする手順について説明します。

テスト済みのサーバプラットフォームの組み合わせ (Middle Tier Server と ZENworks Management Server) については、23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」を参照してください。Linux のインストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、39 ページの § 章 4 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」および 63 ページの § 章 6 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照してください。

SLES 9 または OES Linux サーバに ZENworks 7 Desktop Management のすべての機能をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、`su` コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 `mount /CD_mount_point` を実行して、ZENworks 7 Desktop Management Installation CD または CD レコーダをマウントします。
- 3 CD マウントディレクトリに移動し、`./setup` を実行してインストールプログラムの最初の画面を表示します。

```
=====  
Introduction  
-----
```

```
InstallAnywhere will guide you through the installation of ZENworks  
Desktop Management.
```

```
It is strongly recommended that you quit all programs before  
continuing with this installation.
```

```
Respond to each prompt to proceed to the next step in the  
installation.If you want to change something on a previous step,  
type 'back'.
```

```
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 4 概要を読み、<Enter> キーを押して [Prerequisites (インストールの前に)] 画面を表示します。
- 5 前提条件を読みます。<Enter> キーを押すと次の画面に進みます。前提条件の最後に、<Enter> キーを押して [License Agreement (ライセンス契約書)] 画面を表示します。

- 6 ライセンス契約の条項を読みます。<Enter> キーを押すと次の画面に進みます。ライセンス契約書の最後に、ライセンス契約の条項に同意する場合は「Y」と入力します。

---

ヒント：前の画面に戻るには、インストールプログラムの任意の画面で「back」と入力します。

インストールプログラムをキャンセルするには、任意の画面で「quit」と入力します。

---

インストールの最初の画面が表示されます。

```
=====
Choose Install Set
-----
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- All Features
2- ZENworks Desktop Management Server
3- ZENworks Middle Tier Server

4- Customize...ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS
<ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 7 「1」を入力するか<Enter> キーを押して、デフォルトを受け入れます。

```
=====
Tree information
-----
Please enter authentication information for the tree where you want
to configure ZENworks.

Tree (zentree):
```

- 8 [Tree Information (ツリー情報)] 画面で、ZENworks を設定するローカルホスト (このサーバ) のツリーの名前を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 9 管理ユーザの eDirectory の識別名 (DN) を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 10 管理ユーザのパスワードを入力します。このフィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

---

ヒント：プロンプトが表示されたときに (Enter) キーを押すと、インストールプログラムはデフォルト (括弧内に表示されている値) を受け入れます。

---

アカウント情報の検証後に、[ZENworks License Key (ZENworks ライセンスキー)] 画面が表示されます。

```
=====
ZENworks License Key Information
-----
```

Please enter a valid ZENworks license code.(90 Day Trial):

- 11** Novell ZENworks を購入後に Novell から送信された電子メールに記載されているライセンスコードを入力します。このライセンスコードを入力するまで、製品のライセンスを取得するように促すメッセージが定期的に表示されます。適切なコードを入力しない場合、ZENworks Desktop Management は 90 日間を過ぎると機能しなくなります。
- [Middle Tier Server Configuration Information (Middle Tier Server 設定情報)] 画面が表示されます。

```
=====
Middle Tier Server Configuration Information
-----
```

The Middle Tier Server you configure with this program will access an eDirectory server in order to authenticate users and workstations and to obtain ZENworks configuration and policy information.

Please provide the name or IP address and administrative credentials for an eDirectory server.

Server Name/IP Address (zenmidt):

- 12** eDirectory がインストールされているサーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

Enter Administrative Credentials:

Proxy User (admin.myCompany):

- 13** Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を入力します (例: admin.mycompany)。

これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。詳細については、[133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」](#)を参照してください。

Password():

- 14** Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを入力します。

The ZENworks Middle Tier software searches for ZENworks user objects in a specified eDirectory context and below.

Please Specify the ZENworks user context.  
NOTE:This context must already exist.

Users Context (users.novell):

- 15** Desktop Management を使用するユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを入力します。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。

[インベントリのスタンドアロンの設定] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Standalone Configuration
-----
```

Do you want to configure as a Standalone?(Y/N) (Y):

- 16** (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] 画面が表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[Inventory Standalone Configuration (インベントリのスタンドアロンの設定)] 画面で設定を行います。

「Y」と入力して、インベントリのスタンドアロンの設定を選択します。

Inventory Server Context (novell):

- 17** スタンドアロンインベントリサーバのコンテキストを入力します。  
[Inventory Proxy Configuration (インベントリプロキシの設定)] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Proxy Configuration
-----
```

XML Proxy port (65000):

- 18** XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートとして指定するポート番号を入力します。

デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

[SSL Configuration (SSL の設定)] 画面が表示されます。

```
=====
SSL Configuration
-----
Do you want to configure SSL?(Y):
```

- 19** (オプション) LDAP を使用して ZENworks 7 インベントリサーバと eDirectory との安全な接続を確立する場合は、「Y」と入力してから、SSL 証明書の完全なパスとファイル名を入力します。

[NetBIOS Configuration (NetBIOS の設定)] 画面が表示されます。

```
=====
NetBIOS Configuration
-----
NetBIOS Name (NetBIOS_name):
```

- 20** (条件付き)。[NetBIOS Configuration (NetBIOS の設定)] 画面は、NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、ZENworks インストールプログラムを実行する Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合にのみ表示されます。

NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合、インストールプログラムを実行する Linux サーバ名の最初の 13 文字を使用して NetBIOS 名が生成されます。この名前は、ZENworks Linux 版のインストール中にデフォルト値として表示されます。

```
=====
NetBIOS Configuration
-----
NetBIOS Name
(NetBIOS_name_generated_by_the_ZENworks_installation_program):
```

このデフォルト値をそのまま使用するか、新しい値を入力することができます。ただし、NetBIOS 名は一意にする必要があります。

- 21** [Pre-Installation Summary (インストール前の概要)] 画面が表示されます。

```
Pre-Installation Summary
-----
We are ready to install ZENworks to your server.Press <Enter> to
continue, type "back" to change your choices or "quit" to exit this
install.

Product Name:
ZENworks Desktop Management
```

```
Product Components:
Inventory Server,
Remote Management,
Application Management,
Inventory Proxy,
Inventory Database,
NAL Database,
Autoworkstation Import/Removal,
PXE,
Imaging,
Middle Tier,
ZENworks Desktop Agent Installer
```

```
ZENworks License Key:
90 Day Trial
```

```
[XXX]Schema Extensions:
Schema extensions will be applied.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

**22** (Enter) キーを押してインストールを開始します。

インストール処理が完了すると、InstallAnywhere によりインストールログファイルが作成されます。ログファイルの作成を中止するには、<Ctrl>+<C> を押します。

インストールが正常に完了すると、[View Readme (Readme 表示)] 画面が表示されま

```
=====
View Readme
-----
```

```
Do you want to view the readme file?
```

```
->1- YES
2- NO
```

```
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
DEFAULT:
```

```
:
```

**23** (オプション) 「1」を入力すると、readme ファイルが表示されます。このファイルを読みます。<Enter> キーを押すと次の画面に進みます。readme ファイルの最後に、<Enter> キーを押して [Installation Complete (インストールの完了)] 画面を表示します。

**24** (オプション) 「2」を入力すると、[Installation Complete (インストールの完了)] 画面が表示されます。

```
=====
```



Installation Complete  
-----

Congratulations.ZENworks Desktop Management has been successfully installed to:

/opt/novell/zenworks/

All installed ZENworks services have been started.

Please see the log file (/var/log/  
ZENworks\_Desktop\_Management\_InstallLog.log)  
for more details.

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

[Installation Complete (インストールの完了)] のメッセージでは、インストールされた ZENworks のすべてのサービスが開始したと述べられますが、**proxydhcp** サービスは、インストールの完了後、または再起動後にも開始しません。このサービスを開始するには、`/etc/init.d/novell-proxydhcp start` を実行します。再起動後にサービスを開始させたい場合には、ランレベルエディタを使用して、デーモンを必要なランレベルに追加することができます。

**25** (Enter) キーを押してインストールプログラムを終了します。

---

**重要 :** Desktop Management Server のインストールが完了したら、Windows、NetWare®、および Linux サーバに必要なインストール後の作業を完了していることを確認します。詳細については、[365 ページのパート V 「インストール後」](#) を参照してください。

---



# Linux サーバへの Desktop Management Server のみのインストール

この節では、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 または Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバに Novell® ZENworks® Desktop Management Server をインストールする手順について説明します。

テスト済みのサーバプラットフォームの組み合わせ (Middle Tier Server と ZENworks Management Server) については、23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」を参照してください。Linux のインストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、39 ページの § 章 4 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」および 63 ページの § 章 6 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照してください。

Linux サーバに ZENworks 7 Desktop Management Server のみをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、su コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 mount /CD\_mount\_point を実行して、ZENworks 7 Desktop Management Installation CD をマウントします。
- 3 CD マウントディレクトリに移動し、./setup を実行してインストールプログラムの最初の画面を表示します。

```
=====
Introduction
-----
```

```
InstallAnywhere will guide you through the installation of ZENworks
Desktop Management.
```

```
It is strongly recommended that you quit all programs before
continuing with this installation.
```

```
Respond to each prompt to proceed to the next step in the
installation.If you want to change something on a previous step,
type 'back'.
```

```
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 4 ライセンス契約の条項を読みます。 <Enter> キーを押して次の画面に進み、その内容を読んでください。ライセンス契約の最後で、「Y」と入力して条項に同意します。

---

ヒント: 前の画面に戻るには、インストールプログラムの任意の画面で「back」と入力します。

インストールプログラムをキャンセルするには、任意の画面で「quit」と入力します。

---

インストールの最初の画面が表示されます。

```
=====
Choose Install Set
-----
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- All Features
2- ZENworks Desktop Management Server
3- ZENworks Middle Tier Server

4- Customize...ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS
<ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 5 「2」を入力するか <Enter> キーを押して、デフォルトを受け入れます。

```
=====
Tree information
-----
Please enter authentication information for the tree where you want
to configure ZENworks.

Tree (zentree):
```

- 6 [Tree Information (ツリー情報)] 画面で、ZENworks を設定するローカルホスト (このサーバ) のツリーの名前を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 7 管理ユーザの eDirectory の識別名 (DN) を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 8 管理ユーザのパスワードを入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。

アカウント情報の検証後に、[ZENworks License Key (ZENworks ライセンスキー)] 画面が表示されます。

```
=====
ZENworks License Key Information
-----
Please enter a valid ZENworks license code.(90 Day Trial):
```

- 9 Novell ZENworks を購入後に Novell から送信された電子メールに記載されているライセンスコードを入力します。このライセンスコードを入力するまで、製品のライセンスを取得するように促すメッセージが定期的に表示されます。適切なコードを入力しない場合、ZENworks Desktop Management は 90 日間を過ぎると機能しなくなります。  
[インベントリのスタンドアロンの設定] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Standalone Configuration
-----
```

Do you want to configure as a Standalone?(Y/N) (Y):

- 10 (オプション) 同じサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] 画面が表示されます。インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] 画面で設定を行います。  
「Y」と入力して、インベントリのスタンドアロンの設定を選択します。

Inventory Server Context (novell):

- 11 スタンドアロンインベントリサーバのコンテキストを入力します。  
[Inventory Proxy Configuration (インベントリプロキシの設定)] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Proxy Configuration
-----
```

XML Proxy port (65000):

- 12 XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートとして指定するポート番号を入力します。  
デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。  
[SSL Configuration (SSL の設定)] 画面が表示されます。

```
=====
SSL Configuration
-----
```

Do you want to configure SSL?(Y):

- 13** (オプション) LDAP を使用して ZENworks 7 インベントリサーバと eDirectory との安全な接続を確立する場合は、「Y」と入力してから、SSL 証明書の完全なパスとファイル名を入力します。

[NetBIOS Configuration (NetBIOS の設定)] 画面が表示されます。

```
=====  
NetBIOS Configuration  
-----  
NetBIOS Name (NetBIOS_name):
```

- 14** (条件付き)。[NetBIOS Configuration (NetBIOS 設定)] 画面は、NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、ZENworks インストールプログラムを実行する Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合にのみ表示されます。

NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合、インストールプログラムを実行する Linux サーバ名の最初の 13 文字を使用して NetBIOS 名が生成されます。この名前は、ZENworks Linux 版のインストール中にデフォルト値として表示されます。

```
=====  
NetBIOS Configuration  
-----  
NetBIOS Name  
(NetBIOS_name_generated_by_the_ZENworks_installation_program):
```

このデフォルト値をそのまま使用するか、新しい値を入力することができます。ただし、NetBIOS 名は一意にする必要があります。

- 15** [Pre-Installation Summary (インストール前の概要)] 画面が表示されます。

```
Pre-Installation Summary  
-----  
We are ready to install ZENworks to your server.Press <Enter> to  
continue,  
type "back" to change your choices or "quit" to exit this install.  
  
Product Name:  
ZENworks Desktop Management  
  
Product Components:  
Inventory Server,  
Remote Management,  
Application Management,  
Inventory Proxy,  
Inventory Database,
```

```
NAL Database,  
Autoworkstation Import/Removal,  
PXE,  
Imaging,  
ZENworks Desktop Agent Installer
```

```
ZENworks License Key:  
90 Day Trial
```

```
Schema Extensions:  
Schema extensions will be applied.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

**16** (Enter) キーを押してインストールを開始します。

インストール処理が完了すると、InstallAnywhere によりインストールログファイルが作成されます。ログファイルの作成を中止するには、<Ctrl>+<C> を押します。インストールが正常に完了すると、[View Readme (Readme 表示)] 画面が表示されます。

```
=====  
View Readme  
-----
```

```
Do you want to view the readme file?
```

```
->1- YES  
2- NO
```

```
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE  
DEFAULT:
```

```
:
```

**17** (オプション) 「1」を入力すると、readme ファイルが表示されます。このファイルを読みます。(Enter) キーを押すと次の画面に進みます。readme ファイルの最後に、<Enter> キーを押して [Installation Complete (インストールの完了)] 画面を表示します。

**18** (オプション) 「2」を入力すると、[Installation Complete (インストールの完了)] 画面が表示されます。

```
=====  
Installation Complete  
-----
```

```
Congratulations.ZENworks Desktop Management has been successfully  
installed  
to:
```

```
/opt/novell/zenworks/
```

All installed ZENworks services have been started.

Please see the log file (/var/log/  
ZENworks\_Desktop\_Management\_InstallLog.log)  
for more details.

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

[Installation Complete (インストールの完了)] のメッセージでは、インストールされた ZENworks のすべてのサービスが開始したと述べられますが、**proxydhcp** サービスは、インストールの完了後、または再起動後にも開始しません。このサービスを開始するには、`/etc/init.d/novell-proxydhcp start` を実行します。再起動後にサービスを開始させたい場合には、ランレベルエディタを使用して、デーモンを必要なランレベルに追加することができます。

**19** (Enter) キーを押してインストールプログラムを終了します。

---

**重要 :** Desktop Management Server のインストールが完了したら、Windows、NetWare®、および Linux サーバに必要なインストール後の作業を完了していることを確認します。詳細については、[365 ページのパート V 「インストール後」](#) を参照してください。

---



# Linux サーバへの ZENworks Middle Tier Server のみのインストール

# 21

この節では、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 または Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバに Novell® ZENworks® Middle Tier Server をインストールする手順について説明します。

テスト済みのサーバプラットフォームの組み合わせ (Middle Tier Server と ZENworks Management Server) については、23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」を参照してください。Linux のインストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、39 ページの § 章 4 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」および 63 ページの § 章 6 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照してください。

Linux サーバに ZENworks 7 Middle Tier Server のみをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、su コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 mount /CD\_mount\_point を実行して、ZENworks 7 Desktop Management Installation CD をマウントします。
- 3 CD マウントディレクトリに移動し、./setup を実行してインストールプログラムの最初の画面を表示します。

```
=====  
Introduction  
-----  
InstallAnywhere will guide you through the installation of ZENworks  
Desktop Management.  
  
It is strongly recommended that you quit all programs before  
continuing with this installation.  
  
Respond to each prompt to proceed to the next step in the  
installation.If you want to change something on a previous step,  
type 'back'.  
  
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 4 ライセンス契約の条項を読みます。 <Enter> キーを押して次の画面に進み、その内容を読んでください。ライセンス契約の最後で、「Y」と入力して条項に同意します。

---

ヒント：前の画面に戻るには、インストールプログラムの任意の画面で「back」と入力します。

インストールプログラムをキャンセルするには、任意の画面で「quit」と入力します。

インストールの最初の画面が表示されます。

```
=====
Choose Install Set
-----
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- All Features
2- ZENworks Desktop Management Server
3- ZENworks Middle Tier Server

4- Customize...ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS
<ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 5 「3」を入力するか<Enter>キーを押して、デフォルトを受け入れます。

```
=====
Tree information
-----
Please enter authentication information for the tree where you want
to configure ZENworks.

Tree (zentree):
```

- 6 [Tree Information (ツリー情報)] 画面で、ZENworks を設定するローカルホスト (このサーバ) のツリーの名前を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 7 管理ユーザの eDirectory の識別名 (DN) を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 8 管理ユーザのパスワードを入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- アカウント情報の検証後に、[ZENworks License Key (ZENworks ライセンスキー)] 画面が表示されます。

```
=====
ZENworks License Key Information
-----
Please enter a valid ZENworks license code.(90 Day Trial):
```

- 9 Novell ZENworks を購入後に Novell から送信された電子メールに記載されているライセンスコードを入力します。このライセンスコードを入力するまで、製品のライセン

スを取得するように促すメッセージが定期的に表示されます。適切なコードを入力しない場合、ZENworks Desktop Management は 90 日間を過ぎると機能しなくなります。  
[Middle Tier Server Configuration Information (Middle Tier Server 設定情報)] 画面が表示されます。

```
=====
Middle Tier Server Configuration Information
-----
```

```
The Middle Tier Server you configure with this program will access
an eDirectory server in order to authenticate users and
workstations and to obtain ZENworks configuration and policy
information.
```

```
Please provide the name or IP address and administrative
credentials for an eDirectory server.
```

```
Server Name/IP Address (zenmidt):
```

- 10 eDirectory がインストールされているサーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

```
Enter Administrative Credentials:
Proxy User (admin.myCompany):
```

- 11 Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾識別ユーザ名を入力します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。詳細については、133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」を参照してください。

```
Password():
```

- 12 Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを入力します。

```
The ZENworks Middle Tier software searches for ZENworks user
objects in a specified eDirectory context and below.
```

```
Please Specify the ZENworks user context.
NOTE:This context must already exist.
```

```
Users Context (users.novell):
```

- 13 Desktop Management を使用するユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを入力します。

インストールプログラムによってコンテキスト ( コンテナ ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。

- 14** [Pre-Installation Summary ( インストール前の概要 )] 画面が表示されます。

```
Pre-Installation Summary
```

```
-----
```

```
We are ready to install ZENworks to your server.Press <Enter> to
continue, type "back" to change your choices or "quit" to exit this
install.
```

```
Product Name:
ZENworks Desktop Management
```

```
Product Components:
Middle Tier,
```

```
ZENworks License Key:
90 Day Trial
```

```
Schema Extensions:
Schema extensions will be applied.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 15** (Enter) キーを押してインストールを開始します。

インストール処理が完了すると、InstallAnywhere によりインストールログファイルが作成されます。ログファイルの作成を中止するには、<Ctrl>+<C> を押します。

インストールが正常に完了すると、[View Readme (Readme 表示)] 画面が表示されま

```
=====
```

```
View Readme
```

```
-----
```

```
Do you want to view the readme file?
```

```
->1- YES
```

```
2- NO
```

```
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
DEFAULT:
```

```
:
```

- 16** (オプション) 「1」を入力すると、readme ファイルが表示されます。このファイルを読みます。(Enter) キーを押すと次の画面に進みます。readme ファイルの最後に、<Enter> キーを押して [Installation Complete ( インストールの完了 )] 画面を表示します。

- 17 (オプション)「2」を入力すると、[Installation Complete (インストールの完了)] 画面が表示されます。

```
=====
=====
Installation Complete
-----

Congratulations.ZENworks Desktop Management has been successfully
installed to:

/opt/novell/zenworks/

All installed ZENworks services have been started.

Please see the log file (/var/log/
ZENworks_Desktop_Management_InstallLog.log)
for more details.

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:
```

[Installation Complete (インストールの完了)] のメッセージでは、インストールされた ZENworks のすべてのサービスが開始したと述べられますが、**proxydhcp** サービスは、インストールの完了後、または再起動後にも開始しません。このサービスを開始するには、`/etc/init.d/novell-proxydhcp start` を実行します。再起動後にサービスを開始させたい場合には、ランレベルエディタを使用して、デーモンを必要なランレベルに追加することができます。

- 18 (Enter) キーを押してインストールプログラムを終了します。



# Linux サーバでの ZENworks Desktop Management インストー ルのカスタマイズ

この節では、SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 または Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバ上のすべての Novell® ZENworks® Desktop Management 機能のインストールをカスタマイズする手順について説明します。

テスト済みのサーバプラットフォームの組み合わせ (Middle Tier Server と ZENworks Management Server) については、23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」を参照してください。Linux のインストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件については、39 ページの § 章 4 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」および 63 ページの § 章 6 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」を参照してください。

Linux サーバに ZENworks 7 Desktop Management の必要な機能のみをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、su コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 mount /CD\_mount\_point を実行して、ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux CD をマウントします。
- 3 CD マウントディレクトリに移動し、./setup を実行してインストールプログラムの最初の画面を表示します。

```
=====
Introduction
-----
```

```
InstallAnywhere will guide you through the installation of ZENworks
Desktop Management.
```

```
It is strongly recommended that you quit all programs before
continuing with this installation.
```

```
Respond to each prompt to proceed to the next step in the
installation.If you want to change something on a previous step,
type 'back'.
```

```
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 4 ライセンス契約の条項を読みます。 <Enter> キーを押して次の画面に進み、その内容を読んでください。ライセンス契約の最後で、「Y」と入力して条項に同意します。

---

ヒント: 前の画面に戻るには、インストールプログラムの任意の画面で「back」と入力します。

インストールプログラムをキャンセルするには、任意の画面で「quit」と入力します。

---

インストールの最初の画面が表示されます。

```
=====
Choose Install Set
-----
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- All Features
2- ZENworks Desktop Management Server
3- ZENworks Middle Tier Server

4- Customize...ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS
<ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 5** 「4」と入力して、[Customize (カスタマイズ)] オプションを選択します。  
[Choose Product Features (製品の機能の選択)] 画面が表示されます。

```
=====
Choose Product Features
-----

ENTER A COMMA_SEPARATED LIST OF NUMBERS REPRESENTING THE FEATURES
YOU WOULD
LIKE TO SELECT, OR DESELECT.TO VIEW A FEATURE'S DESCRIPTION, ENTER
'?<NUMBER>'.PRESS <RETURN> WHEN YOU ARE DONE:

1- [X] Application Management
2- [X] Remote Management
3- [X] Middle Tier
4- [X] Inventory Server
5- [X] Inventory Proxy
6- [X] Inventory Database
7- [X] NAL Database
8- [X] Imaging
9- [X] PXE
10- [X] Autoworkstation Import/Removal
11- [X] ZENworks Desktop Agent Installer

Please choose the Features to be installed by this installer.
:
```

- 6** Linux サーバにインストールするために選択または選択解除する機能の番号を入力します。機能名の横にある [X] は、この機能がインストールされることを示しています。デフォルトではすべての機能が選択されています。



複数の機能を選択または選択解除する場合は、カンマを使って番号を区切ります。  
機能の説明を表示するには、番号の後に疑問符 (?) を入力して (Enter) キーを押します。

- 7** 必要な機能を選択してインストールの準備ができたなら、(Enter) キーを押します。

ZENworks 機能の多くでは、インストールするために選択すると、他に何も設定する必要はありません。これらの機能についてその他の情報を入力するように要求されることはありません。

しかし、どの機能を選択した場合でも、必ず ZENworks Desktop Management Server に関する設定情報を入力するように要求されます。最初に、Desktop Management Server の設定に必要な [Tree Information ( ツリー情報 )] 画面が表示されます。

```
=====  
Tree information  
-----  
Please enter authentication information for the tree where you want  
to configure ZENworks.  
  
Tree (zentree):
```

- 8** [Tree Information ( ツリー情報 )] 画面で、ZENworks を設定するローカルホスト ( このサーバ ) のツリーの名前を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 9** 管理ユーザの eDirectory の識別名 (DN) を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 10** 管理ユーザのパスワードを入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。

アカウント情報の検証後に、[ZENworks License Key (ZENworks ライセンスキー)] 画面が表示されます。

```
=====  
ZENworks License Key Information  
-----  
Please enter a valid ZENworks license code.(90 Day Trial):
```

- 11** Novell ZENworks を購入後に Novell から送信された電子メールに記載されているライセンスコードを入力します。このライセンスコードを入力するまで、製品のライセンスを取得するように促すメッセージが定期的に表示されます。適切なコードを入力しない場合、ZENworks Desktop Management は 90 日間を過ぎると機能しなくなります。  
(条件付き) Middle Tier のインストールを選択した場合は、[Middle Tier Server Configuration Information (Middle Tier Server の設定情報)] 画面が表示されます。

```
=====  
Middle Tier Server Configuration Information  
-----
```

The Middle Tier Server you configure with this program will access an eDirectory server in order to authenticate users and workstations and to obtain ZENworks configuration and policy information.

Please provide the name or IP address and administrative credentials for an eDirectory server.

Server Name/IP Address (zenmid):

- 12** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) eDirectory がインストールされているサーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

Enter Administrative Credentials:  
Proxy User (admin.myCompany):

- 13** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾ユーザ名を入力します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。  
これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。詳細については、[133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」](#)を参照してください。

Password():

- 14** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを入力します。

The ZENworks Middle Tier software searches for ZENworks user objects in a specified eDirectory context and below.

Please Specify the ZENworks user context.  
NOTE: This context must already exist.

Users Context (users.novell):

- 15** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Desktop Management を使用するユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを入力します。  
インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。  
(条件付き) 同じサーバにインベントリサーバとインベントリデータベースをインストールする場合、[Inventory Standalone Configuration (インベントリのスタンドアロンの設定)] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Standalone Configuration
-----
```

```
Inventory Server Context (novell):
```

- 16** (条件付き、インベントリサーバのインストールを選択した場合) スタンドアロンインベントリサーバのコンテキストを入力します。

インベントリプロキシ機能をインストールする場合、[Inventory Proxy Configuration (インベントリプロキシの設定)] 画面が表示されます。

```
=====
Inventory Proxy Configuration
-----
```

```
XML Proxy port (65000):
```

- 17** (条件付き、インベントリプロキシのインストールを選択した場合) XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すために使用するポートのポート番号を入力します。

デフォルトのポート **65000** を変更する場合は、**0 ~ 65535** の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

[SSL Configuration (SSL の設定)] 画面が表示されます。

```
=====
SSL Configuration
-----
```

```
Do you want to configure SSL?(Y):
```

- 18** (オプション) LDAP を使用して ZENworks 7 インベントリサーバと eDirectory との安全な接続を確立する場合は、「Y」と入力してから、SSL 証明書の完全なパスとファイル名を入力します。

[NetBIOS Configuration (NetBIOS の設定)] 画面が表示されます。

```
=====
NetBIOS Configuration
-----
```

```
NetBIOS Name (NetBIOS_name):
```

- 19** (条件付き) [NetBIOS Configuration (NetBIOS の設定)] 画面は、NetBIOS 名が `/etc/samba/smb.conf` に指定されておらず、ZENworks インストールプログラムを実行する Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合にのみ表示されます。

NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合、インストールプログラムを実行する Linux サーバ名の最初の 13 文字を使用して NetBIOS 名が生成されます。この名前は、ZENworks Linux 版のインストール中にデフォルト値として表示されます。

```
=====  
NetBIOS Configuration  
-----  
NetBIOS Name  
(NetBIOS_name_generated_by_the_ZENworks_installation_program):
```

このデフォルト値をそのまま使用するか、新しい値を入力することができます。ただし、NetBIOS 名は一意にする必要があります。

**20** [Pre-Installation Summary (インストール前の概要)] 画面が表示されます。

```
Pre-Installation Summary  
-----  
We are ready to install ZENworks to your server.Press <Enter> to  
continue,  
type "back" to change your choices or "quit" to exit this install.  
  
Product Name:  
ZENworks Desktop Management  
  
Product Components:  
Inventory Server,  
Remote Management,  
Application Management,  
Inventory Proxy,  
Inventory Database,  
NAL Database,  
Autoworkstation Import/Removal,  
PXE,  
Imaging,  
Middle Tier,  
ZENworks Desktop Agent Installer  
  
ZENworks License Key:  
90 Day Trial  
  
Schema Extensions:  
Schema extensions will be applied.  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

**21** (Enter) キーを押してインストールを開始します。

インストール処理が完了すると、InstallAnywhere によりインストールログファイルが作成されます。ログファイルの作成を中止するには、<Ctrl>+<C> を押します。

インストールが正常に完了すると、[View Readme (Readme 表示)] 画面が表示されま

```
=====
View Readme
-----
```

Do you want to view the readme file?

```
->1- YES
2- NO
```

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:

:

- 22 (オプション)「1」を入力すると、readme ファイルが表示されます。このファイルを読みます。(Enter) キーを押すと次の画面に進みます。readme ファイルの最後に、<Enter> キーを押して [Installation Complete (インストールの完了)] 画面を表示します。
- 23 (オプション)「2」を入力すると、[Installation Complete (インストールの完了)] 画面が表示されます。

```
=====
Installation Complete
-----
```

Congratulations.ZENworks Desktop Management has been successfully installed to:

```
/opt/novell/zenworks/
```

All installed ZENworks services have been started.

Please see the log file (/var/log/ZENworks\_Desktop\_Management\_InstallLog.log) for more details.

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

[Installation Complete (インストールの完了)] のメッセージでは、インストールされた ZENworks のすべてのサービスが開始したと述べられますが、proxydhcp サービスは、インストールの完了後、または再起動後にも開始しません。このサービスを開始するには、/etc/init.d/novell-proxydhcp start を実行します。再起動後にサービスを開始させたい場合には、ランレベルエディタを使用して、デーモンを必要なランレベルに追加することができます。

**24** (Enter) キーを押してインストールプログラムを終了します。

---

**重要** : Desktop Management Server のインストールが完了したら、Windows、NetWare®、および Linux サーバに必要なインストール後の作業を完了していることを確認します。詳細については、[365 ページのパート V 「インストール後」](#)を参照してください。

---

# サイレントインストール

インストールプログラムの実行前にインストールオプションを事前選択すると、Novell® ZENworks® デスクトップ管理サービスの Linux へのインストールを自動化することができます。この“サイレントインストール”は、インストール CD に含まれている `silent.properties` ファイルを編集して実行することにより行います。

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 347 ページのセクション 23.1 「サイレントインストールの準備」
- ◆ 349 ページのセクション 23.2 「サイレントインストールの実行」
- ◆ 350 ページのセクション 23.3 「より安全なサイレントインストールの実行」

## 23.1 サイレントインストールの準備

サイレントインストールの準備を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux CD のルートにある `silent.properties` ファイルを、Linux サーバの `/root` にコピーします。
- 2 `/root/silent.properties` を必要に応じて編集します。

ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux 用の `silent.properties` の内容は、次のようなものです。

```
INSTALLER_UI=silent
#-----
# Install Sets
#-----
##CHOSEN_INSTALL_SET=(All|Server|Midtier) [default:All]
#CHOSEN_INSTALL_SET=Midtier
#CHOSEN_INSTALL_SET=Server
#-----
# Installable Features
#-----
INSTALL_REMOTE_MANGEMENT=true
INSTALL_MIDDLE_TIER=true
INSTALL_INVENTORY_SERVER=true
INSTALL_INVENTORY_PROXY=true
INSTALL_INVENTORY_DATABASE=true
INSTALL_APPLICATION_MANAGEMENT_DATABASE=true
INSTALL_IMAGING_SERVER=true
INSTALL_PXE_SERVER=true
INSTALL_WORKSTATION_IMPORT_SERVER=true
INSTALL_ZDM_AGENT=true
#-----
# Pre-file-copy verification
#-----
# Authentication
#-----
```

```

TREE_USER_NAME=
TREE_PASSWORD=
TREE_NAME=
#-----
# ExtendSchemaConfigureAction
#-----
##SHOULD_EXTEND_SCHEMA=(true|false) [default:false]
SHOULD_EXTEND_SCHEMA=true
#-----
# LicensingConfigureAction
#-----
##USER_SUPPLIED_SERIAL_NUMBER= [default:90 Day Trial]
USER_SUPPLIED_SERIAL_NUMBER=

#-----
# Post-file-copy verification
#-----
#-----
# Force Re-Configuration
#-----
##ConfigureAction.ZDM_FORCE_CONFIGURE=(true|false) [default:false]
#ConfigureAction.ZDM_FORCE_CONFIGURE=true

#-----
# Imaging
#-----
##NDS_CONF_PATH= [default:/etc/nds.conf]
#NDS_CONF_PATH=/etc/nds.conf

#-----
# Middle Tier
-----
XTierConfigureAction.AUTH_DOMAIN=myDomain
XTierConfigureAction.AUTH_CONTEXT=myZENworksUserSearchContext
XTierConfigureAction.PROXY_USER=myProxyUser
XTierConfigureAction.PROXY_PASSWORD=myProxyPassword

#-----
# Inventory Server Standalone Mode
#-----
##StandaloneConfigureAction.INV_STANDALONE=(Y|N) [default:N]
#StandaloneConfigureAction.INV_STANDALONE=Y
#StandaloneConfigureAction.INV_SERVER_CONTEXT=myContext.myCompany

#-----
# XML Proxy
#
# value placed in /etc/opt/novell/zenworks/zws.properties as port2
#-----
##XMLProxyConfigureAction.XML_PROXY_PORT= [default: 8080]
#XMLProxyConfigureAction.XML_PROXY_PORT=myPortNumber

#-----
# SSL for Inventory

```



```

#-----
##SSLConfigureAction.SSL_CONFIGURE=(Y|N) [default:N]
#SSLConfigureAction.SSL_CONFIGURE=Y
#SSLConfigureAction.INV_CERT_PATH=/my.dir/my.cer

#-----
# NETBIOS Name
#
# value placed in /etc/samba/smb.conf as netbios name
# iff there is no existing value
#-----
##NETBIOS_NAME= [default:<hostname>-w]
#NETBIOS_NAME=myNetBiosName

```

`silent.properties` では、デフォルトで、すべての **Desktop Management** コンポーネントがインストールされるように選択されています。このファイルを編集するときに、**Installable Features** セクションのコンポーネント名をコメント化すると、そのコンポーネントは選択解除されインストールされません。ここで作成されるカスタマイズされたインストールセットは、インストールプログラムを実行するときに適用できます。

カスタマイズされたインストールセットを作成する代わりに、このファイルの **Install Sets** セクションの統合されたインストールセットを非コメント化することもできます。

`silent.properties` ファイルには、インストールするコンポーネントの設定に必要な特定のパラメータも含まれています。これらのパラメータを非コメント化して必要な値を追加します。

セキュリティで保護されていない環境でサイレントインストールを実行する場合は、パスワードを非表示にすることをお勧めします。詳細については、[350 ページのセクション 23.3 「より安全なサイレントインストールの実行」](#) を参照してください。

## 23.2 サイレントインストールの実行

インストールするコンポーネントをすべて選択し、それらのコンポーネントの設定値を追加して、`silent.properties` ファイルの編集が完了したら、インストールプログラムを実行できます。

インストールを完了するには、次の手順に従います。

- 1 編集した `silent.properties` ファイルを、サイレントインストールを実行するサーバの `/root` ディレクトリにコピーします。
- 2 ZENworks をインストールする Linux サーバの CD ドライブに、*ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux* CD を挿入します。
- 3 ターミナルコンソールから、`su` コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 4 `mount /CD_mount_point` を実行して、*ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux* CD をマウントします。
- 5 CD マウントポイントに移動し、次のコマンドを入力します。

```
./setup -f /root/silent.properties
```

---

注 : `silent.properties` ファイルへのパスは、スラッシュ (`/`) で始まる完全パスである必要があります。

---

インストールプログラムが起動し、`silent.properties` ファイルで指定した情報に従って適切なファイルがコピーされ、ZENworks コンポーネントが設定されます。指定した各値の妥当性は、`silent.properties` ファイルの **Pre-file-copy Verification** セクションでチェックされます。無効な値がある場合はインストールが停止します。

ファイルのコピー後、`silent.properties` ファイルの **Post-file-copy verification** セクションで妥当性がチェックされます。このセクションに不正な値がある場合は、`/var/log/ZENworks_Desktop_Management_InstallLog.log` にある `InstallAnywhere` ログファイルにエラーが記録されますが、インストールは続行します。

`novell-zdm-configure` ユーティリティを使用して、発生したエラーを修正できます。詳細については、[354 ページのセクション 24.2 「Linux 上で実行されている ZENworks プロセスの設定または再設定」](#) を参照してください。

## 23.3 より安全なサイレントインストールの実行

ツリーおよび Middle Tier パスワードを `silent.properties` ファイルに直接追加せずに保護するには、環境変数を定義してパスワードを非表示にします。パスワードの環境変数を設定するには、次の手順に従います。

- 1 `silent.properties` ファイルをコピー先のサーバの場所から開きます。
- 2 ファイルの **Authentication** セクションで、`TREE_PASSWORD=` 設定値を探します。
- 3 ツリーのパスワードを明示的に入力する代わりに、値の環境変数として次の情報を入力します。

```
$lax.nl.env.tree_password_environment_variable_name$
```

例 : `TREE_PASSWORD=$lax.nl.env.TREE_PASSWORD$`

環境変数名 ( 上記の `tree_password_environment_variable_name` の部分 ) は、`silent.properties` に表示されている設定値名でなくてもかまいません。任意の名前を選択できます。

- 4 ファイルの **Middle Tier** セクションで、`XTierConfigureAction.PROXY_PASSWORD=` 設定値を探します。
- 5 プロキシのパスワードを明示的に入力する代わりに、値の環境変数として次の情報を入力します。

```
$lax.nl.env.proxy_password_environment_variable_name$
```

例 : `XTierConfigureAction.PROXY_PASSWORD=$lax.nl.env.PROXY_PASSWORD$`

環境変数名 ( 上記の `proxy_password_environment_variable_name` の部分 ) は、`silent.properties` に表示されている設定値名でなくてもかまいません。任意の名前を選択できます。

プロキシのパスワードとツリーのパスワードが同じである場合があるため、両方のパスワードに同じ環境変数を使用できます。

この場合の環境変数の設定については、[351 ページのセクション 23.3.1「環境変数の設定」](#)を参照してください。

### 23.3.1 環境変数の設定

パスワードを表示しない場合は、次の手順に従って環境変数を設定します。

- 1 次のコマンドを入力して新しいコマンドシェルを起動します。

```
/bin/bash
```

- 2 `bash` (#) プロンプトで次のコマンドを入力して、以降のコマンドがコマンドバッファに記録されないようにし、`.bash_history` ファイルにも保存されないようにします。

```
HISTSIZE=0
```

- 3 (オプション) パスワード情報を画面に表示しないようにするには、次のコマンドを入力します。

```
stty -echo
```

- 4 ツリーのパスワードの環境変数を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
export tree_password_environment_variable_name=edirectory_password
```

- 5 Middle Tier プロキシのパスワードの環境変数を設定するには、次のコマンドを入力します。

```
export proxy_password_environment_variable_name=proxy_password
```

- 6 (オプション) キーボード入力情報を画面に表示するには、次のコマンドを入力します。

```
stty echo
```

`stty` コマンドを使用して画面表示を無効にしない場合は、各環境変数を定義した後で `clear` を入力してパスワードを画面から削除することができます。

- 7 サイレントインストールの実行後に、次のコマンドを入力して元のコマンドシェルに戻ります。

```
exec /CD_mount_point/setup -f /root/silent.properties
```



RPM のインストールに習熟した Red Carpet® 管理者または Linux 管理者は、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management Services on Linux CD にある RPM をインストールし、サービスのインストールを設定できます。この節では、次の情報について紹介します。

- 353 ページのセクション 24.1 「RPM のインストールまたはアップグレードの実行」
- 354 ページのセクション 24.2 「Linux 上で実行されている ZENworks プロセスの設定または再設定」

## 24.1 RPM のインストールまたはアップグレードの実行

ZENworks 7 Desktop Management のインストールに必要な RPM は、ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux CD の /CD\_mount\_location/Disk1/InstData/VM/RPMS ディレクトリにあります。

RPM のインストールを実行するには、

- 1 適切な RPM を、CD から /usr/temp/RPMS などのテンポラリディレクトリにコピーします。
- 2 bash プロンプトで次のコマンドを実行します。  
`#!/bin/bashrpm -Uvh --nosignature location_of_RPMS/*.rpm`
- 3 再起動するには、次のコマンドを実行します。  
`#!/bin/sh/opt/novell/zenworks/bin/ZDMstart restart cold`
- 4 ディレクトリをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。  
`#!/bin/bashsed -i.bak s@-7\.0\.0-\.@@ /opt/novell/zenworks/Uninstall\ ZENworks\ Desktop\ Management\.com.zerog.registry.xml`

SP1 にアップグレードする場合には、上記の手順で、**ステップ 2** のコマンドを次のように変更します。

```
#!/bin/bashrpm -Uvh --freshen --nosignature location_of_RPMS/*.rpm
```

### 24.1.1 CPK での SP1 へのアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 には、ZENworks for Desktops または ZENworks Desktop Management の以前のバージョンを Server Software Packages または “CPK.” でアップグレードするための、新しい代替手段が用意されています。

プログラム CD の名前と内容を含む、CPK でのアップグレードの詳細については、[479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」](#) を参照してください。

## 24.2 Linux 上で実行されている ZENworks プロセスの設定または再設定

ZENworks デスクトップ管理サービスを Linux にインストールする場合は、特定の質問に回答してサービスの設定に必要な情報を提供します。インストールの完了後に、`/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにある ZENworks 7 Linux Configuration ユーティリティ (`novell-zdm-configure`) を使用して個々のプロセスの設定を変更できます。

---

注：このユーティリティは、コンポーネントの元のインストール方法にかかわらず、インストールが完了しているコンポーネントの設定変更に使えます。

---

この設定ユーティリティで利用できるパラメータの一覧を確認するには、次のコマンドを入力します。

```
./novell-zdm-configure -h[elp]
```

このユーティリティのヘルプには次の内容が一覧表示されます。

```
ZENworks Desktop Management 7 Linux Configuration Utility
```

```
USAGE:
```

```
novell-zdm-configure [<option> [<arg>]]...
```

```
where <options> are:
```

```
-p = <arg> specifies path to a properties file.  
(default /etc/opt/novell/zenworks/zdm/novell-zdm-configure.properties)  
-l = <arg> is the pathname of the logfile to create.  
(default /var/log/novell/zenworks/zdm/novell-zdm-configure.log)  
-c = <arg> is a list of ConfigureAction class names (e.g.  
"name1,name2").  
(default "")  
-f = <arg> is a file (one per line list of ConfigureAction class  
names).  
(default /etc/opt/novell/zenworks/zdm/novell-zdm-configure-  
actions.conf)  
-a = allow internal list of ConfigureActions if not otherwise  
specified.  
(default false)  
-e = attempt subsequent ConfigureActions if an error occurs.  
(default false)  
-z = force the ConfigureActions to ignore previous configurations.  
(default false)  
-n = use color display.  
(default false)  
-h = display this message.
```

ファイルのデフォルトの場所は、`novell-zdm-configure-actions.conf` file is shown as `/etc/opt/novell/zenworks/zdm/novell-zdm-configure.properties` として示されています。`.conf` ファイルは、実行するすべての `ConfigureActions` の総合的なリストです。

デフォルトでは、`novell-zdm-configure` ユーティリティは、Linux サーバにインストールされている ZENworks サービスを自動的に検出し、関連する `ConfigureActions` のみを実行します。

`novell-zdm-configure.conf` ファイルの例を次に示します。

```
#####
#           novell-zdm-configure.conf           #
#                                               #
#           ZENworks configuration ConfigureAction list       #
#                                               #
# Supply the class name of the ConfigureActions that you     #
# want novell-zdm-configure to run, one class name per line.#
# Classes will be called in the order specified in this      #
# file.                                                       #
#                                                           #
# Note:You must supply a complete class name unless the      #
# class exists in the following package:                      #
#                                                           #
# com.novell.application.zenworks.install.configure          #
#                                                           #
#####
ExtendSchemaConfigureAction
ImagingConfigureAction
LicensingConfigureAction
XTierConfigureAction
NetBiosNameConfigureAction
SSLConfigureAction
InventoryServerConfigureAction
SybaseConfigureAction
StandaloneConfigureAction
RMSServerConfigureAction
XMLProxyConfigureAction
```

設定ファイルによってインストール (ファイルのコピー) プロセスが実行されることはありません。このファイルは、既にインストールされている機能の設定または再設定にのみ使用されます。

このファイルを編集して再設定するコンポーネントを変更できますが、ファイルのコピーを作成し、`-f` パラメータを使用してそのコピーを指定することをお勧めします。1つのコンポーネントのみを再設定する場合は、`-c` パラメータを使用して単一のクラス名 (`XTierConfigureAction` など) をリストし、その元の設定を変更できます。詳細については、[356 ページのセクション 24.2.1 「再設定の例」](#) を参照してください。

ワークステーションインベントリコンポーネントの設定ファイルは、`-c` オプションを使用して個別に実行することはできません。以下の制限が適用されます。

- ◆ `InventoryServerConfigureAction` ファイルは、次のように、`NetBiosName ConfigureAction` と同時に実行する必要があります。`./novell-zdm-configure -c NetBiosNameConfigureAction,InventoryServerConfigureAction`
- ◆ `SSLConfigureAction` ファイルは、次のように、`NetBiosName ConfigureAction` および `InventoryServerConfigureAction` と同時に実行する必要があります。`./novell-zdm-`

```
configure -c  
NetBiosNameConfigureAction,InventoryServerConfigureAction,SSLConfigureAction
```

- ◆ StandaloneConfigureAction ファイルは、次のように、NetBiosName ConfigureAction、InventoryServerConfigureAction および SybaseConfigureAction と同時に実行する必要があります。./novell-zdm-configure -c NetBiosNameConfigureAction,InventoryServerConfigureAction,SybaseConfigureAction,StandaloneConfigureAction

---

注：他の設定ファイルは、上記の組み合わせと共に実行することができます。

---

## 24.2.1 再設定の例

90 日間限定の評価版製品をインストールしていたユーザが製品の購入を決定した場合、ライセンスコードの更新が必要となり、設定ファイルを使用する可能性があります。次の例の手順に従ってライセンスを再設定します。

- 1 /opt/novell/zenworks/bin ディレクトリに移動します。
- 2 bash プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
./novell-zdm-configure -c LicensingConfigureAction
```

インストールプログラムが起動し、認証アカウント情報を要求するプロンプトが表示されます。アカウント情報が確認されたら、ライセンスコードを要求するプロンプトが表示されます。

- 3 製品を購入した時に受け取ったライセンスコードを入力します。

---

注：コマンドラインで -c オプションを使用して必要な ConfigureAction を指定できます。ConfigureAction のリストは、novell-zdm-configure.conf ファイルと silent.properties ファイルに含まれています。silent.properties の詳細については、[347 ページのセクション 23.1 「サイレントインストールの準備」](#)を参照してください。

---



# Linux Middle Tier Server のセキュリテイ対策の設定

# 25

この節では、Novell ZENworks® Middle Tier Server がインストールされている SUSE® Linux Enterprise Server 9 Support Pack 1 または Novell® Open Enterprise Server (OES Linux) 1.0 で、証明書を取得して Web サーバ用の SSL を設定する手順について説明します。

次の各節で構成されています。

- ◆ 357 ページのセクション 25.1 「Linux Middle Tier Server の SSL および証明書の設定」
- ◆ 358 ページのセクション 25.2 「Linux Middle Tier Server での、信頼するルート証明書のエクスポートの準備」
- ◆ 359 ページのセクション 25.3 「SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ」
- ◆ 360 ページのセクション 25.4 「NetIdentity 認証のセットアップ」

## 25.1 Linux Middle Tier Server の SSL および証明書の設定

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 357 ページのセクション 25.1.1 「OES Linux Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定」
- ◆ 357 ページのセクション 25.1.2 「SLES 9 SP1 Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定」

### 25.1.1 OES Linux Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定

OES Linux は、デフォルトでは SLES 9 認証局 (CA) サーバの証明書を使用するように Apache 2 を設定して、Apache 2 で SSL が使用できるようにします。サードパーティの証明書が必要な場合には、[Apache HTTP サーババージョン 2.0 ドキュメント \(http://httpd.apache.org/docs/2.0/\)](http://httpd.apache.org/docs/2.0/) で説明されている方法に従って、Apache 2 を SSL 用に設定する必要があります。

### 25.1.2 SLES 9 SP1 Middle Tier Server での SSL 用の Apache 2 Web サーバの設定

デフォルトでは、SLES 9 SP1 インストールプログラムは Apache Web サービスをインストールしません。以下の手順は、デフォルトの SLES 9 SP1 インストールオプションに基づいています。これらのデフォルトのオプションを変更した場合には、結果は異なることがあります。

---

注: ¼ フレーズを必要とする証明書は、ZENworks Middle Tier Server ではサポートされていません。

---

初期サーバインストール後に、SLES 9 SP1 で Web サービスをセットアップするには、次の手順に従います。

- 1 YaST で、[ネットワークサービス] > [HTTP サーバ] を選択します。

HTTP サーバのインストールには、ソース CD またはインストール場所が必要です。

- 2 HTTP サーバを SSL 用に設定します。

- 2a YaST で、[ネットワークサービス] > [HTTP サーバ] を選択して、HTTP サーバを SSL 用に設定します。

- 2b [Enable for the HTTP Services (HTTP サービス用に有効にする)] を選択します。

- 2c [Settings (設定)] リストで、[Default Host (デフォルトのホスト)] を選択し、[Edit (編集)] をクリックします。

- 2d [Options (オプション)] リストで、[SSL (SSL)] を選択し、[Edit (編集)] をクリックします。

- 2e SSL の設定画面で、[Edit (編集)] をクリックし、[SSL Allowed (SSL を許可)] を選択し、[OK]、[Certificates (証明書)] の順にクリックし、[Use common server certificate (共通のサーバ証明書を使用する)] を選択します。

[SSL Enabled (SSL 有効)] リストに、2つの新しい項目 ([SSLCertificateFile] および [SSLCertificateKeyFile]) が追加されます。これらのオプションは、SSL 証明書およびキーファイルの場所を設定します。

- 2f [OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックし、[Finish (終了)] をクリックして設定の変更を保存し、YaST を終了します。

- 3 テキストエディタで /etc/sysconfig/apache2 ファイルを開き、APACHE\_SERVER\_FLAGS 変数を "SSL" に設定します。例:

```
APACHE_SERVER_FLAGS="SSL"
```

- 4 ファイルを保存します。

- 5 rcapache2 restart コマンドを使用して、Apache2 Web サーバを再起動します。

これで、SSL は Apache Web サーバ上で設定されています。サーバで読み込みの問題が生じた場合には、apache2ctl configtest を使用して、エラーを識別してください。

## 25.2 Linux Middle Tier Server での、信頼するルート証明書のエクスポートの準備

Linux サーバ (OES Linux または SLES 9 SP1 以降) で SSL を使用するように Apache Web サーバを構成した後でも、デスクトップ管理エージェントは引き続き信頼するルート証明書のインポートを必要とします。

以下の手順に従って、デフォルトの Linux CA 用の信頼するルート証明書をエクスポートします。

- 1 YaST で、[セキュリティとユーザ] > [CA 管理] を選択し、[YaST\_Default\_CA] を選択し、[Enter CA (CA の入力)] を選択して、プロンプトでルートパスワードを入力します。
- 2 [Advanced (詳細)] をクリックし、[Export to File (ファイルへエクスポート)] オプションを選択します。
- 3 [Only the Certificate in PEM format (PEM フォーマットの証明書のみ)] を選択します。
- 4 [File Name (ファイル名)] フィールドに、ルート証明書を保存する場所のフルパスを .crt 拡張子をつけて入力します。たとえば、/root/ca\_root\_cert.crt のようにします。

信頼するルート証明書が作成されて、Windows ワークステーションにインポートすることができます。

## 25.3 SSL と証明書を使用するための Windows ワークステーションのセットアップ

この節では、SSL およびセキュリティ証明書を使用するための Windows 98/NT/2000/XP ワークステーションのセットアップについて説明します。次の各節で構成されています。

- [359 ページのセクション 25.3.1 「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」](#)
- [359 ページのセクション 25.3.2 「証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定」](#)

### 25.3.1 Windows ワークステーションへの証明書のインポート

使用する SSL 証明書が信頼されるルートリストに記載されていない CA によって発行されたものである場合、ワークステーションの CA から自己署名証明書をインストールする必要があります。これにより、ワークステーションはその CA によって発行された証明書を信頼できるようになります。証明書のインストールは、デスクトップ管理エージェントのインストールの前でも後でも実行できます。

Windows ワークステーションの証明書は、「User Account (ユーザアカウント)」、  
「Computer Account (コンピュータアカウント)」、および「Service Account (サービスアカウント)」内にインポートできます。証明書のインポートの詳細については、[Windows XP Professional Product Documentation Web サイト \(http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag\\_cmprocsimport.mspx\)](http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/sag_cmprocsimport.mspx) の「To Import a Certificate」を参照してください。

### 25.3.2 証明書を照会するためのデスクトップ管理エージェントの設定

デスクトップ管理エージェントのインストールプログラムで、IP アドレスまたは Middle Tier Server の DNS 名の入力が必要な場合、証明書要求の作成時に使用した共通名を入力する必要があります。詳細については、[202 ページのステップ 5f](#)を参照してください。

## 25.4 NetIdentity 認証のセットアップ

デスクトップ管理エージェントから行う Middle Tier Server に対する認証は、チャレンジ/レスポンス方式に基づいています。Middle Tier Server が認証のためにエージェントにチャレンジするとき、Middle Tier Server は X.509 証明書を送信します。エージェントは証明書の完全性と信用性を検証し、パブリックキーとプライベートキー、およびセッションキー暗号化技術を使用して秘密が交換されます。

インストール時に、NetIdentity 証明書が Middle Tier Server にインストールされます。Linux では、この証明書はサーバが属するツリーの認証局 (CA) によって署名されます。この証明書は暗号化の面では有効ですが、信頼されるルート認証局によって署名されたものではないため、制御された環境以外では信頼すべきではありません。デフォルトでは、デスクトップ管理エージェントのインストールはこうした自己署名証明書を受け入れますが、これは設定可能なインストールパラメータです。制御されたネットワーク外部で展開するときには、信頼されるルート認証局によって署名された証明書を使用して Middle Tier Servers を設定する必要があります。厳密な信用性チェックを実行するように設定することも必要です。

### 25.4.1 有効な NetIdentity 証明書を使用した Middle Tier Server の設定

有効な SSL 証明書 (信頼されるルート認証局によって署名された証明書) がサーバ用にある場合、NetIdentity 認証処理でその証明書を使用できます。

- 1 サーバが Linux サーバの場合は、SSL 証明書のキーペア名を書き留めておきます (この名前は、ConsoleOne に表示される証明書オブジェクトの名前です)。
- 2 ブラウザで Middle Tier Server の NSAdmin ページ ([http://ip\\_address/oneNet/nsadmin](http://ip_address/oneNet/nsadmin)) を表示します。
- 3 [一般] 設定ページで、[Certificate Name (証明書の名前)] の値を **ステップ 1** の名前に設定します。
- 4 変更内容を送信します。
- 5 Middle Tier Server を再起動します。

有効な SSL 証明書がサーバ用でない場合、有効な X.509 証明書 (信頼されるルート CA によって署名された証明書) をサーバ用に設定する必要があります。

- 1 信頼されるルート CA によって署名された証明書を取得します。プラットフォームに合わせて、**201 ページの「証明書の署名要求の生成」** および **203 ページの「Middle Tier Server でのルート CA のインストール」** で説明した手順に従います。
- 2 キーペア名またはフレンドリ名 (プラットフォームによって異なります) が「NetIdentity」と異なる場合は、適切な名前を使用して Middle Tier Server を設定します。この手順の **ステップ 1** から **ステップ 4** を参照してください。
- 3 Middle Tier Server を再起動します。

---

注: どちらの場合でも、証明書が信頼されるルート CA のリストに記載されていない CA によって署名されたものであるときには、CA の自己署名証明書を各ワークステーションにインポートする必要があります。詳細については、**206 ページの「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」** を参照してください。

---

## 25.4.2 厳密な信用性検証を実行するためのデスクトップ管理エージェントの設定

信頼されるルート CA によって署名された証明書を使用して Middle Tier Server を設定したら、NetIdentity 証明書の厳密な信用性検証を実行するようにデスクトップ管理エージェントを設定します。次のレジストリキーの設定を変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\Client\Policies\NetIdentity  
"Strict Trust"= dword:0x00000001
```

デフォルトでは、Strict Trust の値は 0 (ゼロ) です。値がない場合、または 0x0 (ゼロ) に設定した場合は、すべての証明書を受け入れることができます。値を 0x1 に設定すると、信用性を完全に検証することができない証明書は拒否するようにデスクトップ管理エージェントが設定されます。



## インストール後の処理

Linux に Novell® ZENworks® Desktop Management サービスをインストールしたら、Linux のバックエンドで実行するその他の作業に注意する必要があります。

ユーザワークステーションで使用されるアプリケーションおよびポリシーファイルは Linux サーバに格納できますが、Novell ConsoleOne® を使用して Windows 管理ワークステーションからそれらのファイルを設定する必要があります。

Linux に ZENworks 7 デスクトップ管理サービスをインストールした後で、ConsoleOne で実行する必要がある管理作業の多くについては、[367 ページの § 章 27 「インストール後の作業」](#) で説明しています。インストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『[Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド](#)』の「[ZENworks Desktop Management インストールの確認](#)」の「[Checking the Installation of Desktop Management Components on Linux Servers \(Linux サーバへのデスクトップ管理コンポーネントのインストールの確認\)](#)」で詳細手順を確認してください。

ZENworks デスクトップ管理サービスを Linux からアンインストールする方法については、[555 ページの § 章 41 「Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール」](#) を参照してください。





# インストール後



Novell® ZENworks® 7 Desktop Management Server をインストールしたサーバが NetWare®、Windows、または Linux であるかに関係なく、ZENworks が正しく動作するためにいくつかの作業を実行する必要があります。次の節では、この情報について紹介します。

- ◆ [367 ページの § 章 27 「インストール後の作業」](#)



Windows、NetWare®、または Linux サーバに Novell® ZENworks® 7 Desktop Management Server をインストールした後で、ZENworks が正しく動作するためにいくつかの作業を実行する必要があります。次の節では、実行する必要があるインストール後の手順について説明します。

- ◆ 367 ページのセクション 27.1「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」
- ◆ 367 ページのセクション 27.2「ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認」
- ◆ 368 ページのセクション 27.3「必要なデスクトップポリシーのセットアップ」
- ◆ 376 ページのセクション 27.4「自動ワークステーションインポートのセットアップ」
- ◆ 378 ページのセクション 27.5「ODBC ドライバのインストール」
- ◆ 379 ページのセクション 27.6「トラブルシューティング情報の収集」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

---

## 27.1 NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定

CIFS をデフォルトのコンポーネントとして持つ NetWare サーバに Sybase をインストールする場合は、Inventory database\_server\_name オブジェクトのサーバ IP アドレスまたは DNS 名が、Sybase のインストール後に正しく設定されない場合があります。データベースオブジェクトを正しく設定する

- 1 ConsoleOne® を開き、インベントリデータベースオブジェクトをダブルクリックします。
- 2 データベースオブジェクトの [ZENworks データベース] ページで、インベントリデータベースをインストールするサーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

## 27.2 ディレクトリスキーマが拡張されたかどうかの確認

デスクトップ管理サービスのインストール後に、ConsoleOne スキーママネージャツールを使用して、インストールプログラムによってディレクトリスキーマが拡張されたかどうかを確認できます。デスクトップ管理サービスでスキーマが拡張されている場合は、属性がリストに追加されます。

- 1 ConsoleOne で、[ツール] > [スキーママネージャ] の順にクリックします。
- 2 [属性] をクリックして、スキーマ属性のリストを開きます。

Desktop Management Server をインストールする場合は、次の属性を確認します。

## 27.3 必要なデスクトップポリシーのセットアップ

ZENworks Desktop Management では、eDirectory™ ツリーに、後で設定および有効化できるデスクトップポリシーを保持するポリシーパッケージが必要です。

この節では、デスクトップポリシーをセットアップするために必要な情報を紹介します。

- ◆ [369 ページのセクション 27.3.1 「ポリシーパッケージの作成」](#)
- ◆ [370 ページのセクション 27.3.2 「ワークステーションインポートポリシーのセットアップ」](#)

ZENworks をテストインストールした後の運用環境で、各コンポーネントを適切に動作させるために必要なポリシーを追加できます。

ワークステーションインベントリをインストールしている場合は、次に示すように、いくつかのデスクトップ管理ポリシーを設定する必要があります。

- ◆ [370 ページのセクション 27.3.3 「データベース場所ポリシーの設定」](#)
- ◆ [372 ページのセクション 27.3.4 「ワークステーションインベントリポリシーの設定」](#)

---

**重要 :** Desktop Management Server のインストール中に Sybase をインストールするように選択した場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで [スタンドアロンの設定] を選択すると、インストールで自動的にサーバパッケージが作成されます。データベースの場所ポリシーが作成および設定され、インベントリサービスが開始されます。Desktop Management Server のインストールが完了したら、ワークステーションインベントリポリシーを作成および設定する必要があります。詳細については、[372 ページのセクション 27.3.4 「ワークステーションインベントリポリシーの設定」](#) を参照してください。

[93 ページのステップ 11](#) で [インベントリのスタンドアロンの設定] ページのオプションを設定した場合は、インストールプログラムにより、サーバと同じ OU ( 部門 ) にサーバパッケージがすでに作成されています。別のサーバパッケージを作成しようとすると、サーバパッケージが同じ OU の別のサーバパッケージと競合することを示すメッセージが表示されます。

---

運用環境でワークステーションインベントリをインストールする場合、設定するポリシーについては『[ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド](#)』の「[ワークステーションインベントリ](#)」の節を参照してください。

必要なポリシーを設定したら、次の操作を実行します。

- ◆ インベントリサービスを手動で起動します。詳細については、[374 ページのセクション 27.3.5 「インベントリサービスの開始と停止」](#) を参照してください。
- ◆ インベントリサーバコンポーネントが Linux コンピュータにインストールされている場合は、Linux インベントリサーバコンソールのプロンプトで「/etc/init.d/smb status」と入力して、Samba サービスが稼動していることを確認します。  
Samba サービスが稼動していない場合、インストール後に Samba サービスを手動で起動して、インベントリサーバがインベントリ対象ワークステーションからインベン

トリスキャンを受信できるようにします。Samba サービスを手動で起動するには、Linux インベントリサーバコンソールのプロンプトで「/etc/init.d/smb start」と入力します。

### 27.3.1 ポリシーパッケージの作成

ポリシーパッケージには、ユーザまたはユーザワークステーションの使用規則や環境設定が指定されている個々の Windows デスクトップポリシーが保持されます。ポリシーパッケージを保持する部門 (OU) を作成する必要があります。この OU を配置する場所を決定するときは、次の点に考慮してください。

- ◆ ツリー内にパーティションがあるかどうか
- ◆ eDirectory 内で課せられる完全識別名の 256 文字の制限
- ◆ ポリシーパッケージを見つけるための検索ポリシーの使用方法

ツリー内を効率よく検索するために、ポリシーパッケージの関連付け先になるオブジェクトを含んだパーティションのルートに、このポリシーパッケージ OU を作成することをお勧めします。これにより、次の利点が得られます。

- ◆ パーティションのルートと検索ポリシーを使用すると、ツリー内の検索効率が高まります。
- ◆ パーティションのルートに OU を配置することで、複数ポリシーの命名で使用できる文字数が最大になります。

(オプション) 部門 (OU) を作成してポリシーを保持できます。

- 1 ConsoleOne で、OU を配置するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] > [部門] > [OK] の順にクリックします。次に、コンテナに、「デスクトップポリシー」などの短い名前を付けます。

ポリシーパッケージを作成するには

- 1 ポリシーパッケージを配置するコンテナを右クリックし、[新規] > [ポリシーパッケージ] の順にクリックします。
- 2 次のいずれかのポリシーパッケージを選択します。

Container Package (コンテナパッケージ)

Server Package (サーバパッケージ)

Service Location Package (SLP のプロパティパッケージ)

User Package (ユーザパッケージ)

ワークステーションパッケージ (Workstation Package)

- 3 [次へ] をクリックし、パッケージに短い名前を付けます。[次へ] をクリックし、[別のポリシーパッケージを作成] をクリックします。パッケージをすべて作成した後で、[完了] をクリックします。

パッケージの短い名前として、次のような名前を付けることができます。

Container

Server

Location

User

Workstation

- 4 作成するポリシーパッケージごとに、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。

## 27.3.2 ワークステーションインポートポリシーのセットアップ

Desktop Management をインストールしたサーバがワークステーションをインポートできるように、Desktop Management でワークステーションインポートポリシーが必要です。このポリシーを有効にして、Desktop Management Server に関連付ける必要があります。

- 1 ConsoleOne で、サーバパッケージを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [使用可能] 列の下にあるインポートポリシーのチェックボックスを選択します。この操作により、ポリシーが選択されると同時に有効になります。
- 3 [プロパティ] をクリックして [コンテナ] ページを表示します。
- 4 [プラットフォーム] タブの下向き矢印をクリックし、目的のプラットフォームを選択します。
- 5 [ワークステーションオブジェクトの作成先] ドロップダウンリストでオプションを選択し、ワークステーションオブジェクトを保存するコンテナを指定します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [関連付け] タブをクリックし、[追加] をクリックします。Desktop Management をインストールするサーバを参照し、[OK] をクリックしてサーバを [関連付け] リストに追加します。
- 8 [関連付け] リストでインポートポリシーを関連付けるサーバを選択し、[適用] をクリックします。次に、[閉じる] をクリックします。

## 27.3.3 データベース場所ポリシーの設定

データベース場所ポリシーには、Inventory データベースの場所が含まれています。Database オブジェクトを、Service Location Package を使用して Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナに、または Server Package を使用してインベントリサーバに関連付けることができます。

---

注：Service Location Package と Server Package の両方を設定する場合、Server Package の設定は Service Location Package の設定よりも優先されます。

---

Database オブジェクトをインベントリサービスオブジェクトが置かれているコンテナに関連付けるには

- 1 ConsoleOne で、Service Location Package を右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ポリシー] ページを表示します。
- 2 [使用可能] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3 [プロパティ] をクリックして [インベントリ管理] ページを表示します。
- 4 インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database\_server\_name) を参照して、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory がインストールされていない Windows 2000 サーバにインストールする場合を除いて、ワークステーションインベントリのインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースを手動

で作成するには、*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“インベントリデータベースのセットアップ”の手順に従ってください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“インベントリデータベースのセットアップ”を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“インベントリデータベースのセットアップ”を参照してください。

---

**重要：**データベースオブジェクトに設定されたデータベースサーバの DNS 名が有効であることを確認します。DNS 名が無効である場合、データベースオブジェクトの [プロパティ] ページで適切なデータベースサーバの IP アドレスを選択する必要があります。

---

データベースサーバの IP アドレスを選択する：

- 4a** ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ZENworks データベース] ページを表示します。
- 4b** [サーバの IP アドレスまたは DNS 名] フィールドで、適切な IP アドレスを選択します。
- 4c** [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5** [OK] をクリックします。
- 6** [関連付け] タブをクリックし、[追加] をクリックします。
- 7** Inventory Service オブジェクトが置かれているコンテナを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 8** [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

Database オブジェクトを Inventory サーバに関連付けるには

- 1** ConsoleOne で、[サーバパッケージ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ポリシー] ページを表示します。
- 2** [使用可能] 列の下にある ZENworks データベースポリシーのチェックボックスをオンにします。
- 3** [プロパティ] をクリックして [インベントリ管理] ページを表示します。
- 4** インベントリデータベースオブジェクトの DN (Inventory database\_server\_name) を参照して、[OK] をクリックします。

Sybase データベースでは、eDirectory がインストールされていない Windows 2000 サーバにインストールする場合を除いて、ワークステーションインベントリのインストール中にデータベースオブジェクトが自動的に作成されます。データベースを手動で作成するには、*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“インベントリデータベースのセットアップ”の手順に従ってください。

Oracle データベースでは、データベースオブジェクトを作成した後、そのオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“インベントリデータベースのセットアップ”を参照してください。

MS SQL データベースでは、データベースオブジェクトを設定する必要があります。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“*インベントリデータベースのセットアップ*”を参照してください。

---

**重要：**データベースオブジェクトに設定されたデータベースサーバの DNS 名が有効であることを確認します。DNS 名が無効である場合、データベースオブジェクトの [プロパティ] ページで適切なデータベースサーバの IP アドレスを選択する必要があります。

---

データベースサーバの IP アドレスを選択する：

- 4a** ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして [ZENworks データベース] ページを表示します。
- 4b** [サーバの IP アドレスまたは DNS 名] フィールドで、適切な IP アドレスを選択します。
- 4c** [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5** [OK] をクリックします。
- 6** [関連付け] タブをクリックし、[追加] をクリックします。
- 7** インベントリサーバオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 8** [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

---

**注：**Inventory ポリシーを変更するか、またはオブジェクトを設定する場合は、常に Inventory Service を停止します。オブジェクトのポリシーおよびプロパティを設定します。インベントリサービスを再開します。詳細については、[374 ページのセクション 27.3.5 「インベントリサービスの開始と停止」](#)を参照してください。

---

### 27.3.4 ワークステーションインベントリポリシーの設定

- 1** ConsoleOne で、ワークステーションパッケージを右クリックし、[プロパティ] > [ポリシー] ページの順にクリックします。
- 2** [ポリシー] タブをクリックし、設定するプラットフォームをドロップダウンリストで選択し、選択したプラットフォームのポリシーを有効にします。利用可能なプラットフォームは、Windows 9x、WinNT-2000-XP、Windows NT、Windows 2000、または Windows XP です。
- 3** [使用可能] 列の下にあるワークステーションインベントリポリシーのチェックボックスを選択します。
- 4** [プロパティ] をクリックし、[ワークステーションインベントリポリシー] ページを表示します。
- 5** [一般] ページで、次の設定を行います。
  - 5a** インベントリサービスオブジェクトの DN を参照して選択します。
  - 5b** デルタスキャン数を指定します。デルタスキャンの後でフルスキャンが実行されます。
- 6** (オプション) インベントリスキャンをカスタマイズします。
  - 6a** [ハードウェアスキャン] タブをクリックして、次の設定を指定します。



**[Enable DMI Scan]** : [DMI スキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションの DMI (Desktop Management Interface) からハードウェアデータのスキャンを追加します。

**[Enable WMI Scan]** : [WMI スキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションの Microsoft WMI (Windows Management Instrumentation) からハードウェアデータの WMI スキャンを追加します。

**Enable Custom Scanning( カスタムスキャンを有効にする ):** このオプションを選択して、インベントリ対象ワークステーションのカスタムスキャンを追加します。カスタムスキャンを実行する際に使用するカスタムスキャン実行可能ファイルの名前を入力する必要があります。

**カスタム属性エディタ :** このボタンをクリックして、カスタム属性のリストを指定します。必要に応じてリストを修正します。

- 6b** ZENworks for Desktops 4 または ZENworks for Desktops 4.0.1 がインストールされている Windows インベントリ対象ワークステーションのソフトウェアスキャン設定をカスタマイズするには、[ソフトウェアスキャン] タブをクリックして、次の設定を実行します。

---

**重要 :** ZENworks 7 Desktop Management がインストールされているインベントリ対象ワークステーションでは、設定を行わないでください。

---

**[Enable Software Scan]** : インベントリポリシーに関連付けられたインベントリ対象ワークステーションのソフトウェアスキャンを有効にします。スキャンプログラムは、インベントリ対象ワークステーションのソフトウェア情報を収集して、インベントリデータベースに保存します。

**[カスタムスキャンエディタ]** : アプリケーションの詳細情報のリストをカスタマイズして、インベントリ対象ワークステーションをスキャンできます。インベントリスキャナは、カスタムスキャンエディタに示されるアプリケーションの詳細情報をスキャンします。

たとえば、カスタムスキャンエディタで次の詳細を指定します。 Vendor Name=Microsoft; Product Name=Microsoft Office; Product Version=10.0; FileName=winword.exe; File Size=1 MB。この場合、インベントリスキャナはインベントリ対象ワークステーションで、サイズが 1MB の winword.exe ファイルをスキャンします。このファイルが見つかった場合、インベントリデータベースに“winword.exe;1 MB”について“Microsoft;Microsoft Office;10.0”が格納されます。

**[Product Identification Number]** : インベントリ対象ワークステーションにインストールされた、Microsoft アプリケーションの製品識別情報をスキャンできます。

**Product Location( 製品の場所 ):** インベントリ対象ワークステーションにインストールされたアプリケーションのフルパスをスキャンできます。

**カスタムスキャンのみ実行する :** カスタムスキャンエディタで選択された、カスタマイズされたソフトウェアアプリケーションだけをスキャンします。

- 6c** [設定エディタ] タブをクリックします。必要に応じて、次の .ini ファイルの設定を変更します。
- ◆ **SWRules:** ZENworks for Desktops 4 または ZENworks for Desktops 4.0.1 をインストールした、インベントリ対象の Windows ワークステーションの SWRules ファイルを設定します。ZENworks 7 Desktop Management がインストールされているインベントリ対象ワークステーションでは、ファイルを設定しないでください。

この SWRules ファイルを使用して、ベンダおよび製品のソフトウェアスキャン情報をカスタマイズします。このファイルの設定方法の詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“ZENworks for Desktops 4.X およびそれ以前のバージョンのインベントリ対象ワークステーションをスキャンするソフトウェアインベントリ情報のカスタマイズ”」を参照してください。

- ◆ **Asset Information:** このファイルを使用して、DMI (Desktop Management Interface) からベンダ固有の情報をスキャンします。このファイルの設定方法の詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“DMI を使ったベンダ固有の資産情報のスキャン”」を参照してください。
- ◆ **Zipped Names:** このファイルを使用して、Jaz および Zip ドライブのハードウェアスキャンをカスタマイズします。このファイルの設定方法の詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“Jaz、Zip、およびフロッピードライブのベンダのハードウェアスキャン情報のカスタマイズ”」を参照してください。
- ◆ **IBM Names(IBM の名前):** このファイルを使用して、IBM\* コンピュータのモデルをスキャンします。このファイルの設定方法の詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“IBM コンピュータモデルのスキャン”」を参照してください。
- ◆ **HWRules:** このファイルを使用して、モニタの公称サイズをカスタマイズします。このファイルの設定方法の詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「モニタのサイズに関するハードウェア情報のカスタマイズ」を参照してください。

7 [適用] をクリックします。

8 [ポリシースケジュール] タブをクリックします。

9 インベントリ対象ワークステーションのスキャンをスケジュールするために必要な設定を変更し、[適用]、[閉じる] の順にクリックします。

10 [関連付け] タブをクリックし、[追加] をクリックします。

11 インベントリ対象ワークステーションが登録されているコンテナオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。

12 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

13 ConsoleOne で、インベントリサービスオブジェクト (Inventory Service\_server\_name) を右クリックし、[プロパティ]、[インベントリサービスオブジェクトのプロパティ] タブの順にクリックします。

14 [コンピュータのスキャンを有効にする] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

### 27.3.5 インベントリサービスの開始と停止

ここでは、次の内容について説明します。

- ◆ 375 ページの「インベントリサービスの開始」
- ◆ 375 ページの「インベントリサービスの停止」
- ◆ 376 ページの「Linux にインストールされているワークステーションインベントリコンポーネントのステータスの確認」

## インベントリサービスの開始

### NetWare インベントリサーバの場合

すべてのインベントリサービスを開始するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「startinv」と入力します。

特定のインベントリサービスを開始するには

- 1 サーバコンソールプロンプトで、「startser *Inventory\_service*」と入力します。

### Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：

すべてのインベントリサービスを開始するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
- 2 [Novell Inventory Service] を選択し、[開始] をクリックします。

特定のインベントリサービスを開始するには

- 1 サーバのコンソールプロンプトで、  
*ZENworks\_installation\_directory*\zenworks\inv\server\wminv\bin に移動します。
- 2 「startser *Inventory\_service*」と入力します。

### Linux インベントリサーバの場合

すべてのインベントリサービスを開始するには

- 1 Linux のサーバプロンプトで、*/etc/init.d* に移動します。
- 2 「*./novell-zdm-inv start*」と入力します。

特定のインベントリサービスを開始するには

- 1 Linux のサーバプロンプトで、*/opt/novell/bin* に移動します。
- 2 「StartSer *Inventory\_service*」と入力します。

Inventory Service を起動した後に、Inventory Service が稼働していることを確認します。すべてのサービスを一覧表示するには、インベントリサーバコンソールのプロンプトで「ListSer "\*"」と入力します。Inventory Service が稼働していない場合、サーバステータスログをチェックします。サーバステータスログの詳細については、『*ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ステータスログを使ったワークステーションインベントリの監視”」を参照してください。

## インベントリサービスの停止

### NetWare インベントリサーバの場合

すべてのインベントリサービスを停止するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「stopser \*」と入力します。

特定のインベントリサービスを停止するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「stopser *Inventory\_service*」と入力します。

### Windows 2000 インベントリサーバの場合

すべてのインベントリサービスを停止するには

- 1 コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
- 2 [*Novell Inventory Service*] を選択し、[停止] をクリックします。

特定のインベントリサービスを停止するには

- 1 サーバコンソールのプロンプトで、「stopser *Inventory\_service*」と入力します。

### Linux インベントリサーバの場合

すべてのインベントリサービスを停止するには

- 1 Linux のサーバプロンプトで、*/etc/init.d* に移動します。
- 2 「*./novell-zdm-inv stop*」と入力します。

特定のインベントリサービスを停止するには

- 1 Linux のサーバプロンプトで、*/opt/novell/bin* に移動します。
- 2 「*StopSer Inventory\_service*」と入力します。

### Linux にインストールされているワークステーションインベントリコンポーネントのステータスの確認

次の表は、Linux にインストールされていて、Linux コンソールプロンプトでコマンドを実行してステータスを確認できるワークステーションインベントリコンポーネントを示しています。

表 27-1 Linux にインストールされているワークステーションインベントリコンポーネント

ワークステーションインベントリコンポーネント	Linux コンソールプロンプトに入力するコマンド
インベントリサーバデーモン	<i>/etc/init.d/novell-zdm-inv status</i>
Sybase デーモン	<i>/etc/init.d/novell-zdm-sybase status</i>
インベントリプロキシデーモン	<i>/etc/init.d/novell-zen-zws status</i>

## 27.4 自動ワークステーションインポートのセットアップ

次の手順では、自動ワークステーションインポートのインストール時に [インポート] または [インポート / 削除] オプションが選択されていることを前提とします。

- 1 自動ワークステーションインポートで使用する DNS 名をセットアップします。

DNS エントリまたはローカル `hosts` ファイルのエントリのいずれかを使用できます。  
`www.novell.com` は、DNS 名の例です。

次に、自動ワークステーションインポートの `hosts` ファイルに追加するテキストの例を示します。

```
151.155.155.55 zenwsimport
```

この例では、TCP/IP アドレスは、自動ワークステーションインポートサービス (Automatic Workstation Import service) を実行するサーバのアドレスです。  
“zenwsimport” はサーバ名ではなく、この TCP/IP アドレスに解決される DNS 名です。  
つまり、zenwsimport は、自動ワークステーションインポートサービスを実行しているサーバを識別するためのラベルです。

Windows 98 の場合、`hosts` ファイルは次の場所にあります。

```
Win98_drive:\Win98_directory\hosts
```

---

**重要 :** Windows でのデフォルトのホストファイルは、`hosts.sam` という名前です。ホストのファイル名には、`.sam` 拡張子を付けないでください。`hosts.sam` を `hosts` という名前に変更するか、`hosts.sam` をコピーして、コピー後のファイル名を変更します。  
Windows 95 の場合、デフォルト設定では、ファイル名の拡張子が既知の種類である場合に、その拡張子が表示されないようになっています。そのため、`hosts.sam` ファイルを `hosts` という名前に正しく変更するためには、ファイル名の拡張子を表示するように設定する必要があります。

---

Windows NT/2000 の場合、`hosts` ファイルは次の場所にあります。

```
WinNT-2K_drive:\WinNT-2K_directory\system32\drivers\etc\hosts
```

`hosts` はファイル名です。フォルダ名ではありません。

- 2 DNS 名または TCP/IP アドレスを確認するには、ワークステーションのコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
ping zenwsimport
```

- 3 最新の Novell Client™ またはデスクトップ管理エージェントでインポートする各ワークステーションを更新します。

これは、Workstation Manager をワークステーションに配置するために必要な操作です。

Workstation Manager がワークステーションにインストールされると、Workstation Manager のスケジューラ部分が開始され、スケジューラサービス (Scheduler service) の開始時 (98/NT/2000/XP) またはユーザのログイン時 (98/NT/2000/XP) に自動的にワークステーションの登録が行われます。

- 4 自動ワークステーションインポートが実行していることを確認します。

**4a** (条件付き) NetWare サーバでは、<Ctrl>+<Esc> キーを押して [ZENworks ワークステーションインポート] 画面を確認します。

- 4b (条件付き) Windows NT/2000 サーバでは、次のリストのサービスをチェックします。

ZENworks Workstation Import

- 4c (条件付き) SLES 9 SP1 または OES Linux サーバでは、`bash` プロンプトで `/etc/init.d/novell-zdm-aws status` を実行します。インポートサービスは、現在実行中かどうかを示すメッセージを返します。
- 5 Windows または NetWare で自動ワークステーションインポートが実行されていない場合は、サーバを再起動します。Linux で実行されていない場合は、サービスを再起動します。

サービスの開始についての詳細は、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「[自動ワークステーションインポート / 削除の動作検証](#)」を参照してください。

## 27.5 ODBC ドライバのインストール

インベントリレポートを実行する前に、次の点を確認します。

- ❑ ConsoleOne を実行しているコンピュータに、Sybase、Oracle、または MS SQL 用の適切な ODBC クライアントがインストールされていることを確認します。インベントリレポートの起動時に、コンピュータ上で ODBC ドライバが自動的に設定されます。

Sybase データベース向けの ODBC ドライバをインストールするには

1. *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* (または *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD*) の `\database drivers` ディレクトリを開きます。
2. `\database drivers` ディレクトリに収録されている `odbcreadme.txt` ファイルの指示に従います。この指示を実行することにより、Sybase データベースのアドレスを設定し、接続を確立することができます。

Oracle の場合、ODBC 用の適切なクライアントをインストールする必要があります。たとえば、Oracle9i インベントリデータベースの場合、Oracle9i クライアントをインストールします。これは、インベントリレポートが、それ以前、またはそれ以降のバージョンのクライアントに対して互換性を持っていないためです。

MS SQL の場合、クライアントは、すべての Microsoft Windows オペレーティングシステムで利用できます。

- ❑ Crystal Reports を実行する Windows NT コンピュータには、最低でも MDAC 2.6 SP1 (Microsoft Data Access Component) を個別にインストールする必要があります。ご自分のコンピュータにインストールされている MDAC のバージョンを確認します。[コントロールパネル] > [ODBC データ ソース] の順に選択し、[バージョン情報] タブペインを選択します。最低限必要なバージョンは 3.520.7326.0 です。使用しているバージョンが最低要件を満たしていない場合、ODBC のコアコンポーネントを [MSDN Web サイトの「Data Access and Storage Downloads \(データアクセスとストレージに関するダウンロード\)」](http://microsoft.com/data/download.htm) ページ (<http://microsoft.com/data/download.htm>) からダウンロードしてアップグレードする必要があります。

## 27.6 トラブルシューティング情報の収集

ZENworks Desktop Management のインストールが完了したら、インストールが正常に終了したかどうかやコンポーネントのバージョンを確認したり、デバッグログを有効化または確認したりすることができます。これらの作業を実行する場合は、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**Checking the ZENworks Desktop Management Installation (ZENworks Desktop Management のインストールの確認)**」で詳細手順を確認してください。





# アップグレード

# VI

この節では、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management の新規拡張機能と、ZENworks for Desktops 3.2 SP3、ZENworks for Desktops 4.x、または ZENworks 6.5x Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする方法について説明します。

- ◆ 383 ページの § 章 28 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」
- ◆ 391 ページの § 章 29 「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード」
- ◆ 429 ページの § 章 30 「ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード」
- ◆ 463 ページの § 章 31 「ZENworks 7 Launch ガジェットへのアップグレード」
- ◆ 467 ページの § 章 32 「ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード」
- ◆ 477 ページの § 章 33 「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項」
- ◆ 479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」

アップグレードするときには、381 ページの「注意」の情報を考慮する必要があります。

The information in this section also applies to ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1. For more information, see 477 ページの § 章 33 「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項」

## 注意

ZENworks 7 Desktop Management インストールのライフサイクル中に、メンテナンスパッチ、暫定リリース、またはサポートパックをダウンロードすることにするかもしれません。一般に、これらの ZENworks 製品のメンテナンスインストールプログラムは、設定ファイル (.conf または .ini ファイルなど) を含め、以前にインストールされたすべてのファイルを上書きします。そのため、デバッグプロセスでファイルを手動で修正した場合には、その設定を保存する必要があるでしょう。

まれな場合ですが、インストールプログラムが (再インストールなどで) 設定ファイルがすでにアップグレードされており、同じバージョンであることを検出すると、ファイルは上書きされず、設定は保存されます。ZENworks Desktop Management Services on Linux のインストールプログラムでは、RPM は .config ファイルとしてマークされたファイル进行处理して、ユーザの修正を残すか、またはそれらを *filename.rpm.save* として保存します。

ZENworks イメージングや ZENworks インベントリデータベースが使用するファイルなどの、一部のファイルは、常に上書きされます。これらのファイルを手動で保存する必要がある箇所では、マニュアルに、ファイルの上書きを避け、バックアップコピーを保存するために必要な、予防のための手順が記されています。



# ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能

# 28

次の各節では、ZENworks 6.5 Desktop Management Support Pack 1 のリリース後に追加された Novell® ZENworks® 7 Desktop Management の変更点と新機能について説明します。

- ◆ 383 ページのセクション 28.1 「一般的な変更点」
- ◆ 384 ページのセクション 28.2 「Application Management (アプリケーション管理)」
- ◆ 385 ページのセクション 28.3 「ワークステーションイメージング」
- ◆ 385 ページのセクション 28.4 「Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)」

次の節では、ZENworks 7 Desktop Management Support Pack 1 (SP1) のソフトウェアの付加的な変更について説明します。

- ◆ 387 ページのセクション 28.5 「ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の変更点と新機能」

## 28.1 一般的な変更点

次の節では、ZENworks 7 で ZENworks Desktop Management 機能に加えられた全般的な変更について説明します。

- ◆ 383 ページのセクション 28.1.1 「Linux サーバのサポート」
- ◆ 383 ページのセクション 28.1.2 「タブレット PC のサポート」
- ◆ 384 ページのセクション 28.1.3 「Desktop Management とバンドル提供される新製品とアップデート製品」

### 28.1.1 Linux サーバのサポート

ZENworks 7 Desktop Management のリリースから、すべての Desktop Management コンポーネントは SUSE® Linux Enterprise Server (SLES 9 SP1) および Novell Open Enterprise Server (OES 1.0) の Linux サーバにインストールできます。詳細については、[317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」](#)を参照してください。

### 28.1.2 タブレット PC のサポート

ZENworks で、Windows XP Tablet PC Edition を搭載したタブレット PC にポリシーやアプリケーションを配布できるようになりました。

### 28.1.3 Desktop Management とバンドル提供される新製品とアップデート製品

ZENworks 7 スイート中の ZENworks 7 Desktop Management のライセンスのみを取得した場合でも、スイートに含まれている次の各種製品を同ライセンスで使用することができます。

- ◆ ZENworks のアセットインベントリコンポーネントである ZENworks 7 Asset Management。このコンポーネントはアセットインベントリとして組み込まれており、ハードウェアやソフトウェアのインベントリ、ネットワークの検出、Web レポートの作成、ワークステーションインベントリの履歴などの機能を備えています。詳細については、[ZENworks 7 Asset Management のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/zam7/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zam7/index.html) を参照してください。
- ◆ GroupWise® Instant Messenger 2.0 によるインスタントメッセンジャー。このインスタントメッセージングソリューションは次の利点をもたらします。
  - ◆ 従業員間のコミュニケーションのセキュリティを確保し、機密情報を保護します。
  - ◆ eDirectory™ によるポリシーベースの管理を実現し、管理作業を合理化します。
  - ◆ エンタープライズ環境を念頭に置いて設計されたビジネスクラスの機能を提供します。
- ◆ Identity Manager 2.02 Bundle Edition。ZENworks 7 Desktop Management を Windows 環境にインストールし、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory 間のデータを同期することができます。
- ◆ Novell iManager 2.5。Windows 環境における ZENworks 7 Desktop Management の管理業務を支援します。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management には次のアップデート製品が含まれています。
  - ◆ ZENworks Data Management (Novell iFolder® 2.1.5 により提供)
  - ◆ ZENworks Patch Management (PatchLink\* Update バージョン 6.1.2 により提供)
  - ◆ ZENworks Software Packaging (InstallShield\* AdminStudio ZENworks Edition により提供)
  - ◆ ZENworks Personality Migration (Computer Associates 社の Unicenter\* Desktop DNA\* により提供)

## 28.2 Application Management (アプリケーション管理)

次の節では、ZENworks 7 のアプリケーション管理機能に加えられた変更について説明します。

- ◆ 385 ページのセクション 28.2.1「OS バージョン番号の第 4 構成要素の認識機能を追加」
- ◆ 385 ページのセクション 28.2.2「Windows ワークグループ内のワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの配布機能を追加」

## 28.2.1 OS バージョン番号の第 4 構成要素の認識機能を追加

Windows XP SP2 は、Windows オペレーティングシステムのバージョン番号に第 4 の構成要素 (例 : 5.1.1287.1120) を追加します。ZENworks 7 のアプリケーション管理機能では、この第 4 の構成要素がサポートされています。

最初の 3 つの構成要素のみから成るオペレーティングシステムバージョン番号を使用する旧型のアプリケーションについては、ZENworks Desktop Management は第 4 構成要素の位置にゼロ (0) を追加します。レガシーシステム要件を配布ルールにインポートするときは、この第 4 の番号が 0 (ゼロ) からワイルドカード値 (“x”) に変更されます。ただしこの機能には難点もあり、オペレーティングシステムバージョン番号の配布ルールで「等しい (=)」比較演算を実行する場合には、ワイルドカード値が第 4 の構成要素に指定されている値と正確に一致しないという問題が生じます。

## 28.2.2 Windows ワークグループ内のワークステーションへのデスクトップ管理エージェントの配布機能を追加

エージェントディストリビュータを実行するワークステーションが Microsoft ドメインのメンバーでない場合、エージェントディストリビュータを使用して、デスクトップ管理エージェントをその Windows ワークグループのメンバーであるターゲットワークステーションに配布することができます。詳細については、[162 ページのセクション 12.6 「デスクトップ管理エージェントディストリビュータによる、Windows ワークグループ内でのワークステーションへのエージェントの展開」](#) を参照してください。

## 28.3 ワークステーションイメージング

イメージングエンジンの Linux カーネルがバージョン 2.6 にアップグレードされ、より幅広いハードウェアやネットワークカードをサポートするようになりました。

## 28.4 Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)

Novell ZENworks 7 Desktop Management のワークステーションインベントリには、次の新しい機能が加えられています。

- ◆ [386 ページのセクション 28.4.1 「ZENworks Desktop Management の以前のバージョンから ZENworks 7 Desktop Management へのワークステーションインベントリのアップグレード」](#)
- ◆ [386 ページのセクション 28.4.2 「UNIX サーバでの Oracle9i インベントリデータベースのセットアップ」](#)
- ◆ [386 ページのセクション 28.4.3 「Windows サーバまたは UNIX サーバでの Oracle10g R1 インベントリデータベースのセットアップ」](#)
- ◆ [386 ページのセクション 28.4.4 「インベントリデータの迅速で簡単な表示」](#)
- ◆ [386 ページのセクション 28.4.5 「ZENworks 7 Inventory Storer のスループット向上」](#)
- ◆ [387 ページのセクション 28.4.6 「MS SQL 2000 インベントリデータベースへの Linux インベントリサーバと ConsoleOne の接続」](#)

## 28.4.1 ZENworks Desktop Management の以前のバージョンから ZENworks 7 Desktop Management へのワークステーションインベントリのアップグレード

ZENworks for Desktops 4.x または ZENworks 6.5x Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management へのワークステーションインベントリのアップグレードがサポートされています。

## 28.4.2 UNIX サーバでの Oracle9i インベントリデータベースのセットアップ

UNIX サーバ上に Oracle9i インベントリデータベースをセットアップできるようになりました。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「UNIX サーバでの Oracle9i インベントリデータベースの作成」を参照してください。

## 28.4.3 Windows サーバまたは UNIX サーバでの Oracle10g R1 インベントリデータベースのセットアップ

Windows サーバまたは UNIX サーバ上に Oracle10g R1 インベントリデータベースをセットアップできるようになりました。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「Oracle インベントリデータベースのセットアップ」を参照してください。

## 28.4.4 インベントリデータの迅速で簡単な表示

ワークステーションインベントリは、ZENworks インベントリデータベースからデータを簡単に検索して表示するクイックレポートという新しいツールを備えています。各クイックレポートには、インベントリコンポーネントのリストと、クイックレポートウィザードを使用して定義する照会が含まれています。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「クイックレポートを使用したインベントリデータの迅速で簡単な表示」を参照してください。

## 28.4.5 ZENworks 7 Inventory Storer のスループット向上

複数のルートサーバを展開し、Oracle 9.2.0.6 インベントリデータベースに直接インベントリデータを格納することで、ZENworks 7 Inventory Storer のスループットを向上させることができるようになりました。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「パフォーマンスに関するヒント」を参照してください。

## 28.4.6 MS SQL 2000 インベントリデータベースへの Linux インベントリサーバと ConsoleOne の接続

MS SQL Server 2000 のインベントリデータベースをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. MS SQL Server 2000 インベントリデータベースの設定
2. MS SQL 2000 を実行するインベントリデータベースへのインベントリサーバと ConsoleOne の接続

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ワークステーションインベントリ」の「MS SQL Server 2000 インベントリデータベースのセットアップ」を参照してください。

## 28.5 ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の変更点と新機能

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 には、ZENworks Support Pack としてのコード修正のほかに、次のような変更点と新機能が加えられています。

- ◆ 387 ページのセクション 28.5.1 「新しいネットワークオペレーティングシステムのサポート」
- ◆ 388 ページのセクション 28.5.2 「新しい管理対象デバイスプラットフォームのサポート」
- ◆ 388 ページのセクション 28.5.3 「Novel およびサードパーティ製品の更新」
- ◆ 388 ページのセクション 28.5.4 「アプリケーション管理の機能拡張」
- ◆ 389 ページのセクション 28.5.5 「ワークステーションインベントリの機能拡張」
- ◆ 389 ページのセクション 28.5.6 「クラスタリングのサポート」
- ◆ 389 ページのセクション 28.5.7 「アップグレードのための新しい代替手段」

### 28.5.1 新しいネットワークオペレーティングシステムのサポート

ZENworks 7 Server Management with SP1 では、次のネットワークオペレーティングシステムのサポートが追加されました。

- ◆ SLES 9 SP3 x86
- ◆ SLES 10 x86
- ◆ SLES 10 x86\_64
- ◆ OES NetWare SP2
- ◆ OES Linux SP2 x86\_64
- ◆ Windows Server 2003 SP1/R2 Standard Edition x86
- ◆ Windows Server 2003 SP1/R2 Enterprise Edition x86

## 28.5.2 新しい管理対象デバイスプラットフォームのサポート

ZENworks 7 Server Management with SP1 では、次の管理対象デバイスプラットフォームのサポートが追加されました。

- ◆ Windows XP Professional SP2
- ◆ Windows XP Tablet PC 2005

## 28.5.3 Novel およびサードパーティ製品の更新

ZENworks 7 Desktop Management にはまた、補完的な次の製品が付属しています。これらは前回のリリース以後に更新されたものです。

- ◆ Identity Manager 3 Bundle Edition。ZENworks 7 Desktop Management with SP1 を Windows 環境にインストールし、Novell eDirectory と Microsoft Active Directory 間のデータを同期することができます。
- ◆ Novell eDirectory 8.8。管理しているネットワークリソースのパフォーマンスを改善します。
- ◆ Novell iManager 2.6。Windows 環境における ZENworks 7 Desktop Management の管理業務を支援します。
- ◆ Novell ConsoleOne 1.3.6e。ZENworks オブジェクトと eDirectory 内のスナップインを設定し、管理します。
- ◆ インスタントメッセージャー。GroupWise Instant Messenger 2.0.1 に基づいています。
- ◆ Novell XTier 3.1.4。Middle Tier のパフォーマンスと安定性を改善するように更新されました。
- ◆ ZENworks のアセットインベントリコンポーネントである ZENworks 7 Asset Management with SP1。詳細については、ZENworks 7 Asset Management マニュアル Web サイトの「What's New in Support Pack 1」([http://www.novell.com/documentation/zam7/readme/readme\\_assetmgt\\_7sp1.html#sp1](http://www.novell.com/documentation/zam7/readme/readme_assetmgt_7sp1.html#sp1)) を参照してください。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management with SP1 には次のアップデート製品が含まれています。
  - ◆ ZENworks Data Management (Novell iFolder 2.1.7 により提供)
  - ◆ ZENworks Patch Management (PatchLink Update バージョン 6.2.2 により提供)
  - ◆ ZENworks Software Packaging (InstallShield AdminStudio version 7.5, ZENworks Edition により提供)
  - ◆ ZENworks Personality Migration version 11.0.4.6 (Computer Associates 社の Unicenter Desktop DNA により提供)

## 28.5.4 アプリケーション管理の機能拡張

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のアプリケーション管理は、次の新機能または機能拡張を提供します。

- ◆ [389 ページの「BITS サポート」](#)
- ◆ [389 ページの「Citrix Presentation Server 4 のサポート」](#)



## BITS サポート

Novell Application Launcher は、BITS (Microsoft Background Intelligent Transfer Services) 2.0 を使用して、アプリケーションファイルをワークステーションに転送することができます。BITS はアイドル状態のネットワーク帯域幅を使用してファイルを転送し、使用できるアイドル状態のネットワーク帯域幅の量に基づきファイルの転送率を増減させます。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「アプリケーション管理」にある「高度な配布 : BITS を使用したアプリケーションの転送」を参照してください。

## Citrix Presentation Server 4 のサポート

ZENworks は、Citrix Presentation Server 4 for Windows および Citrix Presentation Server 4 for Windows 2003 x64 をサポートするようになりました。

詳細については、181 ページの § 章 15 「ターミナルサーバアプリケーションのサポートの設定」を参照してください。

### 28.5.5 ワークステーションインベントリの機能拡張

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のワークステーションインベントリは、インベントリデータベースのセットアップで、次のサードパーティデータベース管理システムをサポートするようになりました。

- ◆ Windows または UNIX サーバ上の Oracle10g R2。
- ◆ Windows または UNIX サーバ上の Microsoft SQL Server 2005。

### 28.5.6 クラスタリングのサポート

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 は、Novell Cluster Services に対するサポートを拡大して、OES Linux SP2 サーバ上のクラスタ内にインストールした場合に「クラスタセーフ」となりました。詳細については、595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」を参照してください。

### 28.5.7 アップグレードのための新しい代替手段

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 には、ZENworks for Desktops または ZENworks Desktop Management の以前のバージョンをアップグレードするための、新しい代替手段が用意されています。詳細については、479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」を参照してください。



# ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード

# 29

次の項では、Novell® ZENworks® for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 7 Desktop Management に正常にアップグレードするのに実行する必要がある手順について説明します。次の順序で実行する必要があります。

1. [391 ページのセクション 29.1 「ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認」](#)
2. [391 ページのセクション 29.2 「eDirectory の確認」](#)
3. [392 ページのセクション 29.3 「eDirectory スキーマの拡張」](#)
4. [394 ページのセクション 29.4 「ConsoleOne のアップグレード」](#)
5. [395 ページのセクション 29.5 「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード」](#)
6. [418 ページのセクション 29.6 「ZENworks 7 Middle Tier Server のインストール」](#)
7. [418 ページのセクション 29.7 「管理対象ワークステーションのアップグレード」](#)

---

注：また、このセクションの内容は、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にアップグレードする場合にも使用できます。

---

## 29.1 ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認

ネットワークのワークステーションおよびサーバが必要な前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。

## 29.2 eDirectory の確認

ZENworks 7 Desktop Management をインストールし、Desktop Management の属性を使用してディレクトリスキーマを拡張する前とこれらの作業を実行した後の両方で、Novell eDirectory® ツリーの健全性を確認する必要があります。状態の確認に必要な情報については、次のリソースを参照してください。

- ◆ [Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) から利用可能な、Directory Health Check Procedures - Cross Platform - TID 10060600。
- ◆ Checking the OS and DS Health for Inconsistent ZENworks behavior、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10062741。
- ◆ eDirectory のスマートな解決方法 (<http://www.novell.com/cool solutions/nds>)

## 29.3 eDirectory スキーマの拡張

ZENworks 7 Desktop Management インストールプログラムを実行すると、eDirectory スキーマが拡張され、新しいタイプのディレクトリオブジェクトを作成できるようになります。スキーマ拡張は元に戻すことができない処理です。

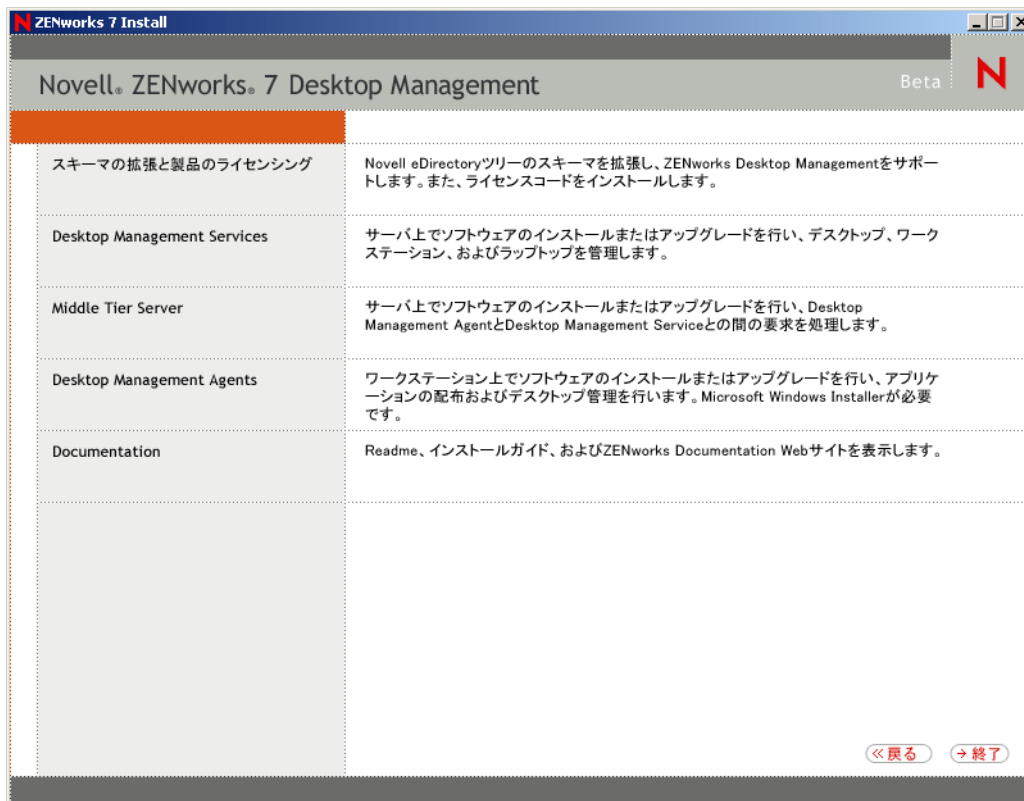
ZENworks 7 Desktop Management のインストールは、サポートされているバージョンの Windows および Novell Client™ がインストールされているワークステーションで実行する必要があります。75 ページの § 章 8 「管理ワークステーションまたはサーバの準備」を参照してください。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、スキーマを拡張する eDirectory ツリーに対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。
- 2 Novell ZENworks 7 Desktop Management CD をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell. ZENworks. 7		Beta	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks 7 Desktop Management] ページを表示します。



- 4 [スキーマの拡張と製品のライセンスング] を選択して、スキーマ拡張プログラムを起動します。
- 5 [ソフトウェア使用許諾契約] ダイアログボックスで、[受諾] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ダイアログボックスで、スキーマを拡張するツリーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [ZENworks ライセンス] ダイアログボックスに、ご自分の ZENworks ソフトウェアに割り当てられたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。
- ライセンスコードがない場合でも、ZENworks ソフトウェアをインストールできます。ソフトウェアのすべての機能がインストールされ、90 日間の評価期間中、使用できます。この評価期間中、または評価期間後に、もう一度インストールプログラムを実行し、[スキーマの拡張と製品のライセンスング] オプションを使用してライセンスコードを入力できます。
- 8 [インストール概要] ダイアログボックスで、[完了] をクリックしてスキーマを拡張します。
- 9 (オプション) [ZENworks Schema Extension completion (ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[ログファイルの表示] をクリックして適用された拡張を確認します。
- 10 [ZENworks Schema Extension completion (ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

- 11 eDirectory の状態確認を実行します。430 ページのセクション 30.3 「eDirectory の確認」を参照してください。

## 29.4 ConsoleOne のアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management を使用する場合、バージョン 1.3.6 以降の ConsoleOne® が必要になります。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインをサーバにインストールするのに、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバに ConsoleOne をインストールする必要がありました。必要に応じて、ワークステーションから ConsoleOne を実行するために、ConsoleOne ディレクトリをサーバからワークステーションにコピーできます。

ZENworks 7 では、Desktop Management サーバの ConsoleOne ディレクトリおよびローカルワークステーションの ConsoleOne ディレクトリの両方に、Desktop Management スナップインをインストールすることができます。3.2 SP3 から 7 にアップグレードする場合、スナップインはデフォルトでサーバにインストールされます。

ConsoleOne をバージョン 1.3.6 にアップグレードするときには、次の点を確認する必要があります。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management の管理に使用するすべての場所にインストールします。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインを含む ConsoleOne のコピーを最低 1 つ保持します。この操作により、アップグレードプロセス中も引き続き ZENworks for Desktops 3.2 SP3 を管理することができます。

ConsoleOne をアップグレードするには

- 1 (オプション) ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインを含む ConsoleOne のコピーを最低 1 つ作成します。

ConsoleOne 1.3.6 は ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインをサポートしていません。このスナップインを含む現在の ConsoleOne のコピーを作成するか、このスナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを作成する (ステップ 3 を参照) か、またはその両方を実行するかを選択できます。

たとえば、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Server に ConsoleOne 1.3.2 がインストールされており、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインが `sys:\public\mgmt\consoleone\1.2` ディレクトリにあるときに、このインストールのコピーを保持したい場合は、`sys:\public\mgmt\consoleone\zfd32` ディレクトリを作成し、1.2 ディレクトリのすべてのファイルおよびサブディレクトリを `zfd32` ディレクトリにコピーします。

- 2 ConsoleOne 1.3.6 をローカルワークステーションまたは ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバにインストールします。手順は次のとおりです。

**2a** *Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* (または *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD*) をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから `winssetup.exe` を起動します。

**2b** [*Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)*] を選択します。

**2c** [*Novell ConsoleOne*] を選択して、ConsoleOne 1.3.6 (または 1.3.6e) インストールプログラムを起動します。

**2d** 画面の指示に従って、ConsoleOne を ...\consoleone\1.2 ディレクトリにインストールします。

インストールが完了すると、...\consoleone\1.2 ディレクトリには、ConsoleOne 1.3.6 (SP1、1.3.6e) が含まれています。ConsoleOne を ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインを含む場所にインストールした場合には、3.2 SP3 スナップインは引き続き機能します。

**3** (オプション) ZENworks for Desktops 3.2 SP3 スナップインが設定された ConsoleOne 1.3.6 (または 1.3.6e) のコピーを保持する場合、**ステップ 2** で作成したインストールを別の場所にコピーします。

## 29.5 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバのアップグレード


ZENworks 7 Desktop Management Server インストールプログラムを使用することによって、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Server をアップグレードします。

アプリケーション管理 (Application Management)、ワークステーション管理 (Workstation Management)、ワークステーションイメージング (Workstation Imaging)、リモート管理 (Remote Management)、およびワークステーションインベントリ (Workstation Inventory) コンポーネントのアップグレード処理は非常に容易で、アップグレード時に計画しなければならない点はほとんどありません。

アップグレードインストールの手順は新規インストールの場合と同じです。次の手順では、インストールプログラムを起動し、アップグレード特有の項目を選択する必要がある部分についてのみ説明します。インストールの詳細については、**83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」** を参照してください。

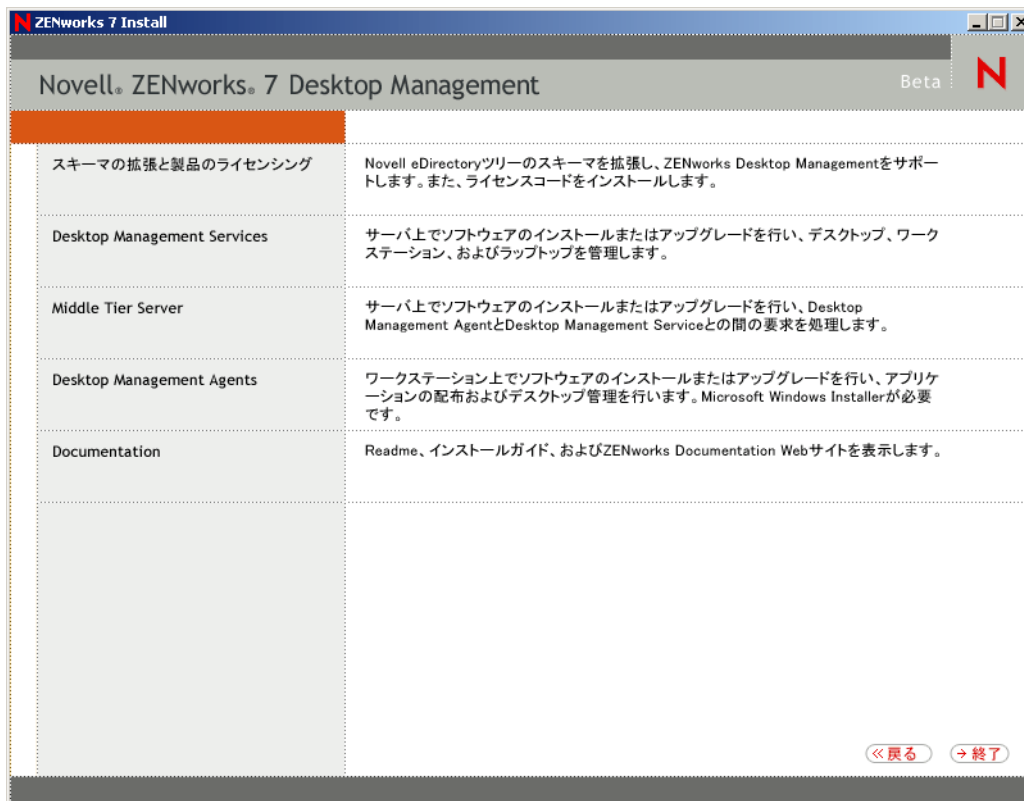
- 1** インストールを実行するワークステーションから、ZENworks 7 用にスキーマを拡張した eDirectory に対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。**85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」** を参照してください。
- 2** *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD*) をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 7 <span style="float: right;">Beta </span>	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。
	<a href="#">→ 終了</a>

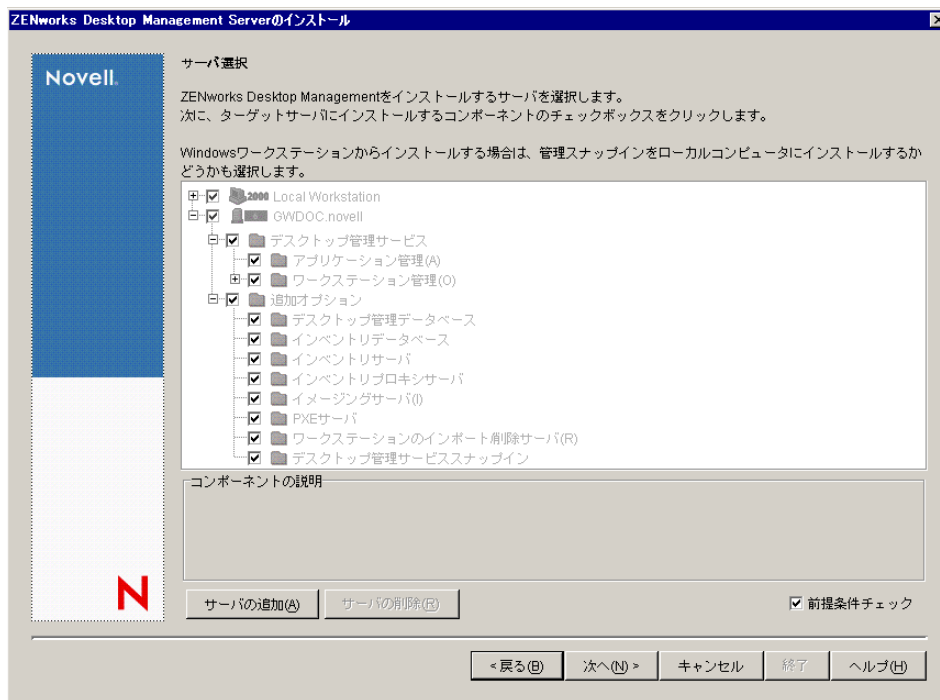


- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks 7 Desktop Management] ページを表示します。



- 4 [デスクトップ管理サービス] を選択して、ZENworks Desktop Management Server インストールプログラムを起動します。

- 5 画面の指示に従ってアップグレードするサーバを追加し、次のように [サーバ選択] ページを表示しておきます。



- 6 サーバにインストールしないコンポーネントの選択を解除します。
- たとえば、ワークステーションインベントリをアップグレードしない場合、[インベントリデータベース]、[インベントリサーバ]、および [インベントリプロキシサーバ] の選択を解除します。コンポーネントを選択すると、[コンポーネントの説明] ボックスに説明が表示されます。
- 7 (オプション) インストールプログラムで、ターゲットサーバが ZENworks 7 の前提条件を満たしているかどうかを確認しない場合は、[前提条件チェック] オプションの選択を解除します。
- [前提条件チェック] オプションを選択したときに、ターゲットサーバが前提条件を満たしていない場合は、サーバをアップグレードするか、このオプションの選択を解除してインストールプログラムを再実行するまで、そのサーバに対してインストールは実行されません。
- 8 [次へ] をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。
- 9 次の節の手順に従って、アップグレード処理を完了します。
- ◆ 399 ページのセクション 29.5.1 「アプリケーション管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 403 ページのセクション 29.5.2 「ワークステーション管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 406 ページのセクション 29.5.3 「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」
  - ◆ 407 ページのセクション 29.5.4 「リモート管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 407 ページのセクション 29.5.5 「ワークステーションインベントリのアップグレードの完了」

## 29.5.1 アプリケーション管理のアップグレードの完了

次の節では、ZENworks Desktop Management のアプリケーション管理コンポーネントのアップグレードを完了するための手順を説明します。

- ◆ 399 ページの「Application Launcher の起動方法の更新」
- ◆ 401 ページの「アプリケーションの更新」
- ◆ 401 ページの「システム要件から配布ルールへの移行」

### Application Launcher の起動方法の更新

ZENworks 3.2 サーバを ZENworks 7 Desktop Management サーバにアップグレードすると、nalexpld.exe および nal.exe が更新され、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェント (Desktop Management Agent) がインストールされたローカルディレクトリから naldesk または nalwin32 が起動するようになります。この更新は、Novell Client を使用しており、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントがインストールされなかった ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションに影響を及ぼします。

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションを更新するまでの間、ユーザが古いバージョンの Application Launcher にアクセスできるようにする必要があります。この解決策として、次の 2 つのシナリオが考えられます。

- ◆ 399 ページの「ユーザがネットワークに接続した状態で Application Launcher にアクセスする場合」
- ◆ 401 ページの「ユーザがネットワークから切断された状態で Application Launcher にアクセスする場合」

### ユーザがネットワークに接続した状態で Application Launcher にアクセスする場合

ユーザが主にネットワーク接続時に Novell Application Launcher™ にアクセスする場合、引き続きクライアントのログインスクリプトを使用して Application Launcher を起動することができます。更新された ZENworks 7 Desktop Management ファイルが存在するかどうかについてワークステーションを確認する方法の 1 つに、exist.exe ツールを使って c:\program\_files\novell\zenworks をチェックし、nalwin32.exe または naldesk.exe の有無を確認する方法があります。

---

注 : exist.exe ツールは、Novell ZENworks Cool Solutions ページ (<http://www.novell.com/cool solutions/tools/1067.html>) からダウンロードできます。このツールをログインスクリプトまたはアプリケーション起動スクリプトから実行することにより、指定したファイルが存在するかどうかを確認します。指定したファイルが検出されると、この .exe はゼロ (0) の ERROR\_LEVEL を返します。

---

exist.exe をダウンロードしたら、ログインスクリプトを編集して、ローカルで ZENworks for Desktops 3.2 Novell Application Launcher を実行するか、サーバから実行するか、または ZENworks 7 バージョンを実行するかを確認する行を挿入します。こうした行は、検索パスに sys:\public ディレクトリが追加された後に設定する必要があります。または exist.exe にフルパスを指定する必要があります。次の (または同様の内容の) 行を編集する必要があります。

```
@z:\nalwin32.exe
```

この行をどのように編集する必要があるかを次に示します。

```
; First check to see if the ZENworks 7 agent is present.If so, then
; you don't need to do anything; it will be launched automatically on
; the desktop.
#exist %<windir>\..\Program Files\Novell\Zenworks\naldesk.exe
; If the ZENworks 7 agent is NOT present, then keep checking
if ;"%ERRORLEVEL"!="0" then
; Check now to see if the Zfd 3.x App Launcher has been placed on the
;workstation
#exist %<windir>\system32\nalwin32.exe
; If the Zfd 3.x App Launcher has NOT been placed on the workstation
; then go and launch the App Launcher from the server.
if "%ERRORLEVEL"!="0" then
; Check our Windows 95 friends
#exist %<windir>\..\novell\client32\nalwin32.exe
if "%ERRORLEVEL"!="0" then
@z:\Zfd32NAL\nalwin32.exe
else
@%<windir>\..\novell\client32\nalwin32.exe
end
else
@%<windir>\system32\nalwin32.exe
end
end
end
```

このようにスクリプトを編集することにより、次に示す3つの方法のいずれかで Application Launcher が起動します。

- ◆ ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントのワークステーションコピーから (自動的に起動するため、ログインスクリプトから起動する必要はありません)
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher コードのローカルコピーから (存在する場合)
- ◆ ワークステーションに ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントおよびローカルの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher コードが存在しない場合はサーバから。

ZENworks for Desktops 3.2 ファイルをサーバから起動する場合とローカルで起動する場合の唯一の相違点は、Application Launcher をローカルで起動した場合、サーバに存在する更新済みの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher ファイルがワークステーションに配布されなくなる点です。移行中、この処理を必ずしも実行する必要はありません。ただし実行することが必要になった場合、ポリシーパッケージで Application Launcher の *li* コマンドラインスイッチを使用して、ローカルの ZENworks for Desktops 3.2 Application Launcher ファイルを更新することができます。詳細については、[ZENworks for Desktops 3.2 のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/lg/zdfs/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/zdfs/index.html) の『ZENworks for Desktops 3.2 管理ガイド』を参照してください。

---

注：ご自分のネットワーク環境に共有ワークステーションが存在する場合、どのタイミングでコンテナ、パーティション、またはサイトを ZENworks 7 にアップグレードするのにかかわらず、すべてのログインスクリプトを同時に編集する必要があります。これにより、古い Application Launcher ファイルが共有ワークステーションに配布される事態を回避することができます。

---

## ユーザがネットワークから切断された状態で Application Launcher にアクセスする場合

ユーザがネットワークから切断されていることが多い場合、Application Launcher または Application Explorer を [スタートアップ] フォルダから起動する必要があると ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントで指定することにより、Application Launcher を起動することができます。この方法は最も簡単ですが、コマンドラインパラメータをショートカットに追加することはできません。さらに、ユーザが [スタートアップ] フォルダからアイテムを削除してしまう可能性があります。

コマンドラインパラメータを指定する場合、Windows レジストリを編集して、NALWIN32 または NALDESK を HKLM\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run キーに追加することにより、Application Launcher を起動することができます。

## アプリケーションの更新

ZENworks 7 Desktop Management に移行する前に、アプリケーションの準備を実行する必要があります。ZENworks 7 Desktop Management を使用する場合、引き続きワークステーションに Novell Client をインストールするかどうか、または ZENworks Middle Tier Server を介した Desktop Management 機能の導入に移行するかどうかを決定する必要があります。

Novell Client を継続して使用する予定の場合、新しい Desktop Management 環境で機能するよう、アプリケーションオブジェクトに対して変更を実行する必要はありません。ただし、Novell Client の ZENworks に関する機能を更新するために、デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。

ワークステーションで Novell Client を使用せず、デスクトップ管理エージェントを導入する予定の場合、[143 ページの § 章 12 「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#) を参照してください。

企業のファイアウォールの外部に配布されるすべての MSI アプリケーションについて、[キャッシュの強制] を設定する必要があります。Microsoft MSI インストーラは、ZENworks Middle Tier Server を認識しないため、ブラウザを介して正しくアプリケーションを要求することができません。したがってインストールの前に、すべてのファイルをローカルワークステーションにキャッシュする必要があります。

## システム要件から配布ルールへの移行

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のアプリケーション配布を定義する場合に使用するシステム要件設定オプションの名前が、配布ルールに変更されました。この変更のおかげで、拡張された機能がよりの確に表現されるようになり、以前のバージョンの機能であるシステム要件と容易に区別できるようになりました。ZENworks 7 の配布ルールは、AND/OR のブール演算子と要件のグループ化を使用することによって、より柔軟な配布の条件をサポートしています。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、すべてのシステム要件で AND 演算子が使用されましたが、要件をグループ化する機能は存在しませんでした。

ZENworks 6.5 ( またはそれ以降の ) バージョンの Novell Application Launcher でのみ、配布ルールで新しい演算子のロジックおよびグループ化を処理できます。したがって、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher との後方互換性を維持するために、既存のシステム要件は、eDirectory ツリーのスキーマをアップグレードする際に、レガシーシステム要件として保持されます。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher と ZENworks 7 Application Launcher はどちらもレガシーシステム要件を処理できるので、ユーザは、使用する Application Launcher のバージョンに関係なく、レガシーシステム要件のアプリケーションを使用し続けることができます。

レガシーシステム要件から配布ルールに移行する場合は、次の点に注意する必要があります。

- ◆ 配布ルールは、アプリケーションオブジェクトの [配布ルール] ページ ( [アプリケーションオブジェクト] > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ ) で定義されます。
- ◆ レガシーシステム要件は、[配布ルール] ページで、[レガシー] ボタンをクリックし、[レガシー設定を編集する] をクリックすることによって利用できます。このオプションを使用して、既存のレガシーシステム要件を編集したり、新しいシステムレガシー要件を追加したりすることができます (たとえば、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher を実行しているワークステーションで利用可能な新しいアプリケーションオブジェクトを作成する場合)。
- ◆ レガシーシステム要件を持ち、配布ルールを持たないアプリケーションの [配布ルール] ページにアクセスすると、要件を配布ルールにインポートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。要件をインポートしないことを選択した場合でも、後で [配布ルール] ページの [レガシー設定をインポートする] オプションを使用してインポートできます。
- ◆ レガシーシステム要件を配布ルールにインストールするか、手動で配布ルールを定義すると、ZENworks 7 Application Launcher では配布ルールだけが処理されます。レガシーシステム要件は無視されます。ただし ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher は引き続きレガシーシステム要件を処理します。これは、Zfd 3.2 SP3 Application Launcher が新しい配布ルールを認識しないためです。したがって、まだ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher を実行しているワークステーションが存在する環境で配布ルールを使用する場合、配布ルールのリストとレガシーシステム要件のリストの両方を保持する必要があります。
- ◆ 配布ルールに対する変更内容は、レガシーシステム要件には追加されません。同様に、レガシーシステム要件に対する変更内容は配布ルールに追加されません。
- ◆ 配布ルールを定義し、レガシーシステムルールをインポートする場合、既存の配布ルールはレガシーシステムルールによって上書きされます。
- ◆ アプリケーションが利用できるようになる前に定義されていたオペレーティングシステムの要件は削除されます。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、配布および起動用にアプリケーションが利用可能になる前に、システム要件で OS プラットフォームを定義する必要がありました。この要件は削除されました。新しい動作では次のようなロジックが使用されます。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムのみで実行する場合、オペレーティングシステムの配布ルールを定義する必要があります。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムを必要としない場合は、配布ルールを定義する必要はありません。オペレーティングシステムの配布ルールが定義されていないアプリケーションはデフォルトで、サポートの対象になるすべてのプラットフォーム (Windows 98、Windows 2000、および Windows XP) で利用できます。

このような詳細を考慮して、システム要件から配布ルールへの円滑な移行のために次の手順をお勧めします。

- 1 各アプリケーションオブジェクトについて、レガシーシステムルールを配布ルールにインポートします。必要に応じて、ルールを変更します。
- 2 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Application Launcher を使用しているワークステーションをサポートできるよう、レガシーシステム要件を保持します。
- 3 アプリケーションの配布条件を変更する場合は、ZENworks 7 と ZENworks for Desktops 3.2 SP3 の双方の Application Launcher が確実に配布条件を適用できるよう、配布ルールとレガシーシステム要件の両方を変更します。

- 4 すべてのワークステーションが ZENworks 7 Application Launcher にアップグレードされた後 (460 ページのセクション 30.8 「ワークステーションのアップグレード」を参照)、レガシーシステム要件を削除します。

または

ワークステーションで ZENworks for Desktops 3.2 SP3 デスクトップ管理エージェントを引き続き実行することにより、ご自分の環境で Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートしている場合、レガシーシステム要件を削除しないでください。レガシーシステム要件と配布ルールを両方を保持する必要があります。

配布ルールとレガシーシステム要件の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“「アプリケーション管理」”にある“「配布ルール」”を参照してください。

## 29.5.2 ワークステーション管理のアップグレードの完了

初めて ZENworks 7 Desktop Management を eDirectory ツリーにインストールすると、追加の ZENworks 7 Desktop Management ポリシースキーマがこのツリーに配置されます。既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシーは、新しい ZENworks 7 Desktop Management のポリシーを作成する際、ツリーに自動的に移行されます。

次の節では、ZENworks Desktop Management のワークステーション管理コンポーネントのアップグレードを完了する場合に役立つ情報について説明します。

- ◆ 403 ページの「[検索ポリシーの更新](#)」
- ◆ 405 ページの「[ポリシーのアップグレードに関する追加情報](#)」

### 検索ポリシーの更新

eDirectory ツリー内に検索ポリシーが含まれているかどうかを確認します。検索ポリシーは、コンテナパッケージの一部であり、きわめて重要な役割を果たします。検索ポリシーを使用することにより、ZENworks エージェントが、ポリシーおよび環境設定情報を見つけ出すのにルートまで検索対象を拡げるのを回避することができます。

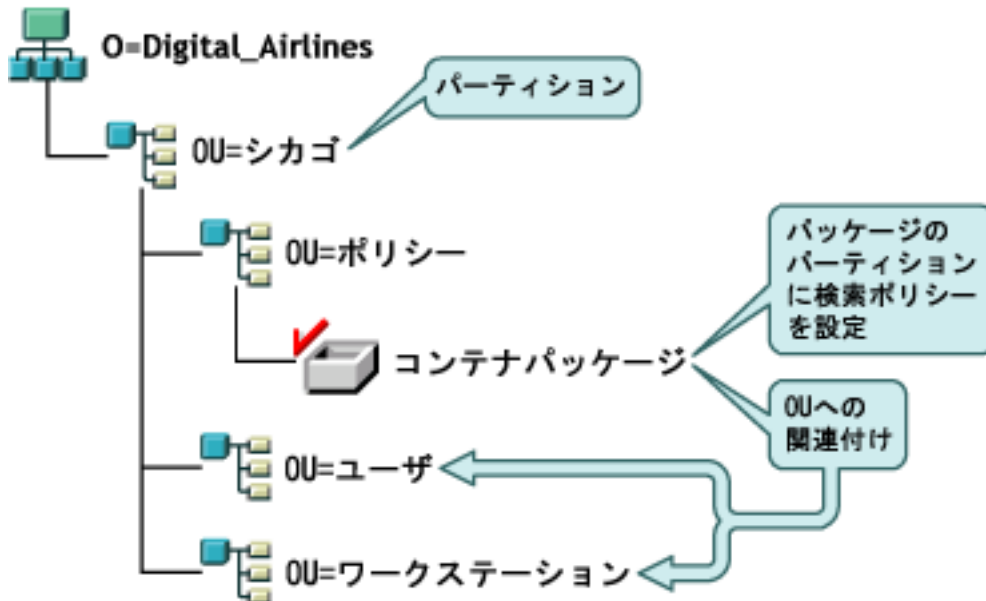
ツリーに検索ポリシーが含まれていない場合、ZENworks エージェントの最適なパフォーマンスを確保するために、新しい ZENworks 7 Desktop Management 検索ポリシーを作成する必要があります。ポリシーの動作について、次の点を考慮してください。

- ◆ ネットワーク環境内で Novell Client のみを使って認証を実行する予定の場合、検索ポリシーは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 の検索ポリシーと同じように機能します。
- ◆ ZENworks Middle Tier Server を使用し、Novell Client なしでデスクトップ管理エージェントを実行する予定の場合、ネットワークをアップグレードすると、検索ポリシーの動作が変更される可能性があります。

ZENworks 7 エージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 エージェントと異なり、コンテナのパーティション境界を認識しません。したがって、パーティション境界をベースとする既存の検索ポリシーが存在する場合、ZENworks 7 エージェントは、パーティション境界を越えてポリシーを検索するかどうかにかかわらず、コンテナパッケージが関連付けられているコンテナまで検索を実行します。

たとえば、次のツリーが設定されていると仮定します。

図 29-1 ZENworks for Desktops 3.2 検索ポリシーがパーティション境界を検索するように設定された eDirectory ツリー。



ZENworks for Desktops 3.2 SP3 では、ユーザまたはワークステーションのエージェントはまず、それぞれの親コンテナに対して検索を実行し、関連付けられた検索ポリシーを検索します。検索ポリシーでは、エージェントはポリシーに設定されているパーティション境界の範囲だけを検索する必要があることが定義されています。エージェントがポリシーを検索する際、エージェントは Chicago コンテナ (パーティション境界) までの範囲についてのみツリー内の検索を実行します。

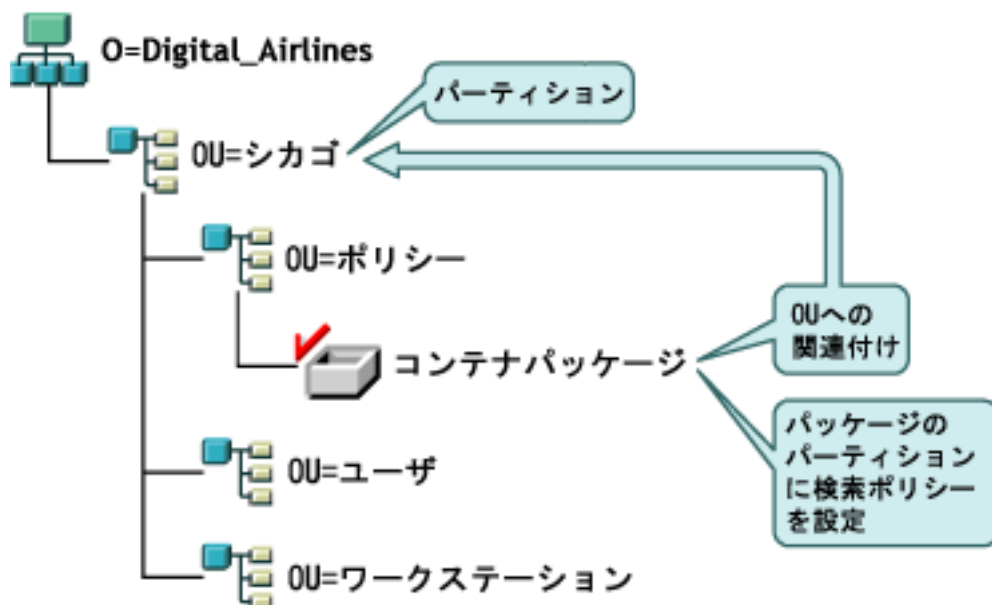
ZENworks 7 Desktop Management では、検索ポリシーで [パーティション] オプションを利用することができません。[パーティション] オプションは [関連付けられたコンテナ] オプションに置き換えられました。つまり、以前のバージョンの検索ポリシーが ZENworks 7 の [パーティション] オプションにアップグレードされていた場合、そのポリシーは [関連付けられたコンテナ] オプションに置き換えられます。こうした変更を想定していない場合、ポリシーの取得結果が異なるものになる可能性があります。

検索境界として [パーティション] オプションを使用したときと同様の検索結果が引き続き必要になる場合、コンテナパッケージ (設定された検索ポリシーを含むポリシーパッ



ページ)を、ユーザおよびワークステーションオブジェクトによって実行されるポリシー検索のパーティション境界である eDirectory コンテナに関連付ける必要があります。

図 29-2 ZENworks for Desktops 3.2 検索ポリシーが ZENworks 7 にアップグレードされた eDirectory ツリー。ポリシーは関連付けられたコンテナを検索するように設定されます。



ZENworks 7 エージェントがツリーを検索すると、検索ポリシーを含むコンテナパッケージが Chicago で検索され、Chicago までの範囲でポリシーの検索を実行します。このように範囲が制限されるのは、Chicago が、関連付けられたコンテナであるためです。

注：パッケージに関連付けられているコンテナによって、エージェントがツリー内のどの範囲まで検索を実行するかが決定されます。ディレクトリ内におけるパッケージの実際の保存場所が、検索範囲のベースになることはありません。検索ポリシー内の検索レベルは、パーティション境界ではなく、関連付けられたコンテナに適用されます。

### ポリシーのアップグレードに関する追加情報

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 および Novell Client がインストールされたワークステーションを新規 ZENworks 7 エージェントにアップグレードしたが、クライアントはそのままの場合、このワークステーションは、ZENworks 7 にアップグレードする前にディレクトリ内に作成されたポリシーを引き続き使用します。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 および Novell Client がインストールされたワークステーションを新規 ZENworks 7 エージェントにアップグレードしたが、クライアントは削除された場合、このワークステーションは、ZENworks 7 で有効なポリシーだけを使用します (たとえば、RAS 環境設定ポリシーは適用されません)。
- ◆ 新しいワークステーションに ZENworks 7 エージェントだけがインストールされた場合 (クライアントや ZENworks for Desktops 3.2 SP3 はインストールされない場合)、このワークステーションは、ZENworks 7 で有効なポリシーだけを使用します。
- ◆ 既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インストールをアップグレードせずに ZENworks 7 をインストールした場合、有効な ZENworks 7 ポリシーだけが設定されます。アップグレードを実行しない限り、元の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ポリシーは削除されます。

ZENworks for Desktops 3.2 ポリシーと ZENworks 7 Desktop Management ポリシーの比較については、[561 ページの付録 A 「ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い」](#) を参照してください。

### 29.5.3 ワークステーションイメージングのアップグレードの完了

ZENworks 7 Desktop Management をインストールした場合に、新しい ZENworks 7 Desktop Management のイメージ圧縮機能を利用できるようにするには、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションイメージングをアップグレードする必要があります。

- ◆ [406 ページの「イメージングサーバのアップグレード」](#)
- ◆ [406 ページの「ワークステーションに Linux パーティションが存在する場合のイメージングのアップグレード」](#)
- ◆ [406 ページの「ZENworks 7 起動前サービス \(Preboot Services\) へのアップグレード」](#)

#### イメージングサーバのアップグレード

ZENworks 7 ワークステーションイメージングサーバにアップグレードするには、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD*) を挿入して、ZENworks 7 Desktop Management インストールプログラムを実行し、ワークステーションイメージングをインストールします。この結果、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 イメージングエンジンがアップグレードされます。

#### ワークステーションに Linux パーティションが存在する場合のイメージングのアップグレード

ZENworks 7 はワークステーションイメージング用に新しい Linux ディストリビューションを使用するので、ZENworks for Desktops 3.2 から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合には、古い Linux パーティションを削除して ZENworks 7 Linux パーティションをインストールするか、またはローカルパーティションの使用を中止して ZENworks 7 起動前サービスを使用するようにする必要があります。

#### ZENworks 7 起動前サービス (Preboot Services) へのアップグレード

ワークステーションの Linux パーティションを削除するために ZENworks 7 起動前サービス (PXE) への移行を決定した場合、次の手順を実行します。

- 1 ネットワークサーバに ZENworks 7 起動前サービスをインストールします。

インストールおよび設定に関する手順については、このガイドの [83 ページのセクション 9.1 「Desktop Management Server のインストール手順」](#) および『*ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ZENworks デスクトップ管理起動前サービスの使用”」を参照してください。

DHCP サーバに対して環境設定の変更を実行することが必要になる場合があります。

- 2 ネットワークカードで提供された PXE を通じて、または pxebuilder.exe を使って生成した PXE ブート可能フロッピーを通じて ZENworks 7 起動前サービスが動作していることを確認します。
- 3 ConsoleOne で、[サーバポリシーパッケージ] の [ZENworks イメージングポリシー] を右クリックし、[プロパティ] > [一般] > [イメージングパーティション] の順にクリックします。

#### 4 ZENworks イメージングパーティションを無効にします。

この手順により、ワークステーションのハードドライブ上の Linux パーティションがブート不可になります。Linux パーティションが削除されるわけではありません。

Linux パーティションを削除する場合、ワークステーション上にベースイメージを復元した後、イメージオブジェクト内の既存の Linux パーティションを削除するオプションを選択する必要があります。サーバポリシーパッケージまたはワークステーションポリシーパッケージで参照することができます。

### 29.5.4 リモート管理のアップグレードの完了

ZENworks 7 Desktop Management コンソールは、ZENworks for Desktops 3.2 エージェントワークステーションと ZENworks 7 エージェントワークステーションの両方をリモートで管理することができます。ただし、ZENworks 7 Desktop Management は、新しいリリースで廃止された 3.2 の機能の移行を提供しない点に注意する必要があります。ZENworks for Desktops 3.2 エージェントは ZENworks 7 Desktop Management の機能拡張をいずれもサポートしません。

---

注：ワークステーションのリモート管理エージェントを管理するのに、リモート管理アプリケーションオブジェクトを使用する必要はなくなりました。リモート管理エージェントは、デスクトップ管理エージェントの一部としてワークステーションにインストールされるようになりました。

---

### 29.5.5 ワークステーションインベントリのアップグレードの完了

ワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 7 にアップグレードするには、次の作業をこの順序で実行します。

1. [407 ページ](#)の「**アップグレードを実行する前に確認すべき事項**」の情報を確認します。
2. [410 ページ](#)の「**アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業**」で説明されている作業を実行します。
3. [412 ページ](#)の「**ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリデータベースのアップグレード**」で説明されている作業を実行します。
4. [414 ページ](#)の「**ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード**」で説明されている作業を実行します。
5. [415 ページ](#)の「**ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーの手動による移行**」で説明されている作業を実行します。
6. [416 ページ](#)の「**データベース移行後の作業**」で説明されている作業を実行します。

#### アップグレードを実行する前に確認すべき事項

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のインベントリコンポーネントをアップグレードする前に、次の事項を確認します。

- ◆ [408 ページ](#)の「**Inventory Server**」
- ◆ [409 ページ](#)の「**Inventory Agent(インベントリエージェント)**」
- ◆ [410 ページ](#)の「**管理コンソール**」

## Inventory Server

- ◆ ZENworks for Desktops 3 または ZENworks for Desktops 3.2 SP1 には、ZENworks 7 Desktop Management に対して下位互換性がありません。ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする前に、インベントリツリーにある ZENworks for Desktops 3、ZENworks for Desktops 3 SP1、ZENworks for Desktops 3.2、ZENworks for Desktops 3.2 SP1、または ZENworks for Desktops 3.2 SP2 インベントリサーバをすべて ZENworks for Desktops 3.2 SP3 にアップグレードする必要があります。

ネットワークで ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 Desktop Management の両方をサポートするためには、最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をネットワークにインストールする必要があります。最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールしないで ZENworks 7 Desktop Management をインストールした場合、Novell eDirectory スキーマまたは ConsoleOne プラグインは ZENworks for Desktops 3.2 のポリシーをサポートしません。一方、最初に ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールした場合、ZENworks for Desktops 3.2 のスキーマとプラグインは ConsoleOne に配置されます。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のインストール後に ZENworks 7 Desktop Management をインストールするときに、ZENworks for Desktops 3.2 のスキーマとプラグインは維持されます。

インベントリサーバで ZENworks for Desktops 3 を実行している場合は、ZENworks for Desktops 3.2 および ZENworks for Desktops 3.2 SP3 をインストールし、インベントリサービスを開始して、サーバを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする少なくとも 1 つ前のデータベースを開く必要があります。ZENworks for Desktops 3.2 のインストール方法については、[Novell Support Web サイト \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) を参照してください。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management のインストール後は、ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションインベントリ、および ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のエージェントとポリシーは、次のように共存します。
  - ◆ ZENworks 7 Desktop Management エージェントのインベントリデータは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバに送信できず、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースに格納できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、インベントリデータを新規の ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバに送信できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバ、または ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からアップグレードした ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにのみインベントリデータを送信できます。
  - ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、インベントリデータを ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、インベントリデータを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバにロールアップできません。
  - ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データベースを ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、データベースを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 サーバにロールアップできません。
  - ◆ データを ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバには、正常に機能するためのパッチを適用する必要があります。

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データを別の eDirectory ツリー内の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップできません。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、トップダウン方式で ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする必要があります。インベントリデータのロールアップを実行する場合、ルートサーバ、中間サーバ、リーフサーバの順にアップグレードします。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management インベントリデータベースを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバに直接接続しないでください。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、インベントリ対象の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ワークステーションの .str ファイルを処理することができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバは、データベース情報を ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップすることができます。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバの .zip ファイルを処理することができます。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバの SCANDIR およびそのサブディレクトリにある ZENworks for Desktops 3.2 SP3 の .str ファイルと .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバと ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバで、同じインベントリデータベースにインベントリデータを直接格納しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのロールアップポリシーの次のレベルとして、別の eDirectory ツリーにあるインベントリサーバを指定しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のロールアップポリシーを、ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバに関連付けしないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバおよび ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバでは、ZENworks 7 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 ロールアップポリシーを使用することができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードしても、インベントリサーバの役割は変わりません。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバがスキャンデータを別の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバまたは ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする場合、この ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバには必要な認証パッチがインストールされている必要があります。認証パッチの詳細については、[414 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード」のステップ 2](#)を参照してください。

#### Inventory Agent( インベントリエージェント )

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、インベントリデータを新規の ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバに送信できません。ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops

3.2 SP3 インベントリサーバ、または ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からアップグレードした ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにのみインベントリデータを送信できます。

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 または ZENworks 7 Desktop Management インベントリエージェントは、ZENworks 7 Desktop Management に移行した ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーを使用することができます。または、新規に作成した ZENworks 7 Desktop Management インベントリポリシーを使用することができます。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.x エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。

### 管理コンソール

- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 と ZENworks 7 の両方の管理コンソールを使用して、同じ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリオブジェクトを設定しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3 管理コンソールを使用して ZENworks 7 Desktop Management インベントリデータおよびインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management ConsoleOne スナップインを使用して、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 と ZENworks 7 Desktop Management の両方のインベントリデータとインベントリオブジェクト (インベントリサービスオブジェクト、データベースオブジェクト、ワークステーションインベントリポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、データベースの場所ポリシーなど) を管理できます。

### アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

407 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」の説明を確認してから、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする前に、次の作業を実行する必要があります。

#### 1 Inventory Service を停止します。

- ◆ NetWare インベントリサーバ: サーバコンソールのプロンプトで、「stopser \*」と入力します。

Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:\system\invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。

- ◆ Windows 2000 インベントリサーバの場合: コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[ZENworks インベントリサービス] を選択して [停止] をクリックします。

#### 2 Sybase インベントリデータベースを停止します。

- ◆ NetWare の場合: Sybase コンソールプロンプトで、<Q> キーを押します。
- ◆ Windows 2000 の場合: コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Adaptive Server Anywhere - Zenworks for Desktops 3] を選択して [停止] をクリックします。

- 3 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、`java.nlm` をアンロードします ( サーバコンソールで、「`java -exit`」と入力する )。

---

**重要 :** このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

---

- 4 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。
- 5 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースのバックアップを作成して保存したことを確認します。
- 6 ConsoleOne から ZENworks for Servers 3.2 SP3 データベースにアクセスされていないことを確認します。
- 7 推奨される ZENworks 7 ワークステーションインベントリ要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。
- 8 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースで Oracle を実行している場合は、移行前に次の作業を実行する必要があります。

- 8a** データベースバッファキャッシュ用の実質的な容量として約 128MB を確保できるよう、`inventory_database_installation_path\init.ora_path\init.ora` の `db_block_buffers` の値を設定します。

`db_block_size` の値が 4096 である場合、最低値は 32768 となる必要があります。これにより、インベントリデータベースに対して 128MB のデータベースキャッシュが割り当てられます。`db_block_buffers` の現在の値が、128MB よりも大きい場合は、値を変更しないでください。

データベースの移行中に、Oracle の SGA(Shared Global) メモリを 30 ~ 40% 以上に設定することをお勧めします。

- 8b** インベントリデータベースが稼動していることを確認します。

- 8c** ORA-01555 およびロールバックセグメントに関連した他の問題によりデータベースの移行およびその他データの保存が失敗する場合は、より大きなロールバックセグメントが必要になります。

ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```
connect internal;
```

```
alter tablespace rbs add datafile  
'Inventory_database_installation_path\rbs2.ora' size 40M  
autoextend on next 50K maxsize 60M;
```

```
alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);
```

```
alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);
```

```
ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3
('Inventory_database_installation_path\log3.ora') SIZE 50M;
```

## ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリデータベースのアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management Server のインストール時に、Sybase をインストールすることを選択し、データベースファイルを上書きすることを選択しなかった場合、サーバのインストールプログラムは、既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースエンジンだけを自動的にアップグレードします。Sybase データベースのアップグレード中、既存のデータベースが移行可能であることを示すメッセージが表示されます。[はい] を選択した場合、既存のデータベースは、新しい ZENworks 7 Desktop Management データベースファイルによって上書きされます。[いいえ] を選択した場合、Inventory Service が初めて開始されたときにデータベースの移行が実行されます。

---

**重要 :** ZENworks 7 Desktop Management Server インストールプログラムを実行することによって、複数のインベントリサーバとデータベースサーバを同時にアップグレードできます。

ただし、既存の ZENworks for Desktops 3.2 ワークステーションインベントリポリシー、データベースの場所ポリシー、およびロールアップポリシーは手動で移行する必要があります。手動でデータベースオブジェクトを作成した場合は、データベースオブジェクトも移行する必要があります。ポリシーを手動で移行する方法の詳細については、[413 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

---

インベントリデータベースをアップグレードするには、次の作業を実行する必要があります。

- ◆ [412 ページの「データベースキャッシュサイズの変更」](#)
- ◆ [413 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)

### データベースキャッシュサイズの変更

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースで Sybase を実行している場合、Sybase キャッシュの値 (“-c” パラメータ) がサーバのメモリの 25% 以上に設定されていることを確認します。

NetWare データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには

- 1 インベントリデータベースへの接続をすべて切断します。
- 2 Sybase サーバを終了します。
- 3 sys:\system ディレクトリの mgmt dbs.ncf ファイルを開きます。
- 4 -c パラメータを変更します。たとえば、-c 128M に変更すると、128MB のキャッシュサイズが設定されます。
- 5 ファイルを保存します。
- 6 サーバコンソールでインベントリデータベースをロードします。「MGMTDBS」と入力します。

Windows データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには

- 1 Sybase サービスを終了します。



Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。

Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。

- 2 データベースサーバで、\dbengine ディレクトリから ntdbconfig.exe ファイルを実行します。

Ntdbconfig.exe は、Windows NT/2000 サーバで Sybase を使用している ZENworks データベース向けの ZENworks データベース設定ユーティリティです。このユーティリティを使用して、Sybase サービスを設定し直すことができます。

- 3 -c パラメータを変更します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 Sybase サービスを再起動します。Windows NT の場合、コントロールパネルで [サービス] をダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。

### 手動によるデータベースオブジェクトの移行

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 Oracle データベースオブジェクトが存在する場合や、手動で Sybase データベースオブジェクトを作成した場合は、インベントリの移行ツールを使用して手動でデータベースオブジェクトを移行する必要があります。詳細については、[413 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

- 1 ZENworks 7 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール]、[ZENworks インベントリ]、[インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [参照] をクリックして、移行の対象になるデータベースオブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含んだコンテナを参照して選択します。
- 3 **ステップ 2** でコンテナを選択した場合は、次の操作を実行します。
  - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナのデータベースオブジェクトを検索する場合は、[サブコンテナも検索する] チェックボックスを選択します。

[サブコンテナも検索する] チェックボックスは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
  - 3b 選択済みのコンテナに含まれる、移行対象のデータベースオブジェクトを検索する場合は、[Search for Database Objects (データベース オブジェクトの検索)] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[Search Context] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
  - 3c [検索] をクリックします。

指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 3.2 データベースオブジェクトが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4 [移行] をクリックします。
- 5 [閉じる] をクリックします。

- 6 ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[ZENworks データベース] タブの順にクリックします。
- 7 次のデータベースオブジェクトオプションに、インベントリデータベースに応じて表中に示されている適切な値が指定されていることを確認します。

データベースオブジェクトオプション	Sybase インベントリデータベースオブジェクトの値	Oracle8 インベントリデータベースオブジェクトの値
データベース (読み書き可能) ユーザ名	MW_DBA	MW_DBA
データベース (読み書き可能) パスワード	novell	novell
データベース (読み込み専用) ユーザ名	MW_READER	MWO_READER
データベース (読み込み専用) パスワード	novell	novell
データベース (書き込み専用) ユーザ名	MW_UPDATER	MWO_UPDATER
データベース (書き込み専用) パスワード	novell	novell

- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

### ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバのアップグレード

ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられたデータベースサーバをアップグレードしたことを確認します。

ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバのインストール先のサーバがインストールの要件を満たしている場合は、ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバをインストールすることによって、ZENworks for Desktops 3.2.SP3 インベントリサーバをアップグレードできます。ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバをインストールする方法については、[83 ページのセクション 9.1 「Desktop Management Server のインストール手順」](#)を参照してください。ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 3.2 SP 3 と同じ役割のセットをサポートします。したがって、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードするときは、そのインベントリサーバの役割が維持されます。

**重要 :** ZENworks for Desktops 3.2.SP3 インベントリサーバを ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースに接続している場合、インベントリサーバまたはデータベースを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードするときは、関連付けられているコンポーネントを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする必要があります (ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサービスでは ZENworks 7 Desktop Management 準拠のデータベースを操作しないでください。逆の場合も同じです)。

複数の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバを 1 台の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 データベースサーバに接続している場合、このデータベースサーバを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードするときは、関連付けられているすべての ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバもアップグレードする必要があります。

ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムでは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサービスオブジェクトだけが自動的に ZENworks 7 Desktop Management に移行されます。インベントリサービスを開始する前に、ZENworks for Desktops インベントリの移行ツールを使用して、既存の ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシーを ZENworks 7 Desktop Management のポリシーに手動で移行する必要があります。詳細については、415 ページの「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーの手動による移行」を参照してください。

ポリシーの移行後に、次の操作を実行します。

- 1 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリサーバがデータを ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバにロールアップする場合、ZENworks 7 Desktop Management Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) に含まれている次の認証パッチを適用する必要があります。

サーバ	ソースファイル	インベントリサーバ上のファイルコピー先
NetWare	\invzfd3xpatch\zfd32\common\public\zenworks\wminv\lib ディレクトリのすべてのファイル	Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\lib
	\invzfd3xpatch\zfd32\nw\java\bin\zenws.nlm	sys:\java\bin
	\invzfd3xpatch\zfd32\nw\java\lib ディレクトリのすべてのファイル	sys:\java\lib
Windows NT/2000	\invzfd3xpatch\zfd32\common\public\zenworks\wminv\lib ディレクトリのすべてのファイル	Inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\lib
	\invzfd3xpatch\zfd32\nt\zenworks\jre\1.2\bin\zenws.dll	sys_share\zenworks\jre\1.2\bin
	\invzfd3xpatch\zfd32\nt\zenworks\jre\1.2\lib ディレクトリのすべてのファイル	sys_share\zenworks\jre\1.2\lib

- 2 ワークステーションインベントリポリシーで、[コンピュータのスキャンを有効にする] オプションを選択して、インベントリデータをこのインベントリサーバに直接送信するすべてのインベントリ対象ワークステーションに対するインベントリスキャンを有効にします。
- 3 インベントリデータがロールアップされたら、このインベントリサーバにインベントリデータをロールアップするすべての下位レベルのインベントリサーバ上で実行する Sender サービスを開始します。

## ZENworks for Desktops 3.2 SP3 インベントリポリシーの手動による移行

- 1 ZENworks 7 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール]、[ZENworks インベントリ]、[インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [参照] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。
- 3 **ステップ 2** でコンテナを選択した場合は、次の操作を実行します。

**3a** 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの **Inventory Service** オブジェクトを検索する場合は、[サブコンテナも検索する] チェックボックスを選択します。

[サブコンテナも検索する] チェックボックスは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。

**3b** 選択済みのコンテナ内の **Inventory Service** オブジェクトに関連付けられた **Inventory** ポリシーを検索する場合は、[*Search for Policies* (ポリシーの検索)] チェックボックスを選択します。

このオプションは、[**Search Context**] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

**3c** [検索] をクリックします。

インベントリサービスオブジェクトに関連付けられ、指定したコンテキスト内で検索されたすべての **ZENworks for Desktops 3.2 SP3** インベントリポリシーが、[レポート] パネルに表示されます。

**4** [移行] をクリックします。

**5** [閉じる] をクリックします。

ポリシーの移行後、次の手順を実行します。

**1** **ZENworks 7 Desktop Management** の **Inventory Service** を開始します。

**Inventory Service** を開始すると、**Upgrade Service** により、**ZENworks for Desktops 3.2** データベーススキーマとインベントリデータが **ZENworks 7 Desktops Management** データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ **ConsoleOne** ユーティリティ (照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート) や **Storer** でデータベースにアクセスできます。

**2** ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、**ZENworks 7 Inventory Agent** の最新バージョンのディクショナリを取得します。ディクショナリ更新ポリシーの作成方法の詳細については、『**ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド**』の「**ワークステーションインベントリ**」を参照してください。

#### データベース移行後の作業

インベントリサーバをアップグレードし、インベントリデータベースを移行した後に、次の作業を実行する必要があります。

**1** **Inventory Service** を停止します。

**2** インベントリデータベースが **Oracle** を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。

**2a** `inventory_database_installation_path\_start.sql` ファイルから既存のエントリを削除し、次のエントリを追加します。

```
SET ECHO ON
```

```
CONNECT INTERNAL

SET ECHO OFF

STARTUP PFILE=
inventory_database_installation_path\path_to_init.ora\init.ora

SET NUMWIDTH 20

SET CHARWIDTH 40

SET ECHO ON

connect mw_dba;

SET ECHO OFF

alter table cim.t$product cache;

SET ECHO ON

connect internal

SET ECHO OFF

@<path to oracle home directory>/rdbms/admin/dbmspool

call sys.dbms_shared_pool.keep('zenworks.zenpin','P');

EXIT
```

- 2b** *ZENworks\_installation\_directory*\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip から *atlasperf\_alterfreelist.sql* を抽出して、SQLPLUS プロンプトで実行します。

- 2c** *Inventory\_server\_installation\_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip* から *oracle\common\oracle\_perf.sql* and *oracle\common\oracle\_perf2.sql* ファイルを実行して、データベースにパフォーマンス向上用のインデックスを追加します。 .
- 2d** *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* (または *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD*) の *\database\oracle8i\common* ディレクトリから *oracle\_dbexport\_perf.sql* を実行します。
- 3** (オプション) インベントリデータベースで MS SQL を実行している場合、MS SQL Query Analyzer で、次に示す適切なユーザログインによって *Inventory\_server\_installation\_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip* から次のスクリプトを実行します。
- 3a** CIM としてログインし、*mssql\_perf\_cim.sql* を実行します。
- 3b** *mw\_dba* としてログインし、*mssql\_perf\_mw\_dba.sql* を実行します。
- 3c** *zenworks* としてログインし、*mssql\_perf\_zenworks.sql* を実行します。  
これにより、インベントリデータベースのパフォーマンスが向上します。  
インベントリデータベースのパフォーマンスの改善方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ワークステーションインベントリ”」の「“Performance Tips (パフォーマンスに関するヒント)”」を参照してください。 .
- 4** Inventory Service を開始します。

## 29.6 ZENworks 7 Middle Tier Server のインストール

ZENworks Middle Tier Server のインストールは必須ではありません。ただし、ZENworks Middle Tier Server により、企業のファイアウォール内外のユーザおよびワークステーションが、Novell eDirectory に加えて Windows ファイルシステムまたは NetWare ファイルシステムにアクセスできるようになります。

ZENworks Middle Tier Server の役割と利点に関する詳細については、『*ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ZENworks Middle Tier Server とは”」を参照してください。

ZENworks Middle Tier Server のインストール手順に関する詳細については、113 ページの § 章 10 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」または 137 ページの § 章 11 「Desktop Management Server と Middle Tier Server の同一コンピュータへのインストール」を参照してください。

ZENworks Middle Tier Server with SP1 のインストール手順に関する詳細については、123 ページのセクション 10.2 「SP1 Middle Tier Server のインストール手順」を参照してください。

## 29.7 管理対象ワークステーションのアップグレード

ZENworks 7 にアップグレードする前に、Novell Client をアップグレードするか、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。eDirectory への認証のために、これらのいずれかが使用されます。Novell Client のアップグレードの詳細については、『*Novell Client for Windows Installation and Administration Guide*』を参照してください。

## 29.7.1 デスクトップ管理エージェントのインストール

Novell Client および ZENworks Server (ZENworks 7 では Desktop Management Server と呼びます) をアップグレードしたら、ユーザワークステーションにデスクトップ管理エージェントをインストールする必要があります。このインストールにより、ユーザワークステーションの Novell Application Launcher、Workstation Manager、およびリモート管理ソフトウェアがアップデートされます。また、ワークステーションインベントリエージェントとイメージセーフデータ (Image Safe Data) サービスもインストールされます。

ユーザが eDirectory への認証に使用する唯一の手段としてデスクトップ管理エージェントを導入した後、ユーザのワークステーションから Novell Client をアンインストールすることができます。この場合、ZENworks 7 Desktop Management は“クライアントレス”になります。つまり、ユーザがデスクトップ管理エージェントを使ってログインする場合に ZENworks 7 Desktop Management で Novell Client が不要になります。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ZENworks 7 環境での Novell Client の使用”」を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management コンポーネントが提供するワークステーションの機能は、デスクトップ管理エージェントをインストールした場合のみ利用できます。このことは、現在ワークステーションに Novell Client をインストールしている場合にも当てはまりません。デスクトップ管理エージェントをインストールすると、Novell Client によってインストールされていた Desktop Management の機能が削除され、選択した ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションの機能に置き換えられます。

現在 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 を使用しているワークステーションにデスクトップ管理エージェントをインストールする場合、次のタスクを実行する必要があります。

1. [419 ページの「MSI\(Microsoft Windows Installer\) エンジンの導入」](#)
2. [421 ページの「Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール」](#)
3. [425 ページの「インストールを実行する前に確認すべき事項」](#)
4. [426 ページの「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)

### MSI(Microsoft Windows Installer) エンジンの導入

デスクトップ管理エージェントインストールプログラム (zfdagent.msi) は、インストール処理中に MSI (Microsoft Windows Installer) のバージョン 1.1 以降を必要とします。インストールを実行する前に、各ワークステーションに MSI バージョン 1.11 以降を手動でインストールすることにより、Windows 98 ワークステーションをアップグレードすることができます。

次の表は、Windows ワークステーションにすでにインストールされている MSI のバージョンを示しています。

表 29-1 Windows ワークステーションにすでにインストールされている MSI のバージョン

Windows バージョン (Windows Version)	インストールされている MSI エンジンのバージョン
Windows 98 SE ワークステーション	他のアプリケーションによってインストールされない限り、MSI はインストールされません。
Windows 2000 ワークステーション	OS に MSI 1.1 が同梱されています。

---

Windows バージョン (Windows Version)	インストールされている MSI エンジンのバージョン
---------------------------------	----------------------------

---

Windows XP ワークステーション	OS に MSI 2.0 が同梱されています。
----------------------	-------------------------

---

注：同じバージョンの MSI エンジンを使用するために、すべてのユーザワークステーションをアップグレードするかどうかを検討する必要があります。

---

利便性を図るため、*Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* の \windows installer フォルダまたは *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* の \microsoft windows installer フォルダに、Windows 2000/XP または Windows 98 で利用可能な MSI 2.0 が格納されています。

Microsoft Windows インストーラに関する詳しい説明は、[MSI Web サイト \(http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp\)](http://www.microsoft.com/windows2000/techinfo/administration/management/wininstaller.asp) を参照してください。

MSI エンジンを実インストールする必要がある場合、ZENworks for Desktops 3.2 の Novell Application Launcher を使用して、単純なアプリケーションの配布で MSI エンジンを実インストールすることができます。

**1** 適切な MSI エンジンインストーラユーティリティを ZENworks サーバにコピーしてください。

**1a** (条件付き) *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD* から、適切な MSI エンジンインストーラユーティリティを ZENworks サーバにコピーします。

- ◆ \windows installer\98\instmsia.exe を実行すると、Windows 98 コンピュータに MSI 2.0 エンジンがインストールされます。
- ◆ \windows installer\nt\instmsiw.exe を実行すると、Windows 2000/XP コンピュータに MSI 2.0 エンジンがインストールされます。

**1b** (条件付き) *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD* から、適切な MSI エンジンインストーラユーティリティを ZENworks サーバにコピーします。

- ◆ \microsoft windows installer\98\instmsia.exe を実行すると、Windows 98 コンピュータに MSI 2.0 エンジンがインストールされます。

**2** ConsoleOne に新たにインストールされた ZENworks 7 Desktop Management (または SP1) スナップインを使って、インストールしようとしている MSI エンジンのバージョン用の単純なアプリケーションオブジェクトを作成します。

両方のバージョンのインストールを希望する場合は、各バージョンについて単純なアプリケーションオブジェクトを作成する必要があります。

**2a** 単純なアプリケーションに名前を付けた後、アプリケーションの実行可能ファイルの実行元になる場所のパスを入力します。パスには実行可能ファイルを含めません。Application Launcher によってワークステーションのターゲットディレクトリにファイルがコピーされるので、ファイルのコピー先になるターゲットディレクトリのパスを指定します。

例 : c:\temp\instmsiw.exe

**2b** MSI エンジンアプリケーションを配布する前にワークステーションで満たす必要のあるシステム要件を定義します。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**eDirectory** でのアプリケーションの設定」を参照してください。



- 2c** アプリケーションオブジェクトをユーザまたはインポート対象ワークステーションに関連付けた後、この関連付けに適用する特性を選択します。

Application Launcher または Workstation Helper が起動して、アプリケーションオブジェクトが利用できるようになったらすぐにアプリケーションオブジェクトが実行できるよう、この関連付けに対して [強制実行] 特性を選択することをお勧めします。

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「*eDirectory でのアプリケーションの設定*」を参照してください。

- 3** 単純なアプリケーションオブジェクトを設定します。

- 3a** [アプリケーションオブジェクトのプロパティ] ページで [配布オプション] タブ > [アプリケーションファイル] の順にクリックします。

Application Launcher がワークステーションにファイルをコピーできるよう、[アプリケーションファイル] リストにファイルを追加する必要があります。詳細については、ConsoleOne のオンラインヘルプを参照してください。

- 3b** [追加]、[ファイル] の順にクリックし、次のフィールドに入力します。

[ソースファイル] : ワークステーションにコピーする MSI エンジンインストーラユーティリティを選択します (たとえば、q:\public\zenworks\instmsiw.exe)。

[ターゲットファイル] : ファイル名を含む、ファイルのコピー先のフルパス (たとえば、c:\temp\instmsiw.exe) を入力します。

- 3c** [OK] をクリックしてリストにファイルを追加し、[OK] をクリックしてアプリケーションオブジェクトの情報を保存します。

- 3d** Windows 2000 または Windows XP にインストールしている場合、[アプリケーションオブジェクトのプロパティ] ページで [実行オプション] タブ [使用環境] の順にクリックし、[通常の実行] オプションを選択します。そして、[実行プログラムのセキュリティレベル] を [保護なしのシステムユーザとして実行] に設定し、[OK] をクリックしてアプリケーションオブジェクトの情報を保存します。

[関連付け] タブで [強制実行] を選択した場合、Application Launcher が起動してアプリケーションオブジェクトを利用できるようになった直後に MSI エンジンがインストールされます。

MSI エンジンにより実行可能ファイルがインストールされますが、このファイルは、デスクトップ管理エージェント MSI をインストールするために後で使用されます。MSI エンジンインストーラユーティリティは、このファイル (msiexec.exe) をワークステーションの `windows_drive:windows_directory\system\system` ディレクトリにインストールします。

## Novell Application Launcher を使用したデスクトップ管理エージェントの配布およびインストール

zfdagent.msii パッケージは、多数のファイルをインストールし、ワークステーションに対してさまざまな環境設定の変更を実行する複雑なアプリケーションです。デスクトップ管理エージェントをインストールする最も効率的な方法は、Novell Application Launcher を使ってエージェントを MSI アプリケーションとしてワークステーションに配布する方法です。Novell Application Launcher は、エージェント MSI パッケージを配布するだけでなく、Windows Installer を呼び出してワークステーションへのインストールを実行します。

ここでは、Application Launcher を使って配布するよう MSI パッケージを設定する手順について説明します。

- ◆ 151 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定」
- ◆ 152 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更」
- ◆ 153 ページの「MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加」

## MSI アプリケーションオブジェクトの作成と設定

- 1 ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトを作成するコンテナを右クリックし、[新規] > [オブジェクト] の順にクリックして、[新規オブジェクト] ダイアログボックスを開きます。
- 2 [新規アプリケーション] ダイアログボックスで、[.MSI ファイルが含まれるアプリケーション] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
- 3 .msi ファイルをコピーしたネットワークの位置のパスを指定します。
- 4 [次へ] をクリックし、必要に応じてフィールドを変更して、アプリケーションオブジェクトをカスタマイズします。
- 5 [次へ] をクリックし、エージェント MSI の配布に先立って、ワークステーションが満たす必要のある配布ルールを定義します。
- 6 [次へ] をクリックして、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトを、配布先であるユーザまたはワークステーションに関連付けます。
- 7 [次へ] をクリックし、アプリケーションオブジェクトの設定を確認したら、[終了] をクリックしてアプリケーションオブジェクトを作成します。

---

**重要：** エージェント MSI ( または何らかの MSI パッケージ ) を Novell Application Launcher を使って配布する前に、Agent の MSI アプリケーションオブジェクトが [強制キャッシュ] に設定されており、eDirectory と Active Directory( 使用されている場合 ) で、ローカルワークステーション上のユーザのアカウント情報が同期されていることを確認してください。

---

MSI アプリケーションオブジェクトの作成に関する詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“Windows Installer (.MSI) ファイルからアプリケーションオブジェクトを作成する”」を参照してください。

## MSI アプリケーションオブジェクトにおけるインストール対象機能の変更

ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントの MSI パッケージより、デフォルトで次のすべての機能がインストールされます。

- ◆ [アプリケーション管理] : Novell Application Launcher を使用することにより、管理者がインストールして管理できるワークステーションアプリケーションに、ユーザがアクセスできるようにします。
- ◆ **Workstation Manager:** 管理者が eDirectory を使って、ワークステーションを設定、管理できるようにします。
- ◆ **ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory):** 管理者が、スキヤンの対象になるワークステーションからハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を収集できるようにします。この機能を選択すると、Workstation Manager がデフォルトで選択されます。

- ◆ [リモート管理] : 管理者が管理コンソールからリモートワークステーションを管理できるようにします。
- ◆ ミラードライバ: ビデオアダプタを独立して使用し、他のリモートコントロールソリューションと共存させることができます。この機能が選択されていると、MSI インストールでは、ビデオドライバのチェックが無視され、Windows のすべてのメッセージが非表示になります。ミラードライバを必要としない場合は、選択を解除できます (最適化が無効になります)。

Mirror Driver は、まだ Microsoft によって署名されていません。

- ◆ ワークステーションイメージング (**Workstation Imaging**): 管理者が、ワークステーションのハードドライブのイメージを取得し、それをネットワークを介して他のワークステーションに配置できるようにします。

このデフォルトのインストールを変更する場合、MSI 機能を、zfdagent.msi アプリケーションオブジェクトのパブリックプロパティとして追加できます。次の手順を使用して、インストール対象機能のリストを変更します。

- 1 アプリケーションオブジェクトの [MSI] タブの [プロパティ] ページで、[追加] をクリックして、[追加するプロパティを選択してください] ダイアログボックスを表示します。
- 2 [値の名前] フィールドに、プロパティ名として「ADDLOCAL」(すべて大文字) と入力し、[値のデータ] フィールドでプロパティの値を指定します。プロパティ値として次の機能名を 1 つ以上使用します。
  - ◆ ApplicationLauncher
  - ◆ WorkstationManager
  - ◆ RemoteManagement
  - ◆ MirrorDriver (このプロパティは、RemoteManagement プロパティを追加しなければ機能しません)
  - ◆ Imaging
  - ◆ インベントリ (Inventory)

コンマ (スペースなし) で区切ることで、これらの値を 2 つ以上リストに追加できます。たとえば、Application Launcher と Workstation Manager を機能として追加する場合、プロパティとして「ADDLOCAL」と入力し、そのプロパティの値として ApplicationLauncher と WorkstationManager を入力します。

- 3 [OK] をクリックして、プロパティを [プロパティ] リストに追加します。

### Agent の MSI アプリケーションオブジェクトに対するプロパティの追加

次の表に、変更可能なその他のプロパティとその値 (値に対する定義を含む) の一覧を示しています。この表に示されるプロパティで値が指定されていない場合、MSI パッケージはデフォルト値を使用します。

表 29-2 Desktop Management Agent MSI アプリケーションオブジェクトで利用可能なプロパティと値

プロパティ	値	意味
ADDLOCAL	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ WorkstationManager</li> <li>◆ RemoteManagement</li> <li>◆ MirrorDriver</li> <li>◆ インベントリ (Inventory)</li> <li>◆ Imaging</li> </ul>	インストールする機能をカンマで区切った一覧。
LOGIN_PASSIVE_MODE	0	ユーザログイン時に <b>Novell</b> ログインを表示します。
	1	デフォルトです。ユーザログイン時に標準の <b>Microsoft</b> ログインを表示します。
<p>注：ダイナミックローカルユーザを使用する場合、このプロパティに、値ゼロ (0) を割り当てる必要があります。</p>		
EDITABLE_MT_ADDRESS	1	認証が行われる <b>ZENworks Middle Tier</b> の IP アドレスをユーザが変更できるようにします。 <b>Novell Client</b> がインストールされていない場合のみ利用できます。
	0	デフォルトです。ユーザは <b>Middle Tier</b> のアドレスを指定することができません。
<p>このプロパティ用の値は、<b>Novell Client</b> がワークステーションにインストールされていない場合のみ有効です。<b>Novell Client</b> がすでにインストールされている場合、<b>zfdagent.msi</b> をインストールしてもその設定は有効になりません。</p> <p><b>zfdagent.msi</b> のインストール後に <b>Novell Client</b> が削除されると、これらの設定は有効になります。</p>		
STARTUP_APPEXPLORER	1	Windows 起動時に <b>Application Explorer</b> を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に <b>Application Explorer</b> を起動しません。
STARTUP_APPWINDOW	1	Windows 起動時に <b>Application Window</b> を起動します。
	0	デフォルトです。Windows 起動時に <b>Application Window</b> を起動しません。
MT_SERVER_ADDRESS	このプロパティは、 <b>ZENworks Middle Tier Server</b> の IP アドレスまたは DNS 名を指定します。 <b>Middle Tier Server</b> を使用していない場合、このプロパティを指定する必要はありません。	

プロパティ	値	意味
HTTP_PORT	0-65536	このプロパティは、 <b>Middle Tier Server</b> と通信する場合にデスクトップ管理エージェントによって使用される HTTP ポートを指定します。 <b>Middle Tier Server</b> を使用している場合、このプロパティを追加して、その値を定義する必要があります。
	80	デフォルトの HTTP ポートです。
NAL_SINGLE_TREE	1	<b>Novell Application Launcher</b> が、1 つのツリー内のアプリケーションにしかアクセスできないよう制限します。
	0	デフォルトです。 <b>Application Launcher</b> がアプリケーションにアクセスするのに複数のツリーにアクセスできるようにします。
ZENWORKS_TREE	任意のツリー名	このプロパティにより、 <b>eDirectory</b> ツリーを <b>ZENworks</b> ツリーとして使用するよう指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>Workstation Manager</b> がインストールされている場合、このプロパティで指定されたツリーが、<b>Workstation Manager</b> によるポリシーの検索対象ツリーになります。</li> <li>◆ <b>NAL_SINGLE_TREE</b> プロパティが設定され、<b>Novell Application Launcher</b> がインストールされている場合、このツリーは、<b>Application Launcher</b> がアプリケーションを検索する唯一のツリーになります。</li> </ul>

## インストールを実行する前に確認すべき事項

管理対象デバイスに Symantec PCAnywhere\* 10.x (またはそれ以前のバージョン) をインストールしていて、Remote Management Agent をアップグレードする場合には、次の情報に注意する必要があります。

- ◆ [425 ページの「Desktop Management Agent をインストールし、ミラードライバオプションを選択する \(推奨\)」](#)
- ◆ [426 ページの「ミラードライバオプションを選択せずに Desktop Management Agent をインストールする」](#)

## Desktop Management Agent をインストールし、ミラードライバオプションを選択する (推奨)

Desktop Management Agent のインストール時に [ミラードライバ] オプションを選択すると、管理対象デバイスが低解像度または VGA モードに移行することがあります。これは、PCAnywhere が、フックドライバ技術に基づく Remote Control ソリューションとの共存をサポートしていないからです。ZENworks 6.5 (以降) に付属する Remote Management フックドライバは無視され、アップグレード中に管理デバイスにはインストールされません。

---

注: 次のステップを1度だけ実行する必要があります。続くアップグレードではこれらのステップを必要としないので、インストール時には [ミラードライバ] オプションを選択することを推奨します。

---

この問題を解決するには

- 1 管理対象デバイスにシステムビデオドライバを再インストールします。
- 2 管理対象デバイスに PCAnywhere を再インストールします。
- 3 [ミラードライバ] オプションを選択して、ZENworks Management Agent をインストールします。

ミラードライバオプションを選択せずに **Desktop Management Agent** をインストールする

[ミラードライバ] オプションを選択しなかった場合には、低解像度または VGA 画面の問題は生じません。ただし、[ミラードライバ] を選択しなかった場合には、リモートセッションのパフォーマンスは最適化されません。このため、ZENworks 6.5 の開始時に無視された、`rmsetdrv.exe` を起動して、フックドライバを有効にする必要があります。

- 1 [ミラードライバ] オプションを選択せずに、ZENworks Management Agent をインストールします。
- 2 `rmsetdrv.exe /hook` を実行します。

---

注: [ミラードライバ] オプションを選択しなかった場合、エージェントをアップグレードするたびに `rmsetdrv.exe` を起動することが必要になり、ZENworks 6.5 の開始時にはフックドライバが無視されるので、エージェントのアップグレード時には [ミラードライバ] オプションを選択することを推奨します。

---

`rmsetdrv.exe` の詳細については、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10089810 を参照してください。

### 手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール

一度に1つのワークステーションをインストールする場合、手動で `zfdagent.msi` をインストールすることができます。詳細については、[144 ページのセクション 12.2 「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#) を参照してください。

手動でコマンドラインパラメータおよび MSI インストールプロパティを入力した場合、パラメータフィールドの表示例は次のようになります。

```
/i zfdagent.msi /qb STARTUP_APEXPLOER=1
```

アプリケーションオブジェクトの [パラメータ] フィールドには、行の長さに関する制限が設定されているため、多数の MSI インストールプロパティを追加できない場合があります。この制限を回避するには、次に示す2つの方法のいずれかを実行します。

- ◆ InstallShield AdminStudio ZENworks Edition を使用して、.mst ファイルを作成します。

InstallShield AdminStudio の使用に関する詳細については、『[AdminStudio 6 ZENworks Edition Installation Guide \(http://www.novell.com/documentation/zenworks7/pdfdoc/spinstall/AS6ZENWorksInstallGuide.pdf\)](http://www.novell.com/documentation/zenworks7/pdfdoc/spinstall/AS6ZENWorksInstallGuide.pdf)』を参照してください。

- ◆ Microsoft MSI エディタ (orca.exe) を使用することにより、zfdagent.msi ファイルのプロパティテーブルを編集して、必要になるすべてのデスクトップ管理エージェント MSI インストールプロパティを追加します。新たに追加されたすべてのプロパティを含む、編集済みの MSI をインストールすることができます。

orca.exe のインストール方法と使用方法に関する詳細については、[Microsoft サポート Web サイト \(http://support.microsoft.com\)](http://support.microsoft.com) の [マイクロソフト サポート技術情報 255905 \(http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=KB;en-us;255905&\)](http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=KB;en-us;255905) を参照してください。





# ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード

# 30

次の節では、Novell® ZENworks® for Desktops 4 SP1b または ZENworks for Desktops 4.0.1 (以下では 2 つとも ZENworks for Desktops 4.x と表記) から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする際に役立つ情報について説明します。

注: この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

この節の最初の部分では、バージョン 4.x から 7 へと段階的にアップグレードするうえで役立つ情報を紹介します。

- ◆ [429 ページのセクション 30.1 「ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性」](#)

正しくアップグレードするには、次の順序で作業を行います。

1. [430 ページのセクション 30.2 「ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認」](#)
2. [430 ページのセクション 30.3 「eDirectory の確認」](#)
3. [430 ページのセクション 30.4 「eDirectory スキーマの拡張」](#)
4. [433 ページのセクション 30.5 「ConsoleOne のアップグレード」](#)
5. [434 ページのセクション 30.6 「ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード」](#)
6. [455 ページのセクション 30.7 「Middle Tier Server のアップグレード」](#)
7. [460 ページのセクション 30.8 「ワークステーションのアップグレード」](#)

## 30.1 ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性

次の表は、ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする過程で、バージョン 4.x と 7 の主要コンポーネントが連係する様子を示しています。各行を横にたどり、バージョン / コンポーネントの互換性を確認してください。

表 30-1 ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性

デスクトップ管理エージェントのバージョン	ZENworks Middle Tier のバージョン	Desktop Management Server のバージョン
4.x	4.x	4.x
4.x	4.x	7
4.x	7	7
7	7	7

## 30.2 ZENworks 7 をインストールするための前提条件の確認

ネットワークのワークステーションおよびサーバが必要な前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。

## 30.3 eDirectory の確認

ZENworks 7 の属性を使ってディレクトリスキーマを拡張する前と後の両方について、eDirectory™ ツリーの状態を確認する必要があります。状態の確認に必要な情報については、次のリソースを参照してください。

- ◆ Directory Health Check Procedures - Cross Platform: [Novell Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) で利用可能な TID 10060600。
- ◆ Checking the OS and DS Health for Inconsistent ZENworks behavior: [Novell Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) で利用可能な TID 10062741。
- ◆ eDirectory のスマートな解決方法 (<http://www.novell.com/coololutions/nds>)


## 30.4 eDirectory スキーマの拡張

ZENworks 7 Desktop Management インストールプログラムによって、新しい ZENworks 7 の属性に合わせて eDirectory スキーマが拡張されます。このスキーマ拡張は追加形式であり、ZENworks for Desktops 4.x の拡張は削除されません。スキーマ拡張は元に戻すことができない処理です。

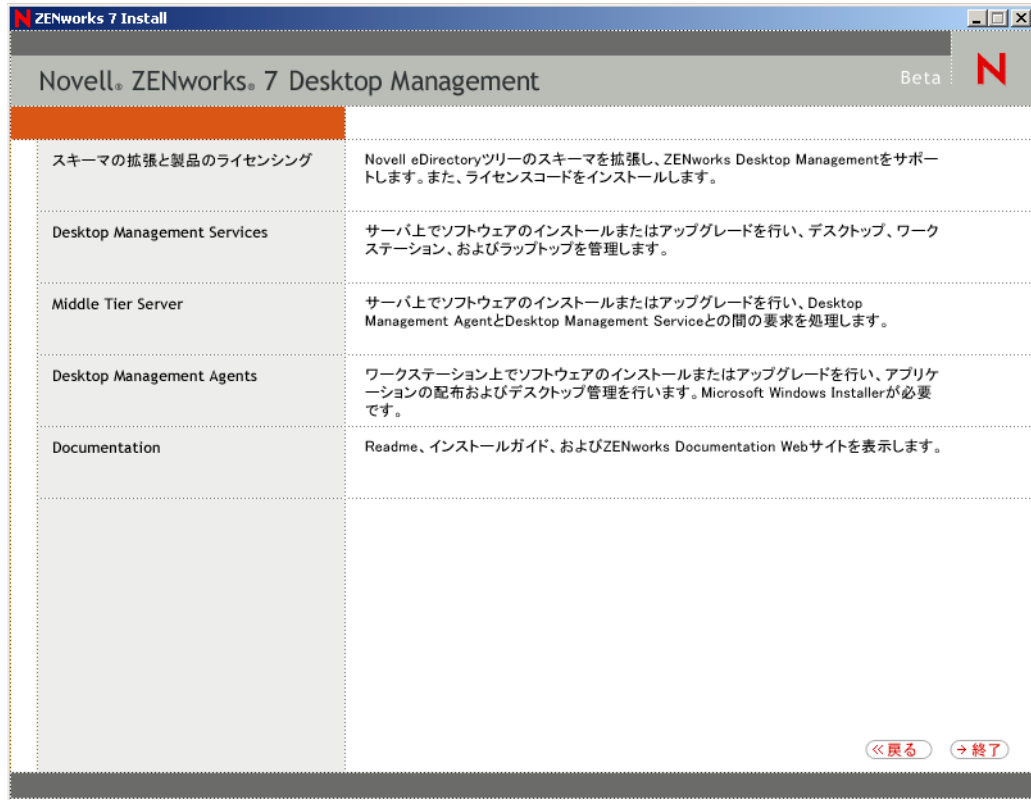
ZENworks 7 Desktop Management のインストールは、サポートされているバージョンの Windows および Novell Client™ がインストールされているワークステーションで実行する必要があります。[37 ページの § 章 3 「インストールを実行するワークステーションの前提条件」](#) を参照してください。

- 1 インストールを実行するワークステーションから、スキーマを拡張する eDirectory ツリーに対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。
- 2 *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 7 <span style="float: right;">Beta </span>	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。
	<a href="#">→ 終了</a>

- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks 7 Desktop Management] ページを表示します。



- 4 [Schema Extensions and Product Licensing (スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] を選択して、スキーマ拡張プログラムを起動します。
- 5 [ソフトウェア使用許諾契約] ダイアログボックスで、[受諾] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [オブジェクト作成用 eDirectory ツリー] ダイアログボックスで、スキーマを拡張するツリーを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 [ZENworks ライセンス] ダイアログボックスに、ご自分の ZENworks ソフトウェアに割り当てられたライセンスコードを入力し、[次へ] をクリックします。
- ライセンスコードがない場合でも、ZENworks ソフトウェアをインストールできます。ソフトウェアのすべての機能がインストールされ、90 日間の評価期間中、使用できます。この評価期間中、または評価期間後に、もう一度インストールプログラムを実行し、[Schema Extensions and Product Licensing (スキーマの拡張と製品のライセンス契約)] オプションを使用してライセンスコードを入力できます。
- 8 [インストール概要] ダイアログボックスで、[完了] をクリックしてスキーマを拡張します。
- 9 (オプション) [ZENworks Schema Extension completion (ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[ログファイルの表示] をクリックして適用された拡張を確認します。
- 10 [ZENworks Schema Extension completion (ZENworks スキーマ拡張の完了)] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

- 11 eDirectory の状態確認を実行します。430 ページのセクション 30.3 「eDirectory の確認」を参照してください。

## 30.5 ConsoleOne のアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management を使用するには、ConsoleOne® バージョン 1.3.6 が必要です。

この節の情報は、ConsoleOne 1.3.6e にアップグレードする場合にも使用できます。これは、ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD で利用できます。

ZENworks for Desktops 4.x では、ZENworks for Desktops 4.x スナップインを ZENworks for Desktops 4.x Server にインストールするためには、同じサーバに ConsoleOne をインストールしておく必要がありました。必要に応じて、ワークステーションから ConsoleOne を実行するために、ConsoleOne ディレクトリをサーバからワークステーションにコピーできます。

ZENworks 7 では、デスクトップ管理スナップインを Desktop Management Server 上の ConsoleOne ディレクトリと、ローカルワークステーション上の ConsoleOne ディレクトリの両方にインストールできます。デフォルトでは、スナップインはサーバを 4.x から 7、または 4.x から 7SP1 にアップグレードするときにサーバにインストールされます。

ConsoleOne をバージョン 1.3.6 (または 1.3.6e) にアップグレードするときには、次の点を確認する必要があります。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management の管理に使用するすべての場所にインストールします。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x スナップインを含む ConsoleOne のインストールデータのコピーを最低 1 つ保持しておきます。これによって、アップグレード処理中に ZENworks for Desktops 4.x を継続して管理できます。

ConsoleOne をアップグレードするには

- 1 (オプション) ZENworks for Desktops 4.x スナップインを含む ConsoleOne のインストールデータのコピーを少なくとも 1 つ作成します。

ConsoleOne 1.3.6 は ZENworks for Desktops 4.x スナップインをサポートしています。このスナップインを含む現在の ConsoleOne のコピーを作成するか、このスナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを作成する (ステップ 3 を参照) か、またはその両方を実行するかを選択できます。

たとえば、ZENworks for Desktops 4.x Server に ConsoleOne 1.3.5 がインストールされており、ZENworks for Desktops 4.x スナップインが `sys:\public\mgmt\consoleone\1.2` ディレクトリにあるときに、このインストールのコピーを保持したい場合は、`sys:\public\mgmt\consoleone\zfd4` ディレクトリを作成し、1.2 ディレクトリのすべてのファイルおよびサブディレクトリを `zfd4` ディレクトリにコピーします。

- 2 ConsoleOne 1.3.6 (または 1.3.6e) をローカルワークステーションまたは ZENworks for Desktops 4.x Server にインストールします。手順は次のとおりです。
  - 2a Novell ZENworks 7 Companion 1 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD) をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから `winssetup.exe` を起動します。

- 2b [Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択します。
- 2c [Novell ConsoleOne] を選択して、ConsoleOne 1.3.6 インストールプログラムを起動します。
- 2d 画面の指示に従って、ConsoleOne を `...\consoleone\1.2` ディレクトリにインストールします。

インストールが完了すると、`...\consoleone\1.2` ディレクトリには ConsoleOne 1.3.6 が保存されています。ConsoleOne を ZENworks for Desktops 4.x スナップインがある場所にインストールした場合は、4.x スナップインも機能します。

- 3 (オプション) ZENworks for Desktops 4.x スナップインを含む ConsoleOne 1.3.6 のコピーを保持する場合は、**ステップ 2** で作成したインストールを別の場所にコピーします。

---

**重要 :** ZENworks for Desktops 4.x がインストールされている eDirectory ツリーを管理する場合は、ConsoleOne と ZENworks for Desktops 4.x スナップインを使用する必要があります。ZENworks 7 Desktop Management がインストールされている eDirectory ツリーを管理する場合は、ConsoleOne と ZENworks 7 スナップインを使用する必要があります。

バージョン 7 のスナップインを使用して ZENworks 4.x オブジェクトを管理しようとすると、バージョン 7 のライセンスがすでにインストールされていてもインストールを要求され、ZENworks のプロパティページを管理できません。

---

## 30.6 ZENworks for Desktop 4.x Server のアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management Server インストールプログラムを使用することによって、ZENworks for Desktops 4.x Server をアップグレードします。

アプリケーション管理 (Application Management)、ワークステーション管理 (Workstation Management)、リモート管理 (Remote Management)、およびワークステーションイメージング (Workstation Imaging) コンポーネントのアップグレード処理は非常に容易で、アップグレード時に計画しなければならない点はほとんどありません。

ワークステーションインベントリ (Workstation Inventory) のアップグレード処理は、インベントリソフトウェアおよびデータベースを使用するサーバの数によって、複雑になる場合があります。

次の 2 つの節の説明に従って、インベントリのアップグレードと残りのアップグレードを別に計画することをお勧めします。

- ◆ 435 ページのセクション 30.6.1 「アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード」
- ◆ 445 ページのセクション 30.6.2 「ワークステーションインベントリのアップグレード」

## 30.6.1 アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングのアップグレード

ZENworks 7 (または SP1) アプリケーション管理、ワークステーション管理、リモート管理、およびワークステーションイメージングソフトウェアを使用して、ZENworks for Desktops 4.x Server をアップグレードするには、次の節で説明する手順に従います。

- ◆ [435 ページの「ソフトウェアのインストール」](#)
- ◆ [439 ページの「アプリケーション管理のアップグレードの完了」](#)
- ◆ [442 ページの「ワークステーション管理のアップグレードの完了」](#)
- ◆ [443 ページの「リモート管理のアップグレードの完了」](#)
- ◆ [443 ページの「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」](#)


ZENworks 7 ワークステーションインベントリを使用して、ZENworks for Desktops 4.x Server をアップグレードする手順については、[445 ページのセクション 30.6.2 「ワークステーションインベントリのアップグレード」](#)を参照してください。

### ソフトウェアのインストール

アップグレードインストールの手順は新規インストールの場合と同じです。次の手順では、インストールプログラムを起動し、アップグレード特有の項目を選択する必要がある部分についてのみ説明します。インストールの詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#)を参照してください。

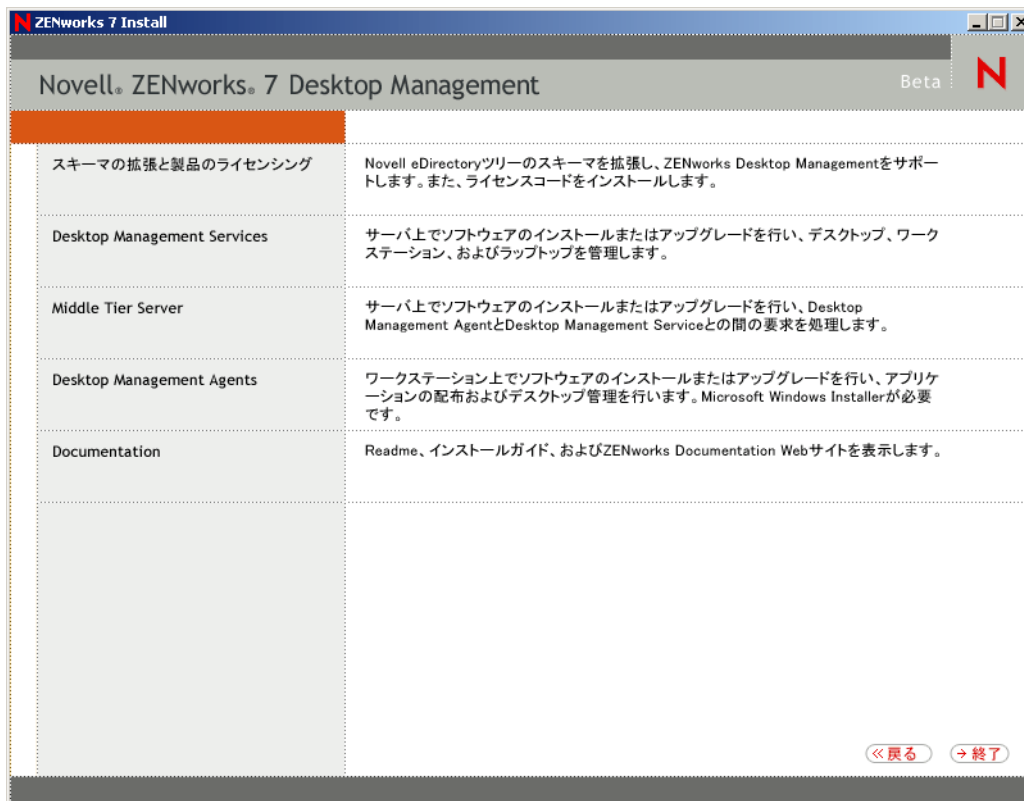
- 1 インストールを実行するワークステーションから、ZENworks 7 用にスキーマを拡張した eDirectory に対して管理者権限を持つユーザとして eDirectory で認証を受けます。[430 ページのセクション 30.4 「eDirectory スキーマの拡張」](#)を参照してください。
- 2 *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 CD*) をワークステーションの CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 7 <span style="float: right;">Beta </span>	
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。
	<a href="#">→ 終了</a>

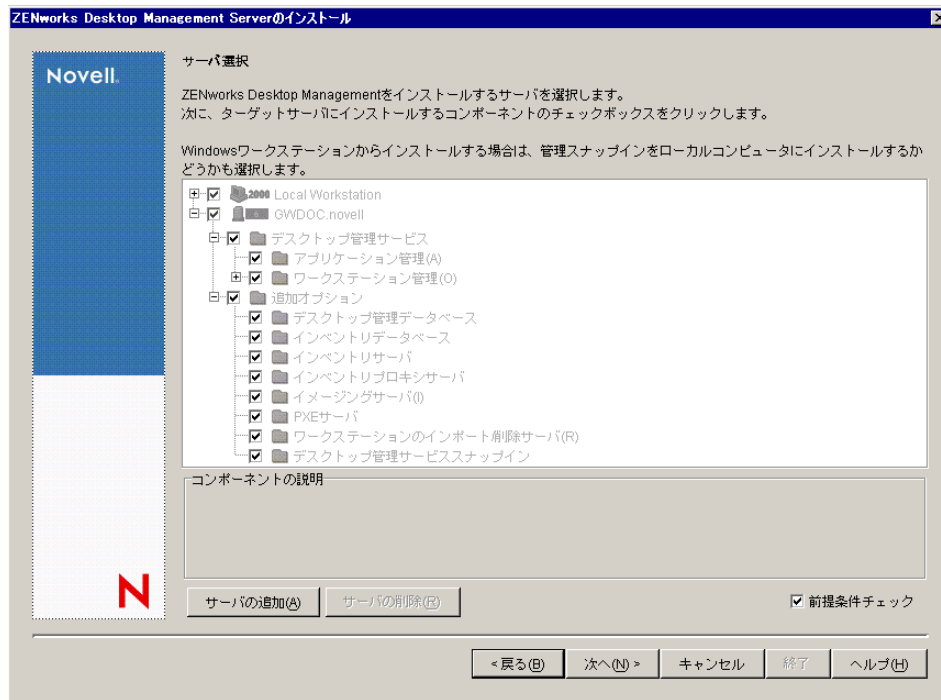


- 3 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks 7 Desktop Management] ページを表示します。



- 4 [デスクトップ管理サービス] を選択して、ZENworks Desktop Management Server インストールプログラムを起動します。

- 5 画面の指示に従ってアップグレードするサーバを追加し、次のように [サーバ選択] ページを表示しておきます。



- 6 サーバにインストールしないコンポーネントの選択を解除します。
- たとえば、ワークステーションインベントリをアップグレードしない場合、[インベントリデータベース]、[インベントリサーバ]、および [インベントリプロキシサーバ] の選択を解除します。コンポーネントを選択すると、[コンポーネントの説明] ボックスに説明が表示されます。
- 7 (オプション) インストールプログラムで、ターゲットサーバが ZENworks 7 の前提条件を満たしているかどうかを確認しない場合は、[前提条件チェック] オプションの選択を解除します。
- [前提条件チェック] オプションを選択したときに、ターゲットサーバが前提条件を満たしていない場合は、サーバをアップグレードするか、このオプションの選択を解除してインストールプログラムを再実行するまで、そのサーバに対してインストールは実行されません。
- 8 [次へ] をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。
- 9 次の節の手順に従って、アップグレード処理を完了します。
- ◆ 439 ページの「アプリケーション管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 442 ページの「ワークステーション管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 443 ページの「リモート管理のアップグレードの完了」
  - ◆ 443 ページの「ワークステーションイメージングのアップグレードの完了」

## アプリケーション管理のアップグレードの完了

次の節では、ZENworks Desktop Management のアプリケーション管理コンポーネントのアップグレードを完了するための手順を説明します。

- ◆ 439 ページの「ターミナルサーバアプリケーションの管理」
- ◆ 441 ページの「システム要件から配布ルールへの移行」

ZENworks 7 Desktop Management のアプリケーション管理の新機能については、383 ページの § 章 28 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

### ターミナルサーバアプリケーションの管理

ZENworks 7 では、次の一覧表に示されているように、ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションで利用できた一部の機能が削除され、いくつかの新機能が追加されています。

表 30-2 ZENworks for Desktops 4x のターミナルサーバアプリケーションと ZENworks 7 のターミナルサーバアプリケーションの違い

削除された機能	追加された機能
RDP アプリケーション： <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 圧縮</li><li>◆ シームレスウィンドウ</li></ul>	RDP アプリケーション： <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 色の定義 (256 色、ハイカラー 15 ビット、ハイカラー 16 ビット、およびハイカラー 24 ビット)</li><li>◆ リモートデスクトップサイズの定義 (解像度の設定)</li><li>◆ サーバの RDP ポートの定義</li><li>◆ サーバのドメインの定義</li></ul> ICA アプリケーション： <ul style="list-style-type: none"><li>◆ ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトからではなく、Citrix から読み込んだすべての設定による Citrix 機能のフルサポート</li></ul> RDP および ICA アプリケーション： <ul style="list-style-type: none"><li>◆ ZENworks ダイナミックローカルユーザポリシーのサポート</li></ul>

**重要：**この情報は、ZENworks 6 DeFrame™ には該当しません。ターミナルサーバアプリケーションソリューションとして ZENworks 6 DeFrame を使用している場合、ZENworks 7 にアップグレードパスは用意されていません。

このような変更の結果として、アップグレード時に次の点に注意する必要があります。

- ◆ デスクトップ管理エージェント：デスクトップ管理エージェントのサポートは次のとおりです。
  - ◆ ZENworks for Desktops 4.x 管理エージェントは、ZENworks for Desktops 4.x のターミナルサーバアプリケーションでのみ機能します。この管理エージェントは、ZENworks 7 のターミナルサーバアプリケーション (ConsoleOne の ZENworks 7 スナップインで作成したターミナルサーバのアプリケーションオブジェクト) では機能しません。

- ◆ ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントは、ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management のどちらで作成したターミナルサーバアプリケーションでも機能します。
- ◆ **ConsoleOne:** ConsoleOne のサポートは次のとおりです。
  - ◆ ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトは、ConsoleOne の ZENworks 7 スナップインを使用して管理できません。ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバのプロパティは eDirectory 内に存在していますが、ZENworks 7 Desktop Management スナップインでは表示されません。ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトを管理するには、ConsoleOne の ZENworks for Desktops 4.x スナップインを使用する必要があります。
  - ◆ ZENworks 7 ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトは、ConsoleOne の ZENworks for Desktops 4.x スナップインを使用して管理できません。ZENworks for Desktops 4.x スナップインでは、ZENworks 7 Desktop Management ターミナルサーバのプロパティは表示されません。

前に示した詳細に基づいて、円滑に移行するために次の手順に従うことをお勧めします。

- 1 すべてのワークステーションを ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントにアップグレードするまでは (460 ページのセクション 30.8 「ワークステーションのアップグレード」を参照)、既存のすべての ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションを保持し、ConsoleOne の ZENworks for Desktops 4.x スナップインを使用して新しいターミナルサーバアプリケーションを作成します。これによって、ワークステーションにインストールされているデスクトップ管理エージェントのバージョンに関係なく、すべてのユーザが引き続きターミナルサーバアプリケーションにアクセスできます。
- 2 すべてのワークステーションを ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントにアップグレードした後、ConsoleOne の ZENworks 7 Desktop Management スナップインを使用して、手動で ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションを再作成します。

ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトから、ZENworks 7 Desktop Management ターミナルサーバのアプリケーションオブジェクトに情報を自動的に移行する機能はありません。ZENworks for Desktops 4.x のアプリケーションオブジェクトを ZENworks 7 Desktop Management のアプリケーションオブジェクトとして手動で再作成するには

- 2a ConsoleOne で、アプリケーションオブジェクトの作成先のコンテナを右クリックします。次に、[新規] をクリックし、[アプリケーション] をクリックします。
- 2b [新しいアプリケーションオブジェクト] ダイアログボックスで、[ターミナルサーバアプリケーション] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。
- 2c 画面の指示に従ってアプリケーションオブジェクトの作成を完了します。  
ターミナルサーバアプリケーションの作成についての詳細な情報が必要な場合には、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**アプリケーション管理**」の「**配布: ターミナルサーバアプリケーション**」の「**eDirectory でのアプリケーションの設定**」を参照してください。
- 3 新しい ZENworks 7 ターミナルサーバアプリケーションを作成した後、古い ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションを削除します。  
または

ワークステーションで ZENworks for Desktops 4.x デスクトップ管理エージェントを実行し続けることによって環境内の Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートする場合は、ZENworks for Desktops 4.x ターミナルサーバアプリケーションを削除しないでください。ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 Desktop Management の両方のバージョンを保持し、ConsoleOne のそれぞれに対応する ZENworks スナップインを使用して各バージョンを管理する必要があります。

## システム要件から配布ルールへの移行

ZENworks for Desktops 4.x の [システム要件] は、強化された機能を反映し、以前のシステム要件と区別するために、[配布ルール] という名前に変更されました。ZENworks 7 の配布ルールは、AND/OR のブール演算子と要件のグループ化を使用することによって、より柔軟な配布の条件をサポートしています。ZENworks for Desktops 4.x では、すべてのシステム要件について AND 演算子が使用され、要件をグループ化する機能はありませんでした。

ZENworks 7 (またはそれ以降の) バージョンの Novell Application Launcher™ でのみ、配布ルールで新しい演算子のロジックおよびグループ化を処理できます。したがって、ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher との後方互換性を維持するために、既存のシステム要件は、eDirectory ツリーのスキーマをアップグレードする際に、レガシーシステム要件として保持されます。ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher と ZENworks 7 Application Launcher はどちらもレガシーシステム要件を処理できるので、ユーザは、使用する Application Launcher のバージョンに関係なく、レガシーシステム要件のアプリケーションを使用し続けることができます。

レガシーシステム要件から配布ルールに移行する場合は、次の点に注意する必要があります。

- ◆ 配布ルールは、アプリケーションオブジェクトの [配布ルール] ページ ( [アプリケーションオブジェクト] > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ ) で定義されます。
- ◆ レガシーシステム要件は、[配布ルール] ページで、[レガシー] ボタンをクリックし、[レガシー設定を編集する] をクリックすることによって利用できます。このオプションを使用して、既存のレガシーシステム要件を編集したり、新しいシステムレガシー要件を追加したりすることができます (たとえば、ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher を実行しているワークステーションで利用可能な新しいアプリケーションオブジェクトを作成する場合)。
- ◆ レガシーシステム要件を持ち、配布ルールを持たないアプリケーションの [配布ルール] ページにアクセスすると、要件を配布ルールにインポートするかどうかを確認するメッセージが表示されます。要件をインポートしないことを選択した場合でも、後で [配布ルール] ページの [レガシー設定をインポートする] オプションを使用してインポートできます。
- ◆ レガシーシステム要件を配布ルールにインストールするか、手動で配布ルールを定義すると、ZENworks 7 Application Launcher では配布ルールだけが処理されます。レガシーシステム要件は無視されます。ただし、ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher では、新しい配布ルールは認識されないため、レガシーシステム要件が処理されます。したがって、配布ルールを使用し、ワークステーションで ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher も実行する場合は、配布ルールのリストとレガシーシステム要件のリストの両方を維持する必要があります。
- ◆ 配布ルールに対する変更内容は、レガシーシステム要件には追加されません。同様に、レガシーシステム要件に対する変更内容は配布ルールに追加されません。

- ◆ 配布ルールを定義し、レガシーシステムルールをインポートする場合、既存の配布ルールはレガシーシステムルールによって上書きされます。
- ◆ アプリケーションが利用できるようになる前に定義されていたオペレーティングシステムの要件は削除されます。ZENworks for Desktops 4.x では、アプリケーションを配布および起動できるようにするには、[システム要件] で OS プラットフォームを定義しておく必要がありました。この要件は削除されました。新しい動作では次のようなロジックが使用されます。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムのみで実行する場合、オペレーティングシステムの配布ルールを定義する必要があります。アプリケーションが特定のオペレーティングシステムを必要としない場合は、配布ルールを定義する必要はありません。オペレーティングシステムの配布ルールが定義されていないアプリケーションはデフォルトで、サポートの対象になるすべてのプラットフォーム (Windows 98、Windows 2000、および Windows XP) で利用できます。

このような詳細を考慮して、システム要件から配布ルールへの円滑な移行のために次の手順をお勧めします。

- 1 各アプリケーションオブジェクトについて、レガシーシステムルールを配布ルールにインポートします。必要に応じて、ルールを変更します。
- 2 ZENworks for Desktops 4.x Application Launcher を使用するワークステーションをサポートするために、レガシーシステム要件を保持します。
- 3 アプリケーションの配布条件が変更された場合は、配布ルールとレガシーシステム要件の両方を変更し、ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks for Desktops 4.x の両方の Application Launcher が配布条件を適用できるようにします。
- 4 すべてのワークステーションが ZENworks 7 Application Launcher にアップグレードされた後 (460 ページのセクション 30.8 「ワークステーションのアップグレード」を参照)、レガシーシステム要件を削除します。

または

ワークステーションで ZENworks for Desktops 4.x デスクトップ管理エージェントを実行し続けることによって環境内の Windows NT 4.0 ワークステーションをサポートする場合は、レガシーシステム要件を削除しないでください。レガシーシステム要件と配布ルールの両方を保持する必要があります。

配布ルールとレガシーシステム要件の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の“「アプリケーション管理」”にある“「配布ルール」”を参照してください。

## ワークステーション管理のアップグレードの完了

eDirectory ツリーを ZENworks 7 Desktop Management スキーマに合わせて拡張したときに (430 ページのセクション 30.4 「eDirectory スキーマの拡張」を参照)、新しい ZENworks 7 ポリシー属性が追加されています。既存の ZENworks for Desktops 4.x のポリシーは ZENworks 7 のポリシーに移行され、ZENworks 7 スナップインで管理できます。ポリシーをアップグレードするために、その他のアクションは必要ありません。

ZENworks for Desktops 4.x Workstation Manager は、ZENworks 7 ポリシーを適用し続けます。ただし、新しいポリシー機能は、ワークステーションが ZENworks 7 Workstation Manager にアップグレードされるまでは利用できません。このアップグレードは、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントをインストールするときに実行されます。460 ページのセクション 30.8 「ワークステーションのアップグレード」を参照してください。

ワークステーション管理の新機能については、383 ページの § 章 28 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

ZENworks 7 ポリシーの管理と使用の詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“Workstation Management (ワークステーション管理)”」を参照してください。

### リモート管理のアップグレードの完了

eDirectory ツリーのスキーマを ZENworks 7 用に拡張し、ConsoleOne 1.3.6 および ZENworks 7 Desktop Management スナップインをインストールした後、ConsoleOne 1.3.6 のリモート管理機能を使用して、ZENworks for Desktops 4.x または ZENworks 7 リモート管理エージェントがインストールされたワークステーションでリモート操作を実行できます。

スタンドアロンリモート管理コンソールを使用している場合、ZENworks for Desktops 4.x リモート管理コンソールを使用し続けることも、ZENworks 7 リモート管理コンソールにアップグレードすることもできます。リモート管理コンソールは、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) に収められています。リモート管理コンソールをインストールするには、CD 上の winsetup.exe を起動し、[Companion Programs and Files (Companion プログラムおよびファイル)] を選択します。次に、[詳細] ボタンをクリックし、[Inventory and Remote Management Console (インベントリとリモート管理コンソール)] を選択します。

リモート管理をアップグレードするために、その他のアクションは必要ありません。

リモート管理の新機能については、383 ページの § 章 28 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

リモート管理の使用方法の詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“Remote Management (リモート管理)”」を参照してください。

### ワークステーションイメージングのアップグレードの完了

ZENworks for Desktops 4.x Server を ZENworks 7 Desktop Management Server にアップグレードした後、ワークステーションイメージングのアップグレードを完了するには、次の作業を行います。

- ◆ 443 ページの「スタンドアロンイメージングサーバのアップグレード」
- ◆ 444 ページの「ワークステーションイメージングエンジンのアップグレード」
- ◆ 444 ページの「Linux パーティションから起動前サービスへの移行」

ワークステーション管理の新機能については、383 ページの § 章 28 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」を参照してください。

ZENworks 7 ポリシーの管理と使用の詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「“Workstation Management (ワークステーション管理)”」を参照してください。

### スタンドアロンイメージングサーバのアップグレード

スタンドアロンイメージングサーバを使用している場合は、インストールプログラムを実行して、サーバ上のイメージングソフトウェアをアップグレードする必要があります。435 ページの「ソフトウェアのインストール」の手順に従ってください。[Software

Selection (ソフトウェア選択) ページが表示されたら、[イメージングサーバ] と [PXEサーバ] を除くすべてのオプションの選択を解除します。

## ワークステーションイメージングエンジンのアップグレード

ZENworks for Desktops 4.x イメージングエンジンは、ZENworks 7 イメージングサーバと通信できません。ワークステーション上のイメージングエンジンをアップグレードする方法は、使用するイメージングブート方法によって異なります。

- ◆ **起動前サービス (Preboot Services) (PXE):** ワークステーションのイメージングエンジンは、Desktop Management Server がアップグレードされる時に、このサーバ上で ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 にアップグレードされます。起動前サービスは、ZENworks 7 イメージングエンジンがワークステーションで起動される際に、このエンジンを ZENworks 7 Desktop Management Server からダウンロードします。
- ◆ **Linux パーティション:** 必要な操作はありません。ワークステーションのイメージングエンジンは、次回、イメージングエンジンが ZENworks 7 イメージングサーバにアクセスしたときに ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 に更新されます。  
ZENworks 7 では、Linux パーティションは最低 50MB 必要です。ワークステーションの Linux パーティションがこのサイズを下回っている場合は、パーティションのサイズを変更するか、代わりに起動前サービスを使用する必要があります。Linux パーティションの使用から起動前サービスへの変更については、[444 ページの「Linux パーティションから起動前サービスへの移行」](#)を参照してください。
- ◆ **ブート CD またはディスク:** ZENworks 7 ソフトウェアを使用して新しいブート CD を作成します。手順については、『[Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド](#)』の“[Workstation and Server Imaging \(ワークステーションおよびサーバイメージング\)](#)”の“[Preparing an Imaging Boot Method \(イメージングブート方法の準備\)](#)”を参照してください。

## Linux パーティションから起動前サービスへの移行

起動前サービス (PXE) に移行して、ワークステーションの Linux パーティションを使用しないようにする場合は、次の手順に従ってください。

- 1** ネットワークサーバに ZENworks 7 起動前サービスがインストールされていることを確認します。  
詳細なインストール手順については、『[Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド](#)』の“[Workstation and Server Imaging \(ワークステーションおよびサーバイメージング\)](#)”の“[Preparing an Imaging Server \(イメージングサーバの準備\)](#)”を参照してください。
- 2** 起動前サービスがネットワークカードで提供されている PXE、または psetupn.exe を使用して作成した PXE ブート可能フロッピーディスクのいずれかから機能していることを確認します。
- 3** ConsoleOne で、Linux パーティションを無効にします。
  - 3a** サーバポリシーパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックして、サーバポリシーパッケージのプロパティを表示します。
  - 3b** [一般] ページ ([ポリシー] タブ > [一般] ページ) で、[ZENworks Imaging Policy (ZENworks イメージングポリシー)] を選択し、[プロパティ] をクリックします。



- 3c** [Work To Do] タブ > [イメージングパーティション] の順にクリックし、[イメージングパーティション] ページを表示します。
- 3d** [ZENworks イメージングパーティションがある場合は無効化する] オプションを選択して、このオプションを有効にします。
- 3e** [OK] をクリックして、[イメージングパーティション] ページを閉じます。
- 4** [OK] をクリックして変更内容を保存します。

Linux パーティションは、ワークステーションのハードドライブでブート可能でないパーティションになります。Linux パーティションを削除する場合、ワークステーション上にベースイメージを復元した後、イメージオブジェクト内の既存の Linux パーティションを削除するオプションを選択する必要があります。サーバポリシーパッケージまたはワークステーションポリシーパッケージで参照することができます。

## 30.6.2 ワークステーションインベントリのアップグレード

ワークステーションインベントリを ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 にアップグレードするには、次の作業を示されている順序で実行します。

1. **445 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」** の情報を確認します。
2. **447 ページの「アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業」** で説明されている作業を実行します。
3. **449 ページの「ZENworks for Desktops 4.x インベントリデータベースのアップグレード」** で説明されている作業を実行します。
4. **451 ページの「ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバのアップグレード」** で説明されている作業を実行します。
5. **452 ページの「手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行」** で説明されている作業を実行します。
6. **453 ページの「データベース移行後の作業」** で説明されている作業を実行します。

### アップグレードを実行する前に確認すべき事項

ZENworks for Desktops 4.x インベントリコンポーネントを ZENworks 7 にアップグレードする前に、次の節で説明されている点を確認します。

- ◆ **445 ページの「Inventory Server」**
- ◆ **446 ページの「Inventory Agent( インベントリエージェント )」**
- ◆ **446 ページの「管理コンソール」**

### Inventory Server

- ◆ ZENworks 7 インベントリサーバと ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバは同じ eDirectory ツリーに共存させることができます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks 7 インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 7 インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバにロールアップできません。

インベントリデータをロールアップする場合は、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバを上階層から順に ZENworks 7 にアップグレードする必要があります。最初にルートサーバ、次に中間サーバ、最後にリーフサーバをアップグレードします。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバおよび ZENworks 7 インベントリサーバはどちらも、ZENworks 7 にアップグレードした ZENworks for Desktops 4.x ロールアップポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks 7 インベントリデータベースを直接 ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバに接続しないでください。同様に、ZENworks for Desktops 4.x インベントリデータベースを直接 ZENworks 7 インベントリサーバに接続しないでください。インベントリサーバとそのデータベースは同時にアップグレードします。サポートされるデータベース (Sybase、Oracle、および MS SQL) はすべて移行できますが、ZENworks 7 Desktop Management のインストールでは Sybase データベースのみが自動的にアップグレードされます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバと ZENworks 7 インベントリサーバで、同じインベントリデータベースに直接インベントリデータを格納しないでください。
- ◆ ZENworks 7 インベントリサーバは ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバの .zip ファイルを処理できます。
- ◆ インベントリサーバを ZENworks 7 にアップグレードした後、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバの SCANDIR ディレクトリにある ZENworks for Desktops 4.x の .str および .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバを ZENworks 7 にアップグレードしても、インベントリサーバの役割は変更されません。

#### Inventory Agent( インベントリエージェント )

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリエージェントは、ZENworks 7 インベントリサーバにインベントリデータを送信できます。つまり、データを ZENworks 7 インベントリデータベースに格納できます。

ZENworks 7 インベントリエージェントは、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。つまり、データを ZENworks for Desktops 4.x インベントリデータベースに格納できません。

インベントリサーバとインベントリデータベースのアップグレードを完了するまで、ZENworks 7 Inventory Agent にアップグレードしないでください。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x インベントリエージェントおよび ZENworks 7 インベントリエージェントはいずれも、ZENworks 7 にアップグレードされた ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシー、または ZENworks 7 デスクトップ管理スナップインで作成された ZENworks 7 インベントリポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。

#### 管理コンソール

- ◆ ConsoleOne の ZENworks 7 デスクトップ管理スナップインを使用して、ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 の両方のインベントリデータとインベントリオブジェクト (インベントリサービスオブジェクト、データベースオブジェクト、ワークステー

ションインベントリポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、データベースの場所ポリシーなど)を管理できます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x ConsoleOne スナップインを使用して、ZENworks 7 Desktop Management のインベントリデータやインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x および ZENworks 7 Desktop Management の両方のコンソールを使用して同じ ZENworks for Desktops 4.x インベントリオブジェクトを設定しないでください。

## アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

445 ページの「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」の説明を確認してから、ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする前に、次の作業を順に実行する必要があります。

### 1 Inventory Service を停止します。

- ◆ NetWare インベントリサーバ: サーバコンソールのプロンプトで、「sys:\system\invstop.ncf」と入力します。

Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:\system\invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。

- ◆ Windows 2000 インベントリサーバの場合: コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。

### 2 Sybase インベントリデータベースを停止します。

- ◆ NetWare の場合: Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。
- ◆ Windows 2000 の場合: コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Database - Sybase] を選択し、[停止] をクリックします。

### 3 Windows 2000 上の ZENworks Web サーバを停止します。コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell ZFS Web Server] を選択し、[停止] をクリックします。

### 4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします (サーバコンソールで、「java -exit」と入力する)。

---

**重要:** このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。ZENworks 7 Desktop Management を再インストールするときは、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

---

### 5 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。

### 6 ZENworks for Desktops 4.x データベースのバックアップを作成し、保存したことを確認します。

### 7 ConsoleOne から ZENworks for Desktops 4.x データベースにアクセスされていないことを確認します。

### 8 推奨される ZENworks 7 ワークステーションインベントリ要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、35 ページのパート II 「準備」を参照してください。

- 9 ZENworks for Desktops 4.x のインストールの後に  
`ZENworks_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\inventoryremoval.properties` を修正していた場合には、`inventoryremoval.properties` の信頼できるバックアップを作成してください。
- 10 インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられたデータベースサーバのアップグレードが完了していることを確認します。
- 11 スキーマが ZENworks 7 に移行されていることを確認します。スキーマは、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムを使用して移行できます。スキーマの拡張方法については、[85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」](#) を参照してください。
- 12 ZENworks for Desktops 4.x データベースで Oracle を実行している場合は、移行前に次の作業を行う必要があります。
- 12a** Oracle のバージョンが 9.2.0.6 以降であることを確認します。
- 12b** `inventory_database_installation_path\init.ora_path\init.ora` で、次のパラメータの値を以下のように設定します。

```
db_cache_size=192M
sort_area_size=10000000
shared_pool_size = 157286400
open_cursors = 2048
log_buffer = 1024000
session_cached_cursors=2048
compatible=9.2.0
```

キャッシュサイズおよび Shared Global Area (SGA) を持つ共有プールのサイズは、物理 RAM サイズの 30 ~ 40% に増加することができます。

- 12c** インベントリデータベースが稼動していることを確認します。
- ORA-01555 およびロールバックセグメントに関連した他の問題によりデータベースの移行およびその他データの保存が失敗する場合は、より大きなロールバックセグメントが必要になります。
- 12d** ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```
connect / as sysdba;

alter tablespace rbs add datafile
'Inventory_database_installation_path\rbs2.ora' size 40M
autoextend on next 50K maxsize 60M;

alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);

alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);
```

```
ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3
('Inventory_database_installation_path\log3.ora') SIZE 50M;
```

- 12e** インベントリデータベースを停止します。
- 12f** `inventory_database_installation_path\path_to_init.ora\init.ora` の `compatible` パラメータの値が 9.1.3.0.0 以上に設定されていることを確認します。
- 12g** データファイルのサイズが 4096MB を超える場合、該当するテーブルスペースに追加のデータファイルを設定する必要があります。
- 12h** `ZENworks_installation_directory\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から適切な、プラットフォーム固有の `atlasperf_altertablespace.sql` を、C: に抽出します。  
Windows で Oracle を実行している場合は、`sql.zip` 内の `oracle\winntspecific` ディレクトリから `atlasperf_altertablespace.sql` を抽出します。  
UNIX で Oracle を実行している場合は、`sql.zip` 内の `oracle\unixspecific` ディレクトリから `atlasperf_altertablespace.sql` を抽出します。
- 12i** `atlasperf_altertablespace.sql` を編集し、すべてのデータファイルに対して `maxsize` の値を 4GB の倍数に最も近い値に設定します。  
たとえば、`cim8.ora` のサイズが 5GB の場合、`MAXSIZE` の値を 8192MB に設定します。
- 12j** `atlasperf_altertablespace.sql` に表示されているすべてのデータファイルのファイルパスが正しいことを確認します。
- 12k** インベントリデータベースを再起動します。
- 12l** `atlasperf_altertablespace.sql` を実行します。

## ZENworks for Desktops 4.x インベントリデータベースのアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management Server のインストール時に、Sybase をインストールすることを選択し、データベースファイルを上書きすることを選択しなかった場合、サーバのインストールプログラムは、既存の ZENworks for Desktops 4.x データベースエンジンだけを自動的にアップグレードします。Sybase データベースのアップグレード中、既存のデータベースが移行可能であることを示すメッセージが表示されます。[はい] を選択した場合、既存のデータベースは、新しい ZENworks 7 Desktop Management データベースファイルによって上書きされます。[いいえ] を選択した場合、Inventory Service が初めて開始されたときにデータベースの移行が実行されます。

---

**重要 :** Desktop Management Server インストールプログラムを実行することによって、複数のインベントリサーバとデータベースサーバを同時にアップグレードできます。

ただし、既存の ZENworks for Desktops 4.x ワークステーションインベントリポリシー、データベースの場所ポリシー、およびロールアップポリシーは手動で移行する必要があります。手動でデータベースオブジェクトを作成した場合は、データベースオブジェクトも移行する必要があります。ポリシーを手動で移行する方法の詳細については、[450 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

---

## データベースキャッシュサイズの変更

ZENworks for Desktops 4.x データベースで Sybase を実行している場合、Sybase キャッシュの値 (「-c」パラメータ) がサーバのメモリの 25% 以上に設定されていることを確認します。

NetWare データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには

- 1 インベントリデータベースへの接続をすべて切断します。
- 2 Sybase サーバを終了します。
- 3 sys:\system ディレクトリの mgmt dbs.ncf ファイルを開きます。
- 4 -c パラメータを変更します。たとえば、-c 128M に変更すると、128MB のキャッシュサイズが設定されます。
- 5 ファイルを保存します。
- 6 サーバコンソールでインベントリデータベースをロードします。「MGMTDBS.」と入力します。
- 7 ZENworks for Desktops 4.x データベースで MS SQL を実行している場合、固定メモリの値がサーバメモリの 25% 以上であることを確認します。

Windows データベースサーバのデータベースキャッシュサイズを変更するには

- 1 Sybase サービスを終了します。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
- 2 データベースサーバで、dbengine ディレクトリから ntdbconfig.exe ファイルを実行します。ntdbconfig.exe は、Windows 2000 サーバ上で Sybase を使用する ZENworks データベース用の ZENworks データベース環境設定ユーティリティです。このユーティリティを使用して、Sybase サービスを設定し直すことができます。
- 3 -c パラメータを変更します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 Sybase サービスを再起動します。Windows 2000 の場合、コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [開始] をクリックします。
- 6 ZENworks for Desktops 4.x データベースで MS SQL を実行している場合、固定メモリの値がサーバメモリの 25% 以上であることを確認します。

## 手動によるデータベースオブジェクトの移行

ZENworks for Desktops 4.x Oracle データベースオブジェクトが存在する場合や、手動で Sybase データベースオブジェクトを作成した場合は、インベントリの移行ツールを使用して手動でデータベースオブジェクトを移行する必要があります。詳細については、[450 ページの「手動によるデータベースオブジェクトの移行」](#)を参照してください。

- 1 ZENworks 7 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール]、[ZENworks インベントリ]、[インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [参照] をクリックして、移行の対象になるデータベースオブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含んだコンテナを参照して選択します。
- 3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。

- 3a** 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナのデータベースオブジェクトを検索する場合は、[サブコンテナも検索する] チェックボックスを選択します。
- [サブコンテナも検索する] チェックボックスは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
- 3b** 選択済みのコンテナに含まれる、移行対象のデータベースオブジェクトを検索する場合は、[*Search for Database Objects* (データベース オブジェクトの検索)] チェックボックスを選択します。
- このオプションは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
- 3c** [検索] をクリックします。
- 指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 4.x データベースオブジェクトが、[レポート] パネルに表示されます。
- 4** [移行] をクリックします。
- 5** [閉じる] をクリックします。
- 6** ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[ZENworks データベース] タブの順にクリックします。
- 7** 次のデータベースオブジェクトオプションに、インベントリデータベースに応じて表中に示されている適切な値が指定されていることを確認します。

データベースオブジェクトオプション	Sybase インベントリデータベースオブジェクトの値	Oracle インベントリデータベースオブジェクトの値	MS SQLServer 2000 インベントリデータベースオブジェクトの値
データベース (読み書き可能) ユーザ名	MW_DBA	MW_DBA	MW_DBA
データベース (読み書き可能) パスワード	novell	novell	novell
データベース (読み込み専用) ユーザ名	MW_READER	MWO_READER	MWM_READER
データベース (読み込み専用) パスワード	novell	novell	novell
データベース (書き込み専用) ユーザ名	MW_UPDATER	MWO_UPDATER	MWM_UPDATER
データベース (書き込み専用) パスワード	novell	novell	novell

- 8** [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

## ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバのアップグレード

ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバをアップグレードする前に、インベントリサービスを停止し、関連付けられたデータベースサーバをアップグレードしたことを確認します。

ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバのインストール先のサーバがインストールの要件を満たしている場合は、ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバをインストールすることによって、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバをアップグレードできます。

ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks for Desktops 4.x と同じ役割のセットをサポートしています。したがって、ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合、インベントリサーバの役割は保持されます。

---

**重要 :** ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバを ZENworks for Desktops 4.x データベースに接続していた場合で、インベントリサーバまたはデータベースを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合は、関連づけられたコンポーネントを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする必要があります。ZENworks for Desktops 4.x インベントリサービスでは ZENworks 7 Desktop Management 準拠のデータベースを操作しないでください。逆の場合も同じです。

複数の ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバが ZENworks for Desktops 4.x データベースサーバに接続されている場合で、データベースサーバを ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合は、関連付けられたすべての ZENworks for Desktops 4.x インベントリサーバもアップグレードする必要があります。

---

ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムによって、ZENworks for Desktops 4.x インベントリサービスオブジェクトだけが自動的に ZENworks 7 Desktop Management に移行されます。インベントリサービスを開始する前に、ZENworks インベントリの移行ツールを使用して、既存の ZENworks for Desktops 4.x のポリシーを ZENworks 7 Desktop Management のポリシーに手動で移行する必要があります。詳細については、[452 ページの「手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行」](#)を参照してください。

### 手動での ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーの移行

- 1 ZENworks 7 デスクトップ管理ワークステーションインベントリスナップインがインストールされた ConsoleOne で、[ツール]、[ZENworks インベントリ]、[インベントリの移行] の順にクリックします。
- 2 [参照] をクリックし、Inventory Service オブジェクト、またはこうしたオブジェクトを含むコンテナを参照して選択します。
- 3 手順 2 でコンテナを選択した場合、次の手順を実行します。
  - 3a 選択したコンテナ内に存在するすべてのサブコンテナの Inventory Service オブジェクトを検索する場合は、[サブコンテナも検索する] チェックボックスを選択します。  
[サブコンテナも検索する] チェックボックスは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。
  - 3b 選択済みのコンテナ内の Inventory Service オブジェクトに関連付けられた Inventory ポリシーを検索する場合は、[Search for Policies (ポリシーの検索)] チェックボックスを選択します。  
このオプションは、[検索コンテキスト] でコンテナを選択した場合にのみ利用できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。
  - 3c [検索] をクリックします。



インベントリサービスオブジェクトに関連付けられ、指定したコンテキストで検索されたすべての ZENworks for Desktops 4.x インベントリポリシーが、[レポート] パネルに表示されます。

- 4 [移行] をクリックします。
- 5 [閉じる] をクリックします。

ZENworks 7 インベントリエージェントは、ワークステーションインベントリポリシーではなく、プライベートディクショナリと一般ディクショナリからソフトウェアスキャン設定ルールを取得します。一方、ZENworks for Desktops 4.x インベントリエージェントは、ソフトウェア設定としてワークステーションインベントリポリシーを使用し続けます。

ポリシーの移行後、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks 7 Desktop Management の Inventory Service を開始します。

Inventory Service を開始すると、Upgrade Service により、ZENworks for Desktops 4.x データベーススキーマとインベントリデータが ZENworks 7 Desktops Management データベースに自動的に移行されます。このデータ移行プロセスが完了するのに、きわめて長い時間かかる場合があります。インベントリサーバの画面上に、データベースの移行および初期化が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

データベースが移行されたら、インベントリ ConsoleOne ユーティリティ (照会、概要、インベントリレポート、データベースエクスポート) や Storer でデータベースにアクセスできます。

- 2 ディクショナリ更新ポリシーを作成および設定して、ZENworks 7 Inventory Agent の最新バージョンのディクショナリを取得します。ディクショナリ更新ポリシーの設定方法の詳細については、『ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「[ワークステーションインベントリ](#)」の「[Configuring the Dictionary Update Policy \(ディクショナリ更新ポリシーの設定\)](#)」を参照してください。

## データベース移行後の作業

インベントリサーバのアップグレードとインベントリデータベースの移行が完了したら、次の作業を実行する必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 インベントリデータベースが Oracle を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。
  - 2a `inventory_database_installation_path\start.sql` ファイルから既存のエントリを削除し、次のエントリを追加します。

```
SET ECHO ON
```

```
CONNECT INTERNAL
```

```
SET ECHO OFF
```

```
STARTUP PFILE=
```

```
inventory_database_installation_path\path_to_init.ora\init.ora
```

```
SET NUMWIDTH 20
```

```
SET CHARWIDTH 40
```

```
SET ECHO ON
```

```
connect mw_dba;
```

```
SET ECHO OFF
```

```
alter table cim.t$product cache;
```

```
SET ECHO ON
```

```
connect internal
```

```
SET ECHO OFF
```

```
@<path to oracle home directory>/rdbms/admin/dbmspool
```

```
call sys.dbms_shared_pool.keep('zenworks.zenpin','P');
```

```
EXIT
```

- 2b** *ZENworks\_installation\_directory*\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip から *atlasperf\_alterfreelist.sql* を抽出して、SQLPLUS プロンプトで実行します。
- 2c** *Inventory\_server\_installation\_path*\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip から *oracle\common\oracle\_perf.sql* and *oracle\common\oracle\_perf2.sql* ファイルを実行して、データベースにパフォーマンス向上用のインデックスを追加します。 .
- 2d** *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD \database\oracle9i\common* ディレクトリまたは *Novell ZENworks 7 with Support Pack1 Companion 2 CD \database\oracle\_x\common* ディレクトリから *oracle\_dbexport\_perf.sql* を実行します。  
インベントリデータベースのパフォーマンスの改善方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「[ワークステーションインベントリ](#)」の「[Performance Tips \(パフォーマンスに関するヒント\)](#)」を参照してください。 .

3 (オプション) インベントリデータベースで MS SQL を実行している場合、MS SQL Query Analyzer で、次に示す適切なユーザログインによって *Inventory\_server\_installation\_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip* から次のスクリプトを実行します。

3a CIM としてログインし、*mssql\_perf\_cim.sql* を実行します。

3b *mw\_dba* としてログインし、*mssql\_perf\_mw\_dba.sql* を実行します。

3c *zenworks* としてログインし、*mssql\_perf\_zenworks.sql* を実行します。

これにより、インベントリデータベースのパフォーマンスが向上します。

インベントリデータベースのパフォーマンスの改善方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**ワークステーションインベントリ**」の「**Performance Tips (パフォーマンスに関するヒント)**」を参照してください。

4 Inventory Service を開始します。

## 30.7 Middle Tier Server のアップグレード

eDirectory ツリーのスキーマを ZENworks 7 の属性に合わせて拡張した後 (430 ページのセクション 30.4 「eDirectory スキーマの拡張」を参照)、ZENworks for Desktops 4.x Middle Tier Server を ZENworks 7 にアップグレードできます。そのためには、次の節で説明されている作業を完了します。

- ◆ 455 ページのセクション 30.7.1 「ソフトウェアのインストール」
- ◆ 457 ページのセクション 30.7.2 「myapps.html ページの変更」
- ◆ 455 ページのセクション 30.7.1 「ソフトウェアのインストール」
- ◆ 457 ページのセクション 30.7.2 「myapps.html ページの変更」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

---

### 30.7.1 ソフトウェアのインストール

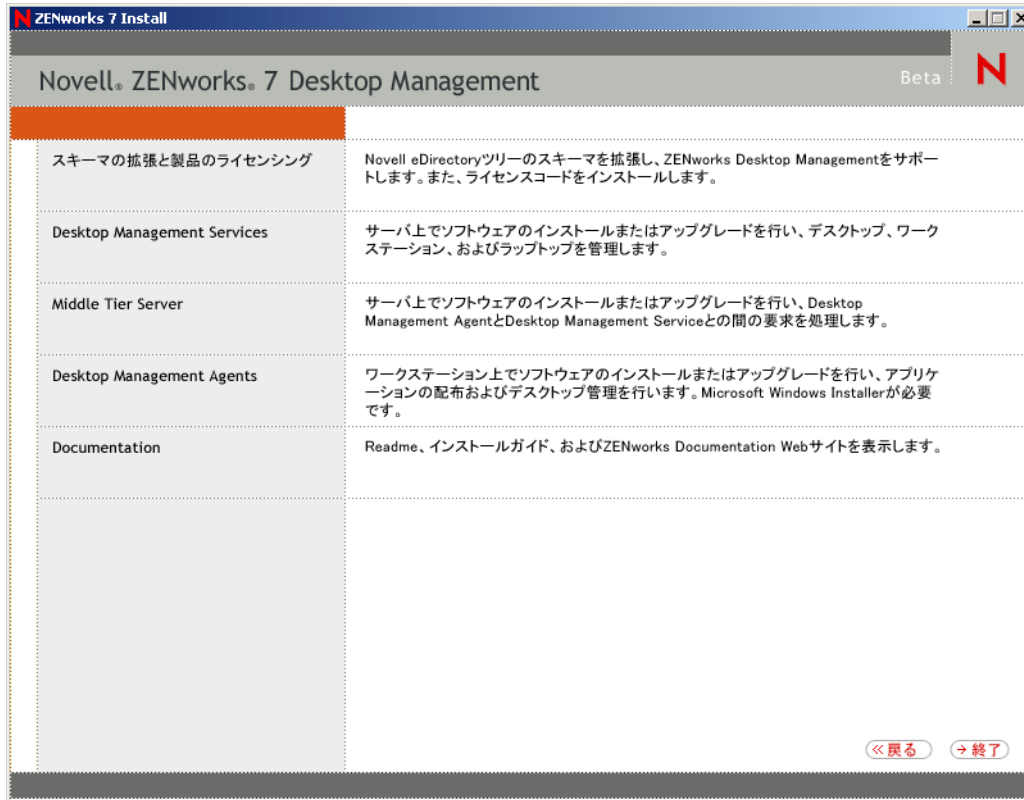
Desktops 4.x Middle Tier Server をアップグレードするには、ZENworks 7 Middle Tier Server インストールプログラムを使用して、ZENworks 7 のファイルを既存の Middle Tier Server ファイルに上書きインストールします。

- 1 インストール要件を満たすワークステーションで (37 ページの § 章 3 「インストールを実行するワークステーションの前提条件」を参照) *Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* (または *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD*) を CD ドライブに挿入して、ZENworks 7 (または SP1) インストールプログラムを自動実行します。

インストールプログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから winsetup.exe を起動します。

Novell® ZENworks® 7		Beta	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 2 [デスクトップ管理] を選択し、[英語] を選択して [ZENworks 7 Desktop Management] ページを表示します。



- 3 [Middle Tier Server] を選択し、ZENworks Middle Tier Server のインストールプログラムを起動します。
- 4 画面の指示に従って、インストールを完了します。  
サーバがすでに設定されていることを指定します。  
インストールの手順の詳細については、113 ページの § 章 10 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」 を参照してください。

### 30.7.2 myapps.html ページの変更

この節の説明は、ユーザが Web サーバ上の myapps.html ページにアクセスして、Novell Application Launcher プラグインをダウンロードするように設定する場合にのみ該当します。

Middle Tier Server のアップグレード時に、myapps.html.template ファイルが `web_server_root\nwdocs` ディレクトリ (NetWare の場合) または `inetpub\wwwroot` ディレクトリ (Windows の場合) にコピーされます。ユーザが myapps.html ページにアクセスしたときに、ZENworks 7 Novell Application Launcher プラグインがワークステーションに配布されるようにするには、myapps.html.template ファイルを変更し、名前を myapps.html に変更する必要があります。手順は次のとおりです。手順は次のとおりです。

- 1 ZENworks for Desktops 4.x の myapps.html ファイルのバックアップコピーを作成します。

NetWare サーバでは、myapps.html file ファイルは `web_server_root\nwdocs\nwdocs` ディレクトリにあります。Windows サーバでは、`inetpub\wwwroot` ディレクトリにあります。

- 2 (条件付き) ZENworks for Desktops 4.x の myapps.html ファイルをカスタマイズしていた場合は、ZENworks 7 の myapps.html.template ファイルも同じようにカスタマイズします。

ZENworks 7 では、ShowAppFrameNavigation、ShowIEToolBarButton、および NT4PluginVersion の 3 つの新しいパラメータが追加されました。次に各パラメータについて説明します。

**SingleTree:** このパラメータを使用すると、アプリケーション情報を読み込む対象となる単一の Novell eDirectory ツリーを指定できます。このパラメータを使用する場合、Application Launcher ではユーザが認証する他のツリーが無視されます。

このパラメータは、インストール時のみ適用されます。インストール後にこのパラメータを変更しても、影響はありません。

**PortalView:** このパラメータを使用して、Application Browser ビューのバナー部分を削除することによってポータルをサポートを改善できます。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、バナー部分は削除されます。

**BannerURL:** このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定されている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用して別のバナーを指定することができます。たとえば、Novell ロゴの代わりに自分の会社のロゴを含むバナーを使用できます。value の設定値は、HTML ページまたはグラフィックファイル (.gif、.jpg など) への URL にする必要があります。HTML ページを指定した場合、ページは BannerHeight パラメータで指定された高さに切り取られます。グラフィックファイルを指定した場合、バナー部分はグラフィックファイル全体が収まるようにスクロールします。バナー部分をスクロール可能にしたいくない場合は、グラフィックの高さが BannerHeight パラメータで指定された高さを超えないようにする必要があります。

**BannerHeight:** このパラメータは、PortalView パラメータが [false] に設定され、デフォルトの Novell バナーが BannerView パラメータによって無効になっている場合のみ適用されます。

このパラメータを使用してバナー部分の高さを決定します。value の設定値は 5 から 200 にする必要があります。5 未満の値は 5 に切り上げられます。200 を超える値は 200 に切り下げられます。

**ShowTree:** このパラメータは、Application Browser ビューが左のペイン (フォルダビューとも呼ばれます) を含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はフォルダビューが表示され、[false] の場合は削除されます。

**ShowTasks:** このパラメータは、フォルダビュー (左のペイン) が、[オンライン作業]、[オフライン作業]、[Middle Tier ログイン]、[Middle Tier ログアウト]、[アプリケーションを更新する]、および [ヘルプ] オプションを含むかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] の場合はオプションが表示され、[false] の場合は削除されます。

**AppDisplayType:** このパラメータは、アプリケーションが Application Browser ビューの右のペインにどのように表示されるかを決定します。value の設定値は [0] または [1] です。デフォルト値の [0] では、アプリケーションアイコンは、Windows エクスプローラの [大きいアイコン] の表示と同じように、大きなアイコンとして表示されます。設定値 [1] では、アプリケーションは、Windows エクスプローラの [一覧] の表示と同じように、表形式で一覧表示されます。

**ShowAppFrameNavigation:** このパラメータは、Application Browser ビューの右のペインにナビゲーションが含まれるかどうかを決定します。value の設定値は [true] または [false] です。[true] に設定すると、右のペインにナビゲーションが含まれます。ナビゲーションのタイプは、AppDisplayType パラメータの設定によって異なります。

- ◆ AppDisplayType パラメータが [0] ( [大きいアイコン] ) に設定されている場合、ナビゲーションはブレッドグラムとして表示されます (ZENworks Tree > Application Folder > Application A など)。
- ◆ AppDisplayType パラメータが [1] ( [小さいアイコン] ) に設定されている場合、ナビゲーションは、アプリケーションリストの一番上に上向き矢印として表示されます。

このパラメータの値を [false] に設定すると、Application Browser ビューで [All] フォルダが開きます。つまり、すべてのアプリケーションアイコンが右のペインに表示されます。ConsoleOne のユーザの [Application Launcher の環境設定] で [All] フォルダが無効になっている場合、このパラメータは無視されます (つまり、デフォルト値の [true] が使用されます)。

**ShowIEToolBarButton:** このパラメータは、Internet Explorer のツールバーに [Application Browser] ボタンを追加するかどうかを決定します。[Application Browser] ボタンは、ローカルバージョンの myapps.html ファイルを起動します。value の設定値は [true] または [false] です。デフォルトの設定は [true] で、ツールバーに [Application Browser] ボタンが追加されます。[false] に設定すると、ツールバーから [Application Browser] ボタンが削除されます。この設定を変更する場合、ユーザは必ず Internet Explorer を終了して、変更を有効にするために再度開く必要があります。

**MiddleTierAddress:** このパラメータは、eDirectory へのアクセスとして ZENworks Middle Tier Server を設定した場合にのみ適用されます。

MiddleTierAddress パラメータを使用して、ユーザが認証を受ける Middle Tier Server の IP アドレスを指定することができます。Middle Tier Server アドレスが Windows レジストリに含まれていない場合にのみ使用されます。ユーザが ZENworks デスクトップ管理エージェントインストールプログラムの実行時にアドレスを入力した場合、レジストリにはこのアドレスが含まれています。

**Nt4PluginVersion:** このパラメータは ZENworks for Desktops 4.0.1 からアップグレードする場合にのみ適用されます。

ZENworks 7 Novell Application Launcher プラグインは、Windows NT 4 ワークステーションではサポートされていません (Windows NT 4 のサポートの詳細については、[511 ページのセクション 35.3 「Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性」](#)を参照)。ただし、このようなワークステーションで ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを使用し続けることができます。このパラメータは、Windows NT ワークステーションで実行される最低限のバージョンの ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインを指定します。

たとえば、デフォルトのパラメータの設定 (4,0,1,0) では、オリジナルの ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグインがワークステーションにインストールされていることだけが要求されます。バージョン番号が 4,0,1,0 よりも大きい (4,0,1,1 や 4,0,1,2 など) 更新された ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグイン (zfd40.cab) を Middle Tier Server に配置した場合、4.0.1.0 Novell Application Launcher プラグインがインストールされているワークステーションがアップグレードされるのは、このパラメータを新しいバージョンに変更した場合だけです。つまり、新しいバージョンの Novell Application Launcher プラグインを Middle Tier Server に配置しても、アップグレードは自動的には行われません。ワークステー

ションをアップグレードする場合は、このパラメータのバージョン番号を増分して、アップグレードを強制的に実行する必要があります。

**3 myapps.html ページにアクセスしてセットアップをテストします。**

Windows 98/2000/XP のユーザが myapps.html ページにアクセスすると、新しい ZENworks 7 Novell Application Launcher プラグイン (zfdplugin.cab) がユーザのワークステーションにインストールされます。Windows NT ユーザが myapps.html ページにアクセスした場合は、ZENworks for Desktops 4.0.1 Novell Application Launcher プラグイン (zfd40.cab) が使用されます。

## 30.8 ワークステーションのアップグレード

ZENworks Desktop Management Server および ZENworks Middle Tier Server を更新した後、ワークステーションをアップグレードする必要があります。

ここでは、アップグレードの操作手順、および知っておく必要があるソフトウェアの動作について説明します。

- ◆ Novell Client を使用しているワークステーションでは、Novell Client をバージョン 4.91 にアップグレードします。これによって、古い Novell Client がアンインストールされ、バージョン 4.91 がインストールされます。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.x エージェントがインストールされているワークステーションでは、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントをインストールします。これによって、ZENworks for Desktops 4.x エージェントがアンインストールされ、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントがインストールされます。

インストール方法および詳しいインストールの手順については、[143 ページの § 章 12 「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」](#) を参照してください。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0 に付属するバージョンのエージェント (setup.exe) は、サポートされなくなりました。ZENworks for Desktops 4.0 エージェントを ZENworks 7 デスクトップ管理エージェント (または ZENworks 7 with SP1 デスクトップ管理エージェント) にアップグレードする前に、この古いバージョンのエージェントを ZENworks 6 スイート (ZENworks for Desktops 4.0.1/SP1b) 以降に付属するバージョンのエージェントに置き換える必要があります。
- ◆ Novell Application Launcher で使用するためにデスクトップ管理エージェントのアップグレードアプリケーションオブジェクトを設定する場合は、そのアプリケーションを [一度だけ実行] に設定して、エージェントがインストールされた後は、そのアプリケーションが Novell Application Launcher に表示されなくなるようにすることをお勧めします。このアプリケーションオブジェクトについては、アンインストールが有効になっていないことを確認します。

デスクトップ管理エージェントをアップグレードするのに管理者権限は必要ありません。インストール中は、デスクトップ管理エージェントによって、一時的にユーザの権限が昇格されます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.x エージェント (ZENworks for Desktops 4.0.1 Interim Release 4、Interim Release 5、または Interim Release 6 を除く) を ZENworks 7 Desktop Management (または ZENworks 7 Desktop Management with SP1) にアップグレードする場合、ワークステーションに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合、ユーザにワークステーションの再起動を指示するメッセージは表示されません。

ユーザに関連付けられたアプリケーションオブジェクトを使用してアップグレードを実行する場合は、再起動を指示するメッセージが表示されます。



- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェント (またはそれ以降、Interim Release 4 を除く) を ZENworks 7 Desktop Management (または ZENworks 7 Desktop Management with SP1) にアップグレードするときに、NAL\_SINGLE\_TREE MSI プロパティを設定する場合は、ZENWORKS\_TREE プロパティも設定し、ワークステーションが ZENworks ファイルを受け取るツリーを指定する必要があります。

ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェントを ZENworks for Desktops 4.0.1 Interim Release 5 または Interim Release 6 から ZENworks 7 Desktop Management (または ZENworks 7 Desktop Management with SP1) にアップグレードする場合は、ツリーの値をワークステーションがインポートされるツリーに設定する必要があります。ワークステーションがインポートされていない場合、この設定は無視されます。

### 30.8.1 ZENworks for Desktops 4.x エージェントへのロールバック

ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントにアップグレードした後で ZENworks for Desktops 4.x エージェントにロールバックしないことを強くお勧めします。ロールバック (つまり、ZENworks 7 管理エージェントがインストールされている状態で、ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェントまたはそれ以降のバッチや暫定リリースをインストール) すると、エージェントは動作を停止します。

以前のバージョンのエージェントに戻す必要がある場合は、ZENworks 7 デスクトップ管理エージェントをアンインストールした後、ZENworks for Desktops 4.0.1 エージェントをインストールすることをお勧めします。



# ZENworks 7 Launch ガジェットへのアップグレード

# 31

Novell® ZENworks® 6 Web セルフサービス (以前のリリースでは ZENworks OnDemand Services™) は廃止され、ZENworks 7 には含まれていません。Web セルフサービスの機能をどの程度使用していたかによって、ZENworks 6 Web セルフサービスのすべての機能を維持することも、アップグレードして ZENworks 7 Launch ガジェットによる起動機能だけを使用することもできます。

- ◆ **共存** : ZENworks 6 Web セルフサービスは、ZENworks 7 Desktop Management と共存させることができます。ZENworks 6 Launch Item ガジェットには、7 アプリケーション (ConsoleOne® の ZENworks 7 スナップインでアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーション) と 7 以前のアプリケーションが表示されますが、正常に起動できるのは 7 以前のアプリケーションだけです。これは、7 以前のスナップインを使用して管理することによって、7 以前のアプリケーションを維持する必要があることを意味します。DeFrame™ ターミナルサーバアプリケーションの場合は、ZENworks DeFrame ターミナルサーバも維持する必要があります。
- ◆ **アップグレード** : Novell exteNd™ Director™ 4.1 SE ポータル内から ZENworks アプリケーションを起動する機能を維持するために、ZENworks 7 Desktop Management には、Launch Item ガジェットが含まれています。ZENworks 7 では ZENworks Launch ガジェットに名前が変更されました。ZENworks Launch ガジェットは、ConsoleOne の ZENworks 7 スナップインを使用してアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーションを起動します。ZENworks 7 以前のスナップインでアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーションは表示されません。

次の節では、ZENworks Launch ガジェットにアップグレードする手順を説明します。

- ◆ [463 ページのセクション 31.1「ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール」](#)
- ◆ [465 ページのセクション 31.2「ポータルへの Citrix ファイルのコピー」](#)
- ◆ [465 ページのセクション 31.3「ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール」](#)
- ◆ [466 ページのセクション 31.4「アプリケーションオブジェクトのアップグレード」](#)
- ◆ [466 ページのセクション 31.5「ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除」](#)

---

注 : この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## 31.1 ポータルへの ZENworks Launch ガジェットのインストール

- 1 Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition がインストールされ NetWare 6.x または Windows 2000/2003 サーバで稼動していることを確認します。

インストールの詳細については、『Novell exteNd Director 4.1 Standard Edition インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/lg/nedse41>)』を参照してください。

- exteNd Director 4.1 ポータルを管理できる Windows ワークステーションで、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 2 CD) を CD ドライブに挿入します。

Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または SP1 CD) には、ポータルモジュールファイル zenworks.npm が含まれています。このファイルには、ポータルにインストールする ZENworks Launch ガジェットが含まれています。ファイルは、\zenworks launch gadget ディレクトリにあります。

- ポータルに管理者としてログインします。
- [Portal Administration (ポータルの管理)] > [Administer the Portal (ポータルを管理)] [Portal Administration (ポータルの管理)] ページを表示します。
- [Modules (モジュール)] をクリックして [Modules (モジュール)] ページを表示します。
- [インストール] をクリックして、[Install a New Module (新規モジュールのインストール)] ページを表示します。
- [Path to Module File Package(モジュールファイルパッケージへのパス)] フィールドで [参照] をクリックし、zenworks.npm ファイルを参照して選択します。  
.npm ファイルは、Novell ZENworks 7 Companion 2 CD (または SP1 CD) の \zenworks launch gadget ディレクトリにあります。
- [インストール] をクリックして、[Thin Client Support (シンクライアントサポート)] オプションを表示し、ICA および RDP クライアントのサポートを必要とする場合は [ICA & RDP]、RDP クライアントのサポートのみを必要とする場合には [RDP] を選択して、[次へ] をクリックします。
- (条件付き) シンクライアントのサポートについて [ICA & RDP] を選択した場合は、次のフィールドに入力して、[次へ] をクリックします。

**Citrix XML Service Address:** Citrix IMA データベースが存在するサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。複数の Citrix ファームを使用している場合は、IMA データベースが存在する各サーバのアドレスをカンマで区切って入力します。

**Citrix XML Service Port:** Citrix XML Service で使用されているポート番号を指定します。これは通常、ポート 80 になります。MMC でポート番号を確認するには、[サーバ] > [Server Properties (サーバのプロパティ)] > [MetaFrame XP Settings (メタフレーム XP の設定)] の順をクリックして、[TCP/IP Port (TCP/IP ポート)] フィールドにチェックを付けます。

- インストールが完了したら、ポータルを終了します。
- ポータルが NetWare® 6.x サーバ上にある場合は、サーバを再起動します。

または

ポータルが Windows 2000/2003 サーバ上にある場合は、サーバを再起動するか、または Tomcat を再起動します。

## 31.2 ポータルへの Citrix ファイルのコピー

ターミナルサーバ環境に Citrix サーバを使用している場合は、exteNd Director ポータルに複数の Citrix ファイルをコピーする必要があります。この Citrix ファイルは、ICA クライアントセッションを起動するときに Launch ガジェットで使用されます。

- 1 Citrix MetaFrame XP Presentation Server CD を使用して、`\metaframe\w2k\program files\citrix\application\nfuse` ディレクトリ全体を次のポータルディレクトリにコピーします。

```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget
```

この結果、ディレクトリは次のようになります。

```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse
```

- 2 \*.properties ファイルを、`com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse` ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat\webapps\nps\portal\web-inf\classes
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

- 3 \*.jar ファイルを、`com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\nfuse` ディレクトリから次のポータルディレクトリに移動します。

```
tomcat\webapps\nps\portal\web-inf\lib
```

いずれかのファイルがディレクトリにすでに存在する場合は、最新の日付のファイルを保存します。

## 31.3 ワークステーションへの Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントのインストール

ZENworks Launch ガジェットでシンクライアントアプリケーションを起動するには、ワークステーションに Citrix ICA クライアントおよび Microsoft RDP クライアントがインストールされている必要があります。

詳細情報については、以下を参照してください。

- ◆ [465 ページのセクション 31.3.1 「ICA クライアント」](#)
- ◆ [466 ページのセクション 31.3.2 「RDP クライアント」](#)

### 31.3.1 ICA クライアント

ZENworks Launch ガジェットでは、ワークステーションに ICA Program Neighborhood (PN) クライアントまたは ICA Web クライアントがインストールされている必要があります。PN クライアントまたは Web クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

- 1 Citrix Download Clients サイト (<http://www.citrix.com/site/SS/downloads/downloads.asp?dID=2755>) から PN クライアントまたは Web クライアントファイルをダウンロードします。

- 2 各ワークステーションにクライアントファイルを配布します。
- 2a Web クライアントの場合は、wfcacat.cab ファイルをポータルサーバの次の場所にコピーします。
- ```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\bin
```
- ユーザが ICA クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットは .cab ファイルを使用して、Web クライアントをインストールします。
- 2b PN クライアントの場合は、『Citrix 管理者ガイド』に記載されているインストール手順に従うか、または Novell Application Launcher を使用して、クライアントファイルを配布します。
- または
- PN クライアントファイルの名前を wfcacat.cab に変更し、ポータルサーバの次の場所にコピーします。
- ```
tomcat\webapps\nps\portal\gadgets\com.novell.ondemand.gadgets.zenlaunchgadget\bin
```

### 31.3.2 RDP クライアント

Microsoft RDP 5.1 クライアント (msrdp.ocx) は、ZENworks Launch ガジェットに含まれています。RDP クライアントセッションで実行されるように設定したターミナルサーバアプリケーションを起動すると、Launch ガジェットはユーザのワークステーションの c:\program files\novell\zenworks ディレクトリに msrdp.ocx ファイルをインストールして、.ocx ファイルを登録します。

## 31.4 アプリケーションオブジェクトのアップグレード

ZENworks Launch ガジェットは、ConsoleOne の ZENworks 7 スナップインを使用してアプリケーションオブジェクトを作成したアプリケーションだけを表示します。7 以前のアプリケーションを Launch ガジェットに表示したい場合は、7 (または 7 SP1) スナップインを使用して再作成する必要があります。

## 31.5 ZENworks 6 Web セルフサービスコンポーネントの削除

ZENworks 7 Launch ガジェットにアップグレードした後、ユーザに ZENworks 6 Web セルフサービスガジェットへのアクセスを提供していたポータルの割り当てを削除する必要があります。必要に応じて、Novell eDirectory™ から Web セルフサービスオブジェクトを削除するだけでなく、ポータルからページやガジェットを削除することもできます。

# ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード

# 32

Novell® ZENworks® 6.5 Desktop Management (または 6.5 SP1 または SP2 Desktop Management。これ以降は、これらすべてを ZENworks 6.5x Desktop Management と呼びます) から ZENworks 7 Desktop Management へのアップグレードは、新製品のインストールと同じくらい簡単です。インストールプログラムによって、Desktop Management Server、ZENworks Middle Tier Server、およびデスクトップ管理エージェントなどの Desktop Management の各種コンポーネントが自動的にアップグレードされます。

---

注 : ZENworks 6.5 Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする際は、Desktop Management Server、ZENworks Middle Tier Server、デスクトップ管理エージェントの順にアップグレードすることをお勧めします。

---

この節の前半では、ZENworks Desktop Management 6.5x から ZENworks Desktop Management 7 へと段階的にアップグレードするうえで役立つ情報を紹介します。

- ◆ 468 ページのセクション 32.1 「ZENworks 6.5x Desktop Management と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性」

例外として、ZENworks 7 ではデスクトップイメージング用の ziswin.exe の動作方式が変更されたため、アップグレードの際に特別な考慮を払う必要があります。イメージセーフデータの損失を防ぐため、次の手順に従ってください。

- ◆ 468 ページのセクション 32.2 「イメージセーフデータの維持」

その他に、ワークステーションインベントリコンポーネントは、アップグレード時に例外的に取り扱う必要があります。ZENworks 6.5x ワークステーションインベントリを ZENworks 7 ワークステーションインベントリにアップグレードするためには、所定の準備作業を実行しなければなりません。この節の後半では、ワークステーションインベントリのアップグレードについて説明します。

- ◆ 470 ページのセクション 32.3 「アップグレードの際に起動前サービスの設定を維持する」
- ◆ 470 ページのセクション 32.4 「Wake-on-LAN サービスのアップグレード」
- ◆ 470 ページのセクション 32.5 「ワークステーションインベントリのアップグレード」

---

注 : この節の情報は、ZENworks 6.5x Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードにも当てはまります。

---

## 32.1 ZENworks 6.5x Desktop Management と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性

次の表は、ZENworks 6.5.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする過程で、バージョン 6.5.x と 7 の主要コンポーネントが連係する様子を示しています。各行を横にたどり、バージョン / コンポーネントの互換性を確認してください。

表 32-1 ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 7 Desktop Management のコンポーネントの互換性

デスクトップ管理エージェントのバージョン	ZENworks Middle Tier のバージョン	Desktop Management Server のバージョン
6.5x	6.5x	6.5x
6.5x	6.5x	7
6.5x	7	7
7	7	7

## 32.2 イメージセーフデータの維持

ziswin.exe イメージングコンポーネントの動作方法は、ZENworks 7 Desktop Management で変更されました。これは、ZENworks Desktop Imaging の以前のバージョンを使用して作成され、ワークステーションに置かれたイメージ内には、ziswin.exe の古いバージョンが含まれているということを意味しています。

ZENworks 7 Desktop Imaging を使用してこれらのワークステーションの再イメージングを行った場合、ziswin.exe をサービスモードで実行すると、そのワークステーションのイメージセーフデータはクリアされます。サービスモードには、イメージセーフデータの削除を自動的に行う、復元サブモードが含まれているからです。

イメージングを行ったワークステーション上のイメージセーフデータを維持するには、適用対象となる各ワークステーションのイメージ内の、古いバージョンの ziswin.exe を、ZENworks 7 のバージョンで置き換える必要があります。これには 2 通りの方法があります。

- ◆ 468 ページのセクション 32.2.1 「アドオンイメージによる ziswin.exe のアップデート」
- ◆ 469 ページのセクション 32.2.2 「Image Explorer による ziswin.exe のアップデート」

ziswin.exe の詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「ZENworks Imaging Windows Agent (Ziswin.exe)」を参照してください。

### 32.2.1 アドオンイメージによる ziswin.exe のアップデート

- 1 ZENworks 7 の新しい ziswin.exe を含むアドオンイメージを作成します。

ziswin.exe の新しいバージョンは、イメージングサーバの sys:public\zenworks\imaging ディレクトリに置かれます。

置き換えられる ziswin.exe の古いバージョンは、次の場所にあります。



---

Windows 98	c:\windows\system\ziswin.exe
Windows 2000/XP	c:\windows\system32\ziswin.exe

---

アドオンイメージの作成方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**“アドオンイメージの作成”**」を参照してください。

- 2 アドオンイメージを、ziswin.exe の古いバージョンを含むベースイメージと関連付けます。

アドオンイメージの関連付け方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**“ベースイメージへのアドオンイメージの関連付け”**」を参照してください。

- 3 アドオンイメージをワークステーションに適用します。

アドオンイメージの適用方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**“イメージングの自動作成または復元の実行”**」または「**“手動によるワークステーションへのイメージの適用”**」を参照してください。

これにより、古い ziswin.exe は新しい ZENworks 7 バージョンで置き換えられ、ワークステーションのイメージセーフデータは維持されます。

これ以降、ワークステーションのイメージデータは、他のワークステーションの再イメージングで使用することができます。それらのイメージセーフデータが失われることはありません。

## 32.2.2 Image Explorer による ziswin.exe のアップデート

- 1 イメージングサーバの Image Explorer を開きます (sys:\public\zenworks\imaging ディレクトリで、

または

ConsoleOne で、[ツール] > [ZENworks ユーティリティ] > [イメージング] > [Image Explorer] の順にクリックします)。

- 2 Image Explorer を使って、古い ziswin.exe を ZENworks 7 のバージョンで置き換えます。

ziswin.exe の新しいバージョンは、イメージングサーバの sys:public\zenworks\imaging にあります。

置き換えられる、古いバージョンの ziswin.exe は次の場所にあります。

---

Windows 98	c:\windows\system\ziswin.exe
Windows 2000/XP	c:\windows\system32\ziswin.exe

---

イメージの編集方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**“Image Explorer (imgexp.exe)”**」を参照してください。

これ以降、ワークステーションのイメージデータは、他のワークステーションの再イメージングで使用することができます。それらのイメージセーフデータが失われることはありません。

## 32.3 アップグレードの際に起動前サービスの設定を維持する

381 ページの「注意」で述べたように、ZENworks Imaging が使用する特定のファイルは、製品の再インストールまたはアップグレードを行うと必ず上書きされます。このことは、以前に ZENworks 起動前サービスをインストールしていた場合にも当てはまります。以前の PXE サーバ(たとえば、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.0.1) からアップグレードする場合、起動前サービス用の .ini ファイル(特に dts.ini ファイル、tftp.ini ファイル、および pdhcp.ini ファイル)は上書きされます。これらのファイルのフォーマットは、ZENworks 6.5 Desktop Management および ZENworks 7 Desktop Management のバージョンで変更されたからです。そのような場合、アップグレード後にこれらの .ini ファイルを再設定する必要があります。それで、ファイルの設定の記録を残しておくために、.ini ファイルのバックアップを取っておくと良いでしょう。

同様に、ZENworks 6.5 起動前サービスをクラスタリング環境にインストールしていた場合、アップグレードインストールプログラムは、pdhcp.ini、tftp.ini、および pdhcp.ini ファイル内に仮想サーバ用の設定を作成します。アップグレードの際、アップグレードインストールプログラムによって同じ設定が再作成されるため、これらの .ini ファイルのバックアップコピーを作成して設定の記録を残し、必要に応じて、アップグレード後に新しい .ini ファイルに手動で移すことができるようにしておくのは良いことです。

## 32.4 Wake-on-LAN サービスのアップグレード

Windows サーバで、ZENworks 6.5 Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management に Wake-on-LAN サービスをアップグレードする場合には、サービスコントロールマネージャウィンドウを閉じていることを確認してください。

## 32.5 ワークステーションインベントリのアップグレード

ワークステーションインベントリを ZENworks 6.5.x Desktop Management から ZENworks 7 にアップグレードするには、次の作業を示されている順序で実行します。

1. 470 ページのセクション 32.5.1 「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」の情報を確認します。
2. 472 ページのセクション 32.5.2 「アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業」で説明されている作業を実行します。
3. 474 ページのセクション 32.5.3 「ZENworks 6.5x ワークステーションインベントリコンポーネントのアップグレード」で説明されている作業を実行します。
4. 475 ページのセクション 32.5.4 「データベース移行後の作業」で説明されている作業を実行します。

### 32.5.1 アップグレードを実行する前に確認すべき事項

インベントリコンポーネントを ZENworks 6.5x Desktop Management から ZENworks 7 にアップグレードする場合は、事前に次の節で説明されている点を確認してください。

- ◆ 471 ページの「Inventory Server」
- ◆ 471 ページの「Inventory Agent(インベントリエージェント)」

- ◆ 472 ページの「管理コンソール」

## Inventory Server

- ◆ ZENworks 7 インベントリサーバと ZENworks 6.5.x インベントリサーバは同じ eDirectory™ ツリーに共存させることができます。
- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks 7 インベントリサーバにロールアップできますが、ZENworks 7 インベントリサーバはインベントリデータを ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバにロールアップできません。  
インベントリデータをロールアップする場合は、ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバを上階層から順に ZENworks 7 にアップグレードする必要があります。最初にルートサーバ、次に中間サーバ、最後にリーフサーバをアップグレードします。
- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバおよび ZENworks 7 インベントリサーバはどちらも、ZENworks 7 にアップグレードした ZENworks 6.5.x Desktop Management ロールアップポリシーを使用できます。
- ◆ ZENworks 7 インベントリデータベースを直接 ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバに接続しないでください。同様に、ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリデータベースを直接 ZENworks 7 インベントリサーバに接続しないでください。インベントリサーバとそのデータベースは同時にアップグレードします。サポートされるデータベース (Sybase、Oracle、および MS SQL) はすべて移行できますが、ZENworks 7 Desktop Management のインストールでは Sybase データベースのみが自動的にアップグレードされます。
- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバと ZENworks 7 インベントリサーバで、同じインベントリデータベースに直接インベントリデータを格納しないでください。
- ◆ ZENworks 7 インベントリサーバは ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバの .zip ファイルを処理できます。
- ◆ インベントリサーバを ZENworks 7 にアップグレードした後、ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバの SCANDIR ディレクトリにある ZENworks 6.x Desktop Management の .str および .zip ファイルを削除しないでください。
- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバを ZENworks 7 にアップグレードしても、インベントリサーバの役割は変更されません。

## Inventory Agent( インベントリエージェント )

- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリエージェントは、ZENworks 7 インベントリサーバにインベントリデータを送信できます。つまり、データを ZENworks 7 インベントリデータベースに格納できます。

ZENworks 7 インベントリエージェントは、ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリサーバにインベントリデータを送信できません。つまり、データを ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリデータベースに格納できません。

インベントリサーバとインベントリデータベースのアップグレードを完了するまで、ZENworks 7 Inventory Agent にアップグレードしないでください。

- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management インベントリエージェントおよび ZENworks 7 インベントリエージェントはいずれも、ZENworks 7 にアップグレードされた ZENworks

6.5.x Desktop Management インベントリポリシー、または ZENworks 7 デスクトップ管理スナップインで作成された ZENworks 7 インベントリポリシーを使用できます。

- ◆ ZENworks 6.5.x Desktop Management エージェントをワークステーションイメージングでインストールまたはアップグレードする場合は、必ず、未登録の ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションでイメージを取得してください。

## 管理コンソール

- ◆ ConsoleOne の ZENworks 7 デスクトップ管理スナップインを使用して、ZENworks 6.5x Desktop Management と ZENworks 7 のインベントリデータとインベントリオブジェクト (インベントリサービスオブジェクト、データベースオブジェクト、ワークステーションインベントリポリシー、ロールアップポリシー、ディクショナリ更新ポリシー、データベースの場所ポリシーなど) を管理できます。
- ◆ ZENworks for Desktops 6.5x Desktop Management の ConsoleOne スナップインを使用して、ZENworks 7 Desktop Management のインベントリデータやインベントリオブジェクトを管理することはできません。
- ◆ ZENworks 6.5x Desktop Management または ZENworks 7 Desktop Management の管理コンソールを使用して、同じ ZENworks for Desktops 4.x インベントリオブジェクトを設定しないでください。

## 32.5.2 アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業

470 ページのセクション 32.5.1 「アップグレードを実行する前に確認すべき事項」の説明を確認してから、ZENworks 6.5.x Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする前に、次の作業を順に実行する必要があります。

### 1 Inventory Service を停止します。

- 1a** NetWare® インベントリサーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「`sys:\system\invstop.ncf`」と入力します。

Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、`sys:\system\invstop.ncf` ファイルで `Unload dbsrv8.nlm` 行をコメント化します。

- 1b** Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。

### 2 インベントリデータベースを停止します。

- 2a** NetWare の場合 :Sybase コンソールのプロンプトで、<Q> キーを押します。

- 2b** Windows 2000/2003 の場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。

### 3 ZENworks Web サーバを停止します。

Windows 2000/2003 の場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell ZFS Web Server] を選択し、[停止] をクリックします。

- 4** 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、`java.nlm` をアンロードします (サーバコンソールで、「`java -exit`」と入力する)。

---

**重要:** このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。ZENworks 7 Desktop Management を再インストールするときは、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

---

- 5 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。
- 6 ZENworks 6.5.x Desktop Management データベースのバックアップを作成し、保存したことを確認します。
- 7 ConsoleOne から ZENworks 6.5.x Desktop Management データベースにアクセスされていないことを確認します。
- 8 推奨される ZENworks 7 ワークステーションインベントリ要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。
- 9 ZENworks 6.5.x Desktop Management のインストールの後に `ZENworks_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\inventoryremoval.properties` を修正していた場合には、`inventoryremoval.properties` の信頼できるバックアップを作成してください。
- 10 スキーマが ZENworks 7 に移行されていることを確認します。スキーマは、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムを使用して移行できます。スキーマの拡張方法については、[85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」](#) を参照してください。
- 11 インベントリサーバをアップグレードする前に、関連付けられたデータベースサーバのアップグレードが完了していることを確認します。
- 12 ZENworks 6.5x Desktop Management データベースで Oracle を実行している場合は、移行前に次の作業を行う必要があります。
  - 12a Oracle のバージョンが 9.2.0.6 以降であることを確認します。
  - 12b `inventory_database_installation_path\init.ora_path\init.ora` で、次のパラメータの値を以下のように設定します。

```
db_cache_size=192M
sort_area_size=10000000
shared_pool_size = 157286400
open_cursors = 2048
log_buffer = 1024000
session_cached_cursors=2048
compatible=9.2.0
```

キャッシュサイズおよび Shared Global Area (SGA) を持つ共有プールのサイズは、物理 RAM サイズの 30 ~ 40% に増加することができます。
  - 12c インベントリデータベースが稼動していることを確認します。

ORA-01555 およびロールバックセグメントに関連した他の問題によりデータベースの移行およびその他データの保存が失敗する場合は、より大きなロールバックセグメントが必要になります。
  - 12d ロールバックセグメントの値を増やすには、次の SQL スクリプトを実行して、ロールバックセグメント (rbs) に他のデータファイルを追加し、Redo ロググループを追加します。

```

connect / as sysdba;

alter tablespace rbs add datafile
'_Inventory_database_installation_path\rbs2.ora' size 40M
autoextend on next 50K maxsize 60M;

alter rollback segment rb0 storage (maxextents unlimited);

alter rollback segment rb1 storage (maxextents unlimited);

ALTER DATABASE ADD LOGFILE GROUP 3
('Inventory_database_installation_path\log3.ora') SIZE 50M;

```

- 12e** インベントリデータベースを停止します。
- 12f** `inventory_database_installation_path\path_to_init.ora\init.ora` の `compatible` パラメータの値が 9.2.0 以上に設定されていることを確認します。
- 12g** データファイルのサイズが 4096MB を超える場合、該当するテーブルスペースに追加のデータファイルを設定する必要があります。
- 12h** `zenworks_installation_directory\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から適切な、プラットフォーム固有の `atlasperf_altertablespace.sql` を、C: に抽出します。  
Windows で Oracle を実行している場合は、`sql.zip` 内の `oracle\winntspecific` ディレクトリから `atlasperf_altertablespace.sql` を抽出します。  
UNIX で Oracle を実行している場合は、`sql.zip` 内の `oracle\unixspecific` ディレクトリから `atlasperf_altertablespace.sql` を抽出します。
- 12i** `atlasperf_altertablespace.sql` を編集し、すべてのデータファイルに対して `maxsize` の値を 4GB の倍数に最も近い値に設定します。  
たとえば、`CIM8.ora` のサイズが 5GB の場合、`MAXSIZE` の値を 8192MB に設定します。
- 12j** `atlasperf_altertablespace.sql` に表示されているすべてのデータファイルのファイルパスが正しいことを確認します。
- 12k** インベントリデータベースを再起動します。
- 12l** `atlasperf_altertablespace.sql` を実行します。

### 32.5.3 ZENworks 6.5x ワークステーションインベントリコンポーネントのアップグレード

ZENworks 7 Desktop Management をインストールするコンピュータがインストール要件を満たしている場合は、ZENworks 7 Desktop Management をインストールすることによって、ZENworks 6.5x Desktop Management ワークステーションインベントリコンポーネントをアップグレードできます。インストール要件の詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management インベントリサーバは、ZENworks 6.5x Desktop Management と同じ役割のセットをサポートしています。したがって、ZENworks 6.5x Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合、インベントリサーバの役割は保持されます。

ZENworks 7 Desktop Management インストールプログラム (または SP1 インストールプログラム) によって、ZENworks 6.5x Desktop Management のすべてのポリシーが自動的に ZENworks 7 Desktop Management (または ZENworks 7 Desktop Management with SP1) に移行されます。

## 32.5.4 データベース移行後の作業

インベントリサーバのアップグレードとインベントリデータベースの移行が完了したら、次の作業を実行する必要があります。

- 1 Inventory Service を停止します。
- 2 インベントリデータベースが Oracle を実行している場合、データベースのパフォーマンスを向上させるために次の手順を実行します。
  - 2a `zenworks_installation_directory\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から `atlasperf_alterfreelist.sql` を抽出して、SQLPLUS プロンプトで実行します。
  - 2b `inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から `oracle\common\oracle_perf.sql` and `oracle\common\oracle_perf2.sql` ファイルを実行して、データベースにパフォーマンス向上用のインデックスを追加します。 .
  - 2c *Novell ZENworks 7 Companion 2 CD \database\oracle8i\common* ディレクトリまたは *Novell ZENworks 7 Companion with Support Pack 1 Companion 2 CD \database\oracle\_x\common* ディレクトリから `oracle_dbexport_perf.sql` を実行します。
  - 2d (条件付き) ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 Hot Patch 1 または Hot Patch 2、または ZENworks 6.5 Desktop Management SP2 から移行する場合には、`zenworks_installation_directory\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から `\oracle\common\zfd65sp1hp1_65sp2_70.sql` を抽出して、SQLPLUS プロンプトで実行してください。  
インベントリデータベースのパフォーマンスの改善方法の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**ワークステーションインベントリ**」の「**Performance Tips (パフォーマンスに関するヒント)**」を参照してください。 .
- 3 (オプション) インベントリデータベースで MS SQL を実行している場合、MS SQL Query Analyzer で、次に示す適切なユーザログインによって `inventory_server_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\sql.zip` から次のスクリプトを実行します。
  - 3a CIM としてログインし、`mssql_perf_cim.sql` を実行します。
  - 3b `mw_dba` としてログインし、`mssql_perf_mw_dba.sql` を実行します。
  - 3c `zenworks` としてログインし、`mssql_perf_zenworks.sql` を実行します。
  - 3d (条件付き) ZENworks 6.5 Desktop Management SP1 Hot Patch 1 または Hot Patch 2、または ZENworks 6.5 Desktop Management SP2 から移行する場合は、CIM としてログインし、`\mssql\zfd65sp1hp1_65sp2_70.sql` を実行します。  
これにより、インベントリデータベースのパフォーマンスが向上します。

インベントリデータベースのパフォーマンスの改善方法の詳細については、  
『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「“ワークステーションイ  
ンベントリ”」の「“Performance Tips (パフォーマンスに関するヒント)”」を参照  
してください。

**4** Inventory Service を開始します。



# ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮 事項

# 33

この節には、GUI アップグレード方法を使用して Novell® ZENworks® for Desktops または ZENworks Desktop Management の以前のバージョンを ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 (SP1) にアップグレードするために必要な手順についての情報が含まれています。Server Software Packages を使用するアップグレードの詳細については、[479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」](#) を参照してください。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ [477 ページのセクション 33.1 「概要」](#)

## 33.1 概要

SP1upgrade の機能を理解するための次の情報の確認。

- ◆ [477 ページのセクション 33.1.1 「SP1 のインストールで実行される処理」](#)
- ◆ [478 ページのセクション 33.1.2 「SP1 インストールプログラムが実行しない項目」](#)
- ◆ [478 ページのセクション 33.1.3 「ネットワークサーバの段階的アップグレード」](#)

SP1 での変更の詳細については、[387 ページのセクション 28.5 「ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の変更点と新機能」](#) を参照してください。

### 33.1.1 SP1 のインストールで実行される処理

- ◆ SP1 のインストールプログラムは、ZENworks 7 Desktop Management7 がインストールされたパスを使用して、ZENworks 7 Desktop Management ソフトウェアを検出しアップグレードします。
- ◆ サーバ上で実行されているサービス (インベントリサービスを除く) は SP1 のインストールプログラムによって停止および再開されます。
- ◆ 常に SP1 のファイルがコピーされ、新旧を問わずすべてのファイルがアップグレードファイルに置き換えられます。ZENworks ディレクトリ以外の場所にコピーされたファイルは、それらが古いファイルの場合のみ置換されます。
- ◆ SP1 インストールでは、インストール対象のワークステーションだけでなく、アップグレードウィザードによって検出されたターゲットサーバ上の ConsoleOne® スナップインがすべて ZENworks 7 Desktop Management with SP1 にアップグレードされます。[ConsoleOne] チェックボックスをオンにする場合は、過去にインストールされたスナップインがすべてバージョン7であることが必要です。
- ◆ インストールプログラムは、ZENworks for Desktops 3.2 Support Pack 3、ZENworks for Desktops 4.x、ZENworks 6.5x Desktop Management、および ZENwork 7 Desktop

Management を、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にアップグレードします。

### 33.1.2 SP1 インストールプログラムが実行しない項目

- ◆ 各機能に対応するチェックボックスを選択解除することはできません。これらのステータスは、アップグレード対象のサーバを選択したときにインストールプログラムによって判断されます。
- ◆ インベントリサーバをアップグレードする場合、インストールプログラムは自動的にインベントリサービスを開始しません。SP1 のアップグレード後に手動でサービスを開始する必要があります。
- ◆ ZENworks for Desktops 3.2 SP3からZENworks 7 Desktop Management with SP1にアップグレードする場合、SP1 インストールプログラムは、3.2x のリリースでは利用可能でなかったリモート管理、Wake-on-LAN およびインベントリプロキシなどのコンポーネントもリストに含めます。アップグレードにこれらの新しいコンポーネントも含めた場合には、表示された時点で選択してください。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 Services on Linux にアップグレードする場合、インストールプログラムは、すでにインストールされているコンポーネントを検出しません。すべてのコンポーネントが、デフォルトでインストールするように選択されます。

### 33.1.3 ネットワークサーバの段階的アップグレード

すべての ZENworks サーバ ( 単一の eDirectory ツリー内のもの ) を 1 パスで ZENworks 7 Desktop Management with SP1 にアップグレードすることもできますし、( 地理上の位置などに応じて ) 段階的にアップグレードすることもできます。

SP1 のインストールプログラムでは、複数のサーバが一度にアップデートされます。複数のサーバが存在する場合、1 回のインストールセッションでこれらのサーバをアップグレードするのに要する時間を検討してください。アップグレードにかかる時間が長すぎる場合、対象になるサーバを複数のグループに分けて、一度に 1 つのグループをアップグレードできるようにします。

# Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード

この節には、Server Software Package を使用して Novell® ZENworks® Desktop Management の以前のバージョンを ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 (SP1) にアップグレードするために必要な手順についての情報が含まれています。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ 479 ページのセクション 34.1 「アップグレードコンポーネントの理解」
- ◆ 481 ページのセクション 34.2 「CPK のテスト」
- ◆ 485 ページのセクション 34.3 「アップグレードの条件のチェックリスト」
- ◆ 486 ページのセクション 34.4 「Server Software Package を使用したアップグレード」
- ◆ 504 ページのセクション 34.5 「アップグレードが成功したかどうかの確認」

## 34.1 アップグレードコンポーネントの理解

Server Software Package を使用する場合には、.cpk アップグレードファイルを使用します。2 つのオプションがあります。

- ◆ CPK ごとに **Software Package Distribution** を作成し、この Distribution を、特定の CPK の内容をアップグレードするすべての Subscriber サーバに送信します。
- ◆ 各サーバの Desktop Management ソフトウェアを、**Standalone Package Processor** 実行可能ファイルを使用して、適用される CPK で個別にアップグレードする。

このオプションは、サーバに Desktop Management だけをインストールしている場合に役立ちます。CPK Distribution の送信、受信、およびインストールには Server Management が必要だからです。

Server Software Package の詳細については、『*Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド*』の「**Server Software Packages**」を参照してください。

ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードのために、次の CPK が提供されています。

表 34-1 ZENworks Desktop Management Upgrade CPK

CPK ファイル	Description
c1-zen7-snap.cpk	<p>ConsoleOne® をアップグレードするための The ZENworks 7 Desktop Management with SP1 スナップインです。</p> <p>これは、多くのサーバで実行されている ConsoleOne の多数のインスタンスにスナップインを自動的にインストールする場合に役立ちます。</p>

CPK ファイル	Description
<i>language-agent.cpk</i>	<p>次のような、すべてのサポート対象プラットフォーム用の、Language Agent MSI ファイルです ( サポートされている言語ごとに 1 つ )。</p> <p>ChineseS-agent.cpk  ChineseT-agent.cpk  Deutsch-agent.cpk  English-agent.cpk  Espanol-agent.cpk  Francais-agent.cpk  NihongoS-agent.cpk  Portugue-agent.cpk</p> <p>これらの CPK は、必要なときにアクセス可能になるように、MSI ファイルだけをコピーします。</p>
startinv.cpk	<p>アップグレード後にインベントリサービスを開始します。Sybase の再起動も含まれます。</p> <p>これは、zdn7bksp1.cpk および zdnc7bksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
startwol.cpk	<p>サービスのアップグレード後に、Wake-on-LAN サービスを開始します。</p> <p>これは、zdn7bksp1.cpk および zdnc7bksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
stopinv.cpk	<p>アップグレード前にインベントリサービスを停止します。Sybase データベースも、プロンプトなしで停止します。</p> <p>これは、zdn7bksp1.cpk および zdnc7bksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
stopwol.cpk	<p>サービスのアップグレード前に Wake-on-LAN サービスを停止します。</p> <p>これは、zdn7bksp1.cpk および zdnc7bksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
zdl7imgstart.cpk	<p>OES Linux サーバ上で novell-ftp および novell-zmgprebootpolicy デーモンを再起動します。</p> <p>これは、zdl7mbcksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
zdl7mbcksp1.cpk	<p>Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバにインストールされた Desktop Management Server および Middle Tier コンポーネントを自動的にアップグレードします。</p>
zdl7proxystart.cpk	<p>OES Linux サーバ上で novell-proxydhcp デーモンを再起動します。</p> <p>これは、zdl7mbcksp1.cpk 用のヘルパー CPK です。</p>
zdn7bksp1.cpk	<p>英語のみです。NetWare® サーバ (OES NetWare を含む ) にインストールされた Desktop Management Server コンポーネントをアップグレードします。</p> <p>stopinv.cpk、startinv.cpk、stopwol.cpk、および startwol.cpk 用の Software Package Distribution は、この CPK の Software Package Distribution と組み合わせてプロセスを自動的に停止および開始するために使用され、アップグレードを無人で完了できるようにします。</p>
zdn7midsp1.cpk	<p>NetWare サーバ (OES NetWare を含む ) にインストールされた Middle Tier コンポーネントをアップグレードします。</p>

CPK ファイル	Description
zdnc7bksp1.cpk	<p>英語のみです。NetWare® サーバクラスタ (OES NetWare を含む) にインストールされた Desktop Management Server コンポーネントをアップグレードします。</p> <p>stopinv.cpk、startinv.cpk、stopwol.cpk、および startwol.cpk 用の Software Package Distribution は、この CPK の Software Package Distribution と組み合わせてプロセスを自動的に停止および開始するために使用され、アップグレードを無人で完了できるようにします。</p>
zdw7bksp1.cpk	Windows サーバにインストールされた Desktop Management Server コンポーネントをアップグレードします。
zdw7midsp1.cpk	<p>Windows サーバにインストールされた Middle Tier コンポーネントをアップグレードします。</p> <p>この CPK の場合、アップグレード中に [IIS 管理サービス] とそれに依存するサービスが停止されますが、Distribution が再起動するのは [IIS 管理サービス] だけです。それで、[IIS 管理サービス] に依存する Windows サービスがあれば、Distribution の設定に、再起動配布後プロセスを含める必要があります。</p> <p><b>重要:</b> [IIS 管理サービス] は、Middle Tier コンポーネントがアップグレードされたときに、完全に動作し、健全な状態になっている必要があります。アップグレードの前に、手動で停止と開始を行って、このサービスの状態をチェックしてください。アップグレードの前には動作中である必要があります。</p>

481 ページのセクション 34.2 「CPK のテスト」に進みます。

## 34.2 CPK のテスト

サーバをアップグレードするために使用する CPK については、まず CPK をテストして、次の事柄を決定してください。

- ◆ 変数 CPK が必要とする変数は正常に動作するか

Distribution を受け取るために、ターゲットの Subscriber サーバでこれらの変数を定義するように指示されます。

- ◆ タイミング 各 CPK の Distribution が完了するのにどの程度の時間がかかるか

これは、1 台のサーバに複数の Distribution を送信する場合のタイミングのため、特に、NetWare サーバのヘルパー CPK に関連しています。各 CPK の配布プロセスは正しい順序で行われる必要があるからです。

これらの問題は、OES Linux の CPK (zdl7mbcksp1.cpk、zdl7imgstart.cpk、および zdl7proxystart.cpk) には適用されません。それで、これらの CPK のテストは、Distribution を 1 台のサーバ (できればテストサーバ) に送るだけで行えます。

CPK のテストを行えば、Desktop Management ソフトウェアが正しくアップグレードされるかどうかを確認できます。

CPK をテストするには、次の事柄を行ってください。

1 次のものをインストールするテストサーバを選択または設定します。:

- ◆ **eDirectory:** Windows テストサーバの場合、42 ページのセクション 4.2.1 「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」で指定されているように、eDirectory™ 8.7 を C: ドライブにインストールする必要があります。

ZENworks 7 は eDirectory 8.8 をサポートせず、Windows テストサーバにインストールした ZENworks 7 ソフトウェアは eDirectory 8.8 では動作しないので、CPK アップグレードテストが間違った結果になる可能性があります。

- ◆ **Desktop Management Server** ソフトウェア : テストするバージョンをインストールします。ソフトウェアは、設定を済ませ、動作状態にしておく必要があります。
- ◆ **Middle Tier** ソフトウェア : テストするバージョンをインストールします。ソフトウェアは、設定を済ませ、動作状態にしておく必要があります。
- ◆ **Subscriber および Policy/Package Agent** ソフトウェア : CPK を実行するには、テストサーバで ZENworks 6.5 Server Management 以上が動作している必要があります。

CPK を個別に実行してテストすればよく、配布は行わないので、Distributor サーバは必要ありません。

- ◆ **ConsoleOne:** これは、テストサーバにインストールする ZENworks Desktop Management で必要とされる最小バージョンである必要があります。ConsoleOne スナップインの CPK アップグレードのテストの際には、ConsoleOne を使用することはできません。

ZENworks Desktop Management をアップグレードするネットワークのプラットフォーム用のテストサーバを設定します。ステップ 8 で記録するタイミングが正確になるように、実運用サーバに近い仕様のマシンを選択します。

すべての .cpk ファイルをテストするために、NetWare、Windows、および OES Linux 用にテストサーバを適切に設定する必要があります。この節の、NetWare プラットフォームに関連するすべての情報は、OES NetWare にも適用されます。

2 ローカルのアップグレードテスト用に、テストサーバ上で CPK が利用できるようにするため、適用されるテストサーバでテストする、次の .cpk ファイルをコピーします (ファイルのコピー先のフルパスを指定してください)。

**NetWare<sup>1</sup>** テストサーバをアップグレードする場合

---

**Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 4 CD**にあるもの:

---

stopinv.cpk	zdn7bksp1.cpk
stopwol.cpk	zdn7midsp1.cpk
startinv.cpk	c1-zen7-snap.cpk
startwol.cpk	language-agent.cpk

---

<sup>1</sup> OES NetWare サーバを含みます。

クラスタ化された **NetWare<sup>1</sup>** テストサーバをアップグレードする場合

---

Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 4 CD にあるもの :

---

stopinv.cpk	zdc7bksp1.cpk
stopwol.cpk	c1-zen7-snap.cpk
startinv.cpk	language-agent.cpk
startwol.cpk	

---

<sup>1</sup> OES NetWare サーバを含みます。

**Windows** テストサーバをアップグレードする場合

---

Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 4 CD にあるもの :

---

zdw7bksp1.cpk	c1-zen7-snap.cpk
zdw7midsp1.cpk	language-agent.cpk

---

**OES Linux** テストサーバをアップグレードする場合

---

Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 3 CD にあるもの :

---

zdl7mbcksp1.cpk	language-agent.cpk
zdl7imgstart.cpk	c1-zen7-snap.cpk
zdl7proxystart.cpk	

---

利便性を図るため、*language-agent.cpk* および *c1-zen7-snap.cpk* ファイルは 2 つの *Companion CD* に重複しています。これらは OES Linux および NetWare/Windows アップグレードの両方で使用されるからです。これらの CPK は、必要に応じてアクセス可能になるように、MSI ファイルだけをコピーします。

- 3 ConsoleOne で CPK の説明を表示できるようにするために、次の事柄を行います。
  - 3a ConsoleOne が動作しているワークステーションで、[*Server Software Packages*] ネームスペースを右クリックし、[*Insert Software Package (Software Package の挿入)*] を選択します。
  - 3b **ステップ 2** でコピーした場所の .cpk ファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。  
.cpk ファイルを表示するには、[*Files of Type (ファイルのタイプ)*] フィールドで [すべてのファイル] を選択することが必要な場合があります。
- 4 テストするすべての .cpk ファイルが [*Server Software Packages*] ネームスペースに挿入されるまで、**ステップ 3** を繰り返します。
- 5 CPK の説明を表示するには、CPK 名をクリックします。情報は右ペインに表示されます。  
プラス記号をクリックして CPK を展開してそのコンポーネントを表示し、個々のコンポーネントをクリックしてその説明を表示することもできます。
- 6 テスト Subscriber サーバの ConsoleOne プロパティで [変数] タブを選択して、テストする Distribution に適用される変数を定義します。

リストは [488 ページの「Subscriber の変数の決定」](#) を参照してください。

- 7 NetWare または Windows CPK をテストするには、次のうち適用される事柄を行います (Linux CPK のテストの手順は、[ステップ 10](#) を参照してください)。

- ◆ **NetWare:** NetWare テストサーバのコンソールで、次のように入力します。

```
package process volume_name:\path_to_file\filename.cpk
```

ここで *filename* は、.cpk ファイル名のいずれかになります。

- ◆ **Windows:** 次の操作を行います。
  - a. テキストエディタで、c:\zenworks\pds\bin\zfsservice.cfg ファイルを開きます。
  - b. DosBox=Off の行を DosBox=On に変更します。
  - c. ファイルを保存して終了します。
  - d. DOS のコマンドラインで、次のように入力します。

```
package process drive_letter:\path_to_file\filename.cpk
```

ここで *filename* は、.cpk ファイル名のいずれかになります。

テストするプラットフォームごとに、CPK を次の順で実行します。

#### NetWare サーバ

1. stopinv.cpk
2. stopwol.cpk
3. zdn7bksp1.cpk
4. startinv.cpk
5. startwol.cpk
6. zdn7midsp1.cpk
7. c1-zen7-snap.cpk
8. *language-agent.cpk*

#### NetWare サーバクラスタ

1. stopinv.cpk
2. stopwol.cpk
3. zdc7bksp1.cpk
4. startinv.cpk
5. startwol.cpk
6. c1-zen7-snap.cpk
7. *language-agent.cpk*

---

**重要:** これは、クラスタ化されたリソース上で実行する必要があります。それから、各ノードをリソースにして、すべてのノードがアップグレードされるまで、手順を繰り返します。

---

#### Windows サーバ

1. zdw7bksp1.cpk



## 2. zdw7midsp1.cpk

この CPK の場合、アップグレード中に [IIS 管理サービス] とそれに依存するサービスが停止されますが、CPK が再起動するのは [IIS 管理サービス] と、ZENworks に依存するサービスだけです。それで、[IIS 管理サービス] に依存する、ZENworks 以外の Windows サービスがあれば、手動で再起動する必要があります。詳細については、[493 ページのステップ 9a](#) を参照してください。

---

**重要:** [IIS 管理サービス] は、Middle Tier コンポーネントがアップグレードされたときに、完全に動作し、健全な状態になっている必要があります。アップグレードの前に、手動で停止と開始を行うか、サーバを再起動して、このサービスの状態をチェックしてください。これは、CPK がサービスを停止できるように、CPK を適用する前に実行されている必要があります。そうでない場合、CPK は正しく完了できません。

---

## 3. c1-zen7-snap.cpk

## 4. language-agent.cpk

- 8 NetWare CPK の実行中には、CPK ごとの完了時間を記録してください。

この情報は、Distribution の作成と送信時に、スケジュールを正しく設定するために必要となります。

- 9 テストする NetWare または Windows CPK ごとに、[ステップ 7](#) および [ステップ 8](#) を繰り返します。
- 10 OES Linux の CPK をテストするには、[487 ページのセクション 34.4.1 「Distribution によるアップグレード」](#) の手順に従います。ただし、Distribution は 1 台のサーバにだけ送信します (できればテストサーバ)。
- 11 CPK が正しくアップグレードされることを検証するために、[505 ページのセクション 34.5.2 「サーバがアップグレードされているかどうかの確認」](#) の指示に従い、それから、[ステップ 12](#) に戻ります。
- 12 [485 ページのセクション 34.3 「アップグレードの条件のチェックリスト」](#) に進みます。

## 34.3 アップグレードの条件のチェックリスト

次の作業を行って、バージョン 7 SP1 へのアップグレードのターゲットとなる ZENworks 6.5 または 7 サーバの準備が完了していることを確認します。

- [ZENworks 7 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks7/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks7/index.html) の *ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 Readme* でアップグレードに関する最新情報を確認します。
- [35 ページのパート II 「準備」](#) に示されているアップグレードの要件をすべて満たしていることを確認します。
- ターゲットの Subscriber サーバで定義できるように、CPK が使用する変数を決定します。  
この情報を集める方法については、[483 ページのステップ 5](#) を参照してください。
- **Distribution** を使用してアップグレードするには、次の節を参照してください。
  - ◆ ZENworks 7 Server Management with SP1 Distributor サーバがあることを確認します。CPK を含む Software Package Distribution を配布するには、Distributor を使用するからです。Server Management コンポーネントのアップグレードの詳細につ

いては、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「“アップグレード”」を参照してください。

- ◆ アップグレードする ZENworks 6.5 SP1 または 7 Desktop Management サーバ上に ZENworks 7 Server Management with SP1 Subscriber ソフトウェアがインストールされていて、動作していることを確認します。Subscriber ソフトウェアは、アップグレード CPK の内容を含む Software Package Distribution を抽出してインストールするために必要です。

NetWare および Windows サーバで、ZENworks 6.5 または 7 Server Management がインストールされている場合には、バージョン 7 with SP1 にアップグレードする必要があります。そうでないと、Sybase インベントリデータベースのアップグレードは行われません。Server Management コンポーネントのアップグレードの詳細については、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「“アップグレード”」を参照してください。

- ◆ Distributor および Subscriber サーバで ZENworks サービスが動作していることを確認します。これは、サーバをアップグレードするために使用される .cpk ファイルを含む Software Package Distribution の送信、受信、抽出を行うためです。

ZENworks サービスはアップグレード時に自動的に停止され、アップグレードが完了した後に再起動されます。

- **Standalone Package Processor** を使用してアップグレードする場合、ターゲット Windows サーバに JRE 1.4.2 がインストールされていなければ、Sun\* (<http://java.sun.com/j2se/1.4.2/download.html>) から JRE をダウンロードしてインストールします。

486 ページのセクション 34.4 「Server Software Package を使用したアップグレード」に進みます。

## 34.4 Server Software Package を使用したアップグレード

サポートされているさまざまなプラットフォーム上の ZENworks Desktop Management コンポーネントは、利用可能な CPK を使用して、ZENworks 7 Desktop Management with SP1 にアップグレードできます。次の節の情報を参照してください。

- ◆ 487 ページのセクション 34.4.1 「Distribution によるアップグレード」

ZENworks 7 Server Management with SP1 の Tiered Electronic Distribution コンポーネントを使用すると、Subscriber および Policy/Package Agent ソフトウェアを実行しているすべての Subscriber サーバに CPK を配布して自動的にインストールすることができます。

OES Linux サーバをアップグレードする場合には、この方法を使用する必要があります。

- ◆ 499 ページのセクション 34.4.2 「Standalone Package Processor によるアップグレード」

Standalone Package Processor を使用すると、アップグレードする Desktop Management ソフトウェアが存在する任意のサーバ上で (一度に 1 つずつ) CPK を使用して ZENworks 7 Server Management with SP1 にアップグレードできます。Server Management Tiered Electronic Distribution ソフトウェアは必要ありません。

## 34.4.1 Distribution によるアップグレード

**警告:** データベースをインストールした NetWare または Windows サーバをアップグレードする場合には、この方法を使用する必要があります。これらのサーバでは、**Standalone Package Processor** による方法を使用することはできません。

Software Package Distribution により、CPK を使って ZENworks Desktop Management コンポーネントを SP1 にアップグレードするには、次の節の操作を順に実行する必要があります。

1. 487 ページの「**Distribution の決定**」
2. 488 ページの「**Subscriber の変数の決定**」
3. 491 ページの「**Distribution の作成**」
4. 494 ページの「**Distribution Channel のセットアップ**」
5. 496 ページの「**スケジュールのセットアップ**」
6. 498 ページの「**Distribution の送信**」

**重要:** 485 ページのセクション 34.3 「アップグレードの条件のチェックリスト」に示されている前提条件をすべて満たしていることを確認します。

### Distribution の決定

- 1 ZENworks 7 Server Management with SP1 Distributor サーバを選択して、すべての .cpk ファイルを Distributor のファイルシステムにコピーします。

この Distributor サーバは、すべての CPK を異なるプラットフォームの Subscriber サーバに送信することができます。

CPK ファイルの場所は、482 ページのステップ 2 を参照してください。

- 2 関連する Server Package Distribution を作成するときのために、CPK ファイルをどこにコピーしたかをメモします。
- 3 Desktop Management サーバごとに、次のテーブルの 2 番目の列を基にして、どのソフトウェアコンポーネントを更新する必要があるかを判断します。

表 34-2 CPK アップグレード配布表

例となる Software Package Distribution の名前	アップグレードする ZENworks Desktop Management コンポーネント	Software Package Distribution で使用する CPK ファイル名	Server Software Package のプラットフォーム
ZDM7SP1upgr_stopinv_NW65	Desktop Management Server	stopinv.cpk	NetWare のみ
ZDM7SP1upgr_stopwol_NW65	Desktop Management Server	stopwol.cpk	NetWare のみ
ZDM7SP1upgr_DMS_NW65	Desktop Management Server	zdn7bksp1.cpk	NetWare のみ

例となる Software Package Distribution の名前	アップグレードする ZENworks Desktop Management コンポーネント	Software Package Distribution で使用する CPK ファイル名	Server Software Package のプラットフォーム
ZDM7SP1upgr_DMS_NW65_Cluster	Desktop Management Server	zdc7bksp1.cpk	NetWare クラスタのみ
ZDM7SP1upgr_startinv_NW65	Desktop Management Server	startinv.cpk	NetWare のみ
ZDM7SP1upgr_startwol_NW65	Desktop Management Server	startwol.cpk	NetWare のみ
ZDM7SP1upgr_MTS_NW65	Middle Tier Server	zdn7midsp1.cpk	NetWare のみ
ZDM7SP1upgr_DMS_Win	Desktop Management Server	zdw7bksp1.cpk	Windows のみ
ZDM7SP1upgr_MTS_Win	Middle Tier Server	zdw7midsp1.cpk	Windows のみ
ZDM7SP1upgr_OES-Linux	Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7mbcksp1.cpk	OES Linux のみ
ZDM7SP1upgr_OES-Linux_Imaging-Start	Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7imgstart.cpk	OES Linux のみ
ZDM7SP1upgr_OES-Linux_ProxyDHCP-Start	Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7proxystart.cpk	OES Linux のみ
ZDM7SP1upgr_C1snapins	ConsoleOne スナップイン	c1-zen7-snap.cpk	NetWare、Windows、および OES Linux
ZDM7SP1upgr_LangAgentMSI	Language Agent MSI ファイル	language-agent.cpk	NetWare、Windows、および OES Linux

サーバにインストールする CPK ごとに、サーバは個別の Software Package Distribution を送信され、それから抽出される必要があります。表 34-2 を基に、作成する必要がある Distribution を決定し (どの CPK でアップグレードするか)、Software Package Distribution 名を決定し (第 1 列の例)、どの Subscriber がどの Distribution を必要とするかを決定します。

Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

4 488 ページの「Subscriber の変数の決定」に進みます。

### Subscriber の変数の決定

各 Subscriber サーバは、Distribution を受信して CPK をインストールするために、ConsoleOne のプロパティで適用可能な変数を定義される必要があります。

1 ConsoleOne で、Subscriber オブジェクトを選択します。

時間の節約のために、複数の Subscriber オブジェクトを選択し、それらのすべてに対して、同じ [変数] タブエントリを設定できます。

オプションとして、Software Package Distribution を作成して、Subscriber への変数を追加できます。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド*』の「**Creating a Distribution (Distribution の作成)**」および「**Server Software Packages (Server Software Package)**」を参照してください。

- 2 [変数] タブを選択し、次の変数のフィールドに入力します。

**Include policy:** 表示された場合、このフィールドは無視します (現在の状態を受け入れます)。

**Assigned Variables:** 適用可能なプラットフォームに対し、次の変数 ([説明] はオプションです) を定義します。

**重要 :** 次の表で値が与えられている場合、それらは ZENworks のデフォルトです。入力した値がインストールに対して正しいものかどうか確認してください。そうでないと、[値] 列にはその値が必要だと言うことだけが表示されます。

#### NetWare

変数	値	Description	CPK <sup>1</sup>
DEST_C1	sys:\novell\mgmt\consoleone\1.2	NetWare サーバ上での ConsoleOne ファイルの場所	c1-zen7-snap.cpk
DEST_AGENT	<i>Language_agent_files_path</i>	言語エージェントファイルがインストールされる場所へのフルパス	<i>language-agent.cpk</i>
DEST_INV	<i>Inventory_installation_volume</i>	ワークステーションインベントリがインストールされるボリュームの指定 <sup>2</sup>	zdn7bksp1.cpk
DEST_WOL	<i>XML_server_installation_volume</i>	XML がインストールされるボリュームの指定 <sup>2</sup>	zdn7bksp1.cpk
DEST_XML	<i>Wake-on-LAN_installation_volume</i>	Wake-on-LAN がインストールされるボリュームの指定 <sup>2</sup>	zdn7bksp1.cpk

<sup>1</sup> 他の NetWare CPK は変数の定義を必要としません。

<sup>2</sup> コロンとバックスラッシュを含めます。たとえば、sys:\ とします。

#### NetWare クラスタ

変数	値	Description	CPK <sup>1</sup>
DEST_C1	sys:\novell\mgmt\consoleone\1.2	NetWare サーバ上での ConsoleOne ファイルの場所	c1-zen7-snap.cpk
DEST_AGENT	<i>Language_agent_files_path</i>	言語エージェントファイルがインストールされる場所へのフルパス	<i>language-agent.cpk</i>

変数	値	Description	CPK <sup>1</sup>
ZDM_Clust_VOL	<i>Cluster_installation_volume</i>	クラスタがインストールされるボリュームの指定 <sup>2</sup>	zdc7bksp1.cpk

<sup>1</sup> 他の NetWare CPK は変数の定義を必要としません。

<sup>2</sup> コロンとバックスラッシュを含めます。たとえば、cluster\_vol:\ とします。

## Windows

変数	値	Description	CPK
DEST_C1	c:\novell\consoleone\1.2	Windows サーバ上での ConsoleOne ファイルの場所	c1-zen7-snap.cpk
DEST_AGENT	<i>Language_agent_files_path</i>	言語エージェントファイルがインストールされる場所へのフルパス	<i>language-agent.cpk</i>
DEST_IIS	<i>IIS_installation_drive</i>	IIS がインストールされるドライブの文字。有効なエントリは「C:\」または「D:\」だけです。 <sup>1</sup>	zdw7midsp1.cpk
DEST_INV	<i>Inventory_installation_drive</i>	ワークステーションインベントリがインストールされるドライブの文字 <sup>1</sup>	zdw7bksp1.cpk
DEST_WOL	<i>XML_server_installation_drive</i>	XML がインストールされるドライブの文字 <sup>1</sup>	zdw7bksp1.cpk
DEST_XML	<i>Wake-on-LAN_installation_drive</i>	Wake-on-LAN がインストールされるドライブの文字 <sup>1</sup>	zdw7bksp1.cpk

<sup>1</sup> コロンとバックスラッシュを含めます。たとえば、C:\ とします。

## OES Linux

変数	値	Description	CPK <sup>1</sup>
DEST_C1	/usr/ConsoleOne/ <sup>2</sup>	Linux サーバ上での ConsoleOne ファイルの場所	c1-zen7-snap.cpk
DEST_AGENT	<i>Language_agent_files_path</i>	言語エージェントファイルがインストールされる場所へのフルパス	<i>language-agent.cpk</i>

<sup>1</sup> zdl7mbcksp1.cpk、zdl7imgstart.cpk、および zdl7proxystart.cpk は変数の定義を必要としません。

<sup>2</sup> ConsoleOne のこのインスタンスは、このパスがマップされたドライブがある Windows ワークステーションから実行する必要があります。ConsoleOne は Windows の DLL を使用するからです。

- 3 NetWare および Windows サーバの Subscriber プロパティで、適用可能なすべての変数が定義されるまで、**ステップ 2**を繰り返します。  
OES Linux CPK は変数の定義を必要としません。
- 4 [OK] をクリックして変更を受け入れ、Subscriber のプロパティを閉じます。
- 5 Distribution を受信するすべての Subscriber サーバが必要な変数を定義されるまで、必要に応じて**ステップ 1**から**ステップ 4**までを繰り返します。
- 6 **491 ページの「Distribution の作成」**に進みます。

## Distribution の作成

詳細については、『*Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド*』の「“**Distributions (Distribution)**”」を参照してください。

- 1 Software Package Distribution を作成するには、ConsoleOne で、Distribution を作成するコンテナを選択し、[ファイル] > [新規] > [オブジェクト] の順にクリックします。次に、[Distribution] のタイプを選択し、[OK] をクリックします。
- 2 Distribution 名を指定します (例は **487 ページの表 34-2** を参照してください)。  
これは単に Distribution のオブジェクト名です。Distribution のファイルは常に ZENworks によって自動的に生成されます。

---

**重要 :** Distribution 名にピリオド (.) は使用できません。代わりに、単語の区切り文字としてはダッシュ (-) またはアンダースコア (\_) を使用します。Distribution 名にピリオドを使用した場合、Distribution は送信されず、Distributor は終了後も再ロードされません。

---

- 3 Distributor に Distribution の所有権を与えるには、Distributor オブジェクトを参照して選択し、[作成後に詳細を設定] を選択し、[OK] をクリックします。  
Distribution オブジェクトのプロパティが表示されます。
- 4 [一般] > [設定] の順にクリックし、次のフィールドに入力します (他のすべてのフィールドについては、デフォルトを受け入れます)。  
[Active] : 必須。Distribution を Subscriber で利用できるようにするには、アクティブにする必要があります。  
説明 : Distribution に関する役に立つ詳細情報を入力します。たとえば、CPK の名前、CPK の目的、CPK が使用する変数などです。( [説明] フィールドにアクセスするには、スクロールバーを使う必要があります)。
- 5 [一般] > [制限] の順にクリックし、次のプラットフォーム制限を選択します。  
プラットフォームの制限 : この Distribution の受信に関する前提条件として、特定のオペレーティングシステムのバージョンを選択するには、[No Restrictions (制限なし)] の選択を解除して、希望するオペレーティングシステムのバージョンを選択します。次の中から選択できます。

No Restrictions NetWare All NetWare 4.x (ZfS の以前のバージョンはこれらのプラットフォームをサポートしていました) NetWare 5.0 (ZfS の以前のバージョンはこのプラットフォームをサポートしていました) NetWare 5.1 NetWare 5.x (ZfS の以前のバージョンはこれらのプラットフォームをサポートしていました) NetWare 6.x  
Windows Server Solaris Linux

---

**重要** : ZENworks Desktop Management のアップデートで、ターゲットのサーバがプラットフォーム固有の CPK を必要とする場合には、この Distribution をそのプラットフォームに制限していることを確認してください。

---

[*No Restrictions* (制限なし)] チェックボックスをオンにすると、Distribution の送信先のプラットフォームが制限されません。

[*NetWare All*] を選択した場合、個々の NetWare プラットフォームを選択する必要はありません。

- 6 [タイプ] タブを選択し、ドロップダウンボックスを使用して [*Select Type* (タイプの選択)] フィールドで [*Software Package* (ソフトウェアパッケージ)] タイプを選択します。
- 7 [追加] をクリックし、.cpk ファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。ファイルの表示選択を [すべてのファイル] に変更する必要があります。デフォルトは .spk だからです。

CPK は [タイプ] タブの [*Selected Software Packages* (選択されたソフトウェアパッケージ)] リストボックスに挿入されます。次の CPK から選択します。

#### **NetWare<sup>1</sup>** サーバ

stopinv.cpk	zdn7bksp1.cpk
stopwol.cpk	zdn7midsp1.cpk
startinv.cpk	c1-zen7-snap.cpk
startwol.cpk	language-agent.cpk

<sup>1</sup> OES NetWare サーバを含みます。

#### **NetWare<sup>1</sup>** サーバクラスタ

stopinv.cpk	zdnc7bksp1.cpk
stopwol.cpk	c1-zen7-snap.cpk
startinv.cpk	language-agent.cpk
startwol.cpk	

<sup>1</sup> OES NetWare サーバを含みます。

#### **Windows** サーバ

zdw7bksp1.cpk	c1-zen7-snap.cpk
zdw7midsp1.cpk	language-agent.cpk

#### **OES Linux** サーバ

zdl7mbcksp1.cpk	language-agent.cpk
zdl7imgstart.cpk	c1-zen7-snap.cpk



zdl7proxystart.cpk

*language-agent.cpk* ファイル用の *Distribution* を作成する場合、異なる言語で同じパスを使えば、1つの *Distribution* に複数の言語の *CPK* を含めることができます。また、これらの *CPK* は、必要なときにアクセス可能になるように、*MSI* ファイルだけをコピーします。

- 8 [適用] をクリックします。
- 9 [*IIS* 管理サービス] とそれに依存するサービスは *CPK* によって停止され、アップグレード後に、*IIS* に依存する *ZENworks* 以外の *Windows* サービスを再起動する必要があります (*IIS* に依存する *ZENworks* サービスは自動的に再起動されます)。それで、*zdw7midsp1.cpk* ファイル用の *Distribution* を作成する場合には、[*Pre/Post Actions* (アクション前/後)] タブをクリックして、次の事柄を行う必要があります。
  - 9a どの *Windows* サービスが [*IIS* 管理サービス] に依存しているかを判断するには、典型的な *Windows* サーバで、サービスリストの [*IIS* 管理サービス] を右クリックして [停止] をクリックし、どのサービスがリスト表示されるかをメモします。

*IIS* に依存していて有効なすべてのサービスが、開始状態か停止状態かにはかわりなく、リスト表示されます。無効なサービスはリスト表示されません。
  - 9b [*Post-Distribution Actions* (配布後アクション)] オプションを選択します。
  - 9c [追加] ボタンの隣のフィールドで、リスト矢印をクリックし、[*Start Windows Service* (*Windows* サービスの起動)] を選択して、[追加] をクリックします。
  - 9d [サービス] フィールドに、再起動する必要のある *Windows* サービスの名前を入力します。
  - 9e このサービスで必要な場合には、[*Wait for This Service to Finish Running Before Continuing* (継続する前にこのサービスの完了を待つ)] チェックボックスを選択します。
  - 9f 現在の *Distribution* で再起動するサービスごとに、**ステップ 9c** から **ステップ 9e** までを繰り返します。
- 10 *zdw7midsp1.cpk* ファイル用の *Distribution* の作成で、*ZENworks* サービスのいずれかが *Windows* ターゲットサーバで無効になっていた場合には、これらのサービスを有効にする必要があります。

*ZENworks* サービスをアップグレードする *CPK* は、アップグレードのために、サービスが有効になっていることを必要とします。そうでないと、*CPK* は完了できません。
- 11 *zdl7mbcksp1.cpk* ファイル用の *Distribution* の作成で、アップグレードするサーバの少なくとも 1 つが *ZENworks* イメージングサーバである場合には、アップグレード中に *novell-tftp*、*novell-zmgprebootpolicy*、および *novell-proxydhcp* デーモンを動作させることはできません。それで、イメージングサーバでの *CPK* のアップグレードが正常に完了するようにするため、次の事柄を行ってください。
  - 11a [*Pre/Post Actions* (アクション前/後)] タブをクリックして、[*Pre-Distribution Actions* (配布前アクション)] を選択します。
  - 11b [追加] ボタンの隣のフィールドで、リスト矢印をクリックし、[スクリプト] を選択して、[追加] をクリックします。
  - 11c デフォルトの「Script」を「PXEstop」などの名前に変更します。
  - 11d [スクリプト] フィールドに次のスクリプトテキストを入力します。

```

#!/bin/bash

if [ -x /etc/init.d/novell-tftp ]; then
/etc/init.d/novell-tftp stop

fi

if [ -x /etc/init.d/novell-zmgprebootpolicy ]; then
/etc/init.d/novell-zmgprebootpolicy stop

fi

if [ -x /etc/init.d/novell-proxydhcp ]; then
/etc/init.d/novell-proxydhcp stop

fi

```

**11e** [適用] をクリックします。

- 12** [スケジュール] タブをクリックして [配布しない] を選択します。

これは一時的な設定です。[496 ページの「スケジュールのセットアップ」](#)で、すべてのスケジュールを設定する機会があります。

- 13** このときに証明書を初めて解決する場合には、[OK] をクリックし、[はい] を選択して証明書を解決します。そうでない場合には、この時点で証明書を解決するかどうかはオプションです。

NetWare サーバや Windows サーバの場合は、これによって、Channel に登録済みの Subscriber に Distributor からセキュリティ証明書がコピーされます。Linux サーバの場合 (ドライブをマッピングしていない場合) は、証明書を手動で解決する必要があります。

詳細については、『[Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド](#)』の「[“証明書の解決”](#)」を参照してください。

- 14** Distribution を作成する必要がある CPK ごとに、[ステップ 1 からステップ 13](#) を繰り返します。
- 15** [494 ページの「Distribution Channel のセットアップ」](#)に進みます。

## Distribution Channel のセットアップ

- 1 ConsoleOne で、Channel OU を右クリックし、[新規] > [オブジェクト] を選択します。
- 2 [TED Channel (TED チャンネル)] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 Channel 名を入力し、[作成後に詳細を設定] をクリックし、[OK] をクリックします。

Channel は、使用する次の Distribution ごとに作成する必要があります。提案されている Channel 名は次のとおりです。

**NetWare** サーバ

1. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_stopinv\_NW65 (stopinv.cpk)
2. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_stopwol\_NW65 (stopwol.cpk)

3. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_DMS\_NW65 (zdn7bksp1.cpk)
4. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_startinv\_NW65 (startinv.cpk)
5. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_startwol\_NW65 (startwol.cpk)
6. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_MTS\_NW65 (zdn7midsp1.cpk)
7. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
8. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

**NetWare** サーバ クラスタ

1. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_stopinv\_NW65 (stopinv.cpk)
2. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_stopwol\_NW65 (stopwol.cpk)
3. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_DMS\_NW65\_Cluster (zdn7bksp1.cpk)
4. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_startinv\_NW65 (startinv.cpk)
5. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_startwol\_NW65 (startwol.cpk)
6. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
7. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

**Windows** サーバ

1. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_DMS\_Win (zdw7bksp1.cpk)
2. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_MTS\_Win (zdw7midsp1.cpk)
3. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
4. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

**OES Linux** サーバ

1. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_OES-Linux (zdl7mbcksp1.cpk)
2. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_OES-Linux\_Imaging-Start (zdl7imgstart.cpk)
3. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_OES-Linux\_ProxyDHCP-Start (zdl7proxystart.cpk)
4. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
5. Chnl\_ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

- 4 [説明] フィールドに、役に立つ情報を入力します。
- 5 [配布] タブをクリックして [追加] をクリックし、適切な Distribution を参照して選択し、[OK] をクリックして [配布] リストボックスに追加します。
- 6 **487 ページのステップ 3** で識別した Subscriber を現在の Channel と関連付けるために、[サブスクリイバ] タブをクリックして [Add] をクリックし、この Channel の Distribution (アップグレード CPK) に適用されるすべての Subscriber を参照して選択し、[OK] をクリックして [*Subscribers Subscribed to This Channel* (このチャンネルを購読するサブスクリイバ)] リストボックスに追加します。

---

**重要 :** Distribution を運用環境に送信する前にテストサーバでテストする場合、この時点では、テスト Subscriber サーバだけを選択します。

---

- 7 [スケジュール] タブをクリックして [配布しない] を選択します。  
これは一時的な設定です。**496 ページの「スケジュールのセットアップ」**で、すべてのスケジュールを設定する機会があります。
- 8 [OK] をクリックして閉じ、変更内容を新しい Channel オブジェクトに保存します。

- 9 作成する Channel ごとに、**ステップ 1** から **ステップ 8** を繰り返します。
- 10 **496 ページ**の「**スケジュールのセットアップ**」に進みます。

## スケジュールのセットアップ

各 Distribution のビルド、送信、および抽出にどれくらいの時間がかかるかについてのメモが手元にあることを確認します。

- 1 **484 ページのステップ 7** (テストサーバのステップ) で集めたタイミング情報と、次の CPK 情報 (例となる Distribution 名と CPK ファイル名) を基にして、各 Distribution のビルド、送信、および抽出のための最適なスケジュールを決定します。これらの決定を書き留めておきます。これらのスケジュールは、次の手順で実装します。

Distribution の送信および抽出のための構築、送信、および抽出スケジュールは次の順でセットアップし、Subscriber サーバにはその負荷に応じた最も都合の良い時点で抽出させる必要があります。

### NetWare サーバ

1. ZDM7SP1upgr\_stopinv\_NW65 (stopinv.cpk)
2. ZDM7SP1upgr\_stopwol\_NW65 (stopwol.cpk)
3. ZDM7SP1upgr\_DMS\_NW65 (zdn7bksp1.cpk)
4. ZDM7SP1upgr\_startinv\_NW65 (startinv.cpk)
5. ZDM7SP1upgr\_startwol\_NW65 (startwol.cpk)
6. ZDM7SP1upgr\_MTS\_NW65 (zdn7midsp1.cpk)
7. ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
8. ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

---

**重要 :** zdn7bksp1.cpk ファイルの場合、2つの停止プロセスヘルパー Distribution を送信し、直ちに抽出する必要があります。zdn7bksp1.cpk は、**(485 ページのステップ 8** でメモした時間だけ) NetWare サーバでのサービスを中断をしてもよい時に抽出できます。この時間が経過したら、2つの開始プロセスヘルパー Distribution を送信して、直ちに抽出します。

---

### NetWare サーバクラスタ

1. ZDM7SP1upgr\_stopinv\_NW65 (stopinv.cpk)
2. ZDM7SP1upgr\_stopwol\_NW65 (stopwol.cpk)
3. ZDM7SP1upgr\_DMS\_NW65\_Cluster (zdc7bksp1.cpk)
4. ZDM7SP1upgr\_startinv\_NW65 (startinv.cpk)
5. ZDM7SP1upgr\_startwol\_NW65 (startwol.cpk)
6. ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
7. ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

---

**重要 :** zdc7bksp1.cpk ファイルの場合、2つの停止プロセスヘルパー Distribution を送信し、直ちに抽出する必要があります。zdc7bksp1.cpk は、**(485 ページのステップ 8** でメモした時間だけ) NetWare サーバでのサービスを中断をしてもよい時に抽出でき

ます。この時間が経過したら、2つの開始プロセスヘルパー Distribution を送信して、直ちに抽出します。

---

#### Windows サーバ

1. ZDM7SP1upgr\_DMS\_Win (zdw7bksp1.cpk)
2. ZDM7SP1upgr\_MTS\_Win (zdw7midsp1.cpk)
3. ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
4. ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

#### OES Linux サーバ

1. ZDM7SP1upgr\_OES-Linux (zdl7mbcksp1.cpk)
2. ZDM7SP1upgr\_OES-Linux\_Imaging-Start (zdl7imgstart.cpk)
3. ZDM7SP1upgr\_OES-Linux\_ProxyDHCP-Start (zdl7proxystart.cpk)
4. ZDM7SP1upgr\_C1snap (c1-zen7-snap.cpk)
5. ZDM7SP1upgr\_LangAgentMSI (*language-agent.cpk*)

---

**重要：**イメージングサービスを開始するには、zdl7mbcksp1.cpk Distribution が完了した後で、zdl7imgstart.cpk Distribution を送信する必要があります。zdl7proxystart.cpk Distribution は、プロキシ DHCP サービスを動作させるサーバにのみ送信する必要があります。

---

- 2 ConsoleOne で、Software Package Distribution オブジェクトを選択し、[スケジュール] タブを選択して、構築スケジュールのタイプを選択します。

**Software Package Distributions** 構築スケジュール：構築スケジュールは、Distributor が新しいバージョンの Distribution を構築する頻度を決定します。

このタイプは、Distribution の変更に関係なく、構築スケジュールが開始されるたびに新しいバージョンの Distribution を構築します。この新しいバージョンは、Subscriber に送信されます。

Distribution の送信時に、送信元は 2 分ごとの再送信を 30 分間継続した後、送信を中止します。Channel のスケジュールが再度開始されるまで、Distribution は再送信されません。

次のオプションを使用して、Channel の送信スケジュールと Subscriber の抽出スケジュールを指定できます。

- ◆ **Send Distribution immediately after building:** Channel の送信スケジュールより優先され、Channel の送信スケジュールの開始を待たずに Distribution をすぐに送信できます。ただし、Distribution を実際に抽出して使用するタイミングは、Subscriber の抽出スケジュールによって決定されます。
  - ◆ **Extract Distribution immediately after receiving:** Subscriber の抽出スケジュールより優先され、Subscriber の抽出スケジュールの開始を待たずに、Distribution をすぐに抽出できます。これは、Desktop Management アップグレード Distribution など、すぐに抽出する必要がある Distribution に役立ちます。
- 3 アップグレード Distribution オブジェクトごとに、**ステップ 2** を繰り返します。
  - 4 ターゲット Subscriber オブジェクトごとに、[抽出] タブを選択して、抽出スケジュールのタイプを選択します。

Subscriber の抽出スケジュールを設定する場合には注意が必要です。スケジュールが [すぐに実行] に設定されていて、Subscriber が親であり、その下位の Subscriber に対して Distribution を転送している場合、アップデートプロセスに Java のアンロードが含まれるため、Distribution を Subscriber に送信するプロセスが中断される可能性があります。Java がアンロードされると、Distribution は、Java が再ロードされて、Channel の送信スケジュールが開始されるまで一時的に停止します。

Subscriber が親であり、Distribution を下位の Subscriber に送信している場合、ソフトウェアパッケージが Java をアンロードしようとしている時点で、この Subscriber は Distribution を送信中ということになります。ただし Java が再起動した後、Distribution は中止した時点から続行されます。

Tiered Electronic Distribution の詳細については、『[Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド](#)』の「[Tiered Electronic Distribution](#)」を参照してください。

- 5 Channel オブジェクトごとに、[スケジュール] タブをクリックして [配布しない] を選択します。
- 6 [498 ページ](#)の「[Distribution の送信](#)」に進みます。

## Distribution の送信

- 1 Distribution を送信するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ◆ **Distributor** を手動で更新する : Distributor を手動で更新するには、ConsoleOne で Distributor オブジェクトを右クリックして、[[Refresh Distributor \(Distributor のリフレッシュ\)](#)] を選択します。Distribution が自動的に構築されます。
- ◆ **Distributor** の開始スケジュールを待つ : Distribution は、Distribution の更新スケジュールが開始したときに自動的に構築されます。更新スケジュールは構築スケジュールを開始します。

Distribution は、Channel の送信スケジュール開始したときに自動的に送信され、Subscriber サーバの抽出スケジュールに従って抽出されます。ただし、Distribution オブジェクトの作成時にこれらのスケジュールを上書きするように選択していた場合にはその限りではありません。その場合、Distribution は構築後直ちに送信され、抽出されます。

この時点で、Subscriber サーバは、その CPK の Desktop Management コンポーネントに合わせて、ZENworks 7 with SP1 にアップグレードされます。

---

**重要 :** Software Package タイプの Distribution では、抽出時にターゲットファイルがロックされている場合、Subscriber はファイルをコピーできなかったことを示す例外処理を実行します。Distributor はこの情報を Subscriber から受信し、エラーをレポートデータベースに記録します。

---

Distribution の送信の詳細については、『[Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド](#)』の「[Distribution の送信](#)」を参照してください。

---

**重要 :** [IIS 管理サービス] は、Middle Tier コンポーネントがアップグレードされたときに、完全に動作し、健全な状態になっている必要があります。アップグレードの前に、手動で停止と開始を行って、このサービスの状態をチェックしてください。アップグレードの前には動作中である必要があります。

---

- 2 Distribution が送信され、Subscriber サーバに受信された後で (ただし、まだ必ずしも抽出してはいないとき)、アップグレードソフトウェアパッケージを送信するための

Channel を [停止] に設定して、このアップグレードがこれらの Subscriber に再送信されないようにします。

- 3 送信が必要な Distribution ごとに、**ステップ 1** と **ステップ 2** を繰り返します。
- 4 NetWare クラスタの場合には、別のノードをリソースにして、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。
- 5 すべてのノードがアップグレードされるまで、**ステップ 2** を繰り返します。
- 6 無効にしていたものの、アップグレードのために有効にした ZENworks サービスで (**493 ページのステップ 10** を参照) 引き続き無効にしておきたいものがある場合は、この時点で無効にします。
- 7 **504 ページのセクション 34.5 「アップグレードが成功したかどうかの確認」** に進みます。

## 34.4.2 Standalone Package Processor によるアップグレード

---

**警告 :** データベースをインストールした NetWare または Windows サーバは、Standalone Package Processor による方法ではアップグレードできません。これらのサーバは、**Software Package Distribution** による方法でアップグレードする必要があります。

---

Standalone Package Processor により、CPK を使って、個々のサーバの ZENworks Desktop Management コンポーネントを SP1 にアップグレードするには、サーバごとに次の操作を繰り返します。

1. **499 ページの 「CPK および ZIP ファイルのコピー」**
2. **500 ページの 「使用する CPK の決定」**
3. **502 ページの 「サーバのアップグレード」**

---

**重要 :** **485 ページのセクション 34.3 「アップグレードの条件のチェックリスト」** に示されている前提条件をすべて満たしていることを確認します。

---

### CPK および ZIP ファイルのコピー

Standalone Package Processor でのアップグレードに必要なファイルにアクセスできるようにするには、次の操作を完了します。

- 1 .cpk および .zip ファイルをコピーする、ネットワーク上の場所を選択します。

これらのファイルを次の場所にコピーする場合には、.ncf、.bat、または .sh ファイル内のそれらのパスを編集する必要はありません。

```
sys:\temp\cpk\
```

```
c:\temp\cpk\
```

```
/usr/temp/
```

- すべての .cpk および .zip または .tar.gz ファイルを、*Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 3 CD (OES Linux CPK)* および *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 4 CD (NetWare および Windows CPK)* から、**ステップ 1** で決めた場所にコピーします。

*Companion 3 CD* の \ZENworks Server Management - Software Pkgs ディレクトリにあるファイルは、コピーしないでください。これらは **Server Management** 専用です。

アップグレードする特定のコンポーネントとそれらのプラットフォームがわかっている場合には、CD から、それらの .cpk ファイルと .zip ファイルだけをコピーすることができます。

- 次の操作を行います。

**NetWare/Windows CPK:** standalone\_zdm7sp1\_n-w.zip をサーバのルート (sys:\ ボリュームまたは C:\ ドライブ) に解凍します。

これにより、zip ファイルに含まれているファイル用に、\temp ディレクトリが作成されるか、または既存のものが使用されます。これらは、\cpk\zdm7sp1\java、\cpk\zdm7sp1\netware、および \cpk\zdm7sp1\windows というサブディレクトリに置かれます。

**OES Linux CPK:** standalone\_zdm7sp1\_linux.tar.gz をサーバのルート (/) に解凍します。

これにより、tar.gz ファイルに含まれているファイル用に、/usr/tmp ディレクトリが作成されるか、または既存のものが使用されます。これらは、zdm7sp1/java および zdm7sp1/linux というサブディレクトリに置かれます。

- 500 ページの「使用する CPK の決定」**に進みます。

## 使用する CPK の決定

- 次の表を基に、アップグレードする Desktop Management ソフトウェアコンポーネントとサーバのプラットフォームを識別して、どの CPK を使用するかを決定します。

表 34-3 CPK アップグレード表

アップグレードする ZENworks Desktop Management コンポーネント	Standalone Package Processor で使用する CPK ファイル名	CPK のプラットフォーム
Desktop Management Server	stopinv.cpk	NetWare のみ
Desktop Management Server	stopwol.cpk	NetWare のみ
Desktop Management Server	zdn7bksp1.cpk	NetWare のみ
Desktop Management Server	zdnc7bksp1.cpk	NetWare クラスタのみ
Desktop Management Server	startinv.cpk	NetWare のみ
Desktop Management Server	startwol.cpk	NetWare のみ
Middle Tier Server	zdn7midsp1.cpk	NetWare のみ
Desktop Management Server	zdw7bksp1.cpk	Windows のみ
Middle Tier Server	zdw7midsp1.cpk	Windows のみ
Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7mbcksp1.cpk	OES Linux のみ



アップグレードする ZENworks Desktop Management コンポーネント	Standalone Package Processor で使用する CPK ファイル名	CPK のプラットフォーム
Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7imgstart.cpk	OES Linux のみ
Desktop Management Server および Middle Tier Server	zdl7proxystart.cpk	OES Linux のみ
ConsoleOne スナップイン	c1-zen7-snap.cpk	NetWare、Windows、および OES Linux
Language Agent MSI ファイル	language-agent.cpk	NetWare、Windows、および OES Linux

重要 : アップグレードするために個別の CPK を使用することが必要な、サーバにインストールする Desktop Management コンポーネントごとに、[500 ページの「使用する CPK の決定」](#) および [502 ページの「サーバのアップグレード」](#) の手順を繰り返す必要があります。

- 必要な .cpk ファイルを、Windows または NetWare サーバの \temp\cpk ディレクトリまたは Linux サーバの /usr/tmp/zdm7sp1 ディレクトリにコピーします。
- 必要に応じて、次のファイルを編集します。

- **NetWare** または **NetWare** クラスタ : NetWare または Windows ベースのテキストエディタで、\temp\cpk\zdm7sp1\netware ディレクトリに含まれている、使用する CPK に対応する .ncf ファイルを開いて、.bat ファイル内の、定義する必要のある変数の値に関する指示に従います。
- **Windows:** Windows ベースのテキストエディタで、\temp\cpk\zdm7sp1\windows ディレクトリに含まれている、使用する CPK に対応する .bat ファイルを開いて、次の操作を行います。
  - 既存の JREROOT 変数パスを、*JRE\_installation\_path*\jre\bin に変更します。  
ここで、*JRE\_installation\_path* は、JRE 1.4.2 がインストールされたパスに合わせます ([485 ページのセクション 34.3 「アップグレードの条件のチェックリスト」](#) を参照してください)。
  - .bat ファイル内の、定義する必要のある他の変数の値に関する指示に従います。
- **OES Linux:** Linux ベースのテキストエディタで、/usr/tmp/zdm7sp1/linux ディレクトリに含まれている、使用する CPK に対応するスクリプトを開き、定義する必要のある変数の値に関する指示に従います。

Windows ベースのテキストエディタでスクリプトを編集することが必要な場合には、次の操作を行います。

- ターミナルコンソールで、編集するスクリプトごとに次のコマンドを入力します。

```
dos2unix script_filename
```

ここで、*script\_filename* は、編集するスクリプトのフル名です。

- 必要であれば、スクリプトを Windows ワークステーションにコピーします。

- c. スクリプトを Windows ベースのテキストエディタで開き、必要な編集操作を行って、編集したファイルを保存します。
- d. 必要であれば、編集したスクリプトを Linux サーバにコピーして戻します。
- e. ターミナルコンソールで、編集したスクリプトごとに次のコマンドを入力します。

```
chmod +RWX script_filename
```

ここで、*script\_filename* は、Windows 環境で編集したスクリプトです。

これは、スクリプトを Linux 環境で実行可能にするために必要な操作です。

- 4 .ncf、.bat、または .sh ファイルを保存して、エディタを終了します。
- 5 個別にアップグレードするサーバごとに、**ステップ 1** から **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 **502 ページ**の「**サーバのアップグレード**」に進みます。

## サーバのアップグレード

- 1 **zdw7midsp1.cpk** ファイルでのアップグレードで、ZENworks サービスのいずれかがターゲット Windows サーバで無効になっていた場合には、これらのサービスを有効にする必要があります。

ZENworks サービスをアップグレードする CPK は、アップグレードのために、サービスが有効になっていることを必要とします。そうでないと、CPK は完了できません。

- 2 アップグレードするサーバで、次の操作を行います。
  - ◆ **NetWare** サーバ: サーバのコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sys:\temp\zdm7sp1\netware\CPK_batchfile_name.ncf
```

ここで、*CPK\_batchfile\_name* は、サーバをアップグレードするのに使用される CPK 用の NCF ファイルに対応します。

実行する NetWare CPK ごとに繰り返します (順序は、**496 ページ**の「**スケジュールのセットアップ**」を参照してください)。

- ◆ **NetWare** クラスタ: リソースサーバのコマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sys:\temp\zdm7sp1\netware\CPK_batchfile_name.ncf
```

ここで、*CPK\_batchfile\_name* は、サーバをアップグレードするのに使用される CPK 用の NCF ファイルに対応します。

実行する NetWare CPK ごとに繰り返します (順序は、**496 ページ**の「**スケジュールのセットアップ**」を参照してください)。

リソースを別のノードにリセットして、すべてのノードがアップグレードされるまでこの手順を繰り返します。

- ◆ **Windows** サーバ: コマンドプロンプトウィンドウを開いて、次のように入力します。

```
sys:\temp\zdm7sp1\windows\CPK_batchfile_name.bat
```

ここで、*CPK\_batchfile\_name* は、サーバをアップグレードするのに使用される CPK 用の BAT ファイルに対応します。

実行する NetWare CPK ごとに繰り返します (順序は、[496 ページの「スケジュールのセットアップ」](#)を参照してください)。

---

**重要:** [IIS 管理サービス] は、Middle Tier コンポーネントがアップグレードされたときに、完全に動作し、健全な状態になっている必要があります。アップグレードの前に、手動で停止と開始を行って、このサービスの状態をチェックしてください。アップグレードの前には動作中である必要があります。

---

- ◆ **OES Linux サーバ:** ターミナルコンソールで、アップグレード中には実行できない次のデーモンを停止し、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/novell-tftp stop
```

```
/etc/init.d/novell-zmgprebootpolicy stop
```

```
/etc/init.d/novell-proxydhcp stop
```

Desktop Management Server および Middle Tier Server をアップグレードするには、次のように入力します:

```
/usr/temp/zdm7sp1/linux/sadmlbkmd.sh
```

(停止されたデーモンは、アップグレード中には実行できないものです)。

(オプション) ConsoleOne スナップインをアップグレードするには、次のように入力します:

```
/usr/temp/zdm7sp1/linux/sacl1snap.sh
```

(オプション) 言語 MSI ファイルをコピーするには、次のように入力します:

```
/usr/temp/zdm7sp1/linux/sadmagnt.sh
```

アップグレードプロセスが完了したら、次のスクリプトを実行して、イメージングサーバを再起動します:

```
/usr/temp/zdm7sp1/linux/sadmlimage.sh
```

(オプション) Proxy DHCP サービスを再起動するには、適用可能な場所で、次のスクリプトを実行します:

```
/usr/temp/zdm7sp1/linux/sadmlproxy.sh
```

- 3 無効にしていたものの、アップグレードのために有効にした ZENworks サービスで (ステップ 1 を参照) 引き続き無効にしておきたいものがあれば、この時点で無効にします。
- 4 504 ページのセクション 34.5 「アップグレードが成功したかどうかの確認」に進みます。  
これを、サーバ上の各コンポーネントのアップグレード後に実行し、それから他のコンポーネントとサーバに対して、500 ページの「使用する CPK の決定」および 502 ページの「サーバのアップグレード」の手順を繰り返します。

## 34.5 アップグレードが成功したかどうかの確認

アップグレードが成功したかどうかを検証するには、次の操作を実行します：

- ◆ 504 ページのセクション 34.5.1 「ソフトウェアパッケージが正常にインストールされたかどうかの確認」
- ◆ 505 ページのセクション 34.5.2 「サーバがアップグレードされているかどうかの確認」

Standalone Package Processor を使用してサーバをアップグレードした場合には、前の節の操作を完了してから、他のコンポーネントおよびサーバに対して、500 ページの「使用する CPK の決定」および 502 ページの「サーバのアップグレード」に戻ります。

### 34.5.1 ソフトウェアパッケージが正常にインストールされたかどうかの確認

- 1 Software Package Distribution による方法の場合は、次に示すいずれかの方法を使って、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。
  - ◆ **iManager:** iManager の [Tiered Electronic Distribution] ビューを使用して、インストール済みの全ソフトウェアパッケージの情報を表示します。
  - ◆ **レポート:** インストールに Tiered Electronic Distribution を使用する場合、Server Management のレポート機能を使用して、ソフトウェアパッケージの各コンポーネントのインストールが成功したか、失敗したかを確認します。
  - ◆ **ログファイル:** NetWare および Windows の場合は、ted.log ファイルで、成功または失敗を検証します。
  - ◆ **Linux:** XTerm ウィンドウで次のコマンドを入力します：

```
rpm -qa |grep novell-z
```

リスト表示された各エントリを確認し、実行プロセスで「7.0.1」という文字列が表示されているかどうかを確認します。これが、ZENworks 7 Desktop Management with SP1 の正しいバージョンです。

/usr/tmp/zsm71\_polydist/zdmup.log のログファイルを確認することもできます。

- 2 Standalone Package Processor による方法の場合は、次のログファイルによって、正常にインストールされているソフトウェアパッケージのコンポーネントを確認します。
  - ◆ **Linux:** /usr/temp/standalone.log
  - ◆ **NetWare:** sys:\temp\standalone.log
  - ◆ **Windows:** c:\temp\standalone.log

- 3 アップグレードに失敗したコンポーネントがあれば、失敗の原因を解決してから、CPK を再適用します。

各ソフトウェアパッケージが複数のコンポーネントで構成される場合があります。このとき、一部のコンポーネントのインストールが成功し、残りのコンポーネントのインストールが失敗に終わる可能性があります。たとえば、特定の CPK のインストール要件を満たしていないサーバでは、その CPK は適切にアップグレードされません。

- 4 505 ページのセクション 34.5.2 「サーバがアップグレードされているかどうかの確認」に進みます。

## 34.5.2 サーバがアップグレードされているかどうかの確認

ZENworks Desktop Management のアップグレードを行ったプラットフォームごとに、次のセクションの作業を実行します：

- ◆ 505 ページの 「NetWare サーバ ( クラスタを含む )」
- ◆ 505 ページの 「Windows サーバの場合」
- ◆ 506 ページの 「OES Linux サーバ」

### NetWare サーバ ( クラスタを含む )

- 1 NetWare サーバのメインコンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zfdversion
```

zfdversion コマンドを実行すると、ZENworks .jar ファイルとその日付の一覧が次のファイルに書き込まれます。

```
volume:\zenworks\zfdversion.log
```

- 2 現在の ZENworks Desktop Management のバージョン情報を表示します。  
バージョン 7 に正常にアップグレードされている場合は、次のように表示されるはずです。

```
ZENworks Desktop Management - 7
```

- 3 アップグレードしたサーバごとに、**ステップ 1** と **ステップ 2** を繰り返します。
- 4 バージョンが正しくない場合は、アップグレード CPK を再適用します。正しければ、このプラットフォームは完了です。

### Windows サーバの場合

- 1 Windows サーバ上で、\zenworks\zfdversion.bat を実行します。  
zfdversion.log ファイルが \zenworks ディレクトリに作成されます。
- 2 ログファイルを開き、現在の ZENworks Desktop Management のバージョン情報を確認します。
- 3 アップグレードしたサーバごとに、**ステップ 1** と **ステップ 2** を繰り返します。

- 4 バージョンが正しくない場合は、アップグレード CPK を再適用します。正しければ、このプラットフォームは完了です。

## OES Linux サーバ

- 1 Linux サーバの XTerm ウィンドウで、次のように入力します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/ZDMstart status
```

- 2 リスト表示を確認して、ZENworks Desktop Management サービスが表示されていて、それらのデーモンが実行中であることを確認します。
- 3 アップグレードしたサーバごとに、**ステップ 1** と **ステップ 2** を繰り返します。
- 4 バージョンが正しくない場合は、アップグレード CPK を再適用します。正しければ、このプラットフォームは完了です。

# 相互運用性

# VII

相互運用性とは、2つ以上の製品が同じネットワーク環境（たとえば、同じツリー、同じサーバなど）で相互に対話することを示します。

この節のトピックは次のとおりです。

- ◆ 509 ページの § 章 35 「ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性」
- ◆ 517 ページの § 章 36 「インベントリの相互運用性」
- ◆ 529 ページの § 章 37 「Remote Management の相互運用性」
- ◆ 531 ページの § 章 38 「他の Novell 製品との相互運用性」





# ZENworks for Desktops 4.x との相互運用性

# 35

Novell® ZENworks® for Desktops 4.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合は、互換性、コンポーネントの違い、および類似コンポーネントを一緒に実行する方法についていくつかの注意点があります。この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 509 ページのセクション 35.1 「4.x/7 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性」
- ◆ 510 ページのセクション 35.2 「バージョン 4.x と 7 のコンポーネントの違い」
- ◆ 511 ページのセクション 35.3 「Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性」

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

## 35.1 4.x/7 相互運用環境でのワークステーションとサーバの互換性

以前に ZENworks for Desktops 4 Support Pack 1b (SP1b)、ZENworks for Desktops 4.0.1、または ZENworks for Desktops 4 Interim Release 2 あるいは Interim Release 4 (総称的に ZENworks for Desktops 4.x と呼ばれます) をインストールした場合は、通常、ZENworks 7 Desktop Management に段階的にアップグレードします。この場合、相互運用する異なる ZENworks コンポーネントの機能について理解する必要があります。これらの製品の 2 つのバージョンは、さまざまなワークステーションやサーバにインストールされます。

次の表の各行には、ZENworks Desktop Management コンポーネントの ZENworks ワークステーションおよびサーバの互換性の組み合わせが示されています。

最初の表は、アプリケーション管理、ワークステーションポリシー管理、およびワークステーションイメージングの互換性があるバージョンを示しています。

表 35-1 さまざまな ZENworks Desktop Management コンポーネントのバージョン互換性

Desktop Agent のバージョン	Middle Tier Server のバージョン	Desktop Management Server のバージョン
4.x	4.x	7
4.x	7	7
7	7	7

次の表は、ワークステーションインベントリの互換性があるバージョンを示しています。

表 35-2 ZENworks Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントのバージョン互換性

Desktop Agent のバージョン	ワークステーションインベントリサーバのバージョン
4.x	7

次の表は、リモート管理の互換性があるバージョンを示しています。

表 35-3 ZENworks Desktop Management のリモート管理コンポーネントのバージョン互換性

Desktop Agent のバージョン	リモートコンソールのバージョン
4.x	7

## 35.2 バージョン 4.x と 7 のコンポーネントの違い

ネットワークの規模が大きい場合は、ワークステーション、ポリシー、アプリケーション、または他の ZENworks の機能を ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 に全面的にアップグレードできないことがあります。この節では、アップグレード前に共存している 2 つのバージョンの動作の違いを理解するのに役立つ情報を提供します。

一部の例外を除き、ZENworks 7 Desktop Management には、ZENworks for Desktops 4.x の機能に対して下位互換性があります。ただし、ZENworks 7 では一部の機能の動作が異なります。次の節では、注意する必要がある動作の類似点と相違点について説明します。

- ◆ 510 ページのセクション 35.2.1 「ワークステーションインポート」
- ◆ 510 ページのセクション 35.2.2 「ポリシー管理」
- ◆ 511 ページのセクション 35.2.3 「Application Management (アプリケーション管理)」
- ◆ 511 ページのセクション 35.2.4 「ワークステーションイメージング」
- ◆ 511 ページのセクション 35.2.5 「リモート管理」
- ◆ 511 ページのセクション 35.2.6 「Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)」

### 35.2.1 ワークステーションインポート

サーバでインポートサービスが ZENworks 7 にアップグレードされた場合は、ZENworks 4.x ワークステーションが同様に登録され、7 インポートサービスがワークステーションをインポートします。ZENworks 4.x および ZENworks 7 ワークステーションは、ZENworks 7 インポートサーバによってインポートできます。

### 35.2.2 ポリシー管理

ZENworks 7 Desktop Management は、Windows NT 4 ワークステーション、Windows 95 ワークステーション、Windows 98 ワークステーション (SE アップグレードなし)、Novell eDirectory™ (NDS® 8 よりも前のバージョン)、NetWare® 4.x、NetWare 5.0、または NetWare 5.1 をサポートしません。

ZENworks for Desktops 4.x と ZENworks 7 のポリシーにはほとんど違いがないため、これらのポリシーは問題なく共存できます。ZENworks 7 では、Windows ターミナルサーバポリシーが削除されています。

### 35.2.3 Application Management (アプリケーション管理)

ZENworks for Desktops 4.x アプリケーション管理のシステム要件を新しい ZENworks 7 のシステム要件にインポートする場合は、レガシーシステムの要件がまだ存在していることを確認します。古いアプリケーション要件がそのまま存在している場合は、ZENworks 4.x アプリケーションが動作します。

### 35.2.4 ワークステーションイメージング

ワークステーションイメージングを ZENworks for Desktops 4.x からアップグレードする場合は、Desktop Management Server と同じブートディスクのバージョンを使用するようにしてください。たとえば、イメージングサーバを ZENworks 7 にアップグレードする場合は、ZENworks 7 ブート CD を使用して、手動でイメージを起動します。

### 35.2.5 リモート管理

リモート管理のインストール中に Windows 2000/XP ワークステーションに対しミラードライバをインストールした場合、ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントは、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品と共存することができます。この結果、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品を、ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントと共に使用することが可能になります。

ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンソールは、ZENworks for Desktops 3.2 SP3、ZENworks for Desktops 4.x、ZENworks 6.5 Desktop Management、ZENworks for Servers 3.x、ZENworks 6.5 Server Management、および ZENworks 7 Server Management のリモート管理エージェントと相互運用性があります。

### 35.2.6 Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)

ZENworks 7 Desktop Management では、インベントリエージェントがディクショナリファイルからソフトウェアスキャン設定を読み込みます。ZENworks for Desktops 4.x では、インベントリエージェントがワークステーションインベントリポリシーからソフトウェアスキャン設定を読み込みます。

## 35.3 Windows NT 4 ワークステーションとの相互運用性

ZENworks 7 Desktop Management は、Windows NT 4 ワークステーションを公式にはサポートしていません。ただし、Windows NT 4 ワークステーションに ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントがインストールされている場合は、一部制限がありますが、ZENworks 7 Desktop Management を使用して NT 4 ワークステーションを管理できます(つまり、NT 4 ワークステーションは ZENworks 7 Management Server と通信できます)。

この節では、Windows NT ワークステーションに対する ZENworks 7 のサポートの範囲について説明します。内容は次の節に分かれています。

- ◆ 512 ページのセクション 35.3.1 「Desktop Management Agent ( デスクトップ管理エージェント )」
- ◆ 512 ページのセクション 35.3.2 「ポリシーとポリシーパッケージ」
- ◆ 513 ページのセクション 35.3.3 「自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)」
- ◆ 513 ページのセクション 35.3.4 「Application Management ( アプリケーション管理 )」
- ◆ 514 ページのセクション 35.3.5 「ワークステーションイメージング」
- ◆ 514 ページのセクション 35.3.6 「リモート管理」
- ◆ 515 ページのセクション 35.3.7 「Workstation Inventory ( ワークステーションインベントリ )」

### 35.3.1 Desktop Management Agent ( デスクトップ管理エージェント )

ZENworks 7 デスクトップ管理エージェント MSI (zfdagent.msi) を使用して、Windows NT 4 ワークステーションに対してインストールを実行することはできません。

Windows NT 4 ワークステーションに対しては最新のパッチが適用された ZENworks for Desktops 4.x エージェントを使用することをお勧めします。ZENworks for Desktops 4.x エージェントの公開リリースは、[ZENworks for Desktops 4.0.1 Product Updates Web サイト \(http://support.novell.com/filefinder/17511/index.html\)](http://support.novell.com/filefinder/17511/index.html) で取得できます。

### 35.3.2 ポリシーとポリシーパッケージ

ZENworks 7 Desktop Management ポリシーおよびポリシーパッケージの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ポリシーおよびパッケージに関する NT 専用プロパティページが保持されます。ZENworks 7 にアップグレードした後でも、引き続き NT ワークステーション管理に使用できます。
- ◆ ポリシーおよびポリシーパッケージに関する NT/2000/XP プロパティページが保持されます。ZENworks 7 にアップグレードした後でも、引き続き NT ワークステーション管理に使用できます。
- ◆ ポリシーおよびパッケージオブジェクトのプロパティページには、NT 専用または NT/2000/XP プロパティページでポリシーを読み込むために Windows NT4 ワークステーションが ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントを使用する必要があるという記述が示されます。
- ◆ Windows NT 4 ワークステーションに関するその他の内容は、ポリシーのプロパティページに保持されます。
- ◆ ZEN MUP (ZENworks Multiple UNC Provider) と呼ばれるローカルリダイレクタファイルコピー機能は、NT ワークステーションでサポートされていません。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*」の「ZENworks Multiple UNC Provider の理解」を参照してください。

- ◆ ポリシーエラーログ機能は、NT ワークステーションではサポートされていません。
- ◆ DHCP による Middle Tier の IP アドレスの提供は、Windows NT4 ワークステーションではサポートされていません。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「Middle Tier Server アドレスを配信するための DHCP オプションの実装」を参照してください。
- ◆ ZENworks ツリーは、Windows NT 4 ワークステーションではサポートされていません。詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「ZENworks ツリーの使用」を参照してください。
- ◆ 次の表は、Windows NT ワークステーション用の ConsoleOne® で利用できない、または無視されるワークステーション管理の設定を示しています。

表 35-4 ConsoleOne では受け付けられない Windows NT 4 のワークステーション管理設定

ConsoleOne で検索する手順	無視される設定
ワークステーションパッケージまたはユーザパッケージ > [Novell iPrint ポリシー] > [設定] ページ	[このプリンタリストに含まれていないすべてのインストール済み iPrint プリンタを削除]
サーバパッケージ > [ワークステーションインポートポリシー] > [制限] ページ	[ユーザ履歴の無効化]
ワークステーションオブジェクト > [ユーザ履歴] ページ	[履歴に追加しない]

### 35.3.3 自動ワークステーションインポート / 削除 (Automatic Workstation Import/Removal)

ZENworks 7 が存在する eDirectory ツリーに NT 4 ワークステーションオブジェクトを追加したり、eDirectory ツリーから NT 4 ワークステーションオブジェクトを削除したりできます。これは、ZENworks がはじめてその eDirectory ツリーにインストールされたのか、または ZENworks for Desktops 4.x からアップグレードされたのかに関係なく行なうことができます。

### 35.3.4 Application Management (アプリケーション管理)

ZENworks 7 アプリケーション管理の特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ConsoleOne のアプリケーション管理に関するプロパティページでは、Windows NT 4 ワークステーションに関する内容が保持されます。
- ◆ レガシーシステムの要件を使用して ZENworks 7 で作成されたアプリケーションオブジェクトは、Windows NT4/2000/XP および Windows 98 SE ワークステーションに適用されます。
- ◆ Novell Application Launcher™ の Web Browser ビューのインストールマネージャは、ワークステーションのオペレーティングシステムを検出し、そのワークステーションに必要な .cab ファイルを要求します。zfd40.cab ファイルは Windows NT 4 ワークステーションで使用され、zfdplugin.cab は Windows 98/2000/XP ワークステーションで

使用されます。ZENworks 7 Desktop Management へのアップグレード後、zfd40.cab ファイルはサーバのローカルドライブに保持されます。

- ◆ 次の表は、Windows NT ワークステーション用の ConsoleOne で利用できない、または無視されるアプリケーション管理の機能を示しています。

表 35-5 ConsoleOne では受け付けられない Windows NT 4 のアプリケーション管理機能

ConsoleOne で検索する手順	機能
MSI アプリケーションオブジェクト > [識別] タブ > [パッケージ情報] ページ	管理パッケージのパス
アプリケーションオブジェクト > [配布オプション] タブ > [配布前プロセス終了] ページ	すべての設定
アプリケーションオブジェクト > [配布オプション] タブ > [オプション] ページ	ワークステーションが関連付けられている場合のワークステーションセキュリティスペースでの配布
アプリケーションオブジェクト > [可用性] タブ > [配布ルール] ページ	すべての配布ルール機能が無視され、レガシーシステムの要件のみが読み込まれます。
アプリケーションオブジェクト > [共通] タブ > [アンインストールスクリプト] ページ	すべての設定

### 35.3.5 ワークステーションイメージング

ZENworks 7 ワークステーションイメージングの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ eDirectory 内の Windows NT 4 ワークステーションオブジェクトは、ZENworks 7 イメージングポリシーに対して引き続き有効です。
- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 に付属するバージョンの ZENworks イメージング Windows エージェント (ziswin.exe) は、ZENworks 7 イメージングサーバで使用できるイメージセーフデータを作成できます。

### 35.3.6 リモート管理

ZENworks 7 リモート管理の特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 によってインストールされたリモート管理エージェントを実行する Windows NT 4 ワークステーションは、ZENworks 7 リモートコントロールコンソールで管理できます。
- ◆ 次の ZENworks 7 リモート管理機能は、Windows NT 4 ワークステーションでは利用できないか、または動作しません。
  - ◆ エージェント側で開始される接続
  - ◆ セッションの暗号化
  - ◆ 256 色のカラーパレットの強制適用

## 35.3.7 Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)

ZENworks 7 ワークステーションインベントリの特徴や機能が Windows NT 4 ワークステーションにどのように適用されるのかについての説明を次に列挙します。

- ◆ Windows NT 4 ワークステーションにインストールされた ZENworks for Desktops 4.0.1 管理エージェントは、ZENworks 7 インベントリサーバにスキャンを直接送信します。受信されたデータは、ZENworks 7 インベントリデータベースに格納されます。
- ◆ ZENworks 7 コンソールを使用して、Windows NT 4 ワークステーションに存在するデータを参照したり、インベントリポリシーを設定したりできます。
- ◆ Windows NT 4 ワークステーションでは、一部の情報が利用できないか、制限されます。

[ハードウェア] : スキャンされた Windows NT 4 ワークステーションでは、次のハードウェア情報が利用できないか、制限されます。

- ◆ モニタ情報は利用できません。
- ◆ システムシャーシ情報は利用できません。
- ◆ システム情報はの新しい属性は表示されません。

ソフトウェア関連の拡張 : スキャンされた Windows NT 4 ワークステーションでは、次のソフトウェア関連の拡張が利用できないか、制限されます。

- ◆ ZENworks for Desktops 4.0.1 を使用した場合、製品名、ベンダ、バージョン、ID 番号、および場所がスキャンされます。
- ◆ ソフトウェアディクショナリを使用して作成されたスキャンおよび表示情報は利用できません。
- ◆ 製品スイート、製品、ウイルス対策情報などのスキャンおよび表示情報は利用できません。
- ◆ ファイル情報は利用できません。
- ◆ ディスク使用状況データは利用できません。





ZENworks 7 Server Management のサーバインベントリコンポーネントと同じ環境で、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントを実行することを計画している場合は、これらの製品をアップグレードまたはインストールする前に、最初に互換性の問題について理解し、対処方法を考える必要があります。

インベントリの相互運用性に特に適用される前提条件は次のとおりです。

- ◆ インベントリサーバをアップグレードする場合は、インベントリツリーの上位から下位へと展開します。最上位のサーバ（ルートサーバ）からインストールを開始して、次の下位レベルのサーバのインストールに進みます。
- ◆ ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management は、同じインベントリデータベース（Sybase、Oracle、または MS SQL）を使用できます。インベントリデータベースを ZENworks 7 Server Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 7 Desktop Management インストールの一部としてインストールする必要はありません。また、インベントリデータベースを ZENworks 7 Desktop Management インストールの一部としてインストールした場合は、インベントリデータベースを ZENworks 7 Server Management インストールの一部としてインストールする必要はありません。
- ◆ Server Inventory および Workstation Inventory を管理するには、ZENworks 7 Server Management と ZENworks 7 Desktop Management の両方に対する Novell ConsoleOne® インベントリスナップインをインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象サーバから直接 Server Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Server Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 7 Server Management をインストールする必要があります。
- ◆ インベントリサーバがインベントリ対象ワークステーションから直接 Workstation Inventory スキャンを受信した場合、またはロールアップによって Workstation Inventory スキャンを受信した場合は、このサーバに ZENworks 7 Desktop Management をインストールする必要があります。
- ◆ ZENworks 7 Server Management と ZENworks 7 Desktop Management のインベントリには次のオブジェクトとポリシーが適用されます。

データベースオブジェクト

Inventory Service object (インベントリサービスオブジェクト)

ディクショナリ更新ポリシー

ロールアップポリシー

ZENworks Database policy (ZENworks データベースポリシー)

インベントリの相互運用性を実現するために、これらの条件が満たされていることを確認します。

インベントリの相互運用性を実現するには、次の節を参照してください。

- ◆ [518 ページのセクション 36.1 「ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性」](#)

- ◆ 524ページのセクション36.2「複数のサーバにインストールされたZENworks 7 Desktop Management と旧バージョンのZENworks Desktop Management の相互運用性」
- ◆ 525ページのセクション36.3「ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンのZENworks 間の相互運用性」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## 36.1 ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性

- ◆ 518ページのセクション36.1.1「同一サーバにインストールされたZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性」
- ◆ 518ページのセクション36.1.2「複数のサーバにインストールされたZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性」

### 36.1.1 同一サーバにインストールされたZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性

ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management とが同一サーバにインストールされている場合、ZENworks 6.5 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントは、ZENworks 6.5 Server Management の Server Inventory コンポーネントとの間でのみ相互運用できます。

ZENworks 7 Desktop Management を、ZENworks 7 Server Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要があります。また、ZENworks 6.5 Server Management を、ZENworks 6.5 Desktop Management をインストールするのと同じファイルシステムの場所にインストールする必要もあります。

### 36.1.2 複数のサーバにインストールされたZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management 間の相互運用性

ここでは、ZENworks 7 Desktop Management と ZENworks 7 Server Management が同じネットワークの異なるサーバにインストールされている場合の、両者の相互運用性を実現するインストールシナリオについて説明します。

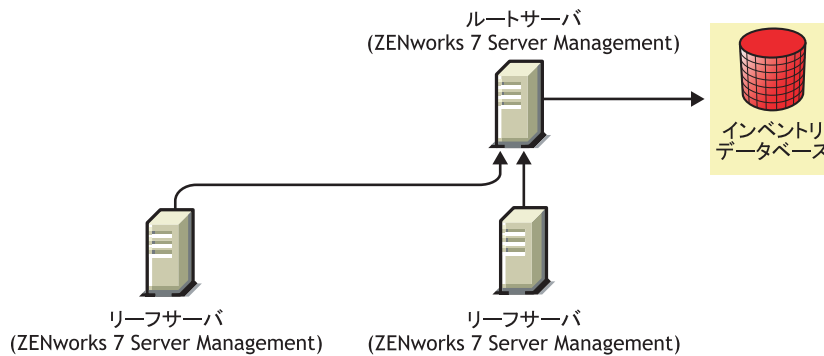
- ◆ 519ページの「シナリオ 1:Server Management 環境への Desktop Management のインストール」
- ◆ 520ページの「シナリオ 2:Desktop Management 環境への Server Management のインストール」
- ◆ 522ページの「シナリオ 3: ツリー間でのインベントリのロールアップ」

## シナリオ 1: Server Management 環境への Desktop Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのサーバに初期状態では ZENworks 7 Server Management しかインストールされていません。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-1 シナリオ :Server Management 環境への Desktop Management のインストール

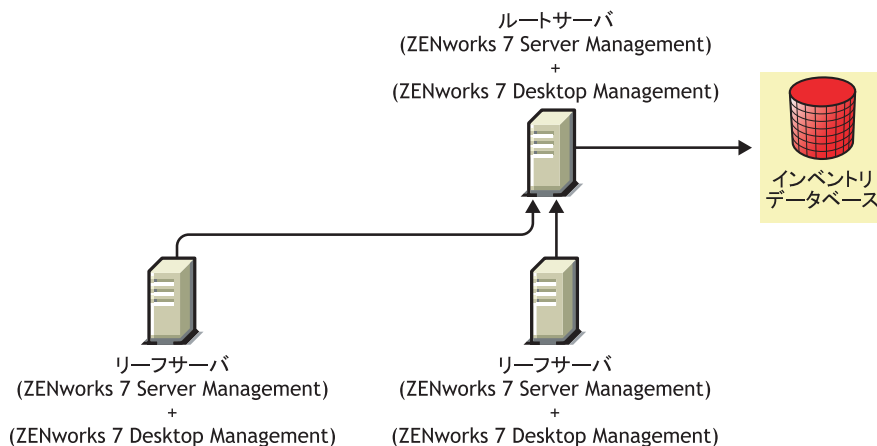


次のいずれかの方法を使用して、この ZENworks 7 Server Management 環境に ZENworks 7 Desktop Management をインストールできます。

- ◆ **方法 1:** トップダウンインストール方法により、ZENworks 7 Desktop Management をすべての ZENworks 7 Server Management サーバにインストールします。常に最上位レベルのサーバからインストールを開始し、以降 1 レベルずつ下位のサーバのインストールを続けます。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 7 Desktop Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。詳細については、83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-2 ZENworks Server Management サーバに ZENworks Desktop Management をインストールするための、トップダウン方法



- ◆ **方法 2:** 次の作業を順に実行します。

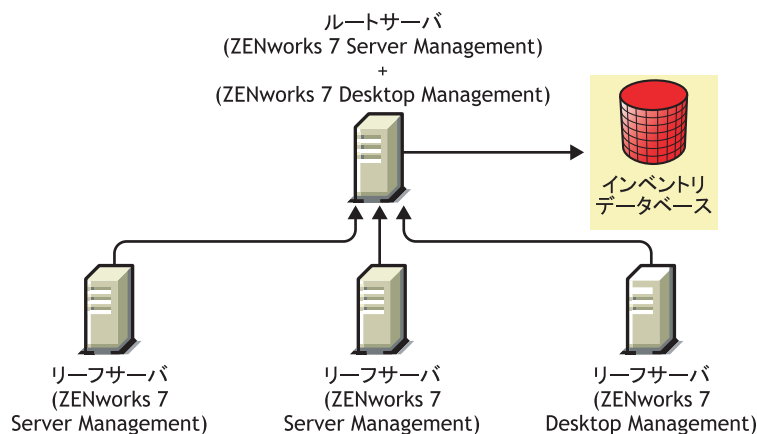
1. ZENworks 7 Desktop Management をルートサーバにインストールします。詳細については、83 ページの § 章9「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. ZENworks 7 Desktop Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。詳細については、83 ページの § 章9「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

ZENworks 7 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 7 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。

ZENworks 7 Server Management および ZENworks 7 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-3 Server Management ルートサーバに Desktop Management をインストールしてから、リーフサーバにインストールする

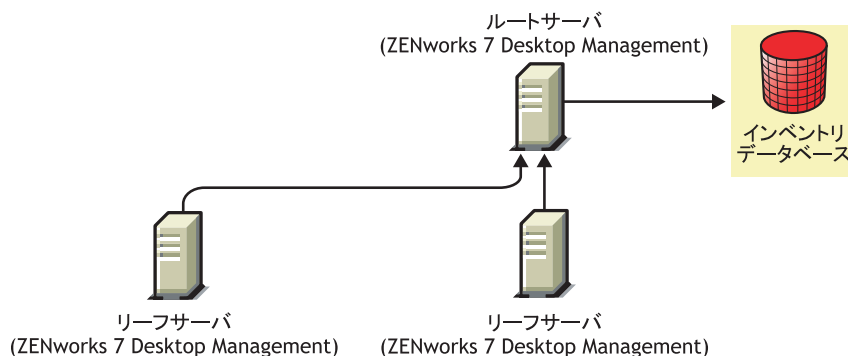


## シナリオ 2: Desktop Management 環境への Server Management のインストール

このシナリオでは、インベントリツリーのすべてのサーバに ZENworks 7 Desktop Management しかインストールされていません。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-4 シナリオ :Desktop Management 環境への ZENworks Server Management のインストール

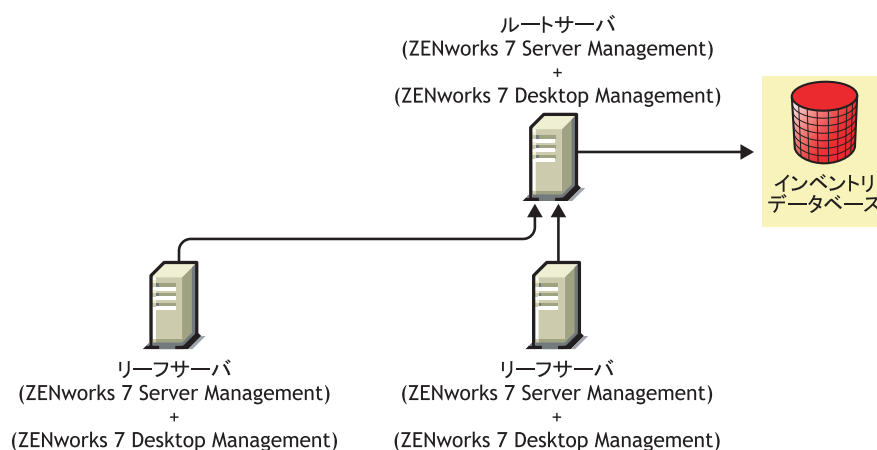


次のいずれかの方法を使用して、この ZENworks 7 Desktop Management 環境に ZENworks 7 Server Management をインストールできます。

- ◆ **方法 1:** トップダウンインストール方法により、ZENworks 7 Server Management をすべての ZENworks 7 Desktop Management サーバにインストールします。常に最上位レベルのサーバからインストールを開始し、以降 1 レベルずつ下位のサーバのインストールを続けます。サンプルシナリオでは、最初に ZENworks 7 Server Management をルートサーバにインストールし、次にリーフサーバにインストールします。ZENworks 7 Server Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-5 Desktop Management 環境に ZENworks Server Management をインストールするための、トップダウン方法

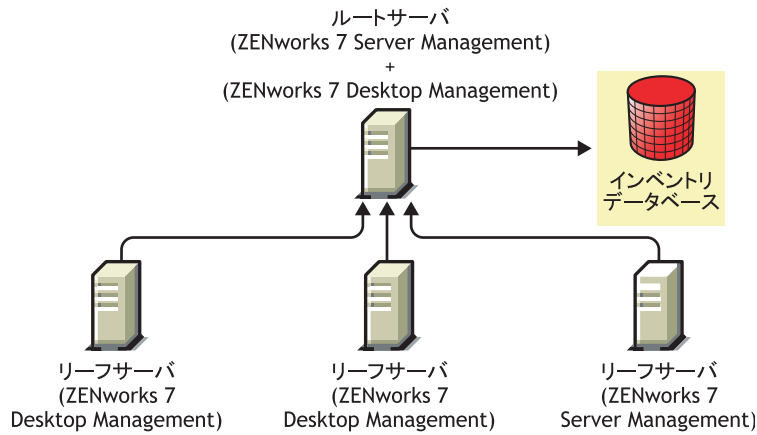


- ◆ **方法 2:** 次の作業を順に実行します。
  1. ZENworks 7 Server Management をルートサーバにインストールします。ZENworks 7 Server Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。
  2. ZENworks 7 Server Management がインストールされたリーフサーバを追加し、ルートサーバに対してロールアップを行うように設定します。ZENworks 7 Server Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「**Policy-Enabled Server Management のインストール**」を参照してください。

ZENworks 7 Server Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象サーバから .str ファイルを受信し、ZENworks 7 Desktop Management リーフサーバは、接続されたインベントリ対象ワークステーションから .str ファイルを受信します。ZENworks 7 Server Management および ZENworks 7 Desktop Management リーフサーバは、インベントリ情報をルートサーバにロールアップします。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-6 Desktop Management ルートサーバに Server Management をインストールしてから、リーフサーバにインストールする

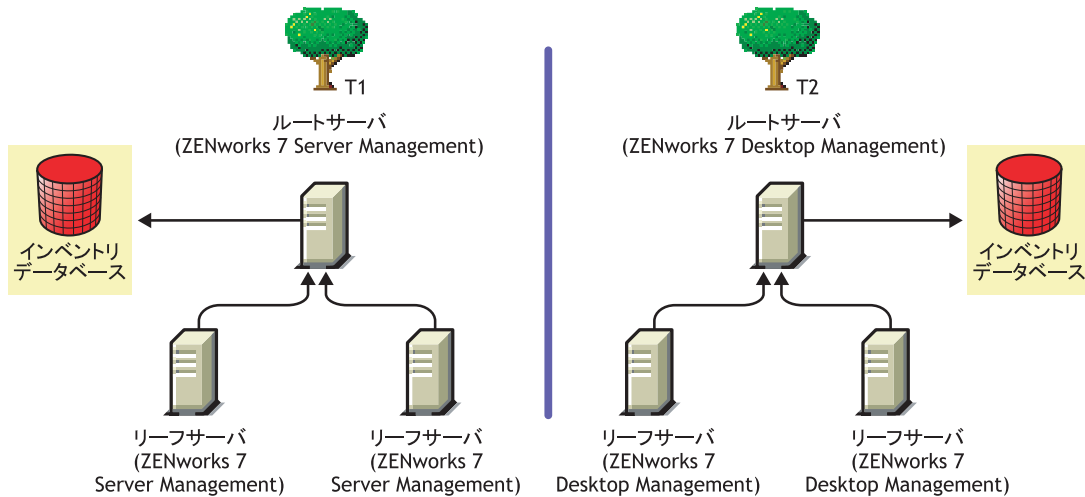


### シナリオ 3: ツリー間でのインベントリのロールアップ

このシナリオでは、T1 と T2 の 2 つの eDirectory™ ツリーが存在します。T1 には ZENworks 7 Server Management が、T2 には ZENworks 7 Desktop Management がインストールされています。サーバおよびワークステーションの両方のインベントリ情報を受信する 1 台のルートサーバを設定するために、T1 と T2 インベントリツリーをマージする必要があります。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-7 シナリオ: ツリー間でのインベントリのロールアップ



次に示す 2 つの方法を使って、T1 と T2 をマージすることができます。

- ◆ 523 ページの「マージする方法 1」
- ◆ 523 ページの「マージする方法 2」

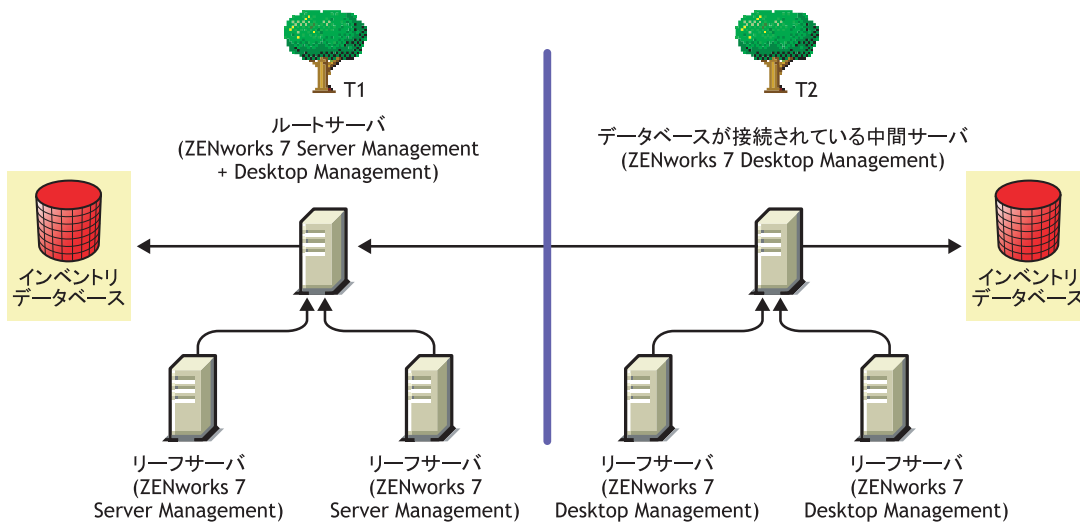
## マージする方法 1

次に示す一般的な手順を実行して、T2 のインベントリデータを T1 のインベントリデータにマージします。

1. T1 のルートサーバに ZENworks 7 Desktop Management をインストールします。詳細については、83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。
2. T2 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T1 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド』の「インベントリサーバの役割変更」を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-8 ツリー 1 のインベントリデータをツリー 2 のインベントリデータにマージする：ツリー 1 上のルートサーバ



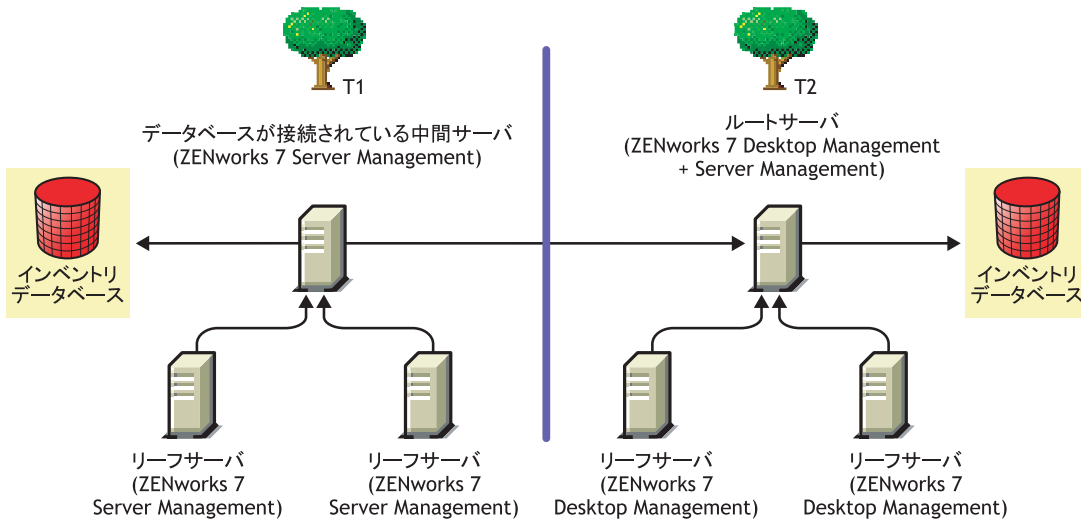
## マージする方法 2

次に示す一般的な手順を実行して、T1 のインベントリデータを T2 のインベントリデータにマージします。

1. T2 のルートサーバに ZENworks 7 Server Management をインストールします。詳細については、『Novell ZENworks 7 Desktop Management インストールガイド』の「Policy-Enabled Server Management のインストール」を参照してください。
2. T1 のルートサーバの役割を、データベースが接続されている中間サーバに変更し、T2 のルートサーバに対してロールアップを実行するよう設定します。詳細については、『Novell ZENworks 7 Server Management 管理ガイド』の「インベントリサーバの役割変更」を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-9 ツリー 1 のインベントリデータをツリー 2 のインベントリデータにマージする：ツリー 2 上のルートサーバ

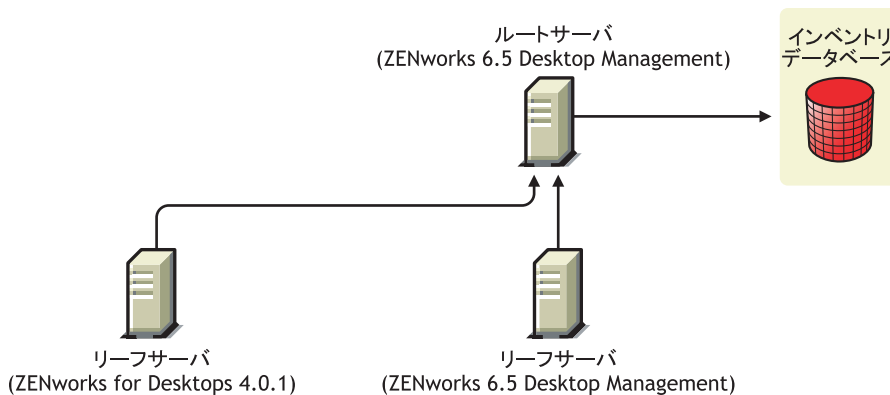


## 36.2 複数のサーバにインストールされた ZENworks 7 Desktop Management と旧バージョンの ZENworks Desktop Management の相互運用性

この構成では、ZENworks for Desktops 4.0.1 と ZENworks 6.5 Desktop Management がそれぞれインストールされた 2 台のリーフサーバが存在します。リーフサーバは、ZENworks 6.5 Desktop Management がインストールされたルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-10 ZENworks 4.x および 6.5 リーフサーバから ZENworks 6.5 ルートサーバへのインベントリデータのロールアップ



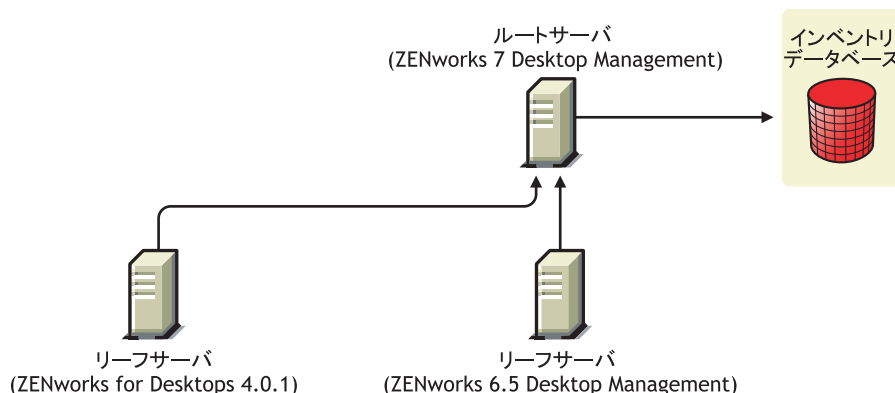
ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 6.5 Desktop Management、および ZENworks for Servers 4.0.1 間の相互運用性を実現するには、ルートサーバを ZENworks 7 Desktop



Management にアップグレードする必要があります。ZENworks 7 Desktop Management へのアップグレードに関する詳細については、381 ページのパート VI 「アップグレード」を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-11 ZENworks 4.x および 6.5 リーフサーバから、アップグレードされた ZENworks 7 ルートサーバへのインベントリデータのロールアップ



## 36.3 ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性

- ◆ 525 ページのセクション 36.3.1 「ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性」
- ◆ 526 ページのセクション 36.3.2 「ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性」

### 36.3.1 ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が 1 台のサーバにインストールされている場合の相互運用性

ZENworks 7 Server Management と ZENworks 7 Desktop Management のインベントリを同じサーバで実行する特定のサーバに、次の ZENworks バージョンまたは ZENworks バージョンの組み合わせが存在します。

ZENworks for Desktops 4.0.1

ZENworks for Desktops 4.0 SP1b

ZENworks for Servers 3.0.2

ZENworks for Servers 3.0 SP2

ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0.2

ZENworks for Desktops 4.0.1 および ZENworks for Servers 3.0 SP2

ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0.2

ZENworks for Desktops 4.0 SP1b および ZENworks for Servers 3.0 SP2

ZENworks 6.5 Server Management  
 ZENworks 6.5 Server Management SP1  
 ZENworks 6.5 Desktop Management  
 ZENworks 6.5 Desktop Management SP1  
 ZENworks 6.5 Server Management と ZENworks 6.5 Desktop Management  
 ZENworks 6.5 Server Management SP1 と ZENworks 6.5 Desktop Management SP1

最初に ZENworks 7 Server Management または ZENworks 7 Desktop Management のどちらか一方をアップグレードまたはインストールし、後でもう一方をアップグレードまたはインストールできます。この結果、ZENworks 7 Server Management と ZENworks 7 Desktop Management との間で Inventory を相互運用できるようになります。

詳細は次のとおりです。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management をインストールするには、81 ページのパート III 「Windows ベースのインストール」を参照してください。
- ◆ ZENworks 7 Server Management をアップグレードするには、381 ページのパート VI 「アップグレード」を参照してください。
- ◆ ZENworks 7 Server Management をインストールするには、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』を参照してください。
- ◆ ZENworks 7 Server Management をアップグレードするには、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「アップグレード」を参照してください。

### 36.3.2 ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性

この構成では、5 台のリーフサーバ (A、B、C、D、E) が存在し、それぞれに次のバージョンの ZENworks がインストールされています。

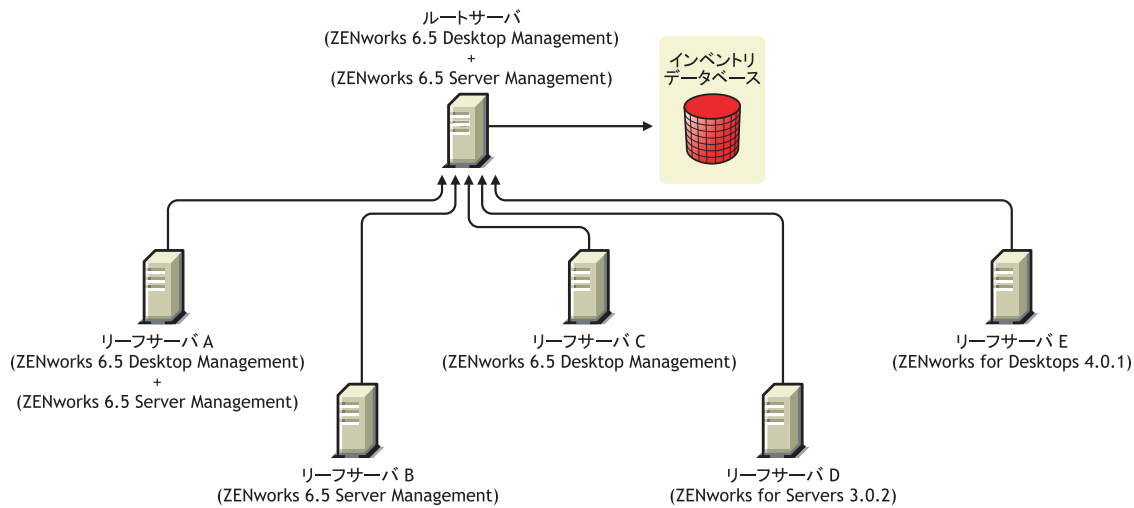
表 36-1 シナリオデータ：さまざまなサーバ上の ZENworks インストールとバージョンの概要

Leaf Server (リーフサーバ)	インストールされている ZENworks のバージョン
リーフサーバ A	ZENworks 6.5 Desktop Management と ZENworks 6.5 Server Management
リーフサーバ B	ZENworks 6.5 Server Management
リーフサーバ C	ZENworks 6.5 Desktop Management
リーフサーバ D	ZENworks for Servers 3.0.2
リーフサーバ E	ZENworks for Desktops 4.0.1

リーフサーバは、ZENworks 6.5 Desktop Management および ZENworks 6.5 Server Management がインストールされたルートサーバにインベントリ情報をロールアップします。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-12 ZENworks 7 Desktop Management、ZENworks 7 Server Management、および旧バージョンの ZENworks が複数のサーバにインストールされている場合の相互運用性

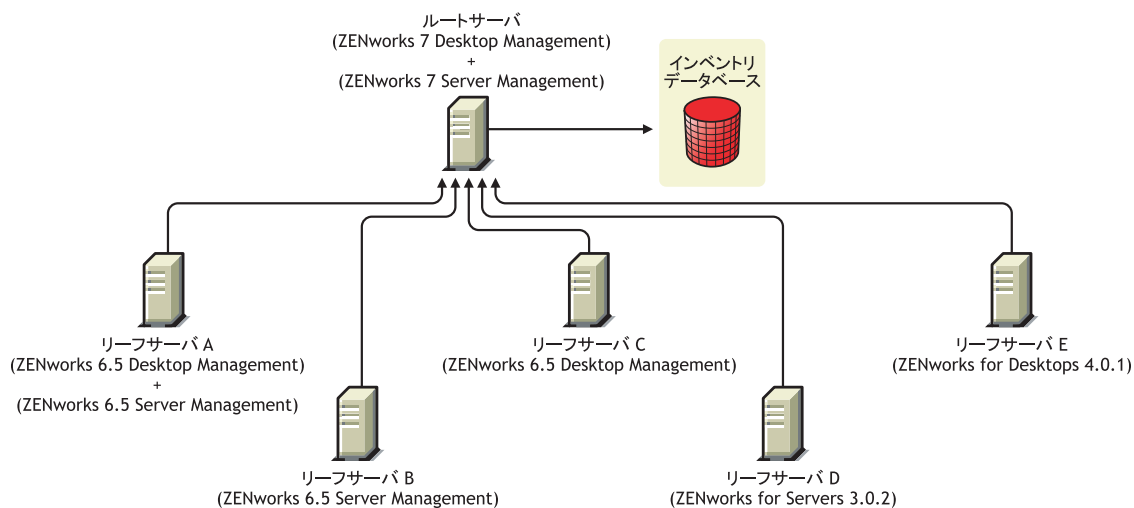


複数のインベントリサーバにインストールされている ZENworks 7 Server Management、ZENworks Desktop 7 Management、および旧バージョンの ZENworks 間の相互運用性を実現するには、ルートサーバに ZENworks 7 Desktop Management および ZENworks 7 Server Management をインストールする必要があります。

ZENworks 7 Desktop Management のインストールに関する詳細については、81 ページの **パート III 「Windows ベースのインストール」** を参照してください。ZENworks 7 Server Management のインストールに関する詳細については、『**Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド**』を参照してください。

このシナリオを図で表すと次のようになります。

図 36-13 ZENworks 6.5 から ZENworks 7 にアップグレードされたルートサーバ





# Remote Management の相互運用性

# 37

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management のリモート管理コンソールは、次のバージョンのリモート管理エージェントと相互運用性があります。

ZENworks for Desktops 4.x

ZENworks 6.5 Desktop Management

ZENworks for Servers 3.x

ZENworks 6.5 Server Management

ZENworks 7 Server Management



Novell® ZENworks® 7 Desktop Management は、他のいくつかの Novell 製品と相互運用でき、これらの製品を補完します。この節では、この相互運用性に関する詳細や他の情報へのリンクを示します。

この節には、次の情報が含まれています。

- ◆ [531 ページのセクション 38.1 「サードパーティのリモート管理製品との相互運用性」](#)
- ◆ [531 ページのセクション 38.2 「Novell iChain との相互運用性」](#)
- ◆ [531 ページのセクション 38.3 「Novell Cluster Services との相互運用性」](#)
- ◆ [532 ページのセクション 38.4 「Novell GroupWise クライアントとの相互運用性」](#)
- ◆ [532 ページのセクション 38.5 「Novell Nterprise Branch Office との相互運用性」](#)

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

---

## 38.1 サードパーティのリモート管理製品との相互運用性

Novell ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントのインストール時にミラードライバを Windows 2000/XP ワークステーションにインストールすることを選択した場合、リモート管理コンポーネントは、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品と共存することができます。

これにより、ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントと同じ環境で、リモート管理機能を提供する他のベンダ製品を使用できるようになります。

## 38.2 Novell iChain との相互運用性

ZENworks 7 Desktop Management と Novell iChain® 2.3 Support Pack 1 との間には、役に立つ相互運用性がサポートされています。詳細については、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10092443 を参照してください。

## 38.3 Novell Cluster Services との相互運用性

ZENworks 7 Desktop Management は、既存の Novell Cluster Services™ 環境にインストールできます。詳細については、[571 ページの付録 B 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」](#) [571 ページの付録 B 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」](#) を参照してください。

## 38.4 Novell GroupWise クライアントとの相互運用性

ZENworks アプリケーション管理を使用すると、Novell GroupWise® クライアントを簡単に展開できます。アプリケーション管理を使用して展開を行うことに関する詳細については、『*GroupWise 7 Administration Guide*』の「[Using ZENworks for Desktops to Deploy the GroupWise Client \(http://www.novell.com/documentation/lg/gw65/gw65\\_admin/data/a2iiiss.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/gw65/gw65_admin/data/a2iiiss.html)」を参照してください。

## 38.5 Novell Nterprise Branch Office との相互運用性

ZENworks Desktop Management は、一元化されたアーキテクチャに基づいて、Novell Nterprise Branch Office™ 2.0 と統合することができ、アプリケーションファイルのレポジトリとして Branch Office を使用することにより、ZENworks を一元的に管理できるようになります。

これらの2つの Novell 製品を一緒に使用することに関する詳細については、『*Novell Nterprise Branch Office Setup Guide*』の「[Integrating ZENworks for Desktops with Nterprise Branch Office \(http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/boj4ly3.html\)](http://www.novell.com/documentation/lg/nbo2/setupguide/data/boj4ly3.html)」を参照してください。



# アンインストール / 再インストール

# VIII

状況によって、Novell® ZENworks® Desktop Management のコンポーネントをアンインストールまたは再インストールする必要がある場合があります。この節では、次の Desktop Management コンポーネントのアンインストールおよび再インストールに関する情報を提供します。

- ◆ 535 ページの § 章 39 「Remote Management のアンインストール」
- ◆ 539 ページの § 章 40 「ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール」
- ◆ 555 ページの § 章 41 「Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール」



# Remote Management のアンインストール

# 39

ここでは、Windows サーバまたは Novell NetWare® サーバおよび Windows ワークステーションから Novell® ZENworks® Remote Management をアンインストールする手順について説明します。

- ◆ 535 ページのセクション 39.1 「リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール」
- ◆ 535 ページのセクション 39.2 「リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## 39.1 リモート管理エージェントコンポーネントのアンインストール

リモート管理エージェントのファイルをユーザのワークステーションから削除するには

- 1 コントロールパネルで、[プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- 2 [ZENworks デスクトップ管理エージェント] を選択します。
- 3 [変更] をクリックします。  
ZENworks 7 デスクトップ管理エージェント InstallShield ウィザードが起動します。
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 [カスタムセットアップ] ウィンドウで [リモート管理] の選択を解除し、[次へ] をクリックして [終了] をクリックします。

## 39.2 リモート管理サーバコンポーネントのアンインストール

この節では、Wake-on-LAN ファイルおよび ConsoleOne® ファイルを削除する方法について説明します。

- ◆ 535 ページの 「ConsoleOne ファイルの削除」
- ◆ 537 ページの 「Wake-on-LAN ファイルの削除」

### 39.2.1 ConsoleOne ファイルの削除

ConsoleOne ファイルを削除すると、リモート管理エージェントおよびサーバ側のリモート管理コンポーネントがアンインストールされます。

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションの Remote Management サーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーションの `consoleone_installation_directory\1.2` ディレクトリで、次の操作を行います。

**2a** 次のファイルを削除します。

```
\bin\directoryrights.dll
\bin\ntgroups.ini
\bin\userreports.ini
\lib\zen\classes12.zip
\lib\zen\dataexportsnapins3x.jar
\lib\zen\dbexport.jar
\lib\zen\dbexport3x.jar
\lib\zen\dbexportres.jar
\lib\zen\jconn2.jar
\lib\zen\jdbcdrv.zip
\lib\zen\smanager.jar
\lib\zen\zenutility.jar
\reporting\export\invxml.dtd
\snapins\zen\dataexportsnapins.jar
\snapins\zen\inventorysnapins.jar
\snapins\zen\inventorysnapins3x.jar
\snapins\zen\jgl3.1.0.jar
\snapins\zen\policymigration.jar
\snapins\zen\swdictionarysnapins.jar
\snapins\zen\tableutilities.jar
\snapins\zen\tracer.jar
\snapins\zen\workstationsnapins.jar
```

- 2b** `\reporting\canned\novell reporting\zeninventory` ディレクトリから、次のサブディレクトリを削除します。

```
zeninventory
zeninventory3x
zeninventory4x
zeninventory30
zeninventory32
```

- 3 同じワークステーションまたはサーバに Remote Management ConsoleOne スナップインをインストールしていない場合、次の操作を実行します。

**3a** 次のファイルを削除します。

```
\bin\desktop4.exe
\bin\desktop4.ini
\bin\mssql.ini
\bin\ndsaccess.dll
\bin\oracle.ini
```

```
\bin\remagent.ini
\bin\sybase.ini
\help\njha.jar
\help\novellzeninven.hs
\help\novellzenrmgt.hs
\help\novhlp.css
\lib\zen\desktop.jar
\lib\zen\desktop3x.jar
\lib\zen\desktopcommonutility.jar
\lib\zen\statuslog.jar
\lib\zen\zeninimages.jar\bin\desktop4.exe
```

**3b** 次のディレクトリを削除します。

```
\bin\zen\sybaseproxy
\help\en\novell_zfd_inventory
\help\en\novell_zfd_remotemgmt
```

**4** インベントリ ConsoleOne スナップインがインストールされている各ワークステーションまたはサーバで、手順 1 から 3 を繰り返します。

## 39.2.2 Wake-on-LAN ファイルの削除

**1** Wake-on-LAN サービスを停止します。

- ◆ NetWare の場合：サーバコンソールで、「stopWol.」と入力します。
- ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックし、[Novell ZENworks Wake-on-LAN サービス] を選択して [停止] をクリックします。

**2** リモート管理コンポーネントがインストールされているディレクトリを削除します。

- ◆ NetWare サーバの場合、次のディレクトリを削除します。

```
install_path\remmgmt\server\logs
install_path\remmgmt\server\lib
install_path\remmgmt\server\properties
sys:\system
```

次のファイルを削除します。

```
wolenv.ncf
wolsetenv.ncf
startwol.ncf
stopwol.ncf
wolstatus.log
```

- ◆ Windows サーバの場合、次のディレクトリを削除します。

```
install_path\remmgmt\server\lib
install_path\remmgmt\server\logs
install_path\remmgmt\server\properties
install_path\remmgmt\server\bin
```

- 3 Windows サーバの場合、次のレジストリエントリを削除します。  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES\PROMETHEUS WAKE ON LAN SERVICE
- 4 Novell eDirectory™ から、Wake-on-LAN サービスオブジェクト (SERVERNAME\_WOLSERVICE) を削除します。
- 5 ConsoleOne を使用して、eDirectory から Wake-on-LAN ポリシーのすべてのインスタンスを削除します。

# ワークステーションインベントリの アンインストールまたは再インス トール

この節では、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントをアンインストールおよび再インストールする際に役立つ情報を紹介します。

- ◆ 539 ページのセクション 40.1 「ワークステーションインベントリのアンインストール」
- ◆ 550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## 40.1 ワークステーションインベントリのアンインストール

ZENworks Desktop Management から、ワークステーションインベントリを自動的にアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory™ オブジェクト、および ConsoleOne® ファイルを手動で削除する必要があります。

---

注：インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によって推奨されているアンインストール手順に従ってください。

---

ワークステーションインベントリコンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

ワークステーションインベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。

ワークステーションインベントリをアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

ワークステーションインベントリを手動でアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 540 ページの 「ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール」
2. 541 ページの 「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」
3. 541 ページの 「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」
4. 543 ページの 「Sybase エンジンのアンインストール」
5. 544 ページの 「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」

6. [547 ページの「XML プロキシサーバのアンインストール」](#)
7. [548 ページの「ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール」](#)
8. [550 ページの「デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール」](#)

## 40.1.1 ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール

- 1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。
  - ◆ NetWare® サーバの場合：サーバコンソールのプロンプトで、「StopSer \*」と入力します。
  - ◆ Windows 2000/2003 サーバの場合：コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。
  - ◆ Linux サーバの場合：サーバのプロンプトで「/etc/init.d/novell-zdm-inv stop」と入力します。
- 2 ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、無効にします。
  - 2a ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックします。
  - 2b [ZENworks データベース] ポリシーを選択して [プロパティ] をクリックし、[インベントリ管理] タブをクリックします。
  - 2c 指定したインベントリデータベースのエントリを削除し、[OK] をクリックします。

---

**重要：**ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。詳細については、[544 ページの「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」](#)を参照してください。

---

- 3 ワークステーションインベントリポリシーを無効にします。
  - 3a ConsoleOne で、ワークステーションパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
  - 3b [ポリシー] をクリックし、適切なオペレーティングシステムのサブオプションを選択します。
  - 3c ワークステーションインベントリポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [リセット] ボタンをクリックし、[はい] をクリックします。
  - 3d ワークステーションインベントリポリシーの選択を解除します。
  - 3e [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

---

**重要：**複数のオペレーティングシステムにワークステーションインベントリポリシーを設定している場合は、[ポリシー] タブで該当するオペレーティングシステムのサブオプションを選択し、この手順を繰り返します。

---

- 4 ロールアップポリシーとディクショナリ更新ポリシーが設定されている場合は、これらのポリシーを無効にします。



- 4a ConsoleOne で、サーバパッケージを含むコンテナを検索し、サーバパッケージを右クリックします。[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックし、[NetWare] または [Windows] サブオプションをクリックします。
  - 4b ロールアップポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
  - 4c ロールアップポリシーの選択を解除します。
  - 4d ディクショナリ更新ポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
  - 4e ディクショナリ更新ポリシーの選択を解除します。
  - 4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

## 40.1.2 データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

## 40.1.3 Sybase インベントリデータベースのアンインストール

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 541 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 542 ページの「Windows サーバからのアンインストール」
- ◆ 542 ページの「Linux サーバからのアンインストール」

### NetWare サーバからのアンインストール

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 2 `sys:\system\mgmt dbs.ncf` から `database_path\mgmt db.db` エントリを削除します。
- 3 `sys:\system\zenworks.properties` の `INVDBPATH` キーの値をメモします。
- 4 データベースファイルに格納されているインベントリ情報を使用する場合は、`INVDBPATH` にあるデータベースファイル (`mgmt db*.db`) の確実なバックアップを作成します。
- 5 `INVDBPATH` キーで指定された値から、`mgmt db.log` を含むインベントリデータベースファイル (`mgmt db*.db`) を削除します。
- 6 `sys:\system\zenworks.properties` から `INVDBPATH` キーを削除します。
- 7 `ZFD_INVENTORY_DATABASE_SERVER` キーを削除します。  
`sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_Inventory_Database_Server]Version = 7.0 Desktop Management
product build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

Support\_Pack = 0

- 8 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

Sybase を起動するには、NetWare サーバコンソールのプロンプトで「mgmt dbs.ncf」と入力します。

## Windows サーバからのアンインストール

- 1 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 2 Sybase を停止します。
  - 2a Windows のコントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
  - 2b [Novell Database - Sybase] を選択し、[停止] をクリックします。
- 3 [mgmt db.db] エントリを削除します。
  - 3a dbengine\_installation\_directory\ntdbconfig.exe を実行します。
  - 3b [NTDBConfig] ダイアログボックスで、mgmt db.db へのパスを削除し、[OK] をクリックします。
  - 3c 他の .db エントリが 1 つもない場合は、手順 4 に進む前に Sybase エンジンを削除します。

Sybase エンジンの削除方法については、543 ページの「[Sybase エンジンのアンインストール](#)」を参照してください。
- 4 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの INVDBPATH キーの値をメモします。
- 5 データベースファイルに格納されているインベントリ情報を使用する場合は、INVDBPATH にあるデータベースファイル (mgmt db\*.db) の確実なバックアップを作成します。
- 6 INVDBPATH キーで指定された値から、mgmt db.log を含むインベントリデータベースファイル (mgmt db\*.db) を削除します。
- 7 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから INVDBPATH キーを削除します。
- 8 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFD レジストリエントリからインベントリデータベースサーバキーを削除します。
- 9 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。
  - 9a Windows のコントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
  - 9b [Novell Database - Sybase] を選択し、[開始] をクリックします。

## Linux サーバからのアンインストール

- 1 Linux サーバのプロンプトで「/etc/init.d/novell-zdm-sybase stop」と入力します。
- 2 サーバのプロンプトで、「rpm -e novell-zenworks-invdb」と入力します。

3 データベースファイルに格納されているインベントリ情報を使用する場合は、INVDBPATHにあるデータベースファイル(mgmtdb\*.db)の確実なバックアップを作成します。

4 /etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties から INVDBPATH キーを削除します。

5 ZFD\_INVENTORY\_DATABASE\_SERVER キーを削除します。

/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties から次のセクションを削除します。

```
[Zfd_Inventory_Database_Server]Version = 7.0 Desktop Management  
product build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

6 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

Sybase を起動するには、サーバのプロンプトで「/etc/init.d/novell-zdm-sybase start」と入力します。

#### 40.1.4 Sybase エンジンのアンインストール

Sybase エンジンは、他の ZENworks 製品で使用されていない場合に限り、削除することができます。

- ◆ 543 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」
- ◆ 544 ページの「Windows サーバからのアンインストール」
- ◆ 544 ページの「Linux サーバからのアンインストール」

##### NetWare サーバからのアンインストール

Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、データベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。詳細については、541 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」を参照してください。

1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。

2 sys:\system\zenworks.properties の DBENGINEPATH キーの値をメモします。

3 sys:\system\mgmt dbs.ncf の .db エントリをチェックして、データベースサーバにデータベースがマウントされていないかどうか確認します。

ファイルに .db エントリが含まれていなければ、mgmt dbs.ncf を削除します。ファイルに .db エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。

4 sys:\system\autoexec.ncf から mgmt dbs.ncf エントリを削除します。

5 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリ (手順 3 で確認) を削除します。

6 sys:\system\zenworks.properties から DBENGINEPATH キーを削除します。

## Windows サーバからのアンインストール

Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、データベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンアンインストールする必要があります。詳細については、[541 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」](#)を参照してください。

- 1 Sybase を停止します。
  - 1a Windows のコントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
  - 1b [Novell Database - Sybase] を選択します。
  - 1c [停止] をクリックします。
- 2 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの DBENGINEPATH キーの値をメモします。
- 3 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。
  - 3a `dbengine_installaton_directory\ntdbconfig.exe` を実行して、`.db` エントリが含まれているかどうかを調べます。
  - 3b データベースがデータベースサーバにマウントされている場合は、`ntdbconfig.exe` ファイルに `.db` エントリが含まれています。`ntdbconfig.exe` に `.db` エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。  
`.db` エントリが存在しなければ、  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\ SERVICES レジストリエントリから ASANYS\_ZENWORKS キーを削除します。
- 4 DBENGINEPATH で指定されているディレクトリを削除します。

## Linux サーバからのアンインストール

Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンアンインストールする必要があります。詳細については、[541 ページの「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」](#)を参照してください。

- 1 Linux サーバのプロンプトで「`/etc/init.d/novell-zdm-sybase stop`」と入力します。
- 2 `/etc/opt/novell/zenworks/bin/mgmt dbs.sh` の `.db` エントリをチェックして、データベースサーバにデータベースがマウントされていないかどうか確認します。  
ファイルに `.db` エントリが含まれていなければ、`mgmt dbs.sh` を削除します。ファイルに `.db` エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。
- 3 `/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties` から DBENGINEPATH キーを削除します。
- 4 サーバのプロンプトで、「`rpm -e novell-zenworks-sybase`」と入力します。

### 40.1.5 インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ [545 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」](#)
- ◆ [546 ページの「Windows サーバからのアンインストール」](#)
- ◆ [546 ページの「Linux サーバからのアンインストール」](#)

## NetWare サーバからのアンインストール

- 1 インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで `StopSer *` と入力し、インベントリサービスを停止します。
- 2 `java.nlm` をアンロードします。サーバコンソールで、`java -exit` と入力します。
- 3 `sys:\system\zenworks.properties` ファイルの `INVSrvPATH` キーおよび `ZWSPATH` キーの値をメモします。
- 4 `ZFD_INVENTORY_SERVER` キーを削除します。

`sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_Inventory_Server]Version = 7.0 Desktop Management product  
build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 5 `invsrvpath\scandir` ディレクトリを削除します。
- 6 `invsrvpath\server` ディレクトリを削除します。
- 7 `sys:\system\autoexec.ncf` から次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
StartInv.ncf
```

- 8 `sys:\system` ディレクトリから次のファイルを削除します。

```
inenv.ncf
```

```
inenvset.ncf
```

```
listser.ncf
```

```
startinv.ncf
```

```
startser.ncf
```

```
startzws.ncf
```

```
stopser.ncf
```

```
dbexport.ncf
```

```
debug.properties
```

```
stopdb.ncf
```

- 9 インベントリサーバに `Policy and Distribution Services` と `XML プロキシサーバ` がインストールされていない場合は、`ZWSPATH` によって指定されているディレクトリを削除して、`ZENworks Web Server` コンポーネントを削除します。

- 9a `sys:\system\autoexec.ncf` から次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

ZFS.ncf

- 9b sys:\system ディレクトリから zwsstart.ncf ファイルを削除します。
- 9c sys:\system\zenworks.properties から ZWSPATH キーを削除します。
- 9d zws\_volume:\zfs-startup.xml を削除します。
- 9e zws\_volume:\zenworks\zfs.ncf を削除します。
- 10 sys:\system\zenworks.properties から INVSrvPATH キーを削除します。

### Windows サーバからのアンインストール

- 1 インベントリサーバ上の Inventory Service を停止します。
  - 1a Windows のコントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。
  - 1b [Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。
  - 1c [Novell ZENworks Service Manager] を選択し、[停止] をクリックします。
- 2 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリの NVSRVPATH および ZWSPATH キーの値をメモします。
- 3 invsrvm\scandir ディレクトリを削除します。
- 4 invsrvm\server ディレクトリを削除します。
- 5 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ZENINVENTORY キーを削除します。
- 6 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFD レジストリエントリからインベントリサーバキーを削除します。
- 7 インベントリサーバに Policy and Distribution Services および XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
  - 7a zwspath ディレクトリを削除します。
  - 7b HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから ZWSPATH キーを削除します。
  - 7c HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES レジストリエントリから ZWSSRV キーを削除します。
- 8 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS レジストリエントリから INVSrvPATH キーを削除します。
- 9 実行した変更を有効にするため、コンピュータを再起動します。

### Linux サーバからのアンインストール

- 1 「/etc/init.d/novell-zdm-inv stop」と入力してインベントリサービスを停止します。
- 2 /etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties から INVSrvPATH および ZWSPATH キーを削除します。
- 3 ZFD\_Inventory\_Server キーを削除します。  
/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_Inventory_Server]Version = 7.0 Desktop Management product  
build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 4 サーバのプロンプトで、「rpm -e novell-zenworks-invserver」と入力します。
- 5 サーバのプロンプトで、「rpm -e novell-zen-zws」と入力します。
- 6 (オプション) デバッグログファイルが不要な場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/inv` ディレクトリを削除します。
- 7 ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントまたは他のワークステーションインベントリコンポーネントがインストールされていない場合は、次のファイルを削除します。

```
/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties  
/etc/opt/novell/zenworks/password.txt  
/etc/opt/novell/zenworks/zfs-startup.xml.rpmsave  
/etc/opt/novell/zenworks/zws.properties.rpmsave
```

- 8 Delete `/etc/samba/smb.conf.timestamp`.

## 40.1.6 XML プロキシサーバのアンインストール

ポリシーサービスと配布サービス、またはインベントリがサーバにインストールされていない場合に、サーバからインベントリ XML プロキシサーバファイルをアンインストールするには

- ◆ [547 ページの「NetWare サーバからのアンインストール」](#)
- ◆ [548 ページの「Windows サーバからのアンインストール」](#)
- ◆ [548 ページの「Linux サーバからのアンインストール」](#)

### NetWare サーバからのアンインストール

- 1 サーバコンソールのプロンプトで「`java -killzfsexit`」と入力して、`java.nlm` をアンロードします。
- 2 `sys:\system\zenworks.properties` の `ZWSPATH` の値をメモします。
- 3 `sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_XML_Proxy_Server]
```

```
Version=7.0 Desktop Management product build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 4 `sys:\system\autoexec.ncf` から次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
ZFS.ncf
```

- 5 `sys:\system` ディレクトリから `zwsstart.ncf` ファイルを削除します。
- 6 `sys:\system\zenworks.properties` から、`ZWSPATH` ディレクトリおよび `ZWSPATH` エントリを削除します。
- 7 `zws_volume:\zenworks` ディレクトリから `zfs-startup.xml` および `zfs.ncf` を削除します。

#### Windows サーバからのアンインストール

- 1 ZENworks Web Server を停止します。  
コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell ZENworks Service Manager] を選択し、[停止] をクリックします。
- 2 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS` レジストリエントリの `ZWSPATH` キーの値をメモします。この値は、`zwspath` ディレクトリを示します。
- 3 `zwspath` ディレクトリを削除します。
- 4 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\ZFD` レジストリエントリからインベントリ Proxy XML サーバキーを削除します。
- 5 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CURRENTCONTROLSET\SERVICES` レジストリエントリから `ZWSSRV` キーを削除します。
- 6 `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS\` レジストリエントリから `ZWSPATH` キーを削除します。
- 7 `zws_volume:\zenworks\zfs-startup.xml` を削除します。

#### Linux サーバからのアンインストール

- 1 `/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties` から `ZWSPATH` キーを削除します。
- 2 サーバのプロンプトで、「`rpm -e novell-zen-zws`」と入力します。

### 40.1.7 ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。



ConsoleOne からワークステーションインベントリスナップインのみを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーションの `consoleone_installation_directory\1.2` ディレクトリで、次の操作を行います。

- 2a 次のファイルを削除します。

```
\lib\zen\dbexport.jar
\lib\zen\desktop.jar
\lib\zen\zeninvimages.jar
\lib\zen\zenutility.jar
\lib\zen\statuslog.jar
\lib\zen\classes12.zip\lib\zen\vbjapp.jar\lib\zen\vbjorb.jar\lib\zen\jdbcdrv.zip
\snapins\zen\inventorysnapins.jar
\snapins\zen\inventorysnapins3x.jar\snapins\zen\dataexportsnapins.jar\snapins\zen\policy
migration.jar\snapins\zen\workstationsnapins.jar\snapins\zen\tracer.jar\help\novellserv
erin.vh\bin\directoryrights.dll\bin\displayrules.properties\bin\schemarules.properties
```

- 2b 次のディレクトリを削除します。

```
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory30
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory32
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory3x
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory4x
```

- 3 リモート管理の ConsoleOne スナップインを同じワークステーションまたはサーバにインストールしていない場合は、次のファイルを削除します。

```
\bin\desktop4.exe
\bin\mssql.ini
\bin\msvp60.dll
\bin\ndsaccess.dll
\bin\oracle.ini
\bin\remagent.ini
\bin\sybase.ini
\help\novellzeninven.hs
\help\novellzenrmgt.hs \help\en\novell_zfd_inventory
\help\en\novell_zfd_remotemgmt
\lib\zen\desktop.jar
\lib\zen\desktop3x.jar\lib\zen\desktopcommonutility.jar
\resources\resources.jar
\snapins\zen\commonsnapins.jar
```

## 40.1.8 デスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストール

ユーザワークステーション上でデスクトップ管理インベントリエージェントをアンインストールする必要がある場合は、Windows の [アプリケーションの追加と削除] を実行することによってアンインストールを実行できます。Novell Application Launcher™ によってデスクトップ上に作成されたアプリケーションアイコンは削除されません。

---

注：どのユーザでも Windows の [アプリケーションの追加と削除] を実行してデスクトップ管理インベントリエージェントのアンインストールを試みることができます。ユーザがローカルの管理権限を持っていないければ、このエージェントのアンインストールは成功しません。

---

## 40.2 ワークステーションインベントリの再インストール

インストールが正常に実行されなかった、または誤ってファイルを削除するなどしてデータ破損が起き、再インストールしなければデータの修復ができないなどの理由で、デスクトップ管理サービスのワークステーションインベントリコンポーネントを再インストールすることが必要な場合があります。

次の各節では、詳細について説明します。

- ◆ 550 ページのセクション 40.2.1 「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」
- ◆ 553 ページのセクション 40.2.2 「Linux へのインベントリサーバまたはインベントリデータベースの再インストール」
- ◆ 553 ページのセクション 40.2.3 「デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール」

### 40.2.1 NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール

ここでは、ワークステーションインベントリコンポーネントの再インストールに焦点を絞って説明します。

- ◆ 550 ページの 「ワークステーションインベントリの再インストールの準備」
- ◆ 551 ページの 「ワークステーションインベントリの再インストール」
- ◆ 553 ページの 「ワークステーションインベントリの再インストールの確認」

---

重要：再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

---

#### ワークステーションインベントリの再インストールの準備

- 1 ワークステーションインベントリを再インストールする必要があるサーバを識別します。

## 2 Inventory Service を停止します。

- NetWare インベントリサーバ: サーバコンソールのプロンプトで、「sys:\system\invstop.ncf」と入力します。

---

注: Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:\system\invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。

---

- Windows 2000/2003 インベントリサーバの場合: コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックします。次に、[Novell Inventory Service] を選択し、[停止] をクリックします。

## 3 インベントリデータベースを停止します。

- NetWare の場合: Sybase コンソールプロンプトで、<Q> キーを押します。
- Windows 2000/2003 の場合: コントロールパネルで [管理ツール]、[サービス] の順にダブルクリックし、[Novell Database - Sybase] を選択して [停止] をクリックします。
- Linux の場合: Sybase のコンソールプロンプトで「etc/init.d/novell-zdm-sybase stop」と入力します。

## 4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします (サーバコンソールで、「java -exit」と入力する)。

---

重要: このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

---

## 5 対象になる Windows サーバで、[サービス] ウィンドウを閉じます。

## 6 再インストール先のサーバがある Novell eDirectory ツリーにログインします。

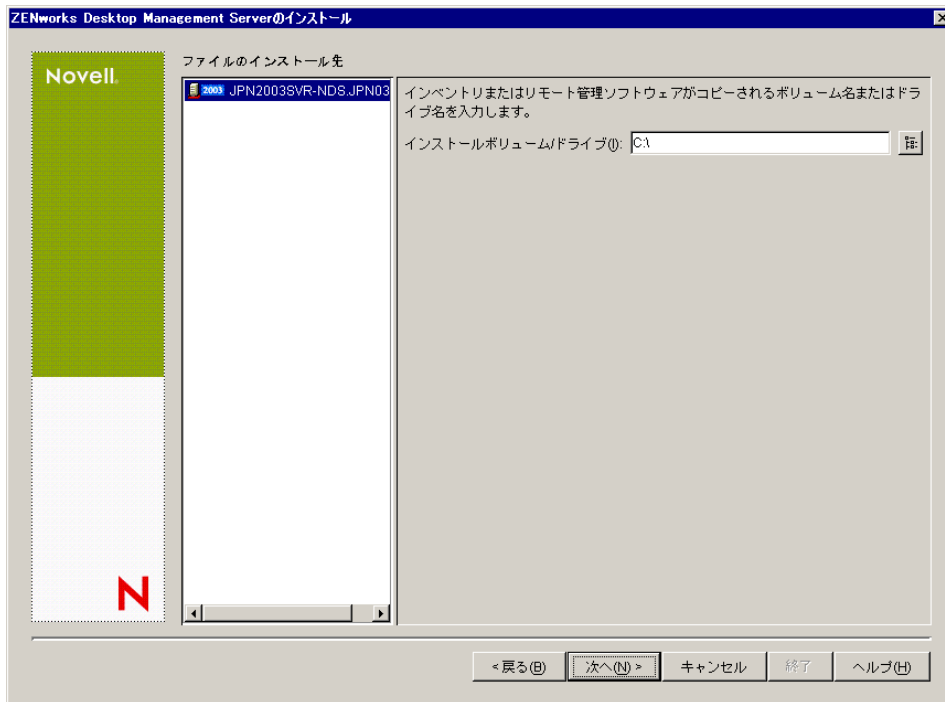
Windows 2000 サーバに再インストールする場合、再インストール先のサーバで認証されるためには、Administrator(または同等の権利を持つユーザ)としてログインする必要があります。

## 7 83 ページの「ZENworks Desktop Management Server のインストール」に進みます。

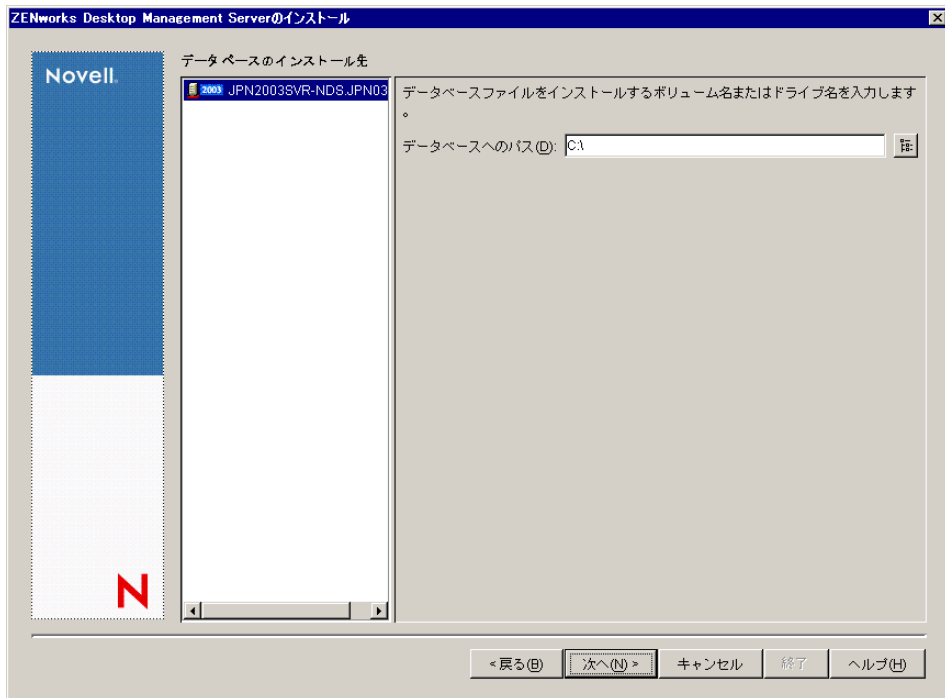
### ワークステーションインベントリの再インストール

ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションインベントリを以前のインストール上に再インストールする場合は、既存のポリシーおよび scandir ディレクトリが使用されます。

再インストールの際の [ファイルのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、ワークステーションインベントリまたはリモート管理ファイルがそのパスにインストールされます。



再インストールの際の [データベースのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、データベースがそのパスにインストールされます。



## ワークステーションインベントリの再インストールの確認

- 1 インストールが完了したら、インストールログファイルを参照して、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。
- 2 ファイルがなくなったり、壊れたりした問題を解決するために再インストールした場合は、問題が解決されていることを確認します。

## 40.2.2 Linux へのインベントリサーバまたはインベントリデータベースの再インストール

Linux にインベントリサーバまたはインベントリデータベースを再インストールするには

1. 再インストールするコンポーネントをアンインストールします。たとえば、インベントリサーバを再インストールする場合は、まずインベントリサーバをアンインストールする必要があります。

インベントリサーバまたはインベントリデータベースをアンインストールする方法については、[539 ページのセクション 40.1 「ワークステーションインベントリのアンインストール」](#)を参照してください。

2. 前の手順でアンインストールしたコンポーネントをインストールします。

インストール方法については、[339 ページの § 章 22 「Linux サーバでの ZENworks Desktop Management インストールのカスタマイズ」](#)を参照してください。

## 40.2.3 デスクトップ管理インベントリエージェントの再インストール

デスクトップ管理インベントリエージェントをワークステーションに再インストールするには、[144 ページのセクション 12.2 「手動によるデスクトップ管理エージェントのインストール」](#)を参照してください。



# Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール

# 41

Linux 版の Novell® ZENworks® 7 デスクトップ管理サービスには、Desktop Management のコンポーネントをアンインストールするためのスクリプトが付属しています。この節ではアンインストール手順について説明します。

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management Services on Linux with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

重要：ワークステーションインベントリコンポーネントをアンインストールする場合は、539 ページの § 章 40 「ワークステーションインベントリのアンインストールまたは再インストール」を参照してください。

---

Linux サーバから ZENworks をアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、su コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 /opt/novell/zenworks/Uninstall\ZENworks\Desktop\Management ディレクトリに移動します。
- 3 「./Uninstall\_ZENworks\Desktop\Management」を実行して、ZENworks 7 デスクトップ管理サービスの Linux 版アンインストールプログラムの最初のページを表示します。

```
=====
Uninstall ZENworks Desktop Management
-----
```

```
About to uninstall...
```

```
ZENworks Desktop Management
```

```
This will remove features installed by InstallAnywhere.It will not
remove files and folders created after the installation.
```

```
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- 4 (Enter) キーを押してアンインストール処理を続行します。  
[Uninstall Options (アンインストールオプション)] 画面が表示されます。

```
=====
Uninstall Options
-----
```

```
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE
DEFAULT:->1- Completely remove all features and components.2-
Choose specific features that were installed by InstallAnywhere.
```

Please choose one of the following options:

- 5 (オプション) 追加入力しないで、すべての機能およびコンポーネントを削除するには、「1」を入力します。
- 6 (オプション) インストールされている特定の機能を選択するには、「2」を入力します。

オプション 2 を選択すると、[Choose Product Feature (製品機能の選択)] 画面が表示されます。

```
=====
Choose Product Features
-----
```

```
ENTER A COMMA_SEPARATED LIST OF NUMBERS REPRESENTING THE FEATURES
YOU WOULD
LIKE TO SELECT, OR DESELECT. TO VIEW A FEATURE'S DESCRIPTION, ENTER
'?<NUMBER>'. PRESS <RETURN> WHEN YOU ARE DONE:
```

- 1- [ ] Inventory Server
- 2- [ ] Remote Management
- 3- [ ] Application Management
- 4- [ ] Inventory Proxy
- 5- [ ] Inventory Database
- 6- [ ] NAL Database
- 7- [ ] Autoworkstation Import/Removal
- 8- [ ] Imaging
- 9- [ ] PXE

Check the features that you want to uninstall. Unchecked features will remain installed.:

- 7 アンインストールするために選択または選択解除する機能を示す番号を入力します。複数の機能を指定する場合は、カンマで区切って入力します。

機能リストの X は、アンインストールする機能として選択されていることを示します。選択されていない機能は、インストールされたままです。

- 8 アンインストールする機能の選択が終了したら、(Enter) キーを押します。

アンインストールの [Summary (サマリ)] 画面が表示されます。たとえば、アプリケーション管理機能をアンインストールすることを選択した場合は、次の画面が表示されます。

```
=====
Summary
-----
```

```
Uninstall Application Management
```

```
->1- Continue
```



ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE  
DEFAULT:

:

**9** (Enter) キーを押してデフォルトを受け入れます。

選択した機能が Linux サーバからアンインストールされます。

---

**重要 :** Linux クラスタから ZENworks 7 Desktop Management サービスを完全に削除するには、次の手順を実行する必要があります。

1. クラスタの共有ディスク / ボリューム上の \zdm ディレクトリのすべてのファイルを削除します。
  2. クラスタのリソースロードスクリプトから `zdmstart` コマンドを削除します。
  3. クラスタのリソースアンロードスクリプトから `zdmstop` コマンドを削除します。
-



# 付録

# IX

『インストールガイド』のこの節では、ZENworks Desktop Management をインストールする際に役立つ詳細情報を紹介します。

- ◆ 561 ページの付録 A「ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い」
- ◆ 571 ページの付録 B「Novell Cluster Services 環境へのインストール」
- ◆ 609 ページの付録 C「ZENworks 7 Desktop Management 用の Identity Manager Bundle 2 Edition の使用方法」
- ◆ 613 ページの付録 D「ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法」
- ◆ 619 ページの付録 E「Novell BorderManager VPN クライアントとの相互運用」
- ◆ 623 ページの付録 F「インストールに関するエラーメッセージ」
- ◆ 663 ページの付録 G「XMLRPC のライセンス契約」
- ◆ 667 ページの付録 H「ドキュメントの更新」



# ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージ の違い

次の表は、更新された Novell® ZENworks™ 7 Desktop Management システムのポリシー構成を示しています。

- ◆ 561 ページのセクション A.1 「コンテナポリシーパッケージの構成」
- ◆ 561 ページのセクション A.2 「サーバポリシーパッケージの構成」
- ◆ 563 ページのセクション A.3 「SLP ポリシーの構成」
- ◆ 563 ページのセクション A.4 「ユーザポリシーパッケージの構成」
- ◆ 567 ページのセクション A.5 「ワークステーションポリシーパッケージの構成」

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

## A.1 コンテナポリシーパッケージの構成

表 A-1 コンテナポリシーパッケージ

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	検索ポリシー	検索ポリシー	[パーティション] オプションの削除。

## A.2 サーバポリシーパッケージの構成

表 A-2 サーバポリシーパッケージ

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部分として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
一般	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
一般	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。
一般	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。
一般	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。
Windows	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部分として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
Windows	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
Windows	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。
Windows	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。
Windows	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。
Windows	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。
NetWare	イメージングサーバポリシー	イメージングサーバポリシー	イメージセーフデータの一部分として配布するため、名前付きサーバと DNS ドメインサフィックスをポリシーに追加。
NetWare	ワークステーションインポート	ワークステーションインポート	変更なし。
NetWare	ワークステーションの削除	ワークステーションの削除	変更なし。
NetWare	zeninvRollupPolicy	ロールアップポリシー (Roll-Up Policy)	名前の変更。複数のツリーで使用するため、サーバの IP/DNS エントリを追加。プロキシサーバ設定も追加。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
NetWare	該当なし	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。 ワークステーションインベントリがインストールされている場合は、インベントリデータベースの場所をサーバ上に指定できます。この設定は、SLP の設定よりも優先されます。
NetWare	該当なし	ディクショナリ更新ポリシー (Dictionary Update Policy)	異なるインベントリサーバへのソフトウェアディクショナリの配布に関する設定が可能。 新しいポリシーです。

## A.3 SLP ポリシーの構成

表 A-3 サービスロケーションポリシーパッケージ (Service Location Policy Package)

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	SMTP ホスト (SMTP Host)	SMTP ホスト (SMTP Host)	変更なし。
一般	SNMP トラップターゲット (SNMP Trap Targets)	SNMP トラップターゲット (SNMP Trap Targets)	変更なし。
一般	該当なし	XML ターゲット (XML Targets)	新しいポリシー。XML ログデータの URL ターゲットを指定。
一般	ZENworks Database	ZENworks Database	データベースの種類と URL の設定が可能。

## A.4 ユーザポリシーパッケージの構成

表 A-4 ユーザポリシーパッケージ

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
一般	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	ダイナミックローカルユーザ	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	NT デスクトップ初期設定	Windows デスクトップ初期設定	名前の変更。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	NT ユーザプリンタ	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	NT ユーザシステムポリシー	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
WinNT-2000 ZfD 4 では [WinNT-2000-XP]	Windows 2000 グループポリシー	Windows 2000 グループポリシー	名前の変更。



ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
Win 9x	95 デスクトップ初期設定	Windows デスクトップ初期設定	名前の変更。
Win 9x	95 ユーザシステムポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	ヘルプデスクポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	リモートコントロールポリシー	削除	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win 9x	拡張可能ユーザポリシー	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
Win 9x	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロールと NAT の機能強化。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	Windows グループポリシー	変更なし。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	ダイナミックローカルユーザ	変更なし。新しいカテゴリ。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
[Win2000 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[Win2000 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[Win2000 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。
[Win2000 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
[Win2000 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Windows グループポリシー	変更なし。
[Windows 2003 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[Windows 2003 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[Windows 2003 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能ユーザポリシー	変更なし。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
[Windows 2003 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Windows デスクトップ初期設定	変更なし。
[Windows 2003 ターミナルサーバ] (新しいタブ)	該当なし	Windows グループポリシー	変更なし。

## A.5 ワークステーションポリシーパッケージの構成

表 A-5 ワークステーションポリシーパッケージ

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
一般	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
一般	ワークステーションイメージングポリシー	ワークステーションイメージングポリシー	変更なし。
一般	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
一般	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP] )	拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP] )	NT クライアント設定	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP] )	NT コンピュータプリンタ	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP] )	NT RAS 環境設定	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	ログイン制限	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	Windows 2000 グループポリシー	Windows グループポリシー	名前の変更。ローカルプラットフォームでのポリシーの妥当性に関する警告メッセージのみを追加。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	ワークステーションイメージングポリシー	場所の移動	このカテゴリから削除。[一般] タブでのみ使用可能。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[WinNT-2000] (タブは ZfD 4 では [WinNT-2000-XP])	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
Win 9x	95 クライアント設定	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	95 コンピュータプリンタ	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	95 コンピュータシステムポリシー	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。
Win 9x	95 RAS 環境設定	削除	このポリシーはまだ有効ですが、ZENworks 7 ConsoleOne スナップインでは設定および表示できません。このポリシーの設定を変更する場合は、ZENworks for Desktops 3.2 または 4.x の ConsoleOne® スナップインを使用する必要があります。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
Win 9x	拡張可能コンピュータポリシー	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
Win 9x	リモートコントロールポリシー	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
Win 9x	ログイン制限	削除	アップグレードされた場合にのみ表示。
Win 9x	ワークステーションイメージングポリシー	場所の移動	このカテゴリから削除。[一般] タブでのみ使用可能。
Win 9x	Workstation Inventory (ワークステーションインベントリ)	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキヤンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキヤン機能の追加。
Win 9x	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
Win 9x	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロールと NAT の機能強化。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキヤンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキヤン機能の追加。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
[WinNT] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。

ポリシーパッケージのタブ名	ZENworks for Desktops 3.2 SP3 のポリシー	ZENworks 7 のポリシー	ZENworks 7 での変更点
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。
[Win2000] (新しいタブ)	該当なし	Windows グループポリシー	名前の変更。ローカルプラットフォームでのポリシーの妥当性に関する警告メッセージのみを追加。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	拡張可能コンピュータポリシー	変更なし。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	リモートコントロールポリシー	チャットの削除。パスワードベースのリモートコントロール、NAT、セッションの暗号化、およびエージェントから開始する接続の機能強化。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	ワークステーションインベントリポリシー	ハードウェアおよびソフトウェアのスキャンに関する設定と、カスタマイズ可能なソフトウェアスキャン機能の追加。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	ZENworks for Desktops 管理エージェントポリシー	新しいポリシー。管理エージェントの設定が可能。
[WinXP] (新しいタブ)	該当なし	Novell iPrint ポリシー	新しいポリシー。iPrint エージェントの設定が可能。

# Novell Cluster Services 環境へのインストール

# B

この節では、Novell® ZENworks® Desktop Management のコンポーネントを Novell Cluster Services™ 環境にインストールおよび設定する際の操作を理解するために役立つ情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- ◆ 571 ページのセクション B.1 「概要」
- ◆ 572 ページのセクション B.2 「インストールの前に」
- ◆ 572 ページのセクション B.3 「クラスタ環境の準備」
- ◆ 573 ページのセクション B.4 「Desktop Management コンポーネントのインストール」
- ◆ 583 ページのセクション B.5 「ワークステーションイメージングの設定」
- ◆ 586 ページのセクション B.6 「ワークステーションインベントリの設定」
- ◆ 586 ページのセクション B.7 「クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール」
- ◆ 593 ページのセクション B.8 「クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール」
- ◆ 594 ページのセクション B.9 「Novell Cluster Services 環境で使用するための ZENworks 7 ワークステーションイメージングの設定」
- ◆ 595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

---

## B.1 概要

ZENworks 7 Desktop Management のほとんどのコンポーネントは、「クラスタセーフ」と考えられています。これは、ZENworks 7 Desktop Management のサービスを Novell Cluster Services 環境にインストールすることはできませんが、クラスタボリュームがダウンした場合、そのクラスタがフェールオーバーしている間はサービスが中断されることを意味しません。

フェールオーバーが実行されると、Desktop Management のほとんどのサービスは復元されますが、単一のリソース（ポリシーファイルがコピーされているサーバ）に依存するアプリケーション管理と一部のグループポリシーは、リソースが有効化されるのを待機中にタイムアウトになる可能性があります。次のログイン時、またはスケジュールされたイベントが発生してファイルリソースが再度有効になるまで、そのポリシーは適用されません。

Novell Cluster Services 環境への ZENworks 7 Middle Tier Server のインストールはサポートされていません。

ZENworks 7 Desktop Management は、Windows サーバ上でのクラスタリングはサポートしていません。

---

注 : ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 は、Novell Open Enterprise Server (OES) Linux サーバ上のクラスタリングをサポートします。詳細については、[595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」](#)を参照してください。

---

Novell Cluster Services の詳細については、[NetWare 6 用の Novell Cluster Services のマニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/ncs6p/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/ncs6p/index.html) または [NetWare 6.5 用の Novell Cluster Services のマニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/ncs65/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/ncs65/index.html) で、Novell Cluster Services のマニュアルを参照してください。

## B.2 インストールの前に

Novell ZENworks 7 Desktop Management を Novell Cluster Services 環境にインストールおよび設定する前に、各製品のハードウェア要件およびソフトウェア要件がすべて満たされていることを確認します。

- ❑ Novell Cluster Services をインストールする 2 つ以上の NetWare 6 または NetWare 6.5 サーバ(「ノード」とも呼ばれます)
- ❑ クラスタの一部になる NetWare 6 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.6
- ❑ クラスタの一部になる NetWare 6.5 サーバにインストールされ稼動している Novell Cluster Services 1.7
- ❑ クラスタ対応が指定された作成済みクラスタボリューム (仮想サーバまたはクラスタサーバと呼ばれます)

クラスタリングの詳細については、[Novell Cluster Services のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## B.3 クラスタ環境の準備

Desktop Management のクラスタノードを準備するには

- 1 各ノードを ConsoleOne® 1.3.6 以降にアップグレードします。

ConsoleOne 1.3.6 (またはそれ以降) は、*Novell ZENworks 7 Companion 1 CD* (または *Novell ZENworks 7 with Support Pack 1 Companion 1 CD*) に含まれています。Desktop Management を正しく機能させるには、ConsoleOne 1.3.6 以降をクラスタノードごとにインストールする必要があります。詳細については、[76 ページのセクション 8.2 「ConsoleOne のインストール」](#)を参照してください。

- 2 各ノードの Java をアンロードします。

Desktop Management のインストールプログラムでエラーメッセージが表示されないようにするには、サーバ(クラスタノード)で実行されている Java をアンロードしてから、Desktop Management をインストールします。そのためには、サービスを提供する各ノードのシステムコンソールにアクセスする必要があります。各ノードのシステムコンソールで、次のコマンドを入力します。

```
unload java
```



- 3 ワークステーションに Novell Client™ をインストールします。適切なクライアントのインストールの詳細については、『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の「**Novell Client の理解**」を参照してください。

## B.4 Desktop Management コンポーネントのインストール

Novell Cluster Services で構成されたネットワークに ZENworks Desktop Management をインストールするには

- 1 適切な Novell Client で設定されたネットワーク上のワークステーションから、クラスターが存在するディレクトリツリーに管理者としてログインします。

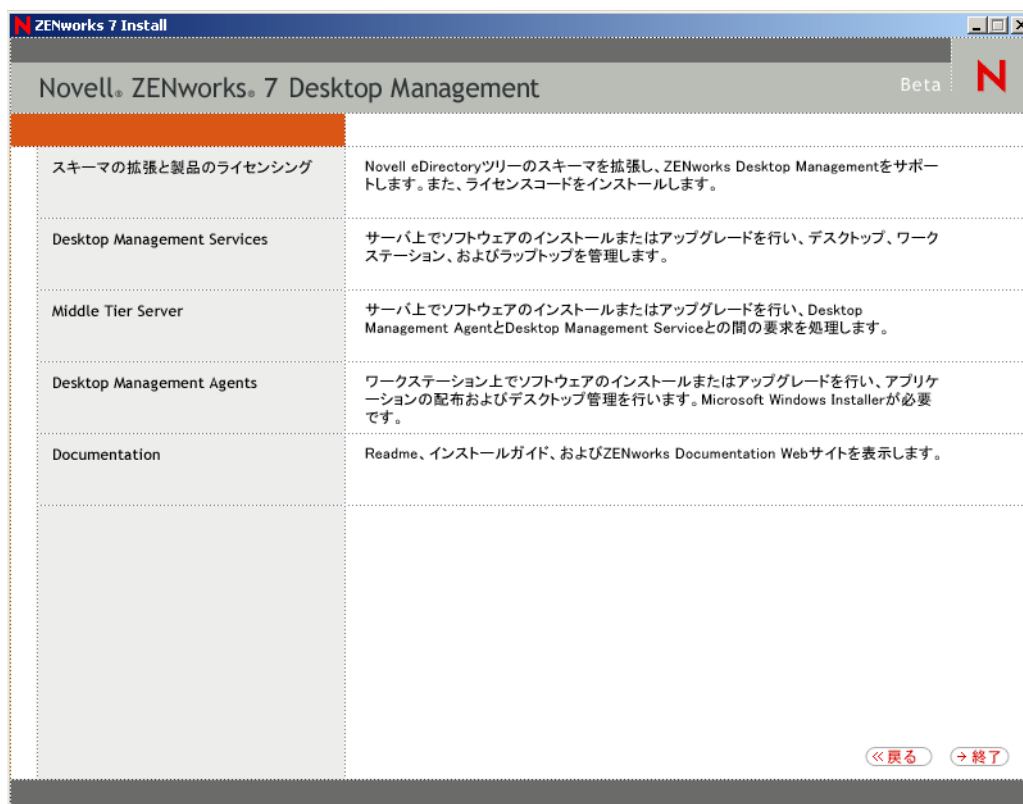
**重要：**ZENworks Desktop Management のインストールプログラムを実行している間は、このワークステーションおよび他のすべての管理ワークステーションで ConsoleOne を実行しないようにしてください。

- 2 Windows 2000/XP ワークステーション (または Windows 2000/2003 サーバ) を選択して、Desktop Management Server のインストールプログラムを実行します。このワークステーションまたはサーバは、インストールするワークステーションの要件を満たしている必要があります。詳細については、37 ページの「**インストールを実行するワークステーションの前提条件**」を参照してください。
- 3 インストールするワークステーションで、*Novell ZENworks 7 Desktop Management CD* を挿入します。

winsetup.exe プログラムが自動的に実行されます。プログラムが自動的に実行されない場合は、CD のルートから手動で実行します。

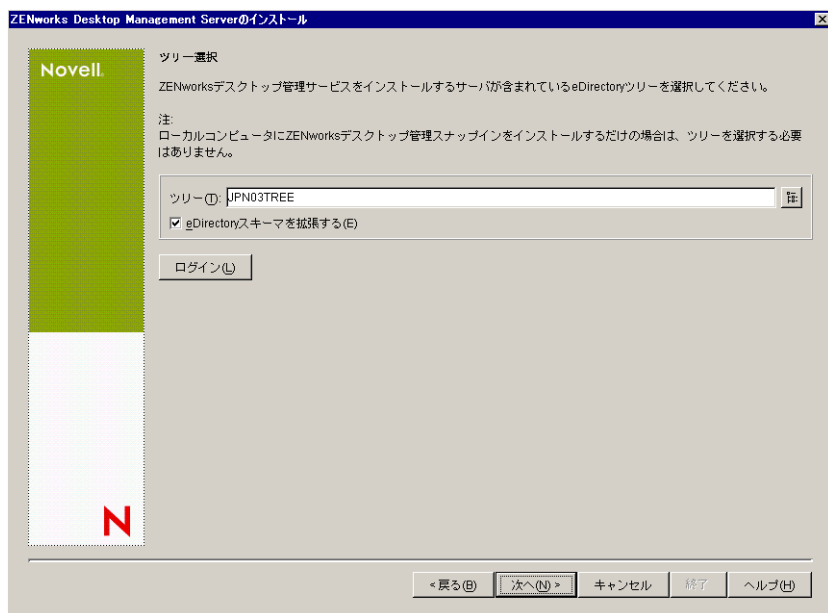
Novell. ZENworks. 7		Beta	N
Desktop Management	デスクトップイメージング、構成、アプリケーションの配布、インベントリおよびリモートコントロールを自動化します。		
Server Management	サーバの構成、インベントリ、およびアプリケーションの配布、サーバへのパッチ適用を自動化します。		
Handheld Management	Palm OS、Windows CE (Pocket PCを含む)、およびRIM BlackBerryデバイスの管理を自動化します。		
Data Management	ユーザのファイル管理を自動化して、いつでもどこでも確実にファイルを利用できるようにします。		
Patch Management	ユーザの環境を守るために、パッチの脆弱性評価と配備を自動化します。		
ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージ、カスタマイズ、および品質保証を自動化して、信頼できる企業向けアプリケーションを提供します。		
Personality Migration	デスクトップ設定、データ、およびアプリケーションの移行を自動化して、システムのアップグレードおよび復元を行います。		
Companion プログラムおよびファイル	ZENworksで使用する補助プログラムおよびファイル群		
Documentation	Readme、入門ガイド、およびZENworks Documentation Webサイトを表示します。		
			→ 終了

- 4 [デスクトップ管理] をクリックして、さまざまな言語でインストールするオプションがあるページを表示します。
- 5 [日本語] をクリックし、Desktop Management インストールオプションのページを表示します。



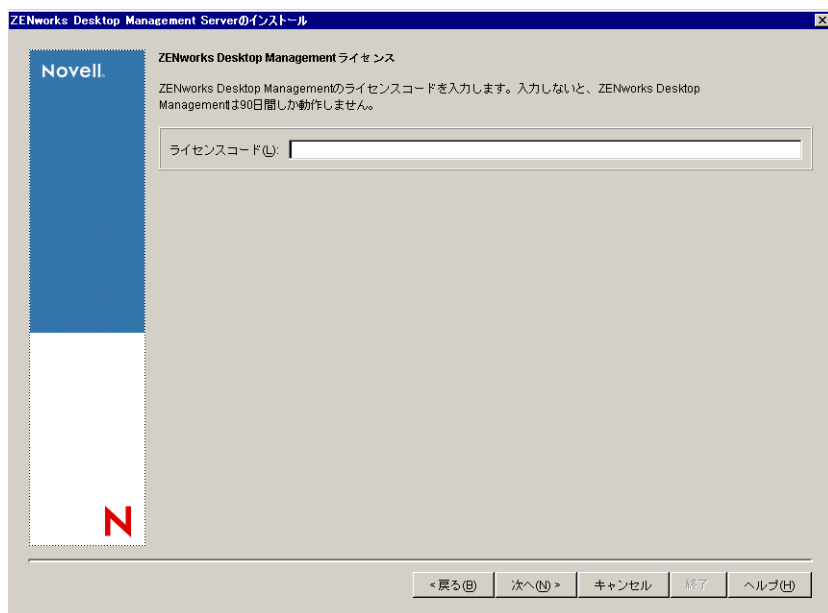
- 6 最初のインストールページで、インストールプログラムの実行に関する詳細を読み、[次へ] をクリックします。
- 7 ライセンス契約書を読み、条項に同意する場合は [受諾] をクリックします。  
使用許諾契約の条項に同意されない場合は、ソフトウェアをインストールしないでください。
- 8 [インストール要件] ページで、Desktop Management Server のインストール要件の一覧を読み、インストール先のサーバが要件を満たしていることを確認して [次へ] をクリックします。
- 9 [ツリー選択] ページで、Desktop Management Server をインストールする Novell eDirectory™ ツリーの名前を入力または参照します。このインストールのスキーマをまだ拡張していない場合は (85 ページのステップ 1 を参照)、[eDirectory スキーマの拡張] を選択し、ZENworks Desktop Management Server をインストールするツリーのスキーマを拡張して、[次へ] をクリックします。

注：ZENworks Desktop Management Server を複数のツリーに同時にインストールすることはできません。



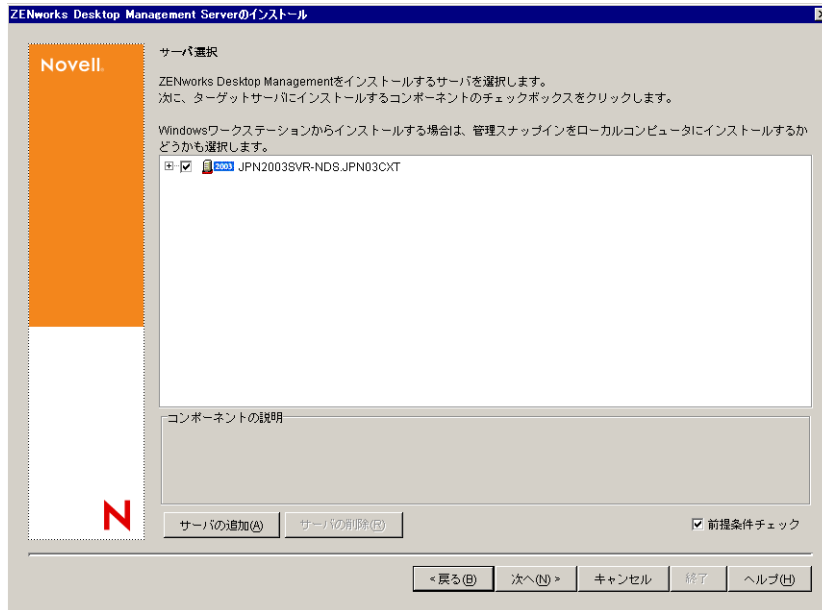
ツリーでスキーマを拡張する必要があるのは1度だけです。[ログイン] ボタンをクリックし、適切な権限を持つユーザ ID とパスワードを入力してログインすれば、ツリーに認証されます。

- 10 [ZENworks Desktop Management ライセンス] ページで、SmartCert 製品登録パッケージの一部として電子メールで送信されたライセンスコードを指定します。次に [終了] をクリックします。

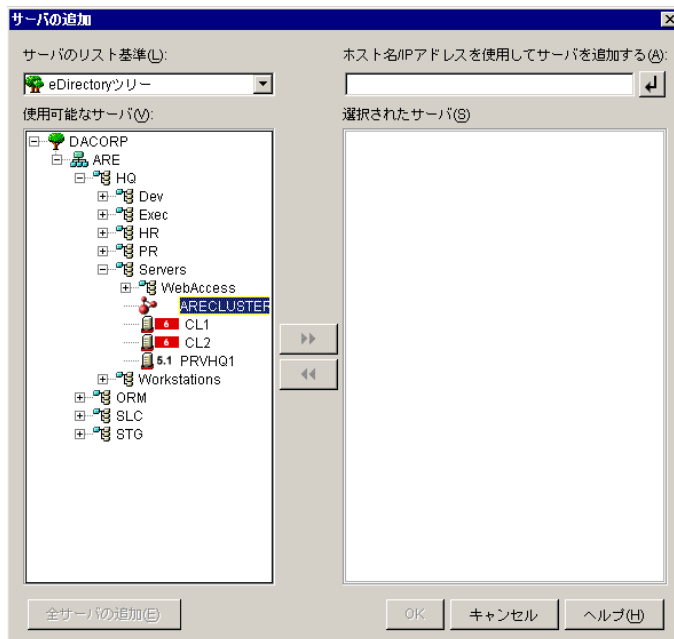


このページでライセンスコードを入力しなければ、この ZENworks Desktop Management のインストールは評価版と見なされます。評価用にインストールした場合は、製品のライセンスを取得するように通知するメッセージが定期的に表示されません。90 日経つと、評価版は機能しなくなります。

- 11 [サーバ選択] ページで、[サーバの追加] をクリックし、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールする仮想サーバオブジェクトを参照します。

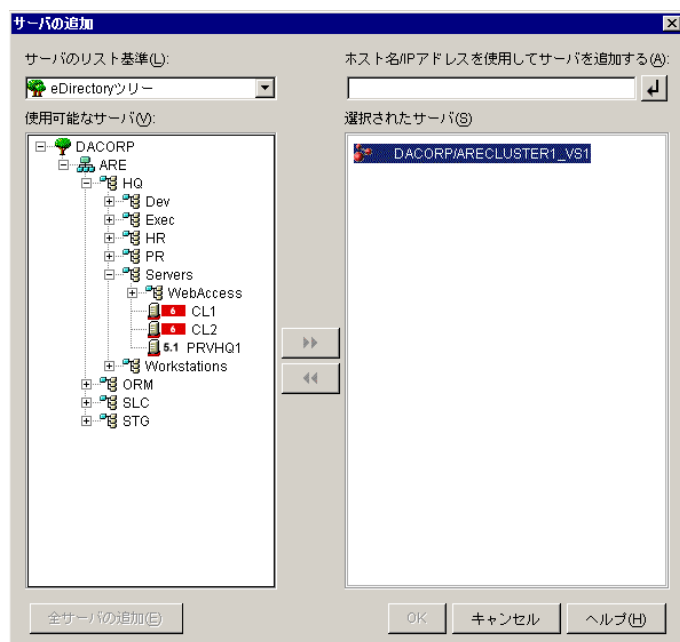


- 12 [サーバの追加] ダイアログボックスでは、eDirectory のツリー名ごとに仮想サーバを一覧表示できます。前に選択したツリーからのみ仮想サーバを選択できます。



仮想サーバオブジェクトにインストールするには、[eDirectory ツリー] を選択し、インストール先の仮想サーバオブジェクトの名前を参照してクリックします。右方向

矢印ボタンをクリックして、選択した仮想サーバオブジェクトを [選択されたサーバ] ペインに移動し、[OK] をクリックします。

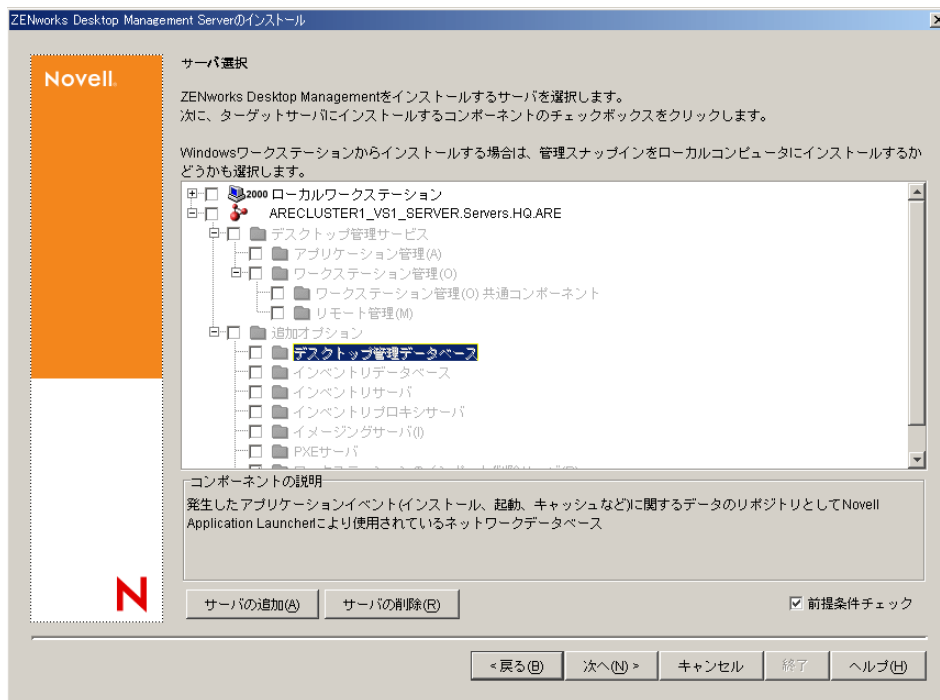


---

**重要:** 仮想サーバオブジェクトを選択する場合は、オブジェクトが属する個々のクラスタノードサーバは選択しないようにしてください。仮想サーバオブジェクトは、インストールプログラムによって検出されます。クラスタにインストールする際は、必要に応じてクラスタ化されていないサーバも選択できます。

---

- 13 この [サーバ選択] ページで、クラスタにインストールするデスクトップ管理サービスを指定できます。次に、[次へ] をクリックして、設定を保存します。



次のサービスがリストに表示されます。

[ローカルワークステーション] : ConsoleOne 1.3.6 のインストールプログラムでは、ConsoleOne ファイルがローカルハードドライブにインストールされますが、デスクトップ管理サービススナップインはインストールされません。

必要に応じて、ローカルワークステーション名の下にある [デスクトップ管理サービススナップイン] オプションを選択すると、ローカルワークステーションにデスクトップ管理サービススナップインをインストールできます。スナップインを追加するには、ConsoleOne をワークステーションにインストールしておく必要があります。

[デスクトップ管理サービス] : デスクトップ管理サービス (「Desktop Management Server」は総称です) は、ワークステーションのアプリケーションとポリシーを設定し配布できるファイルおよびプログラムであり、一般的に使用されます。デスクトップ管理サービスを使用すると、Windows のアプリケーション、ユーザとワークステーションの設定、プロセス、および動作を自動的に管理できます。

- [アプリケーション管理] : アプリケーション、更新、およびパッチの配布や修復、トラッキングの自動化を有効にするソフトウェアをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [ワークステーション管理共通コンポーネント] : ユーザをワークステーションおよびネットワークに対して認証したり、環境設定情報を eDirectory との間で受信するために使用するワークステーション常駐モジュールをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- [リモート管理] : ZENworks 7 Desktop Management は、仮想サーバオブジェクトへのこのコンポーネントのインストールをサポートしていません。

[追加オプション] : デスクトップ管理サービスの展開をカスタマイズする場合は、その目的に応じて次の中からサービスを選択します。

- ◆ [デスクトップ管理データベース] : 発生したアプリケーションのイベント (インストール、起動、キャッシュなど) に関するデータのリポジトリとして、Novell Application Launcher™ で使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [インベントリデータベース] : インベントリ対象ワークステーションから収集したハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報のリポジトリとして、ワークステーションインベントリで使用するネットワークデータベースをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**重要** : Inventory データベースを既存の Oracle または MS SQL のセットアップと共に使用する場合は、Server Inventory のインストール時にこのオプションを選択しないでください。『*Novell ZENworks 7 Desktop Management 管理ガイド*』の手順に従います。

---

- ◆ [インベントリサーバ] : 管理されたワークステーションのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリ情報の収集と表示を有効にするファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のサーバインベントリコンポーネントがインストールされている場合、そのコンポーネントを ZENworks 7 Server Management にアップグレードする必要があります。Server Management のアップグレードに関する詳細については、『*Novell ZENworks 7 Server Management インストールガイド*』の「アップグレード」にある「サーバインベントリ」を参照してください。

- ◆ [インベントリプロキシサーバ] : このオプションを選択すると、ネットワークファイアウォールを経由してインベントリスキャンデータをインベントリサーバにロールアップするためのプロキシサーバがインストールされます。選択したサーバに、ZENworks for Servers 3.0.2 以前のインベントリコンポーネントがインストールされていないことを確認してください。
- ◆ [イメージングサーバ] : ワークステーションにワークステーションイメージファイルを作成、保存、送信、または復元するために使用する Linux イメージング環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。
- ◆ [PXE サーバ] : Preboot Execution Environment(PXE) が有効なワークステーションと通信し、そのワークステーションにイメージングタスクを送信できるようにするために、サーバで使用する PXE プロトコルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。

---

**注** : 起動前サービス (Preboot Services) をインストールすると、インストールされるコンポーネントにプロキシ DHCP サーバが含まれます。標準の DHCP サーバが置かれているサーバ上にプロキシ DHCP サーバをインストールする場合は、DHCP サービスでオプションタグ 60 を設定する必要があります。

---

- ◆ [ワークステーションのインポート / 削除サーバ] : ワークステーションオブジェクトを eDirectory に追加する (すでに追加されている場合は削除する) ファイルおよびプログラムをインストールする場合は、このオプションを選択します。ワークステーションオブジェクトは、アプリケーションまたはコンピュータの設定を受信するために eDirectory で管理されます。
- ◆ [デスクトップ管理サービススナップイン] : デスクトップ管理ツールおよびユーティリティを起動し、eDirectory でデスクトップ管理オブジェクトのプロパ

ティページを表示して、これらのオブジェクトを参照したり設定できるように、**ConsoleOne** に追加機能をインストールする場合は、このオプションを選択します。

アップグレード時や ZENworks コンポーネントの追加時など、最初のインストール以降再度インストールプログラムを実行する場合は、リストのチェックボックスの一部が、選択されている場合でもグレーになっている場合があります。これは、この一般的なカテゴリのコンポーネントが前回のインストールで選択されておらず、今回インストールできることを示しています。階層構造を展開してカテゴリ内のコンポーネントを一覧表示し、該当するコンポーネントのチェックボックスを選択してインストールできます。

また、以降のインストールで、コンポーネント階層構造の項目とラベルテキストがグレー表示される場合があります。これは、このコンポーネントが以前にインストールされたことを示しています。コンポーネントが再インストールされないようにそのコンポーネントの選択を解除するには、項目をダブルクリックする必要があります。選択を解除しても、その項目がアンインストールされることはありません。チェックボックスを選択すると、インストールプログラムによって古いコンポーネントが上書きされます。

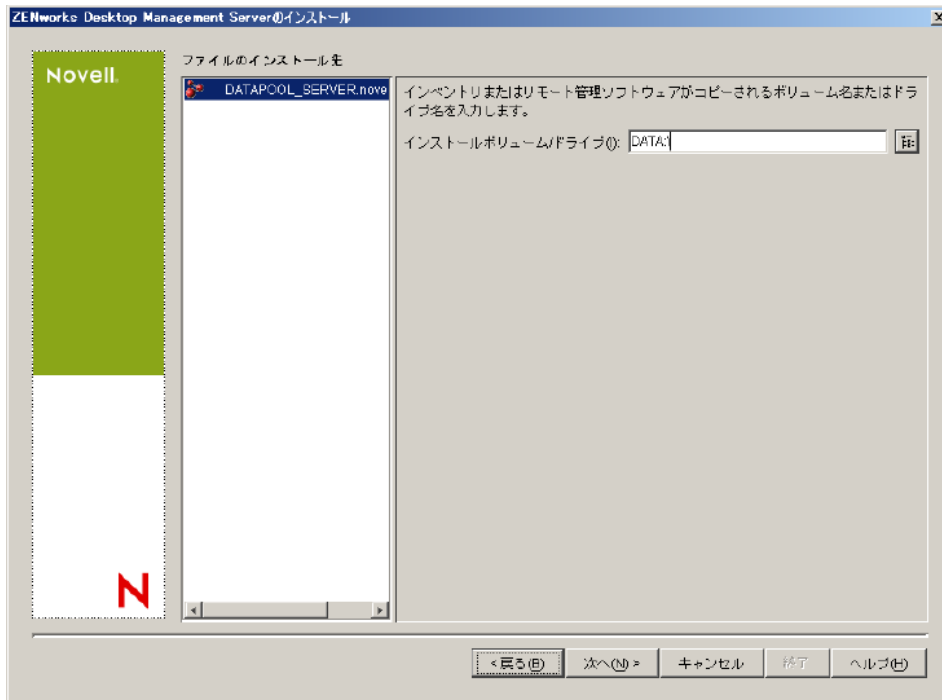
- 14** (オプション) デフォルトでは、[前提条件チェック] チェックボックスが選択されています。インストールプログラムで、仮想サーバオブジェクトが ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール要件を満たしているかどうかを確認する場合は、選択されたままにします。インストールプログラムでは、オブジェクトのネットワークオペレーティングシステムのバージョン (必要なサービスまたはサポートパックを含む)、インストールするワークステーション上の **Novell Client (4.9 SP1)** の有無とバージョン、**ConsoleOne (1.3.6)** の有無とバージョン、および仮想サーバオブジェクトの **JVM (1.4.1)** のバージョンをチェックします。

サーバのオペレーティングシステムとサポート / サービスパックが適切なバージョンでない場合、警告メッセージが表示されますが、インストールは続行できます。他の要件を満たされていない場合には警告が表示され、必要なソフトウェアがインストールされて検出されるまでインストールは続行されません。

- 15** [次へ] をクリックします。



- 16 (オプション) ワークステーションインベントリまたはリモート管理のインストールを選択すると、[ファイルのインストール先] ページが表示されます。



- 16a [選択されたサーバ] リストから1つまたは複数のターゲットサーバを選択し、ワークステーションインベントリ、またはリモート管理の各ファイルをインストールするクラスタ共有ボリュームを参照するか入力します。

ZENworks 7 のワークステーションインベントリまたはリモート管理コンポーネントの以前のインストールがコンピュータで検出されると、既存のパスが淡色表示されます。今回のインストールでは、すべてのファイルがその既存のパスにインストールされます。

- 16b [次へ] をクリックします。

- 17 (オプション) インベントリデータベースまたはデスクトップ管理データベースのインストールを選択すると、[Database Location Installation(データベースロケーションのインストール)] ページが表示されます。

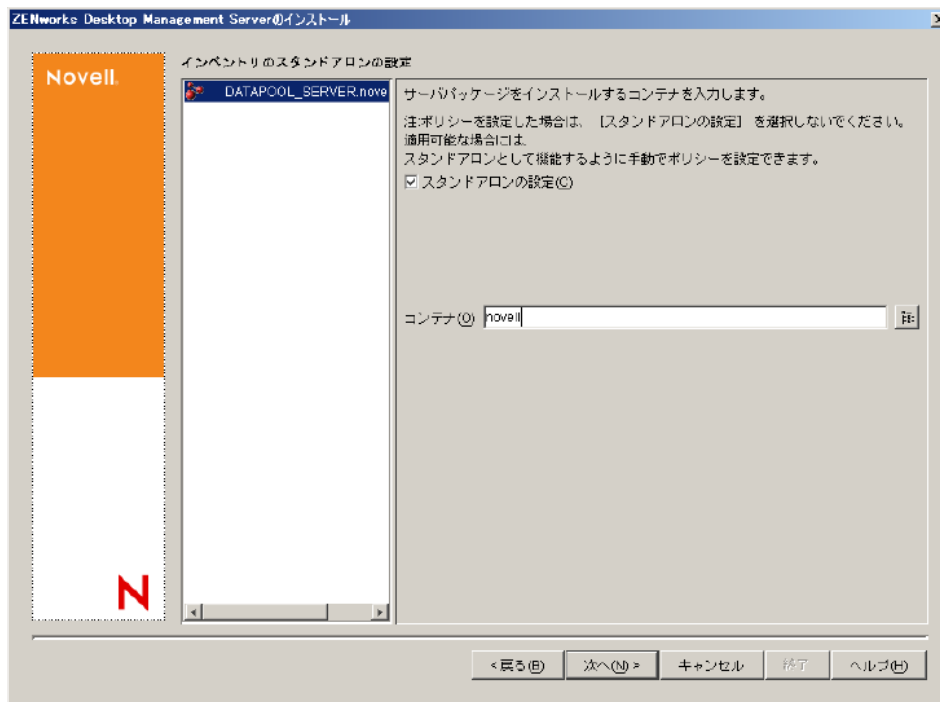
- 17a 左のペインで、以前に指定した NetWare クラスタサーバを選択します。

- 17b [データベースへのパス] フィールドで、データベースファイルをインストールするクラスタ共有ボリュームの名前を参照して選択するか、指定します。

データベースサーバごとに別のボリュームを指定できます。たとえば、NetWare クラスタサーバごとにボリューム名が異なっていても構いません。ただし、同一のサーバにデータベースファイルの複数のインスタンスを設定することはできません。各サーバで実行できるデータベースエンジンのインスタンスは1つだけです。NetWare クラスタサーバの場合、このパスに2バイト文字を指定することはできません。

- 17c [次へ] をクリックします。

- 18 (オプション) 同じ NetWare クラスタサーバへのインベントリサーバとインベントリデータベースのインストールを選択すると、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページが表示されます。



インストールプログラムで、サーバパッケージ内にサーバパッケージおよびデータベースの場所ポリシーを自動的に作成し、サーバでインベントリサービスを開始する場合は、[インベントリのスタンドアロンの設定] ページで次の設定を行います。

**18a** [スタンドアロンの設定] チェックボックスを選択します。

**18b** データベースの場所に関して共通の検索ポリシーを参照させるサーバを選択します。

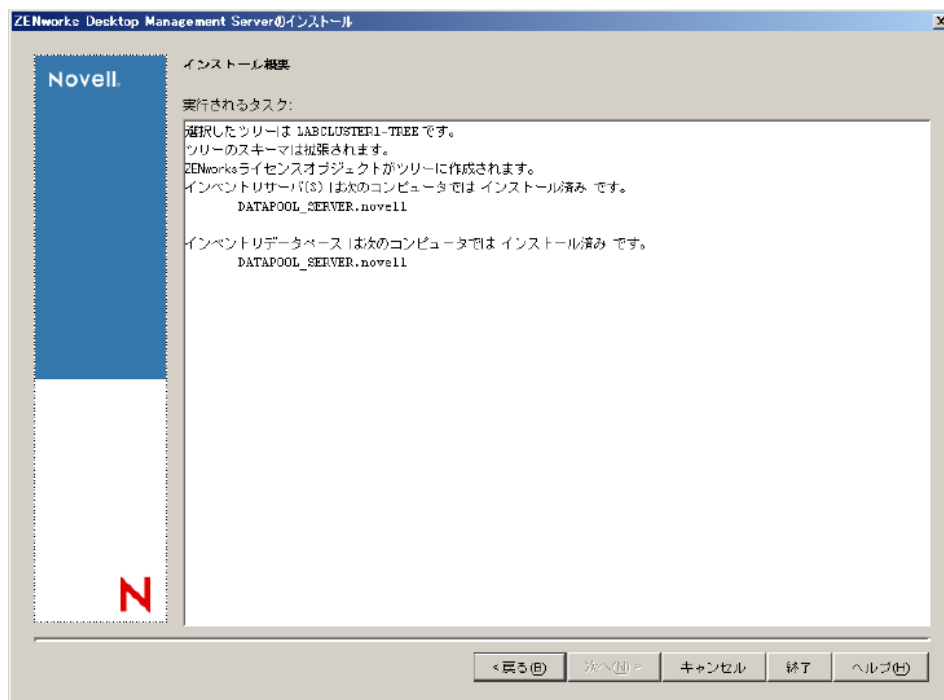
**18c** このポリシーを含むサーバパッケージを作成、設定するツリーコンテナの名前を入力するか、参照して選択します。

**18d** [次へ] をクリックします。

- 19 (オプション) [インベントリプロキシサービスの設定] ページで、XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すためのポートを持つ 1 つまたは複数の NetWare クラスタサーバを選択します。次に、[プロキシポート] フィールドで、使用するポートを指定します。

すべてのサーバを選択して共通のポート番号を設定するか、サーバを個別に選択してサーバごとに異なるポート番号を定義することができます。デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。

20 [次へ] をクリックして [概要] ページを表示します。



21 [概要] ページで、インストールするコンポーネントとパーツのリストを見直します。概要が正しければ、[完了] をクリックしてインストールプログラムを起動します。

22 ConsoleOne で、Desktop Management Server ソフトウェアをインストールしたツリーを選択し、[LDAP グループ] を右クリックします。次に、[プロパティ]、[一般] の順にクリックし、[クリアテキストパスワードを許可] を選択します。

ConsoleOne 1.3.6 を使用している場合、ZENworks Middle Tier Server の認証ドメインとして機能する各サーバの LDAP グループオブジェクトで、[TLS にパスワードの単純なバインドを要求する] の選択が解除されている必要があります。Desktop Management Server のインストール後にこのパラメータを設定する場合は、設定の変更後に ZENworks Middle Tier Server を必ずリブートしてください。

Active Directory ドメイン内の Windows サーバにインストールする場合、Active Directory ではポート 389 と 636 を使用するため、認証ドメインとして使用するサーバの LDAP グループオブジェクトを代替ポート番号を使用するように設定します。

ZENworks Middle Tier Server をすでにインストールしている場合は、その Middle Tier Server をリセットして、Desktop Management Server で LDAP クリアテキストパスワードの変更を認識させる必要があります。この操作は、サーバを再起動することで実行できます。

## B.5 ワークステーションイメージングの設定

この節では、次のトピックについて説明します。

- ◆ 584 ページのセクション B.5.1 「Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージングの設定」
- ◆ 584 ページのセクション B.5.2 「Novell Cluster Services 環境でのマルチキャストに関する問題」

- ◆ 584 ページのセクション B.5.3 「Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージング起動前サービスの設定」

## B.5.1 Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージングの設定

次の手順では、ワークステーションイメージングがクラスタ環境で動作するよう設定するために必要な設定情報を入力します。

- 1 アンロードスクリプトの仮想サーバオブジェクトを修正します。
  - 1a ConsoleOne でクラスタオブジェクトを開き、NWCS のボリュームリソースを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
  - 1b [アンロード] ページの [スクリプト] テキストボックスに「`unload imgserv <<y`」と入力し、[適用] をクリックします。
  - 1c [クラスタの状態] ページで、オフラインにするリソースボリュームを選択して、[オフライン] をクリックします。次に、同じリソースボリュームを再度選択して、[オンライン] をクリックします。この手順で、イメージングサーバが最初から起動します。
- 2 `shared_cluster_volume:\system` の `zfdstop.ncf` ファイルを編集して、次の行をコメント化します。

```
Unload imgserv
```

## B.5.2 Novell Cluster Services 環境でのマルチキャストに関する問題

イメージングサーバコンソール (`imgserv.nlm`) をホストしている仮想サーバがフェールオーバーすると、`imgserv.nlm` で手動で設定したイメージングのマルチキャストセッションは失われます。この問題は、これらのマルチキャストセッションを再度作成し、プロセスを手動で再スタートする方法でのみ解決できます。

## B.5.3 Novell Cluster Services 環境で使用するためのワークステーションイメージング起動前サービスの設定

以前は、ZENworks Desktop Management では、特に ZENworks 起動前サービス (PXE) と組み合わせて使用する場合など、Novell Cluster Services (NCS) 環境でのワークステーションイメージングコンポーネントはフルサポートされていませんでした。しかし、ZENworks 7 Desktop Management のリリースから、Novell Cluster Services 1.7.2 以降の環境でワークステーションイメージングの起動前サービスを使用できるようになりました。

Novell Cluster Service 1.7.2 以降の環境で ZENworks 7 ワークステーションイメージングと PXE をインストールして使用するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks 7 のインストールに必要な前提条件がすべて満たされていることを確認します。詳細については、35 ページのパート II 「準備」を参照してください。
- 2 Novell Cluster Services 環境で ZENworks 7 Desktop Management をインストールします。アップグレード (ZENworks 6.5 から ZENworks 7 へのアップグレード) の場合は、

ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムで、以前インストールされていなかった新しいコンポーネントを選択してインストールできます。

- 3 元のバージョンの ZENworks 7 Desktop Management をインストールした同じサーバに ZENworks 7 Desktop Management をインストールします。
- 4 仮想サーバシステムディレクトリで、`dts.ini` ファイルを検索します。例：`cvol:system/dts.ini`。
- 5 ファイルエディタで `dts.ini` ファイルを開いて、次の行の IP 設定を変更します。

```
TransactionServerClusterIP=IP_Address
```

IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。この行がファイル内にはない場合は、追加する必要があります。

- 6 編集した `dts.ini` ファイルを保存します。
- 7 同じシステムディレクトリにある `tftp.ini` ファイルを検索します。
- 8 ファイルエディタで `tftp.ini` ファイルを開いて、次の行の IP 設定を変更します。

```
IPADDRESS=IP_Address
```

IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

- 9 編集した `tftp.ini` ファイルを保存します。
- 10 同じシステムディレクトリにある `pdhcp.ini` ファイルを検索します。
- 11 ファイルエディタで `pdhcp.ini` ファイルを開いて、次の行の IP アドレスを変更します。

```
TRANSACTION_SERVER_IP=IP_Address  
PDHCP_Server_IP=IP_Address
```

この 2 つの行の IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

Novell Cluster Services 1.7.2 では、`pdhcp.ini` ファイルに次の行も含まれています。

```
TFTP_SERVER_IP=IP_Address
```

この IP 変数も、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

- 12 編集した `pdhcp.ini` ファイルを保存します。
- 13 クラスタ内の各ノード（サーバ）の `/sys:system` に `dts.ini`、`tftp.ini`、および `pdhcp.ini` をコピーします。
- 14 リソースをオフラインにし、オンラインに戻して ZENworks サービスをリロードします。

## B.6 ワークステーションインベントリの設定

ZENworks 7 SP1 デスクトップ管理サービスのインストールが終了したら、ワークステーションインベントリがクラスタ環境で動作するよう設定する必要があります。必要な設定手順を次に示します。

- 1 インベントリデータベースオブジェクトを設定します。Desktop Management のインストール時に Sybase\* を選択した場合、インストールプログラムはデータベースオブジェクト (Inventory database\_server\_name) を作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。ステップ 1a とステップ 1b を省略してください。Oracle または MSSQL を使用する場合は、ステップ 1a に進みます。
  - 1a Oracle または MS SQL でインベントリデータベースを管理する場合は、データベースオブジェクトを作成してプロパティを設定してあることを確認します。詳細については、367 ページのセクション 27.1 「NetWare サーバでのインベントリデータベースオブジェクトの設定」を参照してください。
  - 1b データベースオブジェクトをクラスタ環境用に設定するには、ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ]、[ZENworks データベース] の順にクリックし、仮想サーバの DN (NCP™ サーバオブジェクト) を参照して選択するか、仮想サーバの IP アドレスを指定して、[OK] をクリックします。
- 2 インストール時にスタンドアロン設定を選択しなかった場合は、データベースの場所ポリシーを作成する際、Inventory database\_virtual\_server\_name にインベントリデータベースを設定します。
- 3 ワークステーションインベントリポリシーの作成時に、インベントリサービスオブジェクト DN を Inventory Service\_virtual\_server\_name に設定します。
- 4 すべてのロールバックポリシーを設定するには、クラスタサービスのインベントリサービスオブジェクト (Inventory Service\_virtual\_server\_name) を選択します。

## B.7 クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストール

ZENworks 7 Desktop Management SP1 のワークステーションインベントリコンポーネントを自動でアンインストールすることはできません。インベントリサーバ、Sybase 上のインベントリデータベース、Novell eDirectory オブジェクト、および ConsoleOne ファイルを手動で削除する必要があります。

---

注：インベントリデータベースが Oracle または MS SQL にマウントされている場合は、Oracle または MS SQL によって推奨されているアンインストール手順に従ってください。

---

ワークステーションインベントリコンポーネントがインストールされているすべてのサーバおよびワークステーションから、オブジェクトとファイルを削除する必要があります。

インベントリが企業内に展開されている場合は、まずすべてのリーフサーバをアンインストールしてから、中間サーバ、ルートサーバの順にアンインストールします。

ワークステーションインベントリをアンインストールする前に、必ずルートサーバ内のインベントリデータベースのバックアップを作成し、保存しておいてください。

ワークステーションインベントリを手動でアンインストールするには、次の手順に従います。

1. 587 ページのセクション B.7.1 「ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール」
2. 588 ページのセクション B.7.2 「データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール」
3. 588 ページのセクション B.7.3 「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」
4. 589 ページのセクション B.7.4 「Sybase エンジンのアンインストール」
5. 589 ページのセクション B.7.5 「インベントリサーバソフトウェアのアンインストール」
6. 591 ページのセクション B.7.6 「XML プロキシサーバのアンインストール」
7. 592 ページのセクション B.7.7 「ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール」
8. 593 ページのセクション B.7.8 「クラスタスクリプトへの変更の適用」

## B.7.1 ワークステーションインベントリ eDirectory オブジェクトのアンインストール

- 1 Netware インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで StopSer \* と入力し、インベントリサービスを停止します。
- 2 ZENworks データベースポリシーが有効になっている場合は、無効にします。
  - 2a ConsoleOne で、SLP オブジェクトのプロパティパッケージを右クリックし、[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックします。
  - 2b [ZENworks データベース] ポリシーを選択して [プロパティ] をクリックし、[インベントリ管理] タブをクリックします。
  - 2c 指定したインベントリデータベースのエントリを削除し、[OK] をクリックします。

---

**重要 :** ZENworks データベースポリシーが複数のインベントリサーバで使用されている場合、それらのインベントリサーバをアンインストールしてからこの手順を実行する必要があります。

---

- 3 ワークステーションインベントリポリシーを無効にします。
  - 3a ConsoleOne で、ワークステーションパッケージオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
  - 3b [ポリシー] をクリックし、適切なオペレーティングシステムのサブオプションを選択します。
  - 3c ワークステーションインベントリポリシーが有効になっている場合は、ポリシーを選択して [リセット] ボタンをクリックし、[はい] をクリックします。
  - 3d ワークステーションインベントリポリシーの選択を解除します。
  - 3e [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

---

**重要：**複数のオペレーティングシステムにワークステーションインベントリポリシーを設定している場合は、[ポリシー] タブで該当するオペレーティングシステムのサブオプションを選択し、この手順を繰り返します。

---

- 4 ロールアップポリシーとディクショナリ更新ポリシーが設定されている場合は、これらのポリシーを無効にします。
  - 4a ConsoleOne で、サーバパッケージを含むコンテナを検索し、サーバパッケージを右クリックします。[プロパティ]、[ポリシー] の順にクリックし、[NetWare] サブオプションをクリックします。
  - 4b ロールアップポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
  - 4c ロールアップポリシーの選択を解除します。
  - 4d ディクショナリ更新ポリシーを選択し、[リセット] ボタンをクリックして、[はい] をクリックします。
  - 4e ディクショナリ更新ポリシーの選択を解除します。
  - 4f [適用]、[閉じる] の順にクリックします。
- 5 ConsoleOne で、Inventory Service オブジェクトを含むコンテナを検索し、Inventory Service オブジェクトを削除します。

## B.7.2 データベース eDirectory オブジェクトのアンインストール

ConsoleOne で、インベントリデータベースオブジェクトを含むコンテナを検索し、インベントリデータベースオブジェクトを削除します。

## B.7.3 Sybase インベントリデータベースのアンインストール

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 2 すべてのクラスタノードで `sys:\system\mgmt dbs.ncf` から `database_path\mgmt db.db` エントリを削除します。

---

**重要：**その他のデータベースパスは削除しないようにします。

---

- 3 任意のクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` の `INVDBPATH` キーの値をメモします。
- 4 `INVDBPATH` キーで指定された値から、すべてのクラスタノードで `mgmt db.log` を含むインベントリデータベースファイル (`mgmt db*.db`) を削除します。

---

**重要：**データベースファイル内のインベントリ情報を使用する場合は、削除する前に、必ずデータベースファイルのバックアップを作成しておきます。

---

- 5 すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から `INVDBPATH` キーを削除します。
- 6 すべてのクラスタノードで `ZFD_INVENTORY_DATABASE_SERVER` キーを削除します。

すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。



```
[ZfD_Inventory_Database_Server]Version = 7.0 Desktop Management  
product build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 7 Sybase がアンインストールされておらず、他の ZENworks 製品によって使用されている場合は、Sybase を起動します。

Sybase コンソールプロンプトで「mgmt dbs.ncf」と入力します。

## B.7.4 Sybase エンジンのアンインストール

Sybase が他の ZENworks 製品で使用されている場合、まずデータベースをアンインストールしてから、Sybase エンジンをアンインストールする必要があります。詳細については、[588 ページのセクション B.7.3 「Sybase インベントリデータベースのアンインストール」](#)を参照してください。

- 1 Sybase コンソールプロンプトで「q」と入力して Sybase を停止します。
- 2 任意のクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` の `DBENGINEPATH` キーの値をメモします。
- 3 データベースがデータベースサーバにマウントされているかどうかを確認します。  
データベースがデータベースサーバにマウントされている場合、すべてのクラスタノードの `sys:\system\mgmt dbs.ncf` ファイルに `.db` エントリが含まれます。  
ファイルに `.db` エントリが含まれていなければ、すべてのクラスタノードから `mgmt dbs.ncf` を削除します。ファイルに `.db` エントリが含まれている場合は、Sybase エンジンを削除しないでください。
- 4 すべてのクラスタノードで、クラスタロードスクリプトから `mgmt dbs.ncf` エントリを削除します。
- 5 アンロードスクリプトから `dbsrv8.nlm` を削除します。
- 6 `DBENGINEPATH` で指定されているディレクトリ (手順 3 で確認) を削除します。
- 7 すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から `DBENGINEPATH` キーを削除します。

## B.7.5 インベントリサーバソフトウェアのアンインストール

- 1 インベントリサーバのサーバコンソールプロンプトで「StopSer \*」と入力し、Inventory Service を停止します。
- 2 NetWare インベントリサーバのコンソールプロンプトで「java -exit」と入力して、`java.nlm` をアンロードします。
- 3 任意のクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` の `INVSrvPATH` および `ZWSPATH` キーの値をメモします。
- 4 `ZFD_INVENTORY_SERVER` キーを削除します。

すべてのクラスターノードで `sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_Inventory_Server]Version = 7.0 Desktop Management product  
build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 5 すべてのクラスターノードで `invsrvpath\scandir` ディレクトリを削除します。
- 6 すべてのクラスターノードで `invsrvpath\server` ディレクトリを削除します。
- 7 すべてのクラスターノードのクラスターロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
StartInv.ncf
```

- 8 アンロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
java -killzenwsinv
```

```
java -killzwexit
```

- 9 すべてのクラスターノードの `sys:\system` ディレクトリから次のファイルを削除します。

```
invenv.ncf
```

```
invenvset.ncf
```

```
listser.ncf
```

```
startinv.ncf
```

```
startser.ncf
```

```
startzws.ncf
```

```
stopser.ncf
```

```
dbexport.ncf
```

```
debug.properties
```

```
stopdb.ncf
```

- 10 インベントリサーバに Policy and Distribution Services と XML プロキシサーバがインストールされていない場合は、`ZWSPATH` によって指定されているディレクトリを削除して、ZENworks Web Server コンポーネントを削除します。
  - 10a すべてのクラスターノードのクラスターロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
ZFS.ncf
```

- 10b** すべてのクラスタノードの `sys:\system` ディレクトリから `zwsstart.ncf` を削除します。
- 10c** すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から `ZWSPATH` キーを削除します。
- 10d** `zws_volume:\zfs-startup.xml` を削除します。
- 10e** `zws_volume:\zenworks\zfs.ncf` を削除します。
- 11** すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から `INVSrvPATH` キーを削除します。

## B.7.6 XML プロキシサーバのアンインストール

- 1** サーバコンソールのプロンプトで「`java -killzfsexit`」と入力して、`java.nlm` をアンロードします。
- 2** 任意のクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` の `ZWSPATH` キーの値をメモします。
- 3** すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から次のセクションを削除します。

```
[ZfD_XML_Proxy_Server]
```

```
Version=7.0 Desktop Management product build date
```

```
Installed_From = Product CD
```

```
Support_Pack = 0
```

- 4** すべてのクラスタノードのクラスタロードスクリプトから次のエントリを削除します。

```
; ZENworks Inventory Settings
```

```
ZFS.ncf
```

- 5** すべてのクラスタノードの `sys:\system` ディレクトリから `zwsstart.ncf` を削除します。
- 6** すべてのクラスタノードで `sys:\system\zenworks.properties` から、`ZWSPATH` ディレクトリおよび `ZWSPATH` エントリを削除します。

- 7 `zws_volume:\zenworks\zfs-startup.xml` ディレクトリから `zfs-startup.xml` および `zfs.ncf` を削除します。

## B.7.7 ConsoleOne からのワークステーションインベントリスナップインのアンインストール

他の製品の管理に ConsoleOne を使用している場合は、ConsoleOne 自体をアンインストールしないでください。

ConsoleOne からワークステーションインベントリスナップインのみを削除するには

- 1 ConsoleOne を実行している場合は、終了します。

ConsoleOne が複数のワークステーションのインベントリサーバから直接起動している場合は、すべてのワークステーションの ConsoleOne を終了する必要があります。

- 2 サーバまたはワークステーションの `consoleone_installation_directory\1.2` ディレクトリで、次の操作を行います。

- 2a 次のファイルを削除します。

```
\lib\zen\dbexport.jar
\lib\zen\desktop.jar
\lib\zen\zeninvimages.jar
\lib\zen\zenutility.jar
\lib\zen\statuslog.jar
\lib\zen\classes12.zip\lib\zen\vbjapp.jar\lib\zen\vbjorb.jar\lib\zen\jdbcdrv.zip
\snapins\zen\inventorysnapins.jar
\snapins\zen\inventorysnapins3x.jar\snapins\zen\dataexportsnapins.jar\snapins\zen\policy
migration.jar\snapins\zen\workstationsnapins.jar\snapins\zen\tracer.jar\help\novellserv
erin.vh\bin\directoryrights.dll\bin\displayrules.properties\bin\schemarules.properties
```

- 2b 次のディレクトリを削除します。

```
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory30
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory32
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory3x
\reporting\canned\novellreporting\zeninventory4x
```

- 3 リモート管理の ConsoleOne スナップインを同じワークステーションまたはサーバにインストールしていない場合は、次のファイルを削除します。

```
\bin\desktop4.exe
\bin\mssql.ini
\bin\msvp60.dll
\bin\ndsaccess.dll
\bin\oracle.ini
\bin\remagent.ini
\bin\sybase.ini
\help\novellzeninven.hs
\help\novellzenrmgt.hs \help\en\novell_zfd_inventory
```

```
\help\en\novell_zfd_remotemgmt
\lib\zen\desktop.jar
\lib\zen\desktop3x.jar\lib\zen\desktopcommonutility.jar
\resources\resources.jar
\snapins\zen\commonsnapins.jar
```

## B.7.8 クラスタスクリプトへの変更の適用

クラスタ環境におけるワークステーションインベントリのアンインストールの手順に従って行ったアンインストールによる変更をクラスタスクリプトに適用するには、クラスタを一度オフラインにしてからオンラインに戻す必要があります。

## B.8 クラスタ環境におけるワークステーションインベントリの再インストール

インストールが正常に実行されなかった、または誤ってファイルを削除するなどしてデータ破損が起き、再インストールしなければデータの修復ができないなどの理由で、クラスタ環境で使用している、デスクトップ管理サービス (ZENworks 7 Desktop Management SP1) のワークステーションインベントリコンポーネントを再インストールすることが必要な場合があります。

---

重要：再インストールでは、再びスキーマを拡張する必要はありません。

---

- ◆ 593 ページのセクション B.8.1 「ワークステーションインベントリの再インストールの準備」
- ◆ 594 ページのセクション B.8.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」
- ◆ 594 ページのセクション B.8.3 「ワークステーションインベントリの再インストールの確認」

### B.8.1 ワークステーションインベントリの再インストールの準備

- 1 ワークステーションインベントリを再インストールする必要があるサーバを識別します。
- 2 NetWare サーバコンソールのプロンプトで「sys:\system\invstop.ncf」と入力して、Inventory Service を停止します。

---

注：Inventory Service を停止する際、Sybase データベースを自動的に停止させたくない場合は、sys:\system\invstop.ncf ファイルで Unload dbsrv8.nlm 行をコメント化します。

---

- 3 NetWare Sybase コンソールプロンプトで <Q> キーを押して、インベントリデータベースを停止します。
- 4 対象になる NetWare サーバで Java がアンロードされていない場合は、java.nlm をアンロードします (サーバコンソールで、「java -exit」と入力する)。

---

重要：このコマンドにより、サーバで実行しているすべての Java プロセスが停止します。Desktop Management を再インストールする際には、すべての Java プロセスが停止していることを確認してください。

---

- 5 再インストール先のサーバがある Novell eDirectory ツリーにログインします。
- 6 Continue with [573 ページのセクション B.4 「Desktop Management コンポーネントのインストール」](#) .

## B.8.2 ワークステーションインベントリの再インストール

ZENworks 7 Desktop Management ワークステーションインベントリを以前のインストール上に再インストールする場合は、既存のポリシーおよび \scandir ディレクトリが使用されます。

- ◆ 再インストールの際の [ファイルのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、ワークステーションインベントリまたはリモート管理ファイルがそのパスにインストールされます。
- ◆ 再インストールの際の [データベースのインストール先] ページでは、前回のインストールパスがインストールプログラムによって検索されます。検索されたら、データベースがそのパスにインストールされます。

## B.8.3 ワークステーションインベントリの再インストールの確認

- 1 インストールが完了したら、インストールログファイルを参照して、インストールに失敗したコンポーネントがないかどうかを確認します。
- 2 ファイルがなくなったり、壊れたりした問題を解決するために再インストールした場合は、問題が解決されていることを確認します。

## B.9 Novell Cluster Services 環境で使用するための ZENworks 7 ワークステーションイメージングの設定

以前は、ZENworks Desktop Management では、特に ZENworks 起動前サービス (PXE) と組み合わせて使用する場合など、Novell Cluster Services (NCS) 環境でのワークステーションイメージングコンポーネントはフルサポートされていませんでした。しかし、ZENworks 7 Desktop Management のリリースから、Novell Cluster Services 1.7.2 以降の環境でワークステーションイメージングの起動前サービスを使用できるようになりました。

Novell Cluster Service 1.7.2 以降の環境で ZENworks 7 ワークステーションイメージングと PXE をインストールして使用するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks 7 のインストールに必要な前提条件がすべて満たされていることを確認します。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。
- 2 Novell Cluster Services 環境で ZENworks 7 Desktop Management をインストールします。アップグレード (ZENworks 6.5 から ZENworks 7 へのアップグレード) の場合は、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムで、以前インストールされていなかった新しいコンポーネントを選択してインストールできます。
- 3 元のバージョンの ZENworks 7 Desktop Management をインストールした同じサーバに ZENworks 7 Desktop Management をインストールします。
- 4 仮想サーバシステムディレクトリで、dts.ini ファイルを検索します。例: `cvol:system/dts.ini`。

- 5 ファイルエディタで `dts.ini` ファイルを開いて、次の行の IP 設定を変更します。

```
TransactionServerClusterIP=IP_Address
```

IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。この行がファイル内にはない場合は、追加する必要があります。

- 6 編集した `dts.ini` ファイルを保存します。
- 7 同じシステムディレクトリにある `tftp.ini` ファイルを検索します。
- 8 ファイルエディタで `tftp.ini` ファイルを開いて、次の行の IP 設定を変更します。

```
IPADDRESS=IP_Address
```

IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

- 9 編集した `tftp.ini` ファイルを保存します。
- 10 同じシステムディレクトリにある `pdhcp.ini` ファイルを検索します。
- 11 ファイルエディタで `pdhcp.ini` ファイルを開いて、次の行の IP アドレスを変更します。

```
TRANSACTION_SERVER_IP=IP_Address  
PDHCP_Server_IP=IP_Address
```

この 2 つの行の IP アドレスは、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

Novell Cluster Services 1.7.2 では、`pdhcp.ini` ファイルに次の行も含まれています。

```
TFTP_SERVER_IP=IP_Address
```

この IP 変数も、クラスタ内の仮想サーバの IP アドレスを指す必要があります。

- 12 編集した `pdhcp.ini` ファイルを保存します。
- 13 クラスタ内の各ノード (サーバ) の `/sys:system` に `dts.ini`、`tftp.ini`、および `pdhcp.ini` をコピーします。
- 14 リソースをオフラインにし、オンラインに戻して ZENworks サービスをリロードします。

## B.10 OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール

Novell ZENworks 7 Desktop Management with SP1 には、次の重要な要素を SUSE® Linux Enterprise Server 9 Support Pack 2 または Novell Open Enterprise Server (OES Linux) 1.0 SP2 にインストールする機能があります。

- ◆ **Desktop Management Server:** Linux サーバが含まれるネットワーク上のユーザおよびワークステーションのポリシーとプロファイルを一元的に作成および管理できます。このポリシーおよびプロファイルにより、ネットワーク内の Windows ワークステーションへのアプリケーションの配布、管理、更新のほか、高度なインベントリ管理機

能とリモート管理機能の実行、およびオペレーティングシステムの自動インストールが可能になります。

ZENworks 7 Desktop Management は元々、OES Linux 上で動作する Novell Cluster Services (NCS) 環境ではサポートされていませんでしたが、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 には、一部の ZENworks サービスが Novell Cluster Services™ for OES Linux Support Pack 2 環境で安全に動作するように設定するファイルが付属する、一連の RPM (novell-zenworks-zdm-cluster) が含まれています。

- ◆ **ZENworks Middle Tier Server:** Linux サーバ上にインストールされた Web Server ソフトウェアを使用して企業ファイアウォール内の Desktop Management Server と企業ファイアウォール外のワークステーション間の認証と通信をセットアップします。このような通信によりモバイルユーザが旅行中にデスクトップ管理サービスにアクセスできるようになります。Novell Client がないワークステーションの通信も可能です。

---

**重要 :** Middle Tier Server は、クラスタ対応ではありません。これは、単一のノードにインストールする必要があります。

---

ZENworks 7 with SP1 Desktop Management Services on Linux のインストールプログラムでは、「インストールセット」と呼ばれるさまざまな組み合わせで構成されているこれらの 2 つの要素のいずれかを選択できます。これらのセットの詳細については、[317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」](#) を参照してください。

---

**注 :** SLES 9 インストールで利用可能な 4 つの設定済みソフトウェア「セット」(つまり、最小システム、最小グラフィカルシステム、フル、デフォルトシステムインストール)のうち、SLES 9 のデフォルトシステムインストールだけが、ZENworks 7 Desktop Management をサポートしています。SLES 9 インストールの他のモードでは、その後の ZENworks 7 Desktop Management インストールでエラーが生じます。

---

この節の情報は、ZENworks 7 with SP1 Desktop Management Services on Linux をインストールするための一般的なガイドとして使用することができますが、これらのサービスを OES Linux SP2 クラスタにインストールするための、次の情報も含まれています。

- ◆ [596 ページのセクション B.10.1 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks サービス」](#)
- ◆ [597 ページのセクション B.10.2 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のクラスタリングの前提条件」](#)
- ◆ [597 ページのセクション B.10.3 「OES Linux クラスタへのインストール」](#)
- ◆ [605 ページのセクション B.10.4 「クラスタへのサイレントインストールの準備」](#)
- ◆ [607 ページのセクション B.10.5 「OES Linux クラスタへのサイレントインストールの実行」](#)
- ◆ [608 ページのセクション B.10.6 「OES Linux クラスタでのワークステーションインベントリの設定」](#)

## B.10.1 OES Linux クラスタ環境での ZENworks サービス

ZENworks 7 Desktop Management のほとんどのコンポーネントは、「クラスタセーフ」と考えられています。これは、ZENworks 7 Desktop Management のサービスを Novell Cluster Services for Linux がインストールされた環境にインストールすることはできますが、クラスタボリュームがダウンした場合、そのクラスタがフェールオーバーしている間はサービスが中断されることを意味します。



フェールオーバーが実行されると、Desktop Management のほとんどのサービスは復元されますが、単一のリソース (ポリシーファイルがコピーされているサーバ) に依存するアプリケーション管理と一部のグループポリシーは、リソースが有効化されるのを待機中にタイムアウトになる可能性があります。次回のログイン時、またはスケジュールされたイベントが発生してファイルリソースが再度有効になるまで、そのポリシーは適用されません。

ZENworks Middle Tier Server はクラスタ対応ではありませんが、Linux 上の単一のクラスタノードにインストールすることはできます。詳細については、[333 ページの § 章 21 「Linux サーバへの ZENworks Middle Tier Server のみのインストール」](#) を参照してください。

## B.10.2 OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のクラスタリングの前提条件

ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux のインストールを実行する前に、製品をインストールする環境が、次の必要な前提条件すべてを満たしていることを確認する必要があります。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management Services with SP1 をインストールするための一般的な要件を満たしていること。詳細については、[35 ページのパート II 「準備」](#) を参照してください。
- ◆ ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux をインストールする OES Linux 1.0 SP2 サーバ上に、Novell Cluster Services 1.8 がインストールされて動作していることを確認する。Novell Cluster Services のインストールの詳細については、『[OES Novell Cluster Services 1.8.2 Administration Guide for Linux](#)』を参照してください。

## B.10.3 OES Linux クラスタへのインストール

ZENworks 7 Desktop Management Services with Support Pack 1 Services on Linux を OES Linux SP2 クラスタ環境にインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ターミナルコンソールから、su コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 2 `mount /CD_mount_point` を実行して、ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux CD をマウントします。
- 3 CD マウントディレクトリに移動し、`./setup` を実行してインストールプログラムの最初の画面を表示します。

```
=====  
Introduction  
-----
```

```
InstallAnywhere will guide you through the installation of ZENworks  
Desktop Management.
```

```
It is strongly recommended that you quit all programs before  
continuing with this installation.
```

```
Respond to each prompt to proceed to the next step in the  
installation.If you want to change something on a previous step,
```

type 'back'.

You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

- 4 ライセンス契約の条項を読みます。<Enter> キーを押して次の画面に進み、その内容を読んでください。ライセンス契約の最後で、「Y」と入力して条項に同意します。

---

ヒント：前の画面に戻るには、インストールプログラムの任意の画面で「back」と入力します。インストールプログラムをキャンセルするには、任意の画面で「quit」と入力します。

---

- 5 (条件付き、インストールがサーバ上でクラスタサービスを検出した場合) ライセンス契約の条項に同意したとき、ZENworks 7 with SP1 Desktop Mangement Services on Linux をインストールするサーバに Novell Cluster Services がインストールされていると、インストールはそれを検出してこの画面を表示します。

```
=====
Novell Cluster Services Detected-----It
appears that you have Novell Cluster Services installed on this
server.Do you wish to install ZENworks services into the
cluster?Install (Y/N):(DEFAULT:Y):
```

インストールプログラムが、Novell Cluster Services が以前にインストールされていたことを検出しても、それは必ずしも設定されていない場合もあり、またはクラスタに後ほどインストールすることにする場合もあるでしょう。クラスタに ZENworks サービスをインストールしない場合には、「N」と入力します。

Novell Cluster Services for Linux 環境に、ZENworks 7 Desktop Management with SP1 を実行するための設定可能なサービスをインストールするには、「Y」を入力するか、<Enter> を押します ([Y] がデフォルトです)。

この質問に対して「Y」または「N」を入力するか、またはライセンス契約の後にクラスタインストール画面が表示されなかった場合には、インストールの次の画面が表示されます。

```
=====
Choose Install Set
-----
Please choose the Install Set to be installed by this installer.
->1- All Features
2- ZENworks Desktop Management Server
3- ZENworks Middle Tier Server

4- Customize...ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS
<ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

- 6 「4」と入力して、[Customize] オプションを選択します。  
[Choose Product Features] 画面が表示されます。

```
=====
Choose Product Features
-----

ENTER A COMMA_SEPARATED LIST OF NUMBERS REPRESENTING THE FEATURES
YOU WOULD
LIKE TO SELECT, OR DESELECT.TO VIEW A FEATURE'S DESCRIPTION, ENTER
'?<NUMBER>'.PRESS <RETURN> WHEN YOU ARE DONE:

1- [X] Application Management
2- [X] Remote Management
3- [X] Middle Tier
4- [X] Inventory Server
5- [X] Inventory Proxy
6- [X] Inventory Database
7- [X] NAL Database
8- [X] Imaging
9- [X] PXE
10- [X] Autoworkstation Import/Removal
11- [X] ZENworks Desktop Agent Installer

Please choose the Features to be installed by this installer.
:
```

- 7 Linux サーバにインストールするために選択または選択解除する機能の番号を入力します。機能名の横にある [X] は、この機能がインストールされることを示しています。デフォルトではすべての機能が選択されています。

複数の機能を選択または選択解除する場合は、カンマを使って番号を区切ります。機能の説明を表示するには、番号の後に疑問符 (?) を入力して (Enter) キーを押します。

- 8 必要な機能を選択してインストールの準備ができれば、(Enter) キーを押します。

ZENworks 機能の多くでは、インストールするために選択すると、他に何も設定する必要はありません。これらの機能についてその他の情報を入力するように要求されることはありません。

しかし、どの機能を選択した場合でも、必ず ZENworks Desktop Management Server に関する設定情報を入力するように要求されます。最初に、Desktop Management Server の設定に必要な [Tree Information] 画面が表示されます。

```
=====
Tree information
-----

Please enter authentication information for the tree where you want
to configure ZENworks.

Tree (zentree):
```

- 9 [Tree Information] 画面で、ZENworks を設定するローカルホスト (このサーバ) のツリーの名前を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 10 管理ユーザの eDirectory の識別名 (DN) を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。
- 11 管理ユーザのパスワードを入力します。このフィールドでは、大文字と小文字は区別されません。

アカウント情報が検証されると、[Cluster Support Information] 画面が表示されます (サーバ上にクラスタリングサービスが存在していることをインストールプログラムが以前に検出した場合については、[598 ページのステップ 5](#) を参照してください)。

```
=====
ZENworks Cluster Support Information-----
-----Specify the DN of the cluster resource object that should
host the ZENworksservices
(MYCLUSTER_Resource.MYCLUSTER.Servers.mycompany):
```

- 12 (条件付き、インストールがサーバ上でクラスタサービスを検出した場合) ホスト ZENworks サービスをインストールするクラスタリソースオブジェクトの完全識別名を入力します。
- 13 (条件付き、インストールがサーバ上でクラスタサービスを検出した場合) クラスタ共有ボリュームのマウントポイントを入力します。

例: bs9\_server.bs9cluster.novell

例: /media/nss/BS9VOL

アカウント情報の検証後、またはクラスタ共有ボリュームのマウントポイントの入力後に、[ZENworks License Key] 画面が表示されます。

```
=====
ZENworks License Key Information
-----
Please enter a valid ZENworks license code.(90 Day Trial):
```

- 14 Novell ZENworks を購入後に Novell から送信された電子メールに記載されているライセンスコードを入力します。このライセンスコードを入力するまで、製品のライセンスを取得するように促すメッセージが定期的に表示されます。適切なコードを入力しない場合、ZENworks Desktop Management は 90 日間を過ぎると機能しなくなります。
- 15 (条件付き) Middle Tier のインストールを選択した場合は、[Middle Tier Server Configuration Information] 画面が表示されます。

```
=====
Middle Tier Server Configuration Information
-----
The Middle Tier Server you configure with this program will access
```

an eDirectory server in order to authenticate users and workstations and to obtain ZENworks configuration and policy information.

Please provide the name or IP address and administrative credentials for an eDirectory server.

Server Name/IP Address (zenmid):

- 16** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) eDirectory がインストールされているサーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

Enter Administrative Credentials:

Proxy User (admin.myCompany):

- 17** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Middle Tier プロキシユーザアカウントの完全修飾ユーザ名を入力します (例: midtier-proxy.org-unit.org)。

これらのアカウント情報を確実に安全に保つために、特定の管理権限を持つ任意のユーザを設定できます。詳細については、[133 ページのセクション 10.3 「Middle Tier プロキシのユーザアカウントに必要な権利」](#)を参照してください。

Password():

- 18** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Middle Tier プロキシユーザの eDirectory パスワードを入力します。

The ZENworks Middle Tier software searches for ZENworks user objects in a specified eDirectory context and below.

Please Specify the ZENworks user context.

NOTE: This context must already exist.

Users Context (users.novell):

- 19** (条件付き、Middle Tier のインストールを選択した場合) Desktop Management を使用するユーザオブジェクトを Middle Tier Server が検索する eDirectory コンテキストを入力します。

インストールプログラムによってコンテキスト (コンテナ) の存在が確認されると、インストールが続行されます。

(条件付き) 同じサーバにインベントリサーバとインベントリデータベースをインストールする場合、[Inventory Standalone Configuration] 画面が表示されます。

=====  
Inventory Standalone Configuration

-----  
Note:ZENworks Inventory Standalone settings must be configured only on one cluster node.Do you want to configure as a Standalone?(Y/N)  
(Y):

- 20** (条件付き、インベントリサーバのインストールを選択した場合) スタンドアロンインベントリサーバのコンテキストを入力します。

Inventory Server Context (myCompany):

インベントリプロキシ機能をインストールする場合、[Inventory Proxy Configuration] 画面が表示されます。

=====

Inventory Proxy Configuration

-----

XML Proxy port (65000):

- 21** (条件付き、インベントリプロキシのインストールを選択した場合) XMLRPC 要求をインベントリプロキシサービスに渡すために使用するポートのポート番号を入力します。

デフォルトのポート 65000 を変更する場合は、0 ~ 65535 の値を指定します。そのポート番号がサーバ上の他のサービスで使用されていないことを確認してください。  
[SSL Configuration] 画面が表示されます。

=====

SSL Configuration

-----

Do you want to configure SSL?(Y):

- 22** (オプション) LDAP を使用して ZENworks 7 インベントリサーバと eDirectory との安全な接続を確立する場合は、「Y」と入力してから、SSL 証明書の完全なパスとファイル名を入力します。

重要: 各クラスターノードの SSL 証明書のパスを入力します。

[NetBIOS Configuration] 画面が表示されます。

=====

NetBIOS Configuration

-----

NetBIOS Name (NetBIOS\_name):

- 23** (条件付き) [NetBIOS Configuration] 画面は、NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、ZENworks インストールプログラムを実行する Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合にのみ表示されます。

NetBIOS 名が /etc/samba/smb.conf に指定されておらず、Linux サーバの名前が半角 13 文字を超える場合、インストールプログラムを実行する Linux サーバ名の最初の 13 文字を使用して NetBIOS 名が生成されます。この名前は、ZENworks Linux 版のインストール中にデフォルト値として表示されます。

```
=====
NetBIOS Configuration
-----
NetBIOS Name
(NetBIOS_name_generated_by_the_ZENworks_installation_program):
```

このデフォルト値をそのまま使用するか、新しい値を入力することができます。ただし、NetBIOS 名は一意にする必要があります。

- 24** [Pre-Installation Summary] 画面が表示されます。

```
Pre-Installation Summary
-----
We are ready to install ZENworks to your server.Press <Enter> to
continue,
type "back" to change your choices or "quit" to exit this install.

Product Name:
ZENworks Desktop Management

Product Components:
Inventory Server,
Remote Management,
Application Management,
Inventory Proxy,
Inventory Database,
NAL Database,
Autoworkstation Import/Removal,
PXE,
Imaging,
Middle Tier,
ZENworks Desktop Agent Installer

ZENworks License Key:
90 Day Trial

Schema Extensions:
Schema extensions will be applied.
ZENworks Cluster Support      Cluster support will be installed
```

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: [XXX]

**25** (Enter) キーを押してインストールを開始します。

インストール処理が完了すると、InstallAnywhere によりインストールログファイルが作成されます。ログファイルの作成を中止するには、<Ctrl>+<C> を押します。

インストールが正常に完了すると、[View Readme] 画面が表示されます。

```
=====  
View Readme  
-----
```

Do you want to view the readme file?

->1- YES

2- NO

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE  
DEFAULT:

:

**26** (オプション) 「1」を入力すると、Readme ファイルが表示されます。このファイルを読みます。<Enter> キーを押すと次の画面に進みます。readme ファイルの最後に、<Enter> キーを押して [Installation Complete] 画面を表示します。

**27** (オプション) 「2」を入力すると、[Installation Complete] 画面が表示されます。

```
=====  
Installation Complete  
-----
```

Congratulations.ZENworks Desktop Management has been successfully  
installed  
to:

/opt/novell/zenworks/

All installed ZENworks services have been started.

Please see the log file (/var/log/  
ZENworks\_Desktop\_Management\_InstallLog.log)  
for more details.

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

[Installation Complete] のメッセージでは、インストールされた ZENworks のすべてのサービスが開始したと述べられますが、proxydhcp サービスは、インストールの完了後、または再起動後にも開始しません。サービスを開始するには、ConsoleOne または iManager でクラスタリソースオブジェクトをアンロードして、開始スクリプト (opt/novell/zenworks/bin/ZDMstart) を実行します。ランレベルから proxydhcp サービスを開



始しようとする、クラスタリソースをホストしていないサーバ上でエラーが生成されます。

**28** (Enter) キーを押してインストールプログラムを終了します。

## B.10.4 クラスタへのサイレントインストールの準備

サイレントインストールの準備を行うには、次の手順に従います。

- 1 *ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux CD* のルートにある `silent.properties` ファイルを、Linux サーバの `/root` にコピーします。
- 2 `/root/silent.properties` を必要に応じて編集します。

*ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux* 用の `silent.properties` のコピーを次に示します。

```
INSTALLER_UI=silent#-----# Install Sets
-----#
#-----#
##CHOSEN_INSTALL_SET=(All|Server|Midtier) [default:All]
#CHOSEN_INSTALL_SET=Midtier
#CHOSEN_INSTALL_SET=Server#-----# Installable Features
-----#
INSTALL_REMOTE_MANAGEMENT=true
INSTALL_MIDDLE_TIER=true
INSTALL_INVENTORY_SERVER=true
INSTALL_INVENTORY_PROXY=true
INSTALL_INVENTORY_DATABASE=true
INSTALL_APPLICATION_MANAGEMENT=true
INSTALL_APPLICATION_MANAGEMENT_DATABASE=true
INSTALL_IMAGING_SERVER=true
INSTALL_PXE_SERVER=true
INSTALL_WORKSTATION_IMPORT_SERVER=true
INSTALL_ZDM_AGENT=true#-----# Pre-file-copy verification
-----#
#-----#
# Authentication
#-----#TREE_USER_NAME=admin.myCompany
#TREE_PASSWORD=myPassword
#TREE_NAME=MY-TREE#-----#
# ExtendSchemaConfigureAction
#-----#
##SHOULD_EXTEND_SCHEMA=(true|false) [default:false]
#SHOULD_EXTEND_SCHEMA=true#-----#
# LicensingConfigureAction
#-----##USER_SUPPLIED_SERIAL_NUMBER=
[default:90 Day Trial]
#USER_SUPPLIED_SERIAL_NUMBER=mySerialNumber#-----# Post-file-copy
verification
#-----#
#-----#
```

```

# Force Re-Configuration
#-----
##ConfigureAction.ZDM_FORCE_CONFIGURE=(true|false) [default:false]
#ConfigureAction.ZDM_FORCE_CONFIGURE=true#-----
-----
# Imaging
#-----##NDS_CONF_PATH= [default:/etc/
nds.conf]
#NDS_CONF_PATH=/etc/nds.conf#-----
# Middle Tier
#-----
#XTierConfigureAction.AUTH_DOMAIN=myServer
#XTierConfigureAction.AUTH_CONTEXT=myZENworksUserSearchContext
#XTierConfigureAction.PROXY_USER=myProxyUser
#XTierConfigureAction.PROXY_PASSWORD=myProxyPassword#-----
-----
# Inventory Server Standalone Mode
#-----
##StandaloneConfigureAction.INV_STANDALONE=(Y|N) [default:N]
#StandaloneConfigureAction.INV_STANDALONE=Y
#StandaloneConfigureAction.INV_SERVER_CONTEXT=myContext.myCompany#----
-----
# XML Proxy
#
# value placed in /etc/opt/novell/zenworks/zws.properties as port2
#-----
##XMLProxyConfigureAction.XML_PROXY_PORT= [default: 8080]
#XMLProxyConfigureAction.XML_PROXY_PORT=myPortNumber#-----
-----
# SSL for Inventory
#-----
##SSLConfigureAction.SSL_CONFIGURE=(Y|N) [default:N]
#SSLConfigureAction.SSL_CONFIGURE=Y
#SSLConfigureAction.INV_CERT_PATH=/my.dir/my.cer#-----
-----
# NETBIOS Name
#
# value placed in /etc/samba/smb.conf as netbios name
# iff there is no existing value
#-----##NETBIOS_NAME=
[default:<hostname>-w]
#NETBIOS_NAME=myNetBiosName#-----
# Novell Cluster Support
#-----
##INSTALL_ZENWORKS_CLUSTERING=(Y|N) [default:N]
#INSTALL_ZENWORKS_CLUSTERING=N
# Specify the Cluster resource object that will host the ZENworks
services.
ConfigureAction.CLUSTER_RESOURCE_DN=myResource.mycluster.mycompany#
Specify the mount point for the shared resource for the above named
cluster
# resource object
ConfigureAction.SHARED_VOLUME_PATH=/mnt/

```

```
# In general the following information can be derived from the Cluster
resource
# object but in the off chance that we can't determine this
information, you
# can set these variables.
# Specify the DN of the Virtual server object associated with the
# cluster resource object, and the IP address assigned to the resource
object
ConfigureAction.CLUSTER_NCP_SERVER=
ConfigureAction.CLUSTER_NCP_SERVER_IP=
```

`silent.properties` では、デフォルトで、すべての **Desktop Management** コンポーネントがインストールされるように選択されています。このファイルを編集するときに、**Installable Features** セクションのコンポーネント名をコメント化すると、そのコンポーネントは選択解除されインストールされません。ここで作成されるカスタマイズされたインストールセットは、インストールプログラムを実行するときに適用できます。

カスタマイズされたインストールセットを作成する代わりに、このファイルの **Install Sets** セクションの統合されたインストールセットを非コメント化することもできます。

`silent.properties` ファイルには、インストールするコンポーネントの設定に必要な特定のパラメータも含まれています。これらのパラメータを非コメント化して必要な値を追加します。

セキュリティで保護されていない環境でサイレントインストールを実行する場合は、パスワードを非表示にすることをお勧めします。詳細については、[350 ページのセクション 23.3 「より安全なサイレントインストールの実行」](#) を参照してください。

## B.10.5 OES Linux クラスタへのサイレントインストールの実行

インストールするコンポーネントをすべて選択し ( クラスタにインストールするサービスも含めます )、それらのコンポーネントの設定値を追加して、`silent.properties` ファイルの編集が完了したら、インストールプログラムを実行できます。

インストールを完了するには、次の手順に従います。

- 1 編集した `silent.properties` ファイルを、サイレントインストールを実行するサーバの `/root` ディレクトリにコピーします。
- 2 ZENworks をインストールする Linux サーバの CD ドライブに、*ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux CD* を挿入します。
- 3 ターミナルコンソールから、`su` コマンドを使用してルートユーザに切り替えます。
- 4 `mount /CD_mount_point` を実行して、*ZENworks 7 with Support Pack 1 Desktop Management Services on Linux CD* をマウントします。
- 5 CD マウントポイントに移動し、次のコマンドを入力します。

```
./setup -f /root/silent.properties
```

---

注 : `silent.properties` ファイルへのパスは、スラッシュ (/) で始まる完全パスである必要があります。

---

インストールプログラムが起動し、`silent.properties` ファイルで指定した情報に従って適切なファイルがコピーされ、ZENworks コンポーネントが設定されます。指定した各値の妥当性は、`silent.properties` ファイルの **Pre-file-copy Verification** セクションでチェックされます。無効な値がある場合はインストールが停止します。

ファイルのコピー後、`silent.properties` ファイルの **Post-file-copy verification** セクションで妥当性がチェックされます。このセクションに不正な値がある場合は、`/var/log/ZENworks_Desktop_Management_InstallLog.log` にある `InstallAnywhere` ログファイルにエラーが記録されますが、インストールは続行します。

`novell-zdm-configure` ユーティリティを使用して、発生したエラーを修正できます。詳細については、[354 ページのセクション 24.2 「Linux 上で実行されている ZENworks プロセスの設定または再設定」](#) を参照してください。

## B.10.6 OES Linux クラスタでのワークステーションインベントリ の設定

ZENworks 7 SP1 デスクトップ管理サービスのインストールが終了したら、ワークステーションインベントリがクラスタ環境で動作するよう設定する必要があります。必要な設定手順を次に示します。

- 1 インベントリデータベースオブジェクトを設定します。Desktop Management のインストール時に Sybase\* を選択した場合、インストールプログラムはデータベースオブジェクト (`Inventory database_server_name`) を作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。[ステップ 1a](#) と [ステップ 1b](#) を省略してください。Oracle または MSSQL を使用する場合は、[ステップ 1a](#) に進みます。
  - 1a Oracle または MS SQL でインベントリデータベースを管理する場合は、データベースオブジェクトを作成してプロパティを設定してあることを確認します。  
For more information, see [367 ページの § 章 27 「インストール後の作業」](#)
  - 1b データベースオブジェクトをクラスタ環境用に設定するには、ConsoleOne でデータベースオブジェクトを右クリックし、`[Properties]`、`[ZENworks Database]` の順にクリックし、仮想サーバの DN (NCPTM サーバオブジェクト) を参照して選択するか、仮想サーバの IP アドレスを指定して、`[OK]` をクリックします。
- 2 インストール時にスタンドアロン設定を選択しなかった場合は、データベースの場所ポリシーを作成する際、`Inventory database_virtual_server_name` にインベントリデータベースを設定します。
- 3 ワークステーションインベントリポリシーの作成時に、インベントリサービスオブジェクト DN を `Inventory Service_virtual_server_name` に設定します。
- 4 すべてのロールバックポリシーを設定するには、クラスタサービスのインベントリサービスオブジェクト (`Inventory Service_virtual_server_name`) を選択します。

# ZENworks 7 Desktop Management 用の Identity Manager Bundle 2 Edition の使用方法

# C

Novell® Nsure™ Identity Manager は、ID 値を利用してアプリケーション、データベース、およびディレクトリ間で情報を同期、転送、配布するデータ共有ソリューションです。

Identity Manager Bundle Edition はライセンス許諾製品です。この製品を使用して、NT ドメイン、Active Directory ドメイン、および eDirectory™ ツリーに保存されている情報を同期できます。あるシステムでデータが変更されると、Identity Manager は変更内容を検出し、定義済みのビジネスポリシーに従って、接続されている他のシステムにその変更内容を反映します。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 609 ページのセクション C.1 「使用できるモジュール」
- ◆ 610 ページのセクション C.2 「システム要件」
- ◆ 610 ページのセクション C.3 「インストールの考慮事項」
- ◆ 610 ページのセクション C.4 「はじめに」
- ◆ 611 ページのセクション C.5 「Bundle Edition のアクティベーション」
- ◆ 612 ページのセクション C.6 「既知の問題」

## C.1 使用できるモジュール

Bundle Edition では、Identity Manager エンジンと次の Identity Manager ドライバを使用できます。

- ◆ eDirectory 用の Identity Manager ドライバ
- ◆ Active Directory 用の Identity Manager ドライバ
- ◆ NT 用の Identity Manager ドライバ

その他の Identity Manager Integration Module (ドライバ) もソフトウェア配布パッケージに含まれています。これらの追加モジュールはインストールして 90 日間試用できますが、90 日間が経過した後もご利用いただくには、Nsure Identity Manager Standard Edition または Professional Edition のライセンスと、使用する Integration Module のライセンスを別途入手いただく必要があります。

サービスドライバ (Loopback、Manual Task、および Entitlements) は、Bundle Edition のライセンス契約には含まれていません。これらのドライバを使用するには、Nsure Identity Manager Standard Edition または Professional Edition のいずれかをご購入ください。

## C.2 システム要件

- Novell eDirectory 8.7.3
- iManager 2.0.2 または 2.5

Identity Manager のパスワードセルフサービス機能を使用する場合は、iManager 2.0.2 サーバが必要です ( 管理作業に iManager 2.5 サーバを使用することはできますが、その場合もパスワードセルフサービス機能を使用するには iManager 2.0.2 が必要です )。

- Identity Manager サーバは次のプラットフォームで動作します。
  - ◆ 最新の Service Pack を適用した Windows NT、2000、または 2003
  - ◆ 最新の Support Pack を適用した NetWare® 6 または 6.5 (JVM 1.4.2 を入手して NetWare にインストールする必要があります )。
  - ◆ Novell Open Enterprise Server 1.0 for Linux
  - ◆ Linux Red Hat\* AS または ES 2.1、または AS 3.0
  - ◆ SUSE® Linux Enterprise Server 8 または 9

Bundle Edition では、Solaris\* または AIX\* はサポートされていません。DirXML® エンジンや Integration Module をこれらのプラットフォーム上で実行する必要がある場合は、Nsure Identity Manager Standard Edition または Professional Edition をご利用ください。

## C.3 インストールの考慮事項

Novell Nsure Identity Manager Bundle Edition に含まれているコンポーネントは、環境内の複数のシステムやプラットフォームにインストールできます。システム構成によっては、Identity Manager のコンポーネントを適切なシステム群にインストールするために、インストールプログラムを複数回実行する必要があります。

製品をアクティベート (有効化) するためには、90 日以内に ZENworks ライセンスコードを適用する必要があります。アクティベーションの詳細については、[611 ページのセクション C.5.1 「アクティベーションに関する FAQ」](#) を参照してください。

## C.4 はじめに

『Identity Manager 管理ガイド』の次の節には、Identity Manager Bundle Edition の導入計画、インストール、および設定に役立つ情報が掲載されています。

- ◆ 概要 (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/alxkrnf.html>)
- ◆ 実装の計画 (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/anhomxn.html>)
- ◆ Identity Manager のインストール (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/a7c9ie0.html>)
- ◆ Active Directory、NT、および eDirectory ドライバのインストール (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bs35odr.html>)
- ◆ 接続システムのセットアップ (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bs35odr.html>)
- ◆ パスワードポリシーを使用したパスワードの管理 (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/ampxjj0.html>)

- ◆ [Nsure Auditによるログとレポート \(http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/botc9uj.html\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/botc9uj.html)

実装のカスタマイズ方法については、次のマニュアルを参照してください。

- ◆ [Policy Builder とドライバカスタマイズガイド \(http://www.novell.com/documentation/dirxml20/policies/data/front.html#bktitle\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/policies/data/front.html#bktitle)

## C.5 Bundle Edition のアクティベーション

Novell ZENworks のライセンスキーを適用すると、Identity Manager Bundle Edition と Integration Module(Active Directory、NT、および eDirectory 用の各ドライバ) が自動的にアクティベートされます。

Identity Manager の追加の Integration Module をご利用になる場合は、それらの Integration Module と、さらに *Nsure Identity Manager Standard Edition* または *Professional Edition* のアクティベーションキーをインストールする必要があります。他の Identity Manager 製品のアクティベーションについては、「[ジェネリックキーによる Identity Manager のアクティベーション \(http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/brph5hb.html\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/brph5hb.html)」を参照してください。

### C.5.1 アクティベーションに関する FAQ

**Identity Manager を特定のサーバにインストールする必要がありますか？**

はい。Bundle Edition をご利用になる場合は、eDirectory がインストールされているサーバに Identity Manager をインストールする必要があります。製品を正常にアクティベートするためには、そのサーバに ZENworks ライセンスキーを適用しなければなりません。

**Identity Manager を Solaris サーバや AIX サーバ上で実行できますか？**

Bundle Edition をご利用の場合は、できません。ただし、Identity Manager Remote Loader サービスを使用して、これらのプラットフォームに保存されているデータを同期することはできます。Remote Loader サービスにより、DirXML エンジンと (Solaris サーバまたは AIX サーバ上の) リモートドライバ間で情報を同期できます。詳細については、「[Setting Up Remote Loaders\(Remote Loader のセットアップ\) \(http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bs35pip.html#bs35pip\)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bs35pip.html#bs35pip)」を参照してください。

Solaris サーバまたは AIX サーバ上で Identity Manager を実行するには、*Nsure Identity Manager Standard Edition* または *Professional Edition* をご利用ください。

**追加の Integration Module を購入しました。どうして機能しないのですか？**

ZENworks スイートを購入された場合、Bundle Edition 製品を無償でご利用になれます。新しい Integration Module を追加するには、*Nsure Identity Manager Standard Edition* または *Professional Edition* のいずれかをご購入いただく必要があります。Standard Edition または Professional Edition を入手してアクティベートしない限り、Integration Module をアクティベートすることはできません。

**Integration Module** を追加するために **Nsure Identity Manager Standard** または **Professional Edition** のライセンスを購入した場合、ソフトウェアを再インストールする必要がありますか？

ありません。ご購入いただいた製品のアクティベーション キーをインストールするだけで作業完了です。

アクティベートされている製品を確認できますか？

アクティベートされている製品の表示方法については、「[Viewing Product Activations\( 製品のアクティベーション状況の表示 \)](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/agfhtax.html#agfhtax) (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/agfhtax.html#agfhtax>)」を参照してください。

## C.6 既知の問題

- ◆ エンドユーザパスワードセルフサービス機能を実装するには、iManager 2.0.2 サーバを使用する必要があります。これらの機能の詳細については、『*Novell Nsure Identity Manager 2.0.1 Administration Guide*』の「[パスワードセルフサービス配布ガイド](http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bqf5d1r.html) (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/admin/data/bqf5d1r.html>)」を参照してください。
- ◆ iManager 2.5 のタスク名は、Identity Manager マニュアルの記載と若干異なっています。次の表は、それらの相違点を示しています。

表 C-1 iManager 2.0.2 と iManager 2.5 のタスク名の相違点

iManager 2.0.2 のタスク名	iManager 2.5 のタスク名
DirXML Management	DirXML
概要	DirXML Overview
DirXML Utilities	DirXML Utilities
NDS2NDS Driver Certificates Dataflow Dataflow Table View Design Dataflow Version Discovery Tool Activation Request Activation Installation Create Driver Export Driver Import Driver Create Policy Load Sample Objects	NDS-to-NDS Driver Certificates Dataflow Dataflow Table View Design Dataflow Versions Discovery Request Activation Install Activation New Driver Export Driver Import Driver New Policy Load Sample Objects
Nsure Audit	Auditing and Logging (Nsure Audit)
Queries Verification Query Configuration Server Configuration	Queries Verification Query Options Logging Server Options
Password Management	Passwords
Check Password Status Manage Challenge Sets Manage Password Policies Password Synchronization View Policy Assignment Set Universal Password Configure Email Server Modify Email Templates	Check Password Status Challenge Sets Password Policies Password Synchronization Policy Assignments Set Universal Password Email Server Options Edit Email Templates
UNIX Profile Management	UNIX Profiles



# ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法

Novell® Identity Manager 3 は、ID 値を利用してアプリケーション、データベース、およびディレクトリ間で情報を同期、転送、配布するデータ共有ソリューションです。

Identity Manager Bundle Edition はライセンス許諾製品です。この製品を使用して、NT ドメイン、Active Directory ドメイン、および eDirectory™ システムに保存されている情報を同期できます。あるシステムでデータが変更されると、Identity Manager は変更内容を検出し、定義済みのビジネスポリシーに従って、接続されている他のシステムにその変更内容を反映します。

この節では、次の情報について紹介します。

- ◆ 613 ページのセクション D.1 「使用できるモジュール」
- ◆ 614 ページのセクション D.2 「システム要件」
- ◆ 614 ページのセクション D.3 「インストールの考慮事項」
- ◆ 614 ページのセクション D.4 「はじめに」
- ◆ 615 ページのセクション D.5 「Bundle Edition のアクティベーション」

## D.1 使用できるモジュール

Bundle Edition では、Identity Manager エンジンと次の Identity Manager ドライバを使用できます。

- ◆ eDirectory 用の Identity Manager ドライバ
- ◆ Active Directory 用の Identity Manager ドライバ
- ◆ NT 用の Identity Manager ドライバ

その他の Identity Manager Integration Module (ドライバ) もソフトウェア配布パッケージに含まれています。これらの追加モジュールはインストールして 90 日間試用できますが、90 日間が経過した後もご利用いただくには、Novell Identity Manager 3 のライセンスと、使用する Integration Module のライセンスを別途入手いただく必要があります。

サービスドライバ (Loopback、Manual Task、および Entitlements) は、Bundle Edition のライセンス契約には含まれていません。これらのドライバを使用するには、Identity Manager 3 をご購入いただく必要があります。

## D.2 システム要件

- Novell eDirectory 8.7.3 または 8.8
- iManager 2.0.2 または 2.5
- Identity Manager サーバは次のプラットフォームで動作します。
  - ◆ Windows NT ( リモートローダのみ )
  - ◆ 最新の Service Pack を適用した Windows 2000 または 2003
  - ◆ NetWare® 6.5 SP3 以降
  - ◆ Novell Open Enterprise Server—NetWare または Linux
  - ◆ Linux Red Hat AS 3.0
  - ◆ SUSE® Linux Enterprise Server 8 または 9

Bundle Edition では、Solaris または AIX はサポートされていません。Identity Manager エンジンや Integration Module をこれらのプラットフォーム上で実行する必要がある場合は、*Identity Manager 3* をご利用ください。

## D.3 インストールの考慮事項

Novell Identity Manager Bundle Edition に含まれているコンポーネントは、環境内の複数のシステムやプラットフォームにインストールできます。システム構成によっては、Identity Manager のコンポーネントを適切なシステム群にインストールするために、インストールプログラムを複数回実行する必要があります。

製品をアクティベート (有効化) するためには、90 日以内に ZENworks ライセンスキーを適用する必要があります。アクティベーションの詳細については、[615 ページのセクション D.5 「Bundle Edition のアクティベーション」](#) を参照してください。

## D.4 はじめに

『Novell Identity Manager 管理ガイド』の次の節には、Identity Manager Bundle Edition の導入計画、インストール、および設定に役立つ情報が掲載されています。

- ◆ 概要 (<http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/b2m4o17.html#b2m4o17>)
- ◆ 実装の計画 (<http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/anhomxn.html>)
- ◆ Identity Manager のインストール (<http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/a7c9ie0.html>)
- ◆ Active Directory、NT、および eDirectory ドライバのインストール (<http://www.novell.com/documentation/idmdrivers/index.html>)
- ◆ 接続システムのセットアップ (<http://www.novell.com/documentation/idm/admin/data/bs35odr.html>)
- ◆ パスワードポリシーを使用したパスワードの管理 (<http://www.novell.com/documentation/idm/admin/data/an4bz0u.html>)
- ◆ Novell Audit によるログとレポート (<http://www.novell.com/documentation/idm/admin/data/botc9uj.html>)

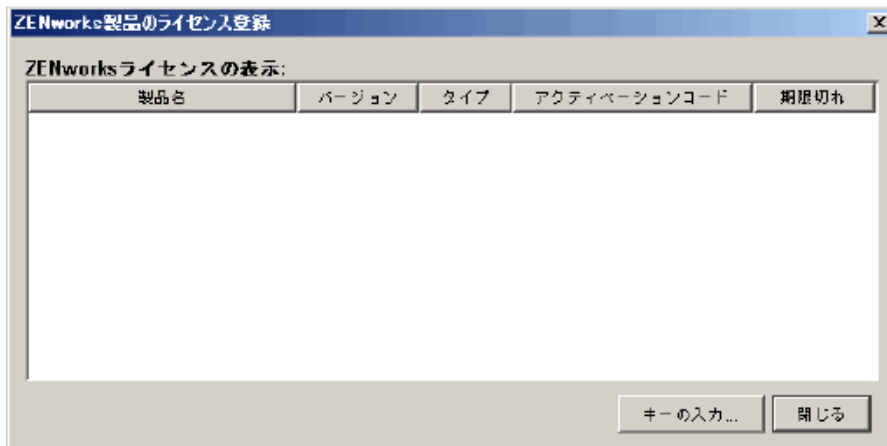
実装のカスタマイズ方法については、次のマニュアルを参照してください。

- Policy Builder とドライバカスタマイズガイド (<http://www.novell.com/documentation/idm/policy/data/front.html>)

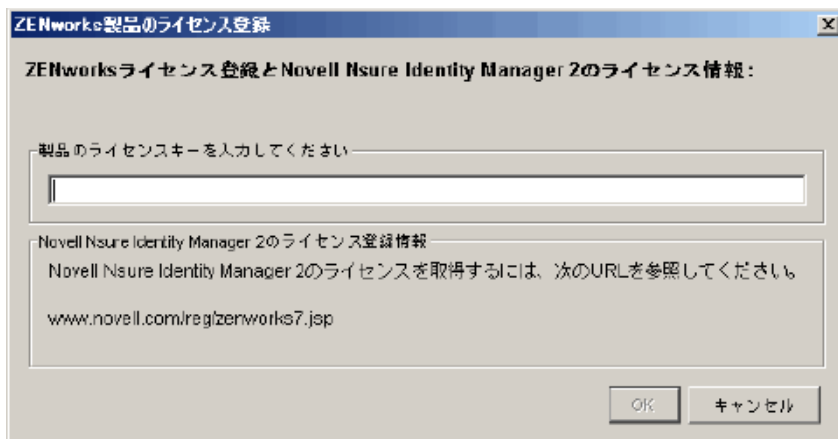
## D.5 Bundle Edition のアクティベーション

Bundle Edition をアクティベートするには、まず Novell ZENworks をアクティベートする必要があります。

- 1 ConsoleOne で、[ツール] > [ライセンス登録] の順にクリックします。



- 2 [キーの入力] を選択して、ZENworks のライセンスキーを入力します。
- 3 [製品のライセンスキー] ダイアログボックスに有効なライセンスキーを入力して、[続行] をクリックします。



- 4 インターネットブラウザから、Novell の、ZENworks 上の IDM 3 の登録ページ (<http://www.novell.com/reg/zenworks7.jsp>) に移動します。
- 5 Novell アカウントにログインします。
- 6 ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 のライセンスキーを入力し、[Submit (送信)] をクリックして、IDM 3 の製品登録とアクセスを開きます。

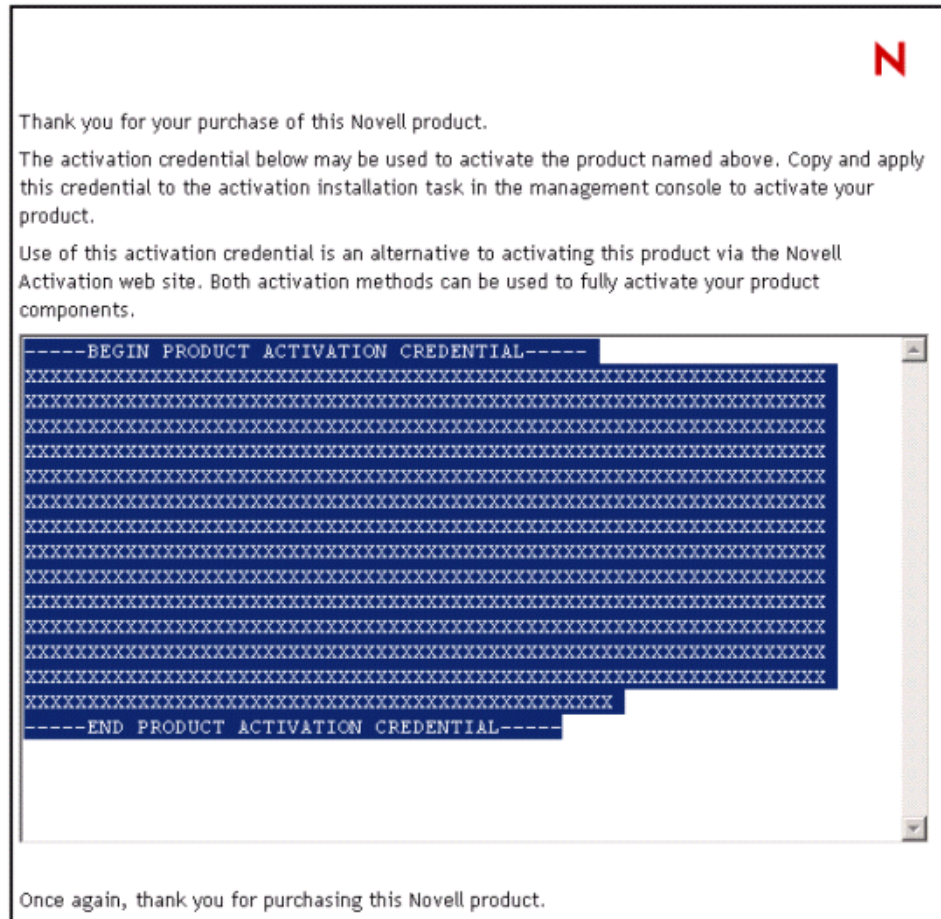
- 7 [License Download (ライセンスのダウンロード)] リンクをクリックして、Identity Manager Bundle Edition のアクティベーションに必要なファイルをダウンロードします。Product Activation Credential (製品アクティベーション証明書) ファイルを保存するか、またはファイルを開いて、内容をクリップボードにコピーします。

ファイルを開くと、その内容は次の図の内容のようになっています。

---

**重要 :** Product Activation Credential ファイルの内容は、変更しないでください。

---



- 8 iManager を開きます。
- 9 [Identity Manager Utilities] > [Install Activation] を選択します。
- 10 ドライバセットを選択するか、ドライバセットを参照して、[Next] をクリックします。
- 11 ドライバセットがサーバと関連付けられていないか、複数のサーバと関連付けられている場合には、ドライバセットを関連付けるサーバを選択して、[Next] をクリックします。
- インストールダイアログボックスが表示されます。
- 12 次のいずれかの手順を実行します。
- ◆ Identity Manager のアクティベーション証明書の保存場所を指定して、[Next] をクリックします。
- または

- ◆ Identity Manager のアクティベーション証明書の内容をテキストエリアにペーストして、[Next] をクリックします。

13 [Finish] をクリックします。

Identity Manager の追加の Integration Module をご利用になる場合は、それらの Integration Module と、さらに *Novell Identity Manager 3* のアクティベーション証明書をインストールする必要があります。他の Identity Manager 製品のアクティベーションについては、「[ジェネリックキーによる Identity Manager のアクティベーション \(http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/brph5hb.html#brph5hb\)](http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/brph5hb.html#brph5hb)」を参照してください。

## D.5.1 アクティベーションに関する FAQ

**Identity Manager を特定のサーバにインストールする必要がありますか？**

はい。Bundle Edition をご利用になる場合は、eDirectory がインストールされているサーバに Identity Manager をインストールする必要があります。製品を正常にアクティベートするためには、そのサーバに ZENworks ライセンスキーを適用しなければなりません。

**アクティベーションできるのは、Identity Manager Bundle Edition のどのバージョンですか？**

ZENworks のご購入時のアクティベーション証明書では、ZENworks 7 に付属する Bundle Edition (Identity Manager Bundle Edition 2.0.1) または ZENworks 7 SP1 に付属するより新しいエディション (Identity Manager Bundle Edition 3.0) を使用できます。Web サイトから受け取るアクティベーション証明書で、両方のエディションをアクティベートすることができます。

**Identity Manager を Solaris サーバや AIX サーバ上で実行できますか？**

Bundle Edition をご利用の場合は、できません。ただし、Identity Manager Remote Loader サービスを使用して、これらのプラットフォームに保存されているデータを同期することはできます。リモートローダサービスにより、MetadirectoryL エンジンと (Solaris サーバまたは AIX サーバ上の) リモートドライバ間で情報を同期できます。詳細については、「[リモートローダの設定 \(http://www.novell.com/documentation/idm/admin/data/bs35pip.html#bs35pip\)](http://www.novell.com/documentation/idm/admin/data/bs35pip.html#bs35pip)」を参照してください。

Solaris サーバまたは AIX サーバ上で Identity Manager を実行するには、*Novell Identity Manager 3* をご利用ください。

**追加の Integration Module を購入しました。どうして機能しないのですか？**

ZENworks スイートを購入された場合、Bundle Edition 製品を無償でご利用になれます。新しい Integration Module を追加するには、*Novell Identity Manager 3* をご購入いただく必要があります。*Novell Identity Manager 3* を入手してアクティベートしない限り、Integration Module をアクティベートすることはできません。

**Integration Module を追加するために *Novell Identity Manager* のライセンスを購入した場合、ソフトウェアを再インストールする必要がありますか？**

ありません。ご購入いただいた製品のアクティベーション キーをインストールするだけで作業完了です。[616 ページのステップ 8](#) を参照してください。

アクティベートされている製品を確認できますか？

アクティベートされている製品の表示方法については、「[Viewing Product Activations\(製品のアクティベーション状況の表示\)](http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/agfhtax.html#agfhtax) (<http://www.novell.com/documentation/idm/install/data/agfhtax.html#agfhtax>)」を参照してください。

# Novell BorderManager VPN クライアントとの相互運用

次の節では、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management と Novell BorderManager® 3.8 VPN クライアントを同じネットワーク環境で使用する場合の制限について説明します。

内容は次の節に分かれています。

- ◆ 619 ページのセクション E.1「シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする」
- ◆ 620 ページのセクション E.2「シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする」

注: この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまりません。

## E.1 シナリオ 1: ワークステーションに Novell Client とデスクトップ管理エージェントをインストールする

次の環境で ZENworks 7 を使用する場合の制限を次の表に示します。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management Server は BorderManager 3.8 と同じ eDirectory® ツリーにインストールされています。
- ◆ Novell Client™ と ZENworks 7 デスク管理エージェントはユーザワークステーションにインストールされています。

表 E-1 Client とエージェントの両方をワークステーションにインストールした場合の制限事項

テストされた機能	ZENworks の動作または制限
[認証]: ユーザが VPN ネットワークと eDirectory ツリーに同時にログインします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ システムの起動時に配布されるよう設定されたポリシーを除く、すべての ZENworks ポリシーがワークステーションに配布されます。</li> <li>◆ ユーザが最初にローカルワークステーションにログインし、次に VPN ネットワークにログインする場合は、エージェントのみの環境での動作および制限と同じです。詳細については、620 ページのセクション E.2「シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする」を参照してください。</li> </ul>

## E.2 シナリオ 2: ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールする

次の環境で ZENworks 7 を使用する場合の制限を次の表に示します。

- ◆ ZENworks 7 Desktop Management Server は BorderManager 3.8 と同じ eDirectory ツリーにインストールされています。
- ◆ ZENworks 7 デスクトップ管理エージェント (Novell Client なし) はユーザワークステーションにインストールされています。

表 E-2 ワークステーションにデスクトップ管理エージェントのみをインストールした場合の制限事項

テストされた機能	ZENworks の動作または制限
認証	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ VPN クライアントは組み込まれません (Novell Client 環境とは異なり、ユーザは常に最初にデスクトップにログインする必要があります)。</li><li>◆ NetIdentity は組み込まれません (VPN クライアントはユーザアカウント情報で NetIdentity セキュアストアを作成しません)。</li></ul>
Automatic Workstation Import (自動ワークステーションインポート)	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ ユーザが VPN クライアントを使用して認証した後に、手動での登録 (zwsreg.exe) が必要になります。</li><li>◆ DNS 名 zenwsimport は、ZENworks Middle Tier Server または DNS/ ホストファイルで設定できます。ただし、ユーザが Middle Tier zenwsimport 設定を使用するには、Middle Tier Server で認証される必要があります。</li><li>◆ ワークステーションは LAN 上で最初に登録し、次に VPN クライアントによって接続できます。</li></ul>



ユーザ関連ポリシーの配布

- ◆ ユーザは、VPN クライアントの起動前にワークステーションにログインする必要があるため、ダイナミックローカルユーザポリシーは失敗します。
- ◆ iPrint ポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。
- ◆ 拡張可能ユーザポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。
- ◆ Windows グループポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。
- ◆ 通常、リモートコントロールポリシーは配布されません。  
 リモートコントロールは、ワークステーションオブジェクトに保存されている、インポートされたワークステーションの IP アドレスは使用しません。  
**BorderManager 3.8** には VPN セッションに固有の IP アドレスがあり、リモートでクライアントを制御する場合はこの IP アドレスを使用する必要があります。  
 ワークステーションオブジェクトはログインされている必要があります。

ワークステーション関連ポリシーの配布

- ◆ スケジュール済みのアクションによる配布が設定されているエージェントポリシーは、通常、VPN クライアントによる認証の前にローカルでログインする必要があるワークステーションに配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。
- ◆ iPrint ポリシーの配布がログインイベントとして、またはスケジュール済みのアクションとして設定されている場合、通常、このポリシーは配布されます。
- ◆ スケジュール済みのアクションによる配布が設定されている拡張可能ポリシーは、通常、VPN クライアントによる認証の前にローカルでログインする必要があるワークステーションに配布されます。設定の変更を有効にするために、ワークステーションの再起動が必要になる場合があります。

Novell Application Launcher™ によるユーザ関連アプリケーションの配布

- ◆ MSI アプリケーション
- ◆ 単純なアプリケーション
- ◆ Web アプリケーション
- ◆ AOT/AXT

- ◆ ユーザが他の Middle Tier アプリケーション (NetStorage など) を使用してすでにログインしている場合でも、配布には、ZENworks Middle Tier Server ログインによる認証を選択する必要があります。
- ◆ ZENworks Middle Tier ログイン機能による認証が完了するまで、オンライン作業とオフライン作業の切り替えが正常に機能しない場合があります。
- ◆ 認証後、アプリケーションが通常どおりに配布されません。

---

**テストされた機能****ZENworks の動作または制限**

---

Novell Application Launcher によるワークステーション関連アプリケーションの配布

- ◆ MSI アプリケーション
- ◆ 単純なアプリケーション
- ◆ Web アプリケーション
- ◆ AOT/AXT

◆ ワークステーションを手動でインポートする必要があります (詳細は、「[Zwsreg.exe の使用方法](#)」を参照してください)。

◆ Workstation Helper が認証された後、ワークステーション関連アプリケーションが通常どおりに配布されます。

---

注 : VPN 接続環境で ZENworks Desktop Management を使用方法については、[Novell Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb\\_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 10096902 を参照してください。

---

# インストールに関するエラーメッセージ

# F

Novell® ZENworks® 7 Desktop Management コンポーネントのインストール時に、ZENworks Desktop Management コンポーネントを正常にインストールできない場合は、エラーメッセージが表示されることがあります。この節では、ZENworks Desktop Management コンポーネントのインストール時に表示されるすべてのエラーメッセージについて説明します。

インストールする ZENworks Desktop Management コンポーネントを選択してください。

- ◆ 623 ページの「Remote Management のインストールエラー」
- ◆ 627 ページの「ワークステーションインベントリのインストールエラー」

---

注：この節の情報は、ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 にも当てはまります。

---

## F.1 Remote Management のインストールエラー

次の各節では、リモート管理コンポーネントのインストールに関連するエラーメッセージについて詳しく説明します。

1110: サーバ `server_name` に Wake-On-LAN 設定プロパティファイルを作成できません

1111: `filename` ファイルをサーバ `server_name` に作成できません。

1112: `WOLENVSET.NCF` ファイルをサーバ `server_name` に作成できません

1113: サーバ `server_name` の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを作成できません

1114: サーバ `server_name` の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを変更できません

1116: サーバ `server_name` 上のリモート管理コンポーネントのインストール先パスが無効です

1117: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 `server_name` 上でサービスとして Wake-on-LAN を作成できません

1118: サーバ `server_name` で `Query.properties` を作成できません

1126: `startwol.ncf` エントリをファイル `filename` (サーバ `server_name` 上) に追加できません

1127: `stopwol.ncf` エントリをファイル `filename` (サーバ `server_name` 上) に追加できません

1134: サーバ `server_name` 上のリモート管理サーバのインストール先パスを設定できません

**1110: サーバ `server_name` に Wake-On-LAN 設定プロパティファイルを作成できません**

ソース：ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]：重大

説明：インストールプログラムは、  
`RemoteManagement_installationpath\zenworks\remmgmt\server\properties\wolconfig.properties` ファイルに次のエントリを作成します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name SingletonPort=65434
LDAPServer=DNS_name_or_IPAddress_of_the_Wake_on_LAN_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

このエラーは、インストールプログラムが `config.properties` ファイルを作成できなかったときに発生します。その結果、インベントリサービスは開始および実行されません。

考えられる原因: `config.properties` ファイルを作成しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) `wolconfig.properties` が存在しない場合は、このファイルを `remotemanagement_installationpath\zenworks\remmgmt\server\properties` ディレクトリに手動で作成します。

- 2 次のエントリを追加します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name SingletonPort=65434
LDAPServer=DNS_name_or_IPAddress_of_the_Wake_on_LAN_server
LDAPPort=LDAP_port_number
```

#### 1111: `filename` ファイルをサーバ `server_name` に作成できません。

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、サーバの `install_path\zenworks\remmgmt\server\bin\wolsetenv.ini` ファイルにエントリを追加します。

考えられる原因: ファイルをコピーしているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: [Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

#### 1112: `WOLENVSET.NCF` ファイルをサーバ `server_name` に作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、NetWare® リモート管理サーバ上に `sys:\system\wolenvset.ncf` ファイルを作成します。 `envset wol_install_dir = Remotemanagement_server_install_path` が追加されます。リモート管理サーバのインストールパスは、 `sys:\system\zenworks.properties` ディレクトリの `RMPATH` キーから取得できます。

考えられる原因: ファイルを修正しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) `wolenvset.ncf` ファイルが `sys:\system` ディレクトリに存在しない場合は、このファイルを手動で作成します。

- 2 次のエントリを追加します。

```
envset wol_install_dir =
```

**1113: サーバ `server_name` の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムで、サーバの Wake-on-LAN サービスオブジェクトの作成に失敗しました。

解決法: ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

**1114: サーバ `server_name` の Wake-on-Lan サービスオブジェクトを変更できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムでサーバの Wake-on-LAN サービスオブジェクトを修正できませんでした。

解決法: ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

**1116: サーバ `server_name` 上のリモート管理コンポーネントのインストール先パスが無効です**

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムでリモート管理インストールディレクトリのパスを取得できませんでした。

解決法: リモート管理のインストールを実行しているコンソールから、管理者権限でサーバにログインしているかどうかを確認します。

解決法: ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

**1117: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 `server_name` 上でサービスとして Wake-on-LAN を作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因 : インストールプログラムは、Windows 2000/2003 サーバに Wake-on-LAN サービスを作成します。この問題は、Wake-on-LAN Service が作成されていない場合に発生します。

解決法 : ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

解決法 : 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

#### 1118: サーバ *server\_name* で Query.properties を作成できません

ソース : ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、*consoleone\_path\bin* ディレクトリに query.properties ファイルを作成します。このファイルが存在しない場合は、リモート管理のインストール用に *rmver=both* エントリが追加されます。ZENworks 7 Server Management のリモート管理コンポーネント上に ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントをインストールする場合は、query.properties がすでに存在しています。

考えられる原因 : query.properties ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法 : *rmver=both* エントリを含むように query.properties ファイルを修正します。

#### 1126: startwol.ncf エントリをファイル *filename* (サーバ *server\_name* 上) に追加できません

ソース : ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムで次の Wake-On-LAN エントリを *zfdstart.ncf* ファイルに書き込むことができませんでした。

```
;ZENWORKS WAKEONLAN SETTINGS  
startwol.ncf
```

考えられる原因 : *zfdstart.ncf* ファイルへの書き込みを行っているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法 : *sys:\system* ディレクトリの *zfdstart.ncf* ファイルに次のエントリを追加します。

```
;ZENWORKS WAKEONLAN SETTINGS  
startwol.ncf
```

#### 1127: stopwol.ncf エントリをファイル *filename* (サーバ *server\_name* 上) に追加できません

ソース : ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity] : 重大

説明: インストールプログラムで次の Wake-On-LAN エントリを zfdstop.ncf ファイルに書き込むことができませんでした。

```
;STOP ZENWORKS WAKEONLAN SERVICES  
stopwol.ncf
```

考えられる原因: zfdstop.ncf ファイルへの書き込みを行っているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: sys:\system ディレクトリの zfdstop.ncf ファイルに次のエントリを追加します。

```
;STOP ZENWORKS WAKEONLAN SETTINGS  
stopwol.ncf
```

**1134: サーバ `server_name` 上のリモート管理サーバのインストール先パスを設定できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; リモート管理のインストール

[Severity] : 重大

説明: リモート管理のインストールでは、レジストリキー HKEY\_LOCAL\_MACHINE\software\novell\zenworks\rmpath を RemoteManagement\_install\_path\remmgmt の値で更新します。

解決法: ZENworks 7 Desktop Management のリモート管理コンポーネントを再インストールします。詳細については、[83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com/\)](http://support.novell.com/) にお問い合わせください。

## F.2 ワークステーションインベントリのインストールエラー

ワークステーションインベントリコンポーネントのインストールに失敗した場合、次のいずれかのエラーメッセージが次の場所にあるログファイルに記録されます。

- ◆ **NetWare** または **Windows** へのインストール : c:\novell\zfdtemp\p1debuglogs.txt
- ◆ **Linux** へのインストール : /var/log/InvRMDebug.log

801: インストールプログラムは filename (サーバ `server_name`) 上の名前を変更できませんでした。filename は使用されている可能性があります。

804: startinv.ncf エントリを filename ファイル (サーバ `server_name` 上) に追加できません

807: サーバ `server_name` の SCANDIR ディレクトリに権利を割り当てることができません

812: サーバオブジェクト Inventory\_Service\_object\_name のパスワードを作成できません

813: サーバ `server_name` でボリュームを取得できません

814: サーバ `server_name` のボリュームを取得中に内部エラーが発生しました

817: サーバ `server_name` で SCANDIR ディレクトリの権利の作成中に内部エラーが発生しました

819: サーバ `server_name` で環境設定プロパティファイルを作成できません

- 826: server\_name サーバの MGMTDBS.NCF ファイルをロードできません
- 831: mgmtlbs.ncf エントリを sys\system\autoexec.ncf ファイル (サーバ server\_name 上) に追加できません。
- 836: インストールプログラムにより新しい mgmtlbs.ncf ファイルが作成されます。インストールプログラムではサーバ server\_name 上にある既存ファイルの名前を変更できません。インストールを続行する前に、mgmtlbs.ncf の名前を変更してください
- 837: サーバ server\_name で TracerMedia プロパティファイルを作成できません
- 874: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 server\_name 上のサービスとしてサービスマネージャを作成できません
- 875: サーバ server\_name でデータベースがインストールされている共有ディレクトリのパスを取得できません
- 876: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 server\_name 上で Sybase サービスを作成できません
- 887: データベースオブジェクト object\_name をサーバ server\_name 上で作成中に内部エラーが発生しました
- 1051: サーバ server\_name 上の javadir.bat に JRE パスを書き込めません
- 1052: filename ファイルをサーバ server\_name に作成できません。
- 1053: 共有 share\_name のパスをサーバ server\_name 上で取得できません
- 1060: STOPSER エントリを filename ファイル (サーバ server\_name) に追加できません
- 1061: UNLOAD DBSRV8.NLM エントリを filename (サーバ server\_name 上) に追加できません
- 1066: データベースオブジェクト database\_object\_name の ODBC パラメータにパブリック権利を割り当てることができません
- 1071: サーバ server\_name の既存の mgmtlbs.ncf の変更中に入出力エラーが発生しました
- 1080: サーバ server\_name のインベントリサービスオブジェクトを作成できません
- 1081: サービスオブジェクト service\_object\_name にスーパーバイザ権限を割り当てることができません
- 1082: NCP サーバ server\_name のトラスティとしてインベントリサービスオブジェクトを割り当てることができません
- 1084: zwinstal.dll を初期化できません
- 1087: インストールを実行しているワークステーションのオペレーティングシステムを検出できません
- 1088: entry (ファイル filename、サーバ server\_name) の確認中に内部エラーが発生しました
- 1091: サーバ server\_name に zwsenv.ncf ファイルを作成できません
- 1092: サーバ server\_name の zwssrv.cfg ファイルにエントリを追加できません
- 1093: サーバ server\_name の zws.properties ファイルにエントリを追加できません
- 1094: サーバ server\_name のインベントリサービスオブジェクトを変更できません
- 1095: サーバ server\_name に invenvset.ncf ファイルを作成できません
- 1097: サーバ server\_name で mgmtlbs.ncf の変更失敗しました
- 1098: サーバ server\_name で mgmtlbs.ncf の作成失敗しました
- 1102: サーバ server\_name でインベントリのインストール先パスを設定できません
- 1104: サーバ server\_name で ZENworks Web Server のインストール先パスを設定できません
- 1105: サーバ server\_name の zenworks.properties ファイルの読み込み中に入出力エラーが発生しました。インベントリサーバの以前のインストールを検出できませんでした
- 1106: サーバ server\_name で有効なデータベースのインストールを検出できません



- 1107: サーバ server\_name 上のインベントリコンポーネントのインストール先パスが無効です
- 1118: サーバ server\_name で query.properties を作成できません
- 1121: データベースオブジェクト名を old\_database\_object\_name から new\_database\_object\_name に変更できません (サーバ server\_name 上)
- 1122: サーバ server\_name でデータベースオブジェクトを変更できません
- 1123: サーバ server\_name でロードスクリプトとアンロードスクリプトの更新に失敗しました
- 1124: server\_name で autoexec.ncf ファイルから古いインベントリエントリを削除できません
- 1125: データベースオブジェクト database\_object\_name をサーバ server\_name 上で作成できません
- 1128: Zenworks Web Server エントリをファイル filename (サーバ server\_name 上) に追加できません
- 1129: サーバ server\_name 上の ZENworks のインストール先パスを設定できません
- 1130: サーバ server\_name 上のデータベースエンジンのインストール先パスを設定できません
- 1131: サーバ server\_name のインベントリデータベースのインストール先パスを設定できません
- 1132: サーバ server\_name 上の Novell Application Launcher データベースのインストール先パスを設定できません
- 1135: サーバ server\_name 上の XML プロキシコンポーネントのインストール先パスが無効です
- 1137: サーバ server\_name 上のロードスクリプトにインベントリエントリを追加できません
- 1138: サーバ server\_name 上のアンロードスクリプトにインベントリエントリを追加できません
- 1139: サーバ server\_name 上のロードスクリプトにデータベースエントリを追加できません
- 1140: サーバ server\_name 上のアンロードスクリプトにデータベースエントリを追加できません
- 1143: サーバ server server\_name 上でインベントリがインストールされているパスを取得できません
- 1148: Windows NT/2000 サーバ server\_name 上のサービスとして ZENworks Web Server を作成できません
- 1149: サーバ server\_name 上の invenvset.bat に ZENworks Web Server のパスを追加できません。
- 1149: サーバ server\_name 上の invenvset.bat に ZENworks Web Server のパスを追加できません。
- 1150: server\_name 上のロードスクリプトに ZENworks Web Server のエントリを追加できません
- 1151: server\_name 上のアンロードスクリプトに ZENworks Web Server のエントリを追加できません
- 1152: オブジェクト Novell\_eDirectory\_object について入力された DN を取得できません
- 1153: サーバ server\_name 上の password.txt ファイルにインベントリエントリを追加できません
- 1154: サーバ server\_name の zws.properties ファイルに password.txt ファイルのパスのエントリを追加できません。

- 1159: entry エントリをファイル filename (サーバ server\_name 上) に追加できません
- 1160: entry1 を entry2 に置換できません (ファイル filename 内)
- 1161: サーバ server\_name でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが検出されました。インストールでは Inventory Service を自動的に開始できません。ポリシーサービスと配布サービスを開始した後、インベントリサービスを開始してください
- 1162: サーバ server\_name でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください
- 1163: サーバ server\_name で ZENworks Web Server を起動できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください
- 1164: サーバ server\_name でインベントリサービスを開始できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください
- 1166: サーバ server\_name に zwssearch.ncf ファイルを作成できません
- 1167: サーバ server\_name 上の ZENworks Web Server に検索パスを追加できません
- 1168: Unable to write version information to the registry on the server server\_name
- 1169: ファイル filename (サーバ server\_name 上) から以前のインベントリエントリを削除できません
- 1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server server\_name
- 1171: ファイル filename (サーバ server\_name 上) に ZENworks Web Server のエントリを追加できません
- 2701: サーバ server\_name 上に zwsstart.ncf ファイルを作成できません
- 2702: サーバ server\_name 上のロードスクリプトからエントリを削除できません
- 2703: サーバ server\_name 上のアンロードスクリプトからエントリを削除できません
- 2704: サーバ server\_name の zws.ncf ファイルにエントリを追加できません
- 2707: サーバ server\_name に dbconfig.properties ファイルを作成できません
- 2708: サーバ server\_name のディレクトリ directory\_name に権限を割り当てられません
- 2717: インストールプログラムによって mgmt dbs.sh. ファイルが新規作成されました。インストールプログラムではサーバ server\_name の既存のファイル名を変更できませんでした。インストールを続行する前に mgmt dbs.sh の名前を変更してください
- 2718: サーバ server\_name の既存の mgmt dbs.sh ファイルを変更中に入出力エラーが発生しました。
- インストール先パスが長すぎます。
- share\_name 共有を server\_name (directory\_path) に作成できません

**801:** インストールプログラムは **filename** (サーバ **server\_name**) 上の名前を変更できませんでした。 **filename** は使用されている可能性があります。

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 情報

説明: インストールプログラムでコンピュータ上に以前のインストールが検出されると、ファイルの名前が変更されます。このエラーは、インストールプログラムがファイルの名前を変更できないときに発生します。

解決法: 必要な操作はありません。ファイル名を変更せずにインストールプログラムの処理が続行します。

**804: startinv.ncf エントリを filename ファイル ( サーバ server\_name 上 ) に追加できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : NetWare サーバでは、インストールプログラムが Inventory サーバの sys:\system\autoexec.ncf ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZEN_web_server_installation_path zws.ncf SEARCH ADD  
sys:\java\njclv2\bin ;ZENworks Inventory Settings startinv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリを autoexec.ncf ファイルに追加できないときに発生します。

考えられる原因 : 他のアプリケーションが autoexec.ncf ファイルを使用またはロックしているか、autoexec.ncf ファイルが存在しません。

解決法 : 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:\system ディレクトリに手動で autoexec.ncf ファイルを作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZEN_web_server_installation_path zws.ncf SEARCH  
ADD sys:\java\njclv2\bin ;ZENworks Inventory Settings startinv.ncf
```

**807: サーバ server\_name の SCANDIR ディレクトリに権利を割り当てることができません**

ソース : ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムが \scandir ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

考えられる原因 : 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法 : 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていることを確認します。詳細については、を参照してください。

考えられる原因 : インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法 : Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[71 ページの「ユーザワークステーションの要件」](#)を参照してください。

解決法 : ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法 : ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法：問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**812: サーバオブジェクト *Inventory\_Service\_object\_name* のパスワードを作成できません**

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重大

解決法：インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法：問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**813: サーバ *server\_name* でボリュームを取得できません**

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重要

説明：サーバにすでに Sybase がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できないときに発生します。

解決法：必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

**814: サーバ *server\_name* のボリュームを取得中に内部エラーが発生しました**

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重要

説明：サーバにすでに Sybase がインストールされている場合、インストールプログラムは指定したサーバのボリュームを表示します。このエラーは、インストールプログラムがボリュームを表示できない場合に発生します。

解決法：必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

**817: サーバ *server\_name* で SCANDIR ディレクトリの権利の作成中に内部エラーが発生しました**

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重大

説明：インストールプログラムは、\scandir ディレクトリのトラスティとして「ルート」を割り当て、作成権限、削除権限、および書き込み権限を

与えます。このエラーは、インストールプログラムがこれらの権利を \scandir に割り当てることができなかつたときに発生します。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。

解決法： ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 819: サーバ *server\_name* で環境設定プロパティファイルを作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、  
*Inventoryserver\_installationpath\zenworks\inv\server\  
wminv\properties\config.properties* ファイルに次のエントリを作成しま  
す。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name  
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object SingletonPort=65433  
StoreRolledupAuditData=falseLDAPServer=DNS_name_of_the_Inventory_ser  
ver LDAPPort=LDAP_port_number
```

このエラーは、インストールプログラムが *config.properties* ファイルを  
作成できなかったときに発生します。その結果、インベントリサービ  
スが有効になりません。

考えられる原因： *config.properties* ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが  
発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

1 (条件付き) *config.properties* が存在しない場合は、このファイル  
を  
*inventoryserver\_installationpath\zenworks\inv\server\wminv\properties*  
ディレクトリに作成します。

2 次のエントリを追加します。

```
NDSTree=Novell_eDirectory_tree_name  
InventoryServiceDN=DN_of_Inventory_Service_object  
SingletonPort=65433  
StoreRolledupAuditData=falseLDAPServer=DNS_name_of_the_Invento  
ry_server LDAPPort=LDAP_port_number
```

### 826: *server\_name* サーバの *MGMTDBS.NCF* ファイルをロードできません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーショ  
ンインベントリのインストール

[Severity]： 重要

説明： インストールプログラムが、インストール後に Sybase を起動できません。

解決法： mgmt dbs.ncf ファイルを手動でロードするには、NetWare のコンソールプロンプトで「sys:\system\mgmt dbs.ncf」と入力します。

### 831: mgmt dbs.ncf エントリを sys\system\autoexec.ncf ファイル (サーバ *server\_name* 上) に追加できません。

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： 他のアプリケーションが autoexec.ncf ファイルをロックしているか、autoexec.ncf ファイルが存在しません。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) autoexec.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:\system ディレクトリに手動で autoexec.ncf ファイルを作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。  
;ZENworks Database Settings sys:\system\mgmt dbs.ncf

### 836: インストールプログラムにより新しい mgmt dbs.ncf ファイルが作成されます。インストールプログラムではサーバ *server\_name* 上にある既存ファイルの名前を変更できません。インストールを続行する前に、mgmt dbs.ncf の名前を変更してください

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、mgmt dbs.ncf ファイルに変更を加える前に、このファイルのバックアップを試みます。このエラーは、バックアップに失敗したときに発生します。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2.1 「NetWare および Windows サーバ上でのワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

### 837: サーバ *server\_name* で TracerMedia プロパティファイルを作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、tracermedia.properties ファイルを *inventory\_server\_installaton\_path\zenworks\inv\server\wminv\ properties* ディレクトリに作成します。このエラーは、インストールプログラムがこのファイルの作成に失敗したときに発生します。

考えられる原因： tracermedia.properties ファイルを作成しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: 次の内容で *inventory\_server\_installaton\_path\zenworks\inv\server\wminv\properties* ディレクトリに *tracermedia.properties* ファイルを作成します。

`com.novell.utility.trace.TraceMediumConsole = ON; INFORMATION`

`com.novell.utility.trace.TraceMediumFile = ON; ALL;`

*Inventory\_server\_logs\_path*

`com.novell.utility.trace.TraceMediumWindow = OFF; VERBOSE`

#### **874: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server\_name* 上のサービスとしてサービスマネージャを作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、Windows インベントリサーバ上のサービスとしてサービスマネージャを作成します。このエラーは、このインストールに失敗した場合に発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### **875: サーバ *server\_name* でデータベースがインストールされている共有ディレクトリのパスを取得できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

考えられる原因: 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法: 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインします。

#### **876: Windows NT/ Windows 2000/ Windows Server 2003 *server\_name* 上で Sybase サービスを作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**887: データベースオブジェクト *object\_name* をサーバ *server\_name* 上で作成中に内部エラーが発生しました**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、Sybase の Database オブジェクトを作成し、このオブジェクトのプロパティを設定します。このエラーは、インストールプログラムがこのオブジェクトを作成できないときに発生します。

解決法: [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1051: サーバ *server\_name* 上の *javadir.bat* に JRE パスを書き込めません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリを持つ *javadir.bat* ファイルを *inventory\_server\_installation\_directory\zenworks\server\wminv\bin* ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

このエラーは、インストールプログラムが *javadir.bat* ファイルを指定した内容で作成できなかったときに発生します。

解決法: 次のエントリを持つ *javadir.bat* ファイルを *inventory\_server\_installation\_directory\zenworks\server\wminv\bin* ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

**1052: *filename* ファイルをサーバ *server\_name* に作成できません。**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリを持つ *javadir.bat* ファイルを *inventory\_server\_installation\_directory\zenworks\server\wminv\bin* ディレクトリに作成します。

```
set java_dir=installation_path\Inv\jre
```

このエラーは、インストールプログラムが *javadir.bat* ファイルを作成できないときに発生します。

考えられる原因: *javadir.bat* ファイルを作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次のエントリを持つ *javadir.bat* ファイルを *inventory\_server\_installation\_directory\zenworks\server\wminv\bin* ディレクトリに作成します。



set java\_dir=installation\_path\Inv\jre

### 1053: 共有 **share\_name** のパスをサーバ **server\_name** 上で取得できません

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリ、インベントリデータベース、またはプロキシサービスのインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因 : コンポーネントがインストールされているパスの取得中にエラーが発生しました。

解決法 : 管理者権限またはそれと同等の権限でサーバにログインしていることを確認します。

解決法 : ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

### 1060: STOPSER エントリを **filename** ファイル (サーバ **server\_name**) に追加できません

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、**invstop.ncf** ファイルにエントリを追加してインベントリサービスを停止することができませんでした。

考えられる原因 : **invstop.ncf** ファイルにエントリを追加しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法 : 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) **invstop.ncf** ファイルが存在しない場合は、**sys:\system** ディレクトリに **invstop.ncf** ファイルを作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。  
; ZENworks Inventory Settings  
;-----Stop Inventory services and the Inventory database-----  
StopSer \*

---

重要 : **invstop.ncf** ファイルがすでに存在する場合は、データベースエントリ **unload dbsrv8.nlm** の前に指定のエントリを追加します。

---

### 1061: UNLOAD DBSRV8.NLM エントリを **filename** (サーバ **server\_name** 上) に追加できません

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、**invstop.ncf** ファイルにエントリを追加して Sybase データベースを停止することができません。

考えられる原因: `invstop.ncf` ファイルにエントリを追加しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: `sys:\system\invstop.ncf` ファイルに次のエントリを追加します。

`;ZENworks Database Settings Unload dbsrv8.nlm`

#### 1066: データベースオブジェクト **database\_object\_name** の ODBC パラメータにパブリック権利を割り当てることができません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 警告

説明: データベースオブジェクトの設定中に内部エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ConsoleOne® でデータベースオブジェクトを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [NDS の権利] > [このオブジェクトのトラスティ割り当て] > [トラスティの追加] の順にクリックします。
- 3 [Public] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [プロパティの追加] > [`zendbODBCConnectionParameters`] > [OK] の順にクリックします。
- 5 [プロパティの追加] > [`zendbODBCDriverFileName`] > [OK] の順にクリックします。
- 6 [プロパティの追加] > [`zendbODBCDataSourceName`] > [OK] の順にクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

#### 1071: サーバ **server\_name** の既存の `mgmt dbs.ncf` の変更中に入出力エラーが発生しました

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムが、既存の `mgmt dbs.ncf` ファイルを修正できません。

考えられる原因: 既存の `mgmt dbs.ncf` ファイルを変更しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 1080: サーバ **server\_name** のインベントリサービスオブジェクトを作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムが、サーバのインベントリサービスオブジェクトを作成できません。

解決法: インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 1081: サービスオブジェクト **service\_object\_name** にスーパーバイザ権限を割り当てるのができません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、スーパーバイザ権利によるそれ自体へのエントリ権限をインベントリサービスオブジェクトに割り当てられません。

解決法: インベントリサービスオブジェクトにスーパーバイザ権を割り当てます。

- 1 ConsoleOne で Inventory Service オブジェクトを右クリックし、[このオブジェクトのトラスティ割り当て] をクリックします。
- 2 [トラスティの追加] ボタンをクリックし、[インベントリサービス] オブジェクトを選択します。
- 3 [プロパティ] リストから [エントリ権限] を選択します。
- 4 [権利] リストの [スーパーバイザ] チェックボックスをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 [適用] > [閉じる] の順にクリックします。

### 1082: NCP サーバ **server\_name** のトラスティとしてインベントリサービスオブジェクトを割り当てるのができません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: Inventory Service オブジェクトは、「すべての属性に対する権利」の読み取りおよび比較権限を持つ、NCP™ サーバのトラスティに設定されています。

解決法: Inventory Service オブジェクトを NCP サーバのトラスティとして割り当てます。

- 1 ConsoleOne で NCP サーバオブジェクトを右クリックし、[このオブジェクトのトラスティ割り当て] をクリックします。
- 2 [トラスティの追加] ボタンを追加します。
- 3 Inventory Service オブジェクトを選択します。
- 4 [プロパティ] リストから [すべての属性権] を選択します。
- 5 [権利] リストの [読み込み] および [比較] チェックボックスをクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [適用]、[閉じる] の順にクリックします。

#### 1084: zwinstal.dll を初期化できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### 1087: インストールを実行しているワークステーションのオペレーティングシステムを検出できません

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: ZENworks 7 インストールプログラムで、インストールプログラムが実行されているワークステーションのオペレーティングシステムを検出できません。

解決法: Windows ワークステーションに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、[71 ページの § 章 7 「ユーザワークステーションの要件」](#)を参照してください。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1088: entry (ファイル *filename*、サーバ *server\_name*) の確認中に内部エラーが発生しました**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1091: サーバ *server\_name* に *zwsenv.ncf* ファイルを作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリを持つ *zwsenv.ncf* ファイルを *\zws* ディレクトリに作成します。

```
envset
zwsinstallpath=ZENworks_Web_Server_installation_path
```

このエラーは、インストールプログラムが *zwsenv.ncf* ファイルを *\zws* ディレクトリに作成できなかったときに発生します。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、*sys:\system\zenworks.properties* ファイル内の *ZWSPATH* キーの値をメモします。
- 2 次のエントリを持つ *zwsenv.ncf* ファイルを *ZWS* ディレクトリに作成します。

```
envset
zwsinstallpath=ZENworks_Web_Server_installation_path
```

**1092: サーバ *server\_name* の *zwssrv.cfg* ファイルにエントリを追加できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、サーバの *zenworks\_web\_server\_installation\_directory\bin\zwssrv.cfg* ファイルに次のエントリを追加します。

```
Computer=Windows_machine_name
```

```
CLASSPATH=ZWS_installation_directory\ZenWebServer.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpcext.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpcservlet.jar;  
ZWS_installation_directory\jcert.jar; ZWS_installation_directory\jnet.jar;  
ZWS_installation_directory\jdom.jar; ZWS_installation_directory\jsse.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpc.jar;  
ZWS_installation_directory\servlet.jar;  
ZWS_installation_directory\xerces.jar;
```

```
BinDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

```
WorkingDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリの追加に失敗した場合には発生します。

考えられる原因: ファイルにエントリを追加しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスをメモします。
  - 1a REGEDIT を起動します。
  - 1b HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\NOVELL\ZENWORKS  
レジストリエントリの ZWSPath 属性の値をメモします。

- 2 *zenworks\_web\_server\_installation\_directory*\bin\zwsrv.cfg ファイルに次のエントリを追加します。

```
Computer=Windows_machine_name
```

```
CLASSPATH=ZWS_installation_directory\ZenWebServer.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpcext.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpcservlet.jar;  
ZWS_installation_directory\jcert.jar;  
ZWS_installation_directory\jnet.jar;  
ZWS_installation_directory\jdom.jar;  
ZWS_installation_directory\jsse.jar;  
ZWS_installation_directory\xmlrpc.jar;  
ZWS_installation_directory\servlet.jar;  
ZWS_installation_directory\xerces.jar;
```

```
BinDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

```
WorkingDirectory=ZWS_installation_directory\bin
```

### 1093: サーバ *server\_name* の *zws.properties* ファイルにエントリを追加できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムが *zws.properties* ファイルを編集できません。

考えられる原因: *zws.properties* ファイルにエントリを追加しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法：ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法：問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

#### 1094: サーバ *server\_name* のインベントリサービスオブジェクトを変更できません

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重大

説明：インストールプログラムが、既存のインベントリサービスオブジェクトを修正できません。

解決法：ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法：問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

#### 1095: サーバ *server\_name* に *invenvset.ncf* ファイルを作成できません

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]：重大

説明：インストールプログラムは、*invenvset.ncf* ファイルを次の内容で NetWare Inventory サーバの *sys:\system* ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir=Inventory_server_installation_path
```

```
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

解決法：次の手順を実行します。

- 1 Inventory サーバのインストールパスを取得するには、*sys:\system\zenworks.properties* ファイル内の *InvSrvpath* キーの値をメモします。
- 2 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するには、*sys:\system\zenworks.properties* ファイル内の *ZWSPath* キーの値をメモします。
- 3 次のエントリを持つ *invenvset.ncf* ファイルを次のエントリで *sys:\system* ディレクトリに作成します。

```
envset inv_install_dir=Inventory_server_installation_path  
envset zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

#### 1097: サーバ *server\_name* で *mgmt dbs.ncf* の変更失敗しました

ソース：ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因: mgmt dbs.ncf を編集しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### 1098: サーバ `server_name` で `mgmt dbs.ncf` の作成に失敗しました

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因: mgmt dbs.ncf を作成しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### 1102: サーバ `server_name` でインベントリのインストール先パスを設定できません

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因: インストールプログラムが、レジストリで Inventory サーバのインストールパスを更新できませんでした。

解決法: インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### 1104: サーバ `server_name` で ZENworks Web Server のインストール先パスを設定できません

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

考えられる原因: インストールプログラムが、レジストリで ZWS サーバのインストールパスを更新できません。

解決法: インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。



解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1105: サーバ `server_name` の `zenworks.properties` ファイルの読み込み中に入出力エラーが発生しました。インベントリサーバの以前のインストールを検出できませんでした**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Linux サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 情報

説明： NetWare の場合：インストールプログラムは、`sys:\system\zenworks.properties` ファイルを読み取って、インベントリが以前にインストールされているかどうかを確認します。

Linux の場合：インストールプログラムは、`/etc/opt/novell/zenworks/zenworks.properties` ファイルを読み取って、インベントリが以前にインストールされているかどうかを確認します。

解決法： 必要な操作はありません。

**1106: サーバ `server_name` で有効なデータベースのインストールを検出できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 情報

考えられる原因： レジストリからデータベースエンジンの場所を検出できません。

解決法： 必要な操作はありません。インストールプログラムは新規のインストールと解釈して処理を続行します。

**1107: サーバ `server_name` 上のインベントリコンポーネントのインストール先パスが無効です**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

解決法： インベントリサーバを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1118: サーバ `server_name` で `query.properties` を作成できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムは、`insver=zfd` というエントリを持つ `query.properties` ファイルを `consoleone_installation_path\bin` に作成します。ワークステーションイン

ベントリが ZENworks 7 Server Management のサーバインベントリコンポーネント上にインストールされている場合、insver の値は「both」に変わります。

考えられる原因: query.properties ファイルを作成または更新しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法: query.properties ファイルがすでに存在する場合は、insver の値が正しいことを確認します。

解決法: query.properties ファイルが存在しない場合は、query.properties ファイルを次の内容で consoleone\_installation\_path\bin ディレクトリに手動で作成します。

- ◆ ワークステーションインベントリを新規のセットアップでインストールする場合は、「insver=zfd」と入力します。
- ◆ ワークステーションインベントリを ZENworks 7 Server Management のサーバインベントリコンポーネント上にインストールする場合は、「insver=both」と入力します。

#### 1121: データベースオブジェクト名を *old\_database\_object\_name* から *new\_database\_object\_name* に変更できません (サーバ *server\_name* 上)

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: ZENworks 7 Desktop Management のワークステーションインベントリコンポーネントを ZENworks for Desktops 4.x インベントリ上にインストールする場合は、インストールプログラムが ZENworks for Desktops 4.x データベースオブジェクトの名前を *server\_name\_invDatabase* に変更します。このエラーは、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムが Database オブジェクトの名前を変更できないときに発生します。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### 1122: サーバ *server\_name* でデータベースオブジェクトを変更できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムが、サーバ上の既存の Database オブジェクトを変更できません。

解決法: インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1123: サーバ `server_name` でロードスクリプトとアンロードスクリプトの更新に失敗しました**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、NetWare クラスタサーバ用にロードスクリプトおよびアンロードスクリプトにエントリを追加します。このエラーは、インストールプログラムがこうしたスクリプトにエントリを追加できない場合に発生します。

解決法： インストール中に、インベントリサーバまたはデータベースのインストールを選択した場合、選択したコンポーネントを再インストールします。インベントリサーバとデータベースの両方のインストールを選択した場合、両方のコンポーネントを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

**1124: `server_name` で `autoexec.ncf` ファイルから古いインベントリエントリを削除できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重要

説明： インストールプログラムは、次のエントリをサーバ上の `sys:\system\autoexec.ncf` ファイルから削除します。 `sybase.ncf`、`mgmt dbs.ncf`、`gatherer.ncf`、`master.ncf`、および `storer.ncf`。

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリを削除できないときに発生します。

解決法： 次のエントリを `autoexec.ncf` から手動で削除します。 `sybase.ncf`、`mgmt dbs.ncf`、`gatherer.ncf`、`master.ncf`、および `storer.ncf`。

**1125: データベースオブジェクト `database_object_name` をサーバ `server_name` 上で作成できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1128: Zenworks Web Server エントリをファイル *filename* ( サーバ *server\_name* 上 ) に追加できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重要

説明 : インストールプログラムは、`sys:\system\autoexec.ncf` ファイルに ZENworks Web Server を起動するためのエントリを追加することができませんでした。

解決法 : `sys:\system\autoexec.ncf` ファイルに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zenworks_web_server_installation_path
zenworks_installation_volume\zenworks\zfs.ncf
```

**1129: サーバ *server\_name* 上の ZENworks のインストール先パスを設定できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、レジストリに ZENworks のパスを設定できませんでした。

解決法 : ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法 : 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1130: サーバ *server\_name* 上のデータベースエンジンのインストール先パスを設定できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

解決法 : ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法 : 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1131: サーバ *server\_name* のインベントリデータベースのインストール先パスを設定できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムが、レジストリに Inventory データベースのインストールパスを設定できません。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 1132: サーバ *server\_name* 上の Novell Application Launcher データベースのインストール先パスを設定できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのインベントリデータベースのインストール

[Severity]： 重大

説明： ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムは、レジストリキー HKEY\_LOCAL\_MACHINE\software\novell\zenworks\ naldbpath を *database\_installation\_path*\database の値で更新します。

考えられる原因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていることを確認します。

解決法： レジストリキー HKEY\_LOCAL\_MACHINE\software\novell\zenworks\ naldbpath を手動で作成し、値を *database\_installation\_path*\database にします。

### 1135: サーバ *server\_name* 上の XML プロキシコンポーネントのインストール先パスが無効です

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムが、XML Proxy Service をインストールする有効なパスを取得できませんでした。

解決法： XML Proxy Service を再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 1137: サーバ *server\_name* 上のロードスクリプトにインベントリエントリを追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、ロードスクリプトでデータベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
```

```
invclst:\zenworks\zfs.ncf SEARCH ADD SYS:\JAVA\NJCLV2\BIN
;ZENworks Inventory Settings StartInv.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトで、データベースエントリの後に次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD zws_installation_path
```

```
invclst:\zenworks\zfs.ncf SEARCH ADD SYS:\JAVA\NJCLV2\BIN
;ZENworks Inventory Settings StartInv.ncf
```

### 1138: サーバ **server\_name** 上のアンロードスクリプトにインベントリエントリを追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、アンロードスクリプトの `del secondary ipaddress` 行の前に次のエントリを追加します。

```
java -killzenWSInv delay 8 java -killzfsexit
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリ ( 存在する場合 ) の後、および “`del secondary ipaddress`” エントリの前に追加します。

```
java -killzenWSInv delay 8 java -killzfsexit
```

### 1139: サーバ **server\_name** 上のロードスクリプトにデータベースエントリを追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
;ZENworks Database Settings sys:\system\mgmt dbs.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法： ロードスクリプトで、インベントリエントリの前に次のエントリを追加します。

```
;ZENworks Database Settings sys:\system\mgmt dbs.ncf
```

**1140: サーバ `server_name` 上のアンロードスクリプトにデータベースエントリを追加できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

このエラーは、インストールプログラムが、指定されたエントリをアンロードスクリプトに追加できない場合に発生します。

解決法: 次のエントリを、アンロードスクリプトのインベントリエントリの後、および `del secondary ipaddress` エントリの前に追加します。

```
unload dbsrv8.nlm <<y
```

**1143: サーバ `server server_name` 上でインベントリがインストールされているパスを取得できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重要

説明: 旧バージョンの ZENworks がインストールされているパスを、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムが取得できません。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1148: Windows NT/2000 サーバ `server_name` 上のサービスとして ZENworks Web Server を作成できません**

ソース: ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#)を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1149: サーバ *server\_name* 上の *invenvset.bat* に ZENworks Web Server のパスを追加できません。**

ソース : ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、次のエントリを持つ *invenvset.bat* ファイルを *n inventory\_server\_installation\_path\zenworks\inv\server\wminv\bin* ディレクトリに作成します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

このエラーは、インストールプログラムが ZWS のインストールパスをレジストリから取得できないときに発生します。

解決法 : *invenvset.bat* ファイルに次のエントリを手動で追加します。

```
set zws_install_dir=ZWS_installation_path
```

ZWS のインストールパスを取得するには、次の操作を行います。

- 1 REGEDIT を起動します。
- 2 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\software\novell\zenworks レジストリエントリの ZWSPath 属性の値をメモします。

**1150: *server\_name* 上のロードスクリプトに ZENworks Web Server のエントリを追加できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、次のエントリをロードスクリプトに追加します。

```
SEARCH ADD ZWS_installation_path ZWS.ncf
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリをロードスクリプトに追加できないときに発生します。

解決法 : ロードスクリプトに次のエントリを追加します。

```
SEARCH ADD ZWS_installation_path ZWS.ncf
```

**1151: *server\_name* 上のアンロードスクリプトに ZENworks Web Server のエントリを追加できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : インストールプログラムは、次のエントリをアンロードスクリプトに追加します。



```
java -killzwsexit
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリをアンロードスクリプトに追加できないときに発生します。

解決法： 指定のエントリを、アンロードスクリプトのエントリ `del secondary ipaddress` の前に手動で追加します。

### 1152: オブジェクト **Novell\_eDirectory\_object** について入力された DN を取得できません

ソース： ZENworks Desktop Management; Linux サーバでのインベントリサーバまたはインベントリデータベースのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： Novell eDirectory™ オブジェクトに対して入力された DN の取得中に内部エラーが発生しました。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

### 1153: サーバ **server\_name** 上の **password.txt** ファイルにインベントリエントリを追加できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、XML Proxy Service のインストール時に、**password.txt** ファイルを次のエントリで ZWS のインストールディレクトリに作成または更新します。

```
inventory=novell
```

考えられる原因： **password.txt** ファイルを作成または更新しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) **password.txt** が存在しない場合は、ZENworks Web Server インストールディレクトリに作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
inventory=novell
```

### 1154: サーバ **server\_name** の **zws.properties** ファイルに **password.txt** ファイルのパスのエントリを追加できません。

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールは、  
`zenworks_web_server_installation_directory\zws.properties` に次のエントリ  
を追加します。

```
passwordfile=path_of_password.txt
```

このエラーは、インストールプログラムがこのエントリで  
`zws.properties` ファイルを作成できないときに発生します。

考えられる原因： `zws.properties` ファイルを作成しているときに、入力/出力エラーが発生  
しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 (条件付き) `zws.properties` が存在しない場合は、ZENworks Web  
Server インストールディレクトリに作成します。
- 2 ファイルに次のエントリを追加します。

```
passwordFile=path_of_password.txt
```

#### **1159: entry エントリをファイル filename (サーバ server\_name 上) に追加できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバ  
でのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： `sys:\system\zfdstop.ncf` ファイルに `InvStop.ncf` エントリを追加している  
ときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法： `InvStop.ncf` エントリが存在しない場合は、`sys:\system\zfdstop.ncf` ファ  
イルに手動で追加します。

#### **1160: entry1 を entry2 に置換できません (ファイル filename 内)**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバ  
でのプロキシサービスのインストール

[Severity]： 重大

説明： Proxy Service の再インストール時に、インストールプログラムは  
`zws.properties` ファイル内のプロキシポート値を新しい値に置換しま  
す。このエラーは、インストールプログラムがプロキシポート値を新  
しい値に置換できないときに発生します。

解決法： `zws_installation_directory\zws.properties` ファイルに、プロキシポートの  
新しい値を手動で入力します。

**1161: サーバ server\_name でポリシーサービスと配布サービスの以前のインストールが  
検出されました。インストールでは Inventory Service を自動的に開始できません。ポリ  
シーサービスと配布サービスを開始した後、インベントリサービスを開始してください**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバ  
の Standalone preconfiguration

[Severity] : 情報

説明: ZENworks 7 のインストール時に **Standalone Preconfiguration** を選択した場合、インストールプログラムはスタンドアロンサーバの設定を行い、**Inventory Service** および **ZENworks Web** サーバサービスを自動的に起動します。ただし、**ZENworks 7 Server Management** のポリシーサービスと配布サービスがすでにインストールされている場合、ZENworks 7 インストールプログラムは **Inventory Service** および **ZENworks Web** サーバサービスを自動的に起動しません。

解決法: **Inventory Service** を起動する前に、ポリシーサービスと配布サービスを手動で起動する必要があります。ポリシーサービスと配布サービスの起動方法については、[ZENworks 7 Documentation Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks7/\)](http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks7/) を参照してください。

**1162: サーバ `server_name` でインベントリサーバの不完全なインストールが検出されました。インベントリサーバを再インストールしてください**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバの **Standalone Preconfiguration**

[Severity] : 重大

説明: ZENworks 7 のインストールプログラムは、ZWS サービスを起動する前に、`zenworks.properties` ファイルで ZWS のパスを検索します。このエラーは、インストールプログラムがこのパスを見つけることができないときに発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

**1163: サーバ `server_name` で ZENworks Web Server を起動できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの **Standalone preconfiguration**

[Severity] : 重大

説明: ZENworks 7 のインストールプログラムが ZENworks Web サーバサービスを起動できませんでした。

解決法: サーバ上の `sys:\system\zws.ncf` ファイルを手動で実行します。

**1164: サーバ `server_name` でインベントリサービスを開始できません。詳細については、エラーメッセージのマニュアルを参照してください**

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの **Standalone Preconfiguration**

[Severity] : 重要

説明: ZENworks 7 のインストールプログラムがインベントリサービスを起動できませんでした。

解決法: サーバ上の `sys:\system\startinv.ncf` ファイルを手動で実行します。

**1166: サーバ *server\_name* に *zwssearch.ncf* ファイルを作成できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバの Standalone Preconfiguration

[Severity] : 重要

説明 : ZENworks 7 のインストールプログラムは、エントリ *SEARCH ADD ZENworks\_Web\_Server\_installation\_path* を持つ *sys:\system\zwssearch.ncf* ファイルをサーバ上に作成します。

解決法 : サーバ上に *sys:\system\zwssearch.ncf* ファイルを手動で作成します。

**1167: サーバ *server\_name* 上の ZENworks Web Server に検索パスを追加できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリまたはプロキシサービスのインストール

[Severity] : 重要

説明 : ZENworks 7 のインストールプログラムが、サーバ上の *sys:\system\zwssearch.ncf* ファイルを起動できません。

解決法 : サーバ上の *sys:\system\zwssearch.ncf* ファイルを手動で実行します。これにより、ZENworks Web サーバに検索パスが自動的に追加されます。

**1168: Unable to write version information to the registry on the server *server\_name***

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity] : 重大

説明 : ZENworks 7 のインストールプログラムが、レジストリにバージョン情報を書き込めませんでした。

解決法 : ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、[550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」](#) を参照してください。

解決法 : 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**1169: ファイル *filename* (サーバ *server\_name* 上) から以前のインベントリエントリを削除できません**

ソース : ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでの Sybase インベントリデータベースのインストール

[Severity] : 重要

説明 : ZENworks for Desktops 4.x から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする場合は、ZENworks 7 のインストールプログラムが ZENworks for Desktops 4.x インベントリのエントリを削除します。

このエラーは、ZENworks 7 のインストールプログラムが ZENworks for Desktops 4.x インベントリのエントリを削除できない場合に発生します。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

#### 1170: Unable to add entries to the zenworks.properties file, on server *server\_name*

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: ZENworks 7 インストールプログラムが、バージョン情報およびインストールパスを zenworks.properties ファイルに書き込めませんでした。

解決法: ワークステーションインベントリを再インストールします。詳細については、550 ページのセクション 40.2 「ワークステーションインベントリの再インストール」を参照してください。

解決法: 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

#### 1171: ファイル *filename* (サーバ *server\_name* 上) に ZENworks Web Server のエントリを追加できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare および Windows でのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]: 重大

説明: このエラーは、インストールプログラムが NetWare および Windows 用の *invenv.ncf* ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

考えられる原因: ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法: 次の操作を行います。

NetWare で、次のエントリが *invenv.ncf* ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
envset tmppath=$tmppath;$zws_install_dir\xmlpcextRes.jar
```

Windows で、次のエントリが *inventory\_install\_path\wminv\bin\invenv.bat* ファイルにない場合は、次のエントリを追加します。

```
tmppath=%tmppath%;%zws_install_dir%\xmlpcextRes.jar
```

#### 2701: サーバ *server\_name* 上に *zwsstart.ncf* ファイルを作成できません

ソース: ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリまたはプロキシサービスのインストール

[Severity]: 重大

説明： インストールプログラムは、ZWS Web サーバを起動するために sys:\system\zwsstart.ncf ファイルを作成します。このエラーは、インストールプログラムが zwsstart.ncf ファイルを作成できないときに発生します。

考えられる原因： zwsstart.ncf ファイルを作成しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法： 次の手順を実行します。

- 1 ZENworks Web Server のインストールパスを取得するために、sys:\system\zenworks.properties ファイル内の ZWSPath キーの値をメモしています。
- 2 (条件付き) zwsstart.ncf ファイルが存在しない場合は、sys:\system ディレクトリに手動で zwsstart.ncf ファイルを作成します。
- 3 ファイルに次のエントリを追加します。  
zenworks\_web\_server\_installation\_path\zwsenv.ncf  
zenworks\_web\_server\_installation\_path\zws\zws.ncf

#### **2702: サーバ *server\_name* 上のロードスクリプトからエントリを削除できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリデータベースまたはプロキシサービスのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： ZENworks 7 Desktop Management を ZENworks for Servers または ZENworks for Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプログラムがロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法： [Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

#### **2703: サーバ *server\_name* 上のアンロードスクリプトからエントリを削除できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバでのワークステーションインベントリデータベースまたはプロキシサービスのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： ZENworks 7 Desktop Management を ZENworks for Servers または ZENworks for Desktops の以前のバージョン上にインストールする場合は、インストールプログラムがアンロードスクリプトからエントリを削除します。このエラーは、インストールプログラムがアンロードスクリプトからエントリを削除できないときに発生します。

解決法： ConsoleOne を使用して、アンロードスクリプトからエントリ dbsrv8.nlm を削除します。

#### **2704: サーバ *server\_name* の zws.ncf ファイルにエントリを追加できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベントリサーバ/プロキシサービスのインストール

[Severity]： 重大

説明： このエラーは、ZENworks 7 Desktop Management のインストールプログラムが ZEN ロードエントリを zfs.ncf に書き込めなかった場合に発生します。

考えられる原因： zfs.ncf を修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： ZENworks 7 Desktop Management のインベントリサーバおよびインベントリプロキシサーバ (XML Proxy) コンポーネントを再インストールします。詳細については、83 ページの § 章 9 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」を参照してください。

#### 2707: サーバ *server\_name* に *dbconfig.properties* ファイルを作成できません

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバまたは Windows サーバでのインベントリサーバ / プロキシサービスのインストール

[Severity]： 重要

説明： このエラーは、インストールプログラムが *invenv.ncf* ファイルに ZENworks Web Server エントリを追加できないときに発生します。

考えられる原因： ファイルを修正しているときに、入力 / 出力エラーが発生しました。

解決法： 次のファイルが存在することを確認します。

- ◆ *invconfig.properties* in the *inventory\_database\_volume\zenworks\database\inventory* directory.
- ◆ *nalconfig.properties* in the *nal\_database\_volume\zenworks\database\nal* directory.

ファイルが存在しない場合は、該当するファイルを手動で作成します。

- ◆ 次のエントリを含む *invconfig.properties*。

```
DBObjectDN=DN of the Inventory database object in eDirectory
```

- ◆ 次のエントリを含む *nalconfig.properties*。

```
DBObjectDN=DN of the NAL database object in eDirectory
```

#### 2708: サーバ *server\_name* のディレクトリ *directory\_name* に権限を割り当てられません

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムで *scandir* または *dictdir* ディレクトリにアクセス権を割り当てることができませんでした。

考えられる原因： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていません。

解決法： 管理者権限またはそれと同等の権限で Windows サーバにログインしていることを確認します。

考えられる原因： インストールプログラムが、Windows ワークステーションまたはサーバから実行されていません。

解決法： Windows ワークステーションまたはサーバに推奨されるワークステーションインストール要件を満たしているかどうかを確認します。詳細については、71 ページの「**ユーザワークステーションの要件**」を参照してください。

解決法： ネットワークが稼動していることを確認します。

解決法： 次の操作を行います。

1 Inventory Service を停止します。

2 scandir または dictdir ディレクトリに権限を割り当てます。

- ◆ **Scandir:** `inventory_installation_drive\zenworks\inv\scandir` ディレクトリを「ScanDir」として共有し、作成権限を全員に割り当てます。
- ◆ **Dictdir:** `inventory_installation_drive\zenworks\inv\dictdir` ディレクトリを「DictDir」として共有し、フルアクセス権を全員に割り当てます。

3 Inventory Service を起動します。

解決法： 問題が解決しない場合は、Novell Support (<http://support.novell.com>) にお問い合わせください。

**2717:** インストールプログラムによって `mgmtlbs.sh` ファイルが新規作成されました。インストールプログラムではサーバ `server_name` の既存のファイル名を変更できませんでした。インストールを続行する前に `mgmtlbs.sh` の名前を変更してください

ソース： ZENworks Desktop Management; Linux サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムは、`mgmtlbs.sh` ファイルに変更を加える前に、このファイルのバックアップを試みます。このエラーは、バックアップに失敗したときに発生します。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、553 ページのセクション 40.2.2 「Linux へのインベントリサーバまたはインベントリデータベースの再インストール」を参照してください。

**2718:** サーバ `server_name` の既存の `mgmtlbs.sh` ファイルを変更中に入出力エラーが発生しました。

ソース： ZENworks Desktop Management; Linux サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

説明： インストールプログラムが、既存の `mgmtlbs.sh` ファイルを修正できません。



考えられる原因： 既存の `mgmtlbs.sh` ファイルを変更しているときに、入力/出力エラーが発生しました。

解決法： インベントリデータベースを再インストールします。詳細については、[553 ページのセクション 40.2.2 「Linux へのインベントリサーバまたはインベントリデータベースの再インストール」](#)を参照してください。

解決法： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) にお問い合わせください。

**インストール先パスが長すぎます。**

ソース： ZENworks Desktop Management; NetWare サーバおよび Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

解決法： インストールパスに指定する文字が 169 文字を超えないようにします。

**`share_name` 共有を `server_name (directory_path)` に作成できません**

ソース： ZENworks Desktop Management; Windows サーバでのワークステーションインベントリのインストール

[Severity]： 重大

考えられる原因： 共有を作成するコンピュータにアクセスできません。

解決法： そのコンピュータにアクセスできることを確認します。`ping` を実行して、コンピュータの接続状態を確認します。

解決法： Windows エクスプローラを使用して、そのコンピュータ上の他の共有へのアクセスを試みます。



# XMLRPC のライセンス契約



Novell® ZENworks® Desktop Management は、XMLRPC プロトコルを使用して、インベントリ情報を下位のインベントリサーバから次のレベルのインベントリサーバにロールアップします。

Desktop Management ソフトウェアで使用されるサードパーティの XMLRPC コードのライセンス契約を次に示します。

- ◆ 663 ページのセクション G.1 「HELMA のライセンス」
- ◆ 663 ページのセクション G.2 「John Wilson のライセンス」
- ◆ 664 ページのセクション G.3 「Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス」

## G.1 HELMA のライセンス

Copyright (c) 1999-2001, Hannes Walln 喃 er (hannes@helma.at).All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複製される必要があります。

このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、Helma またはその貢献者の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは、HANNES WALLN ・ ER から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。事由のいかなるを問わず、損害発生の原因いかなるを問わず、責任の根拠が契約であるか厳格責任であるか(過失その他の) 不法行為であるかを問わず、HANNES WALLN ・ ER は、仮にそのような損害が発生する可能性を知らされていたとしても、このソフトウェアの使用から発生した直接損害、間接損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害または結果損害のいずれに対しても(代替品またはサービスの提供、使用機会、データまたは利益の損失の補償、または業務の中断に対する補償を含め) 責任をいっさい負いません。

## G.2 John Wilson のライセンス

Copyright (c) 1999, John Wilson (tug@wilson.co.uk).All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。

バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。

このソフトウェアの機能や使用に言及するすべての広告材料には、次の告知を表示する必要があります。

この製品には、John Wilson が開発したソフトウェアが含まれています。このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、John Wilson の名称を、書面による事前の明確な許可なく使用することはできません。

このソフトウェアは JOHN WILSON から「現状のまま」提供されます。商品性、特定目的への適合性の保証を含む、明示または暗黙によるいかなる保証も行われません。John Wilson は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害(代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中断など)に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任(過失責任を含む)のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されていても、責任を負わないものとします。

## G.3 Brett McLaughlin & Jason Hunter のライセンス

Copyright (C) 2001 Brett McLaughlin & Jason Hunter. All rights reserved.

ソース形式およびバイナリ形式での再配布および使用は、修正の有無を問わず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布では、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が保持される必要があります。
2. バイナリ形式での再配布では、配布物に付属するドキュメントおよびその他の資料に、上記の著作権表示、ここに示す条件、および下記の保証の否認が複写される必要があります。
3. このソフトウェアから派生する製品の推薦または宣伝に、「JDOM」の名称を、書面による事前の許可なく使用することはできません。書面による許可については、[license@jdom.org](mailto:license@jdom.org) にお問い合わせください。
4. JDOM Project Management ([pm@jdom.org](mailto:pm@jdom.org)) からの書面による事前の許可なく、このソフトウェアから派生する製品を「JDOM」と呼ぶことや、その名称または名称の一部に「JDOM」を使用することはできません。

また、再配布物やソフトウェア自体に付属するエンドユーザドキュメントには、以下と同等の告知を含めることを要望します(ただし、必須ではありません)。

「この製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。」

このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、明示暗示を問わず、商品性および特定目的に対する適合性の保証も含め、いかなる保証もなされません。JDOM の作成者または JDOM Project の貢献者は、いかなる場合も、このソフトウェアの使用により発生するいかなる直接損害、間接損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、または結果的損害(代用品または代用サービスの調達、使用、データ、または利益の逸失、業務の中断など)に対して、その事由を問わず、それが契約責任、厳格責任、または不法行為賠償責任

(過失責任を含む)のいずれに基づくものであれ、たとえそのような損害の可能性を通知されていても、責任を負わないものとします。

このソフトウェアは多くの個人から JDOM Project のために自発的に提供された作品から構成されており、オリジナルは Brett McLaughlin <brett@jdom.org> および Jason Hunter <jhunter@jdom.org> によって作成されました。JDOM Project の詳細については、<<http://www.jdom.org/>> を参照してください。



# ドキュメントの更新



この節には、Novell® ZENworks® 7 Desktop Management の最初のリリース (2005 年 8 月 26 日) 以降に、『インストールガイド』に加えられたドキュメント内容の変更について説明します。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

ここに記載されている変更内容はすべて、ドキュメントに適用されています。マニュアルは、Web 上で HTML と PDF の 2 つの形式で提供されています。どちらの形式のドキュメントも、ここに記載されている変更内容が反映され、最新の状態に保たれています。

更新情報は、変更が公開された日付に応じてグループ化されています。日付の付いた節の中では、「ZENworks 7 Desktop Management」の目次に記載されている節名に基づいて、アルファベット順に変更を示しています。

参照している PDF ドキュメントが最新であるかどうかは、タイトルページに記載された発行日で確認できます。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

## H.1 30.06.06(Support Pack 1)

ページデザインが、改定された Novell マニュアル標準に従って再編成されました。

次の節が更新されました。変更内容は次のとおりです。

- ◆ 668 ページのセクション H.1.1「付録 A:ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い」
- ◆ 668 ページのセクション H.1.2 「付録 B:Novell Cluster Services 環境へのインストール」
- ◆ 669 ページのセクション H.1.3「付録 D: ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法」
- ◆ 669 ページのセクション H.1.4 「デスクトップ管理エージェントのインストールと設定」
- ◆ 669 ページのセクション H.1.5 「Windows ネットワーク環境でのインストール」
- ◆ 669 ページのセクション H.1.6 「RPM のインストールと設定値の変更」
- ◆ 670 ページのセクション H.1.7 「ZENworks Desktop Management Server のインストール」
- ◆ 670 ページのセクション H.1.8「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」
- ◆ 671 ページのセクション H.1.9 「ZENworks Middle Tier Server のインストール」
- ◆ 671 ページのセクション H.1.10「Desktop Management インフラストラクチャのプラットフォームサポート」
- ◆ 671 ページのセクション H.1.11 「管理ワークステーションまたはサーバの準備」
- ◆ 672 ページのセクション H.1.12 「ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備」
- ◆ 672 ページのセクション H.1.13 「ZENworks Desktop Management Server のインストール条件」
- ◆ 673 ページのセクション H.1.14 「ZENworks Middle Tier Server のインストール条件」

- ◆ 673 ページのセクション H.1.15 「インストールを実行するワークステーションの前提条件」
- ◆ 673 ページのセクション H.1.16 「Linux Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定」
- ◆ 673 ページのセクション H.1.17 「Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定」
- ◆ 674 ページのセクション H.1.18 「Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール」
- ◆ 674 ページのセクション H.1.19 「アップグレード」
- ◆ 674 ページのセクション H.1.20 「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項」
- ◆ 674 ページのセクション H.1.21 「ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード」
- ◆ 675 ページのセクション H.1.22 「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード」
- ◆ 675 ページのセクション H.1.23 「ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード」
- ◆ 676 ページのセクション H.1.24 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」
- ◆ 676 ページのセクション H.1.25 「ユーザワークステーションの要件」
- ◆ 676 ページのセクション H.1.26 「ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能」
- ◆ 676 ページのセクション H.1.27 「Windows ベースのインストール」

## H.1.1 付録 A:ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
561 ページの付録 A 「ZENworks for Desktops 3.2 と ZENworks 7 のポリシーパッケージの違い」	他の新しい節、391 ページの § 章 29 「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード」への補足として、新しい節が追加されました。

## H.1.2 付録 B:Novell Cluster Services 環境へのインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
571 ページの付録 B 「Novell Cluster Services 環境へのインストール」	Novell Cluster Services 環境へのインストールを明確にするために、スクリーンショットを追加し、用語を修正しました（「クラスタオブジェクト」を「仮想サーバ」に）。  管理者が、クラスタ全体をオフラインにする必要があると誤解することを防ぐために、594 ページのセクション B.9 「Novell Cluster Services 環境で使用するための ZENworks 7 ワークステーションイメージングの設定」と題する節のステップ 14 を修正しました。実際に必要なのは、そのリソースだけをオフラインにし、オンラインに戻すことです。



場所	変更内容
595 ページのセクション B.10 「OES Linux クラスタ環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインス トール」	この節は Support Pack 1 に追加されたこの新機能を文書化するために追加されました。この節全体の内容は新しい内容です。

## H.1.3 付録 D: ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
613 ページの付録 D 「ZENworks 7 with SP1 用の Identity Manager Bundle 3 Edition の使用方法」	ZENworks 7 Desktop Management with SP1 用の新しい内容として、この付録が追加されました。

## H.1.4 デスクトップ管理エージェントのインストールと設定

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
153 ページのセクション 12.3.4 「MSI アプリケーションオブジェ クトに対するプロパティの追加」	新しい MSI プロパティ (WM_LOGIN_EVENTS) が追加されました。ZENworks 7 with SP1 のデスクトップ管理エージェントのインストールプログラムは、Novell Client™ の新しいバージョンからは削除されたファイルを追加するからです。

## H.1.5 Windows ネットワーク環境でのインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
216 ページの「テストラボの環境設定」	サーバプラットフォームおよびワークステーションの実際の要件についてのクロスリファレンスを示す注記が追加されました。
263 ページのセクション 18.2 「Windows 環境での ZENworks 7 Desktop Management with SP1 のインストール」	この節は、Support Pack 1 のために追加されました (Identity Manager と iManager の新しいバージョン)。
267 ページの「テストラボの環境設定」	サーバプラットフォームおよびワークステーションの SP1 での実際の要件についてのクロスリファレンスを示す注記が追加されました。

## H.1.6 RPM のインストールと設定値の変更

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
353 ページのセクション 24.1 「RPM のインストールまたはアップグレードの実行」	節が修正され、インストールの詳細な手順が追加されました。また、CPK アップグレードについての参照を示す節 (353 ページのセクション 24.1.1 「CPK での SP1 へのアップグレード」) も追加されました。

## H.1.7 ZENworks Desktop Management Server のインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
85 ページのセクション 9.1.1 「インストール前のスキーマの拡張」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory™ ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。
87 ページのセクション 9.1.2 「完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。
97 ページのセクション 9.2 「SP1 Desktop Management Server のインストール」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。
100 ページのセクション 9.2.1 「インストール前のスキーマの拡張」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。
102 ページのセクション 9.2.2 「完全インストール (スキーマの拡張を含む) の実行」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。

## H.1.8 Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
317 ページのパート IV 「Linux への ZENworks デスクトップ管理サービスのインストール」	ZENworks 7 Desktop Management で使用するために SLES 9 サーバをインストールする場合にはデフォルトシステムインストールセットでインストールする必要があることを示す注記が追加されました。

## H.1.9 ZENworks Middle Tier Server のインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
113 ページのセクション 10.1 「ZENworks Middle Tier Server の インストール手順」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインス トールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、 Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカル にインストールすることはできないことを説明する注記が追加され ました。
123 ページのセクション 10.2 「SP1 Middle Tier Server のイン ストール手順」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。

## H.1.10 Desktop Management インフラストラクチャのプラット フォームサポート

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
23 ページの § 章 2 「Desktop Management インフラストラク チャのプラットフォームサポ ート」	VMWare <sup>*</sup> をサポートしていないことを述べる段落が削除されまし た。ZENworks 7 Desktop Management は、VMWare 環境での使用 がサポートされるようになりました。
28 ページのセクション 2.1.2 「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 に対して テスト済みのプラットフォーム のその他の組み合わせ」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。
29 ページのセクション 2.2 「ZENworks 7 に対してテストさ れた Linux とその他のサーバプ ラットフォームの組み合わせ」	Middle Tier および Desktop Management Server が同一の Linux マ シンで動作している場合の、SLES 9 SP1/SLES 9SP1 の組み合わせ に関する、表ネットワークファイアウォールなしの情報が追加され ました。  “ZENworks for Desktops 4.0.1 Desktop Management Agent は動作し ません ( ファイルをコピーしません ) 。”
31 ページのセクション 2.3 「SP1 に対してテストされた Linux とそ の他のサーバプラットフォーム の組み合わせ」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。
33 ページのセクション 2.4 「サ ポートされるワークステーショ ンプラットフォームとデバイス」	この節は修正され、Windows Tablet PC 2005 および Terminal Server のサポートについての情報が追加されました。

## H.1.11 管理ワークステーションまたはサーバの準備

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
75 ページの § 章 8「管理ワークステーションまたはサーバの準備」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。
78 ページのセクション 8.3.1「スナップインのダウンロード」.	スナップインが ZENworks 7 Companion CD 1 ではなく ZENworks 7 Companion CD 2 にあることを示すためにテキストが修正されました。

## H.1.12 ZENworks の機能を使用するための Linux サーバの準備

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
57 ページの「匿名バインドのためのプロキシユーザの作成」	管理者に、Linux サーバで ZENworks のリソースを表示する場合には、ConsoleOne の付属バージョンに ZENworks 7 Desktop Management のスナップインを適用する必要があることを知らせるための注記が追加されました。  ステップ 5 およびステップ 6 の eDirectory オブジェクト名が修正されました。

## H.1.13 ZENworks Desktop Management Server のインストール条件

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
39 ページのセクション 4.1.1「統合コンポーネントインストールのハードウェア要件」	ZENworks 7 Desktop Management で使用するために SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 9 サーバをインストールする場合にはデフォルトシステムインストールセットでインストールする必要があることを示す注記が追加されました。
42 ページのセクション 4.2.1「すべてのコンポーネントをインストールする場合のソフトウェア要件」	ZENworks 7 Desktop Management で使用するために SLES 9 サーバをインストールする場合にはデフォルトシステムインストールセットでインストールする必要があることを示す注記が追加されました。
47 ページのセクション 4.2.3「ZENworks データベースのみをインストールする場合のソフトウェア要件」	Sybase Inventory データベースをインストールできるプラットフォームのリストに、SLES 9 SP1 と OES (Linux) 1.0 が追加されました。
48 ページのセクション 4.3「Desktop Management Server のインストール条件」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。

## H.1.14 ZENworks Middle Tier Server のインストール条件

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
65 ページのセクション 6.2 「ZENworks Middle Tier Server の ハードウェア要件」	ZENworks 7 Desktop Management で使用するために SLES 9 サーバをインストールする場合にはデフォルトシステムインストールセットでインストールする必要があることを示す注記が追加されました。
66 ページのセクション 6.3 「ZENworks Middle Tier Server の ソフトウェア要件」	ZENworks 7 Desktop Management で使用するために SLES 9 サーバをインストールする場合にはデフォルトシステムインストールセットでインストールする必要があることを示す注記が追加されました。
68 ページのセクション 6.4 「Middle Tier Web Server とデスクトップ管理エージェントの ポート設定」	NetWare® 6.x プラットフォームにも適用できるようにするために、68 ページのセクション 6.4.1 「NetWare 6.x 上の Apache Web Server のポート設定」の節が修正されました。  ZENworks Desktop Management Services on Linux (SLES 9 SP1 および OES Linux サーバ) のユーザに合わせて、69 ページのセクション 6.4.2 「Linux 上の Apache Web Server のポート設定」が追加されました。

## H.1.15 インストールを実行するワークステーションの前提条件

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
37 ページの § 章 3 「インストール を実行するワークステーション の前提条件」	Windows サーバからインストールしていて、そのサーバがインストールで選択した eDirectory ツリーの一部でない場合には、Desktop Management Server または Middle Tier Server をローカルにインストールすることはできないことを説明する注記が追加されました。

## H.1.16 Linux Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
357 ページの § 章 25 「Linux Middle Tier Server のセキュリティ 対策の設定」	Desktop Management Services on Linux のユーザ向けに、新しい節が書き起こされました。

## H.1.17 Windows または NetWare Middle Tier Server のセキュリティ対策の設定

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
206 ページのセクション 17.3.1「Windows ワークステーションへの証明書のインポート」	手順を明確にするために、 <b>ステップ 5a</b> にスクリーンショットが追加されました。
206 ページの「サンプル SSL のセットアップ」	この節に、デスクトップ管理エージェントがインストールされたワークステーション上で SSL をセットアップする方法の例が追加されました。

## H.1.18 Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
555 ページの § 章 41「Linux サーバからの ZENworks コンポーネントのアンインストール」	<b>ステップ 9</b> の末尾に、Linux クラスタから ZENworks 7 Desktop Management サービスを削除するための手順を説明する、重要な注記が追加されました。

## H.1.19 アップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
381 ページの「注意」	管理者に、ZENworks 7 Desktop Management をメンテナンスパック、暫定リリース、またはサポートパックでアップグレードすると、(.conf および .ini を含む) 一部のファイルが上書きすることを知らせるため、この節が追加されました。

## H.1.20 ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
477 ページの § 章 33「ZENworks 7 Desktop Management with SP1 へのアップグレードの考慮事項」	ここは、Support Pack 1 用に新しい節として追加されました。

## H.1.21 ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
467 ページの § 章 32「ZENworks 6.5x Desktop Management からのアップグレード」	ZENworks 6.5 Desktop Management の総称的なバージョンを 6.5x として記述するために、節のタイトルと其中的の言及が変更されました。
470 ページのセクション 32.3 「アップグレードの際に起動前サービスの設定を維持する」	ユーザーに、ZENworks 6.5 Desktop Management から ZENworks 7 Desktop Management にアップグレードする際に、一部の起動前サービスの .ini ファイルが上書きされる場合があることを知らせるために、この節が追加されました。
472 ページのセクション 32.5.2 「アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業」	アップグレード前に実行すべきタスクのリストに、次の点が追加されました。 「ZENworks 6.5.x Desktop Management のインストールの後に <code>ZENworks_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\inventoryremoval.properties</code> を修正していた場合には、 <code>inventoryremoval.properties</code> の信頼できるバックアップを作成してください。」
475 ページのセクション 32.5.4 「データベース移行後の作業」	ステップ 2d およびステップ 3d に ZENworks 6.5 Desktop Management SP2 への言及が追加されました。

## H.1.22 ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード

次の節が更新されました。

場所	変更内容
391 ページの § 章 29 「ZENworks for Desktops 3.2 SP3 からのアップグレード」	テストの結果として、新しい節が追加されました。このシナリオは、ZENworks 7 Desktop Management で完全にサポートされるようになりました。

## H.1.23 ZENworks for Desktops 4.x からのアップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
445 ページのセクション 30.6.2 「ワークステーションインベントリのアップグレード」	データベース移行後の作業のステップ 3c が修正されました。
447 ページの 「アップグレードおよびデータベース移行の前に実行する必要がある作業」	アップグレード前に実行すべきタスクのリストに、次の点が追加されました。 「ZENworks 4.x のインストールの後に <code>ZENworks_installation_path\zenworks\inv\server\wminv\properties\inventoryremoval.properties</code> を修正していた場合には、 <code>inventoryremoval.properties</code> の信頼できるバックアップを作成してください。」

## H.1.24 Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
479 ページの § 章 34 「Server Software Package による Support Pack 1 へのアップグレード」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。

## H.1.25 ユーザワークステーションの要件

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
71 ページのセクション 7.2 「ユーザワークステーションのハードウェア要件」	ユーザワークステーションでの RAM の最小要件が 64 MB から 128 MB に変更されました。
72 ページのセクション 7.3 「ユーザワークステーションのソフトウェア要件」	次の段落が削除されました。  ワークステーションのいずれかに Explorer 6.0 がインストールされている場合は、cookie を受け入れるようにプライバシーが設定されていることを確認します。デフォルトでは、Internet Explorer 6.0 はクッキーを受け入れません。  テストの結果、Internet Explorer のデフォルト設定は受け入れ可能であることが判明しました。

## H.1.26 ZENworks 7 Desktop Management の変更点と新機能

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
387 ページのセクション 28.5 「ZENworks 7 Desktop Management with Support Pack 1 の変更点と新機能」	この節は、Support Pack 1 用に追加されました。

## H.1.27 Windows ベースのインストール

この節では次の箇所が変更されました。

場所	変更内容
81 ページのパート III 「Windows ベースのインストール」	「Windows ベースのインストール」が、ZENworks のインストール先のオペレーティングシステムではなく、インストールプログラムを指すことを明らかにするために、この部分の導入部に段落が追加されました。